

# **StorageTek Tape Analytics**

ユーザーズガイド

バージョン 2.1.0

**E60893-01**

**2015 年 1 月**

---

## StorageTek Tape Analytics

ユーザーズガイド

### E60893-01

Copyright © 2013, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション (人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む) への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、Oracle Corporation およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle および Java はオラクルおよびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様と Oracle Corporation との間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporation およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様と Oracle Corporation との間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporation およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

---

# 目次

---

はじめに .....	29
対象読者 .....	29
ドキュメントのアクセシビリティ .....	29
関連ドキュメント .....	29
STA アプリケーションのユーザー向け .....	29
STA サーバーとアプリケーションのインストール担当者と管理者向け .....	30
表記規則 .....	30
新機能 .....	31
STA 2.1.0 2015 年 1 月 .....	31
<b>1. はじめに .....</b>	<b>35</b>
1.1. STA の概要 .....	35
1.2. サポートされるデバイス .....	35
1.2.1. StorageTek モジュール型テープライブラリ .....	36
1.2.2. ドライブおよびメディアのタイプ .....	36
1.3. STA のログインセッション .....	36
1.3.1. パスワードの要件 .....	36
1.3.2. ユーザーアカウントのロックアウト .....	37
1.3.3. ユーザーの役割 .....	37
1.3.4. 画面ナビゲーション .....	38
1.3.5. ログアウト .....	38
1.4. ログインタスク .....	38
1.4.1. STA へのログイン .....	38
1.4.2. STA からのログアウト .....	40
1.4.3. STA ソフトウェアのバージョン情報の表示 .....	41
1.4.4. パスワードの変更 .....	42
1.5. ヘルプ .....	43

1.5.1. 「Help」ウィンドウのレイアウト .....	44
1.5.2. ヘルプツールバー .....	45
1.5.3. ヘルプの「Contents」タブ .....	46
1.5.3.1. コンテキストメニュー .....	46
1.5.4. ヘルプの「Index」タブ .....	47
1.5.5. ヘルプの「Search」タブ .....	48
<b>2. Dashboard .....</b>	<b>51</b>
2.1. 「Dashboard」の使用 .....	51
2.1.1. 「Dashboard」のカスタマイズ .....	52
2.1.2. 「Dashboard」テンプレート .....	53
2.1.2.1. デフォルトの「Dashboard」 .....	53
2.1.3. 「Dashboard」に表示される時間 .....	53
2.1.4. 詳細画面へのリンク .....	54
2.1.4.1. グラフのリンク .....	54
2.1.4.2. テキストリンク .....	56
2.2. 「Dashboard」のレイアウト .....	57
2.2.1. 「Dashboard」ツールバー .....	58
2.2.2. 「Dashboard」ポートレットツールバー .....	58
2.3. ポートレットタイプ .....	59
2.3.1. グラフポートレット .....	59
2.3.2. 表ポートレット .....	61
2.3.3. レポートポートレット .....	62
2.4. モバイルの「Dashboard」の表示 .....	62
2.4.1. モバイル表示の要件 .....	64
2.4.2. モバイルデバイスからの STA へのアクセス .....	64
2.5. 「Dashboard」のタスク .....	64
2.5.1. 「Dashboard」の列と行のレイアウトの変更 .....	65
2.5.2. 「Dashboard」ポートレットの追加 .....	67
2.5.3. 「Dashboard」ポートレットの注釈の追加または変更 .....	68
2.5.4. 「Dashboard」ポートレットフィルタの適用または変更 .....	70
2.5.5. 「Dashboard」ポートレットフィルタのクリア .....	73
2.5.6. モバイルデバイスでの「Dashboard」の表示 .....	75



<b>3. テンプレート</b> .....	79
3.1. テンプレートの使用 .....	79
3.1.1. テンプレートのデフォルト .....	79
3.1.2. 定義済みのテンプレート .....	80
3.1.3. カスタムテンプレート .....	80
3.1.4. テンプレート使用アクティビティのユーザー役割 .....	81
3.2. テンプレートの定義と管理 .....	81
3.2.1. テンプレート定義に含まれる画面特性 .....	81
3.2.2. テンプレート定義に含まれない画面特性 .....	82
3.2.3. テンプレートの所有権と可視性 .....	82
3.2.3.1. 所有権 .....	82
3.2.3.2. 可視性 .....	82
3.2.4. テンプレートの共有 .....	83
3.2.5. テンプレート管理アクティビティ用のユーザー役割 .....	83
3.3. テンプレートツールバーと画面 .....	84
3.3.1. テンプレートツールバー .....	84
3.3.2. テンプレートの「Quick Links」画面 .....	85
3.3.3. 「Templates Management」画面 .....	86
3.4. テンプレートの使用タスク .....	87
3.4.1. テンプレートの適用 .....	87
3.4.1.1. テンプレートツールバーを使用する .....	88
3.4.1.2. 「Quick Links」画面から .....	90
3.4.1.3. 「Templates Management」画面から .....	91
3.4.2. 画面のデフォルトテンプレートを設定する .....	91
3.4.2.1. テンプレートツールバーから .....	92
3.4.2.2. 「Templates Management」画面から .....	92
3.4.3. 画面のデフォルトテンプレートをクリアする .....	93
3.5. テンプレート管理タスク .....	93
3.5.1. テンプレートの作成 .....	94
3.5.2. テンプレートの変更 .....	97
3.5.3. テンプレート名の変更 .....	100

3.5.4. テンプレートの可視性 (パブリックまたはプライベート) 設定を変更する .....	101
3.5.5. テンプレートのエクスポート .....	102
3.5.6. テンプレートのインポート .....	103
3.5.7. テンプレートの削除 .....	104
3.5.8. STA 定義済みテンプレートの復元 .....	106
<b>4. データのフィルタリング .....</b>	<b>109</b>
4.1. フィルタについて .....	109
4.1.1. フィルタの適用 .....	109
4.1.2. フィルタの期間 .....	110
4.2. フィルタの適用 .....	110
4.2.1. 「Filter Data」ダイアログボックス .....	111
4.2.2. 属性タイプ別のフィルタ演算子 .....	112
4.2.3. 集計数リンクを使用したフィルタリング .....	115
4.2.4. テンプレートの適用によるフィルタリング .....	116
4.2.5. ダッシュボードグラフィックスを使用したフィルタリング .....	117
4.3. フィルタリングタスク .....	118
4.3.1. 「Filter Data」ダイアログボックスを使用したテーブルフィルタの変更 .....	118
4.3.2. 現在のフィルタのクリア .....	123
4.3.3. 集計数リンクを使用したフィルタの適用 .....	124
4.3.4. ダッシュボードからのフィルタの適用 .....	127
<b>5. STA のアラート .....</b>	<b>131</b>
5.1. アラートの動作方法 .....	131
5.1.1. アラートポリシーの定義 .....	131
5.1.2. アラートの生成 .....	132
5.1.3. 生成されたアラートのモニタリング .....	133
5.2. アラート管理のユーザーの役割 .....	133
5.3. アラートポリシーの定義に関する詳細 .....	134
5.3.1. アラートポリシーエンティティ .....	134
5.3.2. アラートポリシーの重要度 .....	135

5.3.2.1. 交換およびメディア検証アクティビティのアラートポリシーと重要度 .....	135
5.3.2.2. アラートポリシーの重要度の例 .....	135
5.3.3. アラートポリシーの条件 .....	141
5.3.4. アラートポリシーのベストプラクティス .....	141
5.3.4.1. 多すぎるアラートの回避 .....	141
5.3.4.2. 論理グループを使用したアラートポリシーの定義 .....	142
5.3.5. STA のサンプルのアラートポリシー .....	142
5.4. アラート電子メール .....	143
5.5. アラートワークフロー .....	143
5.6. アラート管理タスク .....	144
5.6.1. アラートポリシーのリストの管理 .....	144
5.6.2. アラートポリシーの作成 .....	145
5.6.3. アラートポリシーのコピー .....	151
5.6.4. アラートポリシーの変更 .....	153
5.6.5. アラートポリシーの電子メール受信者の変更 .....	155
5.6.6. アラートポリシーの有効化または無効化 .....	157
5.6.7. アラートポリシーの削除 .....	158
5.6.8. 生成されたアラートのリストの管理 .....	159
5.6.9. アラートの詳細の表示 .....	160
5.6.10. アラートの状態の変更 .....	162
5.6.11. 消去したアラートの表示または非表示 .....	163
<b>6. エグゼクティブレポート .....</b>	<b>167</b>
6.1. エグゼクティブレポートの作成プロセス .....	167
6.2. エグゼクティブレポートの使用 .....	168
6.2.1. エグゼクティブレポートの表示 .....	168
6.2.2. エグゼクティブレポートの実行 .....	170
6.2.2.1. レポートスケジュール .....	171
6.2.2.2. オンデマンドレポート .....	171
6.2.3. レポートファイルを実行するためのユーザーの役割 .....	171
6.3. エグゼクティブレポートポリシー .....	172
6.3.1. エグゼクティブレポートポリシーの定義 .....	172

6.3.2. エグゼクティブレポートの電子メール送信 .....	174
6.3.3. エグゼクティブレポートポリシーのユーザーの役割 .....	174
6.4. エグゼクティブレポートファイルのタスク .....	175
6.4.1. エグゼクティブレポートのオンデマンド実行 .....	175
6.4.2. エグゼクティブレポートの表示 .....	176
6.4.3. エグゼクティブレポートファイルの削除 .....	178
6.4.4. エグゼクティブレポートファイルのリストの管理 .....	179
6.5. エグゼクティブレポートポリシーのタスク .....	179
6.5.1. エグゼクティブレポートポリシーの作成または変更 .....	180
6.5.2. エグゼクティブレポートポリシーの削除 .....	183
6.5.3. エグゼクティブレポートポリシーのリストの管理 .....	184
<b>7. Logical Groups .....</b>	<b>185</b>
7.1. 論理グループの使用 .....	185
7.1.1. 論理グループの例 .....	186
7.2. 論理グループの作成プロセス .....	186
7.2.1. 論理グループの所有権 .....	187
7.3. 論理グループのタイプ .....	187
7.3.1. 手動論理グループ .....	187
7.3.2. 動的論理グループ .....	187
7.3.2.1. 動的グループメンバーシップの更新 .....	188
7.3.2.2. 動的グループの選択条件 .....	188
7.4. 論理グループでフィルタリング .....	189
7.4.1. 論理グループを使用したフィルタの作成 .....	190
7.4.2. 論理グループ定義の変更がフィルタに及ぼす可能性のある影響 .....	191
7.4.3. 論理グループによるフィルタリングが可能なダッシュボードポートレ ット .....	195
7.5. 論理グループの作成および管理タスク .....	196
7.5.1. 手動論理グループの作成 .....	196
7.5.2. 手動論理グループへのドライブおよびメディアの追加 .....	198
7.5.3. 手動論理グループからのドライブおよびメディアの削除 .....	200
7.5.4. 動的論理グループの作成および定義 .....	202
7.5.5. 動的論理グループの選択条件の変更 .....	206

7.5.6. 動的論理グループの強制的な更新 .....	207
7.5.7. 選択したドライブまたはメディアの論理グループ割り当ての表示 .....	209
7.5.8. 論理グループに割り当てられているすべてのドライブとメディアの一覧表示 .....	210
7.5.9. 論理グループの名前変更 .....	211
7.5.10. 論理グループの削除 .....	213
<b>8. STA メディア検証 .....</b>	<b>215</b>
8.1. STA メディア検証の概要 .....	215
8.1.1. STA メディア検証の機能と利点 .....	216
8.1.1.1. コストの削減と複雑性の低減によるセキュリティーの向上 .....	216
8.1.1.2. ライブラリの本番操作が中断しない .....	216
8.1.1.3. 有効なテスト結果の保証 .....	216
8.1.1.4. 自動化された検証動作 .....	216
8.1.1.5. 検証リクエストのユーザー管理 .....	217
8.1.1.6. 検証頻度の制限 .....	217
8.1.1.7. 検証結果の包括的なレポート .....	217
8.1.2. STA と SL コンソールの機能比較 .....	217
8.1.3. 検証テストの種類 .....	218
8.2. STA メディア検証の構成 .....	220
8.2.1. STA メディア検証の準備 .....	220
8.2.2. 検証ドライブプール .....	221
8.2.2.1. STA で使用可能な検証ドライブ .....	221
8.2.2.2. 検証ドライブプール用のドライブを選択する .....	222
8.2.3. メディア検証の有効化 .....	224
8.2.3.1. メディア検証構成のステータスメッセージ .....	225
8.2.4. メディア検証の無効化 .....	226
8.3. ドライブのキャリブレーションと適格性検査 .....	227
8.3.1. ドライブのキャリブレーションと適格性検査に関する用語 .....	227
8.3.2. キャリブレーションと適格性検査の利点 .....	228
8.3.2.1. 検証結果の有効性の保証 .....	229
8.3.2.2. 検証ドライブのヘルス保証 .....	229
8.3.2.3. 動作効率 .....	229

8.3.3. キャリブレーションと適格性検査の動作 .....	230
8.3.3.1. ドライブキャリブレーションプロセス .....	230
8.3.3.2. ドライブキャリブレーションの結果 .....	231
8.3.3.3. 検証ドライブの適格性検査プロセス .....	231
8.3.3.4. ドライブキャリブレーションの結果 .....	232
8.3.4. キャリブレーションと適格性検査の準備 .....	232
8.3.4.1. キャリブレーションメディア論理グループ .....	232
8.3.4.2. キャリブレーションメディアの選択 .....	233
8.4. 手動検証リクエストの送信 .....	235
8.4.1. 互換性のないメディアおよびドライブに対する手動の「Verify and Rebuild MIR」リクエスト .....	238
8.5. 自動メディア検証の使用 .....	238
8.5.1. 自動検証に適したメディア .....	239
8.5.2. 検証ポリシーの定義 .....	239
8.5.2.1. 論理グループごとにメディアを検証する .....	240
8.5.2.2. 検証ポリシーの選択条件 .....	240
8.6. STA メディア検証リクエストキューの管理 .....	240
8.6.1. 検証リクエストのステータスを表示する .....	241
8.6.1.1. メディア検証リクエストの優先度 .....	241
8.6.1.2. メディア検証リクエストの状態 .....	241
8.6.1.3. メディア検証イニシエータ .....	242
8.6.1.4. メディア検証結果 .....	242
8.6.2. 保留中または進行中の検証リクエストを取り消す .....	244
8.6.3. T10000T2 メディア上で中断された「Complete Verify」テストを再開する .....	244
8.7. メディア検証用のユーザー役割 .....	245
8.8. メディア検証タスク .....	246
8.8.1. STA メディア検証用の検証ドライブを表示する .....	247
8.8.1.1. 「Media Validation」画面から .....	247
8.8.1.2. 「Drives – Overview」画面から .....	248
8.8.2. STA 上でメディア検証を有効または無効にする .....	250
8.8.3. キャリブレーションメディア論理グループの作成 .....	252
8.8.4. ドライブキャリブレーションと適格性検査の有効化 .....	256

8.8.5. ドライブキャリブレーションと適格性検査の無効化 .....	258
8.8.6. メディア検証リクエストキューの表示 .....	260
8.8.7. 手動メディア検証リクエストの送信 .....	261
8.8.7.1. 「Media – Overview」画面から .....	262
8.8.7.2. 「Media Validation Overview」画面から .....	267
8.8.8. 保留中のメディア検証リクエストの再順序付け .....	270
8.8.9. 保留中のメディア検証リクエストの取り消し .....	273
8.8.10. 進行中の「Complete Verify」検証の取り消し .....	275
8.8.11. メディア検証ポリシーの作成 .....	277
8.8.12. メディア検証ポリシーのリストを表示する .....	283
8.8.13. メディア検証ポリシーの有効化または無効化 .....	285
8.8.14. メディア検証ポリシーのコピー .....	286
8.8.15. メディア検証ポリシーを変更する .....	289
8.8.16. メディア検証ポリシーの削除 .....	290
<b>9. STA ユーザー名と電子メール .....</b>	<b>293</b>
9.1. STA ユーザー名 .....	293
9.1.1. STA ユーザー名とパスワードの要件 .....	293
9.1.2. STA ユーザー役割 .....	294
9.2. STA ユーザー管理タスク .....	300
9.2.1. STA ユーザー名の追加 .....	300
9.2.2. STA ユーザー名の変更 .....	301
9.2.3. STA ユーザー名の削除 .....	302
9.3. 電子メール構成タスク .....	303
9.3.1. STA SMTP サーバーの定義 .....	304
9.3.2. 有効な電子メール受信者の追加 .....	306
9.3.3. 電子メール構成情報の表示 .....	308
9.3.4. 電子メールサーバーと受信者定義のテスト .....	309
9.3.5. 有効な電子メール受信者の変更 .....	310
9.3.6. 有効な電子メール受信者の削除 .....	311
<b>10. STA サービスログ .....</b>	<b>313</b>

10.1. サービスログの概要 .....	313
10.1.1. ログバンドルを作成する理由 .....	313
10.1.2. ログスナップショットの作成 .....	314
10.1.3. ログバンドルのプロセス .....	314
10.2. サービスログのタスク .....	315
10.2.1. STA ユーザーインタフェースからのサービスログバンドルの作成 .....	315
10.2.2. システムコマンド行からのサービスログバンドルの作成 .....	316
10.2.3. 生成されたログバンドルの一覧表示 .....	318
10.2.4. ログ実行情報の表示 .....	319
10.2.5. ログバンドルのダウンロード .....	320
10.2.6. ログバンドルの削除 .....	321
10.2.7. Oracle Support へのログスナップショットの転送 .....	321
<b>11. STA での SNMP 接続の管理 .....</b>	<b>323</b>
11.1. STA 用の SNMP の構成 .....	323
11.2. STA データストア .....	323
11.3. SNMP 接続と STA データストアの維持 .....	324
11.3.1. ライブラリの SNMP 接続のテスト .....	324
11.3.1.1. 接続テストを実行するとき .....	324
11.3.1.2. 接続テストのステータスメッセージ .....	325
11.3.2. ライブラリ構成データの収集 .....	326
11.3.2.1. STA ライブラリ構成モデルの構築 .....	327
11.3.2.2. 構成モデルを最新の状態にする .....	327
11.3.2.3. データ収集の開始方法 .....	327
11.3.2.4. データ収集とライブラリのパフォーマンス .....	328
11.3.2.5. データ収集が必要なとき .....	328
11.3.2.6. データ収集が推奨される時 .....	328
11.3.3. ライブラリ接続のステータス情報 .....	329
11.4. STA で実行される SNMP 保守タスク .....	330
11.4.1. ライブラリとの SNMP 通信の検証 .....	330
11.4.2. STA の SNMP クライアント設定の構成 .....	333
11.4.3. ライブラリへの SNMP 接続の構成 .....	335
11.4.4. ライブラリ SNMP 接続のテスト .....	337



11.4.5. 手動のデータ収集の実行 .....	339
11.4.6. SNMP 接続設定のテキストファイルへのエクスポート .....	341
11.4.7. STA からのライブラリ接続の削除 .....	342
11.5. ライブラリで実行される SNMP 保守タスクのサポート .....	343
11.5.1. ライブラリが動作していることの確認 .....	343
11.5.2. すべての SNMP トラップ受信者の表示 .....	344
11.5.3. STA トラップ受信者の削除または変更 .....	345
11.6. 特殊な SNMP 接続更新タスク .....	346
11.6.1. ライブラリの冗長電子デバイスの切り替え後の SNMP 接続の更新 .....	347
11.6.2. ライブラリファームウェアのアップグレード後の SNMP 接続の更新 .....	347
11.6.3. STA サーバーの IP アドレスへの変更後に SNMP 接続を更新 .....	349
11.7. SNMP 接続のトラブルシューティングタスク .....	350
11.7.1. 失敗した MIB ウォークチャンネルテストのトラブルシューティング .....	350
11.7.2. 失敗したトラップチャンネルテストのトラブルシューティング .....	352
11.7.3. 失敗したメディア検証サポートテストのトラブルシューティング .....	353
11.7.4. 失敗したトラップ処理のトラブルシューティング .....	354
<b>12. STA の分析の理解 .....</b>	<b>357</b>
12.1. データの保存 .....	357
12.2. 不完全な交換 .....	358
12.3. STA 画面で選択できない値 .....	358
12.4. 取り外したドライブとメディア .....	359
12.4.1. 取り外したドライブとメディアの特定 .....	359
12.4.2. 計算される合計に対する取り外したドライブとメディアの影響 .....	360
12.4.3. 取り外したドライブとメディアが、計算されるサマリーに与える影響 .....	360
12.4.4. 取り外したドライブとメディアが「Overview」と「Analysis」画面に与える影響 .....	361
12.4.4.1. 「Drives – Overview」画面 .....	361
12.4.4.2. 「Drives – Analysis」画面 .....	363
12.4.4.3. 交換とクリーニングのアクティビティの画面 .....	365
12.4.4.4. 「Alerts Overview」画面 .....	366
12.4.4.5. 「Media Validation Overview」画面 .....	366

12.5. 取り外したライブラリ .....	367
12.6. 「欠落した」メディア .....	367
12.7. 重複したボリュームシリアル番号 .....	368
12.7.1. 交換での「Duplicate Detected」フラグ .....	369
12.8. ホストと STA ドライブ識別子のマップ .....	369
12.8.1. メインフレーム識別子 .....	370
12.8.2. オープンシステム識別子 .....	370
<b>13. STA を使用したテープ環境に関する質問への回答 .....</b>	<b>371</b>
13.1. ドライブとメディアの健全性に関する質問 .....	371
13.1.1. もっとも多くのエラーが発生したメディアとドライブのレポート .....	372
13.1.1.1. 参照タスク .....	372
13.1.1.2. もっとも多くのエラーが発生したドライブのレポート .....	372
13.1.1.3. もっとも多くのエラーが発生したメディアのレポート .....	374
13.1.1.4. 2 つの間の相関関係の表示 .....	377
13.1.2. ドライブのエラー率の傾向のレポート .....	380
13.1.2.1. 参照タスク .....	380
13.1.2.2. 「Drives – Overview」画面の使用 .....	380
13.1.2.3. 「Exchanges – Overview」画面の使用 .....	383
13.1.2.4. 「Drives – Messages」画面の使用 .....	385
13.1.3. ドライブの効率性傾向のレポート .....	386
13.1.3.1. 参照タスク .....	386
13.1.4. ドライブの障害傾向のレポート .....	390
13.1.4.1. 参照タスク .....	390
13.1.5. テープジョブエラーのトラブルシューティングに役立つ情報のレポート .....	392
13.1.5.1. 参照タスク .....	393
13.1.5.2. 「Exchanges – Overview」画面の使用 .....	393
13.1.5.3. 「All Messages – Overview」画面の使用 .....	395
13.1.6. クリティカルなエラーの傾向のレポート .....	396
13.1.6.1. 参照タスク .....	397
13.1.6.2. 「All Messages – Overview」画面の使用 .....	397
13.1.6.3. 「Exchanges – Overview」画面の使用 .....	399

13.2. 容量およびリソース管理に関する質問 .....	402
13.2.1. ライブラリ、ドライブ、またはメディアの合計数のレポート .....	402
13.2.1.1. 関連トピック .....	403
13.2.1.2. 「Dashboard」の使用 .....	403
13.2.1.3. 「Overview」画面の使用 .....	404
13.2.1.4. 「Analysis」画面の使用 .....	405
13.2.2. ドライブおよびメディアタイプのレポート .....	406
13.2.2.1. 参照タスク .....	406
13.2.2.2. 「Dashboard」の使用 .....	406
13.2.2.3. 「Analysis」画面の使用 .....	407
13.2.3. もっとも利用率が高いドライブのレポート .....	408
13.2.3.1. 参照タスク .....	409
13.2.3.2. 合計稼働時間の使用 .....	409
13.2.3.3. 最近 30 日間にわたる使用時間の使用 .....	410
13.2.4. メディアの不足または過剰のレポート .....	411
13.2.4.1. 参照タスク .....	412
13.2.5. 今後のメディア、ドライブ、またはストレージセルに対する要件の計画 .....	417
13.2.5.1. 参照タスク .....	417
13.2.5.2. ドライブの利用率のレポート .....	417
13.2.5.3. メディアの移行に関連するデータのレポート .....	420
13.2.5.4. メディアのエージングに関連するデータのレポート .....	421
13.2.6. もっとも利用率が高いリソースのレポート .....	423
13.2.6.1. 参照タスク .....	423
13.2.6.2. ドライブの利用率のレポート .....	423
13.2.6.3. メディアの利用率のレポート .....	426
13.2.7. ライブラリ関連のアクティビティレベルのレポート .....	429
13.2.7.1. 参照タスク .....	429
13.2.8. 満杯に近づいているメディアのレポート .....	433
13.2.8.1. 参照タスク .....	433
13.2.9. ドライブのファームウェアレベルのレポート .....	435
13.2.9.1. 参照タスク .....	436
13.2.9.2. 「Drives – Overview」画面の使用 .....	436

13.2.9.3. 「Drives – Analysis」画面の使用 .....	440
<b>A. ダッシュボードポートレット .....</b>	<b>445</b>
A.1. グラフポートレット .....	445
A.2. 表ポートレット .....	448
A.3. レポートポートレット .....	450
<b>B. STA の定義済みテンプレート .....</b>	<b>453</b>
B.1. 「Dashboard」のテンプレート .....	454
B.2. 「Complexes Overview」のテンプレート .....	455
B.3. 「Libraries – Overview」のテンプレート .....	456
B.4. 「Libraries – Messages」のテンプレート .....	456
B.5. 「Drives – Overview」のテンプレート .....	457
B.6. 「Drives – Analysis」のテンプレート .....	458
B.7. 「Drives – Messages」のテンプレート .....	458
B.8. 「Media – Overview」のテンプレート .....	458
B.9. 「Media – Analysis」のテンプレート .....	460
B.10. 「Media – Messages」テンプレート .....	460
B.11. 「Robots Overview」のテンプレート .....	460
B.12. 「CAPs Overview」のテンプレート .....	460
B.13. 「PTPs Overview」のテンプレート .....	461
B.14. 「Elevators Overview」のテンプレート .....	461
B.15. 「Alerts Overview」のテンプレート .....	461
B.16. 「Exchanges Overview」のテンプレート .....	462
B.17. 「Drive Cleanings Overview」のテンプレート .....	463
B.18. 「Media Validation Overview」のテンプレート .....	463
B.19. 「All Messages – Overview」のテンプレート .....	463
B.20. 「All Messages – Analysis」テンプレート .....	464
<b>C. STA ダイアログボックスリファレンス .....</b>	<b>465</b>
C.1. 「Login」ダイアログボックス .....	465
C.1.1. Login .....	466

C.1.1.1. 説明 .....	466
C.1.1.2. 画面のフィールド .....	466
C.1.1.3. ボタン .....	466
C.1.1.4. 関連項目 .....	466
C.2. ダッシュボードのダイアログボックス .....	467
C.2.1. Annotate .....	467
C.2.1.1. 説明 .....	467
C.2.1.2. 画面のフィールド .....	467
C.2.1.3. ボタン .....	468
C.2.1.4. 関連項目 .....	468
C.3. フィルタのダイアログボックス .....	468
C.3.1. Filter Data .....	468
C.3.1.1. 説明 .....	468
C.3.1.2. 画面のフィールド .....	469
C.3.1.3. ボタン .....	469
C.3.1.4. 関連項目 .....	469
C.4. メディア検証の概要のダイアログボックス .....	470
C.4.1. リクエストの取消し .....	470
C.4.1.1. 説明 .....	470
C.4.1.2. ボタン .....	470
C.4.1.3. 関連項目 .....	470
C.4.2. Resubmit Media .....	471
C.4.2.1. 説明 .....	471
C.4.2.2. 画面のフィールド .....	471
C.4.2.3. ボタン .....	472
C.4.2.4. 関連項目 .....	472
C.4.3. Reorder Pending Requests .....	472
C.4.3.1. 説明 .....	472
C.4.3.2. 画面のフィールド .....	472
C.4.3.3. ボタン .....	472
C.4.3.4. 関連項目 .....	473
C.5. 論理グループのダイアログボックス .....	473
C.5.1. Logical Groups .....	473

C.5.1.1. 説明 .....	473
C.5.1.2. 画面のフィールド .....	473
C.5.1.3. ボタン .....	474
C.5.1.4. 関連項目 .....	474
C.5.2. 「Create Logical Group」または「Edit Logical Group」 .....	474
C.5.2.1. 説明 .....	474
C.5.2.2. 画面のフィールド .....	474
C.5.2.3. ボタン .....	476
C.5.2.4. 関連項目 .....	476
C.5.3. Delete Logical Group .....	476
C.5.3.1. 説明 .....	476
C.5.3.2. ボタン .....	476
C.5.3.3. 関連項目 .....	477
C.5.4. Unassign Entities .....	477
C.5.4.1. 説明 .....	477
C.5.4.2. ボタン .....	477
C.5.4.3. 関連項目 .....	477
C.6. 「Alerts Policies」ダイアログボックス .....	477
C.6.1. 「Alert Policy」ウィザード .....	478
C.6.1.1. 説明 .....	478
C.6.1.2. 画面のフィールド .....	478
C.6.1.3. ボタン .....	479
C.6.1.4. 関連項目 .....	480
C.7. エグゼクティブレポートポリシーのダイアログボックス .....	480
C.7.1. Add/Edit Executive Reports Policy .....	480
C.7.1.1. 説明 .....	481
C.7.1.2. 画面のフィールド .....	481
C.7.1.3. ボタン .....	482
C.7.1.4. 関連項目 .....	482
C.7.2. Reports .....	482
C.7.2.1. 説明 .....	482
C.7.2.2. ボタン .....	483
C.7.2.3. 関連項目 .....	483

C.7.3. Delete .....	483
C.7.3.1. 説明 .....	483
C.7.3.2. ボタン .....	483
C.7.3.3. 関連項目 .....	483
C.8. テンプレート管理のダイアログボックス .....	483
C.8.1. 「Reset」 (テンプレート) .....	484
C.8.1.1. 説明 .....	484
C.8.1.2. 画面のフィールド .....	484
C.8.1.3. ボタン .....	484
C.8.1.4. 関連項目 .....	485
C.8.2. Import Template .....	485
C.8.2.1. 説明 .....	485
C.8.2.2. 画面のフィールド .....	485
C.8.2.3. ボタン .....	485
C.8.2.4. 関連項目 .....	486
C.8.3. Rename Template .....	486
C.8.3.1. 説明 .....	486
C.8.3.2. 画面のフィールド .....	486
C.8.3.3. ボタン .....	486
C.8.3.4. 関連項目 .....	486
C.8.4. Delete Template .....	487
C.8.4.1. 説明 .....	487
C.8.4.2. 画面のフィールド .....	487
C.8.4.3. ボタン .....	487
C.8.4.4. 関連項目 .....	487
C.8.5. Save Template .....	488
C.8.5.1. 説明 .....	488
C.8.5.2. 画面のフィールド .....	488
C.8.5.3. ボタン .....	488
C.8.5.4. 関連項目 .....	488
C.8.6. Save Template (上書き) .....	489
C.8.6.1. 説明 .....	489
C.8.6.2. 画面のフィールド .....	489

C.8.6.3. ボタン .....	489
C.8.6.4. 関連項目 .....	489
C.8.7. Default Template .....	489
C.8.7.1. 説明 .....	490
C.8.7.2. 画面のフィールド .....	490
C.8.7.3. ボタン .....	490
C.8.7.4. 関連項目 .....	490
C.9. メディア検証ポリシーのウィザードおよびダイアログボックス .....	490
C.9.1. メディア検証の構成の確認 .....	490
C.9.1.1. 説明 .....	491
C.9.1.2. ボタン .....	491
C.9.1.3. 関連項目 .....	491
C.9.2. メディア検証ポリシーウィザード .....	491
C.9.2.1. 説明 .....	492
C.9.2.2. 画面のフィールド .....	492
C.9.2.3. ボタン .....	493
C.9.2.4. 関連項目 .....	493
C.10. サービスログのダイアログボックス .....	494
C.10.1. Create New Log Bundle .....	494
C.10.1.1. 説明 .....	494
C.10.1.2. 画面のフィールド .....	494
C.10.1.3. ボタン .....	495
C.10.1.4. 関連項目 .....	495
C.10.2. Log Bundle Run Info .....	495
C.10.2.1. 説明 .....	495
C.10.2.2. ボタン .....	496
C.10.2.3. 関連項目 .....	496
C.10.3. Delete Selected Log Bundle .....	496
C.10.3.1. 説明 .....	496
C.10.3.2. ボタン .....	496
C.10.3.3. 関連項目 .....	496
C.11. SNMP 接続のダイアログボックス .....	496
C.11.1. Define SNMP Client Settings .....	497



C.11.1.1. 説明 .....	497
C.11.1.2. 画面のフィールド .....	498
C.11.1.3. ボタン .....	500
C.11.1.4. 関連項目 .....	500
C.11.2. Define Library Connection Details .....	500
C.11.2.1. 説明 .....	500
C.11.2.2. 画面のフィールド .....	500
C.11.2.3. ボタン .....	502
C.11.2.4. 関連項目 .....	502
C.11.3. Confirmation (ライブラリ接続の削除) .....	502
C.11.3.1. 説明 .....	503
C.11.3.2. ボタン .....	503
C.11.3.3. 関連項目 .....	503
C.12. ユーザー管理のダイアログボックス .....	503
C.12.1. User Configuration .....	503
C.12.1.1. 説明 .....	503
C.12.1.2. 画面のフィールド .....	504
C.12.1.3. ボタン .....	504
C.12.1.4. 関連項目 .....	505
C.12.2. Delete User .....	505
C.12.2.1. 説明 .....	505
C.12.2.2. 画面のフィールド .....	505
C.12.2.3. ボタン .....	505
C.12.2.4. 関連項目 .....	506
C.13. 電子メール構成のダイアログボックス .....	506
C.13.1. Define SMTP Server Details .....	506
C.13.1.1. 説明 .....	506
C.13.1.2. 画面のフィールド .....	506
C.13.1.3. ボタン .....	507
C.13.1.4. 関連項目 .....	507
C.13.2. Define Email Details .....	508
C.13.2.1. 説明 .....	508
C.13.2.2. 画面のフィールド .....	508

C.13.2.3. ボタン .....	508
C.13.2.4. 関連項目 .....	508
索引 .....	509

## 図の一覧

2.1. タブレットでのサンプルのモバイルの「Dashboard」の表示 .....	63
2.2. 携帯電話でのサンプルのモバイルの「Dashboard」の表示 .....	63
6.1. サンプルの「Executive Reports」画面 .....	169
6.2. サンプルのエグゼクティブレポート .....	170
6.3. サンプルの「Executive Reports Policies」画面 .....	173
8.1. 「Drives – Overview」画面上の検証ドライブ .....	222
8.2. 検証ドライブ候補の確認用フィルタ .....	223
8.3. 検証ドライブ候補が表示されている「Drives – Overview」画面 .....	224
8.4. Media Validation Configuration Success Message .....	225
8.5. ドライブキャリブレーション構成の成功メッセージ .....	226
8.6. ドライブキャリブレーション構成のエラーメッセージ .....	226
8.7. キャリブレーションメディア候補の確認用フィルタ .....	234
8.8. 「Media – Overview」画面からメディア検証を開始する .....	236
8.9. 「Media Validation Overview」画面からメディア検証を開始する .....	236
8.10. 複数メディア用の手動検証リクエストの例 .....	237
12.1. 「Drives – Overview」画面、「Show Removed Drives」設定は「On」 .....	362
12.2. 「Drives – Overview」画面、「Show Removed Drives」設定は「Off」 .....	363
12.3. 「Drives – Overview」画面、「Show Removed Drives」設定は「Off」で、既知の取り 外したドライブでフィルタ .....	363
12.4. 「Drives – Analysis」画面、「Show Removed Drives」設定は「On」 .....	364
12.5. 「Drives – Analysis」画面、「Show Removed Drives」設定は「Off」 .....	365
12.6. 「Exchanges Overview」画面、「Show Removed Drives」設定は「On」 .....	365
12.7. 「Exchanges Overview」画面、「Removed Drives」設定は「Off」 .....	366



## 表の一覧

5.1. アラートポリシーのユーザーの役割 .....	133
5.2. アラートのモニタリングのユーザーの役割 .....	134
6.1. エグゼクティブレポートファイルのユーザーの役割 .....	172
6.2. エグゼクティブレポートポリシーのユーザーの役割 .....	174
7.1. 動的論理グループの選択条件 .....	188
8.1. STA と SL コンソールのメディア検証機能の比較 .....	217
8.2. T1000T2 メディア、2つのデータラップで書き込まれる M バイト (圧縮済み) .....	234
8.3. メディア検証構成のユーザーの役割 .....	245
8.4. メディア検証リクエストキューのユーザーの役割 .....	245
8.5. メディア検証ポリシーのユーザーの役割 .....	246
9.1. 画面別に編成したユーザー役割の権限 .....	294
11.1. 「Monitored Libraries」テーブルのライブラリ接続ステータスフィールド .....	329



## 例の一覧

5.1. サンプルの交換のアラート電子メール .....	143
5.2. サンプルの STA アプリケーションのアラート電子メール .....	143
9.1. STA テスト電子メールの例 .....	310
10.1. サービスログ作成コマンド行の出力のサンプル .....	316
11.1. 成功した接続テスト .....	326
11.2. 失敗した MIB ウォークチャンネルテスト .....	326
11.3. 失敗したトラップチャンネルテスト .....	326
11.4. 失敗したメディア検証サポートテスト .....	326
11.5. 成功した snmpget コマンド .....	332
11.6. 失敗した snmpget コマンド — ネットワークのタイムアウト .....	332
11.7. 失敗した snmpget コマンド — 無効なパスワード .....	332
11.8. SNMP 構成ファイルのサンプル .....	341
12.1. サンプルの ELS Display DRives コマンドの出力 .....	370
12.2. サンプルの Linux /dev/rmt ディレクトリの一覧表示 .....	370





# はじめに

---

このガイドには、Oracle の StorageTek Tape Analytics (STA) を使用するための概念および手順が記載されています。

## 対象読者

このドキュメントは、STA の新規ユーザーおよび経験豊富なユーザーを対象としています。

## ドキュメントのアクセシビリティ

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>) を参照してください。

### Oracle Support へのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>) か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>) を参照してください。

## 関連ドキュメント

STA のドキュメントセットは、次のドキュメントで構成されています。

### STA アプリケーションのユーザー向け

- 『STA クイックスタートガイド』— STA アプリケーションとユーザーインターフェースの一部の特徴について学習するには、このガイドを使用します。
- 『STA ユーザーズガイド』— ダッシュボード、テンプレート、フィルタ、アラート、エグゼクティブレポート、論理グループ、STA メディア検証などの STA アプリケーションのすべての機能の使用手順については、このガイドを使用します。このガイドでは、STA のユーザー名、電子メールアドレス、サービスログ、およびモニター対象ライブラリとの SNMP 接続を管理する手順も説明されています。
- 『STA 画面基本ガイド』— STA ユーザーインターフェースの詳細については、このガイドを使用します。画面のナビゲーションと配置、およびグラフと表の使用の説明が記載されています。
- 『STA データリファレンスガイド』— すべての STA テープライブラリシステム画面とデータ属性の定義を検索するには、このガイドを使用します。

## STA サーバーとアプリケーションのインストール担当者と管理者向け

- 『*STA リリースノート*』— STA をインストールして使用する前にこのドキュメントをお読みください。既知の問題など、リリースに関する重要な情報が記載されています。このドキュメントは、STA メディアパックダウンロードに含まれています。
- 『*STA 要件ガイド*』— STA の使用の最小要件と推奨要件の詳細について学ぶには、このガイドを使用します。このガイドには、ライブラリ、ドライブ、サーバー、ユーザーインターフェース、STA メディア検証、および IBM RACF アクセス制御の要件が記載されています。
- 『*STA インストールおよび構成ガイド*』— このガイドは、STA のインストールの計画、Linux オペレーティングシステムのインストール、STA アプリケーションのインストール、そしてライブラリのモニタリングを開始するための STA の構成を行うときに使用します。このガイドでは、STA の新しいバージョンにアップグレードする手順も説明されています。
- 『*STA 管理ガイド*』— STA サービス構成、データベースのバックアップおよび復元、データベースアカウントのパスワード管理など、STA サーバーの管理タスクの情報については、このガイドを使用します。
- 『*STA セキュリティーガイド*』— 要件、推奨事項、一般的なセキュリティー原則といった重要な STA のセキュリティー情報については、このドキュメントをお読みください。
- 『*STA ライセンス情報ユーザーマニュアル*』— STA 製品とともに配布されるサードパーティーのテクノロジーの使用については、このドキュメントをお読みください。

## 表記規則

このドキュメントでは、次のテキスト表記規則を使用しています。

表記規則	意味
太字	太字は、アクションに関連付けられたグラフィカルユーザーインターフェースの要素、またはテキストや用語集で定義される用語を示します。
斜体	斜体は、マニュアルタイトル、強調、または特定の値を指定するプレースホルダ変数を示します。
固定幅フォント	モンスペースは、段落内のコマンド、URL、例のコード、画面に表示されるテキスト、またはユーザーが入力するテキストを示します。

# 新機能

---

このセクションでは、StorageTek Tape Analytics 2.1.0 の新機能および拡張機能の概要について説明します。

## STA 2.1.0 2015 年 1 月

新機能および拡張機能の詳細については、次に示すマニュアルを参照してください。

### 『STA 要件ガイド』に記載されている内容

- STA 2.1.0 をサポートするための新しいライブラリとドライブの推奨されるファームウェアレベル。
- Oracle の StorageTek T10000C および T10000D ドライブでの TTI 5.50 プロトコルのサポート。
- STA 2.1.0 をサポートするための更新されたライブラリとドライブの要件。
- 更新された推奨される STA サーバーの構成。

### 『STA インストールおよび構成ガイド』に記載されている内容

- 新しい STA 2.1.0 インストーラおよびデインストーラには、次の新機能があります。
  - Oracle インストールユーザーとグループ - STA サーバーへの Oracle 製品のインストールとアップグレードに排他的に使用される Linux ユーザーとグループ。
  - ユーザー定義の Oracle ストレージホームの場所 - STA アプリケーションおよび関連する Oracle ソフトウェアは、十分な領域を持つ任意のファイルシステムにインストールできます。
  - ユーザー定義のデータベースおよびローカルバックアップの場所。
  - Oracle 中央インベントリの場所 - STA サーバーにインストールされている Oracle 製品に関する情報を追跡するために使用するディレクトリ。
  - STA インストーラおよびデインストーラのサイレントモード - グラフィカルユーザーインタフェースをバイパスするように、XML プロパティファイルでインストールオプションを指定できます。
  - 新しい詳細な STA インストーラおよびデインストーラのログ。
  - すべての STA グラフィカルインストーラおよびデインストーラ画面の状況依存ヘルプ。
- 追加の Linux RPM パッケージ要件 - `xorg-x11-utils` パッケージをインストールして、STA グラフィカルインストーラを実行する必要があります。

- WebLogic 管理コンソールのデフォルトポートが、7019 (HTTP) と 7020 (HTTPS) に変更されました。以前のデフォルトの割り当てを使用している場合は、新しいポートに変更する必要があります。
- STA および MySQL ユーザー名に対する新しいパスワード要件。
- STA 1.0.x および STA 2.0.x データベースを STA 2.1.0 にアップグレードするための新しいプロセス。

#### 『STA クイックスタートガイド』に記載されている内容

- 大きな変更なし

#### 『STA ユーザーズガイド』に記載されている内容

- 追加情報を提供して操作性を向上させるための次のテンプレートへの小さな更新。
  - STA-Complex-Configuration
  - STA-Complex-Utilization
  - STA-Lib-Configuration
  - STA-Drive-MV
  - STA-Media-All
  - STA-Media-MV-Calibration
  - 「Media Validation Overview」画面、STA-Default テンプレート
- ドキュメントの変更 - 次の章が『STA 管理ガイド』から別の場所に移動しました。『STA ユーザーズガイド』では、STA ユーザーインターフェースから実行できるすべての機能とアクティビティについて説明しています。
  - STA ユーザー名と電子メール
  - STA サービスログ
  - STA での SNMP 接続の管理

#### 『STA 画面基本ガイド』に記載されている内容

- 大きな変更なし

#### 『STA データリファレンスガイド』に記載されている内容

- 操作性を向上させるために、一部の画面の属性が再編成されました。
- 「Last Messages」属性は、CAP、ドライブ、エレベータ、ライブラリ、PTP、およびロボットの各画面で使用できます。

『**STA 管理ガイド**』に記載されている内容

- ドキュメントの変更 - 次の章が『*STA ユーザーズガイド*』に移動しました。
  - ユーザー名と電子メール
  - ログイン
  - SNMP 管理



---

---

## はじめに

この章の内容は次のとおりです。

- [STA の概要](#)
- [サポートされるデバイス](#)
- [STA のログインセッション](#)
- [ログインタスク](#)
- [ヘルプ](#)

### 1.1. STA の概要

Oracle の StorageTek Tape Analytics (STA) は、インテリジェントなモニタリングアプリケーションで、Oracle の StorageTek モジュール型テープライブラリのみで使用できます。これはテープストレージ管理を簡略化し、ユーザーは使用環境の現在の健全性に基づき、将来のテープストレージ投資について情報を得たうえでの意思決定を行うことができます。

STA を使用することで、グローバルに分散したライブラリを単一のブラウザベースのユーザーインターフェースからモニターできます。ユーザーは、複数のライブラリプラットフォームにまたがるオープンシステムとメインフレームの混在メディアや混在ドライブ環境を管理できます。

STA の詳細なパフォーマンス傾向分析を行うことにより、テープ投資の利用率およびパフォーマンスを向上させることができます。これらの分析は、継続的に更新されるライブラリ操作のデータベースに基づいています。STA はテープライブラリ環境からデータを取得して保持し、このデータを用いて、ライブラリリソース (ドライブおよびメディア) の健全性ステータスを計算します。STA はさまざまな条件に従ってデータを集計し、表形式やグラフ形式で表示するため、環境のアクティビティ、健全性、および容量をすばやく評価できます。

### 1.2. サポートされるデバイス

このセクションでは、STA でサポートされるデバイスを確認します。ファームウェアの最小レベルおよびその他の要件の詳細は、『STA 要件ガイド』を参照してください。

一般に、ドライブのモデルが新しいほど、ドライブやライブラリのファームウェアは新しくなり、STA が受信するデータも豊富になって、実行できる分析がより詳細になります。最善の結果を得るためには、ドライブおよびライブラリのファームウェアを現行の最新バージョンに更新することをお勧めします。

### 1.2.1. StorageTek モジュール型テープライブラリ

- SL8500 スタンドアロンライブラリおよびコンプレックス
- SL3000
- SL500
- SL150

### 1.2.2. ドライブおよびメディアのタイプ

- StorageTek T10000A、T10000B、T10000C、および T10000D ドライブ
- StorageTek T10000T1 および T10000T2 メディア
- StorageTek 9840C および 9840D
- HP LTO-3、LTO-4、LTO-5、および LTO-6、Automation Drive Interface (ADI) の完全なサポート
- IBM LTO-3 および LTO-4、ADI の完全なサポート
- IBM LTO-5 および LTO-6、基本的なサポート — Library Drive Interface (LDI) モードのみ

---

注:

LTO ドライブの場合、STA のドライブとライブラリの両方で ADI プロトコルを有効にして、これらのドライブに関する豊富なデータを受信できるようにする必要があります。LTO 2 および SDLT ドライブは ADI をサポートしないため、STA はそれらのドライブに関して最小限のデータしか受信しません。

---

## 1.3. STA のログインセッション

STA の管理者が、STA にログインするための STA ユーザー名とパスワードを提供します。ログインすると、STA のすべての画面と機能にアクセスできます。手順については、「[STA へのログイン](#)」を参照してください。

### 1.3.1. パスワードの要件

ユーザーパスワードの形式には次のような要件があります。

- 8–32 文字の長さにする必要があります



- 特殊文字を少なくとも 1 つ含める必要があります
- 次に示す特殊文字を含めないでください。

& ' ( ) < > ? { } \* / ' "

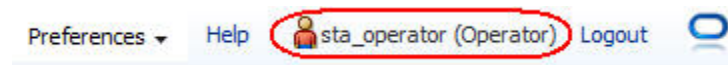
パスワードは任意の時点で変更できます。詳細は、「[パスワードの変更](#)」を参照してください。

### 1.3.2. ユーザーアカウントのロックアウト

失敗したログイン試行が 5 分以内に 5 回あると、ユーザーアカウントが 30 分間ロックアウトされます。セキュリティ上の理由から、STA 管理者であつてもロックアウト期間中にアカウントをリセットすることはできないため、再度ログインを試行するまで 30 分間待つ必要があります。

### 1.3.3. ユーザーの役割

STA の各ユーザー名にはユーザーの役割が割り当てられ、この役割によって、ユーザーがアクセスできる画面およびアクティビティーが決まります。ユーザーの役割は、メインツールバーの STA ユーザー名の隣に表示されます。



ユーザーの役割には次のものがあります。

- **Viewer** – 「Home」、「Tape System Hardware」、および「Tape System Activity」の各メニューからすべての画面にアクセスできます。
- **Operator** – 「Viewer」役割のすべての権限を持っています。また、「Setup & Administration」の一部の画面の編集権限、および「Configuration」の画面の表示専用権限も持っています。
- **Administrator** – 「Operator」役割のすべての権限と、「Setup & Administration」のすべての画面の完全な編集権限を持っています。

各役割で使用可能な画面およびアクティビティーの詳細な説明は、「[STA ユーザー役割](#)」を参照してください。

STA のドキュメントで、画面のアクセスおよびアクティビティーの実行に必要なユーザーの役割を確認できます。役割が指定されていない場合、そのアクティビティーはすべてのユーザーが実行できます。

### 1.3.4. 画面ナビゲーション

STA 画面を移動するためにブラウザの「進む」および「戻る」(または「次へ」および「前へ」) ボタンを使用しないでください。これらのボタンを使用すると、予期しない結果が生じる可能性があり、表示されるデータが古くなったり、STA サーバー上のデータと同期されなくなったりすることがあります。移動する場合は、ナビゲーションバーおよびテキストリンクといった STA で提供される方法を必ず使用してください。

STA の画面移動の詳細は、『STA 画面基本ガイド』を参照してください。また、画面表示およびナビゲーションの問題のトラブルシューティングの詳細についても、『STA 画面基本ガイド』を参照してください。

### 1.3.5. ログアウト

ログインセッションを終了する準備ができたなら、単にブラウザウィンドウを閉じるのではなく、STA からログアウトすることをお勧めします。ログアウトすると、STA サーバーのセッションメモリーが解放され、ほかのプロセスで使用できるようになります。ブラウザのウィンドウを閉じた場合、定義されたセッションタイムアウト期間を過ぎるまでセッションメモリーは解放されず、特にセッションタイムアウト期間が長い場合には STA のパフォーマンスに影響を与える可能性があります。手順については、「[STA からのログアウト](#)」を参照してください。

## 1.4. ログインタスク

- [「STA へのログイン」](#)
- [「STA からのログアウト」](#)
- [「STA ソフトウェアのバージョン情報の表示」](#)
- [「パスワードの変更」](#)

### 1.4.1. STA へのログイン

STA セッションを開始するには、この手順を使用します。この手順を使用する前に、コンピュータとブラウザが正しく構成されていることを確認する必要があります。最小要件については、『STA 要件ガイド』を参照してください。

また、STA の管理者から、次の情報を受け取る必要があります。

- STA アプリケーションの URL
- STA のユーザー名とパスワード

1. サポートされている Web ブラウザをコンピュータで起動します。


2. ロケーションバーまたはアドレスフィールドに、STA アプリケーションの URL を入力します。URL では、次のいずれかの形式が使用されます。

`http://local_host_name:port_number/STA`

`https://local_host_name:port_number/STA`

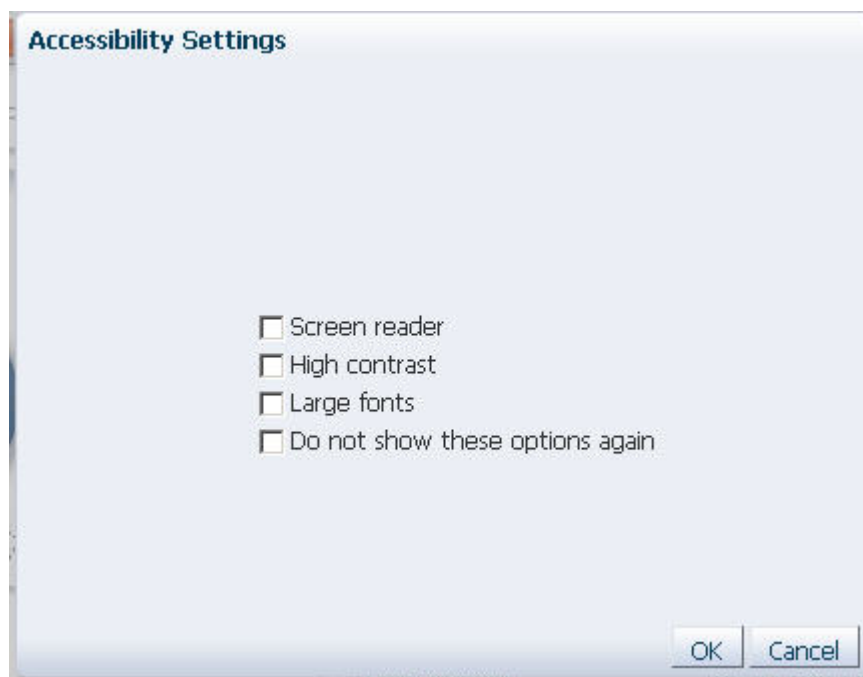
ここで、`local_host_name` および `port_number` は、STA 管理者から提供された STA サーバーの名前とポート番号です。通常、STA はポート 7021 で実行されます。

「Login」画面が表示されます。



3. 割り当てられた STA のユーザー名とパスワードを入力して、「Login」をクリックします。

STA ユーザー名の設定に応じて、「Accessibility Settings」ダイアログボックスが表示される場合があります。



4. 該当する場合は「Accessibility Settings」ダイアログボックスに入力して、「OK」をクリックします。このダイアログボックスの設定については、『STA 画面基本ガイド』を参照してください。

ダッシュボードが表示されます。

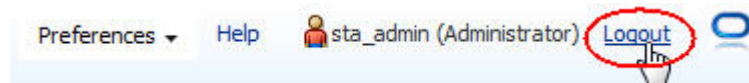
## 1.4.2. STA からのログアウト

STA セッションを終了するには、この手順を使用します。セッションは任意の時点で終了できます。

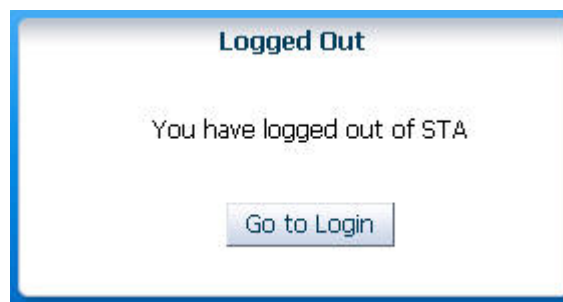
注:

単にブラウザウィンドウを閉じるのではなく、STA からログアウトすることをお勧めします。ログアウトすると、STA サーバーのセッションメモリーが解放され、ほかのプロセスで使用できるようになります。定義されたログインセッションのタイムアウト時間が長い場合は、ログアウトすることが特に重要です。関連情報については、『STA 画面基本ガイド』を参照してください。

1. 任意の STA 画面で、メインツールバーの「Logout」をクリックします。



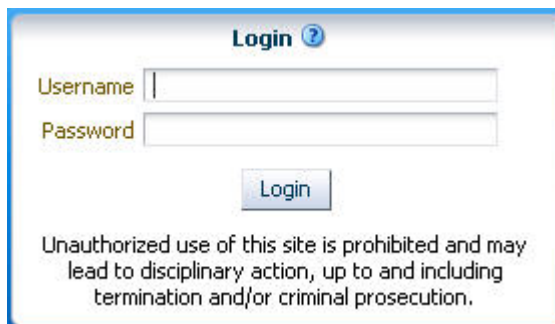
ログインセッションが終了し、「Logged Out」ダイアログボックスが表示されます。



2. 「Go to Login」をクリックします。



「Login」画面が表示されます。ログインの手順については、「[STA へのログイン](#)」を参照してください。



### 1.4.3. STA ソフトウェアのバージョン情報の表示

STA アプリケーションおよびサポートされているソフトウェアに関するバージョン情報を表示するには、この手順を使用します。この情報は、Oracle サポート担当者 への連絡の際に役立ちます。

1. ステータス行の「**About**」をクリックします。



バージョン情報のダイアログボックスが表示されます。

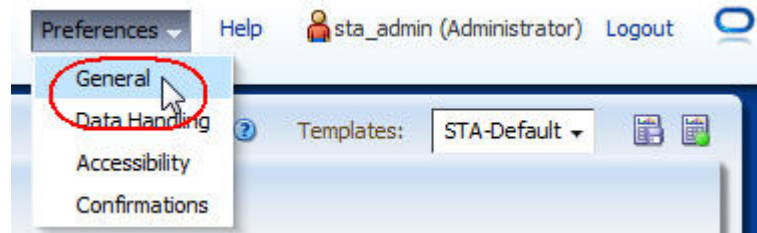


2. 「**OK**」をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

## 1.4.4. パスワードの変更

STA ユーザー名のパスワードを変更するには、この手順を使用します。有効なパスワードの割り当ての詳細は、「[パスワードの要件](#)」を参照してください。

1. メインツールバーで、「**Preferences**」を選択して、「**General**」を選択します。



「General」ダイアログボックスが表示されます。

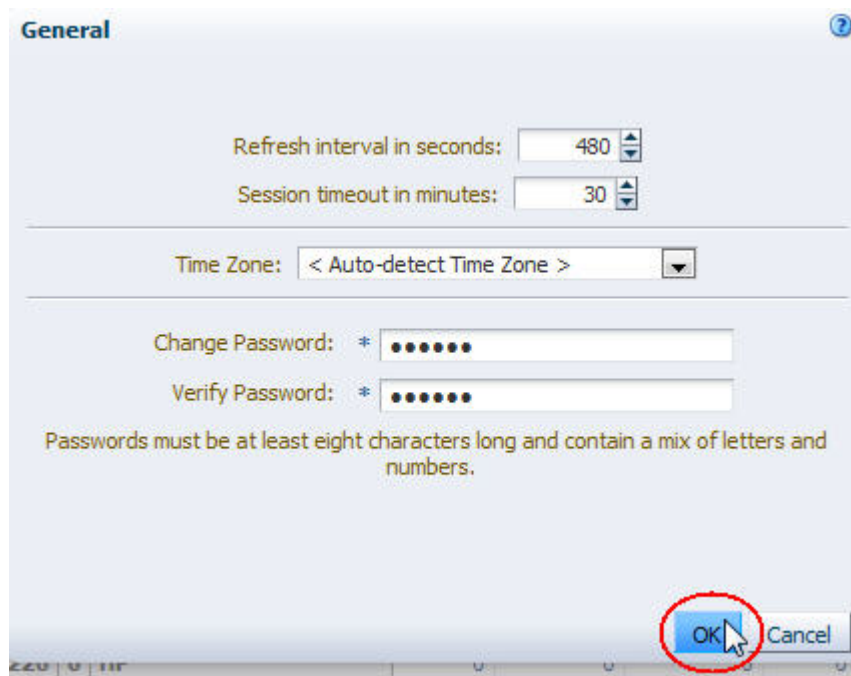
A screenshot of the 'General' dialog box. It contains the following fields and controls:

- 'Refresh interval in seconds': 480
- 'Session timeout in minutes': 30
- 'Time Zone': < Auto-detect Time Zone >
- 'Change Password': \* [password field]
- 'Verify Password': \* [password field]
- Instruction: Passwords must be at least eight characters long and contain a mix of letters and numbers.
- Buttons: OK, Cancel

2. 「**Change Password**」フィールドに、割り当てる新しいパスワードを入力します。

エントリは、入力するとマスクされます。

3. 「**Verify Password**」フィールドにパスワードを再入力します。
4. 「**OK**」をクリックします。

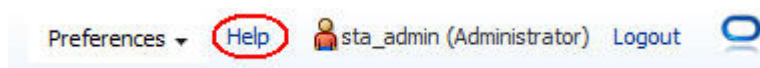


パスワードが更新され、次回ログインする際に新しいパスワードを使用する必要があります。

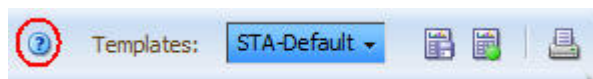
## 1.5. ヘルプ

STA には、すべての画面で状況依存ヘルプが用意されています。「Help」ボタンは次のツールバーにあります。

- メインツールバー



- 「Template」ツールバー

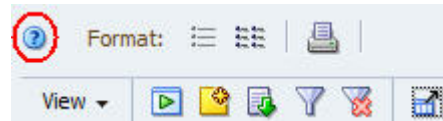


- 「Graphics Area」ツールバー



- 「List View Table」ツールバー（「Overview」画面のみ）





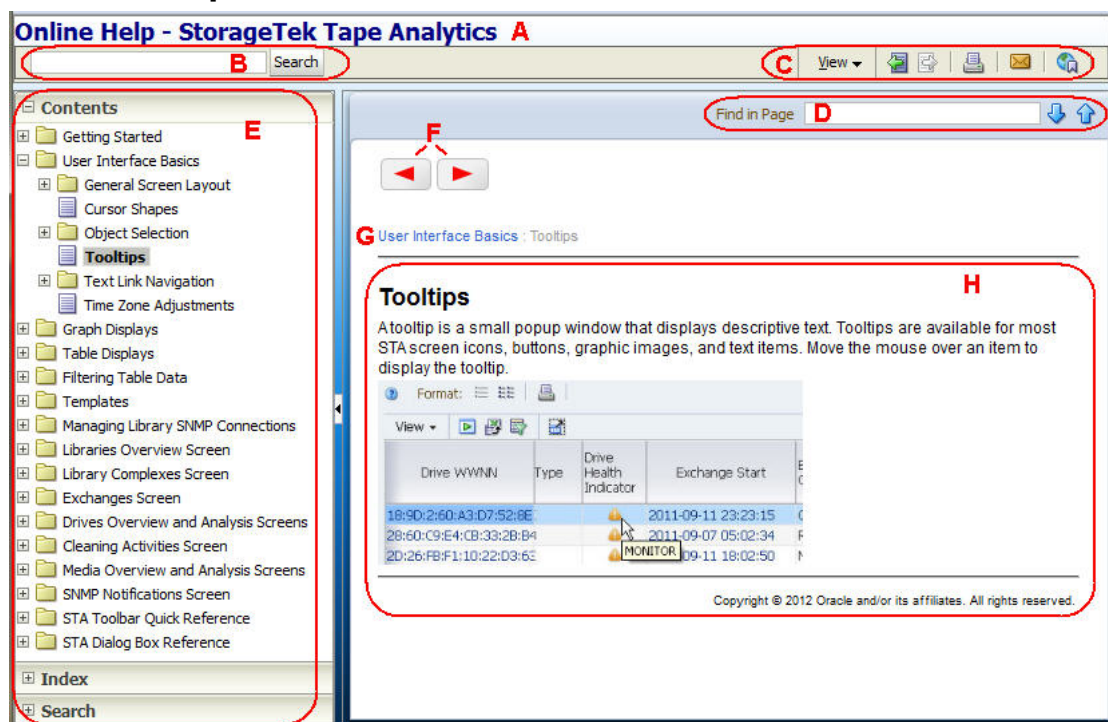
- 「Pivot Table」ツールバー（「Analysis」画面のみ）



- ダイアログボックス



### 1.5.1. 「Help」ウィンドウのレイアウト



項目	名前	説明
A	タイトル	ヘルプシステムのタイトルを表示します。
B	ヘルプセットクイック検索	ヘルプセット全体でクイック検索を実行できます。
C	ヘルプツールバー	ヘルプセットと対話するためのコマンドに直接アクセスできます。詳細は、「ヘルプツールバー」を参照してください。
D	トピッククイック検索	現在表示されているトピック内のクイック検索を実行できます。
E	ヘルプナビゲーションバー	「Contents」、「Index」、および「Search」の3つのナビゲーションタブがあります。詳細は、次のトピックを参照してください。








項目 名前	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ヘルプの「Contents」タブ」</li> <li>「ヘルプの「Index」タブ」</li> <li>「ヘルプの「Search」タブ」</li> </ul>
F ブラウズボタン	ヘルプトピックを順番に、前方および後方に閲覧できます。
G トピックのブレードクラム	トピック階層内の現在のトピックを表示します。そのトピックを表示するには、親見出しをクリックします。
H トピック領域	ヘルプトピックの内容を表示します。

## 1.5.2. ヘルプツールバー

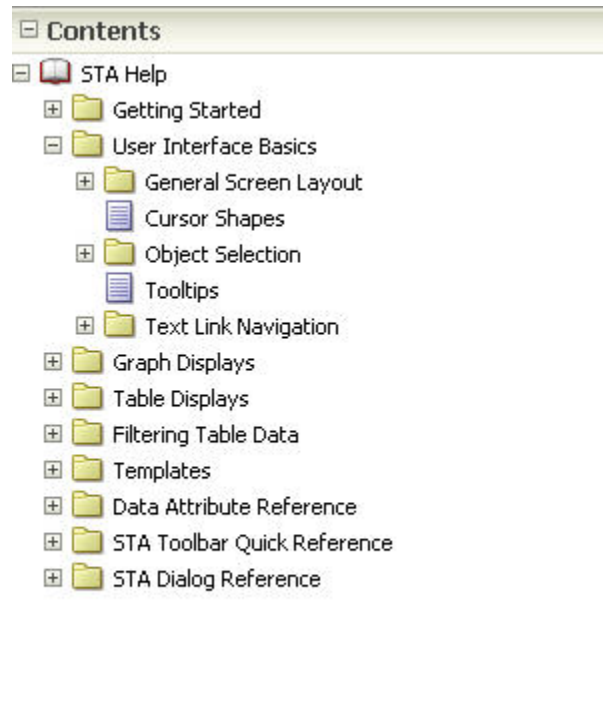
「Help」ツールバーでは、ヘルプシステムの表示および利用のために頻繁に使用するコマンドに直接アクセスできます。



アイコン	名前	説明
	「View」メニュー	次の選択項目があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>Maximize Reading Pane</b> – ナビゲータペインの展開と折りたたみを切り替えます。</li> <li><b>Restore Default Window Layout</b> – デフォルトのレイアウトに従ってペインを再配置します。</li> <li><b>Contents</b> – 「Help」ナビゲーションバーの「Contents」タブを展開します。</li> <li><b>Index</b> – 「Help」ナビゲーションバーの「Index」タブを展開します。</li> <li><b>Search</b> – 「Help」ナビゲーションバーの「Search」タブを展開します。</li> <li><b>Show permanent link for this topic page</b> – 現在のトピックへのリンクをブラウザのブックマークに保存できます。</li> </ul>
	1 ページ戻る/進む	それまでに表示したトピック間を後方および前方にたどることができます。
	このトピックページを印刷	コンピュータの印刷ダイアログボックスを開いて、現在のトピックを印刷できるようにします。
	このトピックページを電子メール	コンピュータのデフォルトの電子メールアプリケーションを開いて、現在のトピックへのリンクを電子メールで送信できるようにします。
	このトピックページへのリンク	現在のトピックへのリンクをブラウザのブックマークに保存できます。

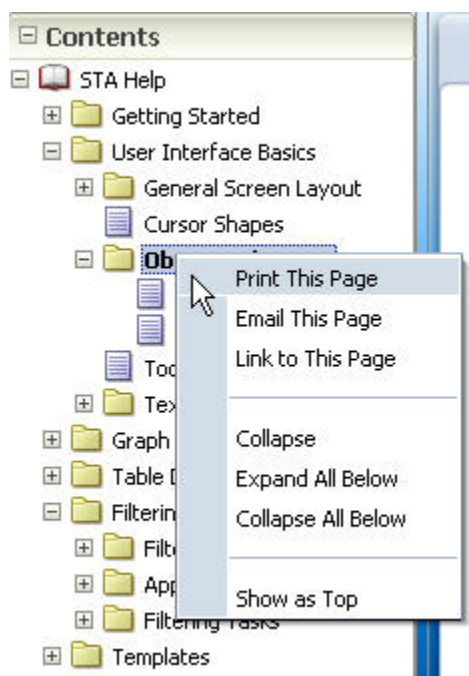
### 1.5.3. ヘルプの「Contents」タブ

「Contents」タブには、ヘルプセットの目次が表示されます。トピックが階層ツリーで一覧表示され、上位レベルの見出しはフォルダとして示されます。フォルダを展開するか折りたたんで、見出しを表示したり、内部に隠すことができます。見出しをクリックすると、トピックがトピック領域に表示されます。



#### 1.5.3.1. コンテキストメニュー

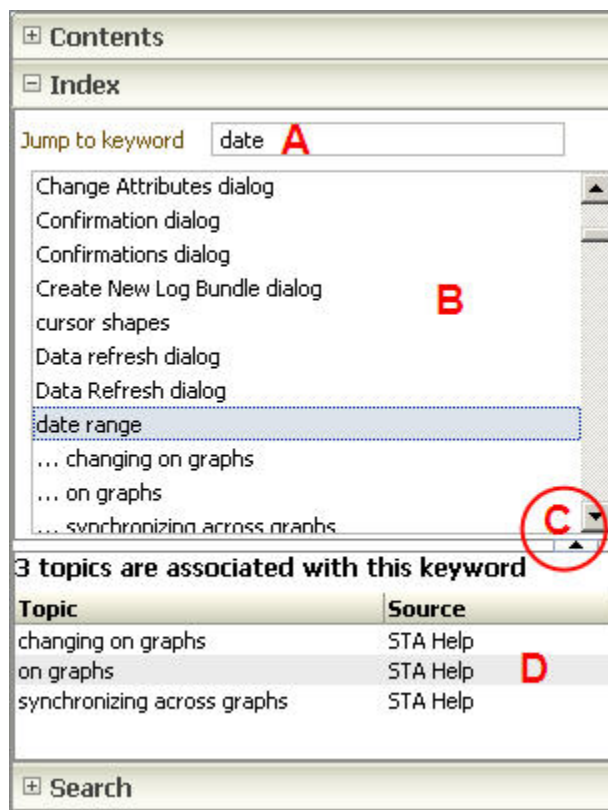
「Contents」タブ内を右クリックすると、「Context」メニューが表示されます。



メニューの選択項目	アクション
Print This Page	コンピュータの印刷ダイアログボックスを開いて、現在のトピックを印刷できるようにします。「Help」ツールバーからも使用できます。
Email This Page	コンピュータのデフォルトの電子メールアプリケーションを開いて、このトピックへのリンクを電子メールで送信できるようにします。「Help」ツールバーからも使用できます。
Link to This Page	現在のトピックへのリンクをブラウザのブックマークに保存できます。「Help」ツールバーからも使用できます。
Expand	選択した見出しを展開します。
Collapse	目次を折りたたんで、選択した見出しの中に見出しを隠します。
Expand All Below	選択した見出しと、そこに含まれるすべてのサブ見出しを展開します。
Collapse All Below	選択した見出しと、そこに含まれるすべてのサブ見出しを折りたたみます。
Show As Top	現在の見出しを「Contents」タブの最上位に表示します。

#### 1.5.4. ヘルプの「Index」タブ

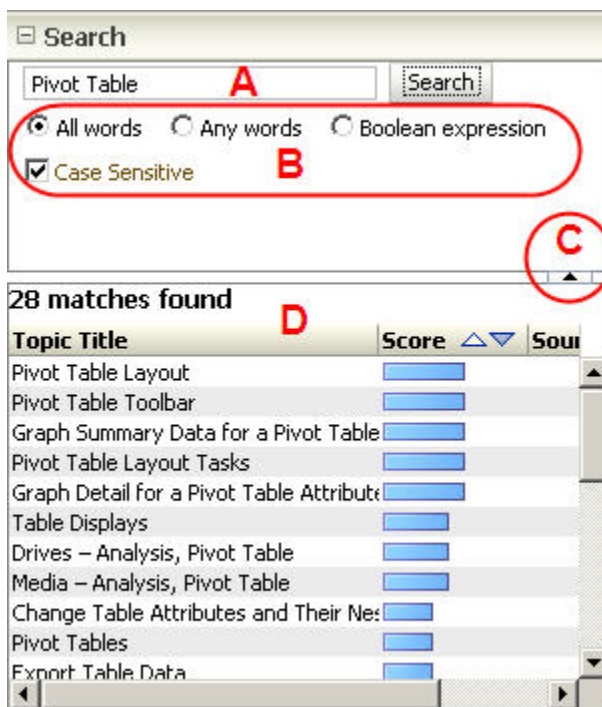
「Index」タブには、ソートされた索引のキーワードが2レベルの階層で表示されます。1つのキーワードを複数のトピックに関連付けることができます。



項目	名前	説明
A	キーワードに移動	テキストフィールドに1つ以上の単語を入力します。入力すると、リスト内のキーワードのうち、入力された文字列に一致する最初のキーワードが選択されます。入力する文字が多いほど、より正確な選択が行われます。
B	キーワードリスト	アルファベット順にソートされたキーワードの2レベルのリストです。関連トピックを表示するキーワードをトピックリストで選択します。
C	ペインを展開/折りたたむ	クリックして、トピックリストを展開または折りたたみます。
D	トピックリスト	キーワードのリストです。キーワードリンクをクリックすると、関連トピックがトピック領域に表示されます。列見出し(「Topic」または「Source」)をクリックすると、その列順にソートされます。

### 1.5.5. ヘルプの「Search」タブ

「Search」タブでは、ヘルプセット全体を検索するフルテキスト問合せを作成できます。



項目	名前	説明
A	検索テキスト	テキストフィールドに1つ以上の単語を入力します。入力すると、リスト内のキーワードのうち、入力された文字列に一致する最初のキーワードが選択されます。入力する文字が多いほど、より正確な選択が行われます。
B	選択条件	検索の選択条件を指定できます。
C	ペインを展開/折りたたむ	クリックして、トピックリストを展開または折りたたみます。
D	トピックリスト	<p>検索結果のリストです。トピックタイトル、スコア、およびそれぞれのソースが含まれます。トピックリンクをクリックすると、そのトピックがトピック領域に表示されます。</p> <p>「Score」列には、検索条件との一致率に応じたトピックのランキングが表示されます。デフォルトでは、すべてのトピックが「Score」でソートされています。列見出し(「Topic Title」、「Score」または「Source」)をクリックすると、その列順にソートされます。</p>

---

---

---

## Dashboard

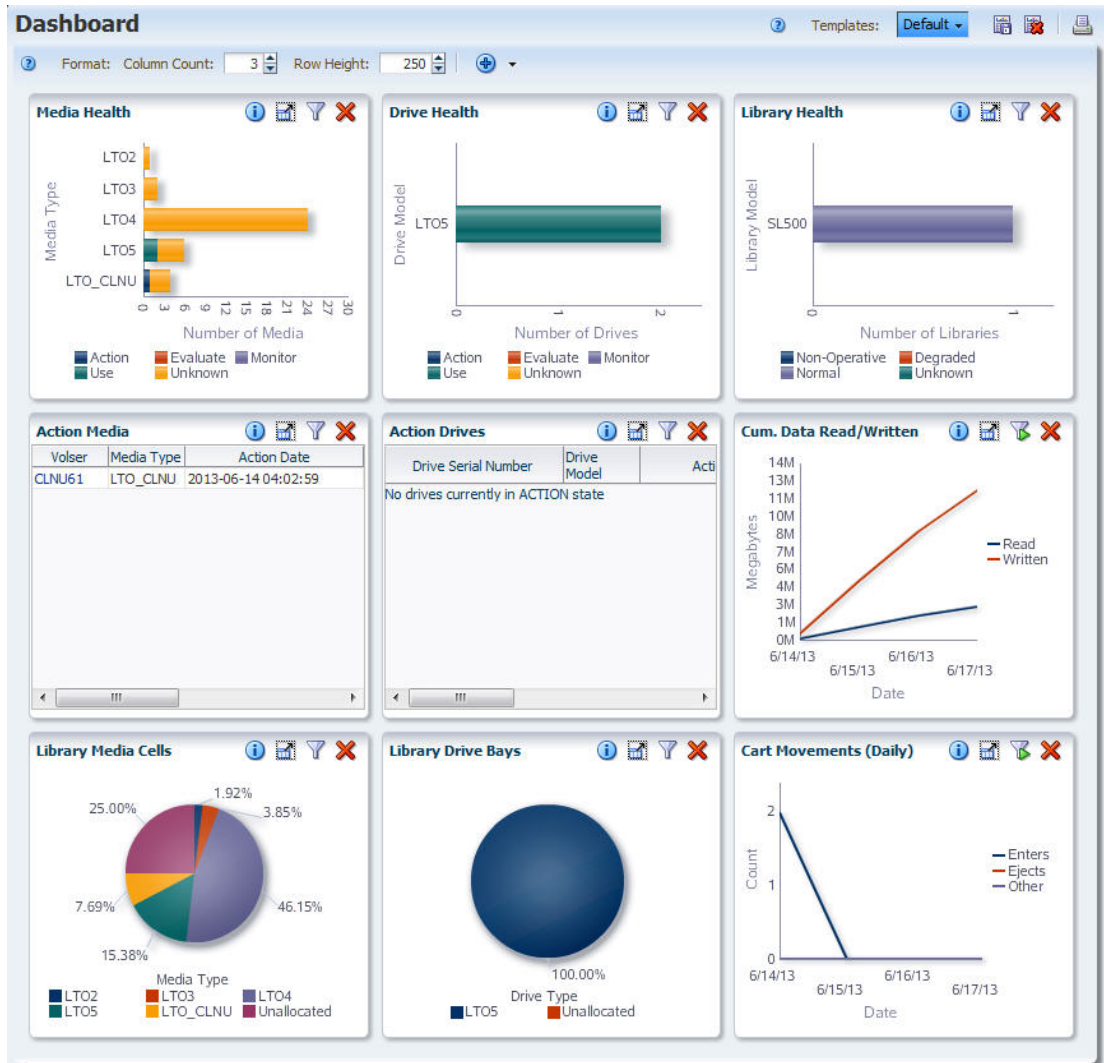
「Dashboard」は、ログイン時に表示される最初の画面です。これは、それぞれがテーブルライブラリシステムの異なるビューを表示する複数のポートレットで構成されます。

この章の内容は次のとおりです。

- [「Dashboard」の使用](#)
- [「Dashboard」のレイアウト](#)
- [ポートレットタイプ](#)
- [モバイルの「Dashboard」の表示](#)
- [「Dashboard」のタスク](#)

### 2.1. 「Dashboard」の使用

次に、STA に付属のデフォルトの「Dashboard」の例を示します。STA ユーザー名のデフォルトとして別の「Dashboard」テンプレートが割り当てられている場合、表示は異なることがあります。



### 2.1.1. 「Dashboard」のカスタマイズ

「Dashboard」は完全にカスタマイズ可能です。それぞれが、STA によって収集された異なる分析とサマリーデータのセットを表示する、50 を超えるさまざまなポートレットを表示できます。一度に最大 30 個のポートレットを含めることができます。使用可能なポートレットの説明については、「[ポートレットタイプ](#)」を参照してください。

ポートレットの再配置、そのサイズの変更、各ポートレットに表示されるデータのフィルタを行うことができます。手順については、「[「Dashboard」のタスク](#)」を参照してください。



## 2.1.2. 「Dashboard」 テンプレート

オペレータ権限または管理者権限を持っている場合、「Dashboard」を好みの方法で配置したあとで、表示をカスタマイズ済みの「Dashboard」テンプレートとして保存できます。ポートレットの順序とサイズ、および適用されているフィルタが、テンプレートの一部として保存されます。

「Dashboard」テンプレートは、エグゼクティブレポートの基礎です。詳細は、[6章「エグゼクティブレポート」](#)を参照してください。

---

### 注:

複雑な「Dashboard」の配置が画面にロードされるまでにはしばらく時間がかかる場合があります。「Dashboard」ポートレットにフィルタを適用すると、画面のロード時間も影響を受ける可能性があります。ロード時間が長い場合、複雑な「Dashboard」を複数の小さい「Dashboards」に分割してもかまいません。

---

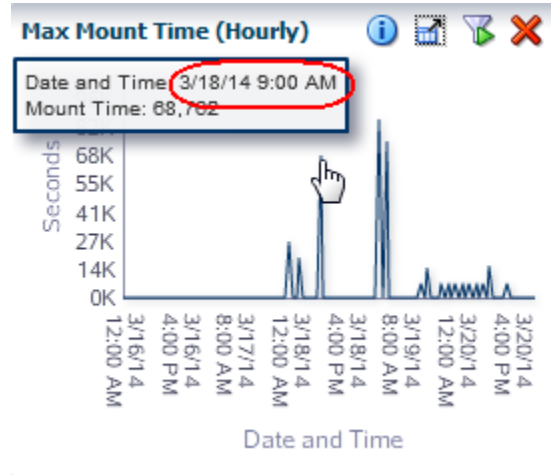
### 2.1.2.1. デフォルトの「Dashboard」

デフォルトの「Dashboard」ビューは、ユーザーの役割ではなく STA ユーザー名によって決まります。STA ユーザー名ごとに異なるデフォルトの「Dashboard」テンプレートが存在することがあります。

## 2.1.3. 「Dashboard」に表示される時間

「Dashboard」では、テーブルライブラリシステム全体の大まかなサマリーが報告されるため、すべてのデータが UTC 時間で報告されます。これに対して、その他すべての STA 画面では、ローカルタイムゾーンに合わせて調整された時間が報告されます (STA ユーザー名のタイムゾーン設定で指定されます。詳細は、『[STA ユーザーズガイド](#)』を参照してください)。

次のサンプルの「Maximum Mount Time (Hourly)」グラフでは、選択したマウントは「3/18/14 9:00 AM」の日付と時間を示しています。ただし、このマウントを「Exchanges Overview」画面で表示した場合、日付と時間はタイムゾーン設定に調整されます。たとえば、設定が UTC-5 である場合、選択したマウントは、「Exchanges Overview」画面では「3/18/14 4:00 AM」の日付と時間を示します。

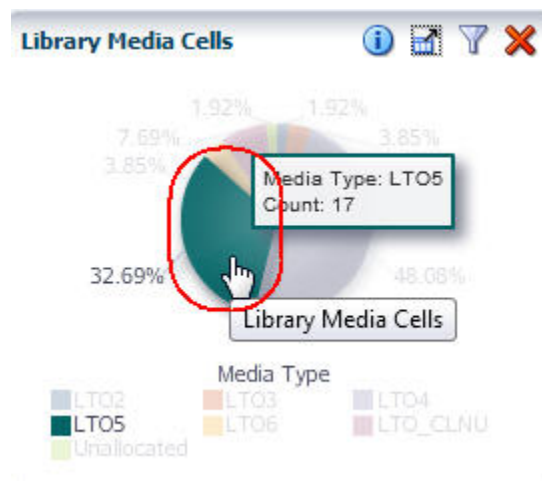


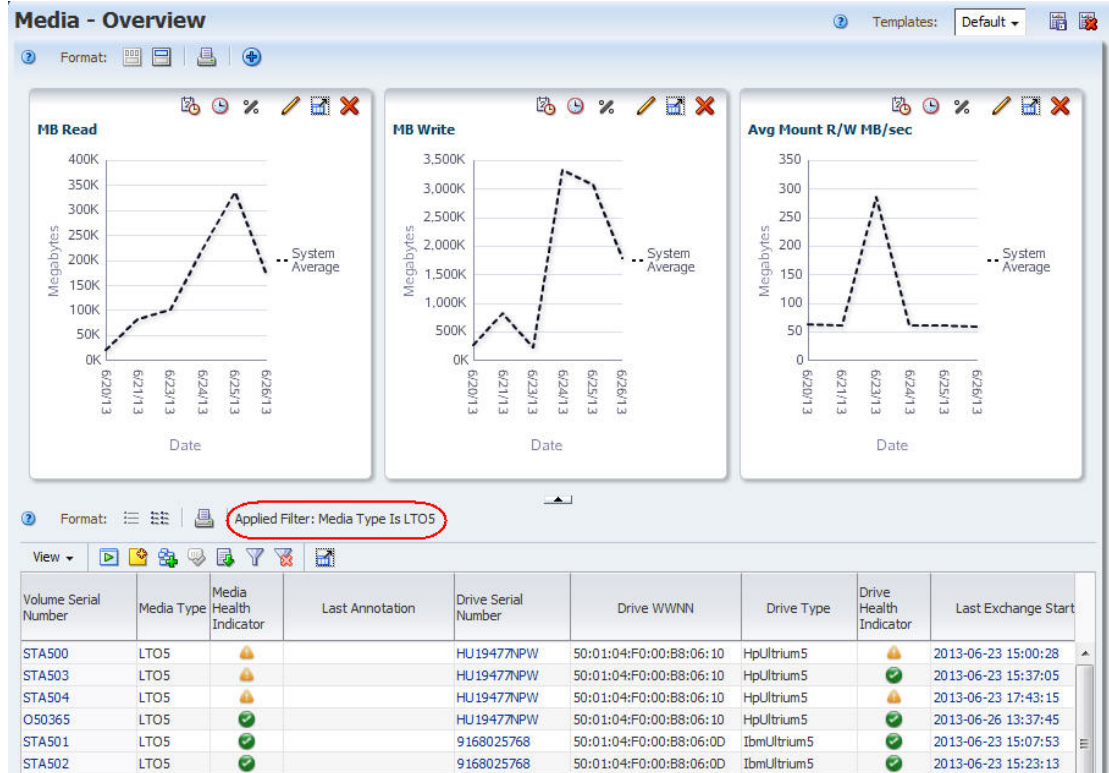
## 2.1.4. 詳細画面へのリンク

一部の「Dashboard」ポートレットには、その他の STA 画面へのリンクが表示され、選択したリソースに関する詳細にドリルダウンできます。詳細は、「[ダッシュボードグラフィックスを使用したフィルタリング](#)」と「[ダッシュボードからのフィルタの適用](#)」を参照してください。

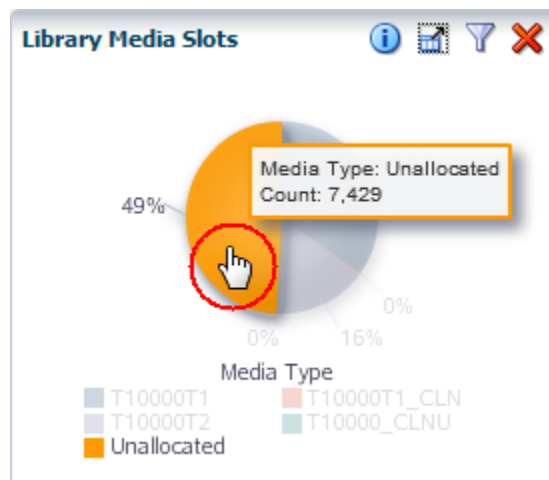
### 2.1.4.1. グラフのリンク

棒グラフ、円グラフ、および面グラフは、画面表示にフィルタが適用された、選択したリソースの「List View」を表示します。次の画面には、円グラフセクションをクリックすると、選択したメディアタイプのみを表示するようにフィルタされた「Media – Overview」画面のリストビューがどのようにして表示されるかを示しています。





一部のグラフセクションでは、関連付けられた「Overview」画面情報が表示されないことがあります。たとえば、次の「Library Media Slots」ポートレットには、「Unallocated」カテゴリについて使用可能なメディアの詳細はなく、これは空であるかアクティブ化されていないメディア スロットを表しています。そのため、円のこのセクションをクリックしても効果はありません。



## 2.1.4.2. テキストリンク

一部の表ポートレットには、選択したリソースの詳細ビューが表示されるテキストリンクが含まれています。次の画面は、「Dashboard」ポートレット上のドライブのシリアル番号リンクによって、選択したドライブの「Drives - Overview」画面の詳細ビューが表示される方法を示しています。テキストリンクの詳細については、『STA 画面基本ガイド』を参照してください。

The screenshot displays the 'Drives - Overview' dashboard. At the top, a table titled 'Drives Requiring the Most Cleaning per MB' lists two drives:

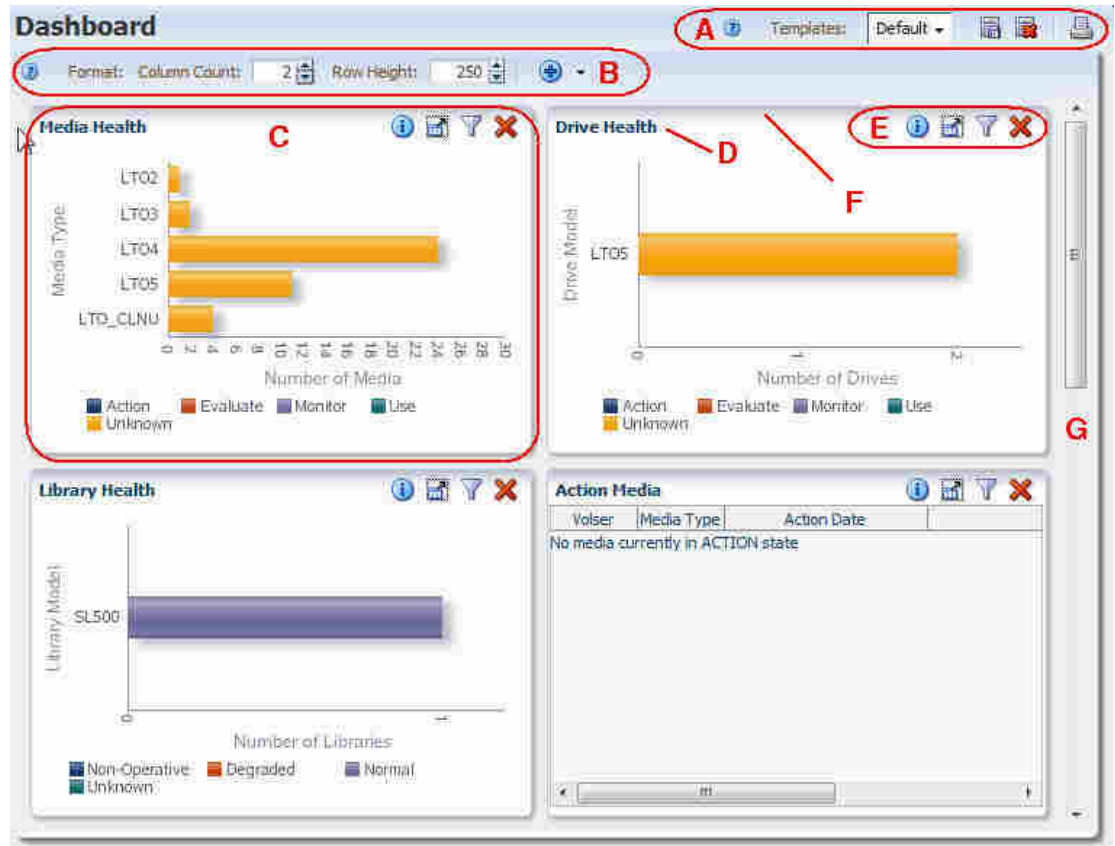
Drive Serial Number	Drive Model
HU19477NPW	LTO5
<a href="#">9168025768</a>	LTO5

The serial number '9168025768' is circled in red, and a tooltip 'Drive Serial Number' is shown below it. Below the table are three performance graphs: 'MB Read', 'MB Write', and 'Mount R/W MB/sec'. Each graph compares the 'System Average' (dashed line) with the 'Drive 9168025768' (solid line) over time. The 'Details for Drive 9168025768' section at the bottom provides comprehensive information:

- Drive:**
  - Drive Serial Number: 9168025768
  - Drive Tray Serial Number: Tray 0
  - Drive WWNN: 50:01:04:F0:00:B8:06:0D
  - Drive Type: IbmUltrium5
  - Drive Health Indicator: USE
  - Last Drive Notification: UNKNOWN
  - Drive WWPN (Port A): 50:01:04:F0:00:B8:06:0E
  - Drive WWPN (Port B): 50:01:04:F0:00:B8:06:0F
  - Drive Model: LTO5
  - Drive Manufacturer: IBM
  - Encryption Capable: Yes
  - Drive Interface: FIBRE
  - Drive Properties Updated: 2013-06-20 13:04:39
  - Drive Firmware Version: C7R8
  - STA Start Tracking: 2013-06-20 13:04:39
  - STA Stop Tracking:
- Media:**
  - Volume Serial Number (VSN): T3B095
  - Media Manufacturer Serial Number: 0758102312
  - Media Health Indicator: USE
  - WORM/VolSafe Media: No
  - Cleaning Media: No
- Most Recent Exchange:**
  - Exchange Start: 2013-06-26 13:49:09
  - Exchange Elapsed Time: 0:01:39
  - Exchange Mount Time: 0:01:12
  - Mount R/W MB/sec: 14.23
  - Exchange Recording Technique: LTO4
  - Drive Exchange Status: GOOD
  - Data Compression Ratio: 1:1
  - Alert: Drive Load Limit: No
  - Exchange Drive Suspicion: 0.00%
  - Exchange Drive Cleaning: No

## 2.2. 「Dashboard」のレイアウト

「Dashboard」は、列と行に配置された同じサイズのポートレットに分かれています。1列から5列、および任意の数の行が存在することがあります。行の高さには 100 - 600 ピクセルを指定できます。



項目	名前	説明
A	「Template」ツールバー	テンプレートを適用および管理するためのコマンドに直接アクセスできます。このツールバーは、ほとんどの STA 画面に表示されます。詳細は、「 <a href="#">テンプレートツールバー</a> 」を参照してください。
B	「Dashboard」ツールバー	「Dashboard」の表示を管理するためのコマンドに直接アクセスできます。各アイコンの説明については、「 <a href="#">「Dashboard」ツールバー</a> 」を参照してください。
C	「Dashboard」ポートレット	「Dashboard」ポートレットは、列と行に配置されています。各ポートレットには、テープライブラリシステムのさまざまな概要ビューが表示されます。詳細は、 <a href="#">付録 A「ダッシュボードポートレット」</a> を参照してください。
D	「Dashboard」ポートレットのタイトル	ポートレット内のデータのタイプを識別します。詳細は、 <a href="#">付録 A「ダッシュボードポートレット」</a> を参照してください。
E	「Dashboard」ポートレットツールバー	この「Dashboard」ポートレットの表示を操作するためのコマンドに直接アクセスできます。詳細は、「 <a href="#">「Dashboard」ポートレットツールバー</a> 」を参照してください。

項目	名前	説明
F	「Dashboard」ポートレット	「Dashboard」ポートレットの上部にある陰付きの領域。ポートレットをグラフして移動の枠線
G	垂直スクロールバー	画面の下部に追加の行がある場合にのみ表示されます。

### 2.2.1. 「Dashboard」 ツールバー

「Dashboard」ツールバーは、「Dashboard」の上部に表示されます。「Dashboard」の全体的な表示を制御するために頻繁に使用されるコマンドに直接アクセスできます。





アイコン	名前	説明
	「Help」	「Dashboard」のヘルプを表示します。  関連トピック: <a href="#">「ヘルプ」</a>
	「Column Count」	「Dashboard」の表示内の列数が表示され、列数を変更できます。  関連トピック: <a href="#">「Dashboard」の列と行のレイアウトの変更」</a>
	「Row Height」	各「Dashboard」の行の高さが表示され、高さを変更できます。  関連トピック: <a href="#">「Dashboard」の列と行のレイアウトの変更」</a>
	「Add Portlet」メニュー	メニューは、選択したグラフ、表、またはレポートポートレットを「Dashboard」の表示に追加できるオプションを提供します。  関連トピック: <a href="#">「Dashboard」ポートレットの追加」</a>

### 2.2.2. 「Dashboard」 ポートレットツールバー

「Dashboard」ポートレットツールバーは、各「Dashboard」ポートレットの上部に表示されます。ポートレットを変更するために頻繁に使用されるコマンドに直接アクセスできます。



アイコン	名前	説明
	「Panel Information」	ポートレットの説明が表示され、エグゼクティブレポートに表示される注釈を追加できます。  関連タスク <a href="#">「Dashboard」ポートレットの注釈の追加または変更」</a>
	「Detach Pane」	ポートレットを画面から切り離して、ブラウザ前景の別のウィンドウで表示します。

アイコン	名前	説明
	「Filter Data」	<p>関連トピック: 『STA 画面基本ガイド』</p> <p>フィルタ条件を定義、変更、またはリセットして、ポートレットに適用できるダイアログボックスが表示されます。最初のアイコンは、有効なフィルタがないことを示し、2 番目のアイコンは、フィルタが適用されていることを示します。</p> <p>関連トピック: 「<a href="#">「Dashboard」ポートレットフィルタの適用または変更</a>」と「<a href="#">「Dashboard」ポートレットフィルタのクリア</a>」</p>
	「Remove Pane」	<p>「Dashboard」の表示からポートレットを削除します。</p> <p>関連トピック: 『STA 画面基本ガイド』</p>

## 2.3. ポートレットタイプ

次のポートレットタイプを使用できます。

- 「[グラフポートレット](#)」
- 「[表ポートレット](#)」
- 「[レポートポートレット](#)」

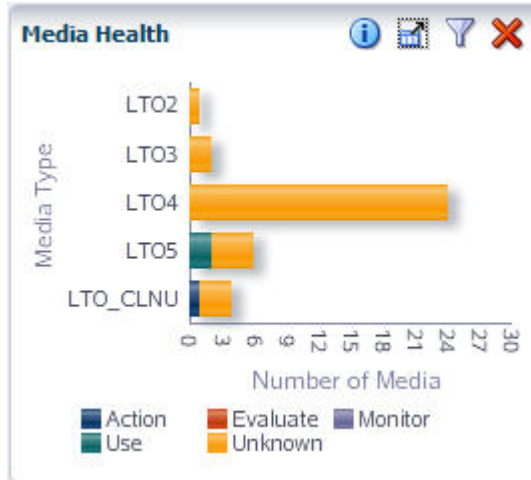
使用可能なポートレットの説明については、[付録A「ダッシュボードポートレット」](#)を参照してください。

### 2.3.1. グラフポートレット

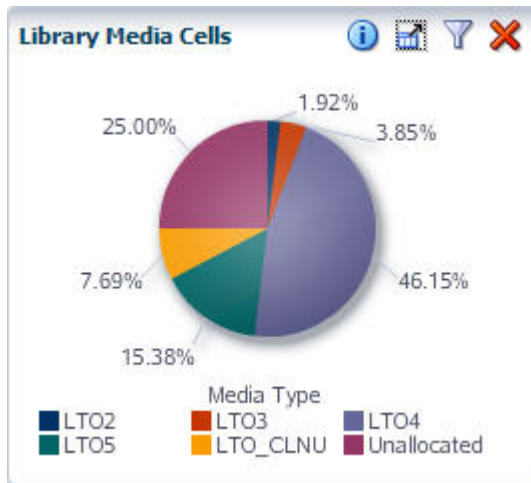
次のタイプのグラフポートレットを使用できます。個々のポートレットの説明については、「[グラフポートレット](#)」を参照してください。さまざまなグラフタイプの表示および使用の詳細については、『STA 画面基本ガイド』を参照してください。

- 棒グラフ — 特定時点のデータに使用されます。





- 円グラフ — 特定時点のデータに使用されます。

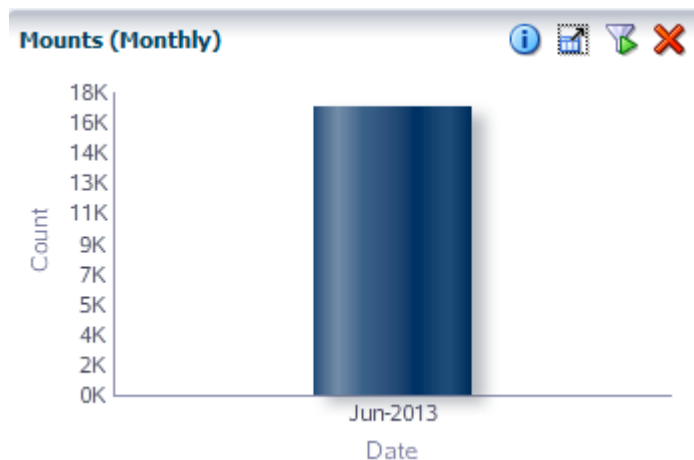


- 折れ線グラフ — 日付および時間範囲のデータに使用されます。





単一の月のデータのみが存在する月次グラフのような単一点のデータのみが存在する折れ線グラフでは、代わりに棒グラフが表示されます。次に例を示します。



### 2.3.2. 表ポートレット

次のタイプの表ポートレットを使用できます。個々のポートレットの説明については、「[表ポートレット](#)」を参照してください。

- リスト表 — 従来のリスト表でデータが表示されます。

Volser	Media Type	Action Date
CLNU61	LTO_CLNU	2013-06-24 06:22:24

- 傾向レポート — 範囲全体における開始値、終了値、高値、低値を示す組み込みのスパークチャートが含まれています。スパークチャートの詳細については、『[STA 画面基本ガイド](#)』を参照してください。

Type	Start Value	Trend Data	End Value	High Value	Low
Read	19,180		100,529	339,143	
Written	416,804		1,902,336	6,674,756	
Read and Written	435,983		2,002,865	6,895,080	

### 2.3.3. レポートポートレット

レポートポートレットは、最新情報を示すテキストのみのウィンドウです。個々のポートレットの説明については、「[レポートポートレット](#)」を参照してください。



## 2.4. モバイルの「Dashboard」の表示

STA は、モバイルデバイスでの「Dashboard」の表示をサポートします。STA ユーザー名で使用可能な「Dashboard」テンプレートを表示できます。ただし、ユーザーの役割に関係なく、モバイル表示は読み取り専用です。「Dashboard」からほかの画面にリンクしたり、ポートレットを再配置したり、テンプレートを保存したりすることはできません。そのため、モバイルデバイスからアクセスする「Dashboard」テンプレートは、デスクトップの STA 接続を介して最初に作成する必要があります。

「Dashboard」の表示は、モバイルデバイス用に自動的に最適化されます。たとえば、3 列のテンプレートは、携帯電話では 1 列で表示されても、タブレットでは 2 列で表示されることがあります。デバイスの回転もサポートされます。サンプルの「Dashboard」の表示については、[図 2.1「タブレットでのサンプルのモバイルの「Dashboard」の表示」](#)と[図 2.2「携帯電話でのサンプルのモバイルの「Dashboard」の表示」](#)を参照してください。

図2.1 タブレットでのサンプルのモバイルの「Dashboard」の表示

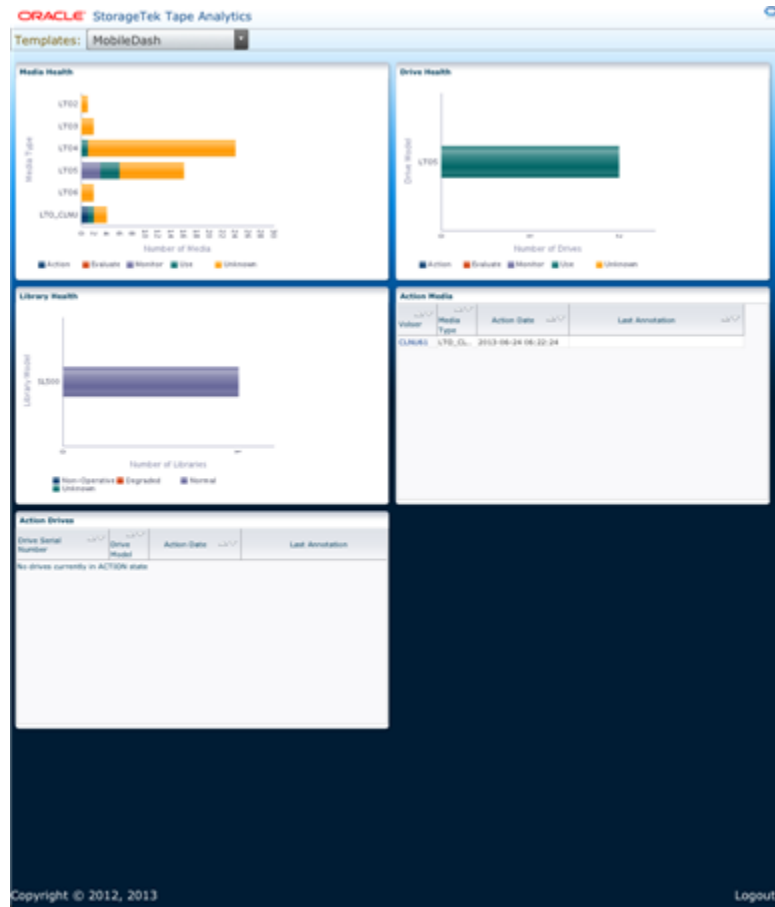


図2.2 携帯電話でのサンプルのモバイルの「Dashboard」の表示



### 2.4.1. モバイル表示の要件

次の表に、モバイル表示でのデバイスのオペレーティングシステム要件を一覧表示します。さらに、すべてのデバイスが、デバイスのオペレーティングシステムに付属のデフォルトのブラウザバージョンを実行している必要があります。

デバイスタイプ	オペレーティングシステム
Apple iPhone および iPad	iOS 5.0 以上 <ul style="list-style-type: none"><li>• iPhone 4S は iOS 5.0 を実行します</li><li>• iPhone 5 は iOS 6.0 を実行します</li><li>• iPad3 は iOS 5.1.1 をサポートします</li><li>• iPads 4 と 5 は iOS 6.13 をサポートします</li></ul>
Google Android	Android 2.3 以上 <ul style="list-style-type: none"><li>• Samsung および Amazon のタブレットは Android バージョン 4.0 を実行します</li><li>• Google タブレットは Android バージョン 4.1 を実行します</li></ul>
Blackberry	Blackberry 7 OS 以上
Windows タブレット	最新バージョン

### 2.4.2. モバイルデバイスからの STA へのアクセス

モバイルデバイスは、STA が実行されているネットワークにアクセスできる必要があります。

- ネットワークが公にアクセス可能な場合、単にモバイルデバイスでブラウザウィンドウを開き、STA アプリケーションの URL を入力してから、STA ユーザー名とパスワードでログインします。手順については、「[STA へのログイン](#)」を参照してください。
- ネットワークがファイアウォールまたは仮想プライベートネットワーク (VPN) で保護されている場合、アクセス手順についてシステム管理者に連絡してください。

## 2.5. 「Dashboard」のタスク

これらの手順を使用すると、「Dashboard」の外観と配置を変更できます。オペレータ権限または管理者権限を持っている場合、「Dashboard」の表示を変更したあとで、配置を「Dashboard」テンプレートとして保存できます。

- 「[「Dashboard」の列と行のレイアウトの変更](#)」
- 「[「Dashboard」ポートレットの追加](#)」

- 「「Dashboard」ポートレットの注釈の追加または変更」
- 「「Dashboard」ポートレットフィルタの適用または変更」
- 「「Dashboard」ポートレットフィルタのクリア」
- 「モバイルデバイスでの「Dashboard」の表示」

また、「Dashboard」で次の手順を実行でき、手順はほかの STA 表示領域と同じです。

- 「Dashboard」ポートレットを切り離します。『STA 画面基本ガイド』を参照してください
- 「Dashboard」ポートレットを削除します。『STA 画面基本ガイド』を参照してください。
- 現在の「Dashboard」の表示を新規または変更されたテンプレートとして保存します (オペレータユーザーと管理者ユーザーのみ)。詳細な手順については、「[テンプレートの作成](#)」または「[テンプレートの変更](#)」を参照してください。

### 2.5.1. 「Dashboard」の列と行のレイアウトの変更

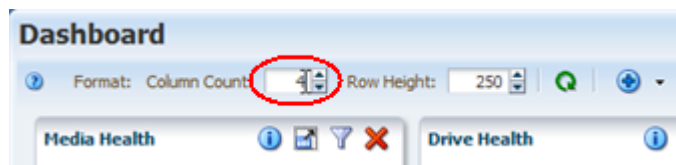
列の数と行の高さを変更することで、個々の「Dashboard」ポートレットのサイズを変更できます。

1. ナビゲーションバーで、「**Home**」を選択して、「**Dashboard**」を選択します。

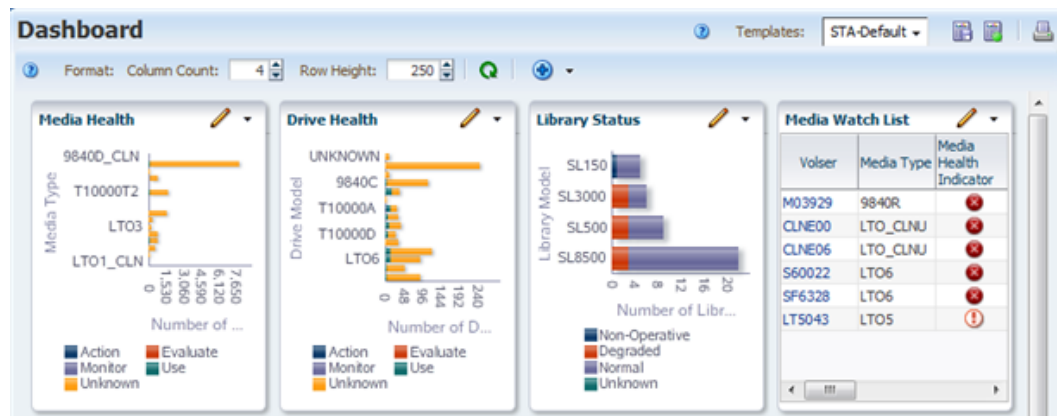


STA ユーザー名のデフォルトの「Dashboard」が表示されます。

2. ポートレットの列の数を変更して、各ポートレットの幅も変更するには、「Dashboard」のツールバーの「**Column Count**」フィールドに数値を入力します。スピンボックスコントロール矢印を使用して、フィールド値を変更することもできます。有効な入力値は 1 - 5 です。



**Enter** キーを押すか、カーソルを画面の別の領域に移動するとすぐに変更が有効になります。

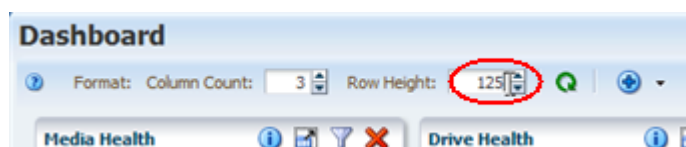


注:

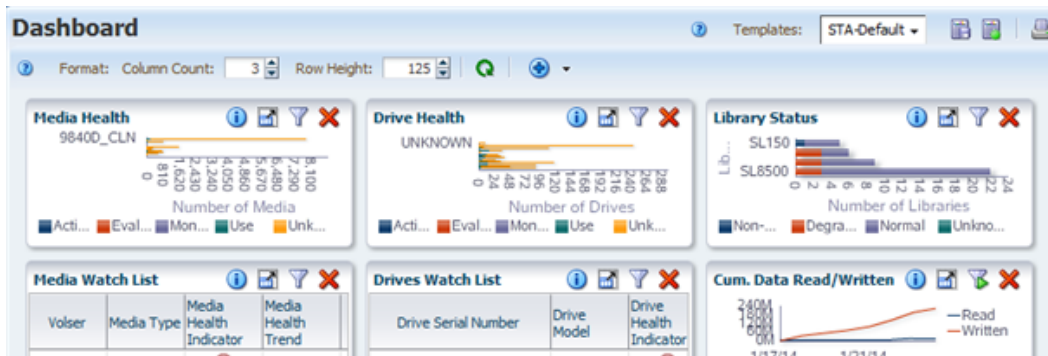
列の数を増やす場合、領域の不足が原因で「Dashboard」ポートレットツールバーが切り捨てられることがあります。非表示になったアイコンは、ツールバーの右端にあるメニューから使用可能です。



- 各ポートレットの高さを変更するには、「Dashboard」ツールバーの「**Row Height**」フィールドに数値を入力します。スピンドボックスコントロール矢印を使用して、フィールド値を変更することもできます。有効な入力値は 100 - 600 です。



**Enter** キーを押すか、カーソルを画面の別の領域に移動するとすぐに変更が有効になります。



## 2.5.2. 「Dashboard」ポートレットの追加

ポートレットを「Dashboard」の表示に追加するには、この手順を使用します。最大 30 個のポートレットを含めることができます。

同じタイプのポートレットの複数のインスタンスを追加でき、異なるデータにフォーカスを移動できるように各インスタンスを異なる方法でフィルタできます。たとえば、大きいライブラリ (SL3000 と SL8500) 用に 1 つ、小さいライブラリ (SL150 と SL500) 用に 1 つの 2 つの別個の「Media Health」ポートレットを追加してもかまいません。

注:

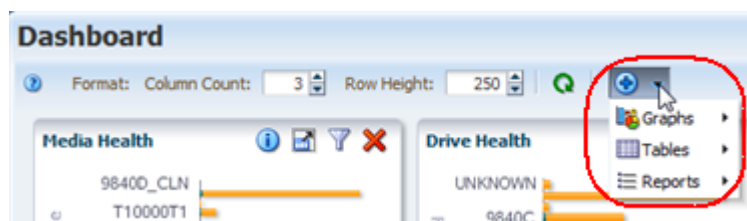
多数の「Dashboard」ポートレットを追加すると、ポートレットの凡例が切り捨てられたり、まったく表示されなかったりすることがあります。これが発生した場合、一部のポートレットを削除して、凡例を復元してもかまいません。

1. ナビゲーションバーで、「Home」を選択して、「Dashboard」を選択します。



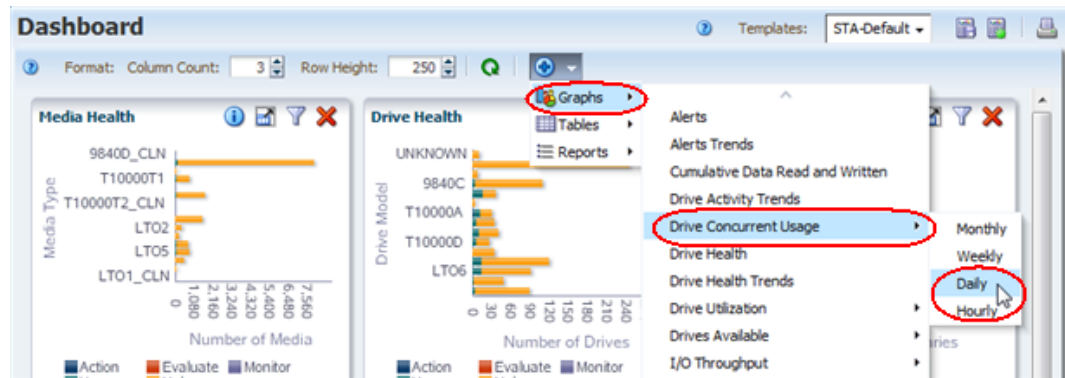
STA ユーザー名のデフォルトの「Dashboard」が表示されます。

2. 「Dashboard」ツールバーで、「Add Portlet」メニューを選択します。

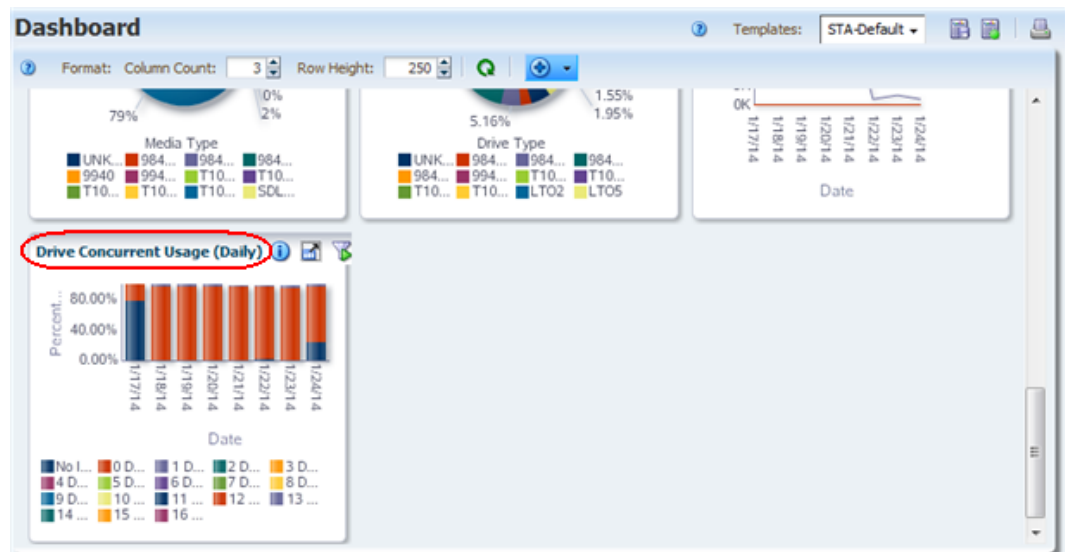


ポートレットのタイプ用のサブメニュー（「Graphs」、「Tables」、および「Reports」）が表示されます。

- 適切なポートレットサブメニューから、追加する特定のポートレットを選択します。時間に関連するポートレットには、「Monthly」、「Weekly」、「Daily」、または「Hourly」の時間の増分のオプションが表示されます。



ポートレットが「Dashboard」の表示の最後に追加されます。表示するには、垂直スクロールバーを使用する必要があることがあります。ポートレットを新しい位置に移動するには、『STA 画面基本ガイド』を参照してください。



### 2.5.3. 「Dashboard」ポートレットの注釈の追加または変更

現在のポートレットのユーザー定義のテキスト注釈を追加または変更するには、この手順を使用します。注釈は、エグゼクティブレポートに表示され、表示される情報の明確化や特定のデータへの注目など、さまざまな目的で使用できます。



**注:**

入力するテキストは、現在の「Dashboard」テンプレートに固有です。たとえば、「Drive Health」ポートレットはいくつかの「Dashboard」テンプレートに表示され、「Drive Health」ポートレットの各インスタンスには異なる注釈が関連付けられています。

**注:**

注釈テキストは STA ユーザー名に固有です。たとえば、あるユーザーが「Drive Health」ポートレットで入力した注釈は、別の STA ユーザー名を使用してログインしたユーザーには表示されません。

注釈の長さの最大は 1,000 ASCII 文字です。太字や色などの書式オプションはありません。また、強制的な改行などの余白オプションは、エグゼクティブレポートでは保存されません。

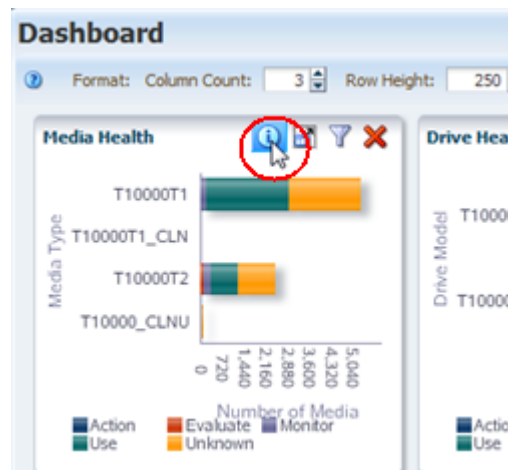
注釈をエグゼクティブレポートに表示するには、現在の「Dashboard」ビューをテンプレートとして保存する必要があります。さらに、ポートレット注釈を変更する場合、更新した注釈をエグゼクティブレポートに表示するために、そのポートレットを使用する既存の「Dashboard」テンプレートを再度保存する必要があります。詳細な手順については、「[テンプレートの作成](#)」と「[テンプレートの変更](#)」を参照してください。

1. ナビゲーションバーで、「**Home**」を選択して、「**Dashboard**」を選択します。



STA ユーザー名のデフォルトの「Dashboard」が表示されます。

2. 注釈を付ける「Dashboard」ポートレットのポートレットツールバーで「**Panel Information**」をクリックします。

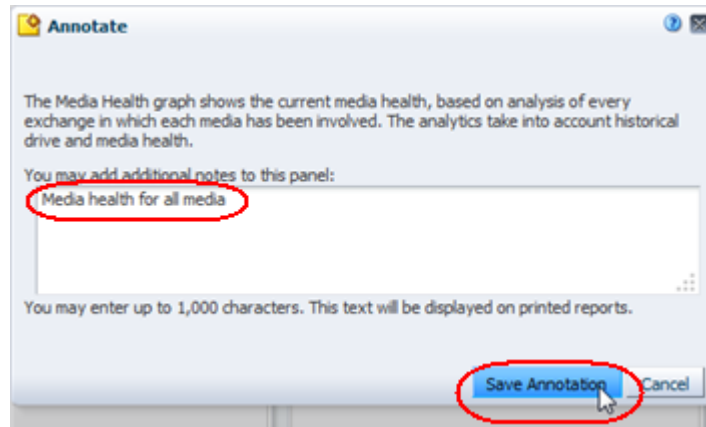


「Annotate」ダイアログボックスが表示されます。

3. ポートレットのこのインスタンスに表示する注釈テキストを入力して、「**Save Annotation**」をクリックして情報を保存します。注釈の長さの最大は 1,000 文字です。

注:

テキストをより適切に表示するには、テキスト領域の右下隅をグラブして広げることで、ダイアログボックスのサイズを変更できます。



保存後に、注釈は「Dashboard」ポートレット自体には表示されませんが、「**Panel Information**」を再度クリックすることで表示できます。この「Dashboard」の表示に基づいて注釈をエグゼクティブレポートに表示するには、表示を新しいテンプレートとして保存するか既存のテンプレートへの更新として保存する必要があります。

注意:

この注釈を今後のログインセッションのために保持するには、現在の表示をテンプレートとして保存するか既存のテンプレートへの更新として保存する必要があります。テンプレートを保存せずにこのセッションからログアウトした場合、今後のログインセッションとエグゼクティブレポートの実行では注釈は失われます。

#### 2.5.4. 「Dashboard」ポートレットフィルタの適用または変更

新しいフィルタを適用するか、既存のフィルタを変更することで、「Dashboard」ポートレットに表示されるデータを変更するには、この手順を使用します。

注:

「Dashboard」ポートレットからすべてのフィルタ条件を削除するには、「[「Dashboard」ポートレットフィルタのクリア](#)」を参照してください。

フィルタがポートレットに適用されている場合、「**Applied Filter**」アイコンが表示されます。一部のポートレットはデフォルトでフィルタされるため、このアイコンをすでに含んでいます。適用されているフィルタの説明を表示するには、アイコンの上にマウスを置きます。

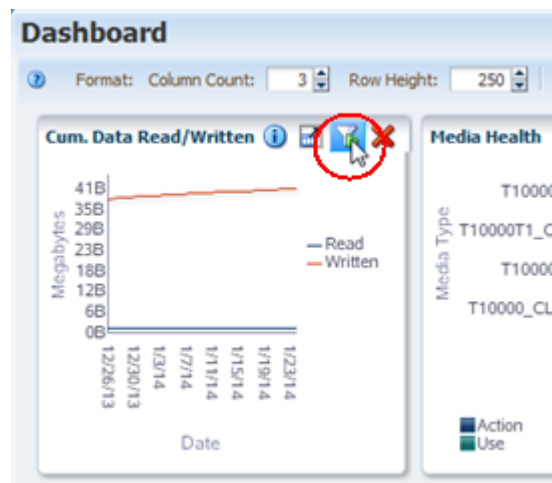
「Dashboard」ポートレットをフィルタするための条件は、ポートレットタイプによって異なります。たとえば、ほとんどの折れ線グラフをデータ範囲でフィルタできますが、円グラフではこれを行うことはできません。

1. ナビゲーションバーで、「**Home**」を選択して、「**Dashboard**」を選択します。

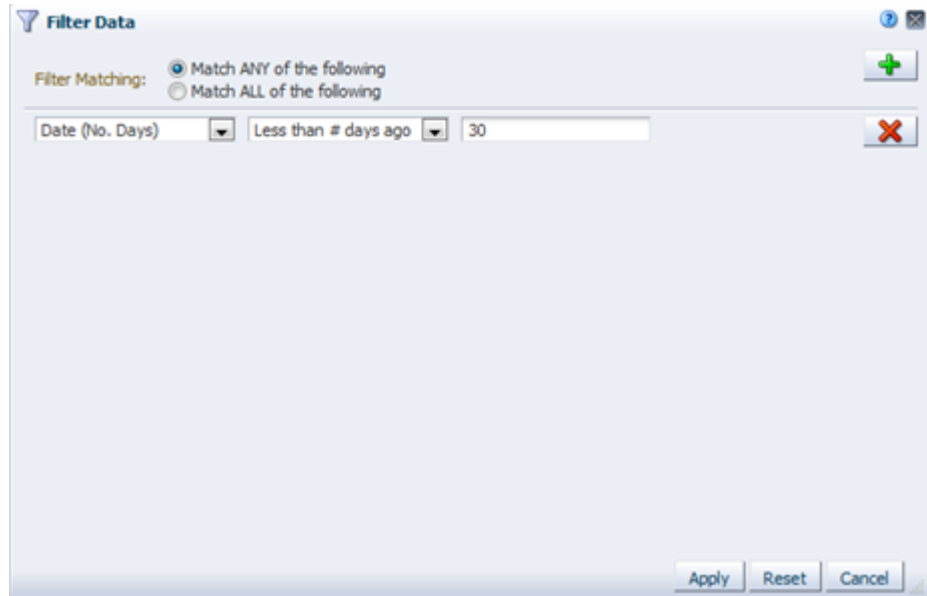


STA ユーザー名のデフォルトの「Dashboard」が表示されます。

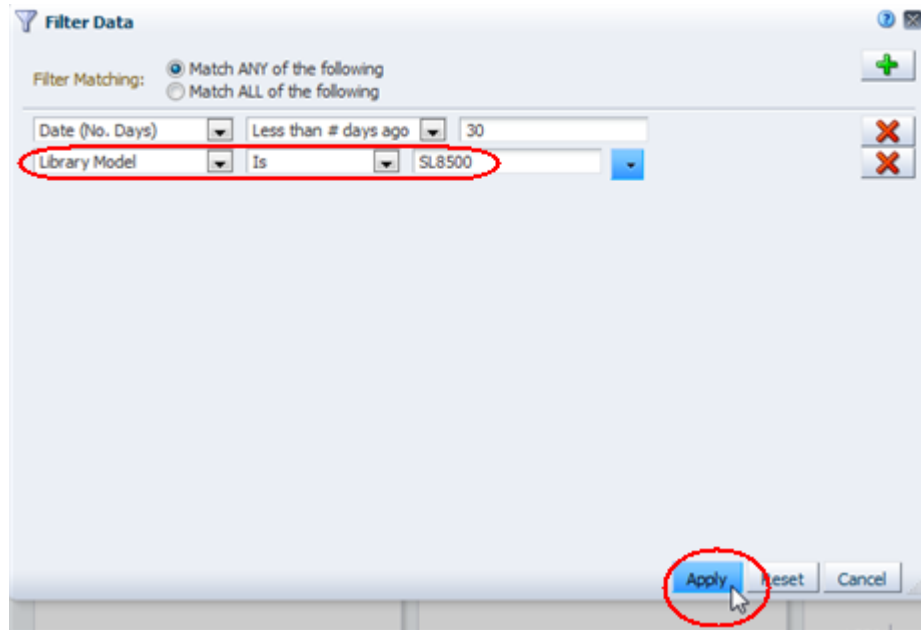
2. 変更するポートレットの「Dashboard」ポートレットツールバーで、「**Filter**」をクリックします。ポートレットにフィルタがすでに適用されている場合、「**Applied Filter**」をクリックします。



「Filter Data」ダイアログボックスが表示されます。フィルタが適用されていない場合、ダイアログボックスにはデフォルト設定が表示されます。フィルタがすでに有効になっている場合、条件がダイアログボックスに表示されます。

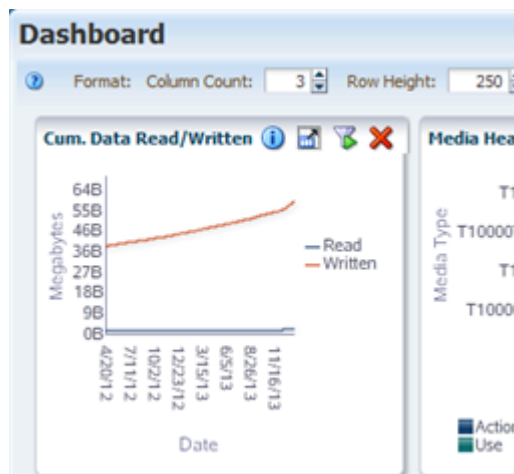


3. 次のようにダイアログボックスでフィルタ条件を指定します。
  - a. 「**Filter Matching**」フィールドで、指定した任意の条件と一致するか、すべての条件と一致するかを示すいずれかのオプションを選択します。詳細は、「[「Filter Data」ダイアログボックス](#)」を参照してください。
  - b. 必要な数のポートレット属性のフィルタ条件を指定します。さらに条件を追加するには、「**Add new filter criteria row**」をクリックします。
  - c. フィルタ条件を削除するには、「**Remove this filter criteria row**」をクリックします。
4. 指定が正しいことを確認して、「**Apply**」をクリックします。



次の更新が「Dashboard」ポートレットに行われます。

- ポートレットには、指定した条件と一致するレコードのみのサマリーまたは分析が表示されます。
- 「Dashboard」ポートレットツールバーには、「**Applied Filter**」アイコンが表示されます。



### 2.5.5. 「Dashboard」ポートレットフィルタのクリア

「Dashboard」ポートレットからすべてのフィルタ条件を削除するには、この手順を使用します。ほかの画面のグラフポートレットとは異なり、「Dashboard」ポートレットでは「**Reset Filter**」アイコンは使用できません。

注:

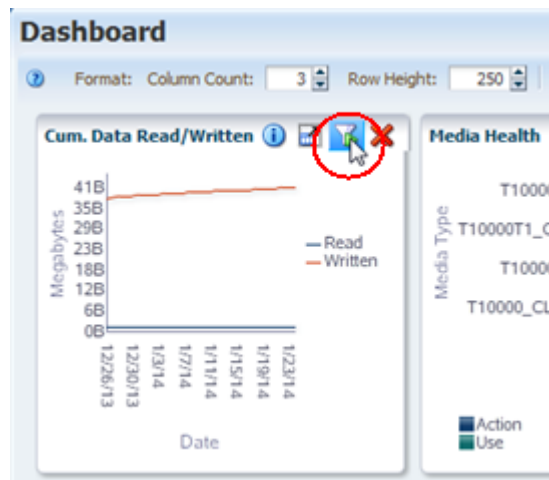
(すべてではなく) 選択したフィルタ条件を「Dashboard」ポートレットから削除するには、「[「Dashboard」ポートレットフィルタの適用または変更](#)」を参照してください。

1. ナビゲーションバーで、「**Home**」を選択して、「**Dashboard**」を選択します。



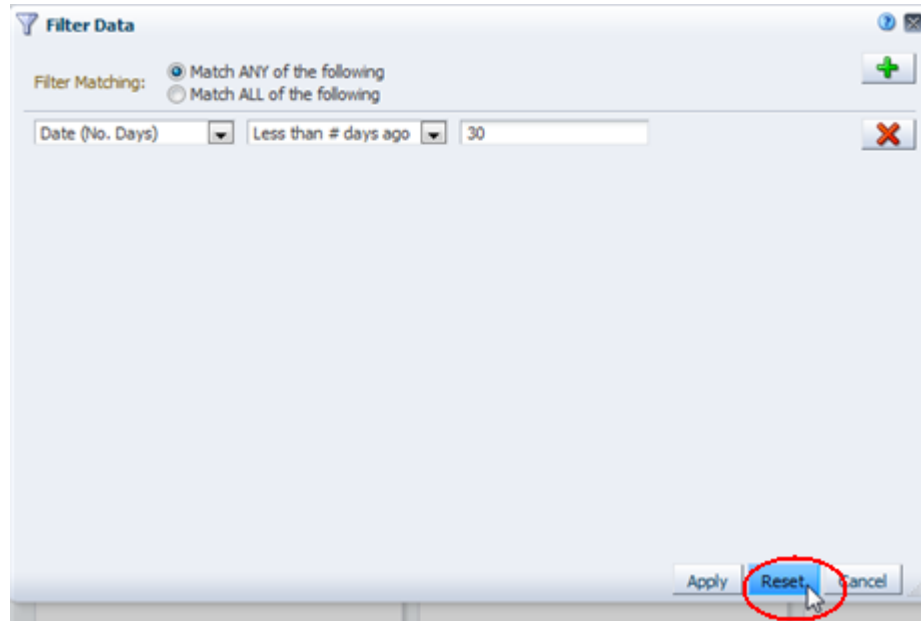
STA ユーザー名のデフォルトの「Dashboard」が表示されます。

2. 「Dashboard」ポートレットツールバーの「**Filter Data**」をクリックします。



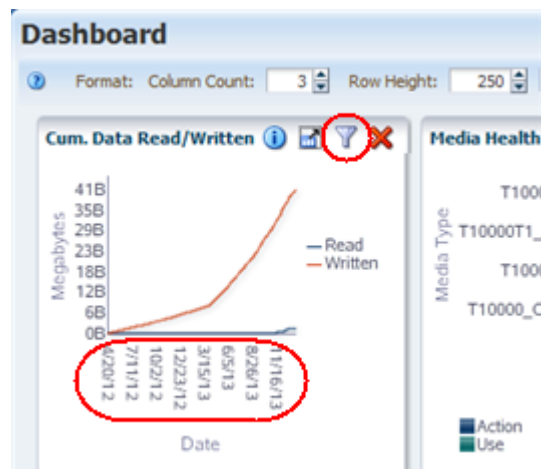
「Filter Data」ダイアログボックスが表示され、現在有効になっているすべての選択条件が示されます。

3. 「**Reset**」をクリックします。



次の更新が「Dashboard」ポートレットに行われます。

- すべてのフィルタ条件がポートレットから削除されるため、使用可能なすべてのレコードが表示されます。
- 「Dashboard」ポートレットツールバーに「**Filter**」アイコンが表示されます。



## 2.5.6. モバイルデバイスでの「Dashboard」の表示

携帯電話やタブレットなどのモバイルデバイスで読み取り専用バージョンの「Dashboard」を表示するには、この手順を使用します。デバイスがサポートされていることを確認するには、「[モバイル表示の要件](#)」を参照してください。

注:

この手順を実行する前に、STA が実行されているネットワークへのアクセスを取得する必要があります。詳細は、「[モバイルデバイスからの STA へのアクセス](#)」を参照してください。

注:

この手順の例は、携帯電話の表示から取得されています。

1. モバイルデバイスのブラウザウィンドウを起動して、STA にログインします。詳細は、「[STA へのログイン](#)」を参照してください。

STA ユーザー名のデフォルトの「Dashboard」テンプレートが表示されます。



2. 表示を変更するには、表示するテンプレートを「**Templates**」メニューから選択します。





3. ログアウトするには、画面の下部にある「Logout」リンクをクリックします。



---

## テンプレート

テンプレートにより、変更された STA 画面表示が提供されますが、これは保存、再利用、およびほかのユーザーとの共有が可能です。この章では、テンプレートの作成、使用、管理の概念および詳細な手順について説明します。

この章の内容は次のとおりです。

- [テンプレートの使用](#)
- [テンプレートの定義と管理](#)
- [テンプレートツールバーと画面](#)
- [テンプレートの使用タスク](#)
- [テンプレート管理タスク](#)

### 3.1. テンプレートの使用

テンプレートは、Dashboard および「**Tape System Hardware**」と「**Tape System Activity**」タブのすべての画面で使用できます。これらは、「**Setup & Administration**」タブの画面では使用できません。

テンプレートは画面固有です。たとえば、「**Drives – Overview**」画面用のテンプレートはその画面にのみ適用可能であり、たとえば「**Drives – Analysis**」画面には適用できません。各画面にはデフォルトのテンプレートがあり、ログインセッションで最初にその画面に移動したときに自動的に適用されます。

別のテンプレートを画面に適用するには、テンプレートツールバーの「**Templates**」メニューから使用したいテンプレートを選択するだけです。画面を離れて、あとから戻ると、最後に使用したテンプレートが適用されたままになっています。

#### 3.1.1. テンプレートのデフォルト

どのログインセッションでも、最初に画面に移動したときには、デフォルトテンプレートを使って表示されます。各画面には独自のデフォルトがあり、それは指定可能です。各画面のデ

フォルトテンプレートはユーザー固有であるため、各 STA ユーザー名には独自のデフォルトセットが割り当てられています。各画面のデフォルトは 1 つだけです。

割り当てることができるのは、自分の現在の STA ユーザー名のデフォルトだけです。手順については、「[画面のデフォルトテンプレートを設定する](#)」および「[画面のデフォルトテンプレートをクリアする](#)」を参照してください。

STA で提供される定義済みテンプレートには、初期画面のデフォルトセットが含まれます。これらのすべてのテンプレートには「STA-Default」という名前が付けられており、各画面に 1 つ存在します。

### 3.1.2. 定義済みのテンプレート

STA は、ライブラリリソース (ライブラリ、ドライブ、メディアなど) およびイベント (交換、クリーニングアクティビティーなど) に関する頻繁に使用される情報を提供する、定義済みのテンプレートセットとともに提供されます。定義済みテンプレートを即座に識別するために、名前に「STA-」接頭辞が付けられています。

定義済みテンプレートは、すべてのユーザーが使用できますが、変更できるのはオペレータまたは管理者権限を持つユーザーだけです。定義済みテンプレートを直接変更することはできません。代わりに、新しいカスタムテンプレートに変更を保存する必要があります。ただし、使用しない定義済みテンプレートを削除して、あとで復元することはできます。

### 3.1.3. カスタムテンプレート

画面ごとに任意の数のカスタムテンプレートを作成できます。オペレータまたは管理者権限を持つユーザーだけが、カスタムテンプレートを作成または変更できます。

カスタムテンプレートは、グラフ化された属性を変更したり、リストビューテーブル内の列を並べ替えたり、フィルタ条件を適用したりして現在の画面を変更し、新しい表示をテンプレートとして保存することで作成できます。テンプレートの保存時に、それに名前を割り当てて可視性 (パブリックまたはプライベート) 設定を指定します。

---

注:

STA 定義済みテンプレートには常に、「STA-」接頭辞が付けられています。このため、Oracle では、カスタムテンプレートに名前を付ける際に、この接頭辞を使用しないことを推奨しています。

---

カスタムテンプレートは、保存するとすぐに現在および将来のログインセッションで使用できます。

### 3.1.4. テンプレート使用アクティビティのユーザー役割

テンプレートアクティビティには、すべてのユーザー役割で実行できるものと、管理者またはオペレータ権限を持つユーザーだけが実行できるものがあります。次の表に、各役割で実行可能なアクティビティのサマリーを示します。

注:

ユーザー役割に関係なく、現在の STA ユーザー名が所有しているすべてのパブリックテンプレートおよびプライベートテンプレートにアクセスできます。別の STA ユーザー名が所有するプライベートテンプレートを使用することはできません。

ユーザーの役割	テンプレートアクティビティ	画面またはツールバー
ビューア以上	テンプレートを現在の画面に適用します  現在のテンプレートを、STA ユーザー名の画面のデフォルトとして設定します	テンプレートツールバー
ビューア以上	STA ユーザー名で使用可能なすべてのテンプレートのリストを表示します  選択したテンプレートが適用された画面に移動します	「 <b>Home</b> 」を選択して、「 <b>Quick Links</b> 」を選択します。
オペレータ以上	STA ユーザー名で使用可能なすべてのテンプレートのリストを表示します  STA ユーザー名のデフォルト画面テンプレートを変更します	「 <b>Setup &amp; Administration</b> 」を選択して、「 <b>Template Management</b> 」を選択します。

## 3.2. テンプレートの定義と管理

テンプレートには、グラフやテーブルのレイアウトおよびフィルタ条件などのさまざまな画面表示特性が含まれます。テンプレートを画面に適用すると、テンプレートで定義された特性に合わせて画面表示が更新されます。

STA は、各画面のデフォルトテンプレート、およびすべての STA ユーザー名が使用可能な定義済みテンプレートのセットを提供します。また、自分のニーズに合わせて独自のカスタムテンプレートを作成したり、オプションでそれをほかのユーザーと共有したりできます。

STA テンプレートの動作は**固定的**であり、いったんテンプレートが画面に適用されると、明示的に別のテンプレートを適用しないかぎり、現在のログインセッションの続きで画面にアクセスするたびにそのテンプレートが引き続き表示されます。

### 3.2.1. テンプレート定義に含まれる画面特性

次の画面特性への切り替えは、テンプレート定義の一部として保存されます。

- 次を含むグラフ表示の詳細:
  - ワイドビュー対ナロービュー
  - グラフ化された属性
  - 割合表示対実際値表示
  - 日付範囲
  - グラフィック領域が表示されているか、折りたたまれているか (詳細については、『STA 画面基本ガイド』を参照)
- 次を含むテーブル表示の詳細:
  - 非表示列と表示列
  - 列の順序
  - 列の幅
- フィルタ条件

### 3.2.2. テンプレート定義に含まれない画面特性

次の画面特性への変更は、テンプレート定義の一部として保存されません。

- グラフに適用されるテーブルリソースの選択
- テーブルのソート条件
- 特定のデータ内容

### 3.2.3. テンプレートの所有権と可視性

使用可能なテンプレートの所有権および可視性は「Templates Management」画面に表示されますが、この画面はオペレータおよび管理者の権限を持つすべてのユーザーが使用できます。次に 2 つの概念について説明します。

#### 3.2.3.1. 所有権

テンプレートは、それを作成した STA ユーザー名により所有され、所有権を変更することはできません。STA の定義済みテンプレートでは、所有者は常に「STA」です。オペレータまたは管理者の権限を保持している場合は、デフォルトステータスを変更、名前変更、削除、および所有するいずれかのテンプレートに割り当てることができます。

#### 3.2.3.2. 可視性

テンプレートの可視性により、テンプレートを表示および使用可能なユーザーが決まります。テンプレートの可視性を変更できるのは、所有者だけです。可視性は、次に示すパブリックまたはプライベートのどちらかになります。

- パブリック – テンプレートは、すべての STA ユーザー名で使用できます。STA の定義済みテンプレートは常にパブリックです。オペレータまたは管理者の権限を保持している場合、パブリックの可視性を持つ任意のテンプレートを、たとえそれが別の STA ユーザー名の所有であっても使用、変更、および削除できます。
- プライベート – テンプレートを使用できるのは、それを所有している STA ユーザー名だけです。

---

注:

STA ユーザー名が削除されると、そのユーザーの所有するすべてのプライベートテンプレートは、削除を実行する管理者ユーザーの選択に応じて、自動的に削除されるかパブリックになります。詳細は、「[STA ユーザー名の削除](#)」を参照してください。

---

### 3.2.4. テンプレートの共有

STA のインポートおよびエクスポート機能を使用して、カスタムテンプレートをほかのユーザーと共有できます。たとえば、カスタムテンプレートを保存し、XML ファイルとしてローカルコンピュータにエクスポートしてから、別のユーザーに電子メールで XML ファイルを送信できます。その後、ほかのユーザーが STA ユーザー名で STA にログインし、XML ファイルをインポートして、そのテンプレートをすぐに使い始めることができます。

手順については、「[テンプレートのエクスポート](#)」および「[テンプレートのインポート](#)」を参照してください。これらのアクティビティには、オペレータまたは管理者の権限が必要です。

### 3.2.5. テンプレート管理アクティビティ用のユーザー役割

テンプレート管理アクティビティを実行できるのは、管理者またはオペレータの権限を持つユーザーだけです。次の表に、各役割で実行可能なアクティビティのサマリーを示します。

---

注:

現在の STA ユーザー名の所有するパブリックテンプレートとプライベートテンプレートを管理できます。別の STA ユーザー名が所有するプライベートテンプレートを管理することはできません。

---

ユーザーの役割	テンプレートアクティビティ	画面またはツールバー
オペレータ以上	テンプレートを作成する	テンプレートツールバー
	テンプレートの外観を変更する — カスタムテンプレートのみ	
	テンプレートを新しい名前で作成する — カスタムテンプレートのみ	

ユーザーの役割	テンプレートアクティビティー	画面またはツールバー
	テンプレートのパブリックまたはプライベート可視性設定を変更する — STA ユーザー名の所有するカスタムテンプレートのみ	
オペレータ以上	テンプレート名を変更する — カスタムテンプレートのみ  テンプレートのパブリックまたはプライベートの可視性設定を変更する — STA ユーザー名の所有するテンプレートのみ  テンプレートをエクスポートする — カスタムテンプレートのみ  テンプレートをインポートする  テンプレートを削除する  STA の定義済みテンプレートを復元する	「 <b>Setup &amp; Administration</b> 」を選択して、「 <b>Template Management</b> 」を選択します。

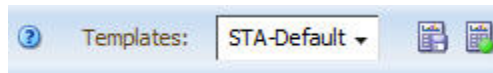
### 3.3. テンプレートツールバーと画面

このセクションでは、テンプレートを使用および管理可能な次のツールバーと画面について説明します。

- 「[テンプレートツールバー](#)」
- 「[テンプレートの「Quick Links」画面](#)」
- 「[「Templates Management」画面](#)」



#### 3.3.1. テンプレートツールバー

テンプレートを含む画面では、テンプレートツールバーがメインウィンドウ領域の上部に表示されます。これを使って頻繁に使用するコマンドに直接アクセスして、テンプレートを適用したり、管理したりできます。



アイコン	名前	説明
	「Help」	テンプレート機能のヘルプを表示します。  関連トピック: <a href="#">「ヘルプ」</a>
	「Templates」メニュー	メニューに、この画面で使用可能なすべてのテンプレートをリスト表示します。最初のエンタリは、常に「STA-Default」になります。このリストには、現在のユーザーが使用可能なすべての定義済みおよびカスタムテンプレートが含まれます。現在の画面に適用するテンプレートを選択します。



アイコン	名前	説明
	Save Template	<p>現在の画面構成を、新規テンプレートまたは既存のテンプレートへの変更 (所有者の場合) として保存できます。</p> <p>注: このアイコンが表示されるのは、オペレータおよび管理者のユーザーだけです。</p> <p>関連トピック: <a href="#">「テンプレートの作成」</a>と<a href="#">「テンプレートの変更」</a></p>
	Default Template	<p>現在のテンプレートを、現在の STA ユーザー名の画面のデフォルトとして設定できます。</p> <p>関連トピック: <a href="#">「画面のデフォルトテンプレートを設定する」</a></p>

### 3.3.2. テンプレートの「Quick Links」画面

「Quick Lists」画面には、STA ユーザー名で使用可能なテンプレートへのリンクが表示されます。次に示すのは、STA で提供されるデフォルトの「Quick Links」画面の例です。このリストは現在の STA ユーザー名に固有であるため、STA ユーザー名でほかのテンプレートを使用できる場合、表示が異なることがあります。

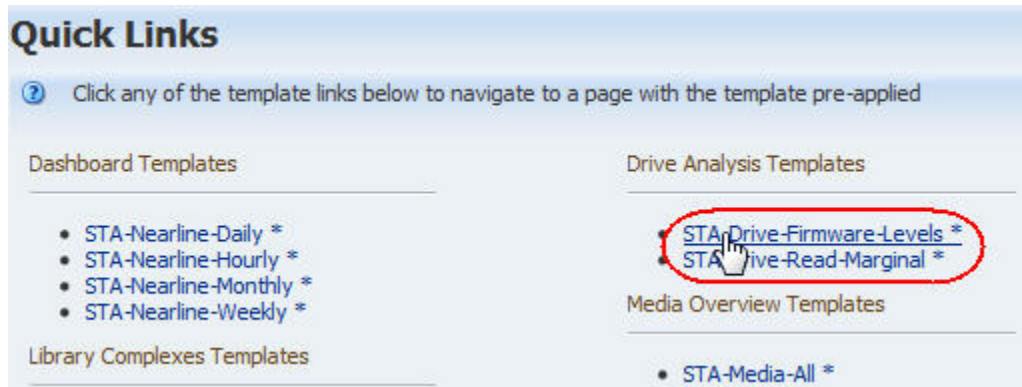
**Quick Links**

Click any of the template links below to navigate to a page with the template pre-applied

<p><b>Dashboard Templates</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">STA-Nearline-Daily *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Nearline-Hourly *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Nearline-Monthly *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Nearline-Weekly *</a></li> </ul> <p><b>Library Complexes Templates</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">STA-Complex-All *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Complex-Configuration *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Complex-Utilization *</a></li> </ul> <p><b>Libraries Overview Templates</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">STA-Lib-All *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Lib-Base-Information *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Lib-Configuration *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Lib-Health *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Lib-Utilization *</a></li> </ul> <p><b>Drive Overview Templates</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">STA-Drive-All *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Drive-Base-Information *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Drive-Enterprise-Performance *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Drive-Health *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Drive-Last-Exchange *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Drive-LTO-Performance *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Drive-LTO-Utilization *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Drive-Performance-30-Days *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Drive-Utilization *</a></li> </ul>	<p><b>Drive Analysis Templates</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">STA-Drive-Firmware-Levels *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Drive-Read-Marginal *</a></li> </ul> <p><b>Media Overview Templates</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">STA-Media-All *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Media-Base-Information *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Media-Cleaning *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Media-Expired *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Media-Health *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Media-Last-Exchange *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Media-LTO-Performance *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Media-LTO-Utilization *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Media-MIR-Stats *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Media-Stats-Last-Exchange *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Media-Utilization *</a></li> </ul> <p><b>Media Analysis Templates</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">STA-Media-HealthByMediatype *</a></li> </ul> <p><b>Exchanges Templates</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">STA-Exchange-Alerts-All *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Exchange-Alerts-Errors *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Exchange-Base-Information *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Exchange-MIR-Alerts *</a></li> </ul>	<p><b>Drive Cleanings Templates</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">STA-Cleaning-All *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Cleaning-Base-Information *</a></li> </ul> <p><b>All Messages Overview Templates</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">STA-Notification-All *</a></li> <li>• <a href="#">STA-Notification-Base-Information *</a></li> </ul>
---	--	---

\* Indicates STA Prepackaged Template

次の画面サンプルに示すように、各テンプレート名はホットリンクであり、クリックすると、選択したテンプレートが自動的に適用された状態でその画面に移動できます。



テンプレートは、「Libraries Overview Templates」、「Drive Analysis Templates」、「Exchanges Templates」などの画面ごとにグループ分けされています。各画面グループ内で、テンプレートがアルファベット順にリスト表示されます。新しいテンプレートが追加されたり、テンプレート名が変更されると、リストが自動的に更新されます。

クイックリンクは、次のテンプレートタイプで使用できます。

- すべての定義済みテンプレート – これらは名前の後のアスタリスク (\*) で識別できます
- すべてのカスタムパブリックテンプレート
- 現在の STA ユーザー名が所有するすべてのカスタムプライベートテンプレート

注:

「Quick Links」画面には、各画面グループの「STA-Default」という名前のテンプレートは含まれません。このため、STA ユーザー名が特定の画面で使用可能な唯一のテンプレートが「STA-Default」という名前である場合、そのグループはリストに含まれません。これは、カスタムテンプレートが追加されるとすぐに画面に追加されます。

### 3.3.3. 「Templates Management」画面

「Setup & Administration」タブの「Templates Management」画面は、オペレータおよび管理者ユーザーだけが使用できます。

次に、STA で提供されるデフォルトの「Templates Management」画面のサンプルを示します。このリストは現在の STA ユーザー名に固有のものであるため、画面に表示されるテンプレートは異なる場合があります。

**Templates Management**

Name	Created	Owner	Type	Default	Visibility
STA-Nearline-Daily	2013-04-24 13:12:44	STA	Dashboard		
STA-Nearline-Hourly	2013-04-24 13:16:04	STA	Dashboard		
STA-Nearline-Monthly	2013-04-26 05:04:54	STA	Dashboard		
STA-Nearline-Weekly	2013-04-26 04:48:17	STA	Dashboard		
STA-Cleaning-All	2012-02-16 11:57:02	STA	Drive Cleanings		
STA-Cleaning-Base-Information	2011-08-26 11:05:11	STA	Drive Cleanings		
STA-Drive-Firmware-Levels	2012-02-16 11:54:11	STA	Drives Analysis		
STA-Drive-Read-Marginal	2011-08-16 16:23:09	STA	Drives Analysis		
STA-Drive-All	2012-02-16 11:37:33	STA	Drives Overview		

次の画面サンプルに示すように、各テンプレート名はホットリンクであり、クリックすると、選択したテンプレートが自動的に適用された状態でその画面に移動できます。

**Templates Management**

Name	Created	Owner	Type
STA-Nearline-Daily	2013-04-24 13:12:44	STA	Dashboard
STA-Nearline-Hourly	2013-04-24 13:16:04	STA	Dashboard
STA-Nearline-Monthly	2013-04-26 05:04:54	STA	Dashboard
STA-Nearline-Weekly	2013-04-26 04:48:17	STA	Dashboard
STA-Cleaning-All	2012-02-16 11:57:02	STA	Drive Cleanings

Click to apply this template

## 3.4. テンプレートの使用タスク

- 「テンプレートの適用」
- 「画面のデフォルトテンプレートを設定する」
- 「画面のデフォルトテンプレートをクリアする」

### 3.4.1. テンプレートの適用

この手順を使用して、テンプレートを現在の画面に適用します。最初にログインセッション内の画面に移動すると、STA ユーザー名のデフォルトテンプレートが自動的に適用されます。

この手順は、次のいずれかの方法で実行できます。

- 「テンプレートツールバーを使用する」
- 「「Quick Links」画面から」
- 「「Templates Management」画面から」

### 3.4.1.1. テンプレートツールバーを使用する

注:

このオプションは、すべてのユーザーが実行できます。

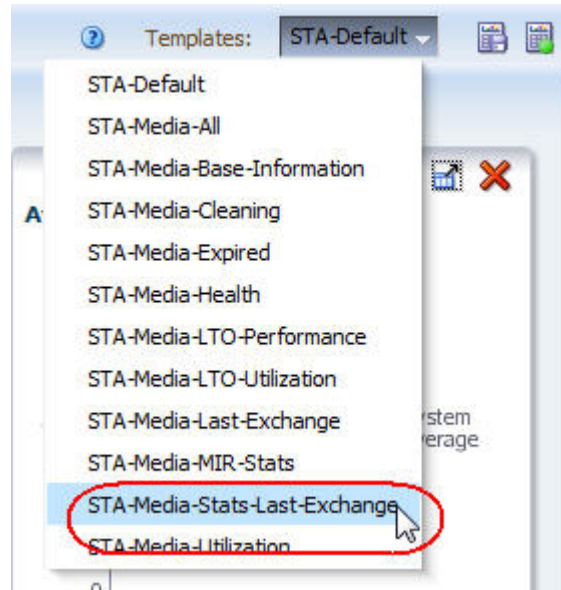
1. 現在の画面で、「**Templates**」メニューを選択します。

メニューに、STA ユーザー名で使用可能なすべてのテンプレートが表示されます。現在表示されているテンプレートは、「**Templates**」フィールド内の暗色の領域で確認できます。

The screenshot shows the 'Media - Overview' window. At the top right, there is a 'Templates:' dropdown menu. The 'STA-Default' option is selected and highlighted with a red circle. Below the graphs, there is a table with columns: Volume Serial Number, Media Type, Media Health Indicator, Last Annotation, Drive Serial Number, Drive WWNN, Drive Type, Drive Health Indicator, and Last Ex.

Volume Serial Number	Media Type	Media Health Indicator	Last Annotation	Drive Serial Number	Drive WWNN	Drive Type	Drive Health Indicator	Last Ex
CLNU22	LTO1	🔴		HU10546L4N	50:01:04:F0:00:AC:BE:58	HpUltrium3	🟢	2013-07-18
TCD307	T10000T2	🟡		579001000122	50:01:04:F0:00:88:03:8C	T10000d-Enc	🟢	2013-07-21
TTC156	T10000T2	🟡		576004001400	50:01:04:F0:00:88:03:98	T10000c-Enc	🟢	2013-07-21
UD0144	T10000T1	🟡		579001000247		T10000d	🟡	2013-07-18
EN0845	LTO1	🟡		HU10546L4N	50:01:04:F0:00:AC:BE:58	HpUltrium3	🟡	2013-07-18
ST6012	LTO6	🟢		HU1238RA40	50:01:04:F0:00:CA:BE:A0	HpUltrium6	🟢	2013-07-21
CSV003	T10000T2	🟢		579001000134		T10000d-Enc	🟢	2013-07-21
CSV004	T10000T2	🟢		579001000133		T10000d-Enc	🟢	2013-07-21
CSV005	T10000T2	🟢		579001000134	50:01:04:F0:00:88:03:9B	T10000d-Enc	🟢	2013-07-21

2. 「**Templates**」メニューで、適用するテンプレートを選択します。



新しいテンプレートが適用されます。

---

注:

「**Templates**」フィールドに表示されている名前で、現在適用されているテンプレートをいつでも確認できます。

---



Media - Overview

Templates: STA-Media-Stats-Last-Exchange

Format: [Icons]

View: [Icons]

Volume Serial Number	Media Manufacturer Serial Number	Media Manufacturer	Media Type	Media Physical Address	Media Library Name	Media Library Serial Number	Media Health Indicator	WORM/Media	Media MB Capacity	Drive Serial Number
CLNU22		LTO	LTO1	1,1,-12,1,51	Crimson11	571000200060	🔴			HU10546L4N
TCD307	812050050238C	STK	T10000T2	1,2,2,1,2	tlib	516000100534	🟡		8,388,608.00	579001000122
TTC156	810210030020C	STK	T10000T2	1,2,11,2,13	tlib	516000100534	🟡		5,242,880.00	576004001400
UD0144	UUUUUUUUUUUUU	STK	T10000T1	1,1,-11,1,17	Crimson11	571000200060	🟡		1,048,576.00	579001000247
EN0845		LTO	LTO1	1,1,-12,1,52	Crimson11	571000200060	🟡			HU10546L4N
ST6012	JCSLMXj002	TDK	LTO6	3,Right,2,3	Kilauea-DVT6	000729c+1134c	🟢		2,499,053.00	HU1238RA40
CSV003	809225000032C	STK	T10000T2	1,2,-9,1,9	tlib	516000100534	🟢		8,388,608.00	579001000134
CSV004	809225000052C	STK	T10000T2	1,2,1,1,2	tlib	516000100534	🟢		8,388,608.00	579001000133
CSV005	809225000033C	STK	T10000T2	1,2,11,1,13	tlib	516000100534	🟢		8,388,608.00	579001000134
DCB006	812052030174C	STK	T10000T2	1,1,-12,1,8	Crimson11	571000200060	🟢		8,388,608.00	579001000247
DCB007	812087030063C	STK	T10000T2	1,1,-12,1,37	Crimson11	571000200060	🟢		8,388,608.00	579001000247
DCB008	812087020132C	STK	T10000T2	1,1,-11,1,12	Crimson11	571000200060	🟢		8,388,608.00	579001000247
DCB017	812087020072C	STK	T10000T2	1,1,3,1,3	Crimson11	571000200060	🟢		5,242,880.00	579001000247
DCB018	812051060238C	STK	T10000T2	1,1,-12,1,45	Crimson11	571000200060	🟢		8,388,608.00	579001000247
DCB019	812051050247C	STK	T10000T2	1,1,7,1,12	Crimson11	571000200060	🟢		8,388,608.00	579001000247
DCB020	812051050243C	STK	T10000T2	1,1,-7,1,9	Crimson11	571000200060	🟢		8,388,608.00	579001000247
DVT052	507033050858C	STK	T10000T1	1,1,-11,1,10	Crimson11	571000200060	🟢		512,000.00	531002001642
DVT055	507033044012C	STK	T10000T1	1,1,-12,1,40	Crimson11	571000200060	🟢		512,000.00	531002001642
TTC005	810027000031C	STK	T10000T2	1,1,-12,1,38	Crimson11	571000200060	🟢		8,388,608.00	579001000247
TTC006	810237070024C	STK	T10000T2	1,1,-7,1,7	Crimson11	571000200060	🟢		8,388,608.00	579001000247
TTC007	810239070009C	STK	T10000T2	1,1,12,2,38	Crimson11	571000200060	🟢		8,388,608.00	579001000247
TTC157	810210030024C	STK	T10000T2	1,2,2,1,3	tlib	516000100534	🟢		5,242,880.00	576004000046
UA0061	811159030018C	STK	T10000T2	1,1,-12,1,10	Crimson11	571000200060	🟢		5,242,880.00	579001000247
UG0035	710238060018C	STK	T10000T1	1,1,-11,1,25	Crimson11	571000200060	🟢		1,048,576.00	572004012140
SS6010	F120629222	SONY	LTO6	1,Right,2,1	Kilauea-DVT6	000729c+1134c	🟢		2,499,053.00	HU1238RA40
SS6224	9120629178	SONY	LTO6	1,1,-7,1,22	Crimson11	571000200060	🟢		2,384,185.00	1068000642

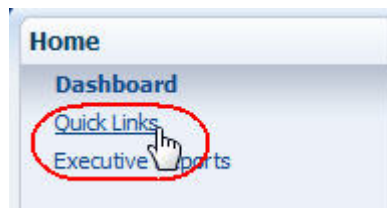
Columns Hidden 46 | Columns Frozen 1 | Displaying 8,251 record(s)

### 3.4.1.2. 「Quick Links」画面から

注:

このオプションは、すべてのユーザーが実行できます。

1. ナビゲーションバーで、「Home」を選択して、「Quick Links」を選択します。



画面に STA ユーザー名で使用可能なテンプレートが表示されます。

注:

「STA-Default」という名前のテンプレートは、リストに含まれていません。

2. 使用するテンプレートのテキストリンクを選択します。
3. 選択したテンプレートが適用された画面になります。

### 3.4.1.3. 「Templates Management」画面から

注:

このオプションには、オペレータまたは管理者の権限が必要です。

1. ナビゲーションバーで、「Setup & Administration」を選択して、「Templates Management」を選択します。



画面に、STA ユーザー名で使用可能なすべてのテンプレートが表示されます。

注:

「STA-Default」という名前のテンプレートは、リストに含まれていません。

2. 使用するテンプレートのテキストリンクを選択します。
3. 選択したテンプレートが適用された画面になります。

### 3.4.2. 画面のデフォルトテンプレートを設定する

この手順を使用して、テンプレートを STA ユーザー名の画面のデフォルトとして割り当てます。各 STA ユーザー名は独自のデフォルトセットを保持できますが、設定可能なデフォルトは各画面に 1 つだけです。

注:

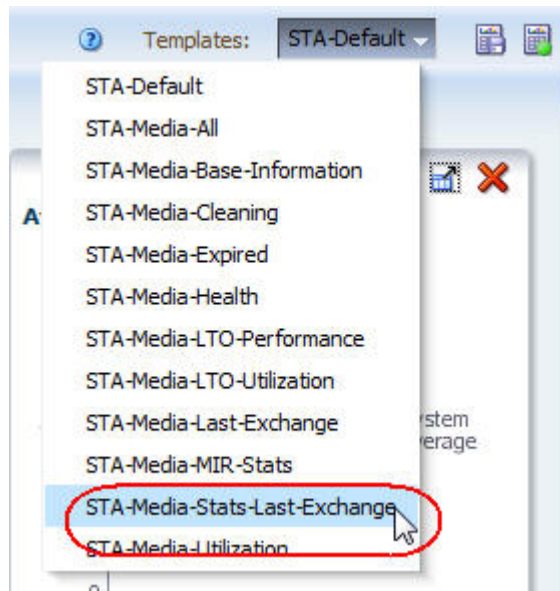
ほかの STA ユーザー名のデフォルトテンプレートを割り当てることはできません。

この手順は、次のいずれかの方法で実行できます。

- 「[テンプレートツールバーから](#)」
- 「[「Templates Management」画面から](#)」

### 3.4.2.1. テンプレートツールバーから

1. 現在の画面の「**Templates**」メニューで、デフォルトにするテンプレートを選択します。



テンプレートが適用されます。

2. 「**Templates**」メニューで、「**Default Template**」をクリックします。

テンプレートが更新されて、この画面のデフォルトになります。

### 3.4.2.2. 「Templates Management」画面から

注:

このオプションには、オペレータまたは管理者の権限が必要です。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Templates Management**」を選択します。
2. 選択した画面のデフォルトにするテンプレートを選択します。



3. テンプレート管理ツールバーで、「**Set Default**」をクリックします。

テンプレートが更新されて、選択した画面のデフォルトになります。この更新は、次のログインセッションまで有効になりません。

### 3.4.3. 画面のデフォルトテンプレートをクリアする

この手順を使用して、画面のデフォルトテンプレート設定をクリアして、「STA-Default」テンプレートを STA ユーザー名の画面のデフォルトとして割り当てます。

---

注:

ほかの STA ユーザー名のデフォルトテンプレートをクリアすることはできません。

---

注:

この手順では、オペレータ権限または管理者権限が必要です。

---

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Templates Management**」を選択します。
2. 指定された画面タイプのデフォルトにするテンプレートを選択します。
3. テンプレート管理ツールバーの「**Clear Default**」をクリックします。

「STA-Default」が、選択した画面のデフォルトテンプレートとしてふたたび割り当てられます。

## 3.5. テンプレート管理タスク

- [「テンプレートの作成」](#)
- [「テンプレートの変更」](#)
- [「テンプレート名の変更」](#)
- [「テンプレートの可視性 \(パブリックまたはプライベート\) 設定を変更する」](#)
- [「テンプレートのエクスポート」](#)
- [「テンプレートのインポート」](#)
- [「テンプレートの削除」](#)
- [「STA 定義済みテンプレートの復元」](#)

### 3.5.1. テンプレートの作成

この手順を使用して、現在の画面の新規テンプレートを作成および保存します。テンプレートを STA ユーザー名のみで使用可能にするか、すべてのユーザーで使用可能にするかを指定できます。

---

注:

この手順では、オペレータ権限または管理者権限が必要です。

---

1. 目的の変更を現在の画面に適用します。

---

注:

テンプレートに含めることのできる画面変更のタイプについては、[「テンプレート定義に含まれる画面特性」](#)を参照してください。

---

次の例では、グラフィックスペインを縮小してテーブル領域のみを表示するよう、「Media – Overview」画面が変更されています。

Media - Overview

Templates: Default

Format: [Icons]

View [Icons]

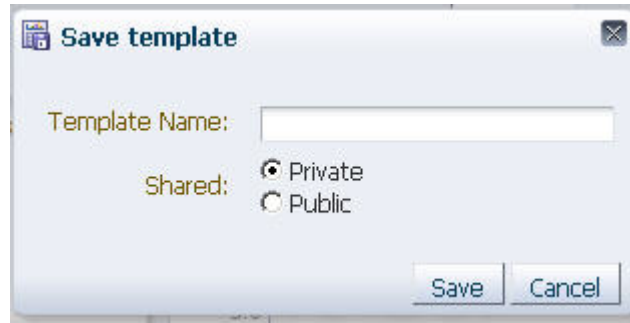
Volume Serial Number	Media Type	Media Health Indicator	Media MB Available	Drive WWNN	Drive Type	Drive Health Indicator	Last Exchange S
ACC9F727	T1	✖	185,535	A5:6E:D6:F5:F9:D9:12:4E	T10000B	✔	2011-08-11 09:47:
CA9BD4C0	T1	✖	818,788	A2:42:8F:4B:D5:83:97:9F	T10000B	✔	2011-08-06 06:54:
CB9EC483	T1	✖	400,232	D9:B9:18:2F:57:A5:B:83	T10000B	✔	2011-08-01 07:42:
D2E8F36C	T-CLNU	✖	0	64:1A:24:36:7C:55:34:A	T10000B	✔	2011-08-10 17:21:
F980C6A7	T2	✖	713,239	BE:88:EB:93:F4:2B:95:9E	T10000C	✔	2011-08-09 02:04:
JDD088B2	T2	✖	1,236	83:2F:F8:8F:D4:9E:2D:4E	T10000C	✔	2011-08-07 13:57:
P41EFB22	T1	✖	492,219	64:1F:C5:B7:8A:6A:BF:4E	T10000B	✔	2011-08-09 20:24:
QB5CDDC1	LTO-4	✖	241,341	C5:D0:98:EB:F4:24:DE:BF	HP-LTO4	✔	2011-08-11 12:47:
T5680B6A	LTO-4	✖	1,527,431	C5:D0:98:EB:F4:24:DE:BF	HP-LTO4	✔	2011-08-10 06:03:
XA7F6057	LTO-4	✖	781	81:AE:9D:F9:B6:78:D4:5	HP-LTO4	✔	2011-08-07 05:23:
ABBE24DF	LTO-4	⚠	961	C5:D0:98:EB:F4:24:DE:BF	HP-LTO4	✔	2011-08-12 05:52:
B199F3FE	T2	⚠	4,164	C7:10:42:54:1D:43:90:6	T10000C	✔	2011-08-08 08:20:
B96DCC90	T2	⚠	1,676	DE:EE:B7:5C:39:43:B7:8	T10000C	✔	2011-08-11 17:33:
BF5E6765	T1	⚠	871,445	51:8B:2:15:A8:47:BF:B7	T10000B	✔	2011-08-10 09:10:
C379E7BF	LTO-4	⚠	3,232	FC:AF:84:58:1D:67:58:3	HP-LTO4	✔	2011-08-12 02:11:
C6817853	T-CLNU	⚠	0	ED:2E:C2:DC:88:25:67:C	T10000B	✔	2011-08-10 07:41:
C7D65249	T1	⚠	3,223	E7:9B:F3:DC:5E:11:36:97	T10000B	✔	2011-08-07 20:01:
C9C02E39	T2	⚠	889	90:F5:8:2A:B0:7D:51:DF	T10000C	✔	2011-08-12 01:35:
D2383917	LTO-4	⚠	261,061	7C:AD:A7:19:BC:22:79:AI	HP-LTO4	✔	2011-08-10 16:50:
D2F1548D	T-CLNU	⚠	0	3C:3D:F:34:B0:8A:5A:E6	T10000C	✔	2011-08-09 00:52:
D527FBE0	T1	⚠	25,126	97:71:6E:84:10:F:79:7B	T10000B	✔	2011-08-10 22:07:
D5E829DC	LTO-4	⚠	2,745	51:29:C2:88:54:D0:B1:6	HP-LTO4	✔	2011-08-10 10:23:
D67D9A60	LTO-4	⚠	1,863	51:29:C2:88:54:D0:B1:6	HP-LTO4	✔	2011-07-30 08:16:
E1F241BA	LTO-4	⚠	258	93:E7:B3:CA:D9:98:31:1	HP-LTO4	✔	2011-07-19 04:50:
EF168628	T1	⚠	4,144	A5:E9:DD:84:89:9A:DO:4	T10000B	✔	2011-08-10 21:52:
EF60F85B	LTO-4	⚠	1,598	1F:FD:6C:2B:F3:98:7B:EC	HP-LTO4	✔	2011-08-08 23:56:
F2C42477	LTO-4	⚠	1,081	D1:33:9B:B1:CD:32:EF:4	HP-LTO4	✔	2011-08-04 01:11:
F3BA59D1	LTO-4	⚠	32,287	C5:D0:98:EB:F4:24:DE:BF	HP-LTO4	✔	2011-08-08 17:37:

Columns Hidden 51 Columns Frozen 1 Displaying 1,085 record(s)

2. 加える変更をすべて実行したら、「Save Template」をクリックします。



「Save Template」ダイアログボックスが表示されます。



3. 次のようにして、「Save Template」ダイアログボックスを指定します。
  - a. 「**Template Name**」フィールドに、新しい一意の名前を入力します。

注:

名前がすでに存在する場合、「Confirmations」設定の内容によっては、「Save」をクリックすると既存のテンプレートを上書きするかどうか確認が求められます。手順については、[テンプレートの変更](#)を参照してください。

- b. 「**Shared**」フィールドで、可視性オプションを選択します。追加情報については、[テンプレートの所有権と可視性](#)を参照してください。
    - 「Private」 – テンプレートを使用できるのは、現在の STA ユーザー名だけです。
    - 「Public」 – すべての STA ユーザー名がテンプレートを使用できます。
4. 「**Save**」をクリックします。



テンプレートが保存され、名前が「**Templates**」メニューに表示されます。



### 3.5.2. テンプレートの変更

この手順を使用して、現在の画面の既存テンプレートを変更します。STA ユーザー名の所有するすべてのカスタムテンプレートを変更できます。

テンプレートを直接変更するには、そのテンプレートの所有者である必要があります。STA の定義済みテンプレート、または別の STA ユーザー名の所有するパブリックテンプレートを変更するには、変更を加えたテンプレートを新しい名前で作成する必要があります。手順については、「[テンプレートの作成](#)」を参照してください。

---

注:

この手順では、オペレータ権限または管理者権限が必要です。

---

1. 「**Templates**」メニューで、変更するテンプレートを選択します。

テンプレートが画面に適用されます。

Media - Overview Templates: MediaTableOnly

Format: [Icons]

View: [Icons]

Volume Serial Number	Media Type	Media Health Indicator	Media MB Available	Drive WWNN	Drive Type	Drive Health Indicator	Last Exchange St
ACC9F727	T1	✖	185,535	A5:6E:D6:F5:F9:D9:12:4E	T10000B	✔	2011-08-11 09:47:...
CA98D4C0	T1	✖	818,788	A2:42:8F:4B:D5:B3:97:9F	T10000B	✔	2011-08-06 06:54:...
CB9EC483	T1	✖	400,232	D9:B9:18:2F:57:A5:B:83	T10000B	✔	2011-08-01 07:42:...
D2E8F36C	T-CLNU	✖	0	64:1A:24:36:7C:55:34:A	T10000B	✔	2011-08-10 17:21:...
F980C6A7	T2	✖	713,239	BE:88:EB:93:F4:2B:95:9E	T10000C	✔	2011-08-09 02:04:...
JDD088B2	T2	✖	1,236	83:2F:F8:8F:D4:9E:2D:4E	T10000C	✔	2011-08-07 13:57:...
P41EFB22	T1	✖	492,219	64:1F:C5:B7:8A:6A:BF:4E	T10000B	✔	2011-08-09 20:24:...
QB5CDDC1	LTO-4	✖	241,341	C5:D0:98:EB:F4:24:DE:BF	HP-LTO4	✔	2011-08-11 12:47:...
T5680B6A	LTO-4	✖	1,527,431	C5:D0:98:EB:F4:24:DE:BF	HP-LTO4	✔	2011-08-10 06:03:...
XA7F6057	LTO-4	✖	781	81:AE:9D:F9:B6:78:D4:5	HP-LTO4	✔	2011-08-07 05:23:...
ABBE24DF	LTO-4	⚠	961	C5:D0:98:EB:F4:24:DE:BF	HP-LTO4	✔	2011-08-12 05:52:...
B199F3FE	T2	⚠	4,164	C7:10:42:54:1D:43:90:6	T10000C	✔	2011-08-08 08:20:...
B96DCC90	T2	⚠	1,676	DE:EE:87:5C:39:43:87:B	T10000C	✔	2011-08-11 17:33:...
BF5E6765	T1	⚠	871,445	51:8B:2:15:A8:47:BF:B7	T10000B	✔	2011-08-10 09:10:...
C379E7BF	LTO-4	⚠	3,232	FC:AF:84:58:1D:67:58:3	HP-LTO4	✔	2011-08-12 02:11:...
C6817853	T-CLNU	⚠	0	ED:2E:C2:DC:88:25:67:C	T10000B	✔	2011-08-10 07:41:...
C7D65249	T1	⚠	3,223	E7:9B:F3:DC:5E:11:36:97	T10000B	✔	2011-08-07 20:01:...
C9C02E39	T2	⚠	889	90:F5:8:2A:80:7D:51:DF	T10000C	✔	2011-08-12 01:35:...
D2383917	LTO-4	⚠	261,061	7C:A0:A7:19:BC:22:79:AI	HP-LTO4	✔	2011-08-10 16:50:...
D2F1548D	T-CLNU	⚠	0	3C:3D:F:34:80:8A:5A:E6	T10000C	✔	2011-08-09 00:52:...
D527FBED	T1	⚠	25,126	97:71:6E:84:10:F:79:7B	T10000B	✔	2011-08-10 22:07:...
D5E829DC	LTO-4	⚠	2,745	51:29:C2:88:54:D0:B1:6	HP-LTO4	✔	2011-08-10 10:23:...
D67D9A60	LTO-4	⚠	1,863	51:29:C2:88:54:D0:B1:6	HP-LTO4	✔	2011-07-30 08:16:...
E1F241BA	LTO-4	⚠	258	93:E7:B3:CA:D9:98:31:II	HP-LTO4	✔	2011-07-19 04:50:...
EF16B628	T1	⚠	4,144	A5:E9:DD:84:89:9A:DO:4	T10000B	✔	2011-08-10 21:52:...
EF60F85B	LTO-4	⚠	1,598	1F:FD:6C:2B:F3:98:7B:EC	HP-LTO4	✔	2011-08-08 23:56:...
F2C42477	LTO-4	⚠	1,081	D1:33:9B:B1:CD:32:EF:4	HP-LTO4	✔	2011-08-04 01:11:...
F3BA59D1	LTO-4	⚠	32,287	C5:D0:98:EB:F4:24:DE:BF	HP-LTO4	✔	2011-08-08 17:37:...

Columns Hidden 51 | Columns Frozen 1 | Displaying 1,085 record(s)

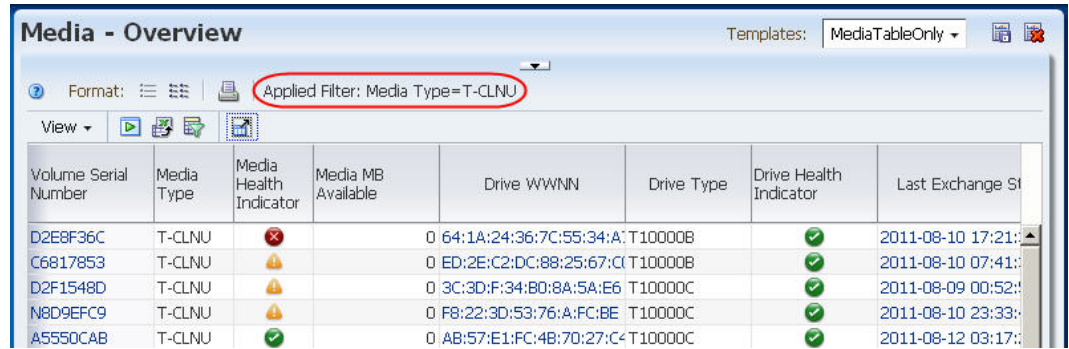
2. テンプレートに含める変更を画面に加えます。

注:

テンプレートに含めることのできる画面変更のタイプについては、「[テンプレート定義に含まれる画面特性](#)」を参照してください。

この例では、フィルタ「Media Type=TCLNU」を適用して画面が変更されています。





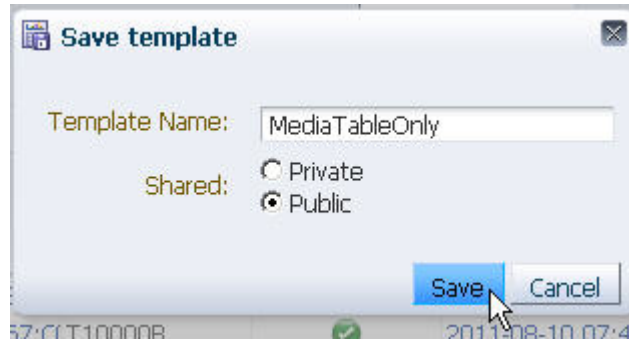
- 変更を確認して、テンプレートツールバーの「Save Template」をクリックします。



「Save Template」ダイアログボックスが表示され、現在のテンプレート名が「**Template Name**」フィールドに表示されます。



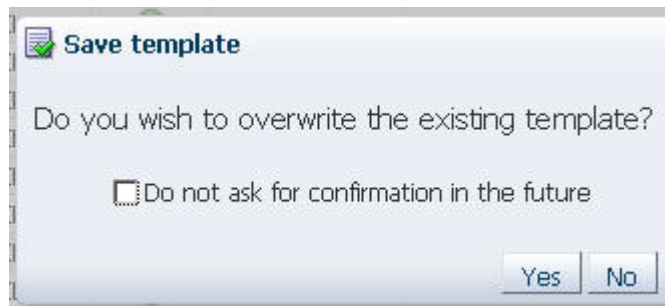
- 次のようにして、「Save Template」ダイアログボックスを指定します。
  - 「**Template Name**」フィールドはそのままにします。
  - テンプレートの可視性を変更するかどうかに応じて、「**Shared**」フィールドのオプションを選択するか、フィールドをそのままにしておきます。
    - 「Private」 – テンプレートを使用できるのは、現在の STA ユーザー名だけです。
    - 「Public」 – すべての STA ユーザー名がテンプレートを使用できます。
- 「**Save**」をクリックします。



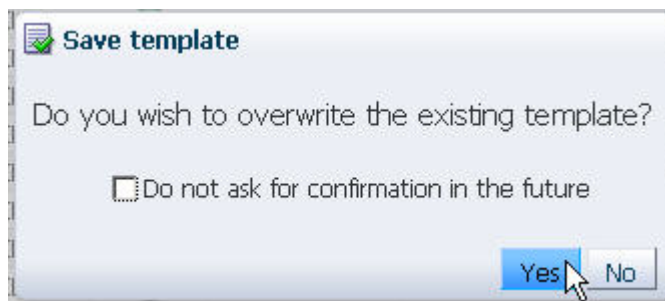
「Template Overwrite Confirmation」ダイアログボックスが表示されます。

注:

このダイアログボックスがオフに設定されている場合は表示されません。詳細については、『STA 画面基本ガイド』を参照してください。



6. 「Yes」をクリックして変更を確定します。



テンプレートが更新されて、指定した変更が反映されます。

### 3.5.3. テンプレート名の変更

この手順を使用して、既存のカスタムテンプレートの名前を変更します。STA ユーザー名で使用可能なすべてのカスタムテンプレートの名前を、たとえその所有者でなくても、変更できます。STA の定義済みテンプレートの名前を変更することはできません。



---

注:

この手順では、オペレータ権限または管理者権限が必要です。

---

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Templates Management**」を選択します。
2. 名前を変更するカスタムテンプレートを選択します。
3. テンプレート管理ツールバーの「**Rename**」をクリックします。

「Rename Template」ダイアログボックスが表示されます。

4. 「**New Name**」フィールドに割り当てる名前を入力します。入力内容は一意でなければならず、割り当て済みの名前を入力することはできません。
5. 「**OK**」をクリックします。

名前が更新されます。

### 3.5.4. テンプレートの可視性 (パブリックまたはプライベート) 設定を変更する

この手順を使用して、STA ユーザー名の所有するテンプレートにパブリックまたはプライベートの可視性を割り当てます。

---

注:

この手順では、オペレータ権限または管理者権限が必要です。さらに、STA ユーザー名がテンプレートの所有者である必要があります。

---

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Templates Management**」を選択します。
2. 変更するテンプレートを選択します。

テンプレートが現在プライベートである場合、テンプレート管理ツールバーの「**Make Template Public**」アイコンがアクティブになります。テンプレートが現在パブリックである場合、「**Make Template Private**」アイコンがアクティブになります。

3. 「**Make Template public/ private**」をクリックします。

選択に合わせてテンプレートが更新されます。

### 3.5.5. テンプレートのエクスポート

この手順を使用すると、カスタムテンプレートを STA アプリケーションからコンピュータに XML 形式でエクスポートできます。これにより、カスタムテンプレートをほかのユーザーと共有できます。

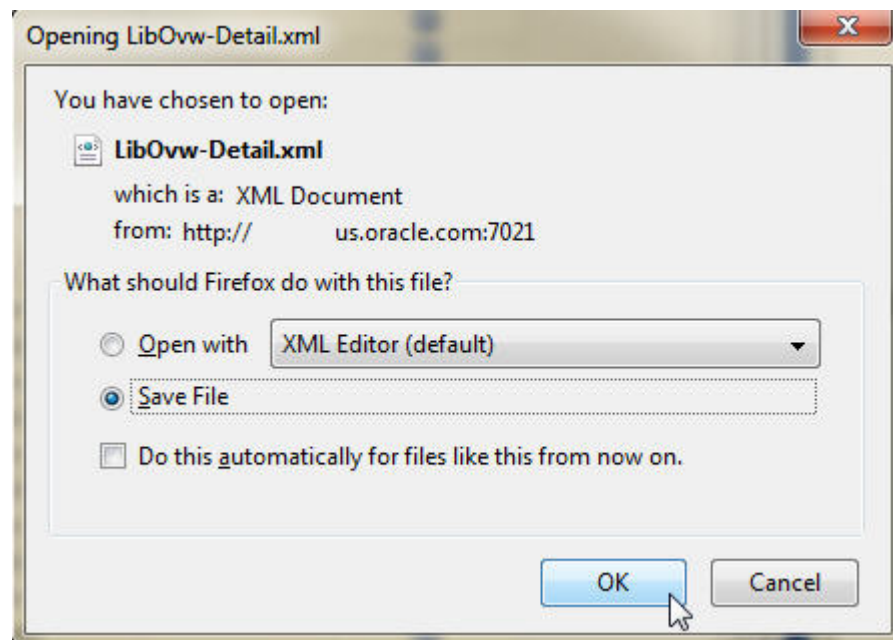
STA ユーザー名で使用可能なすべてのカスタムテンプレートを、たとえその所有者でなくてもエクスポートできます。STA の定義済みテンプレートをエクスポートすることはできません。

注:

この手順では、オペレータ権限または管理者権限が必要です。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Templates Management**」を選択します。
2. エクスポートするカスタムテンプレートを選択します。
3. テンプレート管理ツールバーの「**Export**」をクリックします。

ファイルは、ブラウザ設定に従ってコンピュータにダウンロードされます。詳細は、使用しているブラウザのドキュメントを参照してください。次に、Windows を実行しているコンピュータで表示される可能性のあるダイアログボックスの例を示します。ファイルは、拡張子 `.xml` を付けて保存されます。



### 3.5.6. テンプレートのインポート

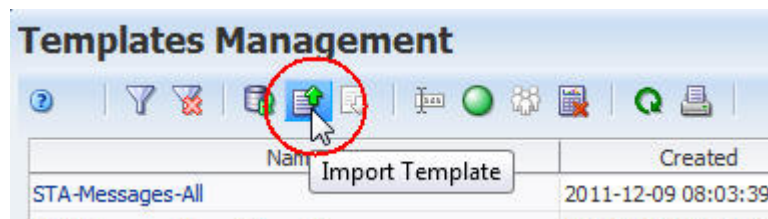
この手順を使用して、別のソースから受信した STA テンプレートをインポートして、STA ユーザー名で使用できるようにします。これにより、別のユーザーがカスタムテンプレートをエクスポートし、電子メールで送信して使用することが可能になります。追加情報については、「[テンプレートの共有](#)」を参照してください。

注:

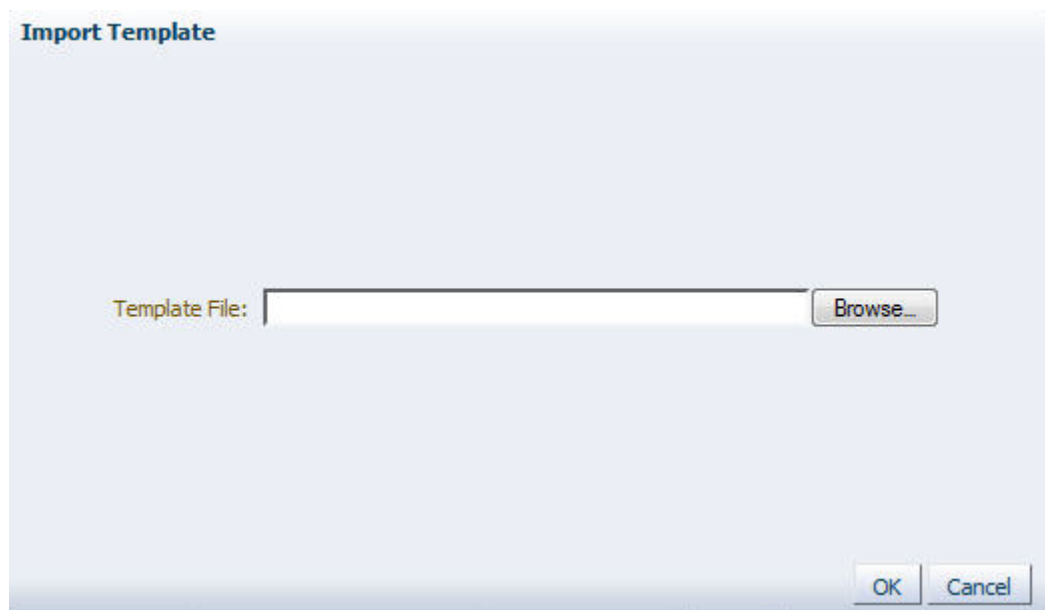
この手順では、オペレータ権限または管理者権限が必要です。

インポートするテンプレートは、ローカルドライブ、接続されているネットワークドライブ、コンピュータにマウントされているフラッシュドライブなどの、コンピュータからアクセス可能なドライブ上に存在する必要があります。

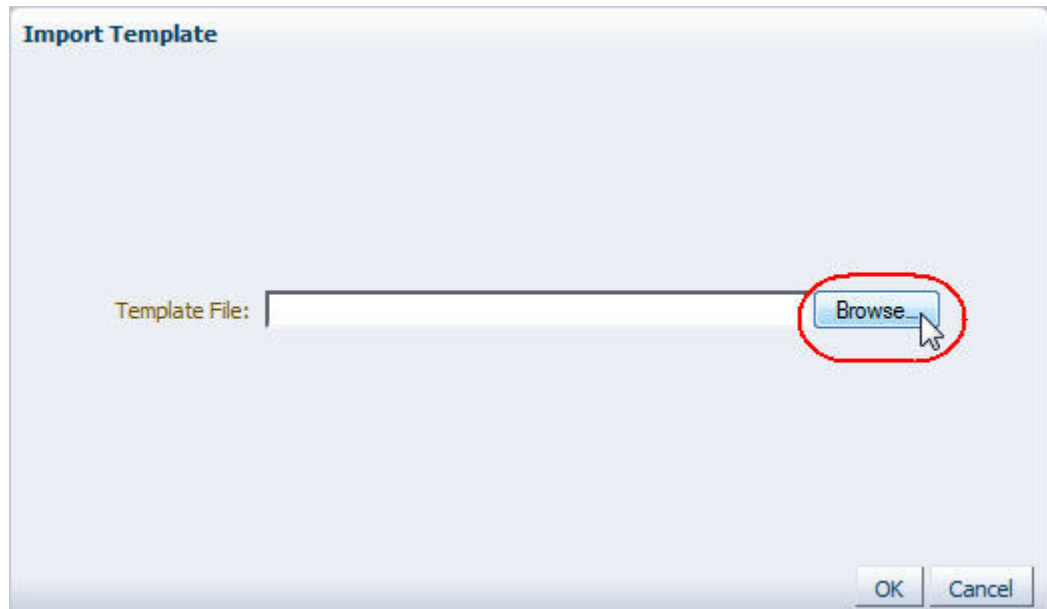
1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Templates Management**」を選択します。
2. テンプレート管理ツールバーの「**Import Template**」をクリックします。



「Import Template」ダイアログボックスが表示されます。



3. 「Browse」をクリックして、インポートするテンプレートファイルの場所に移動します。



ブラウザの設定に従って、ナビゲーションダイアログボックスが表示されます。詳細は、使用しているブラウザのドキュメントを参照してください。

4. ナビゲーションダイアログを使用してテンプレートファイルを見つけて、アップロードします。ファイルには、.xml 拡張子が付いている必要があります。
5. テンプレートがリストに追加されます。割り当てられる「Owner」が自分の STA ユーザー名になり、「Visibility」がプライベートに設定されます。

Settings - Templates

Name	Created	Owner	Type	Default	Visibility
Nearline Daily	2013-04-25 16:19:27	sta_admin	Dashboard		
STA-Nearline-Daily	2013-04-24 13:12:44	STA	Dashboard		
STA-Nearline-Hourly	2013-04-24 13:16:04	STA	Dashboard		

### 3.5.7. テンプレートの削除

この手順を使用して、テンプレートを STA アプリケーションから削除します。テンプレートは、すべての STA ユーザー名から削除されます。

STA ユーザー名で使用できるすべてのカスタムテンプレートを、たとえその所有者でなくても削除できます。また、「STA-Default」という名前のテンプレート以外の、STA の定義済みテンプレートも削除できます。

注:

この手順では、オペレータ権限または管理者権限が必要です。

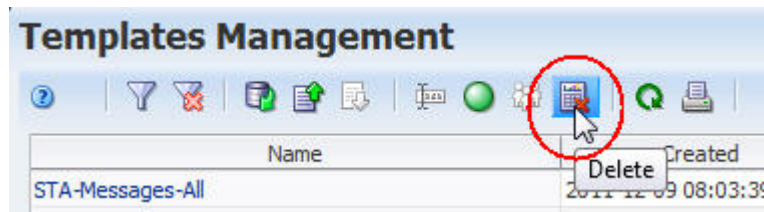
注:

STA の定義済みテンプレートを削除した場合、あとで復元できます。詳細は、「[STA 定義済みテンプレートの復元](#)」を参照してください。

注:

削除したテンプレートがいずれかの STA ユーザー名の画面デフォルトであった場合、その画面の「STA-Default」テンプレートが新しいデフォルトになります。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Templates Management**」を選択します。
2. 削除するテンプレートを選択します。
3. テンプレート管理ツールバーの「**Delete**」をクリックします。



「Delete Template」確認ダイアログボックスが表示されます。

注:

このダイアログボックスがオフに設定されている場合は表示されません。詳細については、『[STA 画面基本ガイド](#)』を参照してください。



4. 「**Yes**」をクリックして削除を確定します。



テンプレートが削除されて、「Templates Management」リストが更新されます。

### 3.5.8. STA 定義済みテンプレートの復元

この手順を使用して、削除した STA 定義済みテンプレートを復元します。

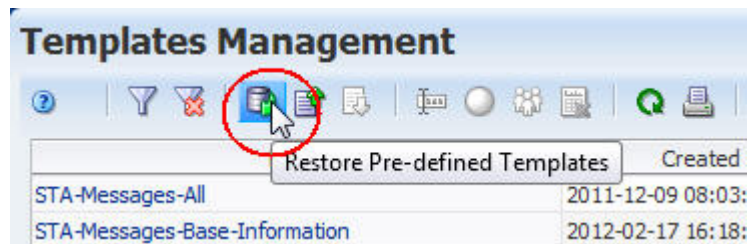
注:

この手順では、オペレータ権限または管理者権限が必要です。

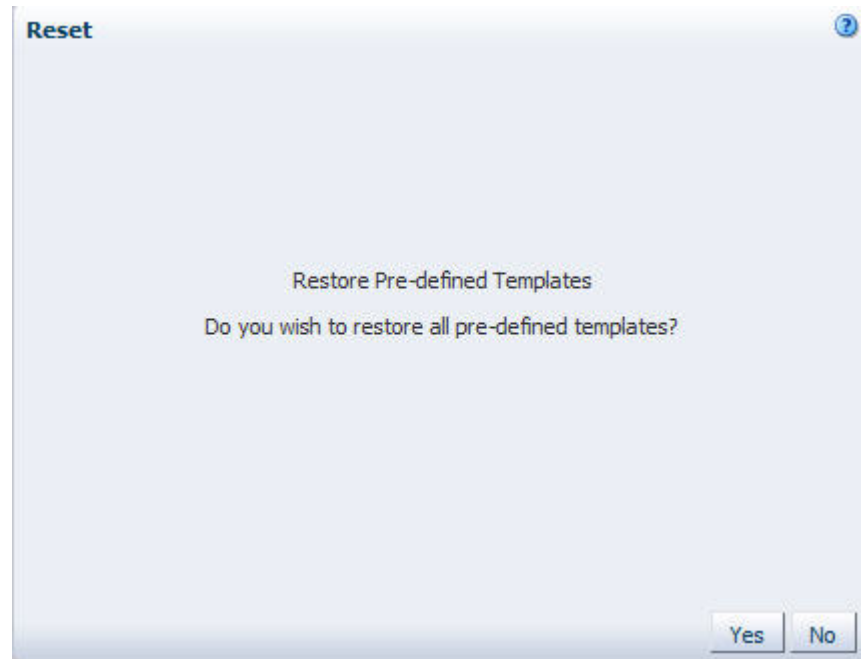
注:

この手順は、作成したカスタムテンプレートには影響を与えません。

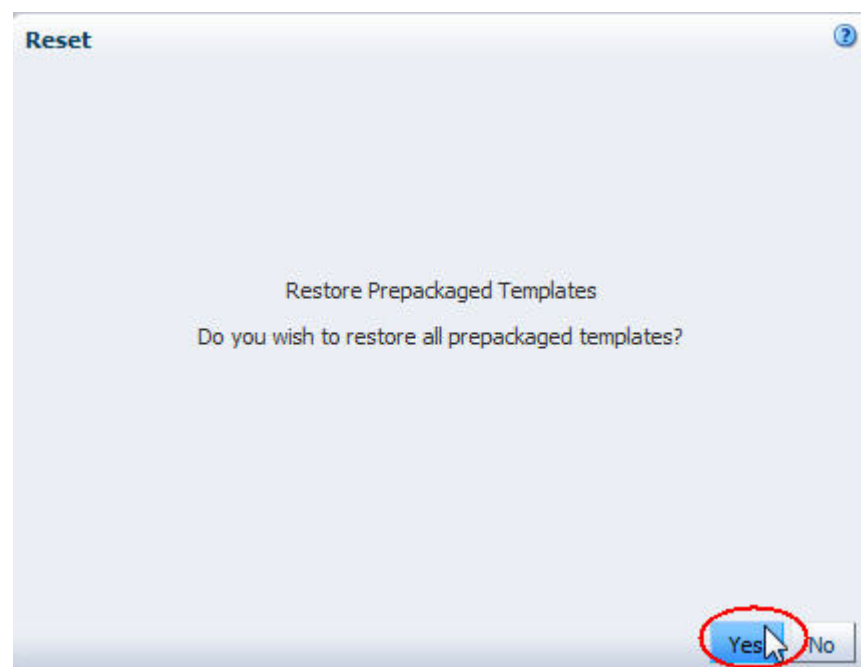
1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Templates Management**」を選択します。
2. テンプレート管理ツールバーの「**Restore Predefined Templates**」を選択します。



テンプレートの「Reset」ダイアログボックスが表示されます。



3. 「Yes」をクリックします。



定義済みテンプレートがすぐに STA アプリケーションに復元されて、すべてのユーザーが使用可能になります。作成したすべてのカスタムテンプレートも、引き続き使用できます。「Templates Management」リストが更新されます。





---

---

## データのフィルタリング

STA を使用すると、ピボットテーブルおよびリストビューテーブルに表示されるレコードをフィルタリングできます。フィルタを使用すると、特定の条件を満たすレコードのみを表示することで、情報の一部に焦点を当てることができます。

この章の内容は次のとおりです。

- [フィルタについて](#)
- [フィルタの適用](#)
- [フィルタリングタスク](#)

### 4.1. フィルタについて

テーブル属性が現在テーブルに表示されているかどうかに関係なく、その属性別にテーブルデータをフィルタリングできます。フィルタ条件は任意の数の属性に指定でき、条件のいずれかを満たす必要があるのか、すべてを満たす必要があるのかを選択できます。完全な詳細は、「[フィルタの適用](#)」を参照してください。

フィルタを適用すると、その条件がテーブルの「Applied Filter」領域に表示されます。これにより、現在のテーブルビューに適用されているフィルタ条件を確認できます。条件が適用されていない場合、この領域は空白です。

---

注:

250 文字を超えるフィルタの説明は切り捨てられます。カーソルをテキストの上に置くと、完全な説明を含むツールチップが表示されます。

---

#### 4.1.1. フィルタの適用

「**Drives**」および「**Media**」タブ上の一部の画面は、相互にペアリングされています。このようにペアリングすると、1つの画面に適用されたフィルタが自動的にパートナーにも適用されます。画面は次のようにペアリングされます。

- 「Drives – Overview」と「Drives – Analysis」
- 「Media – Overview」と「Media – Analysis」
- 「All Messages – Overview」と「All Messages – Analysis」

このようにペアリングしない場合は、適用する画面にのみフィルタが適用されます。次に例を示します。

- フィルタを「Drives – Overview」画面に適用した場合は、自動的に同じフィルタが「Drives – Analysis」画面に適用されますが、「Drives – Cleaning Activities」やその他の STA 画面には適用されません。
- フィルタを「Libraries – Overview」画面（「パートナ」がない画面）に適用した場合は、その画面にのみフィルタが適用されます。

#### 4.1.2. フィルタの期間

フィルタを画面に適用すると、ログインセッションの期間中、フィルタは有効のままです。画面から離れて、セッション内にあとで戻った場合も、フィルタは有効のままです。フィルタを変更または削除するには、次のアクションのいずれかを実行する必要があります。

- 新しいフィルタを適用します。詳細については、「[フィルタの適用](#)」を参照してください。
- フィルタを削除します。詳細については、「[現在のフィルタのクリア](#)」を参照してください。
- テンプレートを適用します。既存の条件は、テンプレートのフィルタ条件によってオーバーライドされます。詳細については、「[テンプレートの適用](#)」を参照してください。
- STA からログアウトします。詳細については、「[STA からのログアウト](#)」を参照してください。


## 4.2. フィルタの適用

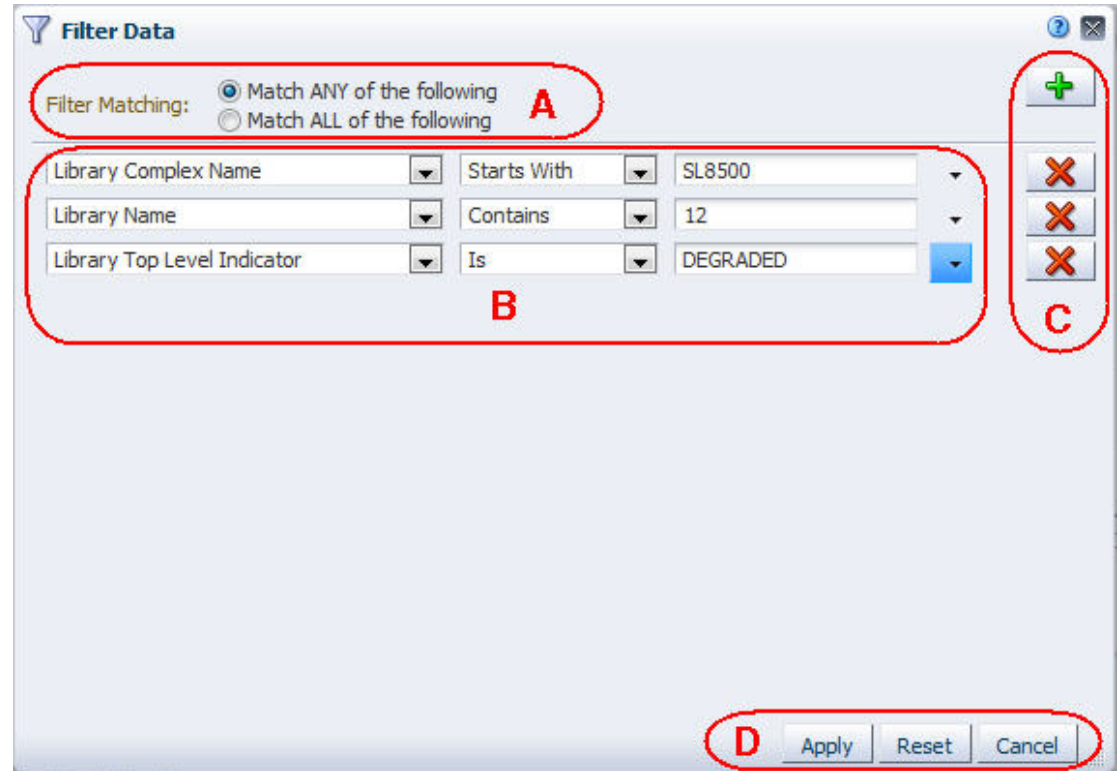
フィルタは次の方法のいずれかで適用できます。

- ピボットテーブルまたはリストビューテーブルの「Filter Data」ダイアログボックスを入力する。詳細については、「[「Filter Data」ダイアログボックス](#)」を参照してください。
- ピボットテーブルで集計数リンクをクリックする。詳細については、「[集計数リンクを使用したフィルタリング](#)」を参照してください。
- テンプレートを適用する。詳細については、「[テンプレートの適用によるフィルタリング](#)」を参照してください。
- ダッシュボードで棒グラフまたは円グラフのセクションをクリックする。詳細については、「[ダッシュボードグラフィックスを使用したフィルタリング](#)」を参照してください。

## 4.2.1. 「Filter Data」ダイアログボックス

「Filter Data」アイコンをクリックすると、「Filter Data」ダイアログボックスが表示されま

す。  ダイアログボックスのサンプルを次に示します。



項目 名前	説明
A 「Filter Matching」フィールド	<p>実行する一致のタイプを指定できます。次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「<b>Match ANY of the following</b>」 – 指定した条件のいずれかを満たすテーブルレコードを選択します。これはデフォルトです。</li> <li>「<b>Match ALL of the following</b>」 – 指定した条件のすべてを満たすレコードのみを選択します。</li> </ul>
B フィルタ条件の行	<p>各行には、テーブルに適用するフィルタ条件を指定します。行は必要な数だけ追加できます。行ごとに、次のメニュー選択を使用して条件を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表属性 – 表で使用可能なすべての属性がメニューに一覧表示されます。</li> </ul> <p>注: 選択する属性の名前が判明している場合は、最初の数文字を入力すれば、メニュー内の該当項目にカーソルをすばやく移動できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>フィルタ演算子 – フィルタ演算子は、属性タイプによって異なります。</li> <li>属性値 – 属性値は、属性によって異なります。</li> </ul>

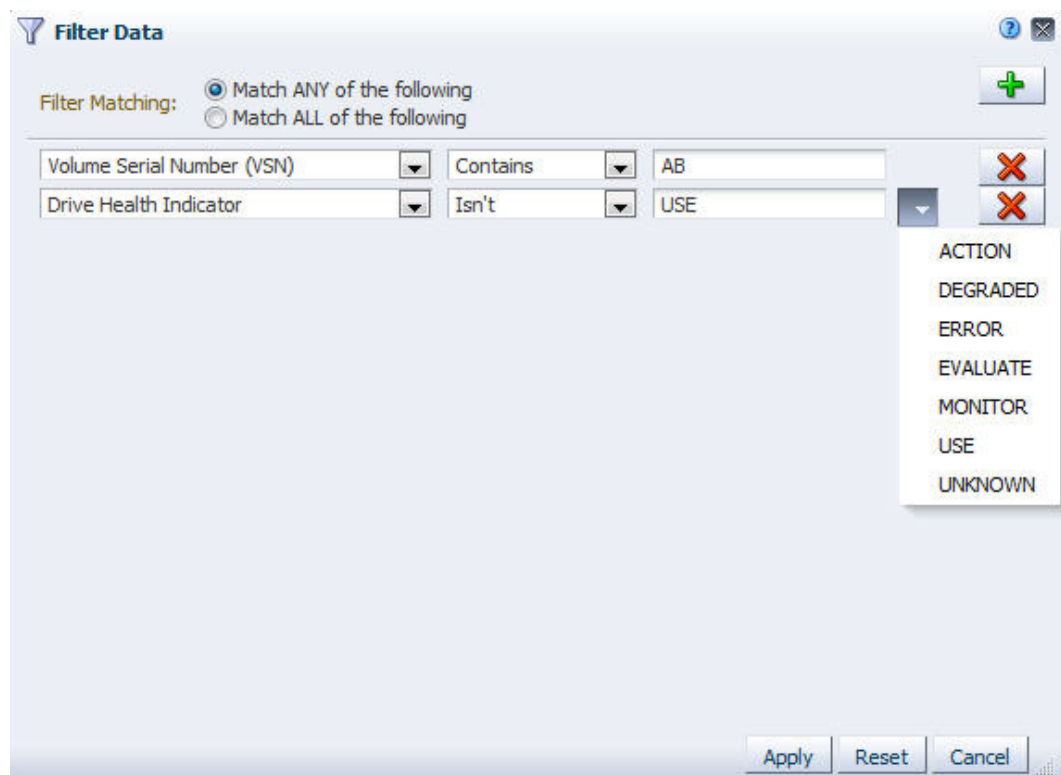
項目	名前	説明
		フィルタ演算子および属性値については、「 <a href="#">属性タイプ別のフィルタ演算子</a> 」を参照してください。
C	フィルタ条件のボタン	ボタンを使用すると、新しいフィルタ条件の行を追加したり、関連する行を削除したりできます。
D	ボタン	次のボタンのいずれかをクリックします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>「<b>Apply</b>」 – 指定したフィルタ条件をテーブルに適用します。詳細は、「<a href="#">Filter Data</a>」ダイアログボックスを使用したテーブルフィルタの変更」を参照してください。</li> <li>「<b>Reset</b>」 – すべてのレコードがテーブルに表示されるように、フィルタ条件をすべて削除します。詳細については、「<a href="#">現在のフィルタのクリア</a>」を参照してください。</li> <li>「<b>Cancel</b>」 – 変更を適用せずに、ダイアログボックスを終了します。</li> </ul>

## 4.2.2. 属性タイプ別のフィルタ演算子

このセクションでは、選択条件の作成時に使用する演算子について説明します。使用可能な演算子は、属性のタイプによって異なります。

### テキスト属性演算子

テキスト属性の例には、「Drive Health Indicator」、「Volume Serial Number」、および「Drive WWNN」があります。



- 「**Is**」 – 指定した文字列と正確に一致する属性値が含まれるレコードを選択します。
- 「**Isn't**」 – 指定した文字列と正確に一致しない属性値が含まれるレコードを選択します。
- 「**Is Blank**」 – 空白または NULL の属性値が含まれるレコードを選択します。これは、STA で特定の属性値が設定されなかったレコードを選択する際に役立ちます。たとえば、条件「% Drive Utilization (30 Days) Is Blank」では、過去 30 日間に使用されていないすべてのドライブが選択されます。
- 「**Starts With**」 – 指定した文字列で始まる属性値が含まれるレコードを選択します。
- 「**Contains**」 – 指定した文字列が属性値内の任意の場所に含まれるレコードを選択します。
- 「**Doesn't Contain**」 – 指定した文字列が属性値内の任意の場所に含まれないレコードを選択します。
- 「**Ends With**」 – 指定した文字列で終わる属性値が含まれるレコードを選択します。

テキストエントリの大文字と小文字は区別されません。たとえば、「ABC」は「abc」や「Abc」と一致します。

一部のテキスト属性は自由形式です。この場合、関連するテキストエントリフィールドに文字列を入力します。

その他のテキスト属性は事前に定義されています。この場合、指定可能な値のメニューから値を選択します。必ずしも、リスト表示される値に、STA ユーザー名に対して現在適用されているフィルタまたは現在削除されているドライブとメディアの表示設定が反映されているわけではありません。たとえば、「Drive Health Indicator」ドロップダウンメニューに、モニター対象のライブラリに現在含まれていない健全性値が表示されることがあります。

#### 論理グループ演算子

論理グループでフィルタリングする場合、ほかのテキスト属性でのフィルタリング時と同じ演算子を使用できます。ただし、ドライブとメディアは複数の論理グループに割り当てられることがあるため、排他的一致を実行する「Is」および「Isn't」演算子では、論理グループで予期した結果にならない可能性があります。論理グループでのフィルタリング時には、通常「Contains」および「Doesn't Contain」演算子がより適しています。

論理グループでのフィルタリングに使用する場合、これらの演算子によって次の結果になります。

- 「**Is**」 – 指定した論理グループにのみ割り当てられていて、ほかのものには割り当てられていないドライブとメディアを選択します。

- 「**Isn't**」 – 指定した論理グループにのみ割り当てられていてほかのものには割り当てられていないものを除く、すべてのドライブとメディアを選択します。
- 「**Contains**」 – 指定した論理グループとほかのものに割り当てられているドライブとメディアを選択します。
- 「**Doesn't Contain**」 – 指定したグループに割り当てられてないが、ほかのものに割り当てられているドライブとメディアを選択します。

詳細は、「[論理グループでフィルタリング](#)」を参照してください。

#### 日付とタイムスタンプの演算子

タイムスタンプ属性の例には、「STA Start Tracking (Dates)」と「Last Exchange Start (Dates)」が含まれます。

The screenshot shows the 'Filter Data' dialog box with the following configuration:

- Filter Matching:** Match ANY of the following (selected)
- Filter 1: STA Start Tracking (Dates) Is Before 2013-07-16 15:47:10
- Filter 2: Last Exchange Start (Dates) Equals 2013-07-17 12:27:04

- 「**Equals**」 – 指定した日時と等しい属性日時が含まれるエントリを選択します。
- 「**Isn't**」 – 指定した日時と等しくない属性日時が含まれるエントリを選択します。
- 「**Is Before**」 – 指定した日時よりも前の属性日時が含まれるエントリを選択します。
- 「**Is After**」 – 指定した日時よりもあとの属性日時が含まれるエントリを選択します。

#### 「日数」演算子

「日数」属性の例には、「STA Start Tracking (No. Days)」と「Last Exchange Start (No. Days)」が含まれます

The screenshot shows the 'Filter Data' dialog box with the following configuration:

- Filter Matching:** Match ANY of the following (selected)
- Filter 1: Exchange Start (No. Days) Less than # days ago 2
- Filter 2: STA Start Tracking (No. Days) More than # days ago 5

- 「**Less than # days ago**」 – 指定した日数前の日付よりも前 (<) に発生したエントリを選択します。
- 「**More than # days ago**」 – 指定した日数前の日付よりもあと (>) に発生したエントリを選択します。

関連するテキストエントリフィールドに値を入力します。

これらの演算子は、保存されているテンプレートに時間関連のフィルタを含める場合に特に役立ちます。特定の日付とタイムスタンプよりも、経過時間に基づいてレコードを選択することで、現在および今後においてフィルタが役立ちます。

#### 数値演算子

数値属性の例には、「Media Length in Meters」と「Exchange Elapsed Time」が含まれます。

The screenshot shows a 'Filter Data' dialog box. Under 'Filter Matching', the 'Match ANY of the following' radio button is selected. Below this, there are two filter rules, each with a red 'X' button to its right:

Media MB Avail Pre	Less Than	2000000
Exchange Elapsed Time	Greater Than	120

- 「**Is**」 – 指定した値と等しい属性値が含まれるレコードを選択します。
- 「**Isn't**」 – 指定した値と等しくない属性値が含まれるレコードを選択します。
- 「**Less Than**」 – 指定した値よりも小さい (<) 属性値が含まれるレコードを選択します。
- 「**Greater Than**」 – 指定した値よりも大きい (>) 属性値が含まれるレコードを選択します。

関連するテキストエントリフィールドに値を入力します。エントリには測定単位 (MB など) を含めないでください。小数は使用可能です。

#### ブール演算子

ブール属性の例には、「Cleaning Media」と「Exchange Write Inefficient」が含まれます

The screenshot shows a 'Filter Data' dialog box. Under 'Filter Matching', the 'Match ANY of the following' radio button is selected. Below this, there are two filter rules, each with a red 'X' button to its right:

Cleaning Media	False
Alert: Media Directory Corrupt	True

- 「**True**」 – 条件に当てはまるレコードを選択します。
- 「**False**」 – 条件に当てはまらないレコードを選択します。

### 4.2.3. 集計数リンクを使用したフィルタリング

ピボットテーブル内のセルには、特定の条件を満たすリソースまたはイベントの集計数が含まれます。したがって、フィルタは各集計数に固有であり、ピボットテーブルの縁に表示される選択条件に基づきます。ピボットテーブルのレイヤーおよびフィルタの詳細については、「*STA 画面基本ガイド*」を参照してください。



たとえば、次の「Drives – Analysis」ピボットテーブルでは、「MONITOR」列の「5」は、健全性ステータスが「Monitor」のドライブが合計で 5 台あることを示します。

		ACTION	MONITOR	UNKNOWN	USE	Total
A-SL8500	1 HP	0	0	0	5	5
	STK	0	4	0	35	39
	Drive Manufacturer Total	0	4	0	40	44
	Library Number Total	0	4	0	40	44
B-SL3000	2 HP	0	0	0	8	8
	STK	0	1	0	35	36
	Drive Manufacturer Total	0	1	0	43	44
	Library Number Total	0	1	0	43	44
C-SL500	3 HP	0	0	0	5	5
	Drive Manufacturer Total	0	0	0	5	5
	Library Number Total	0	0	0	5	5
	Library Complex Name Total	0	5	0	88	93

このリンクをクリックすると、「Drives – Overview」画面に移動し、テーブルの縁に基づいて適切なフィルタが適用されます。フィルタ条件は、テーブルの「Applied Filter」領域に示されます。

注:

すでに「Analysis」または「Overview」画面に適用されているフィルタは、テーブルの縁に基づくフィルタによってオーバーライドされます。

注:

250 文字を超えるフィルタの説明は切り捨てられます。カーソルをテキストの上に置くと、完全な説明を含むツールチップが表示されます。

Drive WWNN	Drive Serial Number	Drive Type	Drive Health Indicator	Exchange Start	Volume Serial Number(VSN)	Media Manufacturer Serial Number	Mec Hea Indi
29:90:A3:DF:13:14:DF:8C	1920103806	T10000B	🚩	2011-08-09 02:16:37	B9F62642	B9F62642	
35:94:5F:7F:AB:CA:84:4C	206054111	T10000C	🚩	2011-08-08 14:34:06	BFC06B3B	BFC06B3B	
38:FA:39:62:B8:A6:FA:47	143286306	T10000B	🚩	2011-08-08 11:16:53	N0CAF1F5	N0CAF1F5	
AB:57:E1:FC:4B:70:27:C4	92701162	T10000C	🚩	2011-08-09 04:40:53	P7F57070	P7F57070	
C9:E5:A6:B3:7F:7A:F9:2f	1998779359	T10000B	🚩	2011-08-08 12:13:11	WF01E3CA	WF01E3CA	

詳細な手順については、「[集計数リンクを使用したフィルタの適用](#)」を参照してください。

#### 4.2.4. テンプレートの適用によるフィルタリング

テンプレートを適用すると、テンプレートの定義に含まれるフィルタ条件が自動的に適用されます。すでに有効になっている可能性のあるフィルタは、これらの条件によってオーバーライドされます。

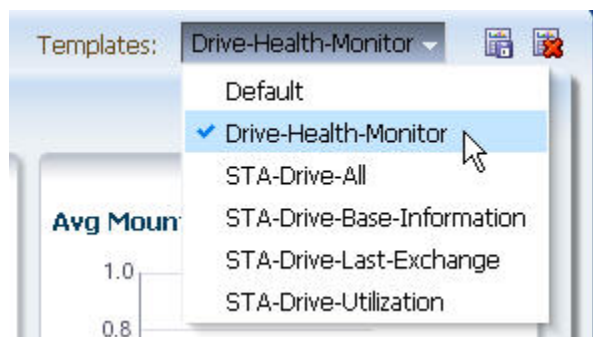


たとえば、次の「Drives – Analysis」ピボットテーブルには、「Drive Health Indicator=USE」フィルタが適用されています。



Drive WWNN	Drive Serial Number	Drive Type	Drive Health Indicator	Exchange Start	Volume Serial Number (VSN)	Media Manufacturer Serial Number	Mec
0:9A:CD:F2:34:8E:61:B6	2118184903	T10000C	✓	2011-08-07 20:40:21	L47ED806	L47ED806	
12:F9:4A:4A:EA:FC:5:38	867332006	T10000B	✓	2011-08-09 03:43:19	F4956CA9	F4956CA9	
1F:23:4F:C5:FA:6F:A1:B2	1401403333	T10000B	✓	2011-08-08 17:07:11	P7F6D442	P7F6D442	
1F:FD:6C:2B:F3:98:7B:EC	1885765667	HP-LTO4	✓	2011-08-09 03:05:58	B6D032F3	B6D032F3	

別のフィルタ (この場合は、「Drive Health Indicator=MONITOR」) が含まれるテンプレートを適用すると、テーブルの表示が変更され、元のフィルタがオーバーライドされます。



新しいフィルタ条件は、テーブルの「Applied Filter」領域に示されます。

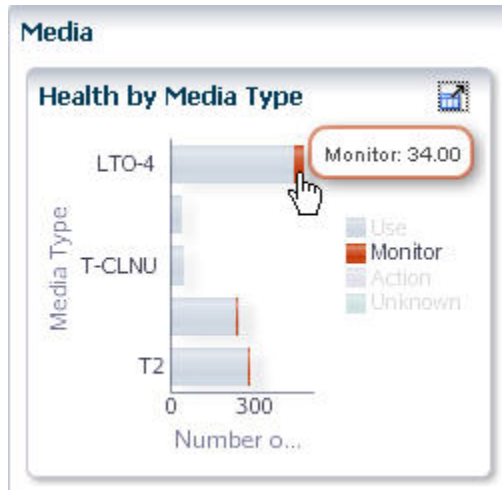


Drive WWNN	Drive Serial Number	Drive Type	Drive Health Indicator	Exchange Start	Volume Serial Number (VSN)	Media Manufacturer Serial Number	Mec
29:90:A3:DF:13:14:DF:8C	1920103806	T10000B	⚠	2011-08-09 02:16:37	B9F62642	B9F62642	
35:94:5F:7F:AB:CA:84:4C	206054111	T10000C	⚠	2011-08-08 14:34:06	BFC0683B	BFC0683B	
38:FA:39:62:B8:A6:FA:4F	143286306	T10000B	⚠	2011-08-08 11:16:53	NOCAF1F5	NOCAF1F5	
AB:57:E1:FC:4B:7D:27:C4	92701162	T10000C	⚠	2011-08-09 04:40:53	P7F57070	P7F57070	
C9:E5:A6:B3:7F:7A:F9:26	1998779359	T10000B	⚠	2011-08-08 12:13:11	WF01E3CA	WF01E3CA	

#### 4.2.5. ダッシュボードグラフィックスを使用したフィルタリング

ダッシュボードの棒グラフ、円グラフ、および面グラフには、特定の条件を満たすリソースまたはイベントの集計データが表示されます。したがって、フィルタは、これらのダッシュボードグラフの各セクションに固有です。

たとえば、次の「Health by Media Type」グラフでは、LTO-4 バーの選択されたセクションに、健全性ステータスが「Monitor」のドライブが 34 台あることが表示されています。



バーのこのセクションをクリックすると、「Media – Overview」画面に移動し、固有のフィルタが適用されます。フィルタ条件は、テーブルの「Applied Filter」領域に示されます。

Format: [Icons] Applied Filter: Media Type=LTO-4 and Media Health Indicator=MONITOR

Volume Serial Number	Media Type	Media Health Indicator	Media MB Available	Drive WWNN	Drive Type	Drive Health Indicator	Last Exchange Start
ABBE24DF	LTO-4	⚠	961	C5:D0:98:EB:F4:24:DE:BF	HP-LTO4	✔	2011-08-08 05:52:10
C379E7BF	LTO-4	⚠	3,232	FC:AF:84:58:1D:67:58:3C	HP-LTO4	✔	2011-08-08 02:11:11
D2383917	LTO-4	⚠	261,061	7C:A0:A7:19:BC:22:79:A1	HP-LTO4	✔	2011-08-06 16:50:17
D5E829DC	LTO-4	⚠	2,745	51:29:C2:88:54:D0:B1:6E	HP-LTO4	✔	2011-08-06 10:23:43

## 4.3. フィルタリングタスク

- 「「Filter Data」ダイアログボックスを使用したテーブルフィルタの変更」
- 「現在のフィルタのクリア」
- 「集計数リンクを使用したフィルタの適用」
- 「ダッシュボードからのフィルタの適用」

### 4.3.1. 「Filter Data」ダイアログボックスを使用したテーブルフィルタの変更

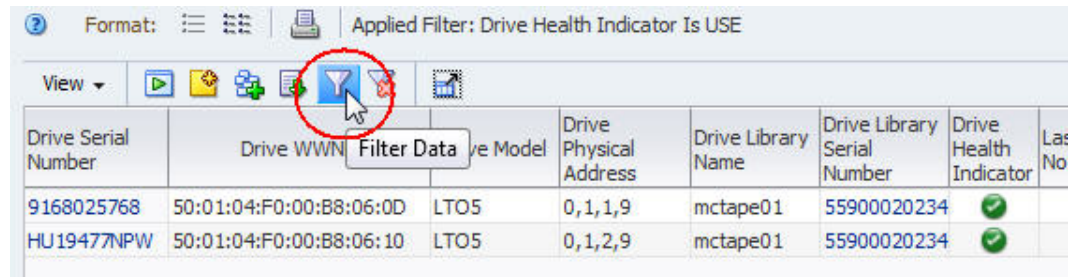
注:

この手順は、ピボットテーブルとリストビューテーブルの両方に適用されます。

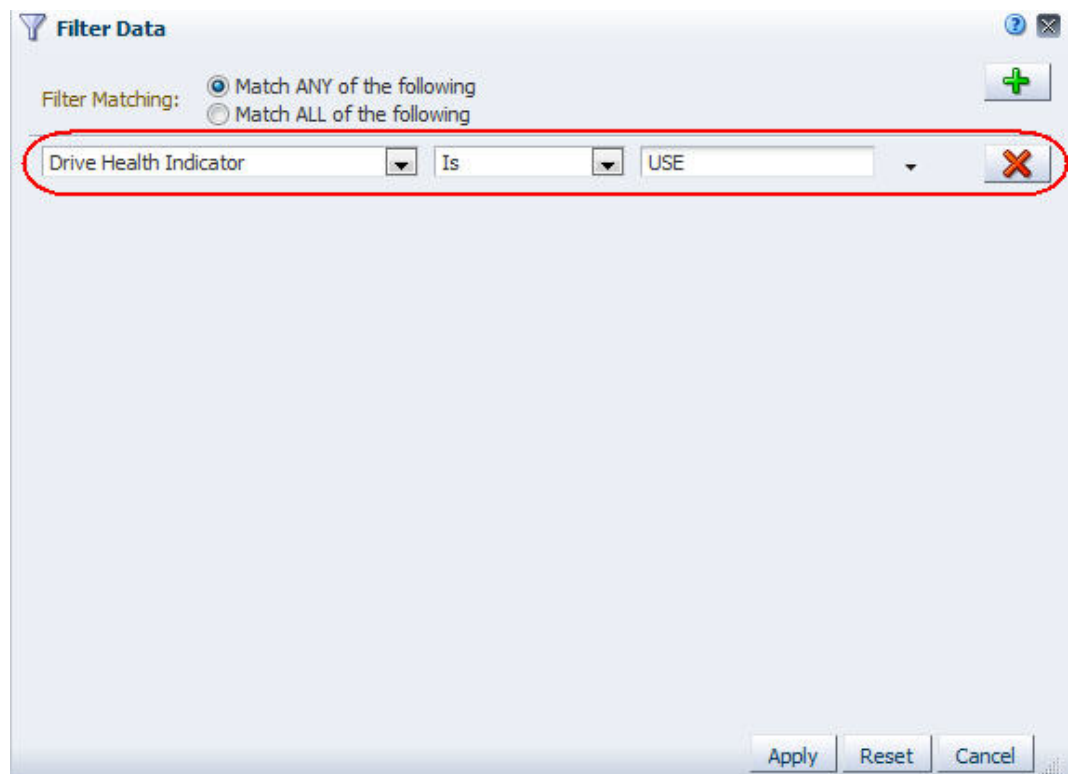
この手順を使用して、現在のテーブルに新しいフィルタ条件を適用します。1つ以上のレコード属性でフィルタリングしたり、選択したフィルタ条件を削除したりできます。

「パートナ」とペアリングされている画面では、1つの画面に適用されたフィルタは自動的にパートナにも適用されます。詳細については、「[フィルタの適用](#)」を参照してください。

1. テーブルツールバーで「**Filter Data**」をクリックします。

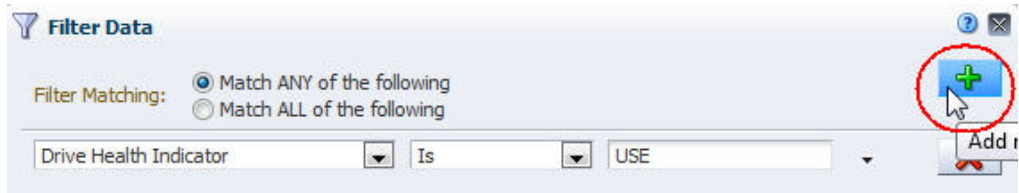


「Filter Data」ダイアログボックスが表示されます。すでにフィルタが適用されている場合、次の例のように、その条件がダイアログボックスに表示されます。



2. 次のようにダイアログボックスでフィルタ条件を指定します。
  - a. 「**Filter Matching**」フィールドで、指定した任意の条件と一致するか、すべての条件と一致するかを示すいずれかのオプションを選択します。詳細は、[を参照してください](#)。

- b. 「**Add New Filter Criteria**」をクリックして、ダイアログボックスに新しい空のフィルタ条件の行を追加します。

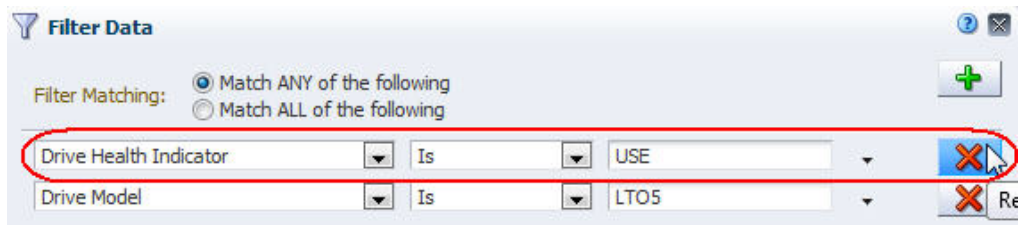


- c. メニューおよび行のテキストフィールドを使用して、フィルタ条件を指定します。各行の入力の詳細は、「[属性タイプ別のフィルタ演算子](#)」を参照してください。

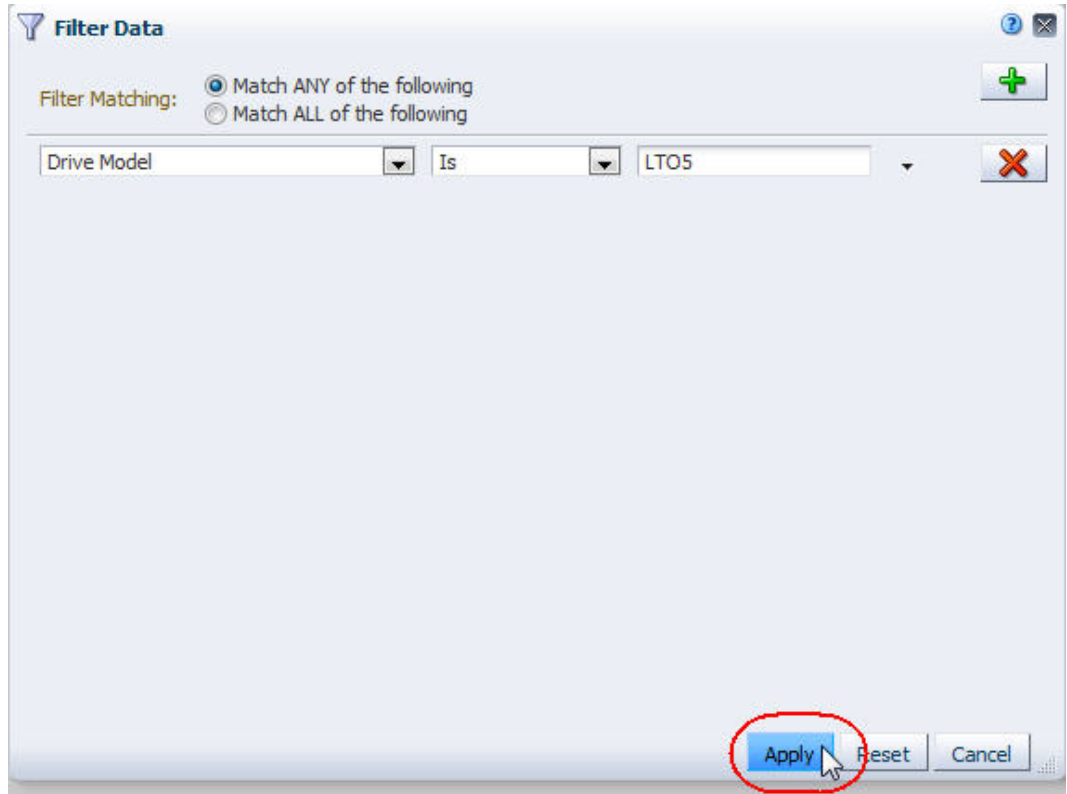
注:

フィルタリングの属性を選択する際に、選択する属性の名前がわかっている場合は、最初の数字を入力すると、メニュー内のその項目にカーソルをすばやく移動できます。

- d. フィルタ条件の行は必要な数だけ追加できます。  
 e. フィルタ条件を削除するには、関連する行で「**Remove This Filter Criteria Row**」をクリックします。

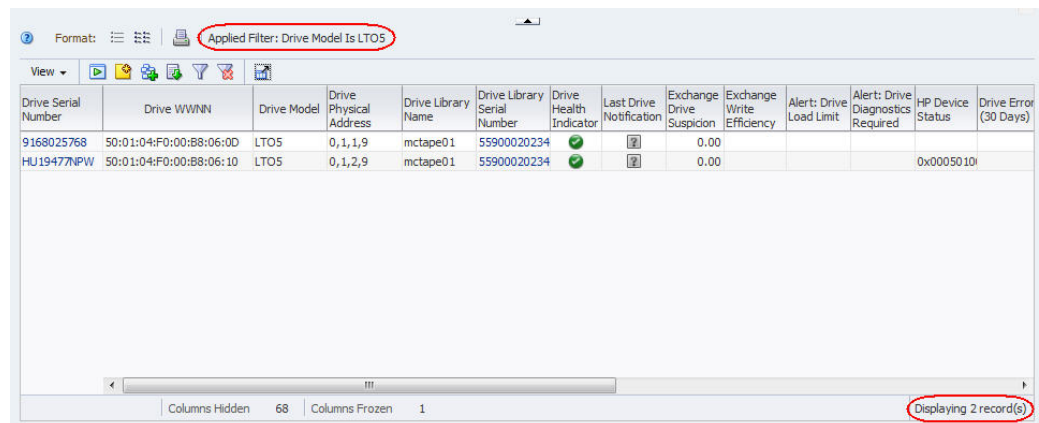


3. 指定が正しいことを確認して、「**Apply**」をクリックします。

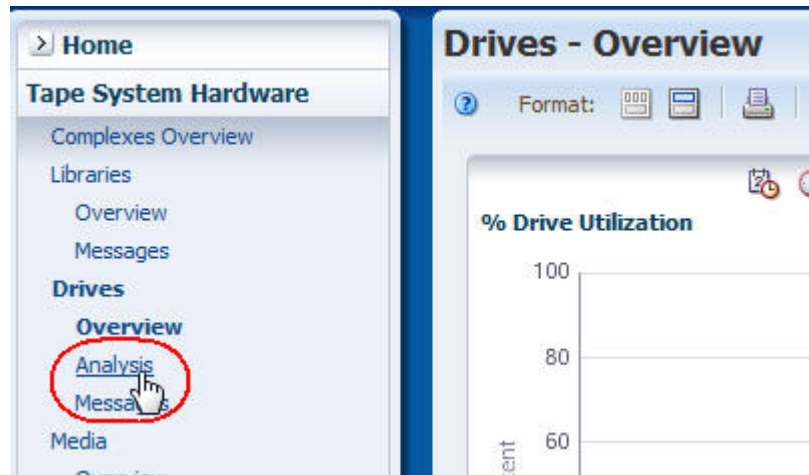


テーブルは次のように更新されます。

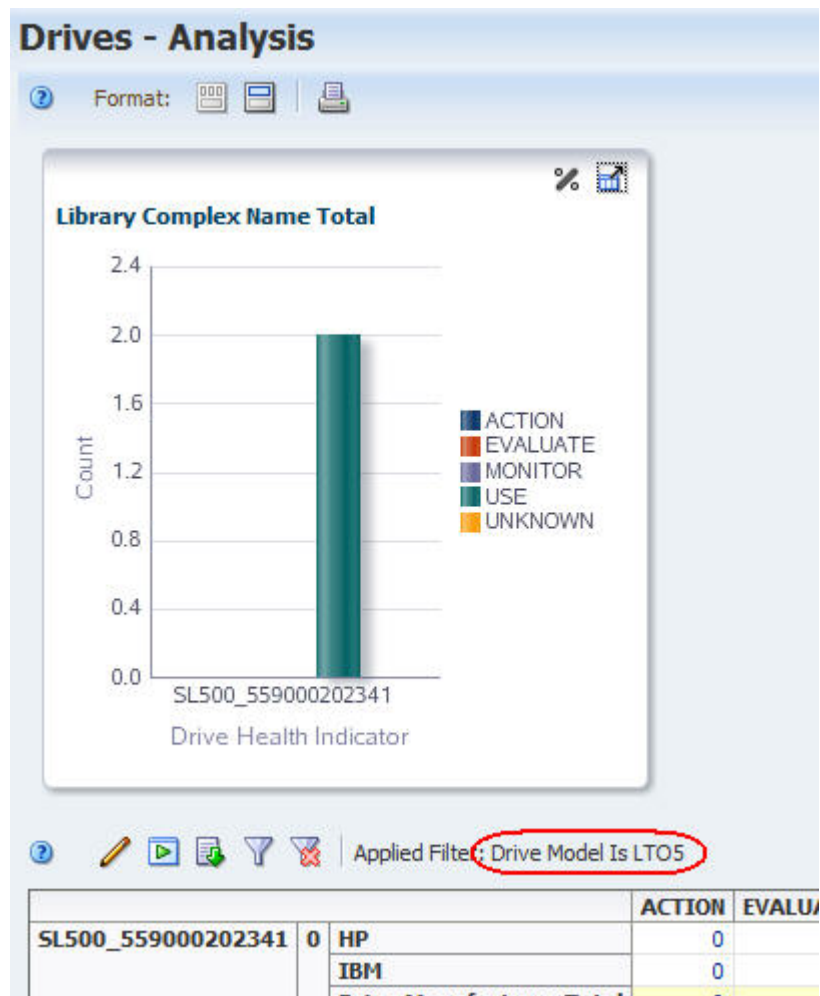
- テーブルには、指定した条件を満たすレコードのみが表示されます。
- 「Applied Filter」領域には、指定された条件が示されます。
- リストビューテーブルの場合、テーブルのステータス行にレコード数が示されます。



4. 画面が「Drives」、「Media」、または「All Messages」画面のペアのいずれかである場合、フィルタ条件もそのパートナーに適用されます。パートナーの画面に移動して、これを確認できます。



両方の画面上のテーブルの「Applied Filter」領域に、同じフィルタが表示されます。



### 4.3.2. 現在のフィルタのクリア

注:

この手順は、ピボットテーブルとリストビューテーブルの両方に適用されます。

この手順を使用して、テーブルからすべてのフィルタ条件を削除します。

注:

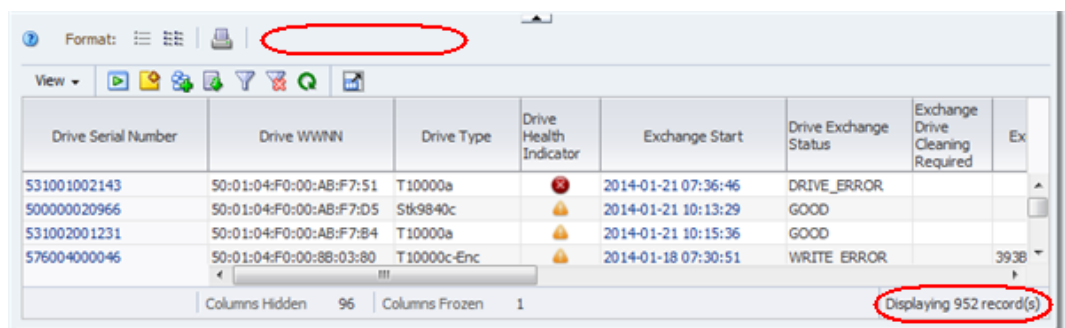
選択したフィルタ条件をテーブルから削除する場合は、「[Filter Data](#)」ダイアログボックスを使用した「[テーブルフィルタの変更](#)」を参照してください。

1. テーブルツールバーで「**Reset Filter**」をクリックします。



テーブルは次のように更新されます。

- 使用可能なすべてのレコードが表示されるように、すべてのフィルタ条件がテーブルから削除されます。
- 「Applied Filter」領域は空白で、フィルタ条件が現在適用されていないことを示しています。
- リストビューテーブルの場合、テーブルのステータス行に表示されたレコード数が示されます。





### 4.3.3. 集計数リンクを使用したフィルタの適用

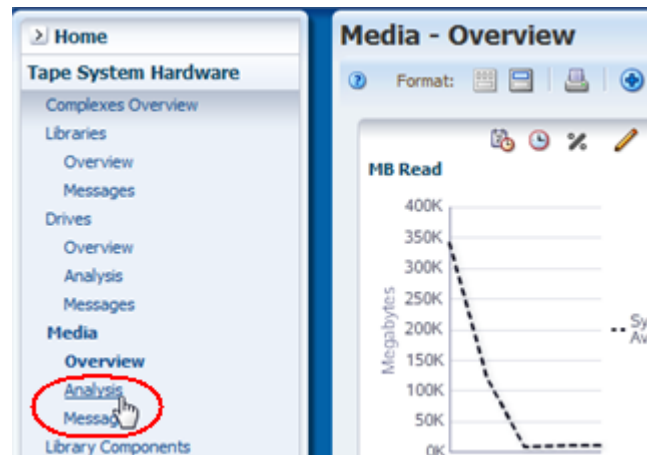
この手順を使用して、「パートナ」の「Analysis」画面のピボットテーブルで集計数リンクをクリックすることで、「Overview」画面にフィルタを適用します。結果の表示には、集計数に関する詳細が表示されます。

各表セルの集約数は、各表レイヤーに組み込みのフィルタ基準を「AND」文で結合した結果です。ピボットテーブルのセルで集計数リンクをクリックすると、関連するフィルタ条件が「Overview」画面に適用されます。

注:

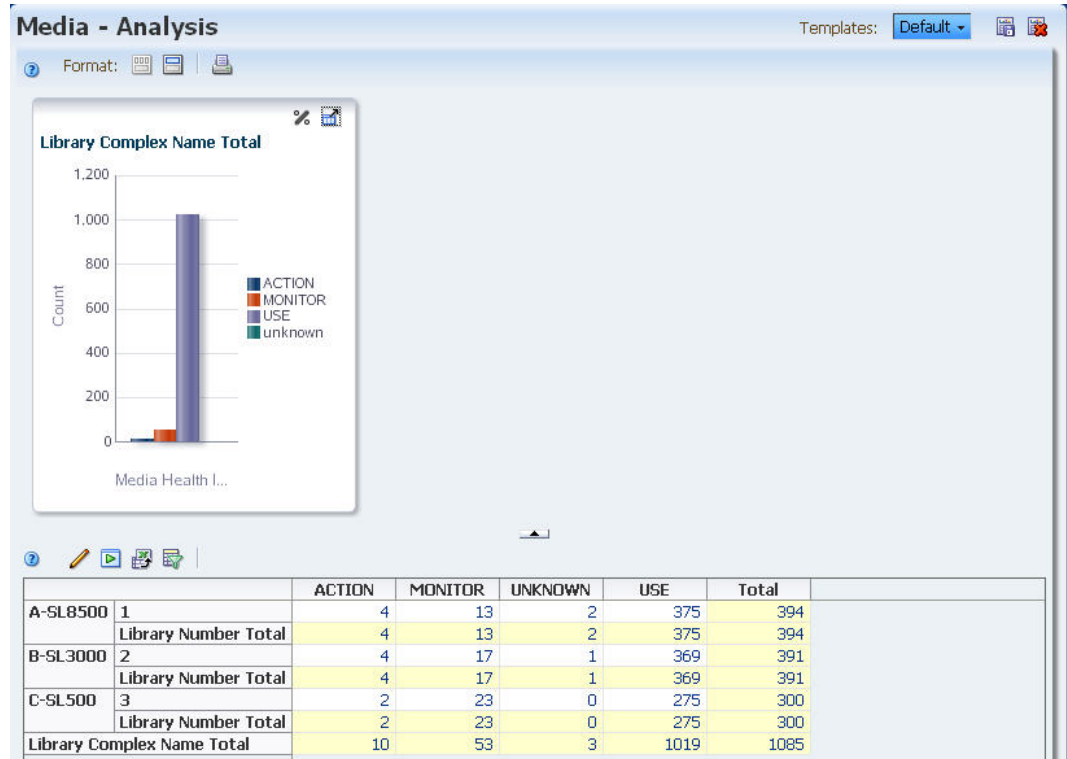
すでに「Overview」画面に適用されているフィルタは、この方法で適用されたフィルタでオーバーライドされます。

1. ナビゲーションバーを使用して、「Analysis」画面を起動します。



この例では、「Media – Analysis」画面が使用されています。



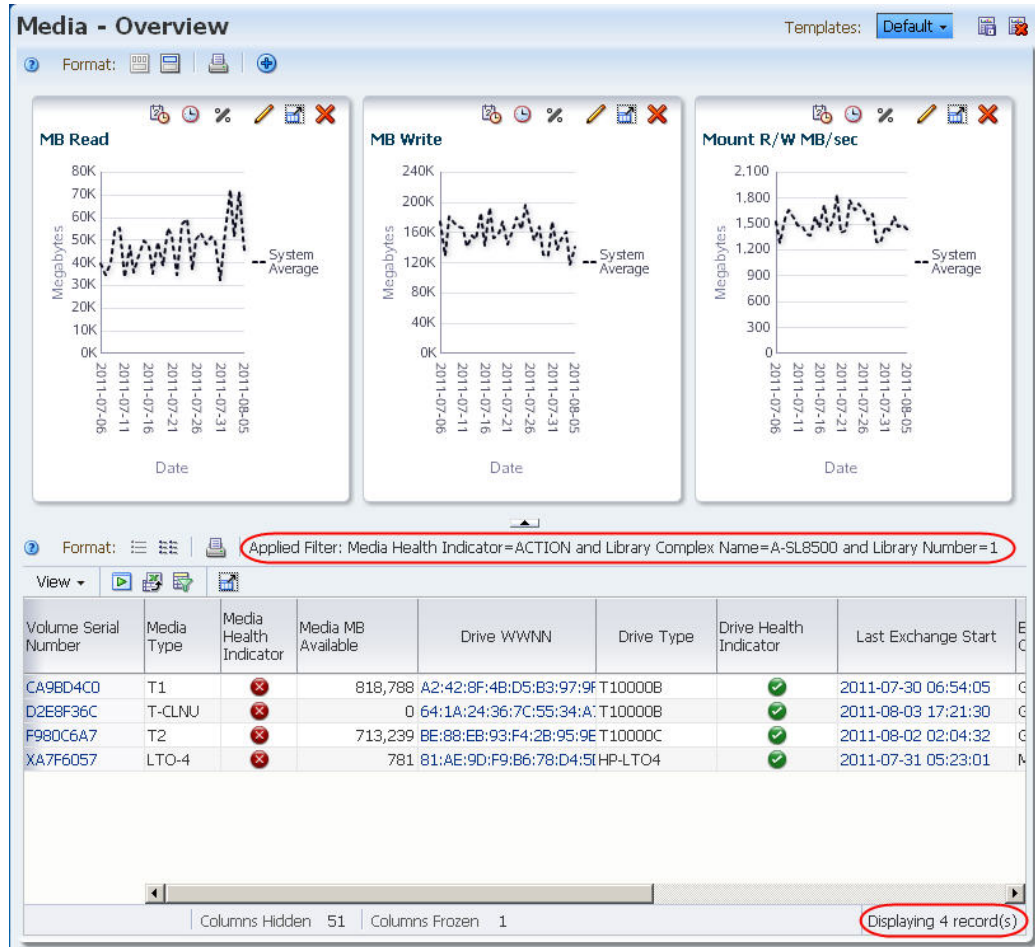


2. ピボットテーブルで、集計数リンクをクリックします。

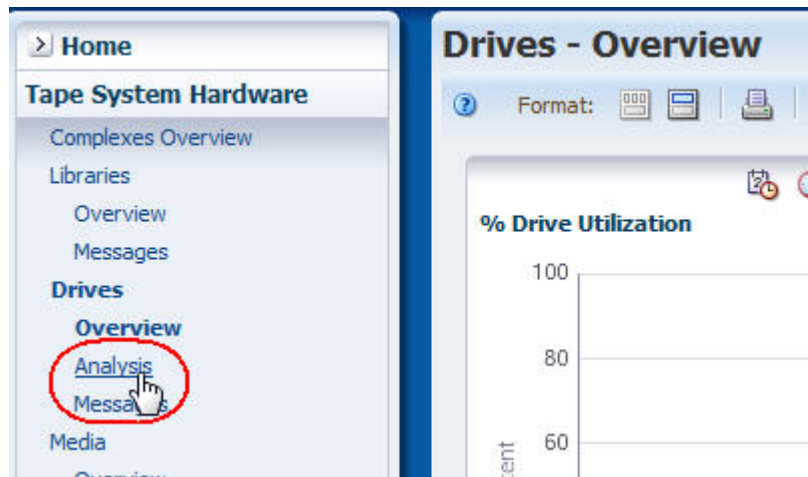
	ACTION	MONITOR	UNKNOWN	USE	Total
A-SL8500 1	4	13	2	375	394
Library Number Total	4	13	2	375	394
B-SL3000 2	4	17	1	369	391
Library Number Total	4	17	1	369	391
C-SL500 3	2	23	0	275	300
Library Number Total	2	23	0	275	300
Library Complex Name Total	10	53	3	1019	1085

「パートナ」の「Overview」画面 (この例では、「Media – Overview」) に移動し、リストビューテーブルが次のように更新されます。

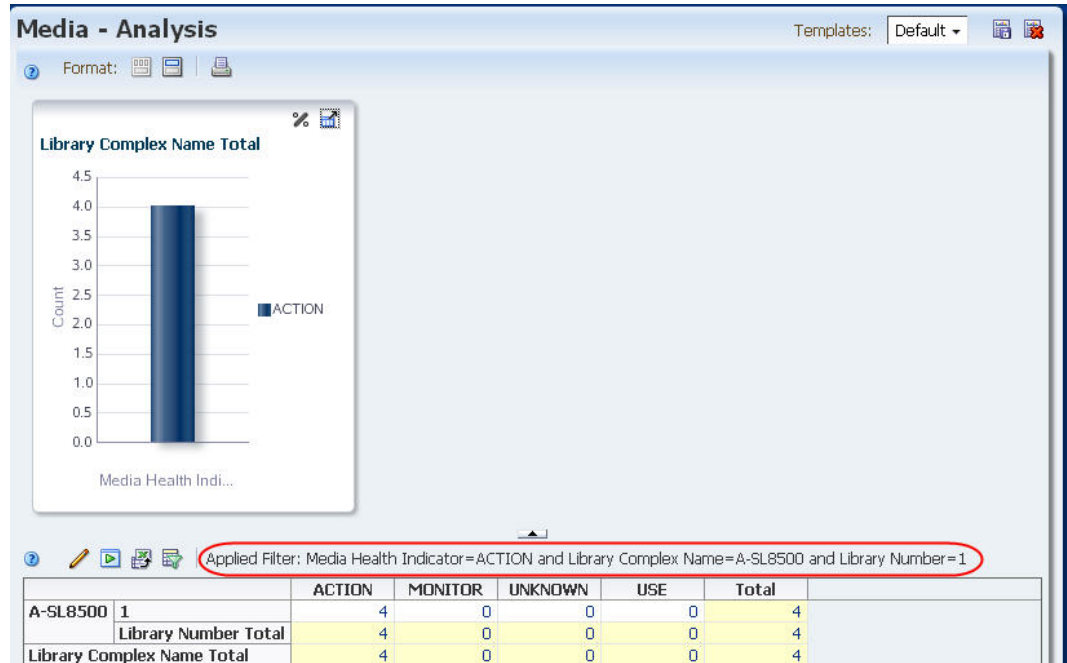
- テーブルには、ピボットテーブルの集計数に含まれるレコードのみが表示されます。
- 「Applied Filter」領域には、集計数のフィルタ条件が示されます。
- テーブルのステータス行には、表示されたレコード数が示されます。この数値は、ピボットテーブルの集計数と同じです。



- ナビゲーションバーを使用して、「Analysis」画面に戻ります。



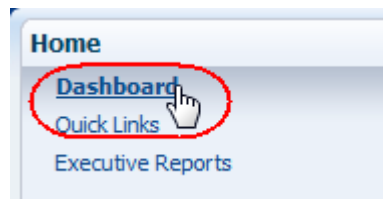
フィルタはアクティブのままです。したがって、「Analysis」画面には、元の集計数リンクに固有の選択条件を満たすレコードのみが表示されます。



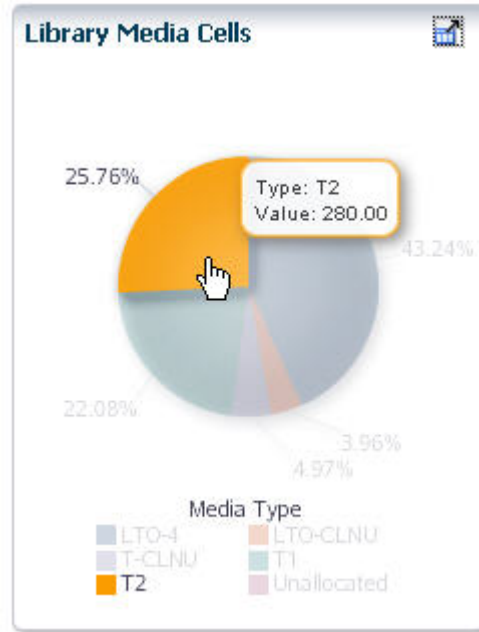
#### 4.3.4. ダッシュボードからのフィルタの適用

この手順を使用して、ダッシュボードで棒グラフまたは円グラフのセクションをクリックすることでフィルタを適用します。対応する「Overview」画面に移動し、棒グラフまたは円グラフのセクションに固有のフィルタが適用されます。この手順を使用すると、ダッシュボードに表示されたデータに関する詳細を表示できます。

1. ナビゲーションバーを使用して、ダッシュボードに移動します。

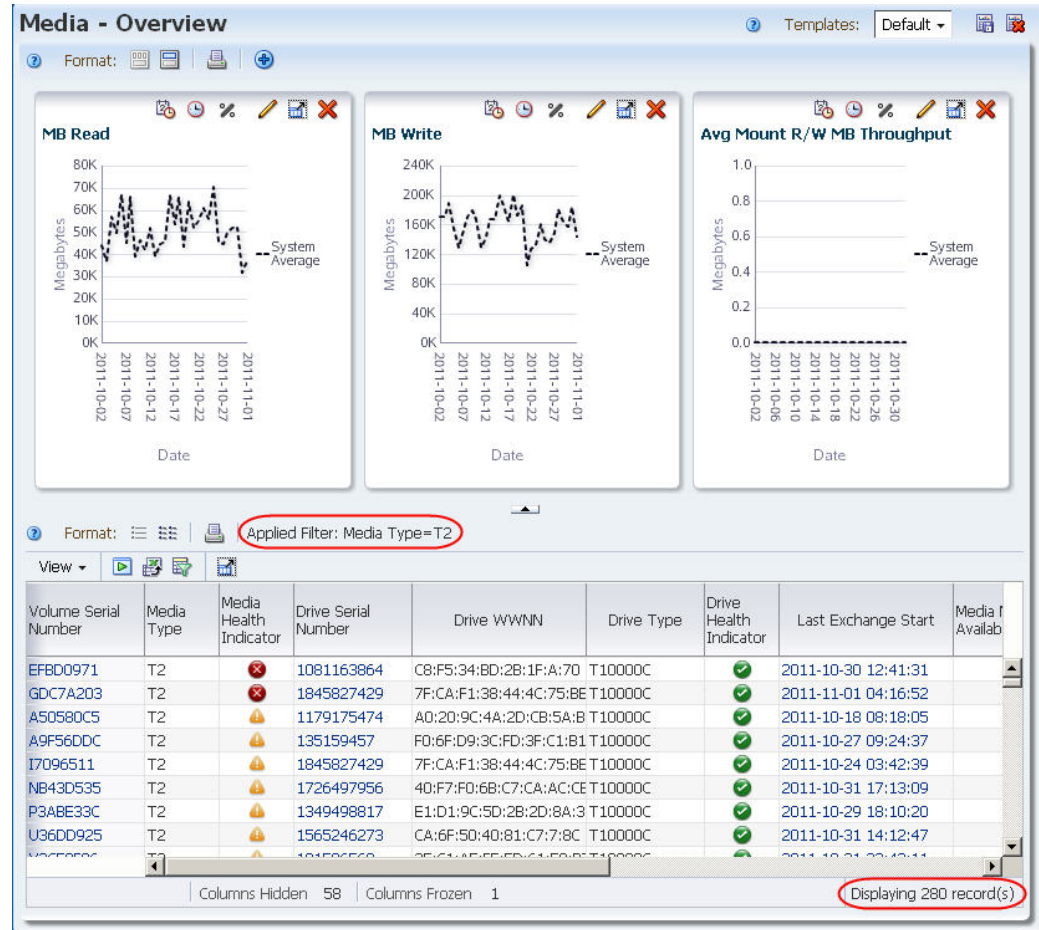


2. ダッシュボードの棒グラフまたは円グラフのセクションをクリックします。



対応する「Overview」画面 (この例では、「Media – Overview」) に移動し、リストビューテーブルが次のように更新されます。

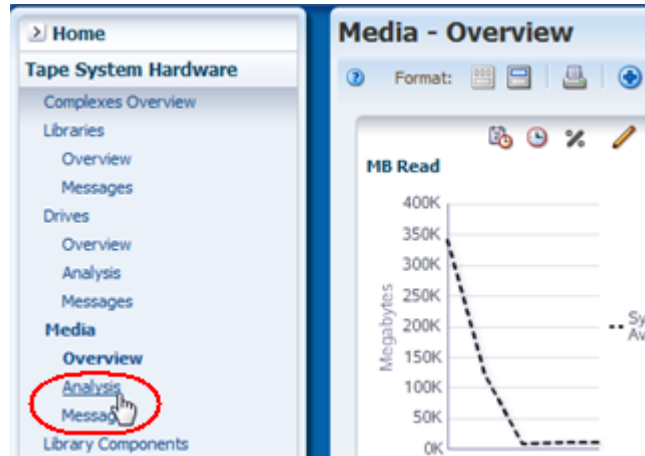
- テーブルには、選択したダッシュボードセクションに含まれるレコードのみが表示されます。
- 「Applied Filter」領域には、選択したセクションのフィルタ条件が示されます。
- テーブルのステータス行には、表示されたレコード数が示されます。この数値は、選択したダッシュボードセクションの値と同じです。



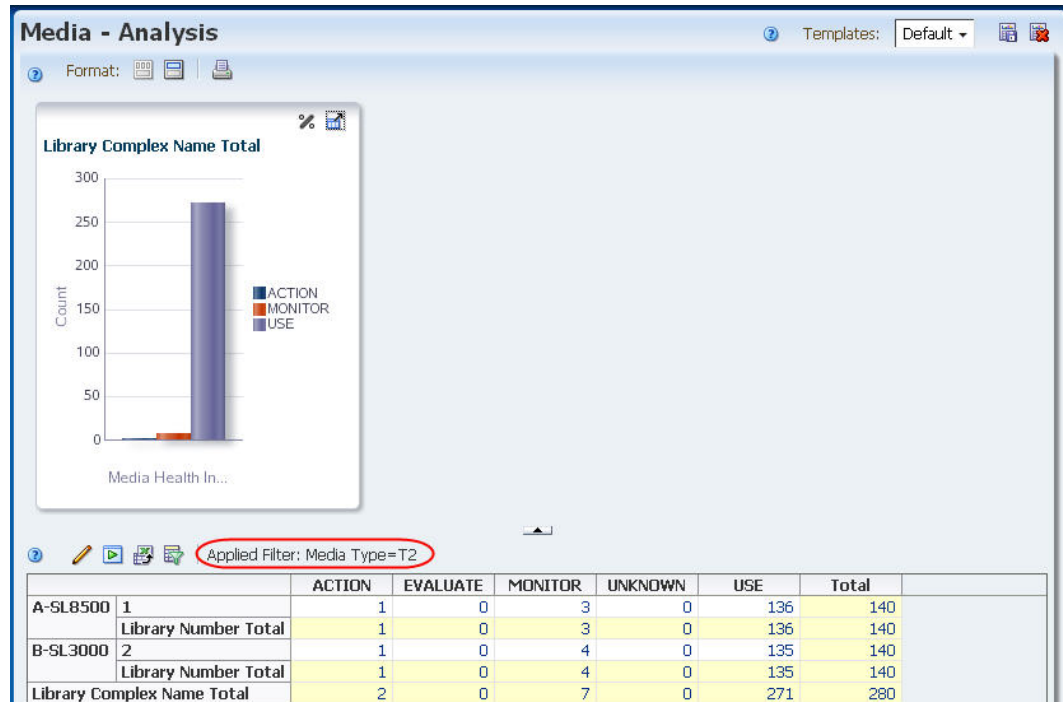
- ナビゲーションバーを使用して、「パートナ」の「Analysis」画面を選択します (該当する場合)。

注:

この段階は、「Drive」、「Media」、および「All Messages」画面にのみ適用されます。



フィルタはアクティブのままです。したがって、「Analysis」画面には、選択した棒グラフまたは円グラフのセクションに固有の選択条件を満たすレコードのみが表示されます。



## STA のアラート

STA のアラート機能は、ユーザー定義のアラートポリシーに基づいてテーブルライブラリシステムでのイベントと状況を通知します。必要な数のアラートポリシーを作成できます。アラートポリシーは、アラートを送信する条件とイベントのタイプ、およびアラートが生成される頻度を識別します。オプションで、指定した電子メールアドレスにアラートを送信することを指定できます。

この章の内容は次のとおりです。

- [アラートの動作方法](#)
- [アラート管理のユーザーの役割](#)
- [アラートポリシーの定義に関する詳細](#)
- [アラート電子メール](#)
- [アラートワークフロー](#)
- [アラート管理タスク](#)

### 5.1. アラートの動作方法

STA のアラートプロセスは、次の部分で構成されています。

- [「アラートポリシーの定義」](#)
- [「アラートの生成」](#)
- [「生成されたアラートのモニタリング」](#)

#### 5.1.1. アラートポリシーの定義

管理者権限を持つユーザーは、「**Setup & Administration**」タブの「Alerts Policies」画面からこの部分のプロセスを実行します。

アラートポリシーの作成時に、即時に有効にすることも、しばらくの間無効のままにすることもできます。さらに、いくつかのサンプルアラートポリシーが STA で提供されており、デフォルトで無効になっています (詳細は、「[STA のサンプルのアラートポリシー](#)」を参照してください)。有効になったアラートポリシーのみがアラートの生成に使用されます。



アラートポリシーを定義するには、次の情報を指定します。

- ポリシー名 – ポリシーの英数字の識別子。ポリシー名は一意である必要があります。
- ポリシーの説明 – ポリシーのオプションの説明。
- エンティティータイプ – エンティティーは、テープライブラリシステムのリソースまたはイベントです。アラートポリシーによって評価するエンティティーのタイプを指定する必要があります。オプションには、ライブラリ、ドライブ、メディア、交換、およびメディア検証が含まれます。完全なリストについては、「[アラートポリシーエンティティー](#)」を参照してください。
- 重要度 – このポリシーによって定義された条件が満たされるたびにアラートを生成する頻度を決定します。詳細は、「[アラートポリシーの重要度](#)」を参照してください。
- アラートの条件 – 該当するライブラリシステムのリソースを評価するユーザー定義の条件。アラート条件は、STA フィルタリング機能とほとんど同じ方法で機能します。詳細は、「[Filter Data](#) ダイアログボックス」を参照してください。
- 電子メール受信者 – ポリシーによってアラートが生成されるたびに電子メールを受信する電子メールアドレスのオプションのリスト。詳細は、「[アラート電子メール](#)」を参照してください。

### 5.1.2. アラートの生成

この部分のプロセスは、STA によって自動的に行われます。

STA は、有効になったアラートポリシーをバックグラウンドで連続的に評価します。特に、次のタイプのアクティビティーが発生するたびに、アラートポリシーが評価されます。

- 有効になったアラートポリシーが何らかの形で作成または変更される。
- ドライブ/メディアの交換が発生する。
- メディア検証の交換が発生する。
- モニター対象ライブラリから SNMP トラップを受信する。
- ライブラリデータの収集が発生する。
- STA アプリケーションまたはサーバーのイベントが発生する。

STA が、アラートポリシーの条件と重要度に基づいてアラートを生成する。ポリシーの条件が一致し、同じライブラリリソースとイベントの最後のアラートから十分な時間が経過した場合、新しいアラートが生成されます。期間は、ポリシーの重要度によって決まります。詳細は、「[アラートポリシーの重要度](#)」を参照してください。

アラートポリシーに電子メールアドレスが含まれている場合、アラートに関する詳細が含まれている電子メールが指定のアドレスに送信されます。詳細は、「[アラート電子メール](#)」を参照してください。



アラートポリシーの評価プロセスの詳細は、「[アラートポリシーの重要度の例](#)」を参照してください。

### 5.1.3. 生成されたアラートのモニタリング

すべての STA ユーザーが、「Alerts Overview」画面の「**Tape System Activity**」タブからこの部分のプロセスを実行できます。

画面には、生成されたアラートのリストが表示され、ニーズに合わせてこのリストをソート、フィルタ、エクスポート、および印刷できます。オペレータ権限を持つユーザーは、選択したアラートに注釈を付けることもできます。

サイトでアラートワークフローを使用している場合、選択したアラートの状態を更新して、現在の進捗を反映させることができます。アラートワークフロー管理は、オプションの手動プロセスです。詳細は、「[アラートワークフロー](#)」を参照してください。

## 5.2. アラート管理のユーザーの役割

表5.1「[アラートポリシーのユーザーの役割](#)」にそれぞれの STA ユーザーの役割で使用可能なアラートポリシー定義アクティビティのサマリーを示します。

表5.1 アラートポリシーのユーザーの役割

ユーザーの役割	アラートポリシーのアクティビティ	画面
オペレータ以上	定義済みのアラートポリシーのリストを表示、フィルタ、および出力します。	「 <b>Setup &amp; Administration</b> 」を選択して、「 <b>Alerts Policies</b> 」を選択します。
管理者のみ	アラートポリシーを定義します。 アラートポリシーをコピーします。 ポリシーの名前を変更します。 ポリシーの条件を変更します。 電子メール受信者のリストを変更します。 アラートポリシーを有効または無効にします。 アラートポリシーを削除します。	「 <b>Setup &amp; Administration</b> 」を選択して、「 <b>Alerts Policies</b> 」を選択します。

表5.2「アラートのモニタリングのユーザーの役割」にそれぞれの STA ユーザーの役割で使用可能なアラートモニタリングアクティビティのサマリーを示します。

表5.2 アラートのモニタリングのユーザーの役割

ユーザーの役割	アラートのモニタリングアクティビティ	画面
ビューア以上	<p>生成されるすべてのアラートのリストを表示、フィルタ、および出力します。</p> <p>アラートリストをスプレッドシートまたはドキュメントにエクスポートします。選択したアラートの詳細を表示します。</p> <p>選択したアラートの状態を変更します。</p> <p>消去したアラートを表示するか非表示にします。</p>	「 <b>Tape System Activity</b> 」を選択して、「 <b>Alerts Overview</b> 」を選択します。
オペレータ以上	アラートに注釈を付けます。	「 <b>Tape System Activity</b> 」を選択して、「 <b>Alerts Overview</b> 」を選択します。

### 5.3. アラートポリシーの定義に関する詳細

このセクションでは、アラートポリシーの作成時に役立つ追加の詳細を示します。次の情報が含まれています。

- 「アラートポリシーエンティティ」
- 「アラートポリシーの重要度」
- 「アラートポリシーのベストプラクティス」
- 「STA のサンプルのアラートポリシー」

#### 5.3.1. アラートポリシーエンティティ

次のタイプのエンティティ、またはテープライブラリシステムのリソースまたはイベントについてアラートポリシーを定義できます。

- ライブラリコンプレックス
- ライブラリ
- ドライブ
- メディア
- ロボット
- CAP

- PTP – SL8500 ライブラリにのみ関連します。
- エレベータ – SL8500 ライブラリにのみ関連します。
- 交換 – 交換のアラートポリシーがほかのポリシータイプとどのように異なる方法で処理されるのかに関する詳細は、「[アラートポリシーの重要度](#)」を参照してください。
- メディア検証 – メディア検証が STA で有効になっている場合にのみ適用されます。アラートは、中間結果ではなく最終検証結果によってのみ呼び出されます。詳細は、[8章「STA メディア検証」](#)を参照してください。
- STA アプリケーション自体 – STA アプリケーションの再起動のたびに通知を受け取るため。

### 5.3.2. アラートポリシーの重要度

ポリシーの重要度は、アラートがポリシーから生成される頻度を決定します。重要度レベルは次のとおりです。

- 重大 – アラートは 1 時間に 1 回生成される可能性があります。
- 警告 – アラートは 24 時間ごとに 1 回生成される可能性があります。
- 情報 – 1 つのアラートのみが生成されます。ポリシーの条件を引き続き満たしている場合でも、追加のアラートは生成されません。

割り当てられる重要度レベルの影響を詳細に説明した例については、「[アラートポリシーの重要度の例](#)」を参照してください。

#### 5.3.2.1. 交換およびメディア検証アクティビティのアラートポリシーと重要度

交換とメディア検証は持続リソースではなく別個のイベントであるため、時間の枠に関係なく、新しい交換または検証が処理され、ポリシーの条件が一致するたびに、交換とメディア検証のアラートポリシーがアラートを生成します。そのため、これらのアラートポリシーに割り当てた重要度レベルは無関係です。詳細は、次の [と](#) を参照してください。

さらに、交換とメディア検証のアラートポリシーでは、同じ交換または検証から複数のアラートを生成する可能性がある、重なり合うポリシーを作成しないように注意する必要があります。詳細は、「[多すぎるアラートの回避](#)」を参照してください。

#### 5.3.2.2. アラートポリシーの重要度の例

次の例は、特定のポリシーの条件と重要度に基づいてアラートを生成する方法とその時期を示しています。これらの例は、ポリシーの重要度レベルがアラート生成の頻度にどのように

影響を与えるかを示しています。この情報を使用すると、アラートポリシーに割り当てる重要度レベルを決定できます。

- 例 1 ドライブの「警告」ポリシー
- 例 1 ドライブの「情報」ポリシー
- 例 1 メディアの「重大」ポリシー
- 例 1 CAP の「重大」ポリシー
- 例 1 「Media Health Indicator」を使用した交換のポリシー
- 例 1 「Media Health Indicator」を使用したメディアの「警告」ポリシー

#### 例 1 ドライブの「警告」ポリシー

このポリシーは、ドライブに「ACTION」または「EVALUATE」の健全性があるために注意を必要とする、ドライブのアラートを生成します。

ポリシーエンティティ: ドライブ

ポリシーの重要度: 警告 – アラートは 24 時間ごとに生成される可能性があります。

ポリシーの条件: 「Drive Health Indicator」が「ACTION」であるか、「Drive Health Indicator」が「EVALUATE」です。

時間	イベント	評価	結果
1 日目、05:00:17	ポリシーが作成され、有効にされます。  ドライブ 1 の健全性は「EVALUATE」です。  ドライブ 2 の健全性は「MONITOR」です。	ポリシーはすべてのドライブについて評価され、ドライブ 2 ではなくドライブ 1 について照合されます。	ドライブ 1 のアラートが生成され、電子メールが定義済みの受信者に送信されます。  ドライブ 2 のアラートはありません。
1 日目、08:12:24	ドライブ 1 の健全性は「ACTION」になります。  ドライブ 2 の健全性はまだ「MONITOR」です。	ポリシーはすべてのドライブについて評価され、ドライブ 2 ではなくドライブ 1 について照合されます。	ドライブ 1 の最後のアラートから 24 時間経過していないため、新しいアラートは生成されません。  ドライブ 2 のアラートはありません。
1 日目、13:37:01	ドライブ 1 の健全性はまだ「ACTION」です。  ドライブ 2 の健全性は「EVALUATE」になります。	ポリシーはすべてのドライブについて評価され、ドライブ 1 とドライブ 2 の両方について照合されます。	ドライブ 1 のアラートはありません。  ドライブ 2 のアラートが生成され、電子メールが定義済みの受信者に送信されます。
2 日目、05:01:03	ドライブ 1 の健全性はまだ「ACTION」です。	ポリシーはすべてのドライブについて評価され、	ドライブ 1 の前のアラートから 24 時間以上経過しているため、新しいアラートが生成さ

時間	イベント	評価	結果
	ドライブ 2 の健全性はまだ「EVALUATE」です。	ドライブ 1 とドライブ 2 の両方について照合されます。	れ、電子メールが定義済みの受信者に送信されます。  ドライブ 2 の最後のアラートから 24 時間経過していないため、ドライブ 2 の新しいアラートはありません。
2 日目、17:08:43	新しい電子メール受信者がポリシーに追加されます。  ドライブ 1 の健全性はまだ「ACTION」です。  ドライブ 2 の健全性はまだ「EVALUATE」です。	ポリシーはすべてのドライブについて評価され、ドライブ 1 とドライブ 2 の両方について照合されます。	ドライブ 1 の新しいアラートはありません。  ドライブ 2 の前のアラートから 24 時間以上経過しているため、新しいアラートが生成され、電子メールが定義済みの受信者に送信されます。

### 例 1 ドライブの「情報」ポリシー

この例は、と同じポリシーの条件を表していますが、重要度は「情報」です。

**ポリシーの条件:** 「Drive Health Indicator」が「ACTION」であるか、「Drive Health Indicator」が「EVALUATE」です。

**ポリシーエンティティ:** ドライブ

**ポリシーの重要度:** 情報 – アラートは 1 回のみ生成されます。

時間	イベント	評価	結果
05:00:171	ポリシーが作成され、有効にされます。  ドライブ 1 の健全性は「EVALUATE」です。  ドライブ 2 の健全性は「MONITOR」です。	ポリシーはすべてのドライブについて評価され、ドライブ 2 ではなくドライブ 1 について照合されます。	ドライブ 1 のアラートが生成され、電子メールが定義済みの受信者に送信されます。このドライブでは、このポリシーによって追加のアラートは生成されません。  ドライブ 2 のアラートはありません。
08:12:24	ドライブ 1 の健全性は「ACTION」になります。  ドライブ 2 の健全性はまだ「MONITOR」です。	ポリシーはすべてのドライブについて評価され、ドライブ 2 ではなくドライブ 1 について照合されます。	ドライブ 1 の新しいアラートはありません。  ドライブ 2 のアラートはありません。
13:37:01	ドライブ 1 の健全性はまだ「ACTION」です。	ポリシーはすべてのドライブについて評価され、ドライブ 1 とドライブ 2 の両方について照合されます。	ドライブ 1 の新しいアラートはありません。  ドライブ 2 のアラートが生成され、電子メールが定義済みの受信者に送信されます。こ

時間	イベント	評価	結果
	ドライブ 2 の健全性は「EVALUATE」になります。		のドライブでは、このポリシーによって追加のアラートは生成されません。
05:01:03	ドライブ 1 の健全性はまだ「ACTION」です。 ドライブ 2 の健全性は「USE」になります。	ポリシーはすべてのドライブについて評価され、ドライブ 2 ではなくドライブ 1 について照合されます。	ドライブ 1 についても、ドライブ 2 についても新しいアラートはありません。

### 例 1 メディアの「重大」ポリシー

このポリシーは、5135 FSC になる交換のアラートを生成します。この FSC は、テープリーダーの問題を示しており、できるかぎりすぐにメディアをライブラリから取り出して調べるべきです。

ポリシーエンティティ: メディア

ポリシーの重要度: 重大 – 交換アクティビティによっては、アラートは 1 時間ごとに生成される可能性があります。

ポリシーの条件: 交換の FSC は 5135 です。

時間	イベント	評価	結果
08:00:53	ポリシーが作成され、有効にされます。	新しい交換が処理され、一致が見つからないときに、ポリシーが評価されます。	アラートは生成されません。
08:05:09	メディア A の交換で 5135 FSC が発生します。	新しい交換が処理され、メディア A について照合されると、ポリシーが評価されます。	メディア A のアラートが生成され、電子メールが定義済みの受信者に送信されます。 この交換では、このポリシーによって追加のアラートは生成されません。新しい交換が発生するまで、メディア A は、このポリシーからこれ以上のアラートを受け取りません (将来の交換でも 5135 FSC が発生すると想定します)。
09:13:17	メディア B の交換で 5135 FSC が発生します。	ポリシーは新しい交換について評価され、メディア B について照合されます。	メディア B のアラートが生成され、電子メールが定義済みの受信者に送信されます。 この交換では、このポリシーによって追加のアラートは生成されません。
10:35:22	メディア A の新しい交換で 5135 FSC が発生します。	ポリシーは新しい交換について評価され、メディア A について照合されます。	メディア A のアラートが生成され、電子メールが定義済みの受信者に送信されます。

時間	イベント	評価	結果
		ア A について照合されます。	この交換では、このポリシーによって追加のアラートは生成されません。

### 例 1 CAP の「重大」ポリシー

このポリシーは、注意が必要な CAP のアラートを生成します。

ポリシーエンティティ: CAP

ポリシーの重要度: 重大 – アラートは 1 時間ごとに生成される可能性があります。

ポリシーの条件: 「CAP Library Health」が「NOTOPERATIVE」であるか、「CAP Library Health」が「DEGRADED」です。

時間	イベント	評価	結果
14:05:10	ポリシーが作成され、有効にされます。  CAP 1A は「DEGRADED」状態です。	ポリシーはすべての CAP について評価され、CAP 1A について照合されます。	CAP 1A のアラートが生成され、電子メールが定義済みの受信者に送信されます。
15:01:12	CAP 2B は「NOTOPERATIVE」状態になります。	ポリシーはすべての CAP について評価され、CAP 1A と CAP 2B の両方について照合されます。	CAP 1A の新しいアラートはありません。  CAP 2B のアラートが生成され、電子メールが定義済みの受信者に送信されます。
15:05:20	CAP 1A はまだ「DEGRADED」で、CAP 2B はまだ「NOTOPERATIVE」です。	ポリシーはすべての CAP について評価され、CAP 1A と CAP 2B の両方について照合されます。	CAP 1A の新しいアラートが生成され、電子メールが定義済みの受信者に送信されます。  CAP 2B の新しいアラートはありません。
16:01:27	CAP 1A はまだ「DEGRADED」で、CAP 2B はまだ「NOTOPERATIVE」です。	ポリシーはすべての CAP について評価され、CAP 1A と CAP 2B の両方について照合されます。	CAP 1A の新しいアラートはありません。  CAP 2B の新しいアラートが生成され、電子メールが定義済みの受信者に送信されます。

### 例 1 「Media Health Indicator」を使用した交換のポリシー

交換のアラートポリシーは、ポリシーの重要度が関係ないという点で、ほかのライブラリシステムコンポーネントのポリシーとは異なります。交換は別個のイベントであるため、ポリシーの重要度に関係なくポリシーの条件が満たされると、交換のアラートポリシーは常にアラートを生成します。この例では、この点について説明します。アラートがほとんど生成されない類似した例については、[例 1 「Media Health Indicator」を使用したメディアの「警告」ポリシー](#)を参照してください。

**ポリシーエンティティ: 交換**

**ポリシーの重要度:** これは交換のアラートであるため、ポリシーの重要度は関係ありません。この場合、重要度は「情報」ですが、結果はすべての重要度レベルで同じです。健全性が「EVALUATE」のメディアが関与するすべての交換についてアラートが生成されません。

**ポリシーの条件:** 「Media Health Indicator」が「EVALUATE」です。

時間	イベント	評価	結果
1 日目, 13:13:17	ポリシーが作成され、有効にされます。  メディア Z の健全性は「EVALUATE」です。	ポリシーはすべての交換について評価され、一致は見つかりません。	アラートは生成されません。
1 日目, 14:43:09	健全性が「EVALUATE」のメディア Z の交換が発生します。	ポリシーはすべての交換について評価され、メディア Z について照合されます。	メディア Z のアラートが生成され、電子メールが定義済みの受信者に送信されます。
1 日目, 07:20:24	健全性がまだ「EVALUATE」のメディア Z の別の交換が発生します。	ポリシーはすべての交換について評価され、メディア Z について照合されます。	メディア Z の新しいアラートが生成され、電子メールが定義済みの受信者に送信されます。
2 日目, 15:05:19	健全性がまだ「EVALUATE」のメディア Z の別の交換が発生します。	ポリシーはすべての交換について評価され、メディア Z について照合されます。	メディア Z の新しいアラートが生成され、電子メールが定義済みの受信者に送信されます。

**例 1 「Media Health Indicator」を使用したメディアの「警告」ポリシー**

このポリシーは、健全性が「EVALUATE」のメディアのアラートを生成します。この例は例 1 「Media Health Indicator」を使用した交換のポリシーと似ていますが、これはメディアのアラートポリシーであるためアラートはほとんど生成されません。

**ポリシーエンティティ: メディア**

**ポリシーの重要度:** 警告 – アラートは 24 時間ごとに生成される可能性があります。

**ポリシーの条件:** 「Media Health Indicator」が「EVALUATE」です。

時間	イベント	評価	結果
1 日目, 13:13:17	ポリシーが作成され、有効にされます。	ポリシーはすべてのメディアについて評価され、メディア Z について照合されます。	メディア Z のアラートが生成され、電子メールが定義済みの受信者に送信されます。



時間	イベント	評価	結果
	メディア Z の健全性は「EVALUATE」です。		
1 日目、14:43:09	健全性がまだ「EVALUATE」のメディア Z の交換が発生します。	ポリシーはすべてのメディアについて評価され、メディア Z について照合されます。	メディア Z の最後のアラートから 24 時間経過していないため、新しいアラートは生成されません。
2 日目、07:20:24	健全性がまだ「EVALUATE」のメディア Z の別の交換が発生します。	ポリシーはすべてのメディアについて評価され、メディア Z について照合されます。	メディア Z の最後のアラートからまだ 24 時間経過していないため、新しいアラートは生成されません。
2 日目、15:05:19	健全性がまだ「EVALUATE」のメディア Z の別の交換が発生します。	ポリシーはすべてのメディアについて評価され、メディア Z について照合されます。	メディア Z の前のアラートから 24 時間以上経過しているため、新しいアラートが生成され、電子メールが定義済みの受信者に送信されます。

### 5.3.3. アラートポリシーの条件

選択したアラートエンティティに使用可能な属性に基づいて、アラートを定義できます。ただし、一部の属性では、実際にアラートを呼び出すイベントは作成されません。さらに、メディア検証のアラートポリシーでは、アラートは、中間結果ではなく最終検証結果によってのみ呼び出されます。

### 5.3.4. アラートポリシーのベストプラクティス

このセクションには、アラートポリシーの作成に関するいくつかのヒントが記載されています。

#### 5.3.4.1. 多すぎるアラートの回避

ポリシーエンティティタイプに固有の条件を使用してアラートポリシーを定義することをお勧めします。また、交換とメディア検証のアラートポリシーでは、交換と検証に固有であり、ドライブとメディアには使用できない条件を使用することをお勧めします。そうしない場合、重なり合うアラートポリシーが作成され、同じイベントまたはリソース属性について複数のアラートと電子メールが生成される可能性があります。

たとえば、次の 3 つすべてのポリシーを作成して有効にできます。

- メディアの警告ポリシー: 「Drive Health Indicator」が「MONITOR」であるか、「Drive Health Indicator」が「MONITOR」です
- ドライブの警告ポリシー: 「Drive Health Indicator」が「MONITOR」であるか、「Media Health Indicator」が「MONITOR」です

- 交換のポリシー: 「Drive Health Indicator」が「MONITOR」であるか、「Media Health Indicator」が「MONITOR」です

メディアとドライブのアラートポリシーはそれぞれ、健全性が「MONITOR」の各ドライブとメディアについて 24 時間ごとにアラートを生成します。さらに、交換のアラートポリシーは、健全性が「MONITOR」の各ドライブまたはメディアが交換で使用されるたびにアラートを生成します。健全性が「MONITOR」の単一のドライブまたはメディアから多数のアラートを受け取る可能性があります。

より適切な方法は、次のポリシーを作成して有効にすることです。

- メディアの警告ポリシー: 「Media Health Indicator」が「MONITOR」です
- ドライブの警告ポリシー: 「Drive Health Indicator」が「MONITOR」です
- 交換のポリシー: アラート: 「Drive Dump Available」が「True」です

#### 5.3.4.2. 論理グループを使用したアラートポリシーの定義

ドライブまたはメディアのアラートポリシーを定義する際に、選択条件で論理グループを使用できます。ドライブとメディアは一度に複数の論理グループに属することがあるため、条件の指定時には、通常は「Is」と「Isn't」演算子ではなく、「Contains」と「Doesn't Contain」演算子を使用する方が適しています。詳細は、「[論理グループでフィルタリング](#)」を参照してください。

#### 5.3.5. STA のサンプルのアラートポリシー

いくつかのサンプルアラートポリシーが STA で提供されます。これらのポリシーは、ポリシー作成の具体的な例を示すことを意図しており、すべてデフォルトで無効になっています。必要な数だけ有効にしてそのまま使用することも、ニーズに応じてより具体的なポリシーを作成するための開始点として使用することもできます。

---

##### 注意:

STA で提供される定義済みテンプレートとは異なり、サンプルアラートポリシーは書き込み保護されておらず、直接変更できます。ただし、サンプルポリシーを変更または削除した場合、オリジナルの状態に復元できません。変更する場合、サンプルポリシーをコピーしてコピーを変更し、オリジナルは未変更のままにすることをお勧めします。詳細は、「[アラートポリシーのコピー](#)」を参照してください。

また、提供されるサンプルポリシーのレコードを出力して、必要に応じて手動で再作成できるようにすることをお勧めします。詳細は、「[アラートポリシーのリストの管理](#)」を参照してください。

---

STA のすべてのサンプルアラートポリシーの名前に、「STA」接頭辞が付いています。サンプルポリシーのこの命名規則を保持し、独自のアラートポリシーの名前を付けるときには「STA」接頭辞を使用しないことをお勧めします。STA のサンプルアラートポリシーの「Date Created/Updated」は、STA アプリケーションが最後にインストールされたときの日付です。

## 5.4. アラート電子メール

アラートは、任意の数の電子メールアドレスに送信できます。電子メールで送信されたアラートによって、ユーザーは、STA アプリケーションにログインすることなく、テープライブラリシステムでの重要なイベントの通知を受けます。アラートは、STA のユーザー名を持たない従業員にも送信できます。

使用可能な電子メールアドレスは、「Configuration」-「Email」画面で STA に対して事前に定義しておく必要があります。手順については、「[有効な電子メール受信者の追加](#)」を参照してください。

例5.1「[サンプルの交換のアラート電子メール](#)」と例5.2「[サンプルの STA アプリケーションのアラート電子メール](#)」は、受信することがあるアラート電子メールのテキストの例です。

### 例5.1 サンプルの交換のアラート電子メール

```
Exchange Started at December 13, 2013 5:52:05 AM MDT and Ended at December 13, 2013
7:15:41 AM MDT
STA Drive Alert - 2013-12-13 07:20:46 (Drive HU1233210W)
Alert Summary:
  Policy Desc:   Generates an alert when the Drive Health Indicator is Evaluate and
  Drive Health Trend is Worse.
  Criteria Met:  Drive Health Indicator=EVALUATE and Drive Health Trend=WORSE
  STA Server:   sysbiz

DRIVE
Serial Number:   HU1233210W
Tray Serial Number: UNKNOWN
Model:          HpUltrium6
Last Annotation:

Health Indicator: Evaluate
Health Trend:    Worse
Suspicion Level: 90.0
Exchange Status: GOOD
Exchange Tape Alerts - Warning: 0
Exchange Tape Alerts - Critical: 0
Alerts (30 days): 3
```

### 例5.2 サンプルの STA アプリケーションのアラート電子メール

```
STA STA Server Alert 2013-12-15 22:39:21 (STA Server bizsys)
Alert Summary:
  Policy Desc:   This policy will match when the STA software is restarted.
  Criteria Met:  staEngine: Server in an UNKNOWN State - Restarting.
  STA Server:   bizsys
```

## 5.5. アラートワークフロー

アラートワークフローは、「Alerts Overview」画面で選択したアラートに割り当てることができる定義済みの状態に基づくオプションの手動プロセスです。サイトにとって最適な方法でアラートワークフローを実装できますが、アラート状態の推奨される行程は次のとおりです。

1. 「New」- STA は、すべてのアラートの作成時にこの状態を割り当てます。
2. 「Acknowledged」- アラートが確認されました。
3. 「In Progress」- アラートが担当者に割り当てられ、評価されています。
4. 「Dismissed」- 担当者がアラートに関するすべてのアクティビティを完了しました。デフォルトでは、消去されたすべてのアラートが「Alerts Overview」画面で非表示になりますが、オプションで表示することもできます。詳細は、「[消去したアラートの表示または非表示](#)」を参照してください。

アラート状態を使用した手動のワークフローの実装に関する詳細は、「[アラートの状態の変更](#)」を参照してください。

## 5.6. アラート管理タスク

### アラートポリシー定義タスク

- 「[アラートポリシーのリストの管理](#)」
- 「[アラートポリシーの作成](#)」
- 「[アラートポリシーのコピー](#)」
- 「[アラートポリシーの変更](#)」
- 「[アラートポリシーの電子メール受信者の変更](#)」
- 「[アラートポリシーの有効化または無効化](#)」
- 「[アラートポリシーの削除](#)」

### アラートモニタリングタスク

- 「[生成されたアラートのリストの管理](#)」
- 「[アラートの詳細の表示](#)」
- 「[消去したアラートの表示または非表示](#)」
- 「[アラートの状態の変更](#)」

#### 5.6.1. アラートポリシーのリストの管理

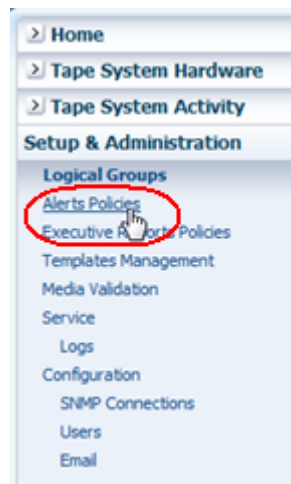
---

注:

この手順では、オペレータ権限または管理者権限が必要です。

---

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Alerts Policies**」を選択します。



「Alerts Policies」画面が表示され、サイトでのすべてのサンプルポリシーとユーザー定義ポリシーが示されます。

Alert Policy Name	Date Created/Updated	Policy Description	Alert Policy Type	Alert Severity	Enabled	Alert
STA-CAP-Status	2013-09-16 16:14:35	This policy will match whenever the CAP status changes to a degraded or non-operative state	Cap	Warning	<input checked="" type="checkbox"/>	CAP Library Health Is Not or CAP Library Health Is
STA-Drive Status	2013-09-16 16:14:35	This policy will match whenever the drive status changes to degraded or non-operative state	Drive	Warning	<input checked="" type="checkbox"/>	Last Drive Notification Is or Last Drive Notificator
STA-Drive Health Status	2013-09-16 16:14:35	This policy will match when a drive STA	Drive	Warning	<input checked="" type="checkbox"/>	Drive Health Indicator Is

- 次のタスクを実行して、アラートポリシーのリストを管理できます。
  - 表レコードをフィルタします。「[Filter Data](#)」ダイアログボックスを使用した[テーブルフィルタの変更](#)を参照してください。
  - 表に適用されたフィルタをリセットします。「[現在のフィルタのクリア](#)」を参照してください。
  - 表をリフレッシュして、新しいポリシーを表示します。『[STA 画面基本ガイド](#)』を参照してください。
  - 出力可能な形式の表を別のブラウザのタブまたはウィンドウで表示します。『[STA 画面基本ガイド](#)』を参照してください。

## 5.6.2. アラートポリシーの作成

アラートポリシーを作成するには、この手順を使用します。「Alert Policies」ウィザードは、ポリシーに関するすべての情報を定義するための手順を順に示します。

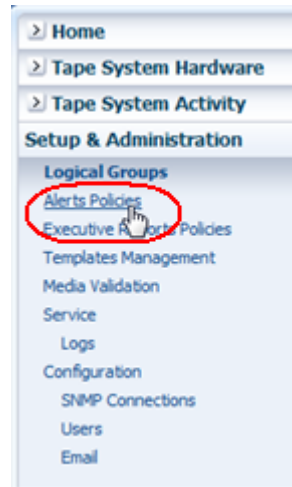
---

注:

この手順では、管理者権限が必要です。

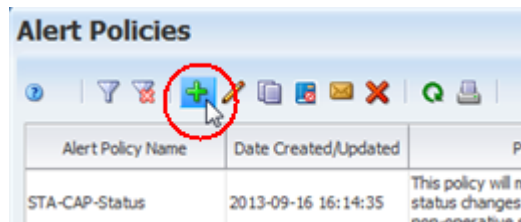
---

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Alerts Policies**」を選択します。



「Alerts Policies」画面が表示されます。

2. 「**New Alert Policy**」をクリックします。



「Alert Policies」ウィザードが表示されます。

3. 次のようにウィザードの最初の画面に入力します。
  - a. 「**Policy Name**」フィールドに、一意の名前を入力します。

入力には、長さ 250 文字までの英数字を含めることができます。

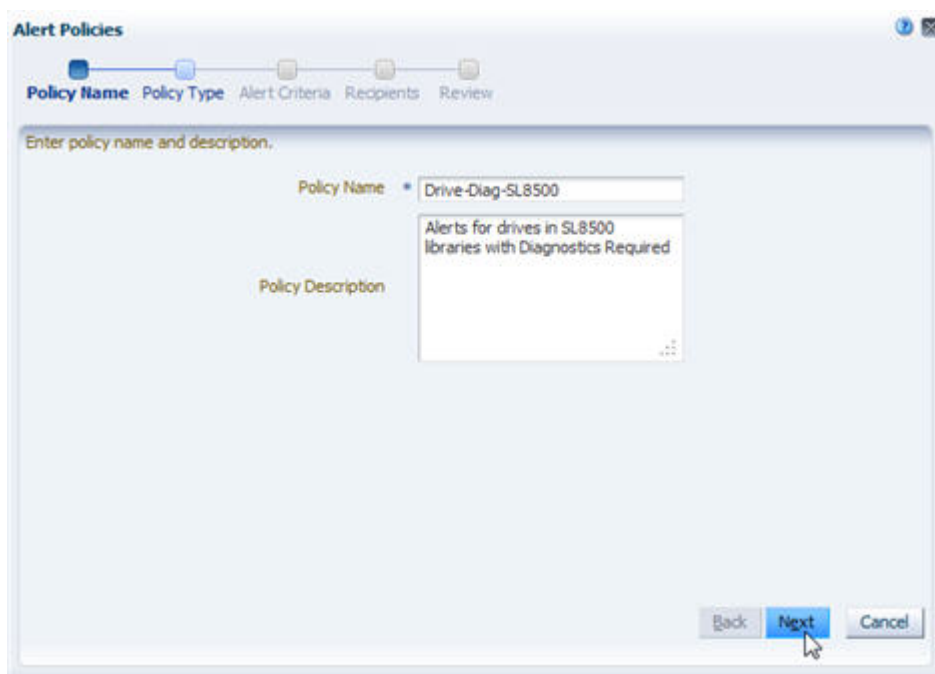
---

注:

STA で提供されるすべてのサンプルアラートポリシーに「STA」で始まる名前が付いているため、アラートポリシーに割り当てる名前の先頭にはこの接頭辞を付けないことをお勧めします。

---

- b. 「**Policy Description**」フィールドに、ポリシーのオプションの説明を入力します。この情報はアラート電子メールに含められます。このフィールドを使用して、このポリシーによって生成されるアラートの推奨される修正アクションを指定してもかまいません。
- c. 「**Next**」をクリックします。

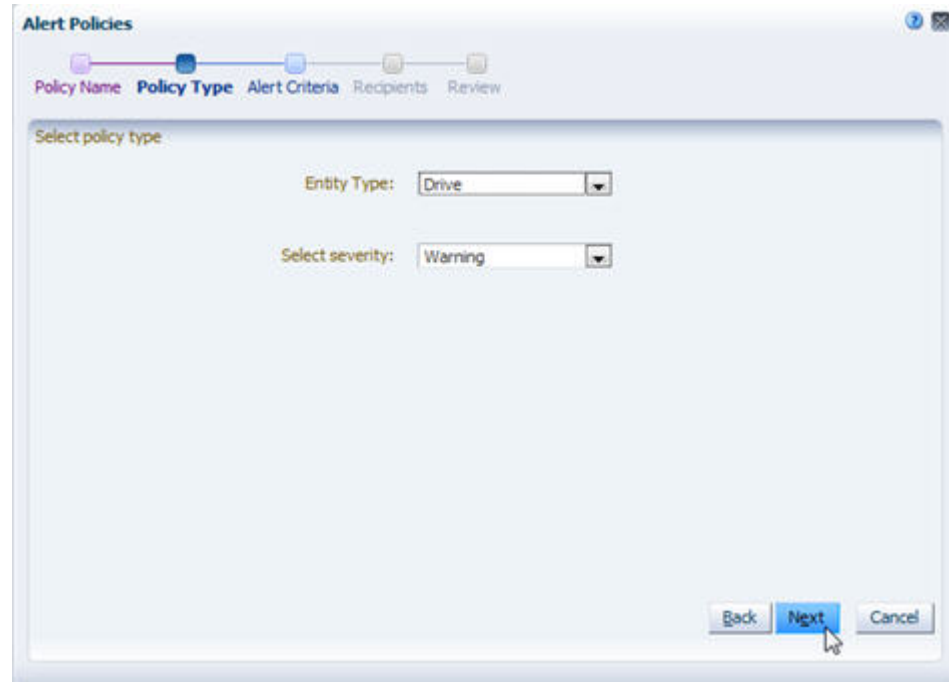


注:

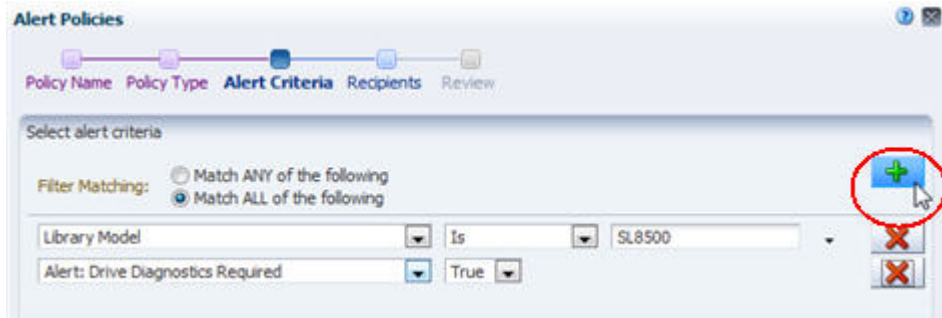
ウィザードの任意の画面で、ダイアログボックスの上部にあるブレッダクリンクを選択して、次の画面またはすでにアクセスした任意の画面に直接移動できます。



4. 次のようにウィザードの 2 番目の画面に入力します。
  - a. 「**Entity Type**」メニューで、このポリシーがアラートを生成する対象のライブラリシステムコンポーネントのタイプを選択します。タイプについては、「[アラートポリシーエンティティ](#)」を参照してください。
  - b. 「**Select Severity**」フィールドで、アラートポリシーの重要度レベルを選択します。重要度レベルについては、「[アラートポリシーの重要度](#)」を参照してください。
  - c. 「**Next**」をクリックします。



5. ウィザードの 3 番目の画面で、次のようにアラートポリシーの条件を指定します。
  - a. 「**Filter Matching**」フィールドで、指定するいずれかの条件と一致するか、すべての条件と一致するかを示します。
  - b. 新しい空白の選択条件の行をダイアログボックスに追加するには、「**Add New Filter Criteria Row**」ボタンをクリックします。



- c. 行のメニューとテキストフィールドを使用して、選択条件を指定します。各行の入力の詳細は、「[属性タイプ別のフィルタ演算子](#)」を参照してください。

---

注:

フィルタリングの属性を選択する際に、選択する属性の名前がわかっている場合は、最初の数文字を入力すると、メニュー内のその項目にカーソルをすばやく移動できます。

---

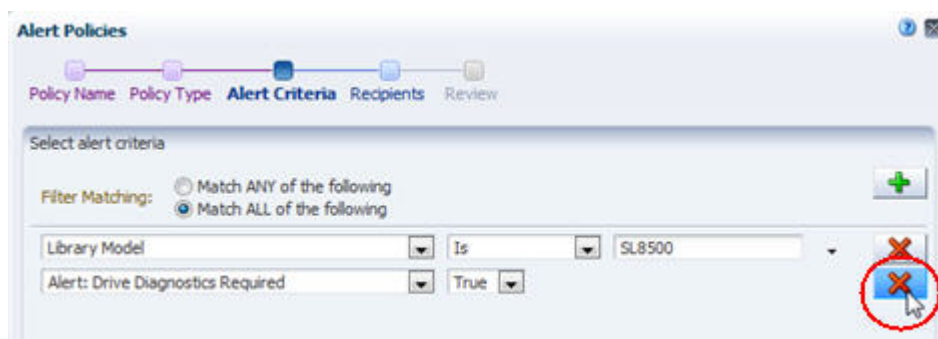
- d. 必要な数の選択条件の行を追加できます。



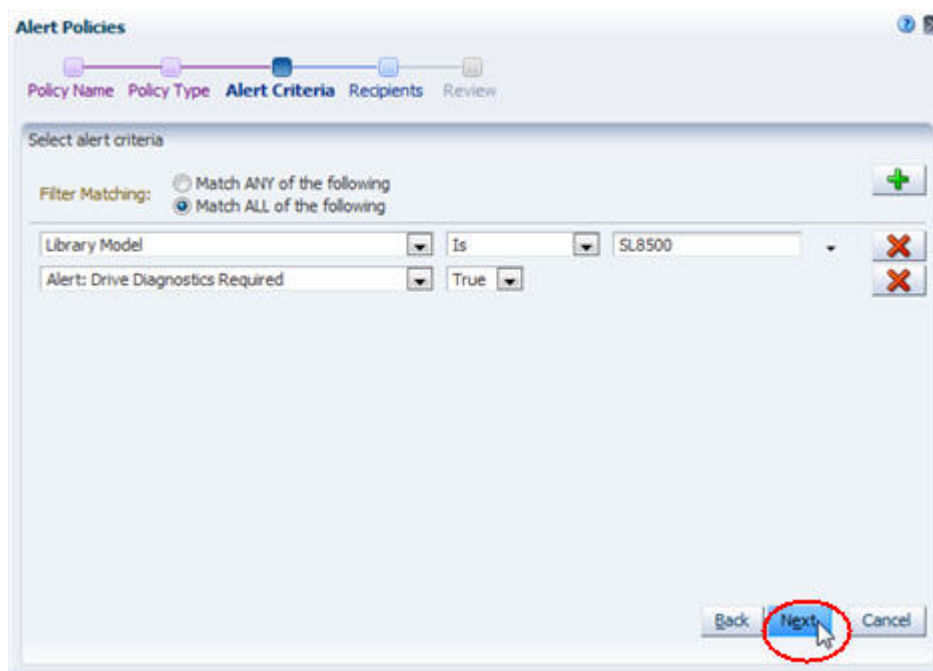
注:

選択条件が論理グループに基づくときは、通常は「Is」と「Isn't」演算子ではなく、「Contains」と「Doesn't Contain」演算子を使用する方が適しています。これは、ドライブとメディアが一度に複数の論理グループに属することがあるためです。詳細は、「[論理グループでフィルタリング](#)」を参照してください。

- e. 条件を削除するには、削除する行で「**Remove This Filter Criteria Row**」ボタンをクリックします。

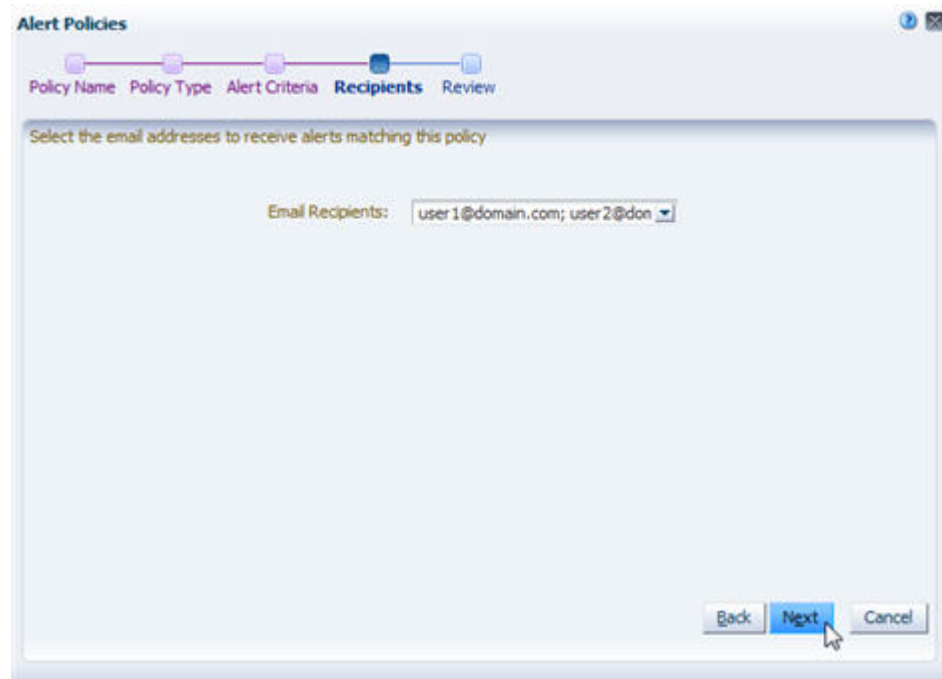


6. 条件が正しいことを確認して、「**Next**」をクリックします。

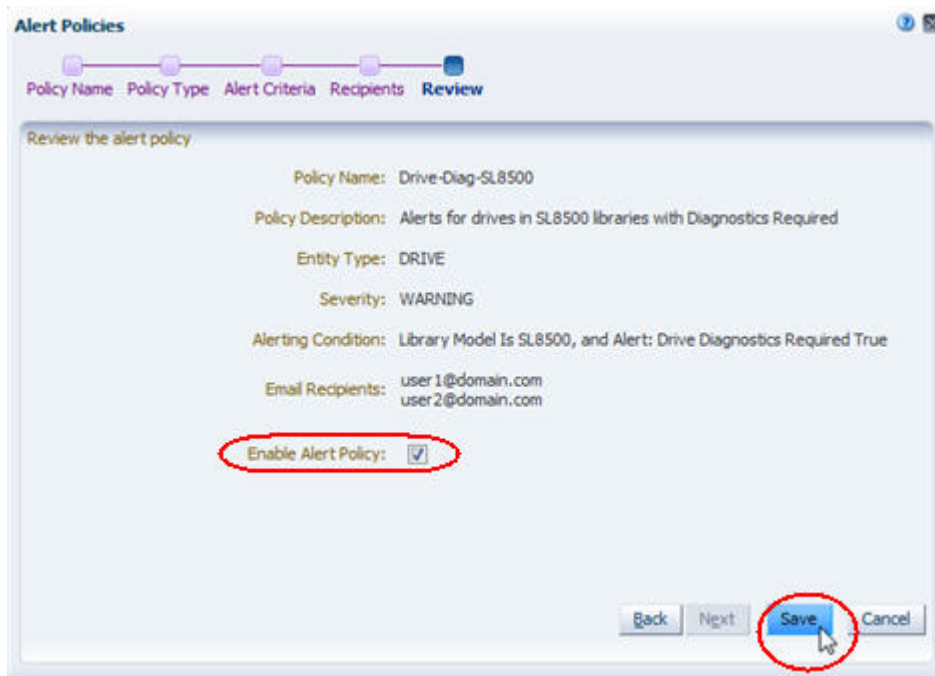


7. 次のようにウィザードの 4 番目の画面に入力します。
  - a. 「**Email Recipients**」メニューで、このポリシーによってアラートが生成されるたびに電子メールを送信する先の電子メールアドレスを選択します。

- b. 「Next」をクリックします。



8. 次のようにウィザードの最後の画面に入力します。
- a. すべてのポリシー情報が正しいことを確認します。
  - b. 次のように「**Enable Alert Policy**」チェックボックスを使用します。
    - ポリシーを作成し、即時に有効にするには、チェックボックスを選択します。
    - ポリシーを作成しても、現在のところは無効のままにしておくには、このチェックボックスを選択解除します。あとで有効にできます。詳細は、「[アラートポリシーの有効化または無効化](#)」を参照してください。
  - c. 「**Save**」をクリックします。



ポリシーが作成されます。ポリシーが有効になっている場合、適切なライブラリシステムリソースがポリシーに対して即時に評価され、必要に応じてアラートが生成されます。ポリシーが無効になっている場合、現在のところポリシーは評価されません。

### 5.6.3. アラートポリシーのコピー

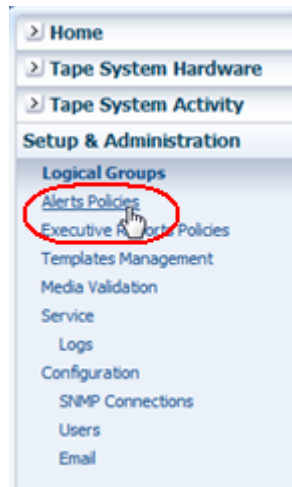
選択したアラートポリシーをコピーするには、この手順を使用します。ニーズに応じて、ユーザー定義ポリシーまたは STA のサンプルポリシーをコピーできます。次に、この手順のいくつかの用途を示します。

- 新しいポリシーのベースとして既存のポリシーを使用します。作成するポリシーに類似した既存のポリシーをコピーして、コピーを変更します。詳細は、「[アラートポリシーの変更](#)」を参照してください。
- STA のサンプルポリシーをコピーして、オリジナルバージョンを保持します。STA のサンプルポリシーは書き込み保護されておらず、オリジナルバージョンを変更した場合に復元する方法はないため、使用しない場合でもオリジナルバージョンのコピーを保持することをお勧めします。

注:

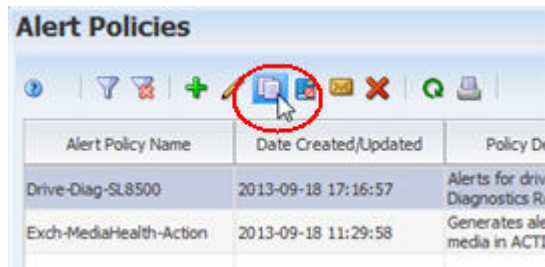
この手順では、管理者権限が必要です。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Alerts Policies**」を選択します。



「Alerts Policies」画面が表示されます。

2. コピーするアラートポリシーを選択して、「**Copy Alert Policy**」をクリックします。



「Alert Policies」ウィザードの最初の画面が表示されます。ポリシーのコピーには、次の点を除きオリジナルと同じすべての情報が含まれています。

- 「Copy」という単語が「Policy Name」の最後に追加されます。
- 電子メール受信者は定義されていません。
- ポリシーは無効になっています（「**Enable Alert Policy**」チェックボックスは選択解除されています）。

3. 「**Policy Name**」フィールドに、割り当てる名前を入力します。
4. 「**Next**」ボタン、またはダイアログボックスの上部にあるウィザードのブレッドクラムを使用して、変更する情報がある画面に移動します。これらの画面への入力の詳細は、「[アラートポリシーの作成](#)」を参照してください。単にオリジナルポリシーをコピーして保持する場合は、すべての情報を未変更のままにすることもできます。
5. 完了したら、「**Save**」をクリックします。

新しいポリシーが作成され、「Alerts Policies」画面が情報で更新されます。

次の例では、Drive-Diag-SL3000 ポリシーが Drive-Diag-SL8500 ポリシーからコピーされ、SL3000 ライブラリ内のドライブを評価するようアラートの条件が変更されました。

Alert Policy Name	Date Created/Updated	Policy Description	Alert Policy Type	Alert Severity	Enabled	Alert Criteria
Drive-Diag-SL3000	2013-09-18 17:28:14	Alerts for drives in SL3000 lib Diagnostics Required	Drive	Warning		Library Model Is SL3000 and Alert: Drive Diagnostics Required True
Drive-Diag-SL8500	2013-09-18 17:16:57	Alerts for drives in SL8500 lib Diagnostics Required	Drive	Warning	<input checked="" type="checkbox"/>	Library Model Is SL8500 and Alert: Drive Diagnostics Required True

#### 5.6.4. アラートポリシーの変更

選択したアラートポリシーに次のいずれかの変更を行うには、この手順を使用します。

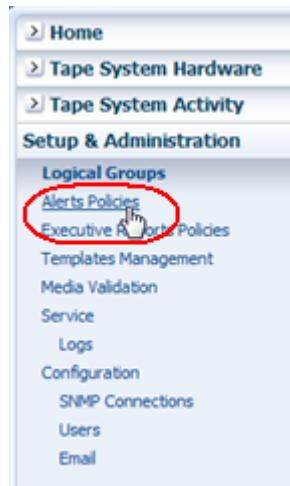
- ポリシー名を変更します。

- ポリシーの説明を変更します。
- このポリシーで評価するようにテープライブラリシステムのリソースまたはイベントを変更します。
- ポリシーの重要度を変更します。
- ポリシーの選択条件を追加、削除、または変更します。
- 電子メール受信者を追加または削除します。より直接的な方法については、「アラートポリシーの電子メール受信者の変更」を参照してください。
- ポリシーを有効または無効にします。より直接的な方法については、「アラートポリシーの有効化または無効化」を参照してください。

注:

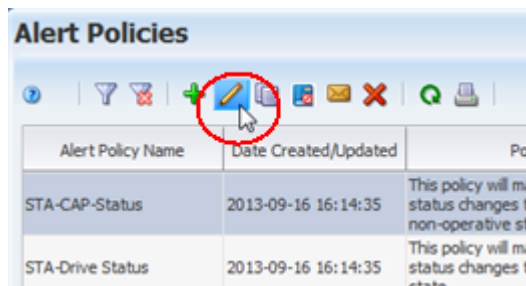
この手順では、管理者権限が必要です。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Alerts Policies**」を選択します。

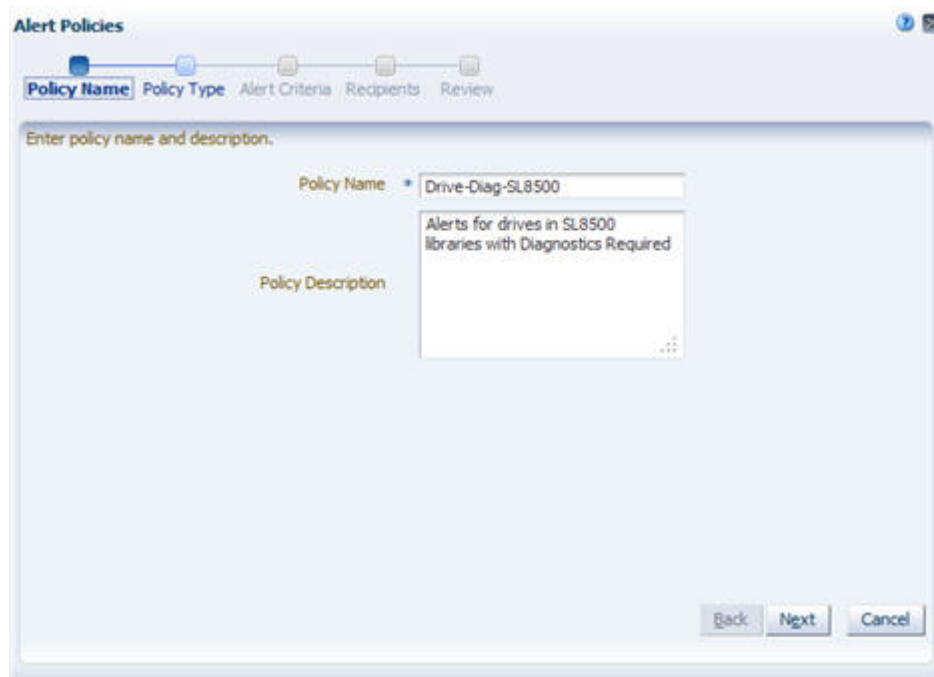


「Alerts Policies」画面が表示されます。

2. 変更するアラートポリシーを選択して、「**Edit Alert Policy**」をクリックします。



「Alerts Policy」ウィザードの最初の画面が表示され、ポリシーの最新情報が表示されます。



3. 「**Next**」ボタン、またはダイアログボックスの上部にあるウィザードのブレードクリムを使用して、変更する情報がある画面に移動します。これらの画面への入力の詳細は、「[アラートポリシーの作成](#)」を参照してください。
4. 完了したら、「**Save**」をクリックします。

ポリシーが更新され、「Alerts Policies」画面に変更が表示されます。

### 5.6.5. アラートポリシーの電子メール受信者の変更

選択したアラートポリシーの電子メール受信者を追加または削除するには、この手順を使用します。受信者には、ポリシーによって生成されるすべてのアラートが通知されます。「Configuration」-「Email」画面で STA に対して事前定義された、任意の数のアドレスを選択できます。詳細は、「[アラート電子メール](#)」を参照してください。

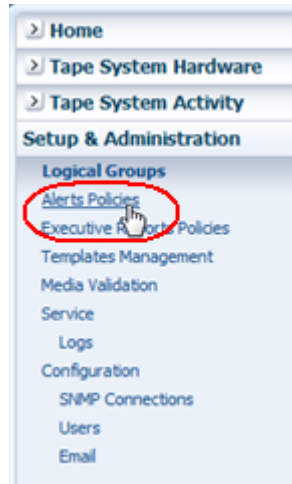
---

注:

この手順では、管理者権限が必要です。

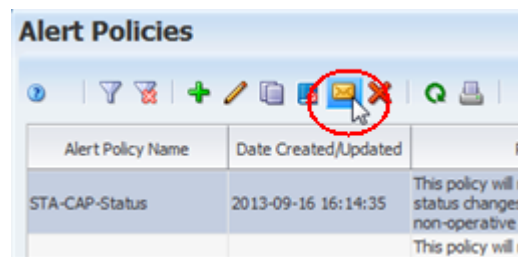
---

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Alerts Policies**」を選択します。



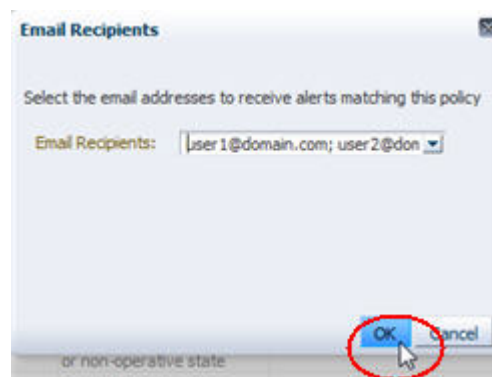
「Alerts Policies」画面が表示されます。

2. 変更するポリシーを選択して、「**Email Recipients**」をクリックします。



「Email Recipients」ダイアログボックスが表示されます。

3. 「**Email Recipients**」メニューで、このポリシーから生成されるアラートを受信するアドレスの横にあるチェックボックスを選択します。アラートを受信しないアドレスの横にあるチェックボックスを選択解除します。



4. 「**OK**」をクリックします。

変更に従ってポリシーが更新されます。



## 5.6.6. アラートポリシーの有効化または無効化

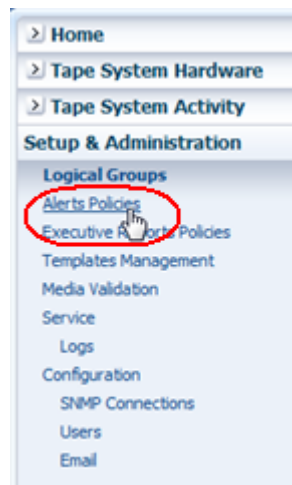
選択したアラートポリシーを有効または無効にするには、この手順を使用します。有効にしたポリシーのみがアラートを生成できます。

特定のポリシーによって生成されるすべてのアラートが必ず電子メール受信者に通知されるように、ポリシーを有効にする前に、受信者をポリシーに追加してください。手順については、「[アラートポリシーの電子メール受信者の変更](#)」を参照してください。

注:

この手順では、管理者権限が必要です。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Alerts Policies**」を選択します。

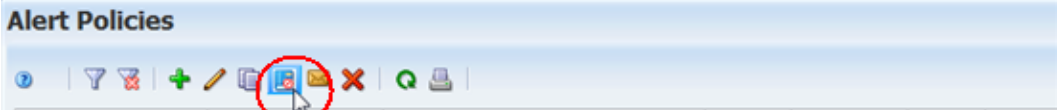


「Alerts Policies」画面が表示されます。

2. 変更するポリシーを選択します。

ポリシーが現在有効になっている場合、「Alerts Policies」ツールバーの「**Disable Alert Policy**」アイコンがアクティブになります。ポリシーが現在無効になっている場合、「**Enable Alert Policy**」アイコンがアクティブになります。

3. 「**Enable/Disable Alert Policy**」をクリックします。



Alert Policy Name	Date Created/Updated	Policy Description	Alert Policy Type	Alert Severity	Enabled	
STA-CAP-Status	2013-09-16 16:14:35	This policy will match whenever the CAP status changes to a degraded or non-operative state	Cap	Warning	<input checked="" type="checkbox"/>	CAP Librar or CAP Lib
STA-Drive Status	2013-09-16 16:14:35	This policy will match whenever the drive status changes to degraded or non-operative Drive	Drive	Warning	<input checked="" type="checkbox"/>	Last Drive

選択に従ってポリシーが更新されます。

- ポリシーを有効にした場合、対応するテープライブラリのリソースまたはイベントがポリシーの条件に対して即時に評価され、必要に応じてアラートが生成されます。
- ポリシーを無効にした場合、ポリシーのアラートは生成されなくなります。

### 5.6.7. アラートポリシーの削除

アラートポリシーを削除するには、この手順を使用します。ポリシーを削除しても、すでに生成されたアラートはこのポリシーから削除されません。「Alerts Overview」画面で引き続き表示できます。アラートポリシーを削除する前に無効にする必要はありません。

---

#### 注:

この手順では、管理者権限が必要です。

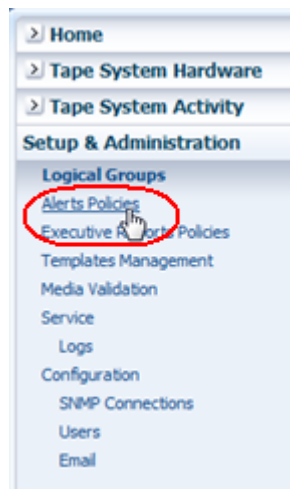
---

#### 注意:

STA のサンプルアラートポリシーを削除しないように注意してください。手動で再作成しないかぎり、復元できません。STA のすべてのサンプルアラートポリシーの名前に「STA」接頭辞が付いています。

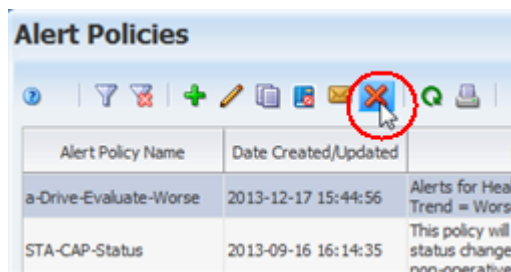
---

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Alerts Policies**」を選択します。



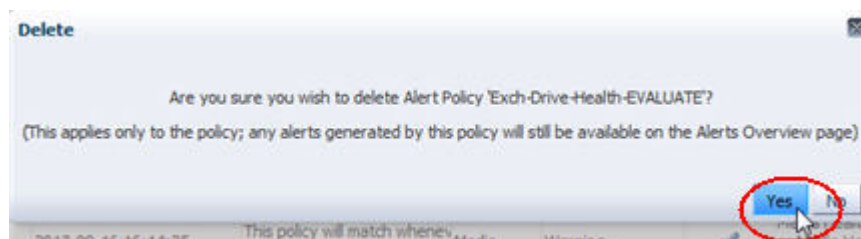
「Alerts Policies」画面が表示されます。

- 削除するアラートポリシーを選択して、「Delete Alert Policy」をクリックします。



「Delete」ダイアログボックスが表示されます。

- 選択を確認して、「Yes」をクリックして削除を確認します。



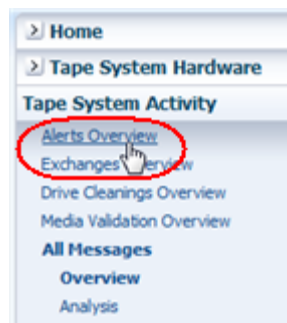
ポリシーが削除され、「Alerts Policies」画面のリストが更新されます。

## 5.6.8. 生成されたアラートのリストの管理

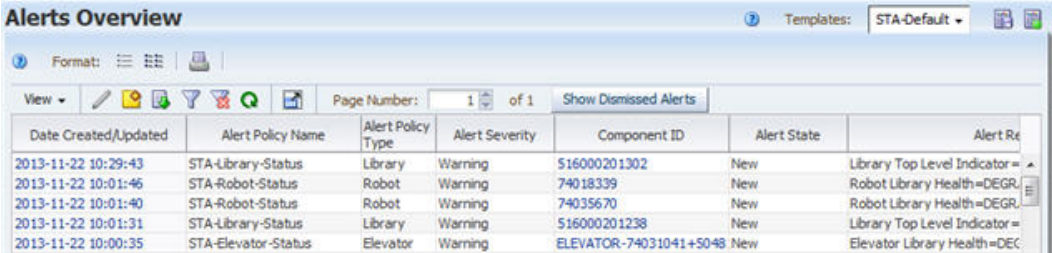
注:

アラートの注釈付けを除き、この手順はすべての STA ユーザーが実行できます。注釈付けにはオペレータ権限が必要です。

- ナビゲーションバーで、「Tape System Activity」を選択して、「Alerts Overview」を選択します。



「Alerts Overview」画面が表示され、今までに生成されたすべてのアクティブな (消去されていない) アラートが示されます。



Date Created/Updated	Alert Policy Name	Alert Policy Type	Alert Severity	Component ID	Alert State	Alert Re
2013-11-22 10:29:43	STA-Library-Status	Library	Warning	516000201302	New	Library Top Level Indicator =
2013-11-22 10:01:46	STA-Robot-Status	Robot	Warning	74018339	New	Robot Library Health=DEGR
2013-11-22 10:01:40	STA-Robot-Status	Robot	Warning	74035670	New	Robot Library Health=DEGR
2013-11-22 10:01:31	STA-Library-Status	Library	Warning	516000201238	New	Library Top Level Indicator =
2013-11-22 10:00:35	STA-Elevator-Status	Elevator	Warning	ELEVATOR-74031041+5048	New	Elevator Library Health=DEC

- 次の手順を実行して、アラートのリストを管理できます。
  - 出力可能な形式の表を別のブラウザのタブまたはウィンドウで表示します。『[STA 画面基本ガイド](#)』を参照してください。
  - アラートに注釈を付けます。『[STA 画面基本ガイド](#)』を参照してください。
  - アラートのリストをエクスポートします。『[STA 画面基本ガイド](#)』を参照してください。
  - アラートのリストをフィルタします。「[Filter Data](#)」ダイアログボックスを使用した[テーブルフィルタの変更](#)を参照してください。
  - 表に適用されたフィルタをリセットします。「[現在のフィルタのクリア](#)」を参照してください。
  - 表をリフレッシュして、新しいアラートを表示します。『[STA 画面基本ガイド](#)』を参照してください。
  - 表を画面から切り離して、ブラウザ前景の別のウィンドウで表示します。『[STA 画面基本ガイド](#)』を参照してください。
  - 画面の特定のページに直接移動します。『[STA 画面基本ガイド](#)』を参照してください。

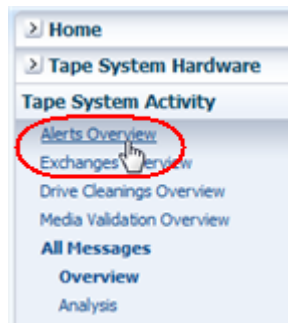
### 5.6.9. アラートの詳細の表示

アラートを表示して、このアラートを呼び出したテープライブラリシステムのイベントまたは状態にトレースするには、この手順を使用します。

注:

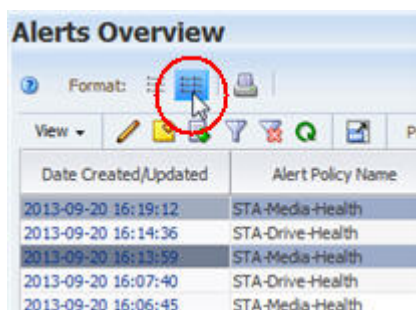
この手順は、ビューア以上の権限を持つすべての STA ユーザーが実行できます。

- ナビゲーションバーで、「**Tape System Activity**」を選択して、「**Alerts Overview**」を選択します。



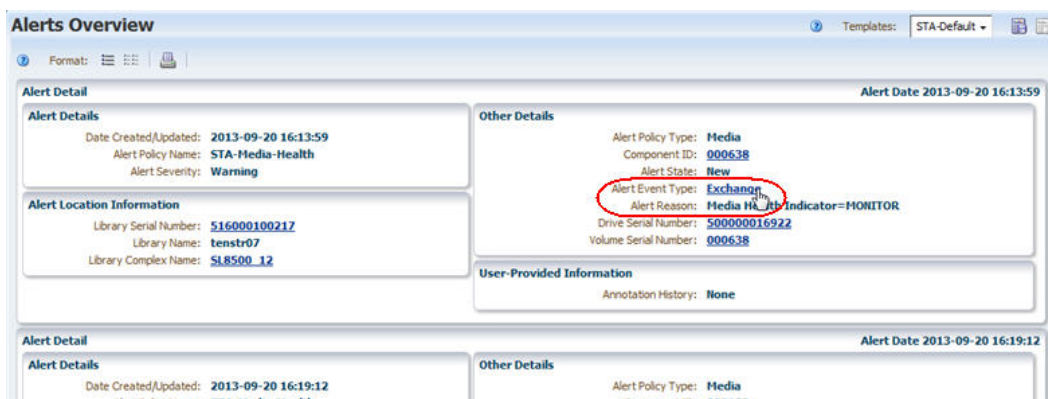
「Alerts Overview」画面が表示されます。

- 表示するアラートを選択して、「Detail View」をクリックします。

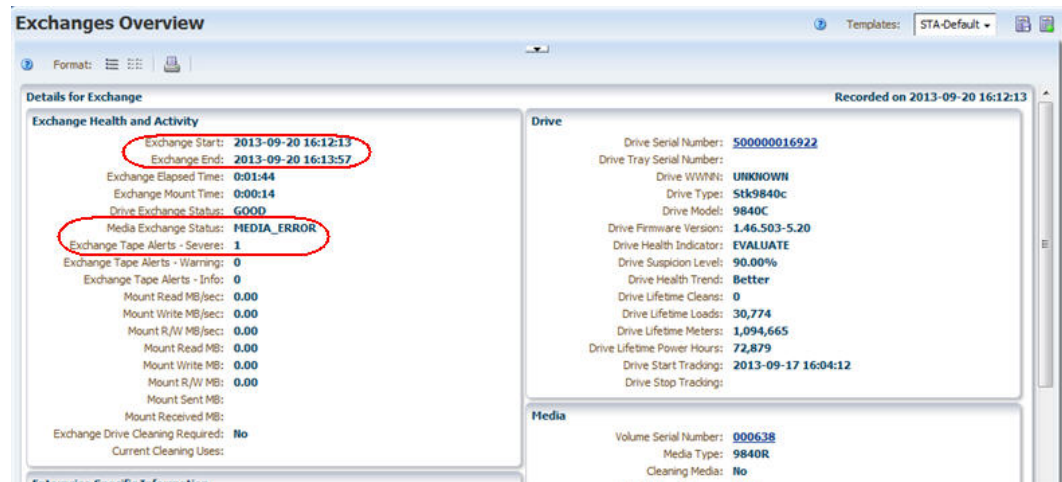


「Detail View」で、選択したそれぞれのレコードに、関連情報が記載されたほかの画面へのいくつかのリンクが含まれています。

- 「Alert Event Type」フィールドでリンク (この例では、**Exchange**) を選択して、アラートを呼び出したイベントの詳細を表示します。



表示される情報を使用して、アラートの原因をトレースして、アクションを行う必要があるかどうかを判別できます。



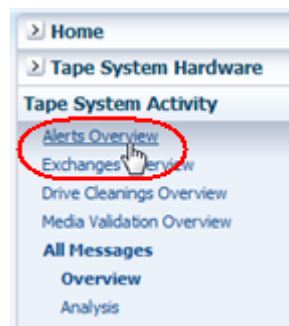
### 5.6.10. アラートの状態の変更

サイトで実装されたアラートワークフロープロセスに従って、選択したアラートの状態を変更するには、この手順を使用します。このプロセスの詳細は、「アラートワークフロー」を参照してください。

注:

この手順は、ビューア以上の権限を持つすべての STA ユーザーが実行できます。

1. ナビゲーションバーで、「**Tape System Activity**」を選択して、「**Alerts Overview**」を選択します。



「Alerts Overview」画面が表示されます。

2. 変更するアラートを選択して、「**Change Alert State**」をクリックします。複数のアラートを選択できます。

Alerts Overview

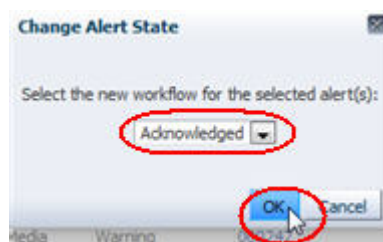
Format: [Icons]

View [Icons] Page Number: 1 of 1 Show Dismissed Alerts

Date Created/Updated	Alert Policy Name	Alert Policy Type	Alert Severity	Component ID	Alert State	
2013-09-20 17:01:06	STA-Drive-Health	Drive	Warning	500000012886	New	D
2013-09-20 16:53:51	STA-Drive-Health	Drive	Warning	500000012193	New	D
2013-09-20 16:49:40	STA-Media-Health	Media	Warning	EN3402	New	M
2013-09-20 16:48:30	STA-Drive-Health	Drive	Warning	500000011322	New	D
2013-09-20 16:47:42	STA-Media-Health	Media	Warning	EN3321	New	M

「Change Alert State」ダイアログボックスが表示されます。

3. メニューで、選択したアラートに割り当てる状態を選択します。使用可能な任意の状態を割り当ててから、「OK」をクリックできます。



アラートが更新され、その新しい状態が「Alerts Overview」画面に表示されます。

注:

選択したアラートを「Dismissed」に変更し、「Alerts Overview」画面が消去したアラートを非表示にするよう設定されている場合、アラートは表示から削除されます。消去したアラートの表示に関する詳細は、「消去したアラートの表示または非表示」を参照してください。

Alerts Overview

Format: [Icons]

View [Icons] Page Number: 1 of 1 Show Dismissed Alerts

Date Created/Updated	Alert Policy Name	Alert Policy Type	Alert Severity	Component ID	Alert State	
2013-09-20 17:01:06	STA-Drive-Health	Drive	Warning	500000012886	New	Drive
2013-09-20 16:53:51	STA-Drive-Health	Drive	Warning	500000012193	Acknowledged	Drive
2013-09-20 16:49:40	STA-Media-Health	Media	Warning	EN3402	New	Med
2013-09-20 16:48:30	STA-Drive-Health	Drive	Warning	500000011322	Acknowledged	Drive
2013-09-20 16:47:42	STA-Media-Health	Media	Warning	EN3321	New	Med

### 5.6.11. 消去したアラートの表示または非表示

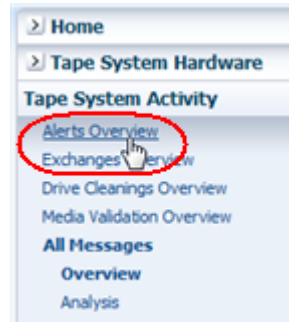
消去したアラートの表示を「Alerts Overview」画面で切り替えるには、この手順を使用します。アラートの消去方法の詳細は、「アラートの状態の変更」を参照してください。



注:

この手順は、ビューア以上の権限を持つすべての STA ユーザーが実行できます。

1. ナビゲーションバーで、「**Tape System Activity**」を選択して、「**Alerts Overview**」を選択します。



「Alerts Overview」画面が表示され、デフォルトでは消去したアラートはすべて非表示になっています。

2. 表のツールバーで「**Show Dismissed Alerts**」ボタンをクリックします。

 A screenshot of the 'Alerts Overview' page. At the top, there is a toolbar with various icons and a 'Format' dropdown. Below the toolbar is a table with columns: 'Date Created/Updated', 'Alert Policy Name', 'Alert Policy Type', 'Alert Severity', 'Component ID', and 'Alert State'. The table contains four rows of data. A button labeled 'Show Dismissed Alerts' is located in the toolbar above the table and is circled in red.
 

Date Created/Updated	Alert Policy Name	Alert Policy Type	Alert Severity	Component ID	Alert State
2013-09-20 17:01:06	STA-Drive-Health	Drive	Warning	500000012886	New
2013-09-20 16:53:51	STA-Drive-Health	Drive	Warning	500000012193	New
2013-09-20 16:49:40	STA-Media-Health	Media	Warning	EN3402	New
2013-09-20 16:48:30	STA-Drive-Health	Drive	Warning	500000011322	New

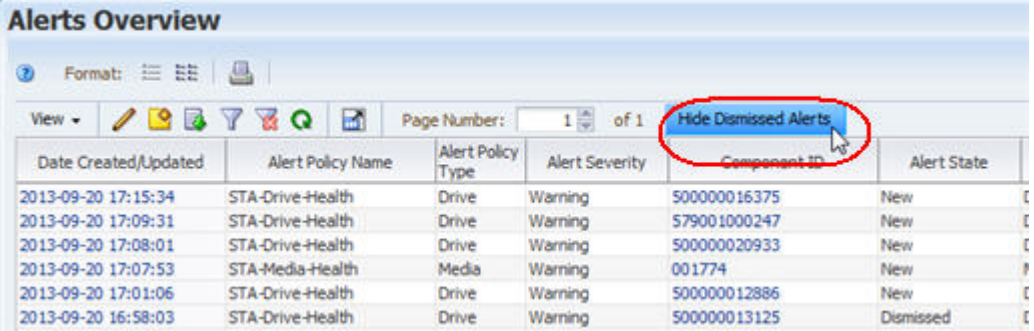
消去したアラートが画面に表示されるようになり、ボタンのラベルが「**Hide Dismissed Alerts**」に変更されました。

 A screenshot of the 'Alerts Overview' page after clicking the 'Show Dismissed Alerts' button. The button label has changed to 'Hide Dismissed Alerts' and is circled in red. The table now displays several rows, including three that have been dismissed. These three rows are circled in red.
 

Date Created/Updated	Alert Policy Name	Alert Policy Type	Alert Severity	Component ID	Alert State
2013-09-20 17:09:31	STA-Drive-Health	Drive	Warning	579001000247	New
2013-09-20 17:08:01	STA-Drive-Health	Drive	Warning	500000020933	New
2013-09-20 17:07:53	STA-Media-Health	Media	Warning	001774	New
2013-09-20 17:01:06	STA-Drive-Health	Drive	Warning	500000012886	New
2013-09-20 16:58:03	STA-Drive-Health	Drive	Warning	500000013125	Dismissed
2013-09-20 16:56:32	STA-Media-Health	Media	Warning	SL2605	Dismissed
2013-09-20 16:54:19	STA-Media-Health	Media	Warning	TEB221	Dismissed



3. 消去したアラートを再度非表示にするには、「**Hide Dismissed Alerts**」ボタンをクリックします。



The screenshot shows the 'Alerts Overview' interface. At the top, there is a toolbar with a 'View' dropdown, several icons, and a 'Page Number: 1 of 1' indicator. A button labeled 'Hide Dismissed Alerts' is circled in red. Below the toolbar is a table with the following columns: Date Created/Updated, Alert Policy Name, Alert Policy Type, Alert Severity, Component ID, and Alert State. The table contains six rows of alert data.

Date Created/Updated	Alert Policy Name	Alert Policy Type	Alert Severity	Component ID	Alert State
2013-09-20 17:15:34	STA-Drive-Health	Drive	Warning	50000016375	New
2013-09-20 17:09:31	STA-Drive-Health	Drive	Warning	579001000247	New
2013-09-20 17:08:01	STA-Drive-Health	Drive	Warning	50000020933	New
2013-09-20 17:07:53	STA-Media-Health	Media	Warning	001774	New
2013-09-20 17:01:06	STA-Drive-Health	Drive	Warning	50000012886	New
2013-09-20 16:58:03	STA-Drive-Health	Drive	Warning	50000013125	Dismissed



## エグゼクティブレポート

STA エグゼクティブレポートでは、テンプライブラリシステムの概要ビューを提供します。エグゼクティブレポートは、定義済みのダッシュボードテンプレートに基づき、テンプレート内のすべての情報は各レポートに含まれます。ダッシュボードポートレット注釈も、個々のダッシュボードポートレットに追加され、ダッシュボードテンプレートの一部として保存された場合には、レポートに含まれます。

すべてのユーザーにはエグゼクティブレポートを表示する権限がありますが、レポートポリシーの定義には管理者権限、レポートの実行にはオペレータ権限が必要です。詳細は、「[エグゼクティブレポートポリシーのユーザーの役割](#)」を参照してください。

この章の内容は次のとおりです。

- [エグゼクティブレポートの作成プロセス](#)
- [エグゼクティブレポートの使用](#)
- [エグゼクティブレポートポリシー](#)
- [エグゼクティブレポートファイルのタスク](#)
- [エグゼクティブレポートポリシーのタスク](#)

### 6.1. エグゼクティブレポートの作成プロセス

エグゼクティブレポートを実行するプロセスは、次のとおりです。レポートファイルは次のすべての手順が完了するまで使用できません。

1. オペレータまたは管理者ユーザーは、カスタムダッシュボードテンプレートを定義および保存します。(エグゼクティブレポートは STA に付属の事前定義済みテンプレートを基にすることもできるため、この手順はオプションです。)詳細については、「[テンプレートの作成](#)」を参照してください。
2. 管理者ユーザーは、ダッシュボードテンプレートに基づいてエグゼクティブレポートポリシーを作成します。詳細については、「[エグゼクティブレポートポリシーの作成または変更](#)」を参照してください。

3. オペレータまたは管理者ユーザーがレポートをオンデマンドで実行するか、またはポリシーで定義されたスケジュールに従って自動でレポートを実行します。詳細については、「[エグゼクティブレポートのオンデマンド実行](#)」を参照してください。
4. レポートポリシーに電子メール受信者のリストが含まれる場合、レポートファイルはそれらのユーザーに電子メールで送信されます。詳細については、「[エグゼクティブレポートの電子メール送信](#)」を参照してください。
5. ユーザーは、レポートファイルを表示します。詳細については、「[エグゼクティブレポートの表示](#)」を参照してください。

## 6.2. エグゼクティブレポートの使用

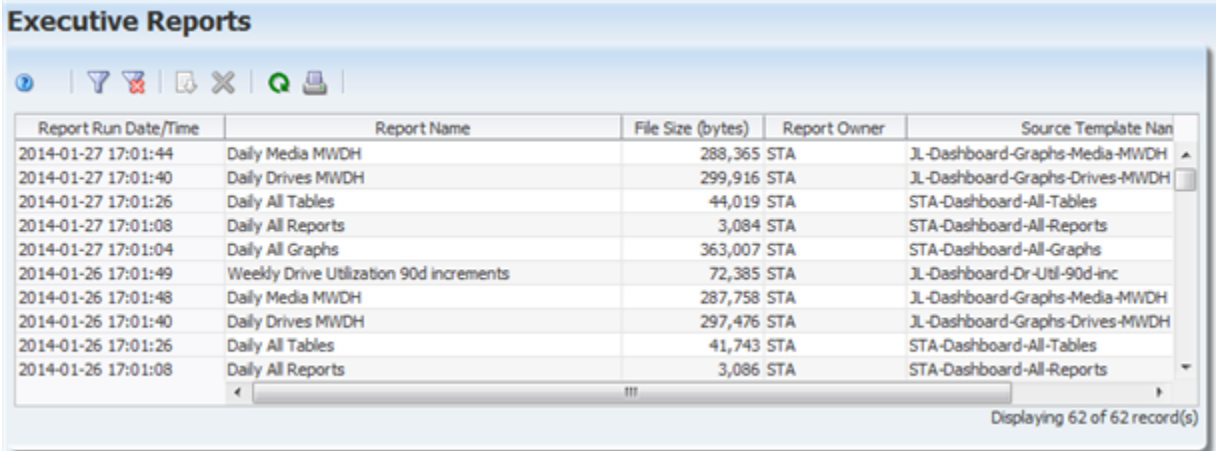
エグゼクティブレポートは PDF 形式で生成され、STA データベースに保存されます。レポートは、指定された受信者に電子メールで自動送信することもできます。

### 6.2.1. エグゼクティブレポートの表示

エグゼクティブレポートを実行すると、「**Home**」タブの「Executive Reports」画面から表示できます。[図6.1「サンプルの「Executive Reports」画面](#)」は例です。画面には、自分の STA ユーザー名で使用可能なすべてのレポートファイルが一覧表示されます。リストが空の場合、または表示されるはずのレポートファイルが含まれない場合は、STA 管理者ユーザーにお問い合わせください。

レポートポリシーは複数回実行できるため、同一レポートの日時スタンプが異なる複数のインスタンスが表示されることがあります。レポートファイルは STA データベースに保存されるため、通常のデータベースバックアップでバックアップされます。不要になった古いレポートファイルは、定期的に削除できます。詳細については、「[エグゼクティブレポートファイルの削除](#)」を参照してください。

図6.1 サンプルの「Executive Reports」画面



The screenshot shows a web interface titled "Executive Reports". At the top, there is a toolbar with icons for search, filter, refresh, and other actions. Below the toolbar is a table with the following columns: Report Run Date/Time, Report Name, File Size (bytes), Report Owner, and Source Template Name. The table contains 12 rows of data, with the first row highlighted. At the bottom right of the table area, it says "Displaying 62 of 62 record(s)".

Report Run Date/Time	Report Name	File Size (bytes)	Report Owner	Source Template Name
2014-01-27 17:01:44	Daily Media MWDH	288,365	STA	JL-Dashboard-Graphs-Media-MWDH
2014-01-27 17:01:40	Daily Drives MWDH	299,916	STA	JL-Dashboard-Graphs-Drives-MWDH
2014-01-27 17:01:26	Daily All Tables	44,019	STA	STA-Dashboard-All-Tables
2014-01-27 17:01:08	Daily All Reports	3,084	STA	STA-Dashboard-All-Reports
2014-01-27 17:01:04	Daily All Graphs	363,007	STA	STA-Dashboard-All-Graphs
2014-01-26 17:01:49	Weekly Drive Utilization 90d increments	72,385	STA	JL-Dashboard-Dr-Util-90d-inc
2014-01-26 17:01:48	Daily Media MWDH	287,758	STA	JL-Dashboard-Graphs-Media-MWDH
2014-01-26 17:01:40	Daily Drives MWDH	297,476	STA	JL-Dashboard-Graphs-Drives-MWDH
2014-01-26 17:01:26	Daily All Tables	41,743	STA	STA-Dashboard-All-Tables
2014-01-26 17:01:08	Daily All Reports	3,086	STA	STA-Dashboard-All-Reports

レポートは PDF 形式で作成されるため、ブラウザウィンドウで直接表示したり、あとで表示するためにローカルコンピュータに保存したりすることができます。手順については、「[エグゼクティブレポートの表示](#)」を参照してください。図6.2「[サンプルのエグゼクティブレポート](#)」は、エグゼクティブレポートのサンプルページです。

エグゼクティブレポートの出力は電子メールで受け取ることもできます。これは、管理者権限を持つユーザーによって設定される必要があります。詳細については、「[エグゼクティブレポートの電子メール送信](#)」を参照してください。

図6.2 サンプルのエグゼクティブレポート



### 6.2.2. エグゼクティブレポートの実行

エグゼクティブレポートは、定期スケジュールおよびオンデマンドで実行できます。レポートスケジュールは、管理者権限を持つユーザーのみが定義できます。レポートは、オペレータ権限以上を持つユーザーがオンデマンドで実行できます。

### 6.2.2.1. レポートスケジュール

エグゼクティブレポートは、次の頻度の定期スケジュールで実行できます。

- 毎日 (24 時間おき)
- 毎週 (7 日おき)
- 毎月 (30 日おき)
- 毎四半期 (90 日おき)
- 毎年 (365 日おき)

ユーザーは、レポートを実行するためにログインする必要はありません。レポートは、UTC 時間 00:30 の直後にバックグラウンドで自動で実行されます。レポートヘッダーに表示される時間は、UTC 時間です。

レポートのスケジュールは、レポートの開始日に基づき、カレンダーベースではなく日数ベースです。つまり、月次レポートは指定された開始日とその後 30 日ごとに実行され、必ずしも毎月同じ日付にはなりません。次にわかりやすくするための例をいくつか示します。すべての開始日は 2013/10/15 です。

頻度	レポートのスケジュール
毎日	2013/10/15, 2013/10/16, 2013/10/17 など
毎週	2013/10/15, 2013/10/22, 2013/10/29 など
毎月	2013/10/15, 2013/11/14, 2013/12/14, 2014/01/13 など
毎四半期	2013/10/15, 2014/01/13, 2014/04/13, 2014/07/12 など
毎年	2014/10/15, 2015/10/15, 2016/10/15, 2017/10/14 など

### 6.2.2.2. オンデマンドレポート

オンデマンドで実行すると、エグゼクティブレポートは次の使用可能なタイミングで実行されます。システムアクティビティーによっては、実行開始までに最大で 2 分の遅延が生じることがあります。オンデマンドレポートの実行は、通常のレポートのスケジュールには影響しません。レポートは、オンデマンドで実行された回数に関係なく、定期的にスケジュールされた時間に実行されます。

### 6.2.3. レポートファイルを実行するためのユーザーの役割

エグゼクティブレポートファイルタスクには、すべてのユーザーの役割で実行することができるものも、管理者またはオペレータ役割でのみ使用可能なものもあります。

注:

ユーザーの役割に関係なく、自動で実行されたレポートや任意の STA ユーザー名で実行されたレポートを表示できます。

表6.1「エグゼクティブレポートファイルのユーザーの役割」に、各 STA ユーザーの役割で使用可能なエグゼクティブレポートファイルアクティビティのサマリーを示します。

表6.1 エグゼクティブレポートファイルのユーザーの役割

ユーザーの役割	レポートアクティビティ	画面
オペレータ以上	パブリックレポートをオンデマンドで実行します。	「 <b>Setup &amp; Administration</b> 」を選択して、「 <b>Executive Reports Policies</b> 」を選択します。
オペレータ以上	自動またはオンデマンドで実行したパブリックレポートファイルを削除します。	「 <b>Home</b> 」を選択して、「 <b>Executive Reports</b> 」を選択します。
ビューア以上	自動またはオンデマンドで実行したパブリックレポートファイルのリストを表示し、次のようにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>レポートファイルをエクスポートおよび表示します。</li> <li>レポートファイルリストをフィルタします。</li> <li>レポートファイルリストを出力します。</li> </ul>	「 <b>Home</b> 」を選択して、「 <b>Executive Reports</b> 」を選択します。

## 6.3. エグゼクティブレポートポリシー

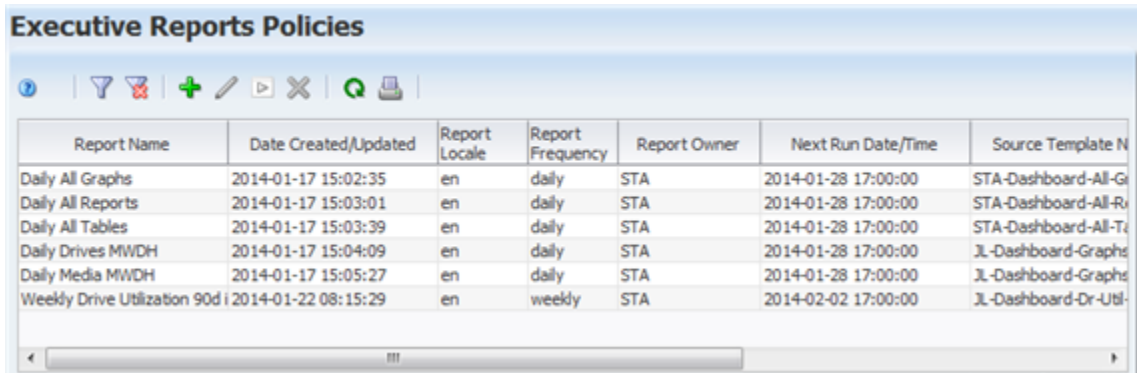
このセクションでは、エグゼクティブレポートポリシーに関する情報について説明します。

### 6.3.1. エグゼクティブレポートポリシーの定義

「**Setup & Administration**」タブの「Executive Reports Policies」画面には、すべてのエグゼクティブレポートポリシーが表示されます。図6.3「サンプルの「Executive Reports Policies」画面」は例です。



図6.3 サンプルの「Executive Reports Policies」画面



Report Name	Date Created/Updated	Report Locale	Report Frequency	Report Owner	Next Run Date/Time	Source Template N
Daily All Graphs	2014-01-17 15:02:35	en	daily	STA	2014-01-28 17:00:00	STA-Dashboard-All-Gi
Daily All Reports	2014-01-17 15:03:01	en	daily	STA	2014-01-28 17:00:00	STA-Dashboard-All-Ri
Daily All Tables	2014-01-17 15:03:39	en	daily	STA	2014-01-28 17:00:00	STA-Dashboard-All-Ti
Daily Drives MWDH	2014-01-17 15:04:09	en	daily	STA	2014-01-28 17:00:00	SL-Dashboard-Graphs
Daily Media MWDH	2014-01-17 15:05:27	en	daily	STA	2014-01-28 17:00:00	SL-Dashboard-Graphs
Weekly Drive Utilization 90d	2014-01-22 08:15:29	en	weekly	STA	2014-02-02 17:00:00	SL-Dashboard-Dr-Util

各エグゼクティブレポートポリシーは、保存されているダッシュボードテンプレートに基づき、次の要素が含まれます。

- レポート名 – レポートの英数字識別子。レポート名は、一意である必要はありません。
- ソースダッシュボードテンプレート – レポートは、「STA-Default」以外の STA ユーザー名に基づくことができます。「STA-Default」という名前のテンプレートに基づくレポートを作成するには、このテンプレートを別名で保存してから、その新しい名前に基づいたレポートにします。
- 開始日 – レポートを実行するようにスケジュールされた最初の日。詳細については、「[エグゼクティブレポートの実行](#)」を参照してください。これは、この日の 00:30 UTC の直後に自動で実行されます。
- 頻度 – レポートを実行するようにスケジュールされた頻度。詳細については、「[エグゼクティブレポートの実行](#)」を参照してください。
- 所有権 – エグゼクティブレポートポリシーの所有権により、ポリシーを表示および使用できるユーザーが決まります。パブリックポリシーは、STA ユーザーによって所有されます。プライベートポリシーは、このポリシーを作成した STA 管理者ユーザー名によって所有されます。プライベートポリシーと、プライベートポリシーによって生成されるレポートは、ポリシー所有者のみが STA ユーザーインターフェースから管理および表示できます。パブリックポリシーと、パブリックポリシーによって生成されるレポートは、どのユーザーでも表示および管理できます。

注:

STA ユーザー名が削除されると、そのユーザーの所有するすべてのプライベートレポートポリシーは、削除を実行する管理者ユーザーの選択に応じて、自動的に削除されるかパブリックになります。詳細は、「[STA ユーザー名の削除](#)」を参照してください。

- 電子メール受信者 – レポートは、任意の数の電子メールアドレスに送信できます。電子メールアドレスは、「Configuration – Email」画面で定義する必要があります。レポートの PDF は、各レポート実行の完了後に受信者へ電子メールで送信されます。

### 6.3.2. エグゼクティブレポートの電子メール送信

レポートを電子メールで送信することは、STA の通常ユーザーではない相手や STA ユーザー名を持たない人にレポートを提供できる方法の 1 つです。各エグゼクティブレポートは、STA の「Configuration – Email」画面で事前に定義した任意の数の電子メールアドレスに送信できます。手順については、「[STA ユーザー名の追加](#)」を参照してください。

各レポートの電子メール受信者リストは、管理者権限を持つユーザーのみが定義できます。レポートの PDF は、実行されるとすぐに受信者に電子メールで送信されます。エグゼクティブレポートのサンプルページについては、[図6.2「サンプルのエグゼクティブレポート」](#)を参照してください。

### 6.3.3. エグゼクティブレポートポリシーのユーザーの役割

[表6.2「エグゼクティブレポートポリシーのユーザーの役割」](#)に、オペレータ役割および管理者役割が使用可能なエグゼクティブレポートポリシーアクティビティをサマリーします。

表6.2 エグゼクティブレポートポリシーのユーザーの役割

ユーザーの役割	レポートアクティビティ	画面
管理者のみ	<p>パブリックまたはプライベートレポートポリシーを作成します。</p> <p>レポートポリシーのリストを表示します (現在の STA ユーザー名によって作成されたパブリックポリシーおよびプライベートポリシーを含む)。</p> <p>レポートポリシーを次のように変更します (現在の STA ユーザー名によって作成されたパブリックポリシーまたはプライベートポリシーを含む)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポートの通常スケジュールを定義します。</li> <li>パブリックまたはプライベート所有権をポリシーに割り当てます。</li> <li>レポートファイルを受信する電子メールアドレスを指定します。</li> </ul>	<p>「<b>Setup &amp; Administration</b>」を選択して、「<b>Executive Reports Policies</b>」を選択します。</p>

ユーザーの役割	レポートアクティビティ	画面
	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポートの基になるダッシュボードテンプレートを変更します。</li> <li>ポリシーを削除します。</li> </ul>	
オペレータ以上	次のようにパブリックレポートポリシーのリストを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>レポートポリシーリストをフィルタします。</li> <li>レポートポリシーリストを出力します。</li> </ul>	「 <b>Setup &amp; Administration</b> 」を選択して、「 <b>Executive Reports Policies</b> 」を選択します。

## 6.4. エグゼクティブレポートファイルのタスク

これらのタスクには、エグゼクティブレポート出力ファイルの表示と管理が含まれ、すべてのユーザーの役割で実行できます。これらのタスクは、「**Home**」タブの「**Executive Reports**」画面から実行できます。

注:

パブリックレポートおよび自分の STA ユーザー名によって所有されているプライベートレポートのみにアクセスできます。別の STA ユーザー名によってプライベートに所有されているレポートでこれらのタスクを実行することはできません。詳細は、「[エグゼクティブレポートポリシーの定義](#)」を参照してください。

- 「[エグゼクティブレポートの表示](#)」
- 「[エグゼクティブレポートファイルの削除](#)」
- 「[エグゼクティブレポートファイルのリストの管理](#)」

### 6.4.1. エグゼクティブレポートのオンデマンド実行

この手順を使用して、選択したエグゼクティブレポートをただちに実行します。レポートは、最初の利用可能な機会に実行されます (最大 2 分遅れることがあります)。これは、レポートのスケジュールには影響せず、通常のスケジュールされた時間にも実行されます。

注:

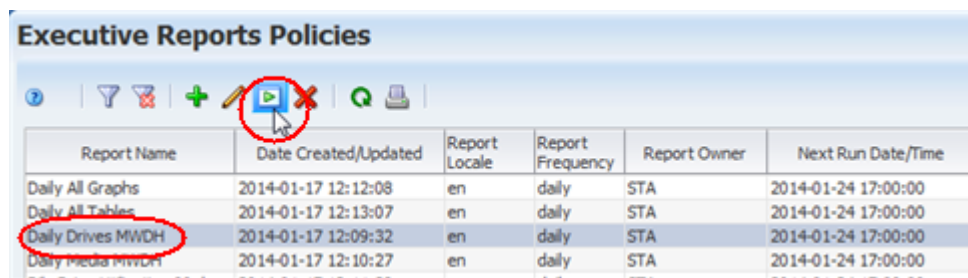
この手順では、オペレータ権限または管理者権限が必要です。

- ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Executive Reports Policies**」を選択します。



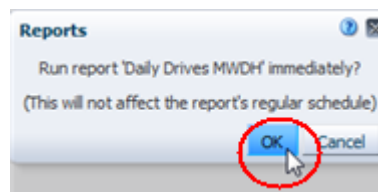
「Executive Reports Policies」画面が表示されます。

2. 実行するレポートポリシーを選択し、「Run」をクリックします。



確認ダイアログボックスが表示されます。

3. 情報を検証し、「OK」をクリックしてレポートを実行します。

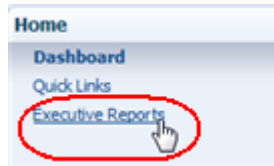


レポートが実行されます。出力を表示する手順については、「エグゼクティブレポートの表示」を参照してください。

## 6.4.2. エグゼクティブレポートの表示

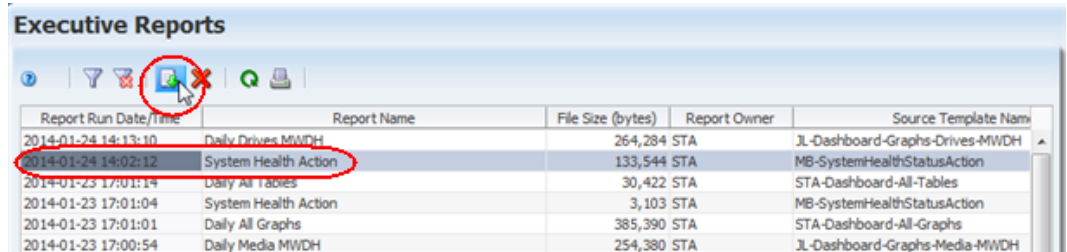
この手順を使用して、エグゼクティブレポートを実行後に表示します。レポートは Adobe PDF 形式で作成されます。

1. ナビゲーションバーで、「Home」を選択して、「Executive Reports」を選択します。

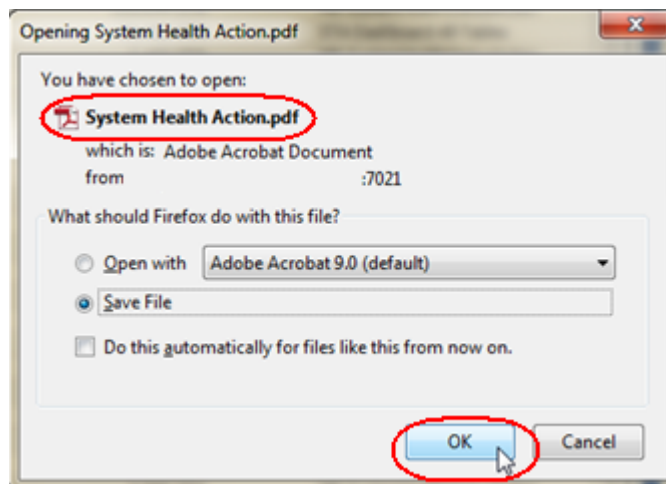


「Executive Reports」画面が表示され、自分の STA ユーザー名で使用可能なすべてのレポートファイルが表示されます。

- 表示するレポートファイルを選択し、「Export」をクリックします。



ファイルは、ブラウザ設定に従ってコンピュータにダウンロードされます。詳細は、使用しているブラウザのドキュメントを参照してください。次は、Windows で Mozilla Firefox を実行しているコンピュータで表示される可能性のある、サンプルのダイアログボックスです。



この例では、次のように進めます。

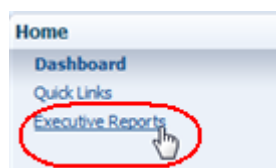
- 「Save File」および「OK」をクリックすると、レポートがローカルコンピュータに保存されます。レポートは PDF 形式で保存され、あとで Adobe Reader を使用して表示できます。

- 「Open with」および「OK」をクリックして、レポートをブラウザから表示します。このオプションでは、Adobe Acrobat アドオンがブラウザにインストールされ、有効になっている必要があり、正確な動作はブラウザ構成によって異なります。このオプションを使用できない場合は、手順について使用しているブラウザのドキュメントを参照してください。

### 6.4.3. エグゼクティブレポートファイルの削除

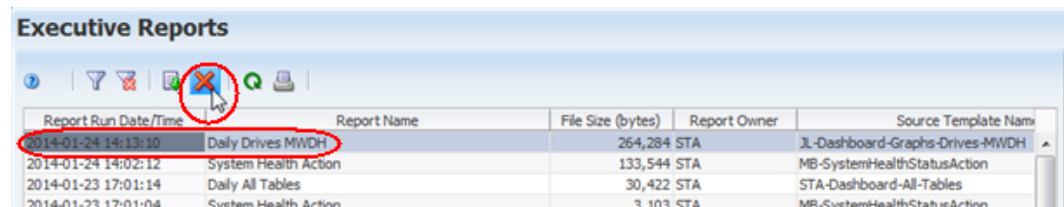
この手順を使用して、選択したレポートファイルを削除します。これは、ほかのレポートファイルにも、レポートポリシー定義にも影響を与えません。削除するレポートファイルは 1 回につき 1 つのみ選択できます。

1. ナビゲーションバーで、「Home」を選択して、「Executive Reports」を選択します。



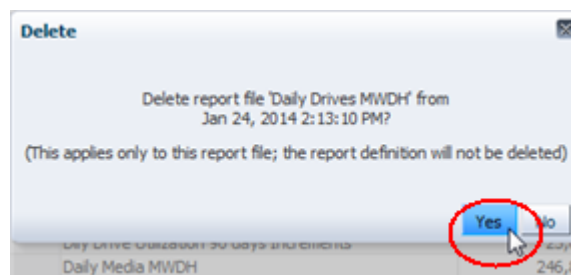
「Executive Reports」画面が表示され、自分の STA ユーザー名で使用可能なすべてのレポートファイルが示されます。

2. 削除するレポートファイルを選択し、「Delete」をクリックします。

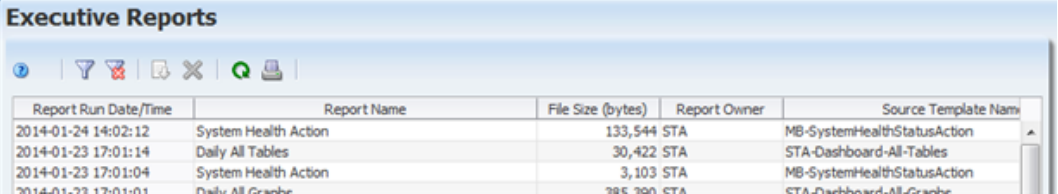


削除の確認ダイアログボックスが表示されます。

3. 選択を確認して、「Yes」をクリックして削除を確認します。



レポートファイルが削除され、「Executive Reports」画面から表示できなくなります。



Report Run Date/Time	Report Name	File Size (bytes)	Report Owner	Source Template Name
2014-01-24 14:02:12	System Health Action	133,544	STA	MB-SystemHealthStatusAction
2014-01-23 17:01:14	Daily All Tables	30,422	STA	STA-Dashboard-All-Tables
2014-01-23 17:01:04	System Health Action	3,103	STA	MB-SystemHealthStatusAction
2014-01-23 17:01:01	Daily All Crashes	396,308	STA	STA-Dashboard-All-Crashes

#### 6.4.4. エグゼクティブレポートファイルのリストの管理

エグゼクティブレポートファイルのリストはリストビュー表であり、概要画面で見られるものと似ています。任意のリストビュー表と同じ機能を実行できます。手順については、次の手順を参照してください。

- 表レコードをフィルタするには、「[「Filter Data」ダイアログボックスを使用したテーブルフィルタの変更](#)」を参照してください。
- 表に適用されたフィルタをリセットするには、「[現在のフィルタのクリア](#)」を参照してください。
- 表をリフレッシュして新しいレポートファイルを表示するには、『[STA 画面基本ガイド](#)』を参照してください。
- テーブルの出力可能なフォームをブラウザの別個のタブまたはウィンドウに表示するには、『[STA 画面基本ガイド](#)』を参照してください。
- テーブルを画面から切り離して、ブラウザフォアグラウンド内の別個のウィンドウに表示するには、『[STA 画面基本ガイド](#)』を参照してください。

### 6.5. エグゼクティブレポートポリシーのタスク

これらのタスクには、エグゼクティブレポートポリシーの作成と管理が含まれ、オペレータまたは管理者権限が必要です。これらのタスクは、「[Setup & Administration](#)」タブの「[Executive Reports Policies](#)」画面から実行します。

注:

パブリックレポートおよび自分の STA ユーザー名によって所有されているレポートのみにアクセスできます。別の STA ユーザー名によってプライベートに所有されているレポートでこれらのタスクを実行することはできません。詳細は、「[エグゼクティブレポートポリシーの定義](#)」を参照してください。

- 「[エグゼクティブレポートポリシーの作成または変更](#)」。
- 「[エグゼクティブレポートポリシーの削除](#)」
- 「[エグゼクティブレポートのオンデマンド実行](#)」
- 「[エグゼクティブレポートポリシーのリストの管理](#)」



### 6.5.1. エグゼクティブレポートポリシーの作成または変更

この手順を使用して、エグゼクティブレポートポリシーを作成したり、既存のパブリックポリシーまたは自分の STA ユーザー名によって所有されているプライベートポリシーに次の変更を加えたりします。

- ポリシーの名前を変更します。
- ポリシーの基になる別のダッシュボードテンプレートを指定します。

---

注:

ポリシーが自分の STA ユーザー名によって所有されているプライベートテンプレート、またはパブリックテンプレートに基づいている場合にかぎり、この変更を加えることができます。

- レポートがポリシーから生成される定期スケジュールを変更します。
- ポリシーのパブリックまたはプライベート所有権や生成されるレポートを変更します。
- ポリシーによって生成されるレポートの電子メール受信者を変更します。

オプションで、変更を加えたあとオンデマンドでレポートを実行できます。

---

注:

この手順では、管理者権限が必要です。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Executive Reports Policies**」を選択します。

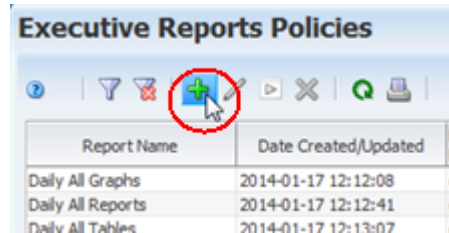


「Executive Reports Policies」画面が表示されます。

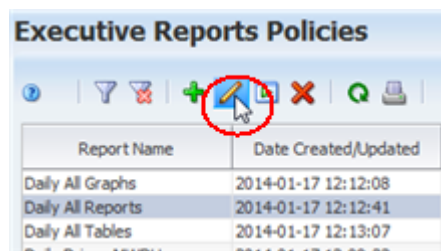
2. 次のように進めます。



- レポートを作成するには、「Executive Reports Policies」表ツールバーの「**Add**」をクリックします。



- 既存のレポートポリシーを変更するには、表でポリシーを選択し、「**Edit**」をクリックします。別の STA ユーザー名によって所有されているプライベートエグゼクティブレポートポリシーは、変更することができません。



「Add/Edit Executive Reports Policy」ダイアログボックスが表示されます。

3. 次のように「Add/Edit Executive Reports Policy」ダイアログボックスを完成させます。
  - a. 「**Report Name**」フィールドで、一意の名前を入力します。

入力には、長さ 250 文字までの英数字を含めることができます。

- b. 「**Source Dashboard Template**」メニューで、エグゼクティブレポートの基として使用するテンプレートを選択します。メニューに、STA ユーザー名に適用可能なすべてのダッシュボードテンプレートが表示されます。

注:

ポリシーを変更していて、ソーステンプレートが別の STA ユーザー名によってプライベートに所有されている場合、このフィールドは表示専用です。

- c. 「**Locale**」メニューで、「**English**」を選択します。これは、この時点で使用可能な唯一のオプションです。
- d. 「**Start Date**」フィールドで、レポートのスケジュール実行を開始する日付を指定します。レポートは、この日付から開始して、00:30 UTC の直後に実行されます。
- e. 「**Run Frequency**」メニューで、レポートを実行する頻度を選択します。
- f. 「**Shared**」フィールドで、次のいずれかのオプションを選択します。

- レポートをすべてのユーザーに使用可能にする場合は「Public」。
  - レポートを現在の STA ユーザー名のみで使用可能にする場合は「Private」。これは電子メール受信者リストには影響しません。レポートがプライベートであっても、ほかのユーザーに電子メールで送信したレポートのコピーは保持できます。
- g. 「Email Recipients」メニューで、レポートの各実行後にレポートのコピーを電子メールで送信する電子メールアドレスを選択します。レポートは、PDF 添付ファイルとして送信されます。メニューには、STA に定義されたすべての電子メールアドレスが一覧表示されます。
4. 情報が正しいことを検証し、次のいずれかのボタンをクリックします。
- レポートポリシーを保存し、指定された「Start Date」にはじめて実行する場合は「Save」。
  - レポートポリシーを保存し、ただちに実行する場合は「Save and Run」。これは、定義したスケジュールには影響せず、指定された「Start Date」以降の通常のスケジュールされた時間にも実行されます。

The screenshot shows a dialog box titled "Add/Edit Executive Reports Policy". It contains several fields: "Report Name" (System Health Action), "Source Dashboard Template" (MB-SystemHealthStatusAction), "Locale" (English), "Start Date" (2014-01-24), "Run Frequency" (Daily), "Shared" (Public selected), and "Email Recipients". At the bottom, there are three buttons: "Save", "Save and Run" (circled in red), and "Cancel".

新しいポリシー情報で「Executive Reports Policies」画面が更新されます。

The screenshot shows a table titled "Executive Reports Policies" with the following data:

Report Name	Date Created/Updated	Report Locale	Report Frequency	Report Owner	Next Run Date/Time	Source Template Name
Daily All Graphs	2014-01-17 12:12:08	en	daily	STA	2014-01-24 17:00:00	STA-Dashboard-All-Graphs
Daily All Tables	2014-01-17 12:13:07	en	daily	STA	2014-01-24 17:00:00	STA-Dashboard-All-Tables
Daily Drives MWDH	2014-01-17 12:09:32	en	daily	STA	2014-01-24 17:00:00	JL-Dashboard-Graphs-Drives
Daily Media MWDH	2014-01-17 12:10:27	en	daily	STA	2014-01-24 17:00:00	JL-Dashboard-Graphs-Media
Daily Drive Utilization 90 days	2014-01-17 12:11:38	en	daily	STA	2014-01-24 17:00:00	JL-Dashboard-Dr-JHL-90d-inc
System Health Action	2014-01-17 12:12:41	en	daily	STA	2014-01-24 17:00:00	MB-SystemHealthStatusActio

「**Save and Run**」を選択した場合、レポートは最初に使用可能なタイミングでバックグラウンドで実行されます。レポートの実行が開始されるまでに、最大で 2 分かかることがあります。

レポートの実行が完了するとすぐに、「**Home**」タブの「Executive Reports」画面から出力を利用できます。出力を表示する手順については、「[エグゼクティブレポートの表示](#)」を参照してください。

## 6.5.2. エグゼクティブレポートポリシーの削除

この手順を使用して、エグゼクティブレポートポリシーを削除します。パブリックポリシー、または自分の STA ユーザー名によって作成されたプライベートポリシーのみを削除できます。

レポートポリシーを削除しても、それまでに実行されたレポートファイルは削除されず、引き続き「Executive Reports」画面で表示できます。

注:

この手順では、管理者権限が必要です。

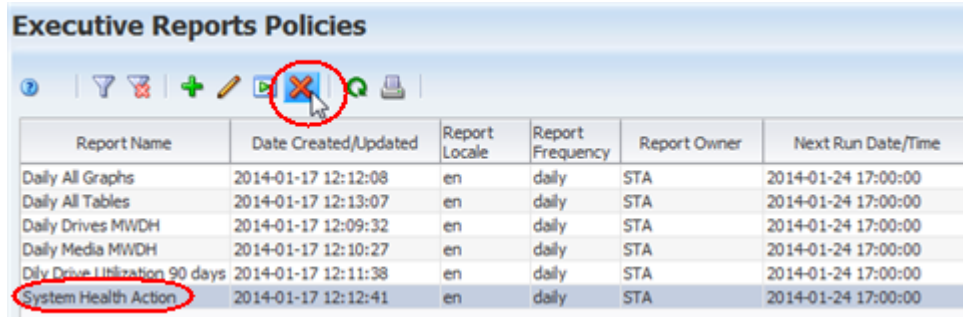
1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Executive Reports Policies**」を選択します。



「Executive Reports Policies」画面が表示されます。

2. 削除するレポートポリシーを選択し、「**Delete**」をクリックします。

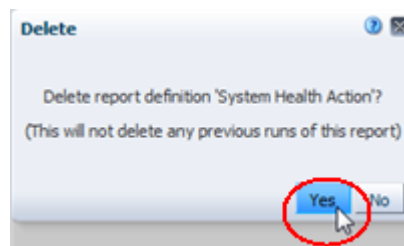
**Executive Reports Policies**



Report Name	Date Created/Updated	Report Locale	Report Frequency	Report Owner	Next Run Date/Time
Daily All Graphs	2014-01-17 12:12:08	en	daily	STA	2014-01-24 17:00:00
Daily All Tables	2014-01-17 12:13:07	en	daily	STA	2014-01-24 17:00:00
Daily Drives MWDH	2014-01-17 12:09:32	en	daily	STA	2014-01-24 17:00:00
Daily Media MWDH	2014-01-17 12:10:27	en	daily	STA	2014-01-24 17:00:00
Dily Drive Utilization 90 days	2014-01-17 12:11:38	en	daily	STA	2014-01-24 17:00:00
System Health Action	2014-01-17 12:12:41	en	daily	STA	2014-01-24 17:00:00

「Delete」ダイアログボックスが表示されます。

3. 選択を確認して、「Yes」をクリックして削除を確認します。



レポートポリシーが削除されます。

### 6.5.3. エグゼクティブレポートポリシーのリストの管理

エグゼクティブレポートポリシーのリストはリストビュー表であり、概要画面で見られるものと似ています。任意のリストビュー表と同じタスクを実行できます。手順については、次の手順を参照してください。

- 表レコードをフィルタするには、「[Filter Data](#)」ダイアログボックスを使用した[テーブルフィルタの変更](#)を参照してください。
- 表に適用されたフィルタをリセットするには、「[現在のフィルタのクリア](#)」を参照してください。
- テーブルをリフレッシュして新しいレポートポリシーを表示するには、『[STA 画面基本ガイド](#)』を参照してください。
- テーブルの出力可能なフォームをブラウザの別個のタブまたはウィンドウに表示するには、『[STA 画面基本ガイド](#)』を参照してください。
- テーブルを画面から切り離して、ブラウザフォアグラウンド内の別個のウィンドウに表示するには、『[STA 画面基本ガイド](#)』を参照してください。

---

---

## Logical Groups

STA の論理グループ機能を使用すると、ドライブおよびメディアのユーザー定義グループをいくつでも作成できます。論理グループは、STA データのフィルタリングおよびレポート作成を行う際に役立ちます。サイトでオプションの STA メディア検証機能を有効にしている場合、自動メディア検証ポリシーを定義する際に論理グループを使用できます。詳細は、「[論理グループごとにメディアを検証する](#)」を参照してください。

論理グループには、任意の組み合わせのドライブ、メディア、またはその両方を含めることができます。個々のドライブおよびメディアは、一度に複数の論理グループに属することができます。

オペレータ権限または管理者権限を持つすべてのユーザーは、この章で説明しているアクティビティを実行できます。

この章の内容は次のとおりです。

- [論理グループの使用](#)
- [論理グループの作成プロセス](#)
- [論理グループのタイプ](#)
- [論理グループでフィルタリング](#)
- [論理グループの作成および管理タスク](#)

### 7.1. 論理グループの使用

論理グループを使用することで、STA データの整理およびレポート作成が可能になるいくつかの方法を次に示します。

- 次の画面で、論理グループを使用してデータをフィルタします。詳細は、「[論理グループでフィルタリング](#)」を参照してください。
  - 「Drives Overview」および「Drives Analysis」
  - 「Media Overview」および「Media Analysis」

- 選択したダッシュボードポートレット
- 論理グループでフィルタされた画面のレイアウトをテンプレートとして保存します。フィルタはテンプレートの一部として保存されます。詳細は、「[テンプレート定義に含まれる画面特性](#)」を参照してください。
- 論理グループでフィルタされたダッシュボードテンプレートに基づいてエグゼクティブレポートを作成します。詳細は、6章「[エグゼクティブレポート](#)」を参照してください。

### 7.1.1. 論理グループの例

#### 例 1 ライブラリパーティションの論理グループ

ライブラリには 8 つのパーティションがあり、ユーザーは各パーティションのドライブおよびメディアについて STA レポートを作成したいと考えます。それを行うには、ライブラリのパーティションごとに 1 つの論理グループを作成できます。

#### 例 1 地理的に異なる場所にあるライブラリの論理グループ

2 人のライブラリオペレータがあるサイトのライブラリを管理し、別の 3 人のオペレータがもう 1 つのサイトを管理しています。オペレータは、自分たちのサイトのドライブとメディアのみを対象とする STA データを参照したいと考えます。それを行うには、サイトごとに 1 つの論理グループを作成できます。

#### 例 1 アーカイブメディアの論理グループ

アーカイブサイトでは、各アーカイブメディアの 2 つのコピーが作成されます。2 セットのメディアを管理しやすくするために、すべてのコピー #1 メディアに対する 1 つの論理グループと、コピー #2 メディアに対する別の論理グループを作成できます。

#### 例 1 測定メディアの論理グループ

STA メディア検証機能の一部であるドライブの測定および評価を有効にするよう選択する場合、この目的で使用するメディアの論理グループを定義する必要があります。すべてのドライブの測定および評価アクティビティはこれらのメディアのみで行い、これらのメディアは本番データには使用しないようにします。詳細は、「[キャリブレーションメディア論理グループ](#)」を参照してください。

## 7.2. 論理グループの作成プロセス

論理グループを作成するプロセスは次のとおりです。

1. 「Logical Groups」画面から論理グループを作成します。名前を割り当て、手動にするか、動的グループにするかを指定します。詳細は、「[論理グループのタイプ](#)」を参照してください。
2. 次のいずれかの方法を使用して、グループにドライブおよびメディアを追加します。
  - グループが手動の場合は、グループに追加する個々のドライブとメディアを選択します。これは「Drives Overview」および「Media Overview」の各画面から実行します。詳細は、「[手動論理グループへのドライブおよびメディアの追加](#)」を参照してください。

- グループが動的な場合、ドライブとメディアをグループに割り当てるための選択条件を定義します。これも「Logical Groups」画面から実行します。これで、STA が自動的にグループを作成するようになります。詳細は、「[動的論理グループの作成および定義](#)」を参照してください。

### 7.2.1. 論理グループの所有権

論理グループは、そのグループを作成した STA ユーザー名によって所有され、所有者を削除した場合を除き所有権は変更できません。論理グループの所有者は「Logical Groups」画面に表示されます。

---

注:

STA ユーザー名が削除されると、そのユーザー名が所有しているすべての論理グループは、その削除を実行する管理者ユーザーが選択する内容に従って自動的に削除されるか、パブリックにされます。詳細は、「[STA ユーザー名の削除](#)」を参照してください。

---

## 7.3. 論理グループのタイプ

論理グループを作成する際に、手動か動的かを指定します。グループを一度作成したあとは、そのタイプを変更することができません。

### 7.3.1. 手動論理グループ

手動論理グループは比較的静的です。ユーザーが直接操作を行う場合を除いてメンバーシップは変更されません。手動論理グループは、選択したドライブおよびメディアを手動でグループに割り当てることで作成します。グループに対するドライブとメディアの追加や削除は、任意の時点で行うことができます。詳細は、「[手動論理グループの作成](#)」を参照してください。

### 7.3.2. 動的論理グループ

動的論理グループは、ドライブとメディアの属性の変化に応じて、時間の経過とともに変化します。動的論理グループのメンバーシップは、ユーザーが定義する選択条件に基づいています。論理グループの選択条件は STA のフィルタリング機能とほぼ同様に機能し、単純なものから非常に複雑なものにまでできます。詳細は、「[動的論理グループの作成および定義](#)」を参照してください。

テープライブラリシステムのサイズによっては、はじめて動的グループを作成する際に時間がかかる場合があります。グループはバックグラウンドで作成されるため、グループの作成中もその他の STA アクティビティを続行できます。



### 7.3.2.1. 動的グループメンバーシップの更新

動的グループメンバーシップは、ライブラリ環境に対してドライブとメディアが追加または削除されたとき、および個々のドライブとメディアの属性が変更されたときに自動的に更新されます。ドライブとメディアは、グループの選択条件を満たすと自動的にグループに追加され、条件を満たさなくなると自動的に削除されます。

グループメンバーシップの更新は 1 時間ごとに行われますが、グループの更新を手動でいつでも開始できます。詳細は、「[動的論理グループの強制的な更新](#)」を参照してください。

個々のドライブとメディアを動的グループから手動で追加または削除することはできません。動的グループのメンバーシップを変更するには、選択条件を修正します。「[動的論理グループの選択条件の変更](#)」を参照してください。

### 7.3.2.2. 動的グループの選択条件

選択条件の作成に使用できるドライブとメディアの属性はさまざまです。ドライブのみに適用される属性もあれば、メディアのみに適用される属性、その両方に適用される属性もあります。次に例を示します。

- 「Matching on Library Name」ではドライブとメディアの両方が選択されます。
- 「Matching on Drive Type」ではドライブのみが選択されます。
- 「Matching on Cleaning Media」ではメディアのみが選択されます。

[表7.1「動的論理グループの選択条件」](#)は、使用可能な条件と、それらの条件がドライブのみに適用されるか、メディアのみか、またはその両方に適用されるかを示しています。

表7.1 動的論理グループの選択条件

属性	ドライブのみ	メディアのみ	両方
Cleaning Media		X	
Drive Firmware Version	X		
ドライブの健全性インジケータ	X		
ドライブシリアル番号	X		
ドライブタイプ	X		
ドライブ疑いレベル	X		
HLI アドレス			X



属性	ドライブのみ	メディアのみ	両方
「Library Complex Name」			X
「Library Model」			X
ライブラリ名			X
ライブラリ番号			X
ライブラリシリアル番号			X
メディアの健全性インジケータ		X	
メディア疑いレベル		X	
Media Type		X	
「Partition Name」			X
パーティション番号			X
「Partition Type」			X
「Physical Address」			X
レール番号			X
SCSI 要素 ID			X
STA スタートトラッキング (日数)			X
STA スタートトラッキング (日付)			X
ボリュームシリアル番号		X	

## 7.4. 論理グループでフィルタリング

論理グループを作成および管理できるのはオペレータ権限または管理者権限を持つユーザーのみですが、ビューア権限を持つユーザーを含むすべてのユーザーが、既存の論理グループを使用して STA データをフィルタできます。論理グループで画面をフィルタリングすると、そのグループのドライブとメディアだけに集中できます。

次の画面上のデータは、論理グループでフィルタできます。

- 「Drives Overview」および「Drive Analysis」
- 「Media Overview」および「Media Analysis」
- 選択したダッシュボードポートレット – ポートレットのリストは、[「論理グループによるフィルタリングが可能なダッシュボードポートレット」](#)を参照してください。

また、次のタイプのポリシーでは、選択条件で論理グループを使用できます。

- アラートポリシー – 詳細は、「[論理グループを使用したアラートポリシーの定義](#)」を参照してください。
- メディア検証ポリシー – 詳細は、「[キャリブレーションメディア論理グループ](#)」および「[論理グループごとにメディアを検証する](#)」を参照してください。

### 7.4.1. 論理グループを使用したフィルタの作成

ドライブおよびメディアは、一度に複数の論理グループに属することができます。このため、論理グループによるフィルタリングの選択条件を作成する際は、通常、「Filter Data」ダイアログボックスで「Is」および「Isn't」演算子ではなく、「Contains」および「Doesn't Contain」演算子を使用の方が適切です。「Is」および「Isn't」演算子では排他的一致が必要とされるため、フィルタの結果、指定する論理グループに属するレコードが選択されるのではなく、どのレコードも選択されないか、またはすべてのレコードが選択されることになる可能性があります。

これらの演算子の使用例をこの後に示しています。これらの例では、3つのドライブと26のメディアを含む「LTO6-Drives-Media」論理グループを使用しています。

The screenshot shows the 'Logical Groups' interface. Under 'Defined Logical Groups', there is a table with the following data:

Logical Group Name	Logical Group Type	Logical Group Owner	Media Count	Drive Count
LTO5-Drives	Dynamic	sta_admin	0	3
LTO6-Drives-Media	Manual	sta_admin	26	3

Below this, under 'Assigned Entities', there are two tables:

**Drives**

Drive Serial Number	Drive Model	Date Joined
1068000642	LTO6	8/27/2013
1068000718	LTO6	8/27/2013
HU1233PP0Y	LTO6	8/27/2013

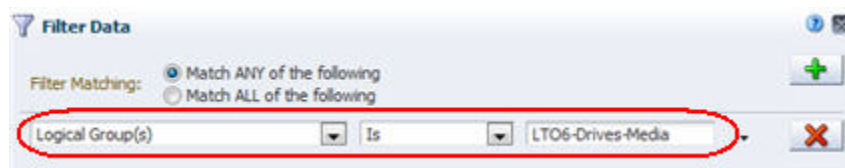
**Media**

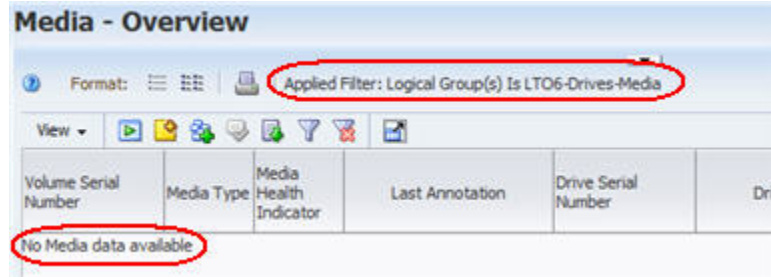
Volser	Media Type	Date Joined
IM1515	LTO6	8/27/2013
IM1516	LTO6	8/27/2013
IM1517	LTO6	8/27/2013
IM1518	LTO6	8/27/2013

#### 例 1 「Is」演算子の使用

「Media – Overview」画面で、「Is」演算子を使用して「LTO6-Drives-Media」論理グループをフィルタしても、選択されるレコードはありません。これは、LTO6-Drives-Media グループのすべてのメディアが、少なくとももう1つのグループにも属しているためです。

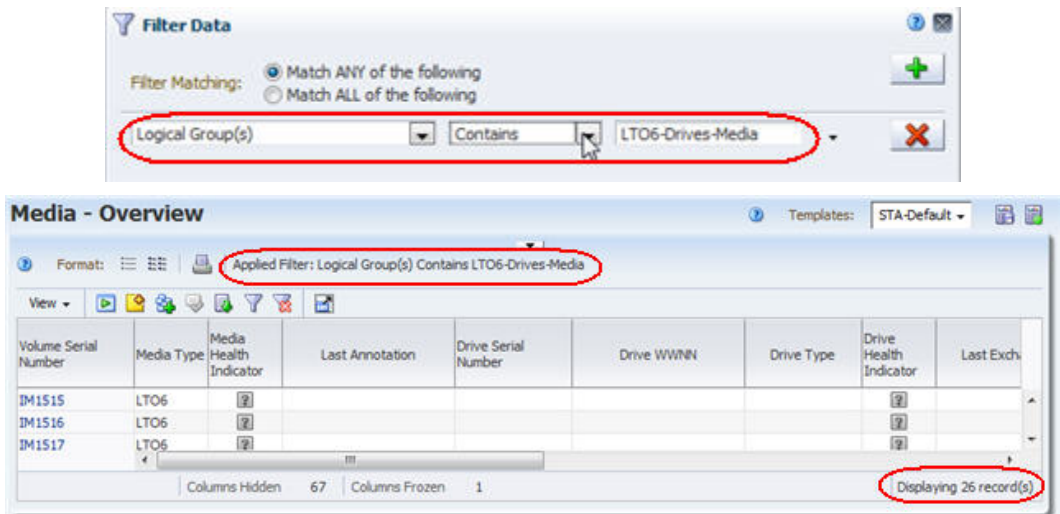
「Is」演算子は、指定された論理グループのみに属するドライブとメディアを選択します。ドライブとメディアがその他のグループにも属している場合、それらのドライブとメディアはフィルタで選択されません。





### 例 1 「Contains」演算子の使用

フィルタの演算子を「Contains」に変更すると、論理グループ内の 26 個すべてのメディアレコードが選択されます。「Contains」演算子は、指定された論理グループと、その他の任意の数のグループに属するドライブとメディアを選択します。

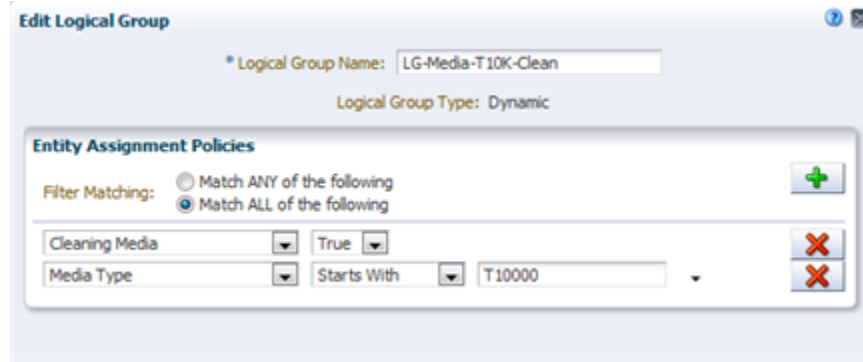


## 7.4.2. 論理グループ定義の変更がフィルタに及ぼす可能性のある影響

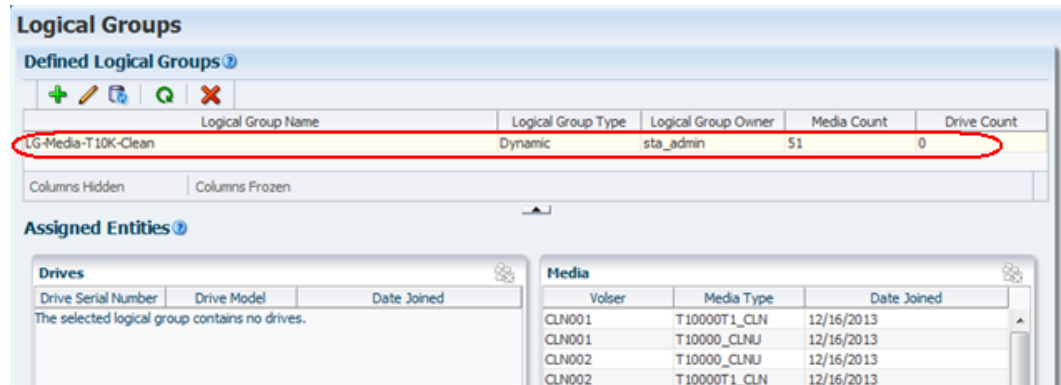
選択条件の一部としてフィルタに論理グループが含まれている場合、論理グループの定義を変更すると、フィルタの動作に影響を与えます。次の例では、変更によって起こる可能性のある影響をステップごとに示しています。

### ステップ 1 論理グループの定義

「Logical Groups」画面で、T10000 のすべてのクリーニングメディアに対する論理グループ「LG-Media-T10K-Clean」が作成されています。このグループの定義は次のとおりです。

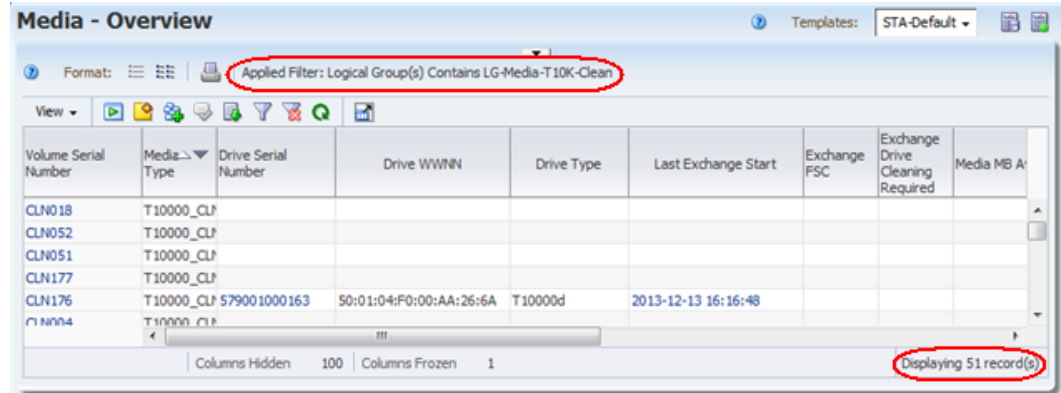


この論理グループには 51 個のメディアが含まれています。



### ステップ 1 フィルタでの論理グループの使用

「Media - Overview」画面は論理グループでフィルタされています。グループに含まれる 51 個のレコードが表示されています。



### ステップ 1 論理グループの選択条件を変更する影響

「Logical Groups」画面で、論理グループ定義が T10000T2 クリーニングメディアのみを含むように変更されています。

**Edit Logical Group**

\* Logical Group Name: LG-Media-T10K-Clean

Logical Group Type: Dynamic

**Entity Assignment Policies**

Filter Matching:  Match ANY of the following  Match ALL of the following

Cleaning Media	True	
Media Type	Starts With	T10000T2

Save Cancel

論理グループに含まれるメディアは 11 個のみです。

**Logical Groups**

Defined Logical Groups

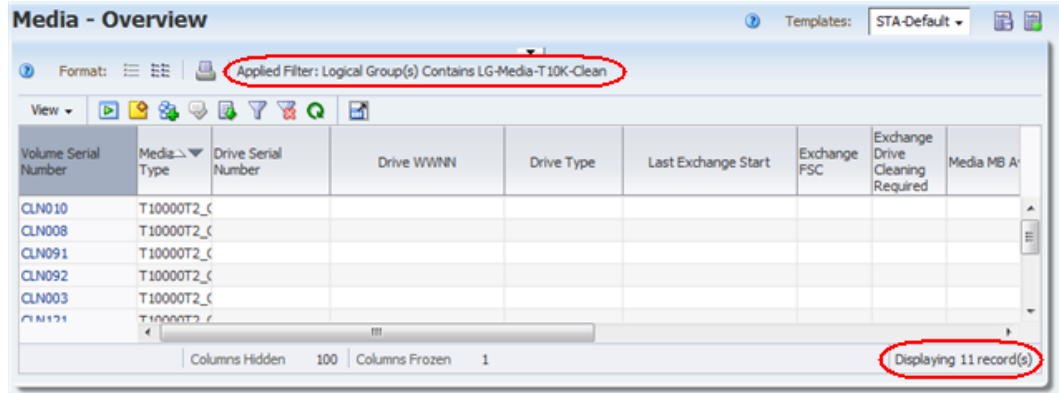
Logical Group Name	Logical Group Type	Logical Group Owner	Media Count	Drive Count
LG-Media-T10K-Clean	Dynamic	sta_admin	11	0

Assigned Entities

Drive Serial Number	Drive Model	Date Joined
The selected logical group contains no drives.		

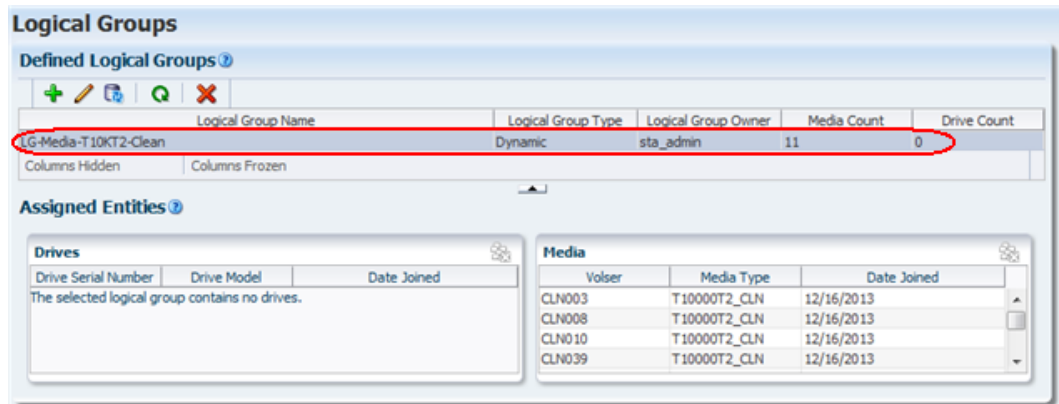
Volser	Media Type	Date Joined
CLN003	T10000T2_CLN	12/16/2013
CLN008	T10000T2_CLN	12/16/2013
CLN010	T10000T2_CLN	12/16/2013
CLN039	T10000T2_CLN	12/16/2013

「Media – Overview」画面は、適用されているフィルタに含まれる新しい論理グループ定義を反映するように自動的に更新されます。

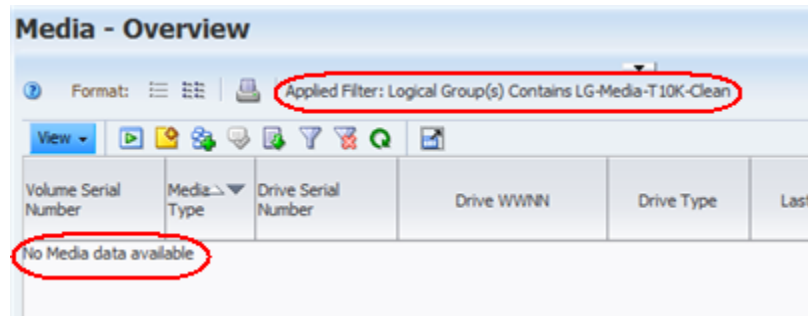


ステップ 1 論理グループの名前を変更する影響

「Logical Groups」画面で、論理グループの名前が「LG-Media-T10KT2-Clean」に変更されています。論理グループの選択条件に変更はなく、グループにはここでも同じ 11 個のメディアが含まれています。



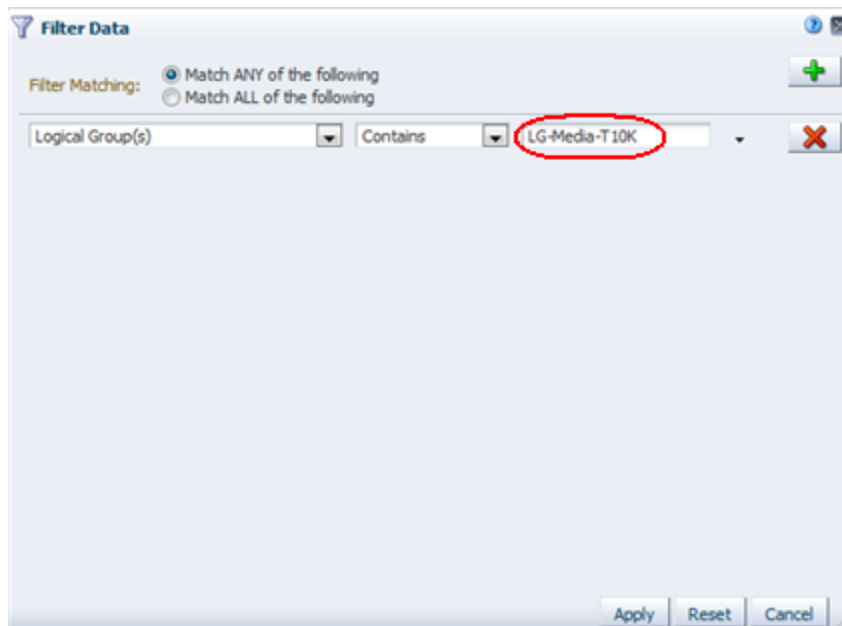
「Media – Overview」画面に適用されているフィルタで古い論理グループ名がそのまま使用されているため、ここでは画面にレコードが表示されていません。フィルタは、現在は存在しない論理グループ名を指定しています。



ステップ 1 フィルタの更新

選択条件に新しい論理グループ名を含むように、または選択条件の範囲を広げるように、フィルタを更新する必要があります。次の例では、論理グループ名の一部のみを照合

するように指定することで、選択条件の範囲が広がられています。フィルタがテンプレートに含まれている場合は、テンプレートも更新して保存し直す必要があります。



### 7.4.3. 論理グループによるフィルタリングが可能なダッシュボードポートレット

次のダッシュボードポートレットは、論理グループでフィルタできます。詳細は、[付録A「ダッシュボードポートレット」](#)を参照してください。

#### グラフポートレット

- ドライブの健全性
- ドライブ使用率
- I/O スループット
- ライブラリドライブベイ
- ライブラリメディアスロット
- 最大マウント時間
- メディアの健全性
- マウント

#### 表ポートレット

- 1メートル当たりでもっともクリーニングを必要とするドライブ
- ドライブ監視リスト

- メディア監視リスト
- モニター対象のデバイス傾向

#### レポートポートレット

- データ読み取りレポート
- データ書き込みレポート
- ドライブの健全性レポート
- メディアの健全性レポート
- モニター対象のデバイス数

## 7.5. 論理グループの作成および管理タスク

このセクションのすべてのタスクには、オペレータまたは管理者権限が必要です。

#### 手動論理グループのみ

- 「[手動論理グループの作成](#)」
- 「[手動論理グループへのドライブおよびメディアの追加](#)」
- 「[手動論理グループからのドライブおよびメディアの削除](#)」

#### 動的論理グループのみ

- 「[動的論理グループの作成および定義](#)」
- 「[動的論理グループの選択条件の変更](#)」
- 「[動的論理グループの強制的な更新](#)」

#### すべての論理グループ

- 「[選択したドライブまたはメディアの論理グループ割り当ての表示](#)」
- 「[論理グループに割り当てられているすべてのドライブとメディアの一覧表示](#)」
- 「[論理グループの名前変更](#)」
- 「[論理グループの削除](#)」

### 7.5.1. 手動論理グループの作成

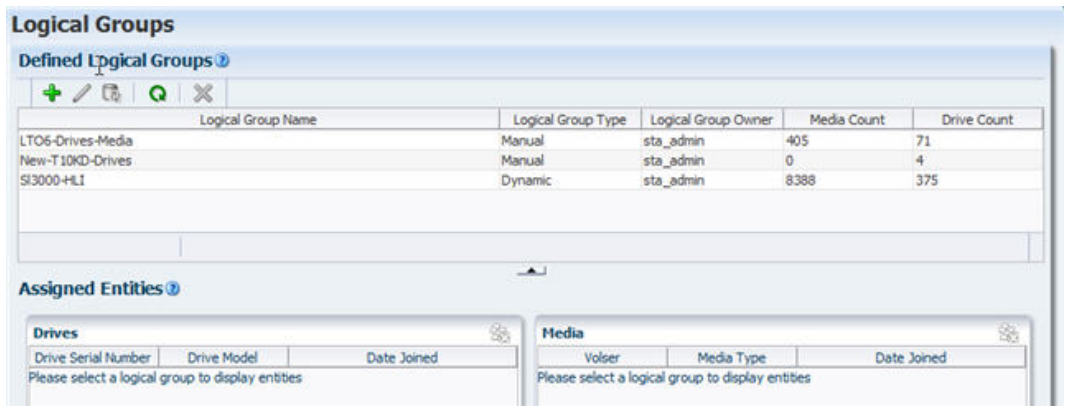
手動論理グループを作成するには、この手順を使用します。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Logical Groups**」を選択します。





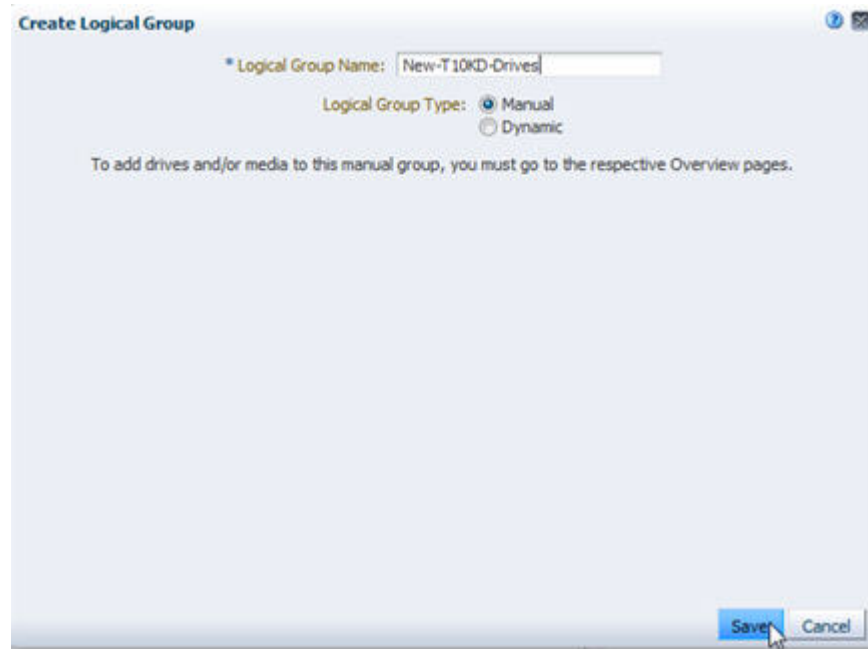
「Logical Groups」画面が表示されます。



2. 「Defined Logical Groups」ツールバーで「Add Logical Group」をクリックします。



3. 「Create Logical Group」画面に次のように入力します。
  - a. 「Logical Group Name」フィールドに一意の名前を入力します。  
 エントリには最大で英数字 249 文字を含めることができます。
  - b. 「Logical Group Type」フィールドで「Manual」を選択します。
  - c. 「Save」をクリックします。



Create Logical Group

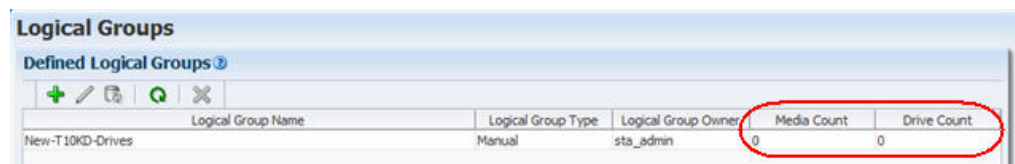
\* Logical Group Name:

Logical Group Type:  Manual  
 Dynamic

To add drives and/or media to this manual group, you must go to the respective Overview pages.

Save Cancel

グループが作成され、「Defined Logical Groups」表に追加されます。現時点ではグループは空です。グループにリソースを追加する詳細は、「[手動論理グループへのドライブおよびメディアの追加](#)」を参照してください。



Logical Group Name	Logical Group Type	Logical Group Owner	Media Count	Drive Count
New-T10KD-Drives	Manual	sta_admin	0	0

## 7.5.2. 手動論理グループへのドライブおよびメディアの追加

ドライブ、メディア、またはその両方を既存の手動論理グループに追加するには、この手順を使用します。ドライブまたはメディアを一度に1つずつ追加することも、複数のリソースを選択してそれらすべてを一度に追加することもできます。

---

**注:**

論理グループがあらかじめ存在している必要があります。手順については、「[手動論理グループの作成](#)」を参照してください。

---

**注:**

論理グループからのドライブおよびメディアの削除は、「Logical Groups」画面で行います。手順については、「[手動論理グループからのドライブおよびメディアの削除](#)」を参照してください。

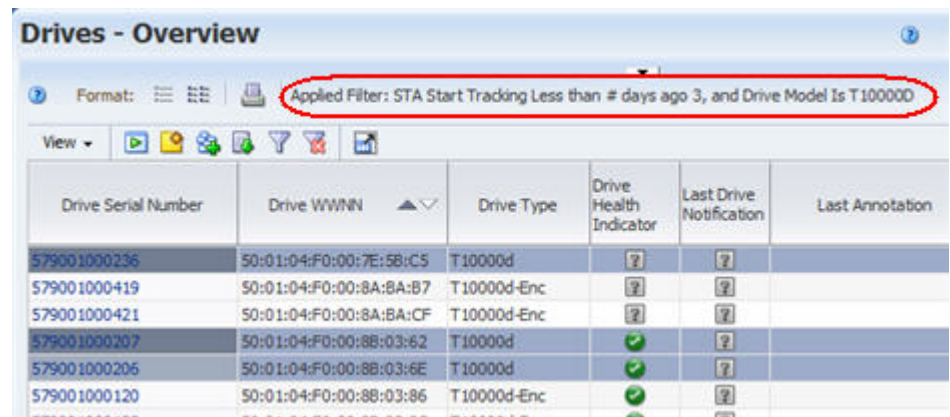
---

注:

ドライブまたはメディアを動的論理グループに追加することはできません。動的グループのメンバーシップの変更については、「動的論理グループの選択条件の変更」を参照してください。

- 次のようにして、適切な「Overview」画面に移動します。
  - ドライブを論理グループに追加するには、ナビゲーションバーで「**Tape System Hardware**」を選択して、「**Drives – Overview**」を選択します。
  - メディアを論理グループに追加するには、ナビゲーションバーで「**Tape System Hardware**」を選択して、「**Media – Overview**」を選択します。
- 選択した画面（この例では「Drives – Overview」）で、論理グループに追加するドライブまたはメディアを選択します。

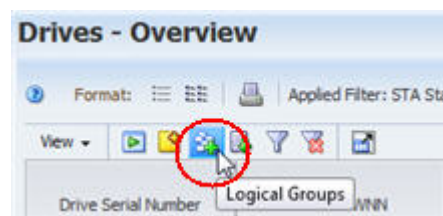
オプションで画面にフィルタを適用して、選択肢を絞り込むことができます。次の例は、フィルタされたリストから選択した個々のドライブを示しています。



Applied Filter: STA Start Tracking Less than # days ago 3, and Drive Model Is T100000

Drive Serial Number	Drive WWNN	Drive Type	Drive Health Indicator	Last Drive Notification	Last Annotation
579001000236	50:01:04:F0:00:7E:58:C5	T10000d	?	?	
579001000419	50:01:04:F0:00:8A:8A:B7	T10000d-Enc	?	?	
579001000421	50:01:04:F0:00:8A:8A:CF	T10000d-Enc	?	?	
579001000207	50:01:04:F0:00:8B:03:62	T10000d	✓	?	
579001000206	50:01:04:F0:00:8B:03:6E	T10000d	✓	?	
579001000120	50:01:04:F0:00:8B:03:86	T10000d-Enc	✓	?	

- 表のツールバーで「**Logical Groups**」をクリックします。



「Logical Groups」ダイアログボックスが表示されます。

- メニューで、選択したドライブまたはメディアの追加先となる論理グループを選択し、「**OK**」をクリックします。

注:

メニューには手動論理グループのみが表示されます。



リソースが論理グループに追加されます。更新の確認については、「[論理グループに割り当てられているすべてのドライブとメディアの一覧表示](#)」を参照してください。

5. オプションで、次のようにしてさらにリソースをグループに追加できます。
  - 同じタイプのリソース (この例ではドライブ) を追加する場合は、現在の「Overview」画面のまま手順 2 に戻ります。
  - ほかのタイプのリソース (この例ではメディア) を追加する場合は手順 1 に戻り、該当する「Overview」画面を選択します。

### 7.5.3. 手動論理グループからのドライブおよびメディアの削除

選択したドライブ、メディア、またはその両方を手動論理グループから削除するには、この手順を使用します。

---

注:

論理グループへのドライブおよびメディアの追加は、それぞれ該当する「Overview」画面で行います。手順については、「[手動論理グループへのドライブおよびメディアの追加](#)」を参照してください。

---

注:

ドライブまたはメディアを動的論理グループから削除することはできません。動的グループのメンバーシップの変更については、「[動的論理グループの選択条件の変更](#)」を参照してください。

---

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Logical Groups**」を選択します。



「Logical Groups」画面が表示されます。

2. 「Defined Logical Groups」表で、変更する手動論理グループを選択します。

そのグループに割り当てられているドライブとメディアが「Assigned Entities」表に表示されます。

 A screenshot of the 'Logical Groups' management interface. The main section is titled 'Defined Logical Groups' and contains a table with the following data:
 

Logical Group Name	Logical Group Type	Logical Group Owner	Media Count	Drive Count
LTO6-Drives	Dynamic	sta_admin	0	118
LTO6-Drives-Media	Manual	sta_admin	4	3
New-T10KD-Drives	Manual	sta_admin	0	1
SL3000-HLI	Dynamic	sta_admin	115	7

 The 'LTO6-Drives-Media' row is highlighted with a red circle. Below this table is the 'Assigned Entities' section, which is also circled in red. It contains two sub-tables:
 

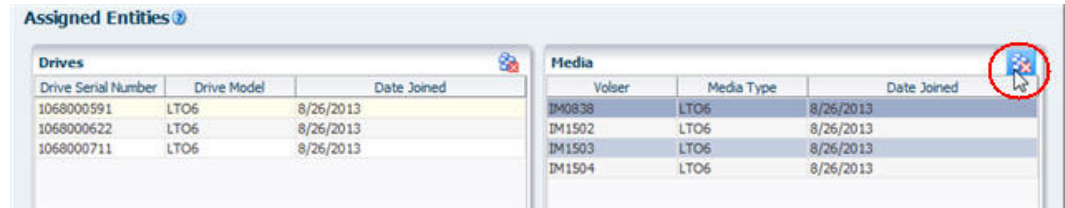
Drives			
Drive Serial Number	Drive Model	Date Joined	
1068000591	LTO6	8/26/2013	
1068000622	LTO6	8/26/2013	
1068000711	LTO6	8/26/2013	

Media			
Volser	Media Type	Date Joined	
IM0838	LTO6	8/26/2013	
IM1502	LTO6	8/26/2013	
IM1503	LTO6	8/26/2013	
IM1504	LTO6	8/26/2013	

3. 「Drives」表または「Media」表で、グループから削除するリソースを選択し、「Unassign Entities」をクリックします。一度に複数のレコードを選択できますが、それらはすべて同じ表のレコードである必要があります。

注:

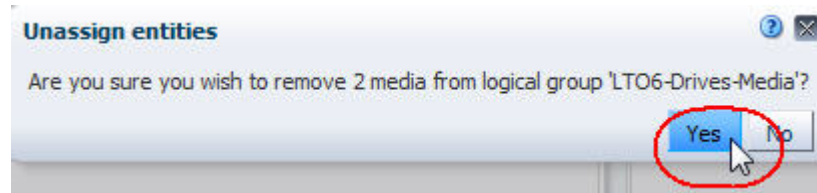
「Unassign Entities」ボタンは、動的論理グループに対してはアクティブになりません。ボタンがアクティブでない場合は、必ず手動論理グループを選択していることを確認してください。



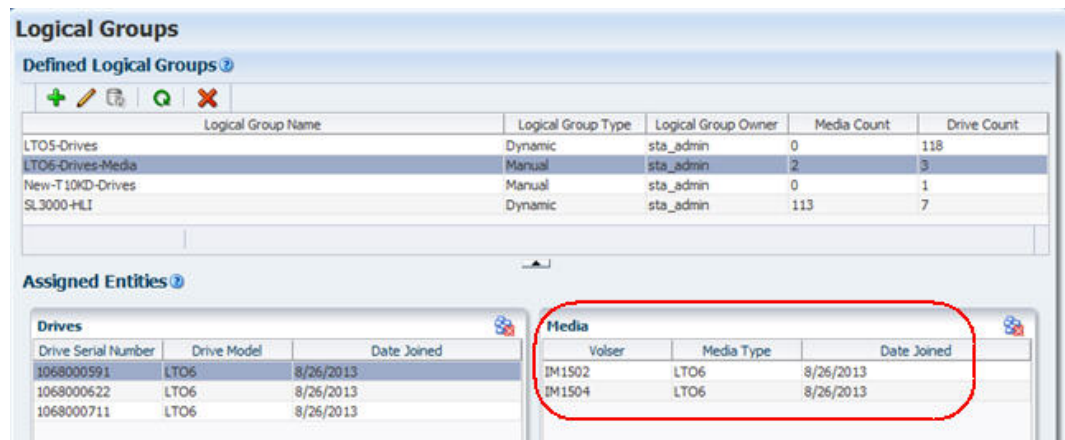
Drives			Media		
Drive Serial Number	Drive Model	Date Joined	Volser	Media Type	Date Joined
1068000591	LTO6	8/26/2013	IM0838	LTO6	8/26/2013
1068000622	LTO6	8/26/2013	IM1502	LTO6	8/26/2013
1068000711	LTO6	8/26/2013	IM1503	LTO6	8/26/2013
			IM1504	LTO6	8/26/2013

「Unassign Entities」ダイアログボックスが表示されます。

- 正しい情報を指定していることを確認し、「Yes」をクリックします。



選択したリソースがグループから削除され、「Assigned Entities」表が更新されます。



Logical Groups					
Defined Logical Groups					
Logical Group Name	Logical Group Type	Logical Group Owner	Media Count	Drive Count	
LTO5-Drives	Dynamic	sta_admin	0	118	
LTO6-Drives-Media	Manual	sta_admin	2	3	
New-T10KD-Drives	Manual	sta_admin	0	1	
SL3000-HLI	Dynamic	sta_admin	113	7	

Drives			Media		
Drive Serial Number	Drive Model	Date Joined	Volser	Media Type	Date Joined
1068000591	LTO6	8/26/2013	IM1502	LTO6	8/26/2013
1068000622	LTO6	8/26/2013	IM1504	LTO6	8/26/2013
1068000711	LTO6	8/26/2013			

- グループからさらにドライブまたはメディアを削除する場合は、手順 3 に戻ります。

#### 7.5.4. 動的論理グループの作成および定義

動的論理グループを作成し、そのグループに割り当てるドライブとメディアを決定する選択条件を定義するには、この手順を使用します。

- ナビゲーションバーで、「Setup & Administration」を選択して、「Logical Groups」を選択します。



「Logical Groups」画面が表示されます。

2. 「Defined Logical Groups」ツールバーで「**Add Logical Group**」をクリックします。



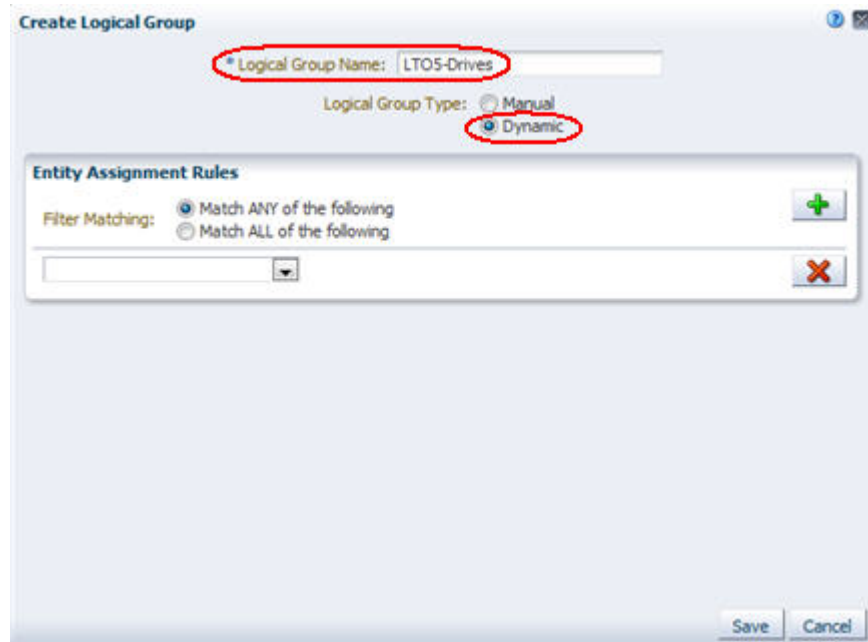
3. 「Create Logical Groups」ダイアログボックスに次のように入力します。
  - a. 「**Logical Group Name**」フィールドに一意の名前を入力します。

入力には、長さ 250 文字までの英数字を含めることができます。

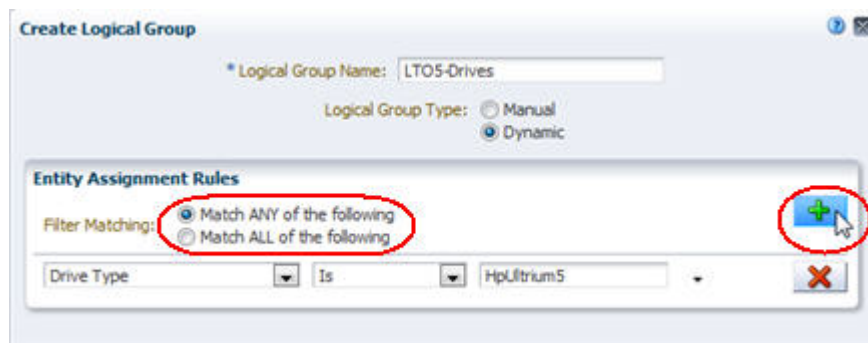
- b. 「**Logical Group Type**」フィールドで「**Dynamic**」を選択します。

ダイアログボックスに、「Entity Assignment Policies」が表示されます。





4. 次のようにして選択条件を指定します。
  - a. 「**Filter Matching**」フィールドで、指定するいずれかの条件と一致するか、すべての条件と一致するかを示します。
  - b. 新しい空白の選択条件の行をダイアログボックスに追加するには、「**Add New Filter Criteria Row**」ボタンをクリックします。



- c. 行のメニューとテキストフィールドを使用して、選択条件を指定します。各行の入力の詳細は、「[属性タイプ別のフィルタ演算子](#)」を参照してください。

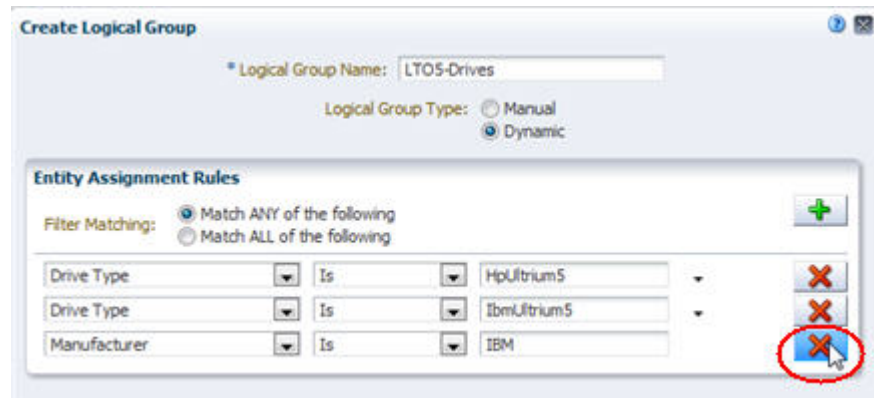
注:

フィルタリングの属性を選択する際に、選択する属性の名前がわかっている場合は、最初の数文字を入力すると、メニュー内のその項目にカーソルをすばやく移動できます。

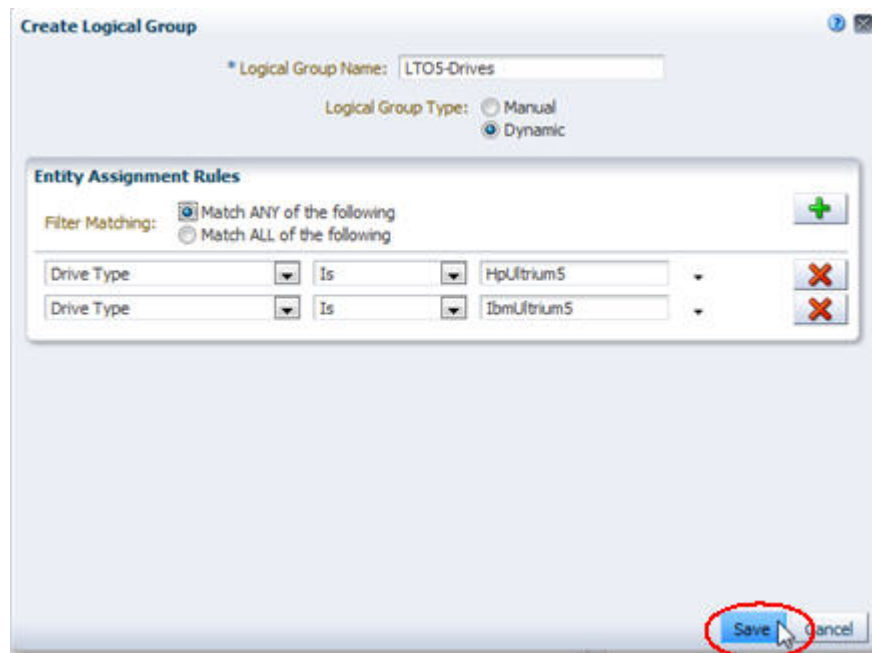
- d. 必要な数の選択条件の行を追加できます。



- e. 条件を削除するには、削除する行で「**Remove This Filter Criteria Row**」ボタンをクリックします。

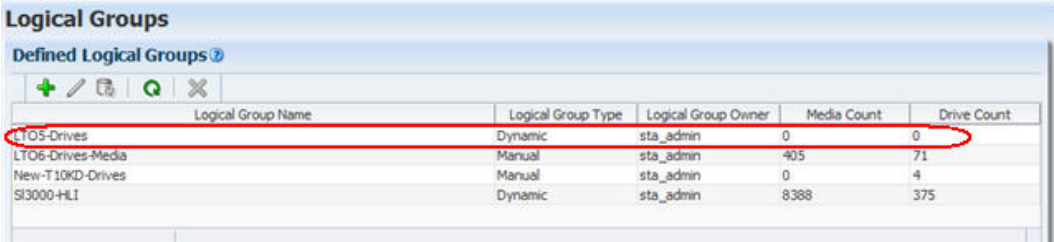


5. 条件が正しいことを確認して、「**Save**」をクリックします。



グループが作成され、「Defined Logical Groups」表に追加されて、STA がバックグラウンドでグループの作成を開始します。

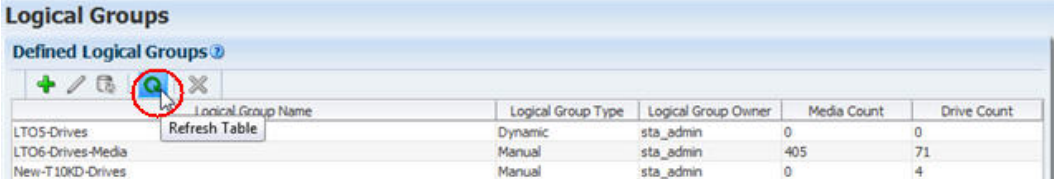
最初は、グループのメディア数とドライブ数がゼロとして表示されます。テープライブラリシステムのサイズ、および選択条件の複雑さに応じて、該当するすべてのドライブとメディアがグループに追加されるのに数秒から何十分までかかる場合があります。「Logical Groups」画面から移動しても、このプロセスは中断されません。



**Logical Groups**  
Defined Logical Groups

Logical Group Name	Logical Group Type	Logical Group Owner	Media Count	Drive Count
LTO5-Drives	Dynamic	sta_admin	0	0
LTO6-Drives-Media	Manual	sta_admin	405	71
New-T10KD-Drives	Manual	sta_admin	0	4
SI3000-HLI	Dynamic	sta_admin	8388	375

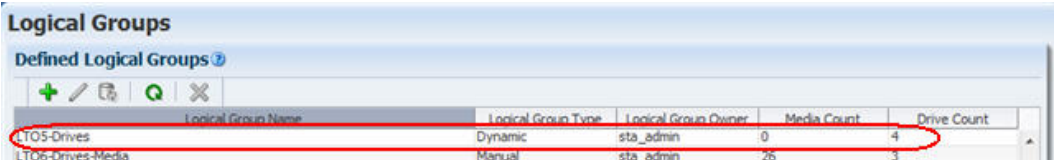
6. 論理グループの作成時に「**Refresh Table**」アイコンをクリックすると、処理中のドライブ数およびメディア数で画面表示を更新できます。



**Logical Groups**  
Defined Logical Groups

Logical Group Name	Logical Group Type	Logical Group Owner	Media Count	Drive Count
LTO5-Drives	Dynamic	sta_admin	0	0
LTO6-Drives-Media	Manual	sta_admin	405	71
New-T10KD-Drives	Manual	sta_admin	0	4

表示が更新されています。



**Logical Groups**  
Defined Logical Groups

Logical Group Name	Logical Group Type	Logical Group Owner	Media Count	Drive Count
LTO5-Drives	Dynamic	sta_admin	0	4
LTO6-Drives-Media	Manual	sta_admin	26	3

### 7.5.5. 動的論理グループの選択条件の変更

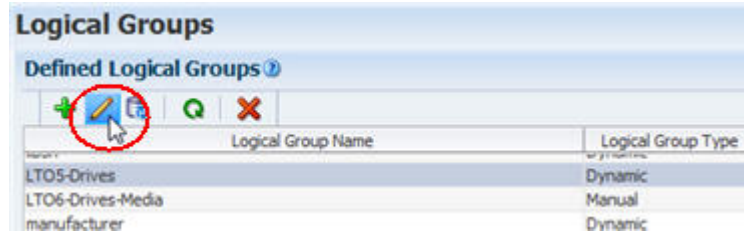
既存の動的論理グループの選択条件を変更するには、この手順を使用します。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Logical Groups**」を選択します。

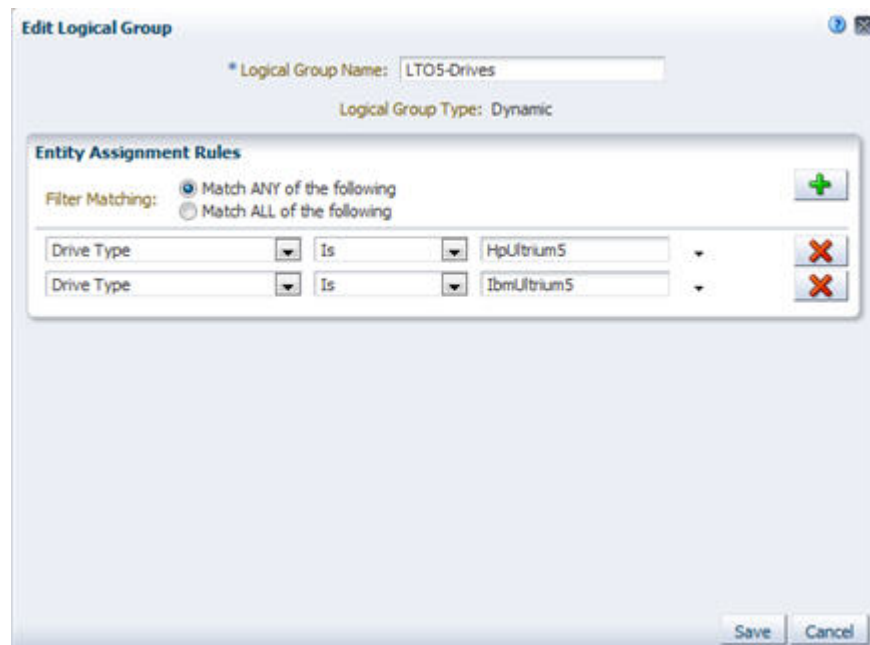


「Logical Groups」画面が表示されます。

2. 「Defined Logical Groups」表で、変更する動的論理グループを選択して、「**Edit Logical Group**」をクリックします。



「Edit Logical Group」ダイアログボックスが表示され、グループの選択条件が表示されます。



3. 必要に応じて、選択条件を追加、削除および変更できます。手順については、「[動的論理グループの作成および定義](#)」を参照してください。

### 7.5.6. 動的論理グループの強制的な更新

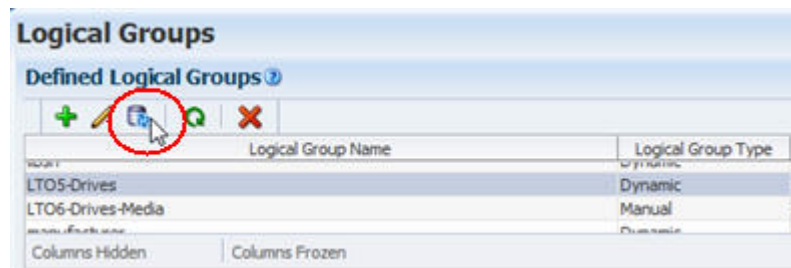
動的論理グループの即時更新を開始して、該当するドライブまたはメディアのすべての変更が反映されるようにするには、この手順を使用します。動的グループは1時間に1回、自動的に更新されますが、この手順を使用すれば、更新サイクルの間にグループを更新できます。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Logical Groups**」を選択します。



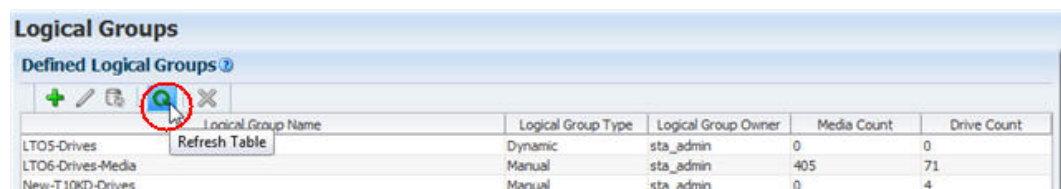
「Logical Groups」画面が表示されます。

- 「Defined Logical Groups」表で、更新する動的論理グループを選択して、「**Refresh Dynamic Group**」をクリックします。



STA はバックグラウンドで、グループの更新を開始します。テープライブラリシステムのサイズ、および選択条件の複雑さに応じて、更新が完了するのに数秒から何十分までかかる場合があります。「Logical Groups」画面から移動しても、このプロセスは中断されません。

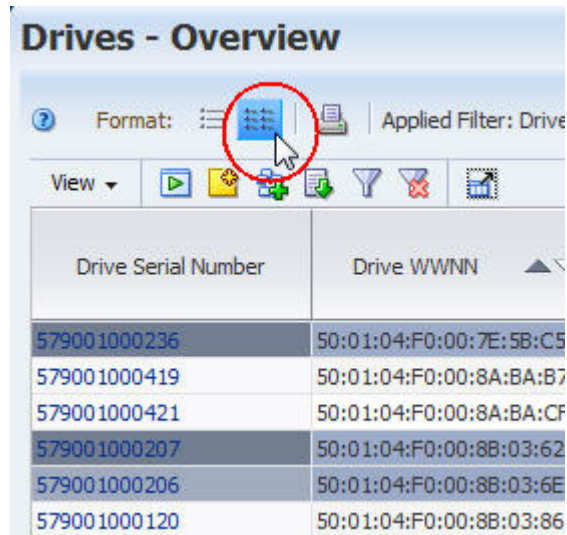
- グループの更新時に「**Refresh Table**」ボタンをクリックすると、処理中のドライブ数およびメディア数で画面表示を更新できます。



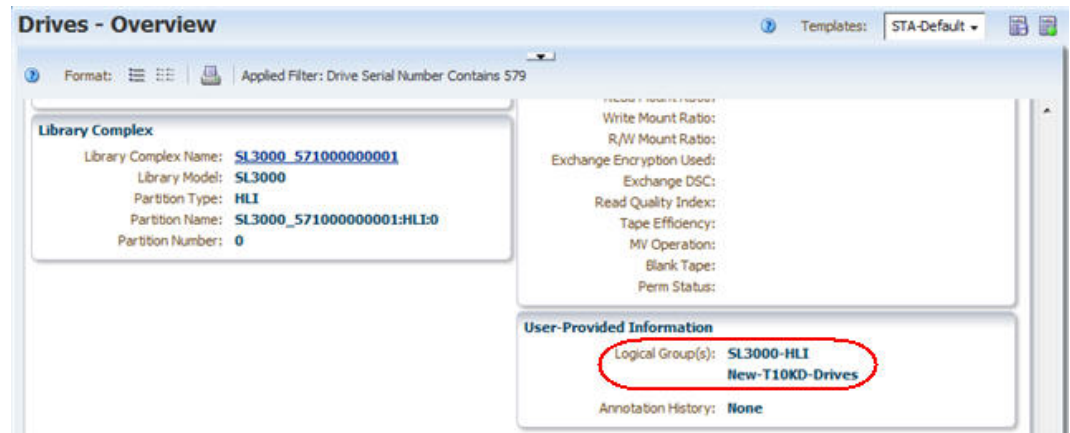
## 7.5.7. 選択したドライブまたはメディアの論理グループ割り当ての表示

選択したドライブまたはメディアが割り当てられている論理グループを表示するには、この手順を使用します。

1. 表示するレコードを「Drives - Overview」または「Media - Overview」画面から選択し、「**Detail View**」をクリックします。



選択した各レコードの詳細ビューの、表示下方にある「User-Provided Information」セクションに、論理グループの割り当てが一覧表示されます。リソースが割り当てられているすべてのグループが一覧表示されます。



## 7.5.8. 論理グループに割り当てられているすべてのドライブとメディアの一覧表示

選択した論理グループに割り当てられているすべてのドライブとメディアのリストを表示するには、この手順を使用します。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Logical Groups**」を選択します。



「Logical Groups」画面が表示されます。

2. 「Defined Logical Groups」表で、表示する論理グループを選択します。

割り当てられているすべてのドライブとメディアが、「Assigned Entities」表に表示されます。

A screenshot of the 'Logical Groups' management interface. It shows a table of 'Defined Logical Groups' and a section for 'Assigned Entities' containing two tables: 'Drives' and 'Media'.

Logical Group Name	Logical Group Type	Logical Group Owner	Media Count	Drive Count
LTO5-Drives	Dynamic	sta_admin	0	118
New-LTO6-Drives	Manual	sta_admin	0	0
New-T10KD-Drives	Manual	sta_admin	0	1
SL3000-HLI	Dynamic	sta_admin	1201	81

Drive Serial Number	Drive Model	Date Joined
1013000516	LTO6	8/26/2013
1068000044	LTO6	8/26/2013
1068000051	LTO6	8/26/2013

Volser	Media Type	Date Joined
000001	98-40R	8/26/2013
000005	98-40R	8/26/2013
000009	98-40R	8/26/2013

## 7.5.9. 論理グループの名前変更

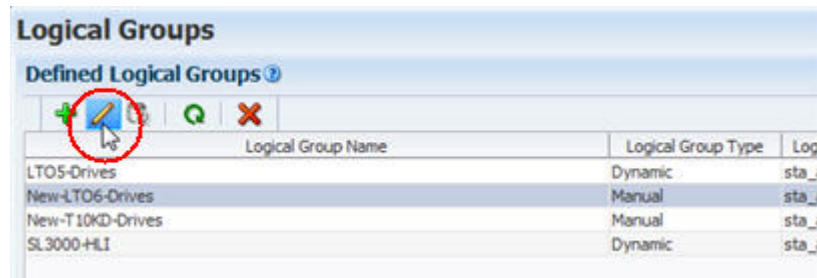
既存の手動論理グループまたは動的論理グループの名前を変更するには、この手順を使用します。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Logical Groups**」を選択します。



「Logical Groups」画面が表示されます。

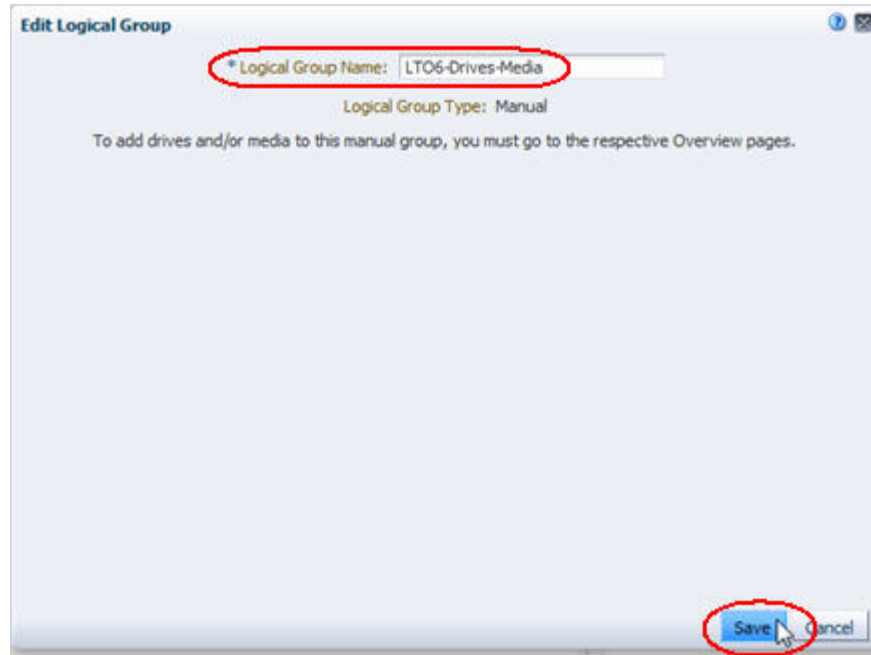
2. 「Defined Logical Groups」表で名前を変更するグループを選択して、「**Edit Logical Group**」をクリックします。



「Edit Logical Groups」ダイアログボックスが表示されます。

3. 新しい名前を「Logical Group Name」フィールドに入力して、「**Save**」をクリックします。動的論理グループの場合、その他のフィールドは変更しないでください。手動論理グループの場合、使用可能なフィールドはこれだけです。

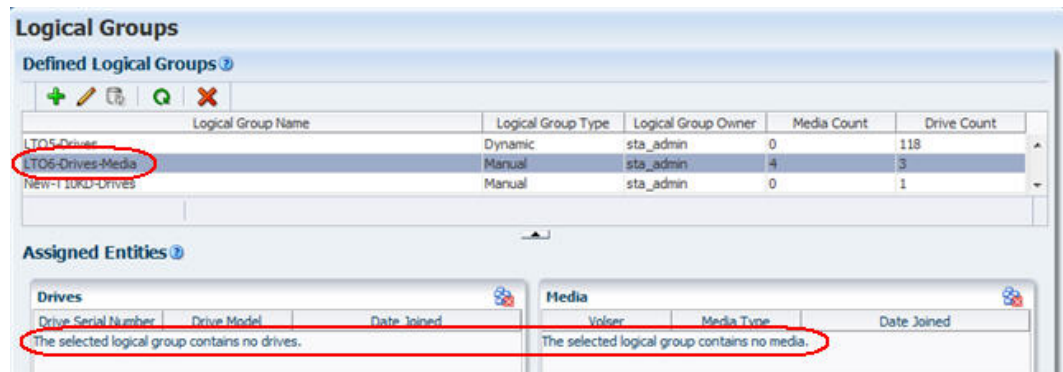




「Defined Logical Groups」表が新しい名前でも更新されます。

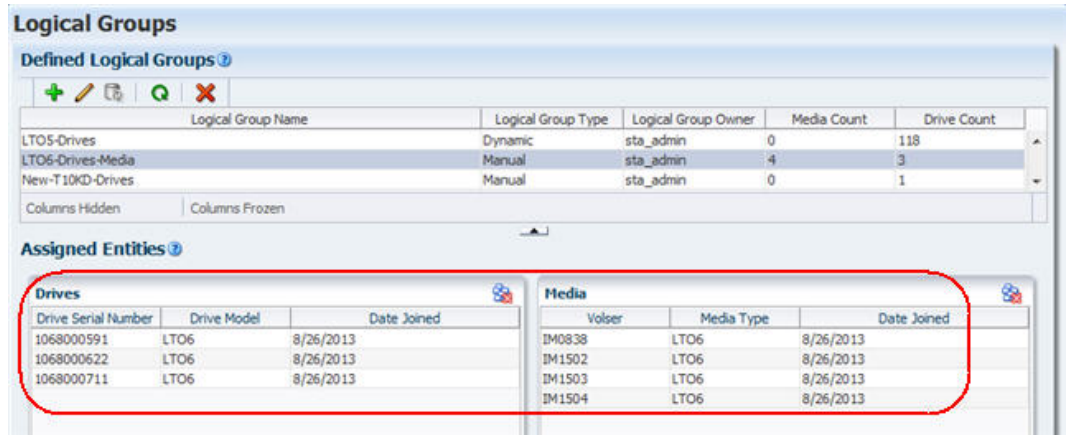
注:

「Assigned Entities」表に、グループにはドライブもメディアも含まれていないと示されています。これは、表の表示の単なる時間差です。



- 「Assigned Entities」表の表示を更新するには、「Defined Logical Groups」表で論理グループの選択を解除してから、再選択します。表示内容が、割り当てられたドライブおよびメディアで更新されます。





### 7.5.10. 論理グループの削除

選択した手動論理グループまたは動的論理グループを削除するには、この手順を使用します。一度に削除できるのは1つの論理グループのみです。

注:

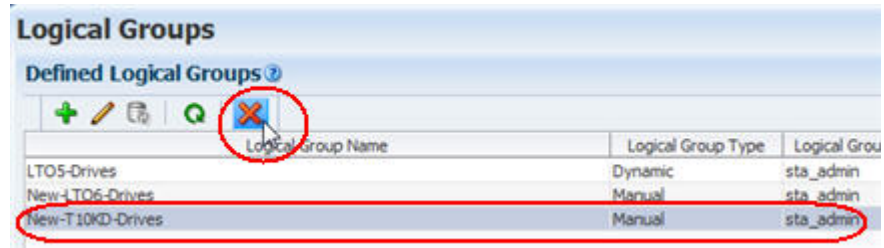
この手順では、論理グループ全体が削除されます。選択したドライブまたはメディアのみを手動グループから削除する場合は、「[手動論理グループからのドライブおよびメディアの削除](#)」を参照してください。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Logical Groups**」を選択します。



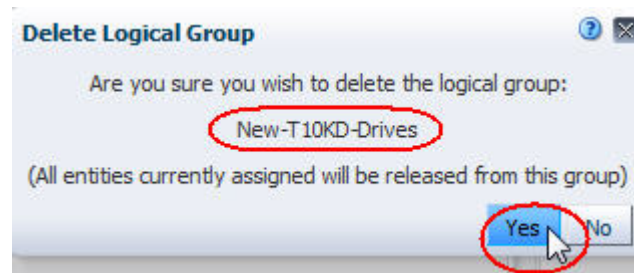
「Logical Groups」画面が表示されます。

2. 「Defined Logical Groups」表で、削除するグループを選択して、「**Delete Logical Group**」をクリックします。

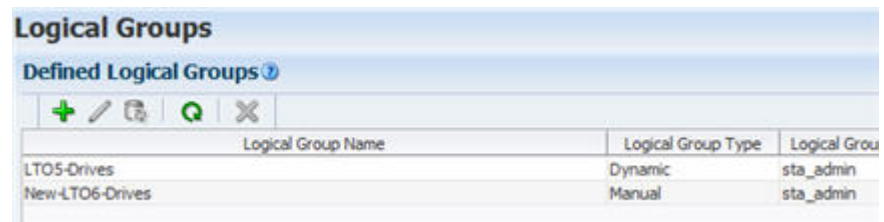


「Delete Logical Group」ダイアログボックスが表示されます。

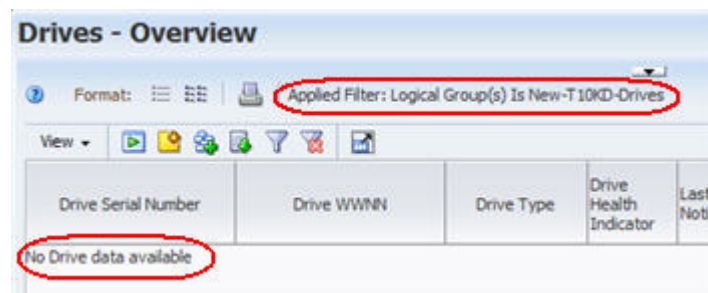
- 正しい論理グループを選択していることを確認し、「Yes」をクリックして削除します。



グループは「Logical Groups」画面から削除および移動されます。



これで、グループでフィルタされたすべての画面、ダッシュボードポートレット、またはテンプレートに、「No data to display」または「No data available」が表示されます。



## STA メディア検証

STA メディア検証は、テープライブラリシステム内のデータを確実に長期保存するのに役立つ STA のオプション機能です。これは、Oracle の StorageTek T10000C および T10000D ドライブのデータ整合性チェック機能を使用して、StorageTek SL8500 ライブラリ内の本番メディアに対して、ポリシー主導型の自動検証を提供します。STA は、検証結果を分析して、データ保存に関する推奨を行います。

---

### 注:

STA メディア検証は、最小要件を満たすテープライブラリシステム構成のみでサポートされています。STA、ライブラリ、ドライブ、およびメディア要件のリストについては、『STA 要件ガイド』を参照してください。

---

この章の内容は次のとおりです。

- [STA メディア検証の概要](#)
- [STA メディア検証の構成](#)
- [ドライブのキャリブレーションと適格性検査](#)
- [手動検証リクエストの送信](#)
- [自動メディア検証の使用](#)
- [STA メディア検証リクエストキューの管理](#)
- [メディア検証用のユーザー役割](#)
- [メディア検証タスク](#)

### 8.1. STA メディア検証の概要

このセクションの内容は次のとおりです。

- [「STA メディア検証の機能と利点」](#)
- [「STA と SL コンソールの機能比較」](#)
- [「検証テストの種類」](#)

### 8.1.1. STA メディア検証の機能と利点

STA では、1つのユーザーインターフェースを使用して、テープライブラリシステム内の SL8500 ライブラリ全体でメディア検証アクティビティーを自動化および管理できます。このセクションでは、STA メディア検証の利点について概要を示します。

#### 8.1.1.1. コストの削減と複雑性の低減によるセキュリティの向上

STA メディア検証は、T10000C および T10000D ドライブ自体により内部で実行されるため、ほかのベンダーの提供する検証手法に対していくつもの利点があります。テープライブラリシステム内のデータは、ネットワークを介して別個のアプリケーションに送信する必要がないため、セキュアに保たれます。メディアやドライブから情報を読み取るための専用のホストサーバーも追加のホストソフトウェアも不要で、ドライブへの追加のファイバチャネルデータ接続が不要なため、コストが削減されます。

#### 8.1.1.2. ライブラリの本番操作が中断しない

ホストアプリケーションが検証ドライブを使用することができず、ホストが検証中のメディアを必要とする場合には、ホストリクエストが優先権を得ます。ライブラリは、検証への割り込みを実行し、メディアをドライブからマウント解除して、メディアをアプリケーションから利用可能にします。これは、アプリケーションに対して透過的に実行されます。

#### 8.1.1.3. 有効なテスト結果の保証

すべてのメディア検証テストの有効性を裏付けるため、STA はオプションのドライブキャリブレーションおよび適格性確認機能を提供します。キャリブレーションにより検証ドライブが正常な動作状態にあることが保証され、適格性確認により、検証ドライブがキャリブレートされた状態を維持し、失敗した検証はドライブではなくメディアが問題の原因であることが保証されます。これらの機能は、いったん構成および有効化されると、ユーザーの介入なしで動作します。詳細は、「[ドライブのキャリブレーションと適格性検査](#)」を参照してください。

#### 8.1.1.4. 自動化された検証動作

STA では、検証用のメディアを自動的に選択するためのポリシーを定義できます。たとえば、メディアの健全性がアクションを開始したり、ドライブが不正なメディア情報レコード (MIR) を検出したりしたときはいつでも検証を開始するポリシーを定義できます。STA は、検証対象のメディアを互換性のあるドライブ上で自動的にキューに入れます。

STA は、検証アクティビティー用に確保してあるドライブの数に応じて、複数の検証を同時に開始および処理できます。詳細は、「[自動メディア検証の使用](#)」を参照してください。

### 8.1.1.5. 検証リクエストのユーザー管理

STA を使用して、検証リクエストキューを管理できます。保留中の検証リクエストの再優先順位付けを行ったり、進行中のリクエストを取り消したり、検証を手動で開始したりできます。詳細は、「[STA メディア検証リクエストキューの管理](#)」を参照してください。

### 8.1.1.6. 検証頻度の制限

データメディアの過度な使用を防ぐため、STA は 1 つのメディアを 24 時間以内に複数回検証することを許可しません。これは、手動と自動の両方の検証リクエストに適用されます。

### 8.1.1.7. 検証結果の包括的なレポート

STA は、テープライブラリシステムで実行されたすべての検証アクティビティの結果を表示します。これには、Oracle の StorageTek SL コンソールや Oracle の StorageTek Storage Archive Manager (SAM) などのほかのアプリケーションにより開始された検証が含まれます。STA は、検証結果を分析して、実行すべきアクションを推薦します。詳細は、「[検証リクエストのステータスを表示する](#)」を参照してください。

## 8.1.2. STA と SL コンソールの機能比較

[表8.1「STA と SL コンソールのメディア検証機能の比較」](#)で、STA と SL コンソールで使用可能なメディア検証機能を比較します。列の「X」は、その機能が製品でサポートされていることを示します。

表8.1 STA と SL コンソールのメディア検証機能の比較

機能	STA	SL コンソール
検証ドライブプールを構成する。		X
すべての T10000C および T10000D 検証テストタイプをサポートする。	X	X
誤検出の検証結果を自動的に軽減する。	X	
検証ドライブをキャリブレートする。	X	
継続的な検証ドライブ適格性確認を自動実行する。	X	
一度に 1 つの検証を実行する。	X	X
一度に複数の検証を実行する。	X	
複数のライブラリまたはコンプレックス内の検証を一度に実行する。	X	

機能	STA	SL コンソール
自動化されたポリシー主導型検証を実行する。	X	
複数の検証リクエストをユーザー管理のリクエストキューに送信する。	X	
保留中の検証リクエストを再優先度付けする。	X	
進行中の検証について進捗インジケータを表示する。	X	X
検証結果を一度に1つ表示する。	X	X
複数の検証結果を一度に表示する。	X	
検証結果を表とグラフの形式で表示する。	X	
選択した日付範囲の検証履歴を表示する。	X	
検証の障害および処理に関する詳細情報を表示する。	X	
限界テープ品質の兆候を報告する (選択したドライブファームウェアバージョン上のみ)。	X	
検証結果に関するアラートを受信する	X	
検証アクティビティのダッシュボードサマリーを PC またはモバイルデバイス上に表示する	X	
検証アクティビティのエグゼクティブレポートサマリーを電子メールで受信する	X	

### 8.1.3. 検証テストの種類

T10000C および T10000D ドライブは次のメディア検証テストを実行し、そのすべてを STA で使用できます。メディア検証ポリシーを定義するか、手動メディア検証を開始する際に、実行するテストの種類を示します。手順については、「[手動メディア検証リクエストの送信](#)」および「[メディア検証ポリシーの作成](#)」を参照してください。

#### Basic Verify

メディアがマウント可能であること、およびメディア情報レコード (MIR) が有効であることを確認します。ドライブは、メディアをマウントして、MIR を検証するだけです。この検証により、MIR が読み取り不可であるか、または同期が取れていないかが検出され、メディアの次のデータ属性が更新されます。

- Exchange Recording Technique (ドライブがメディアへの書き込みに使用する記録フォーマット)
- メディア疑いレベル

- MB Written (メディアに書き込まれるデータの合計量)

---

注:

STA がポリシー主導型の検証でメディアを使用するには、少なくともこの情報がメディアに存在する必要があります。詳細は、「[自動検証に適したメディア](#)」を参照してください。

---

この手法には約 2 分かかります。

#### **Standard Verify**

もっとも優先順位の高いメディア領域が読み取り可能であることを検証します。ドライブは、テープの先頭 (BOT)、テープの末尾 (EOD)、およびテープの先端と末端に書き込まれている最外部のデータラップでレコードを検証します。

通常、この手法には、使用するデータ量および圧縮比に関係なく、最大 30 分かかります。

このテストは、空のテープでは有効ではありません。

#### **Complete Verify**

メディアのすべてのデータレコードが読み取り可能であることを検証します。ドライブは、圧縮解除も復号化もせずに、レコード単位で検証を実行します。

デフォルトでは、検証の開始ポイントはテープの先頭 (BOT) です。T10000T2 メディアでは、オプションで、メディア RFID チップにより示される最後の検証位置から検証を再開することもできます。T10000T1 メディアの検証は、常に BOT から開始する必要があります。

ドライブは、メディアで使用されている圧縮比に関係なく、最大のテープ速度でデータを検証します。この手法には、開始ポイント、メディアのデータ量、およびドライブの種類により、約 5 - 9 時間かかることがあります。

このテストは、空のテープでは有効ではありません。

#### **Complete Verify Plus**

StorageTek データ整合性検証 (DIV) の検査を含め、メディアのすべてのデータレコードが読み取り可能であることを検証します。メディア上のデータレコードに、ホストにより追加された DIV 循環冗長性チェック (CRC) コードが含まれる場合、データは圧縮解除および復号化されます。そのため、このテストでは、検証ドライブが暗号化に対応していて、Oracle Key Manager (OKM) に接続されている必要があります。このテストは、FICON インタフェースを使用して構成されたドライブでは有効ではありません。

デフォルトでは、検証の開始ポイントはテープの先頭 (BOT) です。T10000T2 メディアでは、オプションで、メディア RFID チップにより示される最後の検証位置から検証を再開することもできます。T10000T1 メディアの検証は、常に BOT から開始する必要があります。



この手法には、開始ポイント、メディアのデータ量、ドライブの種類、および圧縮比により、約 5 - 9 時間かかることがあります。

このテストは、空のテープでは有効ではありません。

#### **Verify and Rebuild MIR**

必要に応じて、MIR を検証および再構築します。ドライブは、最初に MIR を検証します。エラーが存在する場合、ドライブは最後に良好であったことが知られている MIR 上の領域を見つけ、テープ上のそのポイントまで高速検索を実行します。次に、ドライブは、圧縮解除も復号化もせずに、レコード単位で検証を実行します。MIR が無効であるか、同期されていない場合、ドライブはテープの先頭 (BOT) から開始してすべてのレコードを読み取り、MIR の再構築に必要な情報を収集してから、再構築を実行します。レコードは、圧縮解除も復号化も行われません。

交換時に破損した MIR が存在する場合に、このメソッドを使用します。

ドライブは、最大のテープ速度でデータを読み取ります。この手法には、開始ポイント、メディアのデータ量、およびドライブの種類により、約 5 - 9 時間かかることがあります。これは、ドライブの Virtual Operator Panel (VOP) を使用して MIR を再構築するよりも大幅に高速です。

## **8.2. STA メディア検証の構成**

このセクションの内容は次のとおりです。

- 「[STA メディア検証の準備](#)」
- 「[検証ドライブプール](#)」
- 「[メディア検証の有効化](#)」
- 「[メディア検証の無効化](#)」

### **8.2.1. STA メディア検証の準備**

STA でメディア検証を有効にする前に、次の準備段階を実行します。

1. メディア検証を実装するライブラリコンプレックスおよびスタンドアロンライブラリを決定します。
2. 「STA Drives – Overview」画面で、これらのライブラリ内のメディア検証に使用するドライブを確認して選択します。詳細は、「[検証ドライブプール](#)」を参照してください。
3. SL コンソールを使用して、ドライブを検証プールに追加します。選択したスタンドアロンライブラリまたは選択したコンプレックスの一部であるライブラリ上で、SL コンソールにログインする必要があります。詳細は、『[SL8500 ユーザーズガイド](#)』を参照してください。



4. ドライブキャリブレーションおよび適格性確認を使用するかどうかを決定し、使用する場合にはキャリブレーションメディア論理グループを作成します。詳細は、「[ドライブのキャリブレーションと適格性検査](#)」を参照してください。

---

注:

これらの段階の一部には、管理者権限が必要な場合があります。詳細は、「[メディア検証用のユーザー役割](#)」を参照してください。

---

## 8.2.2. 検証ドライブプール

---

注:

検証ドライブプールの保守には、SL コンソールのみが使用されます。プールの保守方法の詳細は、『[SL8500 ユーザーズガイド](#)』を参照してください。

---

検証ドライブは、当分の間、メディア検証用に排他的に確保されているドライブです。これらのドライブにホストアプリケーションからアクセスすることはできません。これらは、SL コンソールを使用して、メディア検証ドライブプールに割り当てる必要があります。

各 SL8500 ライブラリコンプレックスおよびスタンダード SL8500 ライブラリには、独自の検証ドライブプールがあり、各プールに最大 10 台のドライブを割り当てることができます。メディアを検証するライブラリコンプレックスまたはスタンドアロンライブラリごとに、1 台以上のドライブを割り当てる必要があります。暗号化されたメディアを検証する場合は、適応可能な各ライブラリ内で、暗号化が有効にされ、かつ Oracle Key Manager (OKM) に接続されているドライブを 1 台以上割り当てる必要があります。

---

注:

サイトに検証ドライブが 1 台しかない場合は、検証対象のメディアをそのライブラリに移動する必要があります。

---

必要に応じてドライブを検証ドライブプールに追加したり、そこから削除したりできます。STA は、変更をすべて検出し、必要に応じて新しいドライブを使用します。

### 8.2.2.1. STA で使用可能な検証ドライブ

ドライブが検証ドライブプールに追加される際、SL コンソールは STA の最小要件を確認しません。このため、プール内のドライブは、STA での使用に合わせて必ずしも有効化されているとは限りません。ただし、「[STA Media Validation Configuration](#)」画面には、STA メディア検証の最小要件を満たす検証ドライブの総数が表示されます。そこから「[Drives – Overview](#)」画面にリンクし、そこで、ドライブの種類、ドライブの健全性インジケータ、およびド

ドライブの位置などのドライブの詳細を表示できます。手順については、「[STA メディア検証用の検証ドライブを表示する](#)」を参照してください。

「Drives – Overview」画面を、ナビゲーションバーから直接選択して、「*STA-Drive-MV*」テンプレート (STA 定義済みテンプレート) を適用することもできます。図8.1「[Drives – Overview](#)」画面上の検証ドライブ」は、表示例です。

図8.1 「Drives – Overview」画面上の検証ドライブ

The screenshot shows the 'Drives - Overview' window. At the top right, the 'Templates' dropdown is set to 'STA-Drive-MV'. Below it, the 'Applied Filter' is 'MV Drive Capable True'. The table below lists drive details:

Drive Serial Number	Drive Type	Library Complex Name	Drive Library Name	Drive Library Serial Number	MV Last Activity	MV Drive In Use	MV Drive Reserved	MV Drive Available	MV Calibratic State
576004000073	T10000c	SL8500_14	tib	516000100534				✓	
576004001405	T10000c	SL8500_5	SL8500-BAS	516000100451				✓	
579004001868	T10000d	SL3000_571000	Crimson14	571000000001				✓	
579001000120	T10000d-Enc	SL8500_14	tib	516000100534				✓	

### 8.2.2.2. 検証ドライブプール用のドライブを選択する

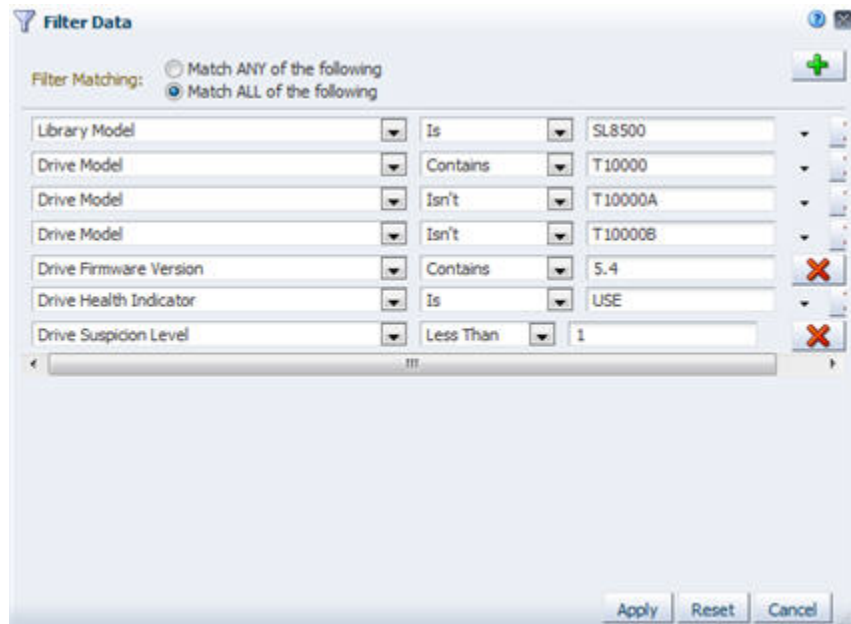
ドライブは SL コンソールを使用して検証ドライブプールに割り当てられますが、STA を使用して候補のドライブを確認および選択できます。

任意のドライブをプールに割り当てることができますが、STA がそれらを使用できるようにするには、次の最小要件を満たす必要があります。

- ドライブのモデルが T10000C または T10000D であること。
- ドライブのファームウェアバージョンの末尾が 5.40 以降 (これは、ファームウェアが TTI 5.4 をサポートすることを意味する) であること。
- ドライブの健全性インジケータが使用中であること。
- ドライブの疑いレベルが 0 であること。

図8.7「[キャリブレーションメディア候補の確認用フィルタ](#)」は、「Drives – Overview」画面で使用可能なサンプルフィルタです。

図8.2 検証ドライブ候補の確認用フィルタ

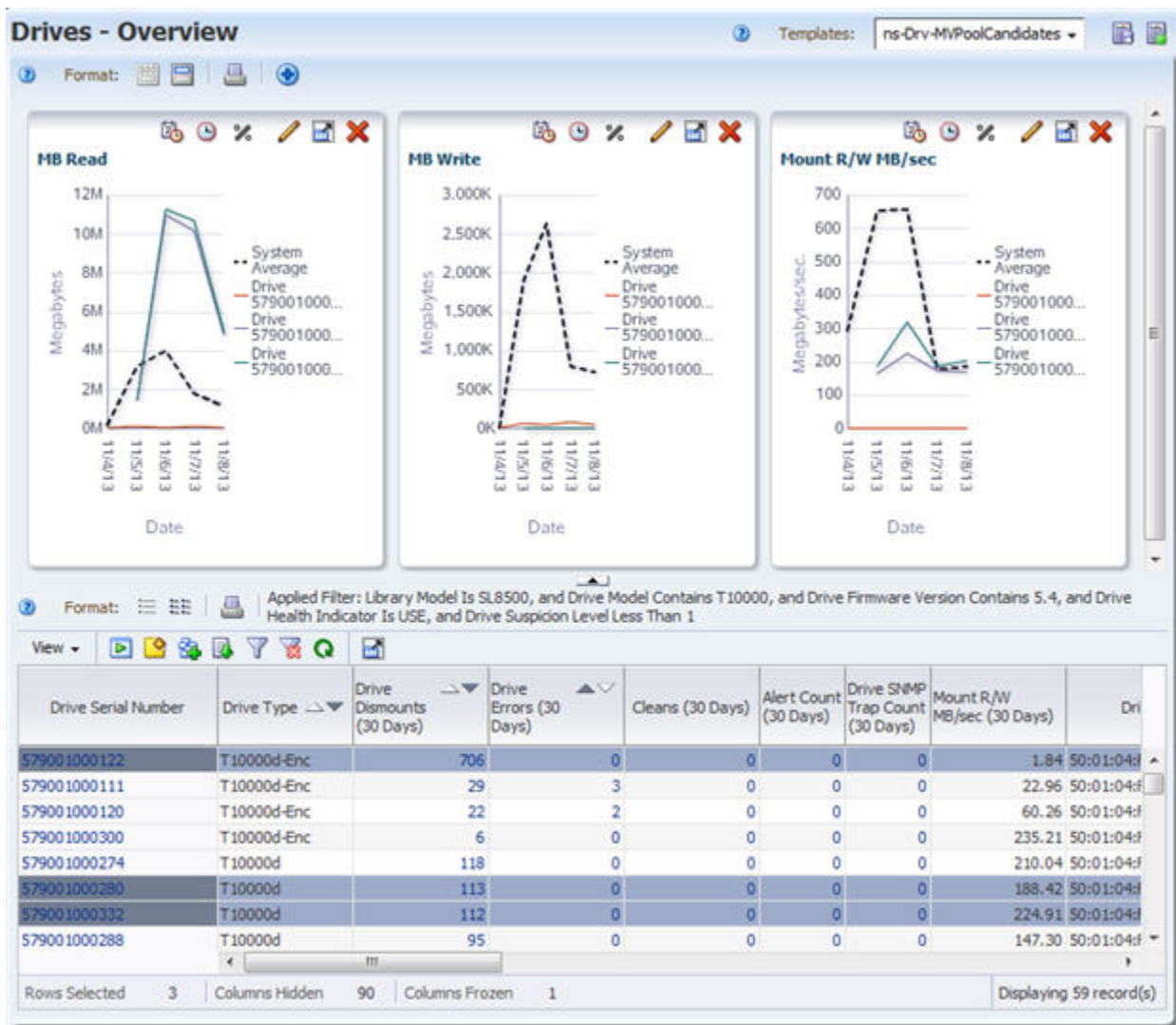


これらの最小要件に加え、最近アクティビティーが含まれ、エラーがほとんどあるいはまったく存在しない高品質のドライブを選択します。次の特性を持つドライブは、検証プール用の優れた候補となります。

- 過去 30 日間のアクティビティー。「Drive Dismounts (30 Days)」属性を参照してください。
- ドライブエラーが存在しないこと。「Drive Errors (30 Days)」属性を参照してください。
- 過度なドライブ消去がないこと。「Cleans (30 Days)」属性を参照してください。
- 過度のアラートや SNMP トラップがないこと。アラートやトラップが存在する場合は、調査を行なって、それらがドライブの潜在的な問題を示しているかどうかを判断することをお勧めします。「Drive SNMP Trap Count (30 Days)」、および「Alert Count (30 Days)」属性を参照してください。
- 比較的高速であること。「Mount R/W MB/sec (30 Days)」属性を参照してください。

選択したドライブをグラフに適用して、ドライブの特性を視覚的に表示して選択を確認できます。図8.3「検証ドライブ候補が表示されている「Drives – Overview」画面」に、「Drives – Overview」画面のグラフに適用された 3 台の候補ドライブを示します。

図8.3 検証ドライブ候補が表示されている「Drives - Overview」画面



### 8.2.3. メディア検証の有効化

STA メディア検証は、デフォルトでは無効になっているため、明示的に有効にする必要があります。これはグローバル設定であるため、いったん有効にすると、テープライブラリシステム内のすべての SL8500 ライブラリで STA メディア検証が有効になります。詳細な手順は、「[STA 上でメディア検証を有効または無効にする](#)」を参照してください。メディア検証の有効化および無効化するには、管理者権限が必要です。

メディア検証が有効になると、STA を使用して次のアクティビティを実行できます。

- 手動メディア検証リクエストの作成。詳細は、「[手動検証リクエストの送信](#)」を参照してください。

- メディア検証リクエストキューの表示および管理。「[STA メディア検証リクエストキューの管理](#)」を参照してください。
- メディア検証ポリシーを使用した自動検証の実行。詳細は、「[自動メディア検証の使用](#)」を参照してください。

注:

STA でメディア検証を有効にする前に、検証ポリシーを作成できます。

### 8.2.3.1. メディア検証構成のステータスメッセージ

「Media Validation Configuration」画面に、STA メディア検証機能の現在の構成ステータスが表示されます。

ドライブのキャリブレーションおよび適格性確認なしでのメディア検証の構成中に、次のメッセージが表示されることがあります。図8.4「[Media Validation Configuration Success Message](#)」に例を示します。

- Media Validation is DISABLED.
- Media Validation successfully enabled.
- Media Validation Enabled; Opted-out of Drive Calibration.

図8.4 Media Validation Configuration Success Message

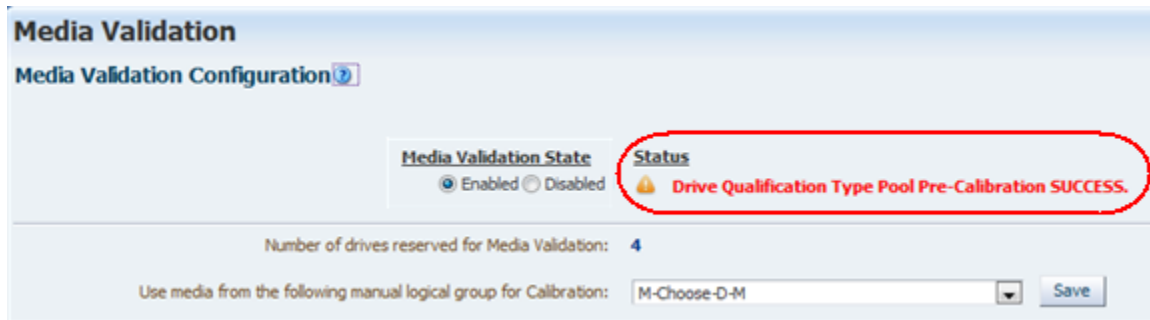


ドライブのキャリブレーションおよび適格性確認機能の有効化と構成には、いくらか時間がかかる場合があります。このプロセスの進行中に、次のメッセージが表示されることがあります。図8.5「[ドライブキャリブレーション構成の成功メッセージ](#)」に例を示します。これらの機能については、「[ドライブのキャリブレーションと適格性検査](#)」を参照してください。

- Media Calibration Process in Progress.
- Media Operation to Create History in Progress.
- Drive Qualification Type Pool Pre-Calibration SUCCESS.

- Calibration Success.Drive Qualification is Now Active.

図8.5 ドライブキャリブレーション構成の成功メッセージ



次のメッセージは、メディア検証構成に問題があることを示します。図8.6「ドライブキャリブレーション構成のエラーメッセージ」に例を示します。

- No Available Drives, Not Suitable for Media Validation Use.
- No Available Media, Not Suitable for Calibration Use.
- Warning: Insufficient Media in MV Media Pool for Number Of Drives in MV Partition.

図8.6 ドライブキャリブレーション構成のエラーメッセージ



#### 8.2.4. メディア検証の無効化

メディア検証がサイトで有効になっている場合、ライブラリの保守時に一時的に無効にできます。詳細な手順は、「STA 上でメディア検証を有効または無効にする」を参照してください。

STA は、メディア検証が無効の場合には、新しいメディア検証リクエストを一切受け入れません。保留中または進行中のリクエストは、明示的に取り消さないかぎり、完了するまで処理されます。

メディア検証が無効になっていても、STA は、SL コンソールやライブラリコマンド行インタフェース (CLI) などのほかのソースから開始されたリクエストは表示します。



## 8.3. ドライブのキャリブレーションと適格性検査

ドライブのキャリブレーションと適格性検査は、すべてのメディア検証テストの有効性を確認する、STA のオプション機能です。これらの機能が有効な場合、STA はキャリブレートおよび適格性検査されたドライブのみを使用してメディア検証アクティビティを実行します。

キャリブレーションは一回限りの設定プロセスであり、検証ドライブが、メディア検証での使用前に良好な動作状態にあることを保証します。適格性検査は、キャリブレートされたドライブで実行される、継続的で自動的なプロセスです。これは、失敗した検証が、ドライブではなくメディアの問題の結果であることを検証します。

これらの機能を組み合わせることで、それぞれ、そしてすべてのメディア検証の結果がテスト対象メディアの真の品質を反映しており、検証ドライブの未知の問題と取り違えられることがないことが保証されます。

このセクションの内容は次のとおりです。

- 「ドライブのキャリブレーションと適格性検査に関する用語」
- 「キャリブレーションと適格性検査の利点」
- 「キャリブレーションと適格性検査の動作」
- 「キャリブレーションと適格性検査の準備」

### 8.3.1. ドライブのキャリブレーションと適格性検査に関する用語

これらは、ドライブのキャリブレーションと適格性検査の概念を理解するのに役立つ用語で、このセクション全体で使用されています。

#### 検証交換

ドライブがメディアとそのデータに対して指定された検証テストを実行する、メディアおよびドライブの交換。

#### 失敗した検証

「Degraded」または「Failed」ステータスで終了するメディア検証交換。

#### 誤検出結果

メディアではなく検証ドライブの問題により失敗した検証。STA は、ドライブのキャリブレーションと適格性検査プロセスを使用して、誤検出結果の可能性を抑え、失敗した検証がメディアの問題の結果であることを保証します。

#### ドライブキャリブレーション

オプションの STA メディア検証機能で、その目的は検証ドライブが最適に動作していることを保証することです。ドライブキャリブレーションが有効な場合、STA がメディア検証に検証ドライブを使用する前に、検証ドライブをキャリブレートする必要があります。

#### キャリブレートされたドライブ

STA ドライブキャリブレーションプロセスに合格した検証ドライブ。キャリブレーションに失敗するドライブは、不適格と見なされ、STA で使用されません。STA ドライブキャリブレーション機能が無効の場合、すべての検証ドライブがキャリブレートされていないと見なされますが、STA により使用されます。

#### キャリブレートされていないドライブ

まだキャリブレートされていないドライブ、または STA キャリブレーション機能が有効でないシステム内の検証ドライブ。

#### ドライブ適格性検査

検証ドライブがキャリブレートされた状態を維持していることを保証し、失敗した検証がドライブではなくメディアの問題であることを保証するのに役立つ、オプションの STA メディア検証機能。STA は、失敗した検証が存在する場合には常に自動的にドライブ適格性検査プロセスを開始します。ドライブ適格性検査は、ドライブキャリブレーションの一部として有効にされます。

ドライブキャリブレーションは、基本的に一回限りのプロセスであるのに対し、ドライブ適格性検査は継続的です。

#### 適格なドライブ

STA ドライブ適格性検査プロセスに合格した、キャリブレート済みドライブ。

#### 不適格なドライブ

STA キャリブレーションまたは適格性検査に失敗したドライブ。

#### キャリブレーションメディア

ドライブキャリブレーションおよび適格性検査のために特に確保されたメディア。STA を使用して、キャリブレーションメディアを手動論理グループに割り当てます。キャリブレーションメディアはドライブのキャリブレーション専用にし、本番データには使用しないことが、強く推奨されています。キャリブレーションメディアは、高品質のものにしてください。

#### 読み取り品質インデックス (RQI)

メディアに残っているエラー修正量の測定。RQI は、全体として交換に適用され、交換に関係するメディアとドライブの両方からの関与を含みます。この用語は、メディア検証に固有であり、読み取りマージンとは異なります。

RQI は、割合でレポートされます。大きい値ほど望ましいです。

#### データ品質インデックス (DQI)

メディアに残っているエラー修正量の測定で、これは読み取り品質インデックス (RQI) と似ていますが、ドライブの関与を取り除くため、特にメディアを対象としています。ドライブキャリブレーションおよび適格性検査時に、STA は DQI を使用してドライブが適格か不適格かを判定します。

DQI は、割合でレポートされます。大きい値ほど望ましいです。

### 8.3.2. キャリブレーションと適格性検査の利点

ドライブキャリブレーションおよび適格性検査はオプション機能ですが、次の重要な利点があるため、STA 上で有効にすることが強く推奨されています。



- 検証結果の有効性の保証
- 検証ドライブのヘルス保証
- 動作効率

### 8.3.2.1. 検証結果の有効性の保証

各交換にはメディアの一部とドライブの一部が両方含まれるため、交換の失敗が発生した場合、問題がドライブにあるのか、メディアにあるのか、それとも両方にあるのかは常に不確実です。本番メディアの場合、STA は、1 つにはメディアとドライブの利用可能な履歴データを活用することにより、不確実性を低減する高度な健全性および疑いアルゴリズムを使用します。利用可能なデータが増えるほど、分析の信頼性が高まります。

メディア検証の失敗にも、同じ本質的な不確実性が存在します。ただし、検証交換に問題メディアおよび履歴がほとんどあるいはまったく利用できないメディアが通常以上の割合で含まれる傾向があるため、問題はより複雑です。

たとえば、1 年以上使用されていないアーカイブメディアには、最小限の STA データしか含まれていない可能性があります。このメディアの検証がキャリブレートされていないドライブ上で実行され、その検証が失敗した場合、失敗は検証対象のメディアではなく、検証ドライブに関連した問題の結果である可能性があります。メディアで最小限の履歴データしか利用できない場合、検証結果の不確実性が高まります。STA ドライブキャリブレーションおよび適格性検査機能は、これらの不確実性に直接対処し、失敗した検証はメディアの問題であることが確実にになります。

### 8.3.2.2. 検証ドライブのヘルス保証

キャリブレーションと適格性検査のもう 1 つの利点は、ドライブ品質です。検証ドライブでは問題メディアとの交換が通常より多く行われるため、本番ドライブよりも早く機能が低下する可能性があります。ドライブ適格性検査により、STA は検証ドライブの健全性を継続的に検証します。ドライブの問題は早期に識別されるため、本番メディアで検証ドライブに問題が発生する前に修理または交換できます。

### 8.3.2.3. 動作効率

メディア検証が失敗した場合、結果を検証して、メディアに問題があることを確認するためのアクションが必要になります。ドライブキャリブレーションおよび適格性検査が無効である場合、この検証を手動で実行する必要があります。たとえば、別のドライブを使用してメディアに対して「Complete Verify」を実行し、この検証にも失敗するなら、ドライブではなくメディアに問題があると合理的に判断できます。メディア上のデータ量によっては、これは数時間かかる場合があります。

ドライブキャリブレーションおよび適格性検査が有効であれば、STA は、ドライブ適格性検査プロセスによりすべての失敗した検証を確認します。適格性検査は、ユーザーの介入なしで自動的に実行されます。STA は適格性検査済みのメディアを使用するため、適格性検査には「Complete Verify」よりも所要時間が大幅に短い「Standard Verify」を実行するだけで十分です。

### 8.3.3. キャリブレーションと適格性検査の動作

キャリブレーションと適格性検査は別個のプロセスですが、まとめて有効化および無効化できます。キャリブレーションと適格性検査を使用する前に、これらのアクティビティーに使用するメディアの手動論理グループを作成しておく必要があります。詳細は、「[キャリブレーションと適格性検査の準備](#)」を参照してください。

#### 8.3.3.1. ドライブキャリブレーションプロセス

ドライブキャリブレーションは、「Media Validation」画面でドライブキャリブレーションが有効になるとすぐに実行される、一回限りの設定プロセスです。検証ドライブプール内のすべてのドライブは、「Standard Verify」を使用してテストされます。これには、ドライブごとに 1 - 2 時間かかる場合があります。

ドライブキャリブレーションが構成および有効化されると、手動での介入なしで処理が自動的に実行されます。新しいドライブがメディア検証プールに追加されると、STA はこれを検出して、ドライブのキャリブレーションを自動的に開始します。また、STA はファームウェア更新後にドライブを自動的に再キャリブレートします。

キャリブレーションは、各検証ドライブで次の基本プロセスを使用します。

- a. STA は、ドライブに対して 2 回 Standard Verify 検証を実行しますが、毎回キャリブレーションメディア論理グループから異なるメディアを使用します。
- b. STA は、検証から得たデータ品質インデックス (DQI) 値を分析します。ドライブの適格性検査を実行するには、次の条件を満たす必要があります。
  - 1 つのメディアは  $DQI \geq 75$  である必要があります。これは、ドライブにプライマリキャリブレーションメディアとして割り当てられます。
  - 1 つのメディアは  $DQI \geq 50$  である必要があります。これは、ドライブにセカンダリキャリブレーションメディアとして割り当てられます。
- c. DQI 結果に応じて、STA は、次の処理を実行します。
  - 2 回の検証後に両方の条件が満たされる場合、ドライブはキャリブレートされます。このドライブでは 3 回目の検証は不要です。

- 2回の検証後にこれらの条件の1つだけが満たされる場合、キャリブレーションメディア論理グループとは異なるメディアを使用して、3回目の検証が実行されます。
- 3回の検証で両方の条件が満たされない場合、ドライブは不適格と見なされます。

### 8.3.3.2. ドライブキャリブレーションの結果

ドライブがキャリブレーションに合格した場合、そのドライブに2つのメディアが専用のプライマリおよびセカンダリキャリブレーションメディアとして割り当てられます。キャリブレーションプロセス中、これらのメディアは高品質であることが確認されます。各検証ドライブは、独自のプライマリおよびセカンダリキャリブレーションメディアを保持し、これらのメディアは、ドライブに対するすべてのドライブ適格性検査アクティビティで使用されます。

ドライブがキャリブレーションに失敗する場合、それは不適格です。不適格なドライブには、「Not Suitable」というキャリブレーション状態が割り当てられ、これらは、ドライブキャリブレーションが有効な間、どのような STA 検証アクティビティにも使用されません。これらは、SL コンソールを使用して明示的に削除しないかぎり、メディア検証ドライブプール内にとどまります。

---

#### 注:

ドライブキャリブレーションが無効な場合、STA は「Not Suitable」キャリブレーション状態を無視して、そのドライブを検証に使用します。これは、キャリブレーションが STA 上で、ある時点で有効であり、それ以降無効になっている場合に発生します。

---

すべてのドライブがキャリブレートされると、「Media Validation Configuration」画面に「Drive and Media Pool Setup Success--calibration has been successful.」と表示されます。個別のドライブに関する詳細な結果が「Drives – Overview」画面に表示されるので、結果を確認して適切なアクションを実行できます。手順については、「[STA メディア検証用の検証ドライブを表示する](#)」を参照してください。

### 8.3.3.3. 検証ドライブの適格性検査プロセス

検証ドライブの適格性が確認されると、ドライブが引き続きキャリブレートされた状態にあることが保証されます。適格性検査は、バックグラウンドで自動的に実行され、ユーザーの介入を必要としない継続的なプロセスです。STA は、メディア検証の結果が「Degraded」または「Failed」ステータスになる場合、常に適格性検査を自動的に開始します。

適格性検査の間、検証ドライブは「Standard Verify」を使用してテストされます。テストは、ドライブに割り当てられたプライマリおよびセカンダリのキャリブレーションメディアを使用して実行されます。適格性検査は、ドライブキャリブレーションに似たプロセスに従います。

### 8.3.3.4. ドライブキャリブレーションの結果

適格性検査が完了すると、STA は、ドライブとメディアの品質に関して次のいずれかを推奨します。

- ドライブは不適格である。
- データメディアが不良である。
- データメディアが不良で、セカンダリキャリブレーションメディアが不適格である。

不適格なメディアはドライブのキャリブレーションや適格性検査には使用されません。これらは、明示的に削除するまで、キャリブレーションメディア論理グループ内にとどまります。不適格なドライブに関する情報は、「[ドライブキャリブレーションの結果](#)」を参照してください。

適格性検査の結果は、「Media Validation Overview」画面の「Calibration」および「Qualification」属性に表示されます。結果を確認して、適切なアクションを実行できます。

### 8.3.4. キャリブレーションと適格性検査の準備

キャリブレーションと適格性検査を有効にする前に、次の準備タスクを実行する必要があります。

- a. 「Logical Groups」画面で、ドライブキャリブレーションに使用するメディア用の手動論理グループを作成します。詳細は、「[キャリブレーションメディア論理グループ](#)」を参照してください。このタスクには、オペレータ権限または管理者権限が必要です。
- b. 「Media – Overview」画面で、ドライブキャリブレーションに使用するメディアを確認して選択します。詳細は、「[キャリブレーションメディアの選択](#)」を参照してください。
- c. メディアを論理グループに割り当てます。このタスクには、オペレータ権限または管理者権限が必要です。
- d. ドライブのキャリブレーションと適格性検査を有効にします。手順については、「[ドライブキャリブレーションと適格性検査の有効化](#)」を参照してください。このタスクには、管理者権限が必要です。

#### 8.3.4.1. キャリブレーションメディア論理グループ

ドライブのキャリブレーションと適格性検査に使用するメディアは、この目的専用の手動論理グループに割り当てる必要があります。これが、キャリブレーションメディア論理グループです。論理グループがキャリブレーションメディア論理グループとして指定されると、その内部のメディアはホスト操作には使用できなくなり、それらを通常のメディア検証操作に使用することは STA により許可されません。

キャリブレーションメディア論理グループは、テープライブラリシステム全体で1つしか存在しません。検証ドライブプール内の各ドライブに少なくとも2つのメディアを割り当てる必要があります。メディアは検証ドライブと同じスタンドアロンライブラリおよびライブラリコンプレックス内に存在する必要があります。たとえば、コンプレックス SL8500 1 内に8台の検証ドライブがあり、スタンドアロンライブラリ SL8500-Seattle 内に1台の検証ドライブがある場合、論理グループは、少なくともコンプレックス SL8500 1 内のライブラリからの16個のメディア、およびライブラリ SL8500-Seattle からの2個のメディアを含んでいる必要があります。グループに割り当てることができるメディアの最大数はありません。

必要に応じてメディアを論理グループに追加したり、そこから削除したりできます。STA は、変更をすべて検出し、必要に応じて新しいメディアを使用します。

### 8.3.4.2. キャリブレーションメディアの選択

キャリブレーションメディアはドライブキャリブレーションおよび適格性検査専用にし、本番データには使用しないことが、強く推奨されています。これは、メディアの品質が本番操作で低下しないことを保証するのに役立ちます。キャリブレーションメディアの優れた候補を次に示します。

- 使用されているが、必要でなくなったデータを含むメディア。たとえば、良好な状態にある期限切れバックアップメディア。
- ダミーデータを書き込んだ、良好な状態にある新しいまたは未使用のメディア。データを暗号化するかどうかは、必要に応じて決定できます。

ドライブキャリブレーションと適格性検査に使用するには、メディアが次の条件を満たしている必要があります。

- 「Media Type」が「T10000T2」(つまり、T100000T2 または T10000T2 Sport) であること。T10000T1 メディアは検証可能ですが、ドライブキャリブレーションと適格性検査には使用できません。
- 「Media Health Indicator」が「Use」であること。
- 「Media Suspicion Level」が「0」であること。
- 少なくとも2つのデータラップがメディアに書き込まれていること。

---

#### 注:

メディアをキャリブレーション論理グループに追加する場合、STA はこれらの条件をチェックしないため、キャリブレーションや適格性検査に使用できないメディアを割り当てることも可能です。

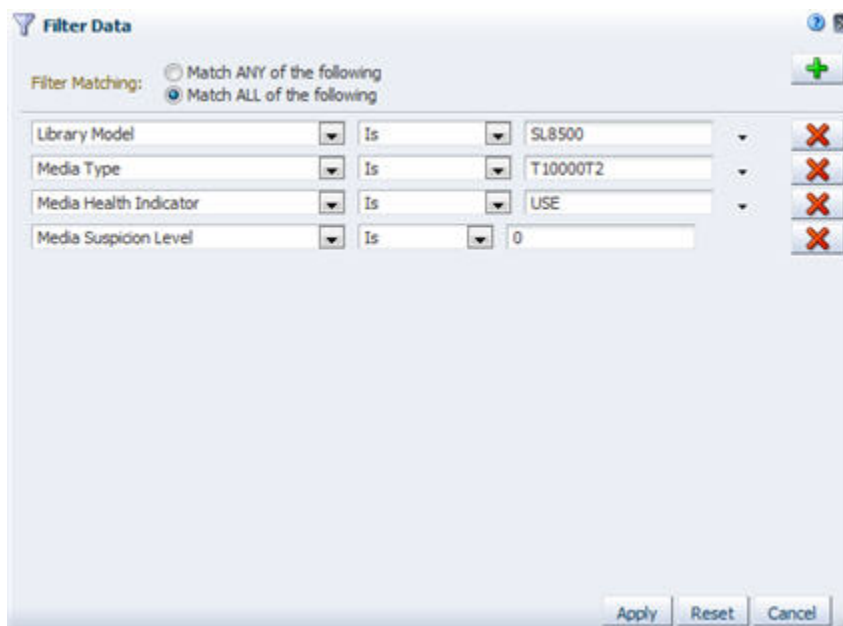
---

注:

キャリブレーション論理グループに割り当てられているいずれかのメディアに、最小限の必須 STA 履歴がない場合、STA はそれに対して Basic Verify を自動的に開始してから、ドライブキャリブレーションでの使用を試みます。Basic Verify により、最小限必要な履歴が提供されます。詳細は、「[検証テストの種類](#)」を参照してください。

これらの要件を満たすメディアを見つけるため、フィルタを「Media – Overview」画面に適用できます。[234 ページの図8.7「キャリブレーションメディア候補の確認用フィルタ」](#)に、「Media – Overview」画面で使用できるサンプルフィルタを示します。

図8.7 キャリブレーションメディア候補の確認用フィルタ



「Media MB Avail Post」属性でフィルタ処理された結果をソートして、2 つ以上のデータラップを持つメディアを見つけることができます。これは、記録フォーマットおよびメディアタイプによって異なります。[表8.2「T1000T2 メディア、2 つのデータラップで書き込まれる M バイト \(圧縮済み\)」](#)に、必要な量のサマリーを示します。

表8.2 T1000T2 メディア、2 つのデータラップで書き込まれる M バイト (圧縮済み)

Media Type	書き込まれる M バイト
T1000D Standard	119,000M バイト
T1000D Sport	23,800M バイト

---

Media Type	書き込まれる M バイト
T10000TC Standard	97,000M バイト
T10000TC Sport	19,400M バイト

---

## 8.4. 手動検証リクエストの送信

STA 上で検証ドライブプールが作成され、メディア検証が有効になったら、STA を使用して手動検証リクエストを送信して、検証リクエストキューを管理できます。手順については、「[手動メディア検証リクエストの送信](#)」を参照してください。

---

注:

ドライブキャリブレーションを有効にしている場合、キャリブレーションメディア論理グループに含まれるメディアを手動または自動の検証リクエストに含めることはできません。STA は、そのメディアがメディア検証に適していないというエラーメッセージを表示します。これらのメディアの詳細は、「[キャリブレーションメディア論理グループ](#)」を参照してください。

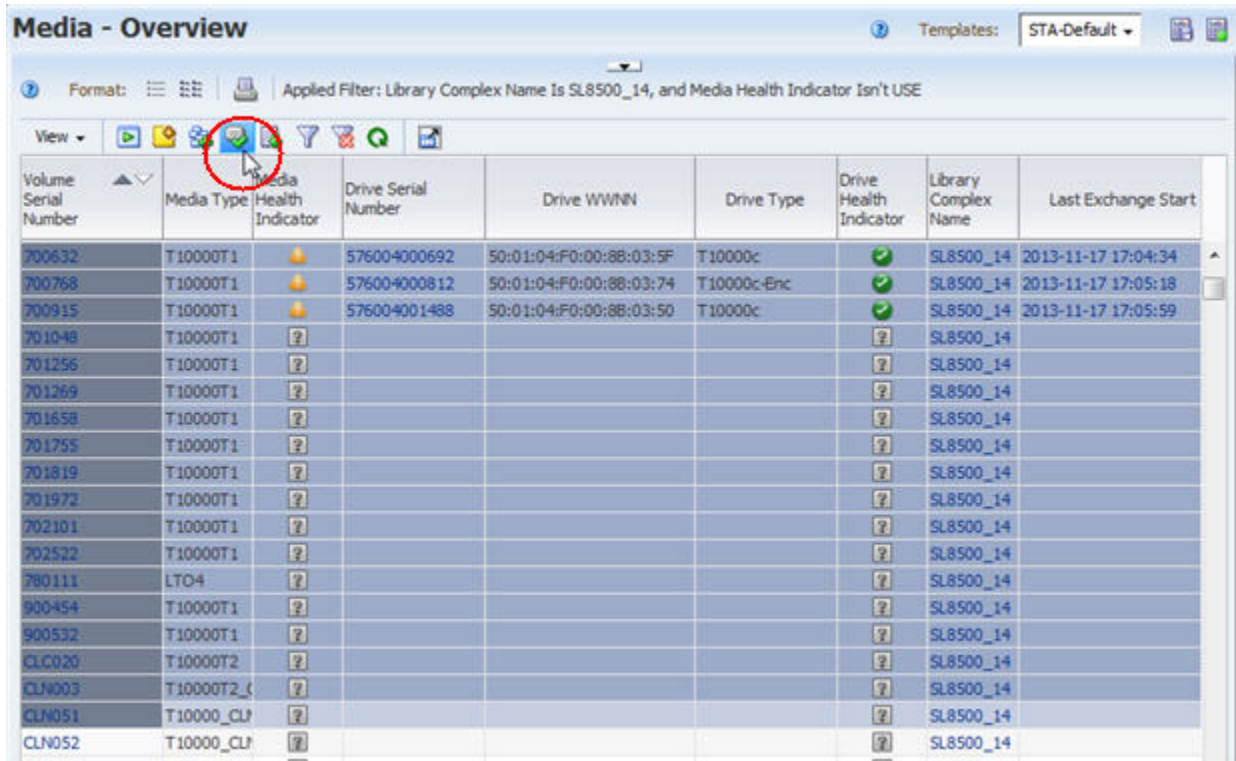
---

次のいずれかの画面から手動検証リクエストを送信できます。

- 「Media Overview」 - 同じ検証テストで検証するメディアを一度に複数個選択できます。検証では、選択範囲において適格なメディアのみが確認されます。[図8.8「Media Overview」画面からメディア検証を開始する](#)に例を示します。選択範囲には、さまざまなメディアタイプが含まれており、中にはメディア検証で適格ではないメディアタイプも含まれています。

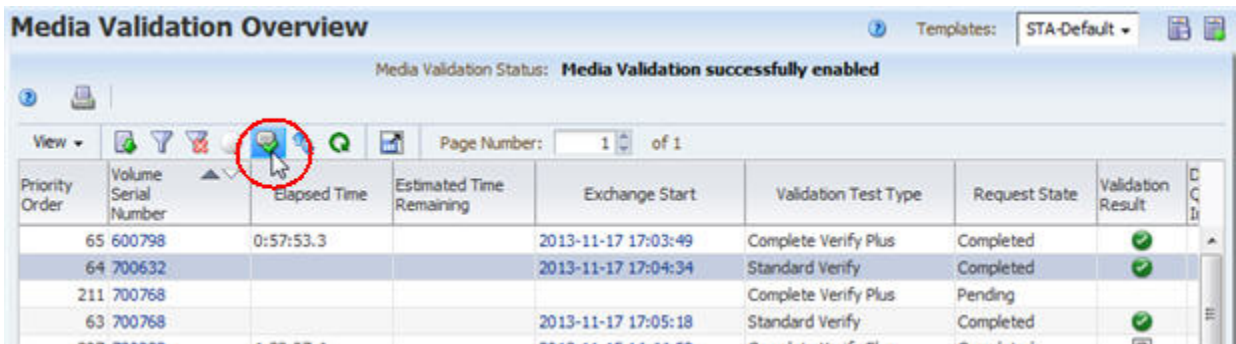


図8.8 「Media - Overview」画面からメディア検証を開始する



- 「Media Validation Overview」 – 1 回につき 1 つのメディアを検証用を選択できます。図 8.9「Media Validation Overview」画面からメディア検証を開始する」に例を示します。

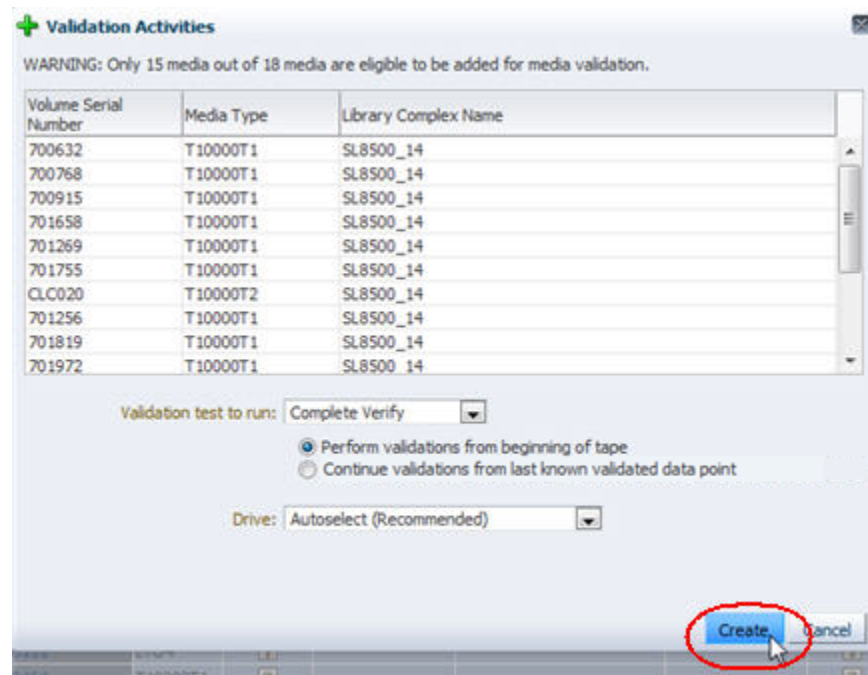
図8.9 「Media Validation Overview」画面からメディア検証を開始する



手動リクエストを生成するには、次の情報を指定します。図8.10「複数メディア用の手動検証リクエストの例」に手動検証リクエストの例を示します。



図8.10 複数メディア用の手動検証リクエストの例



- 検証対象のメディア。STA で生成できるのは T10000 メディア用のリクエストだけです。「Media Overview」画面で複数のメディアを一度に選択し、T10000 はその一部のみである場合、適切なメディアだけが検証用に確認されます。
- 検証テストのタイプ。これは、メディア上で実行される検証テストのタイプです。詳細は、「[検証テストの種類](#)」を参照してください。
- テープの先頭 (BOT) から開始するか、検証が最後に中断された位置から再開します。このオプションを使用できるのは、次のすべての条件が満たされる場合だけです。詳細は、「[T10000T2 メディア上で中断された「Complete Verify」テストを再開する](#)」を参照してください。
  - T10000T2 メディアを検証用に選択していること。(T10000T1 メディア検証は、常にテープの先頭から開始される。)
  - 検証テストのタイプが「Complete Verify」または「Complete Verify Plus」であること。(その他のテストタイプは常にテープの先頭から開始される。)
  - 選択したメディアの一部またはすべてに対して前回実行した検証が、100% 完了していないこと。(前回実行した検証が完了しているメディアは、常にテープの先頭から開始される。)
- 検証ドライブ – サイトに複数の検証ドライブが存在する場合、推奨されるドライブ選択方法は、STA で互換性のある検証ドライブを選択することです。ただし、選択したメディアすべてが同じスタンドアロンライブラリまたはライブラリコンプレックス内にある場合、使用する

るドライブを手動で指定できます。STA の提供する互換性のあるドライブのリストから選択できます。メディアが複数のスタンドアロンライブラリまたはコンプレックス間で分散されている場合、STA は使用するドライブを自動的に選択します。

手動リクエストを送信するとすぐに、STA メディア検証リクエストキューにそのリクエストが追加されます。検証は、互換性のあるドライブが使用可能になると開始されます。

#### 8.4.1. 互換性のないメディアおよびドライブに対する手動の「Verify and Rebuild MIR」リクエスト

注:

このセクションで説明する最小ファームウェアレベルについては、『STA 要件ガイド』を参照してください。

互換性のないメディアまたはドライブに対して手動で「Verify and Rebuild MIR」リクエストを送信した場合（たとえば、T1000D で検証される T1000C メディアにリクエストを送信した場合）、最小ファームウェアレベルが TTI 5.5.0 のドライブは、リクエストを適切に拒否します。ファームウェアが最小の TTI 5.5.0 要件を満たしていないドライブも、リクエストの処理を試みますが、MIR を再構築できる場合は、リクエストに対して誤って正常のステータスをレポートすることがあります。STA が生成するのは、メディアとドライブに互換性があるリクエストのみであるため、自動リクエストではこのような状況は発生しません。

「Verify and Rebuild MIR」リクエストの STA バージョンでは、最後に良好であったことが知られている領域がデータの末尾 (EOD) であった場合には、MIR を再構築できないことがあります。このときにはドライブの Virtual Operator Panel (VOP) を使用して MIR を再構築する必要があります。

### 8.5. 自動メディア検証の使用

STA を使用して任意の数のメディア検証ポリシーを定義でき、さまざまなユーザー定義条件に基づいて検証用のメディアが自動的に選択されます。STA は、選択したメディアごとに検証リクエストを生成し、それが STA 検証キューに送信されます。互換性のあるドライブが使用可能になるとすぐに、検証が開始されます。このアクティビティーは、STA によりすべて自動的に管理されます。

メディア検証ポリシーの数およびその定義方法によっては、1つのメディアが1日に複数回検証用に選択される可能性があります。これを防ぐために、STA は、自動検証をメディアごとに最大1日1回に制限します。あるメディアに対して検証リクエストが生成されると、STA は、その日、そのメディアに対する追加の検証リクエストを生成しません。

## 8.5.1. 自動検証に適したメディア

注:

ドライブキャリブレーションを有効にしている場合、キャリブレーションメディア論理グループに含まれるメディアを、手動または自動の検証リクエストに含めることはできません。STA は、これらのメディアを検証ポリシーから自動的に除外します。これらのメディアの詳細は、「[キャリブレーションメディア論理グループ](#)」を参照してください。

メディアが STA によりポリシー主導型の検証で使用されるには、メディアが最小限の履歴を保持している必要があります。メディアは、次の属性の値を保持している必要があります。

- Exchange Recording Technique (ドライブがメディアへの書き込みに使用する記録フォーマット)
- メディア疑いレベル
- MB Written (メディアに書き込まれるデータの合計量)

STA でこの履歴を保持していないメディアを検証するには、Basic Verify を手動で開始して、これらの属性を指定する必要があります。詳細は、「[検証テストの種類](#)」および「[手動メディア検証リクエストの送信](#)」を参照してください。

## 8.5.2. 検証ポリシーの定義

管理者権限を持つユーザーが、「Media Validation」画面の「Setup & Administration」タブでこの部分のプロセスを実行します。検証ポリシーを作成するために、STA でメディア検証を有効にする必要はないため、これは必要に応じて事前に実行できます。

検証ポリシーの作成時に、それをすぐに有効にすることも、しばらく無効のままにしておくこともできます。STA は、有効なポリシーのみを使用して、検証リクエストを生成します。

検証ポリシーを定義する場合は、次の情報を指定します。

- ポリシー名 – 英数字のポリシー識別子。ポリシー名は一意である必要があります。
- ポリシーの説明 – ポリシーのオプションの説明。
- 適用可能なメディアグループ – ポリシーの適用先を、指定したライブラリコンプレックス内の指定した記録フォーマットのメディアにするか、指定した論理グループ内のメディアにするかを選択できます。論理グループの詳細は、「[論理グループごとにメディアを検証する](#)」を参照してください。
- 選択条件 – 適用可能なメディアグループ内のメディアを検証用を選択するための定義済みの条件。詳細は、「[検証ポリシーの選択条件](#)」を参照してください。

- 検証テストのタイプ – メディア上で実行する検証テストのタイプ。詳細は、「[検証テストの種類](#)」を参照してください。

詳細な手順は、「[メディア検証ポリシーの作成](#)」を参照してください。

### 8.5.2.1. 論理グループごとにメディアを検証する

メディア検証ポリシーを任意の既存論理グループに適用できます (ポリシーごとに 1 つの論理グループ)。STA は、次の条件を両方とも満たすグループ内のメディアに対してのみ、検証リクエストを生成します。

- T10000 メディア
- STA の最小要件を満たすドライブの検証ドライブプールを持つ、スタンドアロン SL8500 ライブラリまたはライブラリコンプレックス内のメディア

### 8.5.2.2. 検証ポリシーの選択条件

STA は、次の定義済み条件のいずれかに基づいて検証用のメディアを選択できます。

- 「Random Selection」 – スタンドアロンライブラリまたはライブラリコンプレックス内の検証ドライブが使用可能である場合、常に検証用のメディアをランダムに選択します。
- 「Media Health = Action」 – 指定した数の一連の交換の結果が Exchange Media Health of Action であったメディアを選択します。1 - 5 回の交換を指定できます。
- 「Media Health = Evaluate」 – 指定した数の一連の交換の結果が Exchange Media Health of Evaluate であったメディアを選択します。1 - 5 回の交換を指定できます。
- 「Media Health = Monitor」 – 指定した数の一連の交換の結果が Exchange Media Health of Monitor であったメディアを選択します。1 - 5 回の交換を指定できます。
- 「Extended Period of non-use」 – 指定した日数の間、交換がなかったメディアを選択します。指定できるのは、365 - 1,095 日 (1 - 3 年) です。
- 「Newly Entered」 – 最近ライブラリに入れられたメディアを選択します。
- 「Bad MIR Detected」 – 交換の結果が Bad MIR Detected エラーであったメディアを選択します。不正なメディア情報レコード (MIR) は、メディアの高速アクセスが低下していることを示します。

## 8.6. STA メディア検証リクエストキューの管理

メディア検証リクエストキューは、「Media Validation Overview」画面の「Tape System Activity」タブに表示されます。このキューには、テープライブラリシステム内で発生したすべてのメディア検証アクティビティがリスト表示されます。これには、STA またはほかの任意のアプリケーションにより開始された、保留中および完了した検証リクエストが含まれます。

デフォルトでは、リクエストは、リストの先頭が最新のリクエストになる逆 Priority Order でリスト表示されます。

「Media Validation Overview」画面で、次のいずれかのアクティビティを実行できます。

- 「[検証リクエストのステータスを表示する](#)」
- 「[保留中または進行中の検証リクエストを取り消す](#)」
- 「[T1000T2 メディア上で中断された「Complete Verify」テストを再開する](#)」

### 8.6.1. 検証リクエストのステータスを表示する

「Media Validation Overview」画面には、すべての検証リクエストの詳細が表示されます。このセクションでは、この画面上の特に興味を引く属性について説明します。

---

注:

ドライブ、メディア、ライブラリ接続がテーブルライブラリシステムから削除された場合、関連する保留中の STA 検証リクエストは、明示的に取り消すまでリクエストキュー内にとどまります。手順については、「[保留中のメディア検証リクエストの取り消し](#)」を参照してください。

---

#### 8.6.1.1. メディア検証リクエストの優先度

Priority Order 属性は、キュー内の各検証リクエストの順序を示します。新たに作成されたリクエストには、新たに使用可能な Priority Order 値が割り当てられます。STA はリクエストを優先順位ごとに処理するため、保留中のリクエストをキュー内で上または下に移動させることで再優先順位付けを行うことができます。手順については、「[保留中のメディア検証リクエストの再順序付け](#)」を参照してください。

保留中および進行中のリクエストは逆 Priority Order でリスト表示されるため、最近受け取ったリクエストがリストの上部に配置されます。完了した検証の Priority Order 値は空白になります。

#### 8.6.1.2. メディア検証リクエストの状態

Request State は、各検証リクエストの進行状況を示します。通常、リクエストは次の順序で処理されます。

1. 「Pending」 – リクエストが送信され、互換性のある検証ドライブが利用可能になるまで待機しています。Request Status Information 属性に、追加の詳細が表示されます。
2. 「Starting」 – ドライブは、検証操作に予約されています。
3. 「In-Progress」 – 検証が進行中です。Elapsed Time および Estimated Time Remaining 属性は、操作の進行に応じて継続的に更新されます。

4. 「Completed」 – 検証が完了しました。STA に表示される情報の詳細は、「[メディア検証結果](#)」を参照してください。

また、次の Request States がいつでも発生する可能性があります。

- 「Error」 – リクエストに関するエラーが発生しました。Request Status Information 属性に、追加の詳細が表示されます。
- 「Stopping」または「Stop Requested」 – 手動またはホストアプリケーションからのメディアリクエストにより、リクエストが停止しました。詳細は、「[保留中または進行中の検証リクエストを取り消す](#)」を参照してください。

### 8.6.1.3. メディア検証イニシエータ

STA は、テープライブラリシステムから受信したすべてのメディア検証情報を報告します。そのため、STA により開始されないメディア検証が表示される場合があります。メディア検証はさまざまなアプリケーションから実行でき、Initiator 属性はそのソースを示します。オプションを次に示します。

- 「Drive」 – 検証が T10000C または T10000D ドライブ上で直接開始されたことを示します。
- 「Host」 – Oracle の StorageTek Storage Archive Manager (SAM) などの外部ホストアプリケーションを示します。これらのアプリケーションは、T10000C および T10000D ドライブの内部メディア検証機能を使用しません。
- 「Library」 – ライブラリコマンド行インタフェース (CLI) を示します。CLI を使用したメディア検証の開始が承認されるのは、Oracle サポート担当者 だけです。ただし、ライブラリ管理者は CLI を使用して保留中または進行中の検証を取り消すことができます。詳細は、『*SL8500 ユーザーズガイド*』を参照してください。
- 「SLC」 – SL コンソールを示します。
- 「STA」 – STA を示します。

### 8.6.1.4. メディア検証結果

検証が完了すると、メディアがメディアスロットに戻され、STA に結果および推奨されるユーザーアクションが表示されます。次に示すのは、特に結果がエラーとなった検証で、検証結果を解釈するのに役立つ可能性がある「Media Validation Overview」画面の属性です。

#### Validation Result

STA は、次の Validation Result 値のいずれかを完了した各検証に割り当てます。

- 「Use」 – メディアが検証に合格しました。

- 「Degraded」 – データを移行し、メディアを抹消してください。
- 「Failed」 – データを移行し、サイトのポリシーに従ってメディアを処理してください。
- 「Unknown」 – 次の状況で発生する可能性があります。

検証が STA により取り消されたか、メディアへのホストリクエストにより中断されました。

検証中にエラーが発生しました。

検証中に STA とライブラリ間の通信が中断されました。

メディア情報レコード (MIR) が壊れています。

STA 以外のアプリケーションにより検証が開始され、STA がライブラリから結果を判定するための十分な情報を受信していません。

### Data Quality Index (DQI)

DQI は、検証結果に基づいて STA により計算される、メディアに残っているエラー修正量の尺度です。この値はパーセンテージで表現され、値が大きくなるほど結果が良好であることを意味します。次の場合に、この属性は空白になります。

- 検証が Basic Verify である場合。
- 検証結果で、メディア検証 Perm Status が True になる場合。
- 検証結果が Invalid MIR エラーである場合。

### Recommendation

この属性には、ユーザーアクションに関する STA からの推奨事項が含まれます。次に、表示される可能性のあるいくつかのメッセージを示します。

- 「Media OK」: 引き続き使用してください。
- Media Degraded--Perform Qualification.
- Permanent error encountered: Perform drive qualification.
- Not enough data to determine MV results.Rerun media validation.
- Degraded Media: Rerun Media Validation Using a Different Drive.
- Media Validation Interrupted.

### Request Status Information

通常、この属性は空白ですが、検証リクエストで発生した問題に関する情報が含まれることがあります。問題の説明および実行すべき修正アクションが含まれることがあります。次に、表示される可能性のあるいくつかのメッセージを示します。

- Drive Timeout; MDV manager cancel – 検証を完了するのに 9 時間以上かかったため、STA がライブラリに対してメディアをメディアスロットに戻すことをリクエストしました。通常、これはライブラリ操作エラーの結果です。検証交換の Read Percentage 属性が 100% 未満である場合、検証は完了していません。メディアが繰り返しこのステータスになる場合、おそらくメディアに問題があります。ドライブが繰り返しこのステータスになる場合、おそらくドライブに問題があります。



- ライブラリから返されたエラーコード – 検証リクエストの処理中にライブラリから返されたエラーコードを示します。エラーコードは、Library Error 属性内にも示されます。

### 8.6.2. 保留中または進行中の検証リクエストを取り消す

特に Complete Verify または Complete Verify Plus 検証は完了までに数時間かかる場合があるため、検証リクエストを取り消すことが必要な場合があります。STA から、STA で開始された保留中または進行中の検証リクエストのみを取り消すことができます。これらのリクエストは、いつでも取り消すことができ、また複数のリクエストを一度に取り消すことができます。

保留中のリクエストは、取り消されるとすぐに検証リクエストキューから削除されます。

実行中の検証については、「Complete Verify」または「Complete Verify Plus」テストのみを取り消すことができます。進行中のリクエストが取り消されると、Request State が Stopped に変更され、STA が取り消しリクエストをそのドライブに送信します。ドライブがリクエストを受信して、メディアをロード解除およびマウント解除するのに数分かかることがあります。メディアがメディアスロットに戻されると、検証リクエストが検証リクエストキューから削除されます。あとで検証を再開したり繰り返したりできます。詳細は、「[T1000T2 メディア上で中断された「Complete Verify」テストを再開する](#)」を参照してください。

### 8.6.3. T1000T2 メディア上で中断された「Complete Verify」テストを再開する

---

注:

このオプションは、T1000T2 メディアでのみ使用できます。T1000T1 メディアの検証は、常にテープの先頭 (BOT) で始める必要があります。

---

T1000T2 メディアの場合、ホストメディアリクエストにより中断されたか、手動で取り消された Complete Verify および Complete Verify Plus 検証は、テープの先頭 (BOT) からやり直すことも、中断されたポイントから再開することもできます。検証を再開するには、前回の検証が中断された位置を、ドライブがメディア RFID から特定できる必要があります。

このオプションは、手動で送信されたリクエストと STA メディア検証ポリシーにより開始されたリクエストの両方で使用できます。手順については、「[手動メディア検証リクエストの送信](#)」および「[メディア検証ポリシーの作成](#)」を参照してください。

---

注:

前回の検証中断時以降にメディアで発生した読み取り/書き込み操作によっては、検証が有効ではなくなっている可能性があるため、操作を最初からやり直すこともできます。

---



## 8.7. メディア検証用のユーザー役割

表8.3「メディア検証構成のユーザーの役割」に、STA メディア検証の構成に必要なユーザーの役割を示します。

表8.3 メディア検証構成のユーザーの役割

ユーザーの役割	メディア検証構成のアクティビティ	画面
ビューア以上	メディア検証ドライブプール内のドライブを表示します。	「 <b>Tape System Hardware</b> 」を選択して、「 <b>Drives Overview</b> 」を選択します。
管理者のみ	メディア検証ドライブプール内のドライブを表示します。  STA 上でのメディア検証を有効または無効にします。  指定されたメディア論理グループを選択して、ドライブキャリブレーションを有効または無効にします。	「 <b>Setup &amp; Administration</b> 」を選択して、「 <b>Media Validation</b> 」を選択します。

表8.4「メディア検証リクエストキューのユーザーの役割」に、STA メディア検証リクエストキューの管理に必要なユーザーの役割を示します。

表8.4 メディア検証リクエストキューのユーザーの役割

ユーザーの役割	メディア検証リクエストキューのアクティビティ	画面
ビューア以上	すべてのメディア検証リクエストのリストを表示、フィルタ処理、および出力します。  メディア検証リクエストのリストをスプレッドシートまたはドキュメントにエクスポートします。選択したメディア検証リクエストの詳細を表示します。  メディア検証リクエストを一度に1つ手動で送信します。  保留中のメディア検証リクエストを並べ替えます。  選択した保留中または進行中のメディア検証リクエストを取り消します。  T10000T2 メディアの中断した検証を再開します。	「 <b>Tape System Activity</b> 」を選択して、「 <b>Media Validation Overview</b> 」を選択します。
オペレータ以上	複数のメディア検証リクエストを手動で送信します。	「 <b>Tape System Hardware</b> 」を選択し

ユーザーの役割	メディア検証リクエストキューのアクティビティ	画面
	複数回中断された T10000T2 メディアの検証を再開します。	「Media Overview」を選択します。

表8.5「メディア検証ポリシーのユーザーの役割」に、STA メディア検証ポリシーの管理に必要なユーザーの役割を示します。

表8.5 メディア検証ポリシーのユーザーの役割

ユーザーの役割	メディア検証ポリシーのアクティビティ	画面
オペレータ以上	メディア検証ポリシーのリストを表示および出力します。	「Setup & Administration」を選択して、「Media Validation」を選択します。
管理者のみ	メディア検証ポリシーのリストを表示します。 メディア検証ポリシーを定義します。 メディア検証ポリシーを有効または無効にします。 メディア検証ポリシーをコピーします。 メディア検証ポリシーを次のように変更します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ポリシーの名前を変更します。</li> <li>ポリシーの条件を変更します。</li> </ul> メディア検証ポリシーを削除します。	「Setup & Administration」を選択して、「Media Validation」を選択します。

## 8.8. メディア検証タスク

### メディア検証の構成タスク

- 「STA メディア検証用の検証ドライブを表示する」
- 「STA 上でメディア検証を有効または無効にする」
- 「ドライブキャリブレーションと適格性検査の有効化」
- 「ドライブキャリブレーションと適格性検査の無効化」

### メディア検証リクエストの管理タスク

- 「メディア検証リクエストキューの表示」

- 「[手動メディア検証リクエストの送信](#)」
- 「[保留中のメディア検証リクエストの再順序付け](#)」
- 「[保留中のメディア検証リクエストの取り消し](#)」
- 「[進行中の「Complete Verify」検証の取り消し](#)」

### メディア検証ポリシーのタスク

- 「[メディア検証ポリシーの作成](#)」
- 「[メディア検証ポリシーのリストを表示する](#)」
- 「[メディア検証ポリシーの有効化または無効化](#)」
- 「[メディア検証ポリシーのコピー](#)」
- 「[メディア検証ポリシーを変更する](#)」
- 「[メディア検証ポリシーの削除](#)」

#### 8.8.1. STA メディア検証用の検証ドライブを表示する

この手順を使用して、STA メディア検証の最小要件を満たす検証ドライブの情報を表示します。詳細は、「[STA で使用可能な検証ドライブ](#)」を参照してください。

---

注:

検証ドライブプールの保守には、SL コンソールのみを使用します。プールの保守方法の詳細は、『[SL8500 ユーザーズガイド](#)』を参照してください。

---

注:

この手順では、管理者権限が必要です。

---

この手順は、次のいずれかの手法で実行できます。

- 「[「Media Validation」画面から](#)」
- 「[「Drives – Overview」画面から](#)」

##### 8.8.1.1. 「Media Validation」画面から

---

注:

この手法には、オペレータまたは管理者の権限が必要です。

---

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Media Validation**」を選択します。



- 画面の「Media Validation Configuration」セクションの「**Number of Drives Reserved for Media Validation**」フィールドに、検証プールに割り当てられていて、STA 最小要件を満たすドライブの総数が表示されます。リンクを選択します。



これらのドライブの詳細を表示するフィルタが適用済みの「Drives – Overview」画面に移動します。

 A screenshot of the 'Drives - Overview' page. At the top right, there is a 'Templates: STA-Drive-MV' dropdown menu. Below it, there is a filter bar with 'Applied Filter: MV Drive Capable True' circled in red. Below the filter bar is a table with the following columns: Drive Serial Number, Drive Type, Library Complex Name, Drive Library Name, Drive Library Serial Number, MV Last Activity, MV Drive In Use, MV Drive Reserved, MV Drive Available, and MV Calibration State.
 

Drive Serial Number	Drive Type	Library Complex Name	Drive Library Name	Drive Library Serial Number	MV Last Activity	MV Drive In Use	MV Drive Reserved	MV Drive Available	MV Calibration State
576004000073	T10000c	SL8500_14	tib	516000100534				✓	
576004001405	T10000c	SL8500_5	SL8500-BAS	516000100451				✓	
579004001868	T10000d	SL3000_57100C	Crimson14	571000000001				✓	
579001000120	T10000d-Enc	SL8500_14	tib	516000100534				✓	

### 8.8.1.2. 「Drives – Overview」画面から

注:

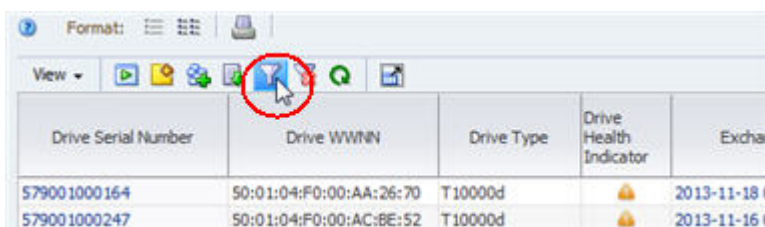
この手法は、どのユーザーでも実行できます。

1. ナビゲーションバーで、「**Tape System Hardware**」を選択して、「**Drives Overview**」を選択します。



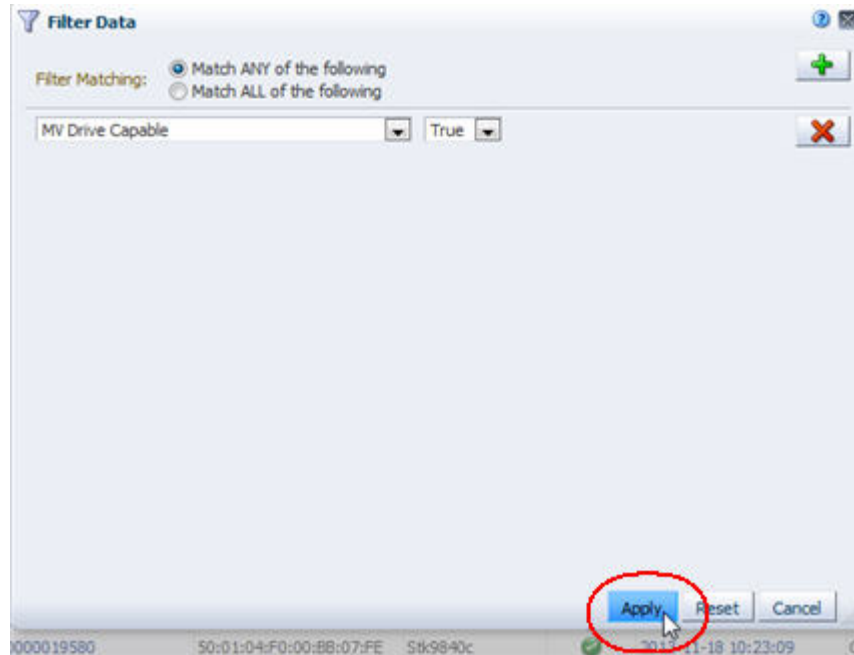
「Drives – Overview」画面が表示され、テープライブラリシステム内のすべてのドライブが表示されます。

2. テーブルツールバーで、「**Filter Data**」をクリックします。



「Filter Data」ダイアログボックスが表示されます。

3. 選択条件メニューで、「**MV Drive Capable**」および「**True**」を選択します。次に「**Apply**」をクリックします。



テーブルが更新され、検証ドライブプールに割り当てられていて、STA メディア検証の最小要件を満たすドライブだけが表示されます。

Format: [Icons] Applied Filter: MV Drive Capable True

View [Icons]

Drive Serial Number	Drive WWN	Drive Type	Drive Health Indicator	Exchange Start	Drive Exchange Status	Exchange Drive Cleaning Required	Exchange FS
576004000692	50:01:04:F0:00:88:03:5F	T10000c	✓	2013-11-18 04:21:59	NON_DRV_ERROR		2986
576004001488	50:01:04:F0:00:88:03:50	T10000c	✓	2013-11-17 17:05:59	NON_DRV_ERROR		375E
576004000812	50:01:04:F0:00:88:03:74	T10000c-Enc	✓	2013-11-17 17:05:18	NON_DRV_ERROR		375E
579001000119	50:01:04:F0:00:88:03:9E	T10000d	✓	2013-11-17 17:03:49	GOOD		
579001000120	50:01:04:F0:00:88:03:86	T10000d-Enc	✓	2013-11-17 19:04:59	GOOD		
576004000073	50:01:04:F0:00:88:03:47	T10000c	?	2013-11-16 10:55:49			
576004001405	50:01:04:F0:00:8A:8A:DE	T10000c	?				
579001000352	50:01:04:F0:00:88:5A:5C	T10000d	?				

## 8.8.2. STA 上でメディア検証を有効または無効にする

この手順を使用して、STA 上でメディア検証機能現在の構成を確認して、有効または無効にします。デフォルトでは、STA のインストール時にはメディア検証は無効になっています。詳細は、「[メディア検証の有効化](#)」および「[メディア検証の無効化](#)」を参照してください。

## 注:

有効になっているメディア検証を無効にする場合、STA は新しいメディア検証リクエストを受け入れません。ただし、保留中または進行中のすべてのリクエストは検証キュー内に残り、完了まで処理されます。これらのリクエストを取り消す場合は、メディア検証を無効にする前または無効にしたあとで実行できます。詳細は、「[保留中または進行中の検証リクエストを取り消す](#)」を参照してください。

## 注:

この手順では、管理者権限が必要です。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Media Validation**」を選択します。



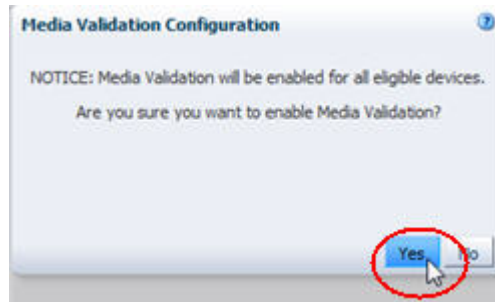
「Media Validation」画面が表示されます。

2. 「Media Validation State」フィールドで、次のように「**Enable**」または「**Disable**」を選択します。
  - 「Enable」 – STA によりモニターされるすべての SL8500 ライブラリで STA メディア検証を有効にします。
  - 「Disable」 – STA によりモニターされるすべての SL8500 ライブラリで、STA メディア検証を無効にします。メディア検証を一時的に無効にして、ライブラリの保守を実行することもできます。



確認ダイアログボックスが表示されます。

3. 選択を確認して、「Yes」を選択して確定します。



選択に応じて STA のメディア検証状態が更新され、新しいステータスが画面に示されます。この時点でメディア検証を有効にできない場合、理由が画面に示されます。



### 8.8.3. キャリブレーションメディア論理グループの作成

この手順を使用して、ドライブキャリブレーションと適格性検査に使用するメディアの論理グループを作成します。この論理グループ内のメディアをこの目的専用確保することが推奨されています。詳細は、「[キャリブレーションメディア論理グループ](#)」を参照してください。

---

注:

これは、オプションの手順であり、使用する必要があるのは、ドライブキャリブレーションと適格性検査を有効にする計画がある場合だけです。

---

注:

この手順を使用する前に、キャリブレーションメディアのみに使用する手動論理グループを作成する必要があります。詳細は、「[キャリブレーションメディアの選択](#)」および「[手動論理グループの作成](#)」を参照してください。

---

注:

この手順では、オペレータ権限または管理者権限が必要です。

---

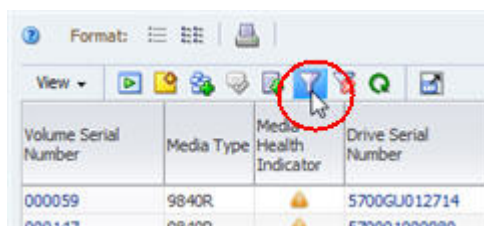


1. ナビゲーションバーで、「**Tape System Hardware**」を選択して、「**Media Overview**」を選択します。



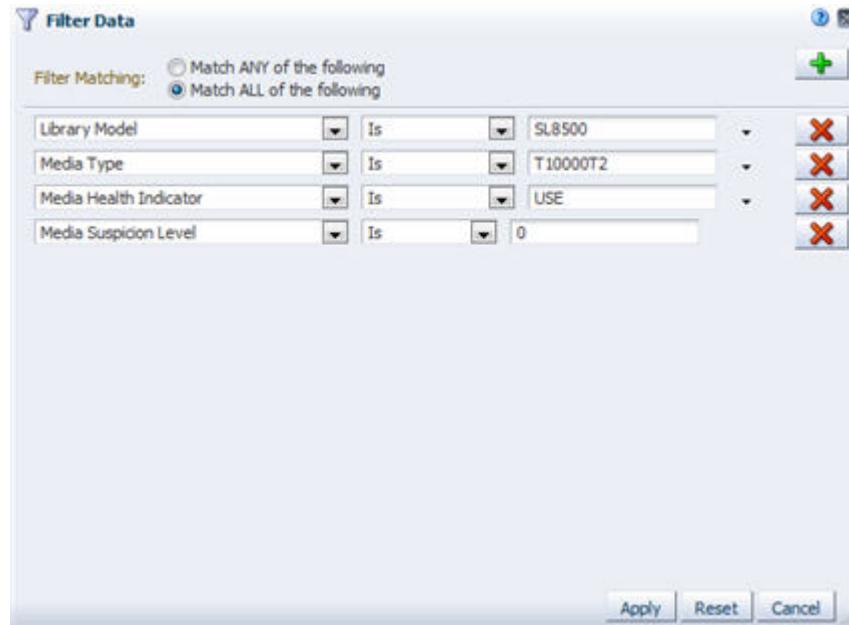
「Media – Overview」画面が表示され、テープライブラリシステム内のすべてのメディアが表示されます。

2. テーブルツールバーで、「**Filter Data**」をクリックします。



「Filter Data」ダイアログボックスが表示されます。

3. 選択条件メニューで、「**キャリブレーションメディアの選択**」に指定されている条件を入力し、「**Apply**」をクリックします。

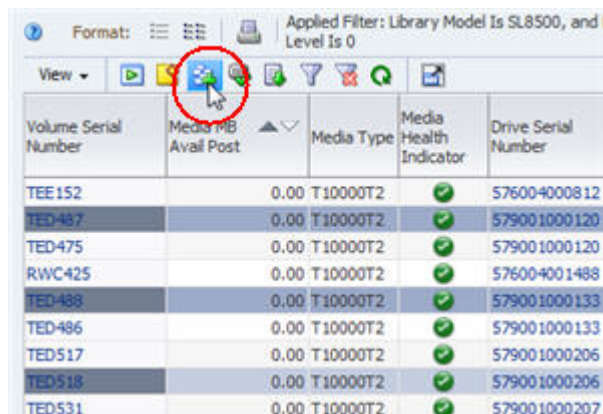


テーブルが更新されて、条件を満たすメディアだけが表示されます。

- 「Media MB Avail Post」属性で結果をソートして、書き込まれたデータのラップが2つ以上あるメディアを見つけます。

Volume Serial Number	Media MB Avail Post	Media Type	Media Health Indicator	Drive Serial Number	Drive WWNN	Drive Type	Drive Health Indicator	Last Exchange
TEE152		0.00 T10000T2	✓	576004000812	50:01:04:F0:00:88:03:74	T10000c-Enc	✓	2013-11-15 16:45
TED487		0.00 T10000T2	✓	579001000120	50:01:04:F0:00:88:03:86	T10000d-Enc	✓	2013-11-17 19:04
TED475		0.00 T10000T2	✓	579001000120	50:01:04:F0:00:88:03:86	T10000d-Enc	✓	2013-11-15 20:11
RWC425		0.00 T10000T2	✓	576004001488	50:01:04:F0:00:88:03:50	T10000c	✓	2013-11-15 18:05
TED488		0.00 T10000T2	✓	579001000133	50:01:04:F0:00:88:03:98	T10000d	✓	2013-11-16 11:44
TED486		0.00 T10000T2	✓	579001000133	50:01:04:F0:00:88:03:98	T10000d	✓	2013-11-16 11:35
TED517		0.00 T10000T2	✓	579001000206	50:01:04:F0:00:88:03:6E	T10000d	✓	2013-11-16 06:54

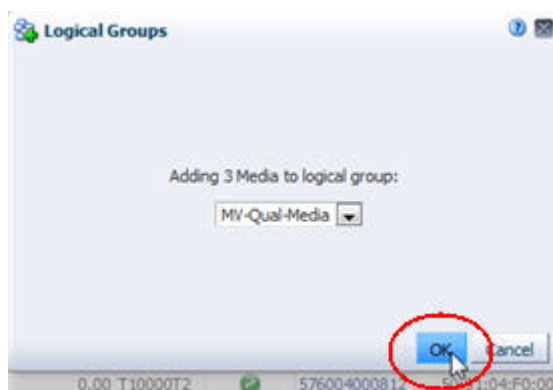
- リストから、ドライブキャリブレーションと適格性検査に使用するメディアを選択します。次にテーブルツールバーの「**Logical Groups**」をクリックします。



Volume Serial Number	Media MB Avail Post	Media Type	Media Health Indicator	Drive Serial Number
TEE152	0.00	T10000T2	✓	576004000812
TED467	0.00	T10000T2	✓	579001000120
TED475	0.00	T10000T2	✓	579001000120
RWC425	0.00	T10000T2	✓	576004001488
TED488	0.00	T10000T2	✓	579001000133
TED486	0.00	T10000T2	✓	579001000133
TED517	0.00	T10000T2	✓	579001000206
TED518	0.00	T10000T2	✓	579001000206
TED531	0.00	T10000T2	✓	579001000207

「Logical Groups」ダイアログボックスが表示されます。

- メニューでキャリブレーションメディア用に作成した論理グループを選択して、「OK」をクリックします。



メディアが論理グループに追加されます。「Logical Groups」画面にこれらを表示できます。手順については、「[論理グループに割り当てられているすべてのドライブとメディアの一覧表示](#)」を参照してください。

The screenshot shows the 'Logical Groups' interface. The top section, 'Defined Logical Groups', contains a table with the following data:

Logical Group Name	Logical Group Type	Logical Group Owner	Media Count	Drive Count
MV-Qual-Media	Manual	sta_admin	3	0
SL8500_HPLT06	Manual	sta_admin	0	0

The bottom section, 'Assigned Entities', contains two tables. The 'Drives' table is empty, showing 'The selected logical group contains no drives.' The 'Media' table contains the following data:

Volser	Media Type	Date Joined
TED487	T10000T2	11/18/2013
TED488	T10000T2	11/18/2013
TED518	T10000T2	11/18/2013

#### 8.8.4. ドライブキャリブレーションと適格性検査の有効化

この手順を使用して、STA 上でオプションのドライブキャリブレーションおよび適格性検査機能を有効にします。これらの機能は別個のプロセスですが、まとめて有効にしたり無効にしたりできます。

注:

STA メディア検証を使用している場合、ドライブキャリブレーションと適格性検査を有効にすることが強く推奨されています。これらの機能の利点の詳細は、「[ドライブのキャリブレーションと適格性検査](#)」を参照してください。

注:

この手順を使用する前に、キャリブレーションメディア論理グループを作成する必要があります。手順については、「[キャリブレーションメディア論理グループの作成](#)」を参照してください。

注:

この手順では、管理者権限が必要です。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Media Validation**」を選択します。



「Media Validation」画面が表示されます。

2. 「Use Media From the Following Manual Logical Group for Calibration」メニューで、キャリブレーションと適格性検査に使用するメディアを含む論理グループを選択します。このメニューには、手動論理グループのみが表示されます。



3. 選択を確認し、「Save」をクリックして確定します。



ドライブキャリブレーションと適格性検査が有効になり、STA がメディア検証ドライブグループ内のドライブのキャリブレーションを開始します。

新しいステータスが画面に示されます。キャリブレーションが成功すると、画面にメッセージ「Drive and Media Pool Setup Success--calibration has been successful.」が表示されます。何か問題があれば、それも示されます。

### 8.8.5. ドライブキャリブレーションと適格性検査の無効化

この手順を使用して、STA 上でオプションのドライブキャリブレーションおよび適格性検査機能を無効にします。これらの機能は別個のプロセスですが、まとめて有効にしたり無効にしたりできます。

---

注:

STA メディア検証を使用している場合、ドライブキャリブレーションと適格性検査を有効にすることが強く推奨されています。これらの機能の利点の詳細は、「[ドライブのキャリブレーションと適格性検査](#)」を参照してください。

---

注:

この手順では、管理者権限が必要です。

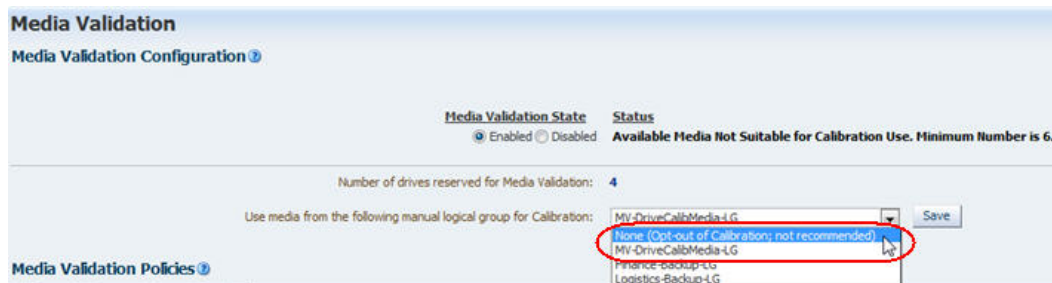
---

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Media Validation**」を選択します。



「Media Validation」画面が表示されます。

2. 「**Use Media From the Following Manual Logical Group for Calibration**」メニューで、「None (Opt out of calibration; not recommended)」を選択します。

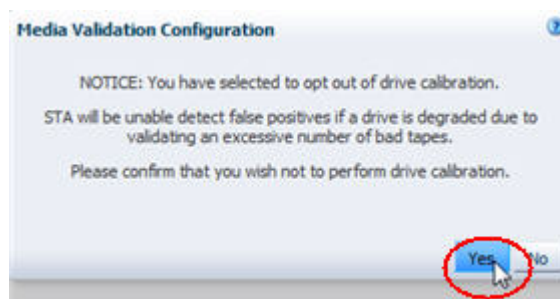


3. 選択を確認し、「Save」をクリックして確定します。



「Media Validation Configuration」ダイアログボックスが表示されます。

4. 選択を確認し、「Yes」をクリックしてドライブキャリブレーションと適格性検査の無効化を確定します。



ドライブキャリブレーションが無効化され、STA はキャリブレーションや適格性検査の新規操作を一切開始しません。進行中のキャリブレーションまたは適格性検査アクティビティは、処理されて完了します。

新しいステータスが画面に示されます。何か問題があれば、それも示されます。





## 8.8.6. メディア検証リクエストキューの表示

この手順を使用して、保留中、進行中、および完了したメディア検証リクエストの情報を表示します。詳細は、「[検証リクエストのステータスを表示する](#)」を参照してください。

注:

STA でメディア検証が無効になっている場合でも、この手順を使用できます。

注:

この手順は、どのユーザーでも実行できます。

1. ナビゲーションバーから、「**Tape System Activity**」を選択して、「**Media Validation Overview**」を選択します。



「Media Validation Overview」画面が表示され、STA が情報を受信したすべての検証リクエストが表示されます。

 A screenshot of the 'Media Validation Overview' web page. At the top, it says 'Media Validation Status: Media Validation successfully enabled'. Below this is a table with columns: Priority Order, Volume Serial Number, Elapsed Time, Estimated Time Remaining, Exchange Start, Validation Test Type, Request State, and Validation Result. The table contains 8 rows of data.
 

Priority Order	Volume Serial Number	Elapsed Time	Estimated Time Remaining	Exchange Start	Validation Test Type	Request State	Validation Result
1	TEE461			2013-11-18 14:57:14	Standard Verify	Completed	[?]
2	TED483			2013-11-18 13:57:17	Complete Verify Plus	Completed	[?]
3	TEES15	0:00:51.6		2013-11-18 13:32:49	Complete Verify Plus - Resum	Completed	[?]
4	TEES41	0:14:22.9		2013-11-18 13:13:16	Standard Verify	Completed	[?]
5	TEES48	0:14:24.4		2013-11-18 13:12:55	Standard Verify	Completed	[?]
6	TEES46	0:14:25.1		2013-11-18 13:12:46	Standard Verify	Completed	[?]
7	TEES10	0:00:51.2		2013-11-18 13:08:55	Complete Verify Plus - Resum	Completed	[?]
8	TEES11	0:00:51.9		2013-11-18 13:08:47	Complete Verify Plus - Resum	Completed	[?]

2. デフォルトでは、リクエストは「1」から始まる Priority Order でソートされるため、もっとも古いリクエストが画面のいちばん上に表示されます。最近のリクエストを表示するには、画面の下部までスクロールするか、「Priority Order」列の「**Descending Sort**」矢印を選択します。



3. この画面で、次のいずれかのタスクを実行して、検証リクエストキューを管理できます。
  - 「[手動メディア検証リクエストの送信](#)」
  - 「[保留中のメディア検証リクエストの再順序付け](#)」
  - 「[保留中のメディア検証リクエストの取り消し](#)」
  - 「[進行中の「Complete Verify」検証の取り消し](#)」

また、「List View」テーブルで実行できるタスクとほぼ同じことを実行できます。手順については、次の手順を参照してください。

- テーブルの出力可能なフォームをブラウザの別個のタブまたはウィンドウに表示するには、『[STA 画面基本ガイド](#)』を参照してください。
- メディア検証リクエストのリストをエクスポートするには、『[STA 画面基本ガイド](#)』を参照してください。
- 表レコードをフィルタするには、「[Filter Data](#)」ダイアログボックスを使用した[テーブルフィルタの変更](#)を参照してください。
- 表に適用されたフィルタをリセットするには、「[現在のフィルタのクリア](#)」を参照してください。
- テーブルをリフレッシュして新しいリクエストを表示するには、『[STA 画面基本ガイド](#)』を参照してください。
- テーブルを画面から切り離して、ブラウザフォアグラウンド内の別個のウィンドウに表示するには、『[STA 画面基本ガイド](#)』を参照してください。

### 8.8.7. 手動メディア検証リクエストの送信

この手順を使用して、メディア検証リクエストを検証リクエストキューに手動で送信します。この手順は、STA でメディア検証が有効になるとすぐに使用できます。詳細は、「[手動検証リクエストの送信](#)」を参照してください。

この手順を使用して、新しい検証を開始したり、以前に中断した検証を再開したりできます。中断した検証を再開するオプションを使用できるのは、次の条件がすべて満たされる場合だけです。

- T1000T2 メディアを検証用に選択していること。(T1000T1 メディア検証は、常にテープの先頭から開始される。)
- 検証テストのタイプが「Complete Verify」または「Complete Verify Plus」であること。(その他のテストタイプは常にテープの先頭から開始される。)

- 選択したメディアの一部またはすべてに対して前回実行した検証が、100% 完了していないこと。(前回実行した検証が完了しているメディアは、常にテープの先頭から開始される。)

この手順は、次のいずれかの手法で実行できます。

- 「[「Media – Overview」画面から](#)」。この手法を使用すると、複数のリクエストキューを一度に送信できます。
- 「[「Media Validation Overview」画面から](#)」。この手法を使用すると、リクエストを1回につき1つだけ送信できます。

### 8.8.7.1. 「Media – Overview」画面から

注:

この手法は、どのユーザーでも実行できます。

1. ナビゲーションバーから、「**Tape System Hardware**」を選択して、「**Media Overview**」を選択します。



「Media – Overview」画面が表示され、テープライブラリシステム内のすべてのメディアが表示されます。

2. 適切なフィルタ条件を適用して、メディアのリストを絞り込みます。次の例では、画面が「Library Complex Name Is SL8500\_14, and Media Health Indicator Isn't USE」のメディアを表示するようにフィルタ処理されています。

注:

定義済みの STA-Media-MV テンプレートでは SL8500 ライブラリ内の T10000 タイプのメディアだけを表示するようにフィルタ処理されるため、これを使用することもできます。

Media - Overview

Format: [Icons] Applied Filter: Library Complex Name Is SL8500\_14, and Media Health Indicator Isn't USE

Volume Serial Number	Media Type	Media Health Indicator	Drive Serial Number	Drive WWNN	Drive Type	Drive Health Indicator	Library Complex Name	Last Exchange Start
003559	T10000T1	[?]				[?]	SL8500_14	
600725	T10000T1	[?]				[?]	SL8500_14	
700632	T10000T1	[!]	576004000692	50:01:04:F0:00:88:03:5F	T10000c	[✓]	SL8500_14	2013-11-17 17:04:34
700768	T10000T1	[!]	576004000812	50:01:04:F0:00:88:03:74	T10000c-Enc	[✓]	SL8500_14	2013-11-17 17:05:18
700915	T10000T1	[!]	576004001488	50:01:04:F0:00:88:03:50	T10000c	[✓]	SL8500_14	2013-11-17 17:05:59
701048	T10000T1	[?]				[?]	SL8500_14	
701256	T10000T1	[?]				[?]	SL8500_14	

3. 検証するメディアを選択します。複数選択を使用して、任意の数のメディアを選択できます。次に、テーブルツールバーの「Media Validation」をクリックします。

Media - Overview

Format: [Icons] Applied Filter: Library Complex Name Is SL8500\_14, and Media Health Indicator Isn't USE

Volume Serial Number	Media Type	Media Health Indicator	Drive Serial Number	Drive WWNN	Drive Type	Drive Health Indicator	Library Complex Name	Last Exchange Start
700632	T10000T1	[!]	576004000692	50:01:04:F0:00:88:03:5F	T10000c	[✓]	SL8500_14	2013-11-17 17:04:34
700768	T10000T1	[!]	576004000812	50:01:04:F0:00:88:03:74	T10000c-Enc	[✓]	SL8500_14	2013-11-17 17:05:18
700915	T10000T1	[!]	576004001488	50:01:04:F0:00:88:03:50	T10000c	[✓]	SL8500_14	2013-11-17 17:05:59
701048	T10000T1	[?]				[?]	SL8500_14	
701256	T10000T1	[?]				[?]	SL8500_14	
701269	T10000T1	[?]				[?]	SL8500_14	
701658	T10000T1	[?]				[?]	SL8500_14	
701755	T10000T1	[?]				[?]	SL8500_14	
701819	T10000T1	[?]				[?]	SL8500_14	
701972	T10000T1	[?]				[?]	SL8500_14	
702101	T10000T1	[?]				[?]	SL8500_14	
702522	T10000T1	[?]				[?]	SL8500_14	
780111	LTO4	[?]				[?]	SL8500_14	
800454	T10000T1	[?]				[?]	SL8500_14	
800532	T10000T1	[?]				[?]	SL8500_14	
CLC020	T10000T2	[?]				[?]	SL8500_14	
CLN003	T10000T2	[?]				[?]	SL8500_14	
CLN051	T10000_CL	[?]				[?]	SL8500_14	
CLN052	T10000_CL	[?]				[?]	SL8500_14	

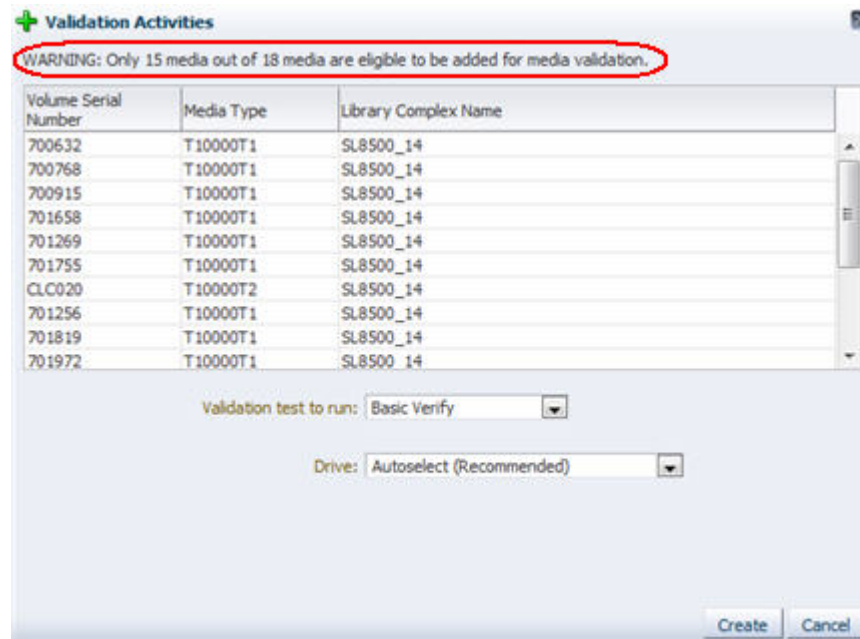
「Validation Activities」ダイアログボックスが表示されます。検証に適したメディアの総数がメッセージに示され、適格なメディアがリスト表示されます。メディアが不適格になる理由として、次のいずれかが考えられます。

- メディアが T10000 タイプではない。
- メディアがクリーニングメディアである。

- メディアが SL8500 スタンドアロンライブラリまたはコンプレックス内にはない。
- ライブラリまたはコンプレックス検証ドライブプール内のドライブが、メディアと互換性がない。
- 検証ドライブプール内のドライブが、STA メディア検証の最小要件を満たしていない。

注:

選択したメディアのいずれも検証に適していない場合、メッセージ「No valid media selected for validation」が表示されます。



4. 「**Validation test to run**」メニューで、実行する検証テストのタイプを選択します。オプションの詳細については、「[検証テストの種類](#)」を参照してください。

「**Complete Verify**」または「**Complete Verify Plus**」を選択した場合、次のオプションのいずれかを選択することも必要な場合があります。これらのオプションを使用できるのは、T10000T2 メディア上で「**Complete Verify**」または「**Complete Verify Plus**」検証を実行していて、これらのメディアに対する直前の検証が完了前に中断された場合だけです。

- 「**Perform validations from beginning of tape**」 – T10000T2 メディアをテープの先頭 (BOT) から検証することを示します。
- 「**Continue validations from last known validated data point**」 – 部分的に検証された T10000T2 メディアを、以前に検証が中断された位置から再開してテストすることを

示します (ドライブがメディアの RFID チップからその位置を特定できる場合)。ドライブが以前の検証が中断された位置を特定できない場合は、テープの先頭から開始します。

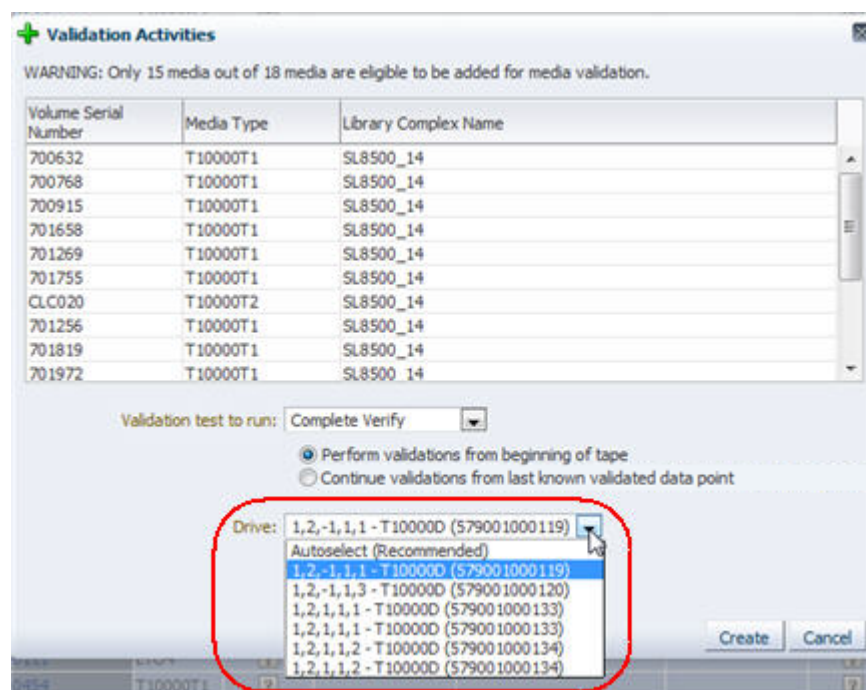
これらのオプションの詳細は、「[T10000T2 メディア上で中断された「Complete Verify」テストを再開する](#)」を参照してください。

5. 「**Drive**」メニューで、検証に使用するドライブを選択します。このオプションを使用できるのは、選択したすべてのメディアが同じライブラリコンプレックスまたはスタンドアロンライブラリ内に存在する場合だけです。メニューには、コンプレックスまたはスタンドアロンライブラリ内の検証ドライブがリスト表示されます。

注:

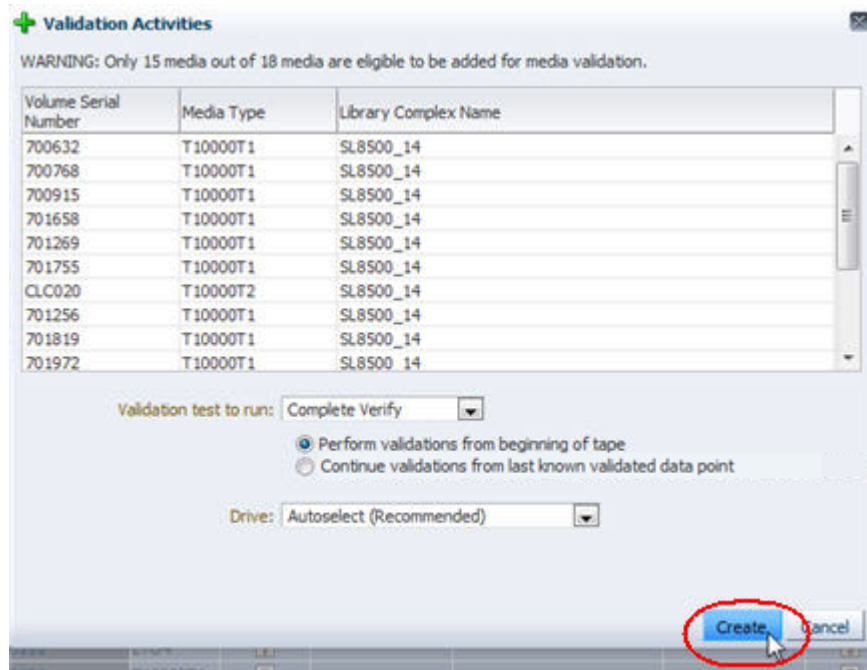
ドライブを 1 台だけ選択しますが、これは、可能な場合にすべてのメディアが同一のドライブにより検証されることを意味します。ドライブが一部のメディアと互換性がない場合 (たとえば、「Complete Verify Plus」の実行を選択したが、一部のメディアが暗号化されており、ドライブが暗号化に対応していない場合)、検証リクエストはリクエストキューに追加されますが、保留中の状態にとどまります。

このため、STA がメディアごとに互換性のある検証ドライブを自動的に選択する「Autoselect」を選択することが推奨されています。



6. 「**Create**」をクリックします。





検証リクエストが生成され、検証リクエストキューに追加されます。

- 「Media Validation Overview」画面にリクエストを表示できます。手順については、「[メディア検証リクエストキューの表示](#)」を参照してください。

デフォルトでは、各リクエストは、生成時に、次に使用可能な Priority Order に割り当てられます。再優先順位付けの手順については、「[保留中のメディア検証リクエストの再順序付け](#)」を参照してください。

Media Validation Overview

Media Validation Status: Media Validation successfully enabled

Page Number: 1 of 1

Priority Order	Volume Serial Number	Elapsed Time	Estimated Time Remaining	Exchange Start	Validation Test Type	Request State	Validation Result
222	701048				Complete Verify	Pending	
221	900454				Complete Verify	Pending	
220	702522				Complete Verify	Pending	
219	702101				Complete Verify	Pending	
218	900532				Complete Verify	Pending	
217	701972				Complete Verify	Pending	
216	701819				Complete Verify	Pending	
215	701256				Complete Verify	Pending	
214	CLC020				Complete Verify	Pending	
213	701755				Complete Verify	Pending	
212	701269				Complete Verify	Pending	
211	701658				Complete Verify	Pending	
210	700915				Complete Verify	Pending	
209	700768				Complete Verify	Pending	
208	700632				Complete Verify	Pending	
207	TEE151			2013-11-15 14:30:28	Complete Verify Plus	Completed	
206	TEE151	0:16:29.3		2013-11-15 14:32:32	Standard Verify	Completed	

## 8.8.7.2. 「Media Validation Overview」画面から

この手法を使用すると、リクエストを1回につき1つだけ送信できます。複数のリクエストを一度に送信するには、「[「Media – Overview」画面から](#)」を参照してください。

注:

この手法には、オペレータまたは管理者の権限が必要です。

1. ナビゲーションバーから、「Tape System Activity」を選択して、「Media Validation Overview」を選択します。



「Media Validation Overview」画面が表示されます。デフォルトでは、画面は昇順の Priority Order で表示されます。

2. 画面を Volume Serial Number でソートする場合は、その列の「Ascending Sort」または「Descending Sort」矢印を選択します。

 A screenshot of the 'Media Validation Overview' web page. At the top, it says 'Media Validation Status: Media Validation successfully enabled'. Below that is a table with the following columns: Priority Order, Volume Serial Number, Elapsed Time, Estimated Time Remaining, Exchange Start, Validation Test Type, Request State, and Validation Result. The table contains several rows of data, including volume numbers like 65 600798, 64 700632, 211 700768, 63 700768, 207 700828, and 125 700828. The 'Validation Result' column shows green checkmarks for completed and red X marks for pending or failed.
 

Priority Order	Volume Serial Number	Elapsed Time	Estimated Time Remaining	Exchange Start	Validation Test Type	Request State	Validation Result
65	600798	0:57:53.3		2013-11-17 17:03:49	Complete Verify Plus	Completed	✓
64	700632			2013-11-17 17:04:34	Standard Verify	Completed	✓
211	700768				Complete Verify Plus	Pending	
63	700768			2013-11-17 17:05:18	Standard Verify	Completed	✓
207	700828	1:28:07.4		2013-11-15 14:44:58	Complete Verify Plus	Completed	✓
125	700828	1:28:09.7		2013-11-16 14:49:04	Complete Verify Plus	Completed	✗

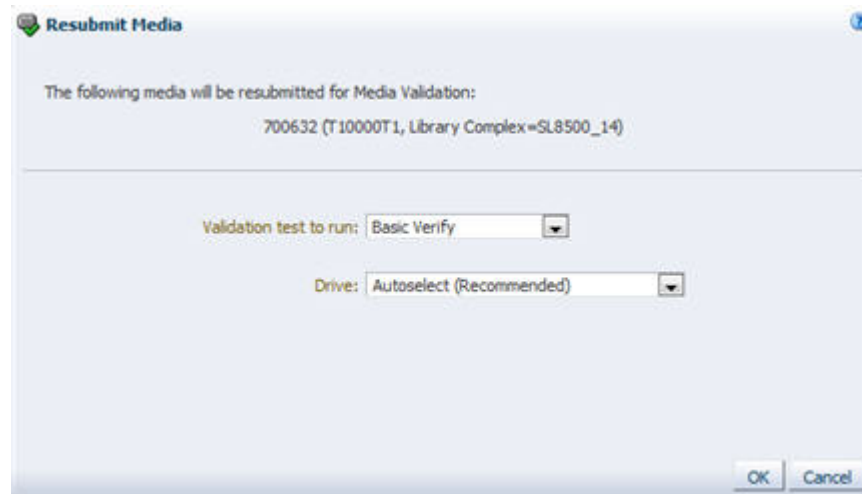
3. リクエストレコードを選択して、検証するメディアを選択します。次に、テーブルツールバーの「Media Validation」をクリックします。

注:

選択できるレコードは1回につき1つだけで、検証リクエストが保留中または進行中のメディアは選択できません。

Priority Order	Volume Serial Number	Elapsed Time	Estimated Time Remaining	Exchange Start	Validation Test Type	Request State	Validation Result
65	600798	0:57:53.3		2013-11-17 17:03:49	Complete Verify Plus	Completed	✓
64	700632			2013-11-17 17:04:34	Standard Verify	Completed	✓
211	700768				Complete Verify Plus	Pending	
63	700768			2013-11-17 17:05:18	Standard Verify	Completed	✓

「Resubmit Media」ダイアログボックスが表示されます。



4. 「**Validation test to run**」メニューで、実行する検証テストのタイプを選択します。デフォルトでは、このフィールドは「Basic Verify」に設定されていますが、このメディアに適した任意の検証テストを選択できます。オプションの詳細については、「[検証テストの種類](#)」を参照してください。

「**Complete Verify**」または「**Complete Verify Plus**」を選択した場合、次のオプションのいずれかを選択することも必要な場合があります。これらのオプションを使用できるのは、T10000T2 メディア上で「Complete Verify」または「Complete Verify Plus」検証を実行していて、メディアに対する直前の検証が完了前に中断された場合だけです。

- 「**Perform validations from beginning of tape**」 – T10000T2 メディアをテープの先頭 (BOT) から検証することを示します。
- 「**Continue validations from last known validated data point**」 – 部分的に検証された T10000T2 メディアを、以前に検証が中断された位置から再開してテストすることを示します (ドライブがメディアの RFID チップからその位置を特定できる場合)。ドライ



ブが以前の検証が中断された位置を特定できない場合は、テープの先頭から開始します。

これらのオプションの詳細は、「[T10000T2 メディア上で中断された「Complete Verify」テストを再開する](#)」を参照してください。

5. 「**Drive**」メニューで、検証に使用するドライブを選択します。メニューには、選択したメディアが現在存在するコンプレックスまたはスタンドアロンライブラリ内の検証ドライブがリスト表示されます。

**注:**

選択したドライブがメディアと互換性がない場合 (たとえば、「Complete Verify Plus」の実行を選択したが、メディアは暗号化されており、ドライブは暗号化に対応していない場合)、検証リクエストはリクエストキューに追加されますが、保留中の状態にとどまります。

このため、STA がメディアと互換性のある検証ドライブを自動的に選択する「Autoselect」を選択することが推奨されています。

6. 「**OK**」をクリックします。



リクエストが生成されて、検証リクエストキューに追加されます。デフォルトでは、これは次に使用可能な Priority Order に割り当てられます。リクエストを再優先順位付けする手順については、「[保留中のメディア検証リクエストの再順序付け](#)」を参照してください。

Priority Order	Volume Serial Number	Elapsed Time	Estimated Time Remaining	Exchange Start	Validation Test Type	Request State	Validation Result
65	600798	0:57:53.3		2013-11-17 17:03:49	Complete Verify Plus	Completed	✓
208	700632				Verify and Rebuild MIR	Pending	
64	700632			2013-11-17 17:04:34	Standard Verify	Completed	✓
212	700768				Complete Verify Plus	Pending	
63	700768			2013-11-17 17:05:18	Standard Verify	Completed	✓

### 8.8.8. 保留中のメディア検証リクエストの再順序付け

この手順を使用して、メディア検証リクエストキュー内の保留中のリクエストを再優先順位付けします。詳細は、「[メディア検証リクエストの優先度](#)」を参照してください。

注:

STA でメディア検証が無効になっている場合でも、この手順を使用できます。たとえば、ライブラリを保守するためにメディア検証が無効にしてから、検証キュー内に残された保留中のリクエストを再優先順位付けすることで、メディア検証がふたたび有効になったときに異なる順序で処理されるようになります。

注:

この手順は、どのユーザーでも実行できます。

1. ナビゲーションバーから、「**Tape System Activity**」を選択して、「**Media Validation Overview**」を選択します。



「Media Validation Overview」画面が表示されます。

2. デフォルトでは、リクエストは昇順の Priority Order でソートされます。最近のリクエストを表示するには、画面の下部にスクロールします。保留中のリクエストに留意してください。

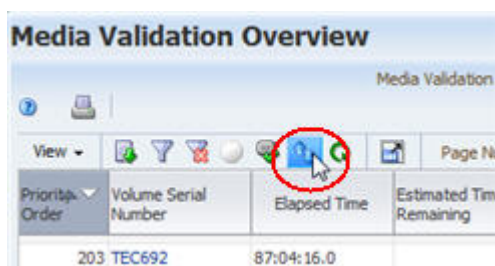
**Media Validation Overview** Templates: STA-Default

Media Validation Status: **Media Validation successfully enabled**

View Page Number: 1 of 1

Priority Order	Volume Serial Number	Elapsed Time	Estimated Time Remaining	Exchange Start	Validation Test Type	Request State	Val Res
203	TEC692	87:04:16.0		2013-11-15 18:54:25	Complete Verify	Completed	
204	RWC425	6:59:36.7		2013-11-15 18:05:25	Complete Verify Plus	Completed	
205	TEE152	5:37:50.3		2013-11-15 16:45:46	Complete Verify	Completed	
206	TEE267			2013-11-15 15:04:32	Basic Verify	Completed	
207	700828	1:28:07.4		2013-11-15 14:44:58	Complete Verify Plus	Completed	
208	TEE267				Complete Verify Plus	Pending	
209	700768				Complete Verify Plus	Pending	
211	700632				Verify and Rebuild MIR	Pending	
212	TEE268				Complete Verify Plus	Pending	
213	TEE151	0:16:29.3		2013-11-15 14:32:32	Standard Verify	Completed	
214	TEE151			2013-11-15 14:30:28	Complete Verify Plus	Completed	





3. テーブルツールバーの「Reorder Pending Requests」をクリックします。

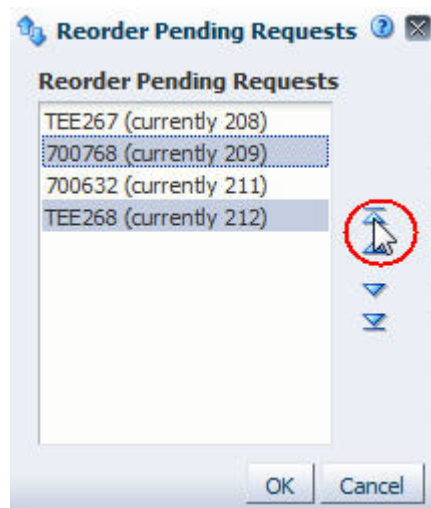


「Reorder Pending Requests」ダイアログボックスが表示され、現在の優先順位ですべての保留中のリクエストが示されます。リクエストは、メディアの Volume Serial Number および現在の Priority Order で識別されます。

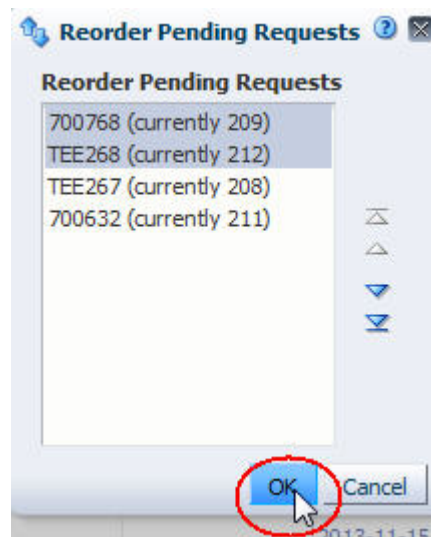


4. 再優先順位付けするリクエストを選択し、適切な矢印をクリックしてリスト内で移動します。このダイアログボックスでは、複数選択がサポートされています。

矢印	説明
 or 	選択した項目 (複数可) を 1 回につき 1 つ上または下に移動します。
 or 	選択した項目をリストの一番上または一番下に移動します。



5. リクエストが目的の順序になったら、「OK」をクリックします。



選択に従ってリクエストが再順序付けされ、「Media Validation Overview」画面の「Priority Order」値が更新されて新しい順序が反映されます。

**Media Validation Overview** Templates: STA-Default

Media Validation Status: **Media Validation successfully enabled**

View Page Number: 1 of 1

Priority Order	Volume Serial Number	Elapsed Time	Estimated Time Remaining	Exchange Start	Validation Test Type	Request State	Valid Res
203	TEC692	87:09:16.0		2013-11-15 18:54:25	Complete Verify	Completed	
204	RWC425	6:59:36.7		2013-11-15 18:05:25	Complete Verify Plus	Completed	
205	TEE152	5:37:50.3		2013-11-15 16:45:46	Complete Verify	Completed	
206	TEE267			2013-11-15 15:04:32	Basic Verify	Completed	
207	700828	1:28:07.4		2013-11-15 14:44:58	Complete Verify Plus	Completed	
208	700768				Complete Verify Plus	Pending	
209	TEE268				Complete Verify Plus	Pending	
211	TEE267				Complete Verify Plus	Pending	
212	700632				Verify and Rebuild MIR	Pending	
213	TEE151	0:16:29.3		2013-11-15 14:32:32	Standard Verify	Completed	
214	TEE151			2013-11-15 14:30:28	Complete Verify Plus	Completed	

### 8.8.9. 保留中のメディア検証リクエストの取り消し

この手順を使用して、1つ以上の保留中の検証リクエストを取り消します。取り消された保留中のリクエストは、すぐに検証リクエストキューから削除され、再送信することはできません。詳細は、「[保留中または進行中の検証リクエストを取り消す](#)」を参照してください。

注:

STA でメディア検証が無効になっている場合でも、この手順を使用できます。たとえば、ライブラリを保守するためにメディア検証を無効にして、検証キューに残された保留中のリクエストを取り消すことができます。

注:

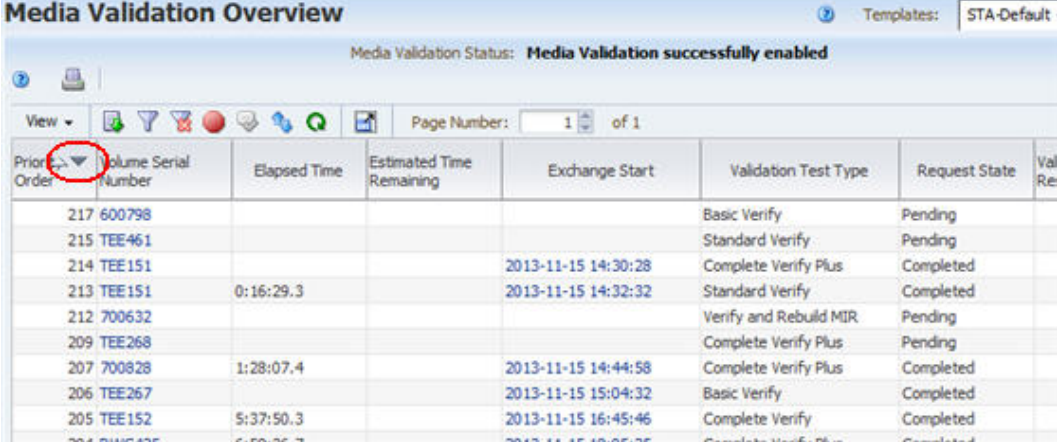
この手順は、どのユーザーでも実行できます。

1. ナビゲーションバーから、「**Tape System Activity**」を選択して、「**Media Validation Overview**」を選択します。



「Media Validation Overview」画面が表示されます。

- デフォルトでは、リクエストは昇順の Priority Order でソートされます。最近のリクエストを表示するには、「Priority Order」列の「Descending Sort」矢印を選択します。保留中のリクエストに留意してください。



Media Validation Overview

Media Validation Status: **Media Validation successfully enabled**

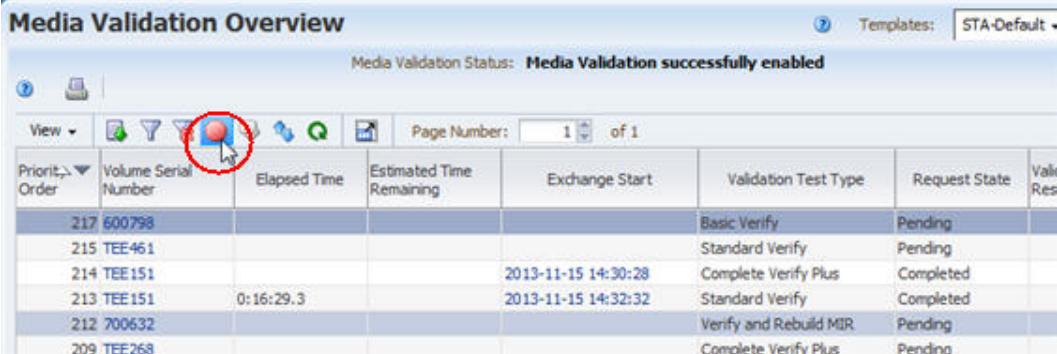
Page Number: 1 of 1

Priority Order	Volume Serial Number	Elapsed Time	Estimated Time Remaining	Exchange Start	Validation Test Type	Request State	Val Res
217	600798				Basic Verify	Pending	
215	TEE461				Standard Verify	Pending	
214	TEE151			2013-11-15 14:30:28	Complete Verify Plus	Completed	
213	TEE151	0:16:29.3		2013-11-15 14:32:32	Standard Verify	Completed	
212	700632				Verify and Rebuild MIR	Pending	
209	TEE268				Complete Verify Plus	Pending	
207	700828	1:28:07.4		2013-11-15 14:44:58	Complete Verify Plus	Completed	
206	TEE267			2013-11-15 15:04:32	Basic Verify	Completed	
205	TEE152	5:37:50.3		2013-11-15 16:45:46	Complete Verify	Completed	

- 取り消すリクエストを選択し、テーブルツールバーの「Cancel」をクリックします。任意の数の保留中リクエストを選択できます。

注:

完了した検証を選択した場合、「Cancel」ボタンはアクティブになりません。



Media Validation Overview

Media Validation Status: **Media Validation successfully enabled**

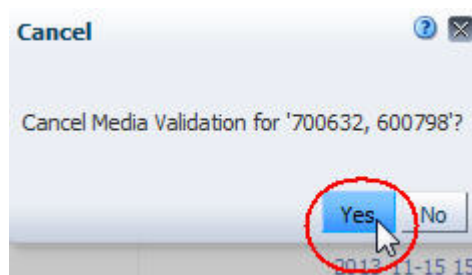
Page Number: 1 of 1

Priority Order	Volume Serial Number	Elapsed Time	Estimated Time Remaining	Exchange Start	Validation Test Type	Request State	Val Res
217	600798				Basic Verify	Pending	
215	TEE461				Standard Verify	Pending	
214	TEE151			2013-11-15 14:30:28	Complete Verify Plus	Completed	
213	TEE151	0:16:29.3		2013-11-15 14:32:32	Standard Verify	Completed	
212	700632				Verify and Rebuild MIR	Pending	
209	TEE268				Complete Verify Plus	Pending	

「Cancel」ダイアログボックスが表示され、選択したリクエストのボリュームシリアル番号がリスト表示されています。

- ボリュームシリアル番号のリストを確認し、「Yes」をクリックして取り消しを確定します。





リクエストが取り消され、「Media Validation Overview」画面から削除されます。

Priority Order	Volume Serial Number	Elapsed Time	Estimated Time Remaining	Exchange Start	Validation Test Type	Request State	Valic Res
215	TEE461				Standard Verify	Pending	
214	TEE151			2013-11-15 14:30:28	Complete Verify Plus	Completed	
213	TEE151	0:16:29.3		2013-11-15 14:32:32	Standard Verify	Completed	
209	TEE268				Complete Verify Plus	Pending	
207	700828	1:28:07.4		2013-11-15 14:44:58	Complete Verify Plus	Completed	
206	TEE267			2013-11-15 14:04:32	Basic Verify	Completed	

### 8.8.10. 進行中の「Complete Verify」検証の取り消し

この手順を使用して、進行中の「Complete Verify」または「Complete Verify Plus」メディア検証を1つ以上取り消します。進行中のほかの検証タイプを取り消すことはできません。詳細は、「[保留中または進行中の検証リクエストを取り消す](#)」を参照してください。

注:

STA でメディア検証が無効になっている場合でも、この手順を使用できます。たとえば、ライブラリを保守するためにメディア検証を無効にして、検証キューに残された進行中の「Complete Verify」リクエストを取り消すことができます。

注:

この手順は、どのユーザーでも実行できます。

1. ナビゲーションバーから、「Tape System Activity」を選択して、「Media Validation Overview」を選択します。



「Media Validation Overview」画面が表示されます。

- デフォルトでは、リクエストは昇順の Priority Order でソートされます。最近のリクエストを表示するには、「Priority Order」列の「**Descending Sort**」矢印を選択します。進行中の検証に留意してください。

Media Validation Overview

Media Validation Status: **Media Validation successfully enabled**

View Page Number: 1 of 1

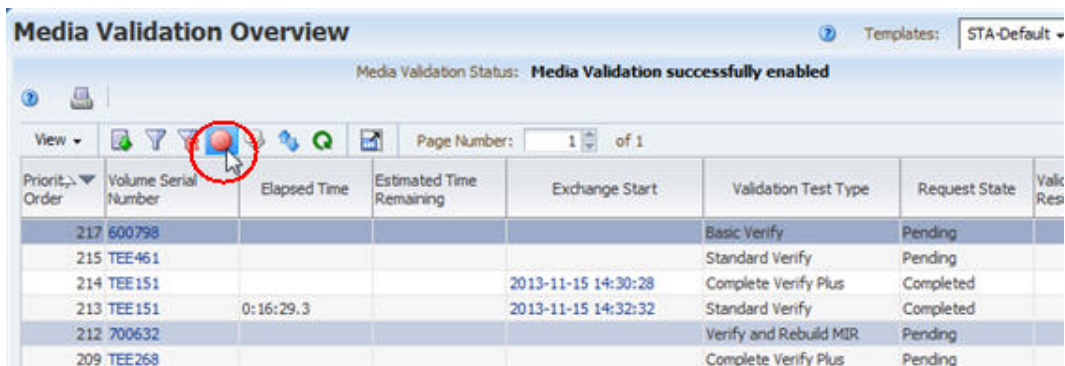
Priority Order	Volume Serial Number	Elapsed Time	Estimated Time Remaining	Exchange Start	Validation Test Type	Request State	Val Res
217	600798				Basic Verify	Pending	
215	TEE461				Standard Verify	Pending	
214	TEE151			2013-11-15 14:30:28	Complete Verify Plus	Completed	
213	TEE151	0:16:29.3		2013-11-15 14:32:32	Standard Verify	Completed	
212	700632				Verify and Rebuild MIR	Pending	
209	TEE268				Complete Verify Plus	Pending	
207	700828	1:28:07.4		2013-11-15 14:44:58	Complete Verify Plus	Completed	
206	TEE267			2013-11-15 15:04:32	Basic Verify	Completed	
205	TEE152	5:37:50.3		2013-11-15 16:45:46	Complete Verify	Completed	
204	700475	5:50:35.7		2013-11-15 18:05:25	Complete Verify Plus	Completed	

- 停止する検証を選択して、テーブルツールバーの「**Cancel**」をクリックします。進行中の「Complete Verify」または「Complete Verify Plus」検証を任意の数だけ選択できます。

注:

完了した検証を選択した場合、「**Cancel**」ボタンはアクティブになりません。





Media Validation Overview

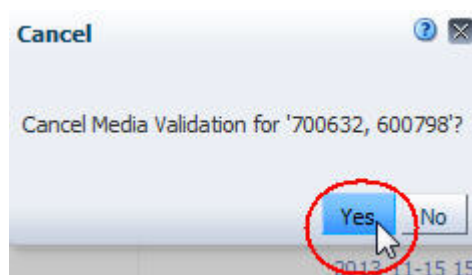
Media Validation Status: **Media Validation successfully enabled**

Page Number: 1 of 1

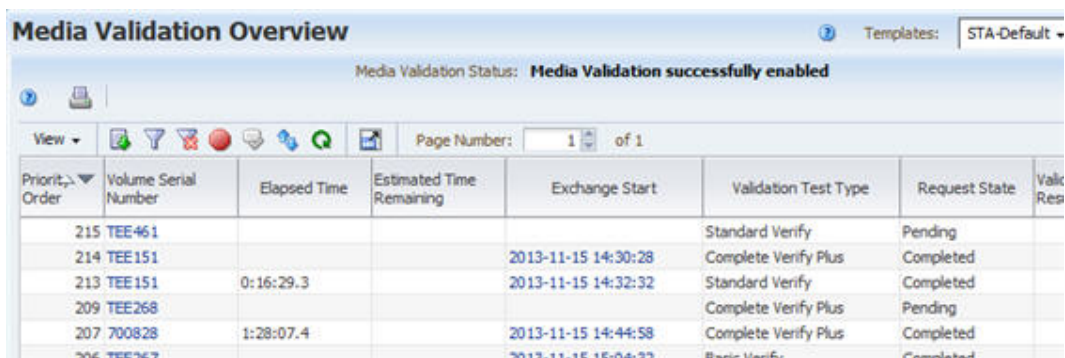
Priority Order	Volume Serial Number	Elapsed Time	Estimated Time Remaining	Exchange Start	Validation Test Type	Request State	Valid Res
217	600798				Basic Verify	Pending	
215	TEE461				Standard Verify	Pending	
214	TEE151			2013-11-15 14:30:28	Complete Verify Plus	Completed	
213	TEE151	0:16:29.3		2013-11-15 14:32:32	Standard Verify	Completed	
212	700632				Verify and Rebuild MIR	Pending	
209	TEE268				Complete Verify Plus	Pending	

「Cancel」ダイアログボックスが表示され、選択した検証のボリュームシリアル番号が表示されます。

- 表示された情報を確認し、「Yes」をクリックして取り消しを確定します。



STA が取り消しリクエストをドライブに発行します。このプロセスは、完了まで数分かかる場合があります。各メディアがドライブからマウント解除され、メディアスロットに戻されたら、関連する検証リクエストが「Media Validation Overview」画面から削除されます。



Media Validation Overview

Media Validation Status: **Media Validation successfully enabled**

Page Number: 1 of 1

Priority Order	Volume Serial Number	Elapsed Time	Estimated Time Remaining	Exchange Start	Validation Test Type	Request State	Valid Res
215	TEE461				Standard Verify	Pending	
214	TEE151			2013-11-15 14:30:28	Complete Verify Plus	Completed	
213	TEE151	0:16:29.3		2013-11-15 14:32:32	Standard Verify	Completed	
209	TEE268				Complete Verify Plus	Pending	
207	700828	1:28:07.4		2013-11-15 14:44:58	Complete Verify Plus	Completed	
206	TEF267			2013-11-15 15:04:32	Basic Verify	Completed	

### 8.8.11. メディア検証ポリシーの作成

この手順を使用して、メディア検証ポリシーを作成します。メディア検証ポリシーを使用すると、テープライブラリシステム内のメディア検証を自動化できます。詳細は、「[自動メディア検証の使用](#)」を参照してください。

「Media Validation Policies」ウィザードを使用すると、ポリシーに関するすべての情報を段階を追って定義できます。

注:

この手順では、管理者権限が必要です。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Media Validation**」を選択します。



「Media Validation Policies」画面が表示されます。

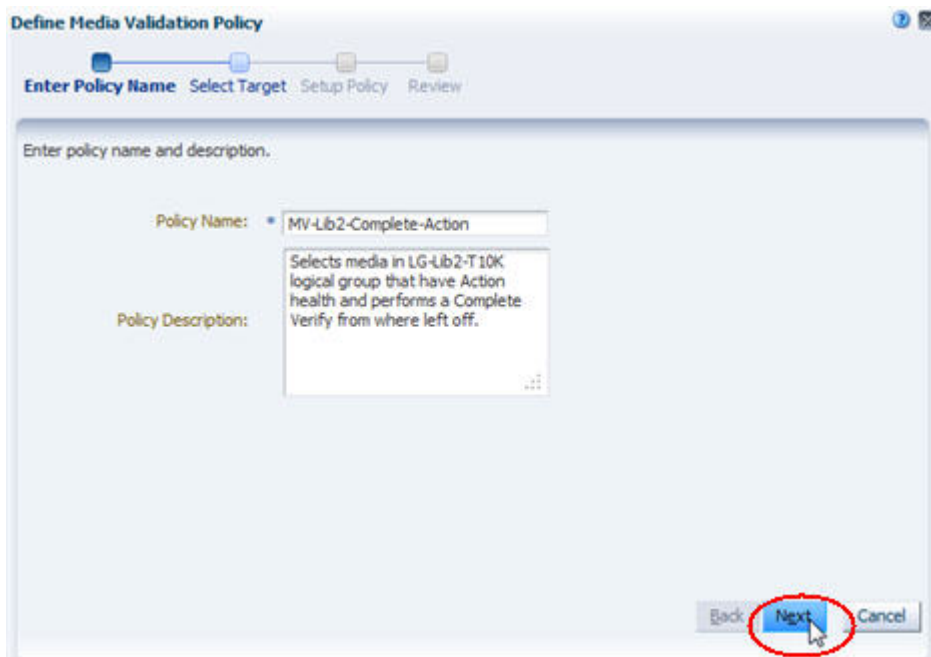
2. 「**New Media Validation Policy**」をクリックします。



「Media Validation Policies」ウィザードが表示されます。

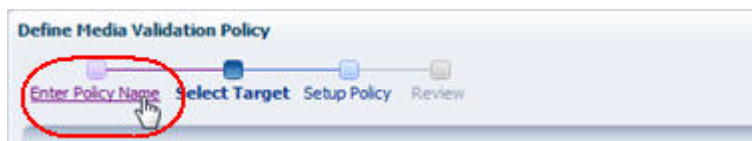
3. 次のようにウィザードの最初の画面に入力します。
  - a. 「**Policy Name**」フィールドに、一意の名前を入力します。

入力には、長さ 250 文字までの英数字を含めることができます。
  - b. 「**Policy Description**」フィールドに、ポリシーのオプションの説明を入力します。
  - c. 「**Next**」をクリックします。



注:

ウィザードの任意の画面で、画面上部にあるブレットक्रमリンクを選択して、すぐ次の画面や、すでに表示した画面に直接移動できます。



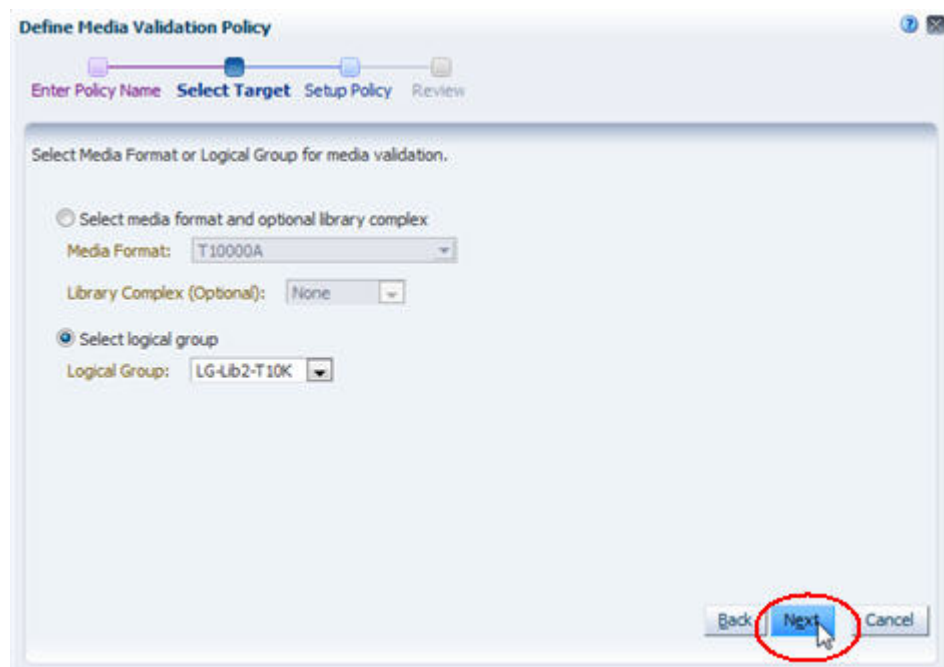
4. ウィザードの 2 番目の画面で、次のようにして、このポリシーで検証するメディアグループを指定します。
  - このポリシーで、特定の記録フォーマットの (オプションで特定のライブラリコンプレックス内の) メディアを検証する場合は、「**Select media format and optional library complex**」オプションを選択し、次の方法で関連するフィールドを指定します。
    - 「**Media Format**」メニューで、このポリシーで検証するメディアの記録フォーマットを選択します。任意の数のフォーマットを選択できます。オプションは、T10000T1 メディアで使用可能な「T10000A」と「T10000B」、および T10000T2 メディアで使用可能な「T10000C」と「T10000D」です。
    - 「**Library Complex (Optional)**」メニューで、このポリシーで検証するライブラリコンプレックスを選択します。「None」を選択した場合、ポリシーはすべてのコンプレックスで指定されたメディアタイプを検証します。ライブラリコンプレックスを選択した場合、ポリシーはそのコンプレックス内部のメディアだけを検証します。

- このポリシーで特定の定義済み論理グループ内のメディアを検証する場合は、「**Select logical group**」オプションを選択します。「**Logical Group**」メニューで、論理グループを選択します。メニューに、定義されたすべての論理グループがリスト表示されます。

注:

検証ドライブのある SL8500 コンプレックスまたはスタンドアロンライブラリ内に T10000 メディアを含む論理グループを選択してください (STA ではこれは確認されないため)。

- 「**Next**」をクリックします。



- 次の方法で、ウィザードの 3 番目の画面を完了します。
  - 「**Policy Criteria**」メニューで、検証用メディアを選択する条件を選択します。オプションの説明については、「[検証ポリシーの選択条件](#)」を参照してください。

選択によっては、次に示す追加フィールドを指定する必要があります。

- 「Media Health = Action, Evaluate, or Monitor」を選択した場合は、メディアを検証用を選択する前に発生する必要がある、連続した「**Number of exchanges**」も指定する必要があります。オプションは 1–5 です。たとえば、「2」を指定した場合、指定されたメディアの健全性の連続した交換が 2 回発生するとすぐに、メディアが検証用を選択されます。
- 「Extended period of non-use」を選択した場合、「**Number of days**」も指定する必要があります。オプションは、365 – 1095 (1 - 3 年) です。たとえば、「730」を指定し

た場合、前回の交換から 730 日以上が経過すると、メディアが検証用に選択されます。

- b. 「**Validation Test Type**」メニューで、ドライブで実行する検証テストのタイプを選択します。オプションの説明については、「[検証テストの種類](#)」を参照してください。

「**Complete Verify**」または「**Complete Verify Plus**」を選択した場合は、次のオプションのいずれかも選択する必要があります。

---

注:

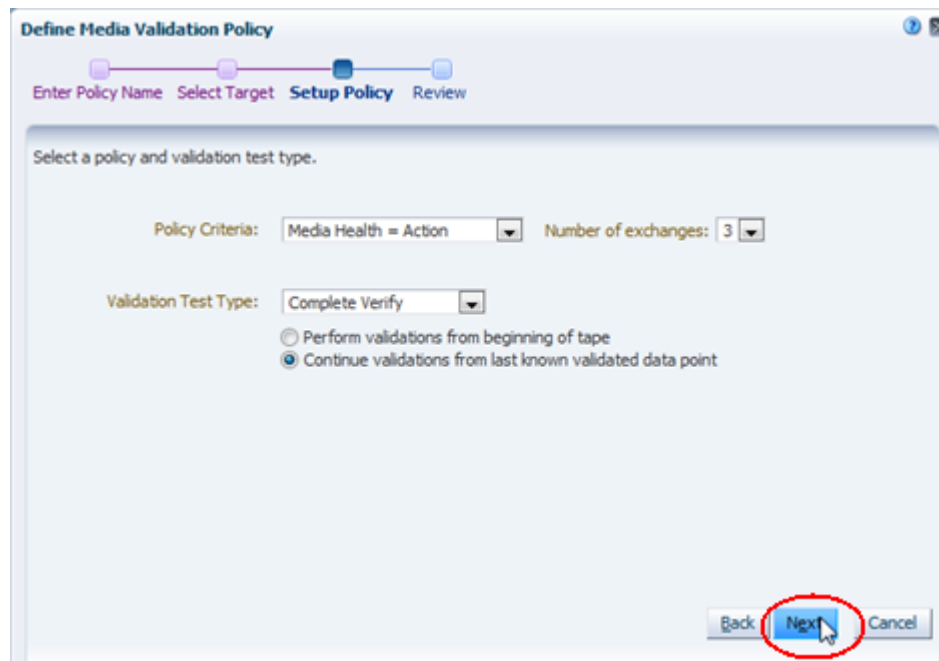
これらのオプションは、T10000T2 メディアにのみ適用されます。T10000T1 メディアの検証は、常にテープの先頭 (BOT) から始める必要があります。

---

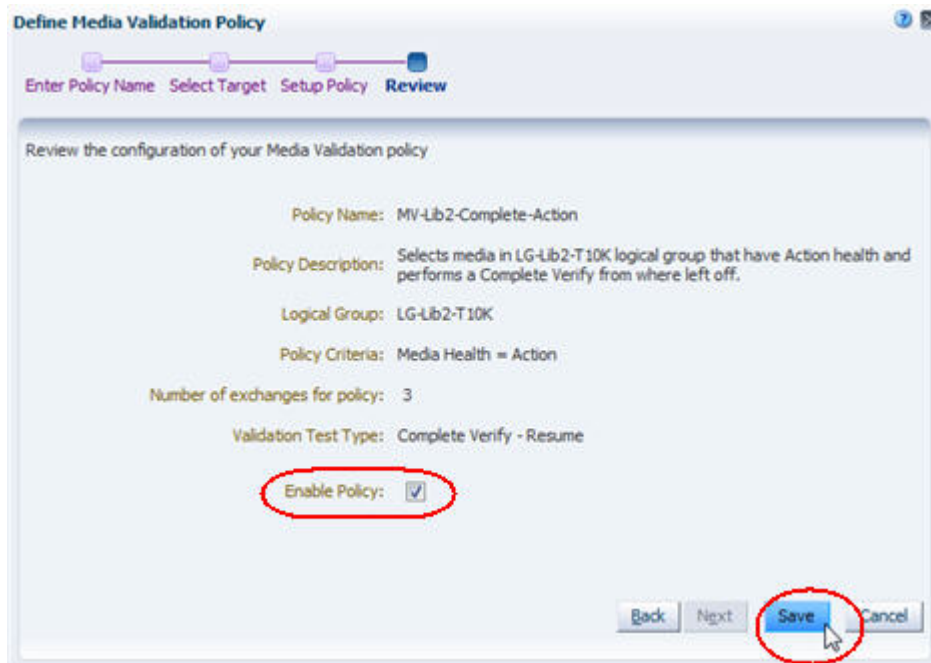
- 「**Perform validations from beginning of tape**」 – メディアが部分的に検証済みである場合でも、すべての T10000T2 メディアをテープの先頭 (BOT) からテストすることを示します。
- 「**Continue validations from last known validated data point**」 – 部分的に検証された T10000T2 メディアを、以前に検証が中断された位置から再開してテストすることを示します (ドライブがメディアの RFID チップからその位置を特定できる場合)。ドライブが以前の検証が中断された位置を特定できない場合は、テープの先頭 (BOT) から開始します。

これらのオプションの詳細は、「[T10000T2 メディア上で中断された「Complete Verify」テストを再開する](#)」を参照してください。

- c. 「**Next**」をクリックします。



7. 次のようにウィザードの最後の画面に入力します。
  - a. すべてのポリシー情報が正しいことを確認します。
  - b. 次の方法で、「**Enable Policy**」チェックボックスを指定します。
    - チェックボックスを選択すると、ポリシーを作成してただちに有効化します。
    - ポリシーを作成するが、とりあえず無効にしておく場合に、このチェックボックスを選択します。あとで有効にできます。手順については、「[メディア検証ポリシーの有効化または無効化](#)」を参照してください。
  - c. 「**Save**」をクリックします。



ポリシーが作成されます。このポリシーが有効な場合、STA はすぐにポリシーに基づいてメディアの評価を開始し、必要に応じてメディア検証リクエストを生成します。

ポリシーが無効になっている場合、現在のところポリシーは評価されません。

### 8.8.12. メディア検証ポリシーのリストを表示する

この手順を使用して、すべての STA メディア検証ポリシーの情報を表示します。

**注:**

これらの手順では、オペレータまたは管理者の権限が必要です。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Media Validation**」を選択します。





「Media Validation Policies」画面が表示されます。定義されたポリシーが、「Media Validation Policies」セクションにリスト表示されます。

**Media Validation**  
Media Validation Configuration ⓘ

Media Validation State:  Enabled  Disabled      Status: **Media Validation successfully enabled**

Number of drives reserved for Media Validation: **9**

Use media from the following manual logical group for Calibration: **None (Opt-out of Calibration; not recommended)** [Save]

**Media Validation Policies** ⓘ

Policy Name	Policy Enabled?	Media Format	Logical Group	Library Complex	Policy Criteria	Validation Test Type
STA-T10000A action	No	T10000a			Media Health = Action	Standard Verify
STA-T10000A newly entered	No	T10000a			Newly Entered	Basic Verify
STA-T10000A non-used	No	T10000a			Extended period of non-use	Basic Verify
STA-T10000A random sample	No	T10000a			Random Selection	Basic Verify
STA-T10000C/D MIR corrupt	No	T10000c T10000d			Bad MIR detected	Verify and Rebuild MIR

2. この画面から、次のいずれかのタスクを実行して検証ポリシーを管理できます。

- 「メディア検証ポリシーの有効化または無効化」
- 「メディア検証ポリシーのコピー」
- 「メディア検証ポリシーを変更する」
- 「メディア検証ポリシーの削除」

また、「List View」テーブルで実行できるタスクとほぼ同じことを実行できます。手順については、次の手順を参照してください。

- テーブルの出力可能なフォームをブラウザの別個のタブまたはウィンドウに表示するには、『STA 画面基本ガイド』を参照してください。



- メディア検証ポリシーのリストをエクスポートするには、『STA 画面基本ガイド』を参照してください。
- 表レコードをフィルタするには、「[Filter Data](#)」ダイアログボックスを使用した[テーブルフィルタの変更](#)を参照してください。
- 表に適用されたフィルタをリセットするには、「[現在のフィルタのクリア](#)」を参照してください。
- テーブルをリフレッシュして新しいポリシーを表示するには、『STA 画面基本ガイド』を参照してください。
- テーブルを画面から切り離して、ブラウザフォアグラウンド内の別個のウィンドウに表示するには、『STA 画面基本ガイド』を参照してください。

### 8.8.13. メディア検証ポリシーの有効化または無効化

この手順を使用して、選択したメディア検証ポリシーを有効または無効にします。STA は、有効なポリシーだけを使用して自動化されたメディア検証リクエストを生成します。詳細は、「[自動メディア検証の使用](#)」を参照してください。

ポリシーを無効にしても、そのポリシーから生成された保留中または進行中のメディア検証リクエストに影響はありません。これらは、取り消さないかぎり、完了するまで処理されます。

注:

この手順では、管理者権限が必要です。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Media Validation**」を選択します。

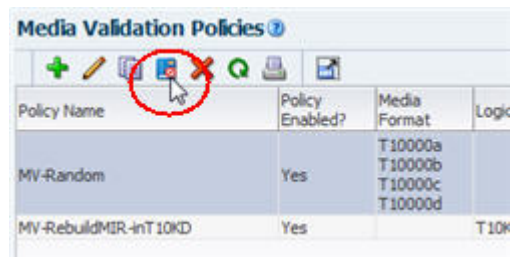


「Media Validation Policies」画面が表示されます。

- 変更するポリシーを選択します。

ポリシーが現在有効である場合、「Media Validation Policies」ツールバーの「**Disable Media Validation Policy**」アイコンがアクティブになります。ポリシーが現在有効でない場合、「**Enable Media Validation Policy**」アイコンがアクティブになります。

- 「**Enable Media Validation Policy**」または「**Disable Media Validation Policy**」のうち、適用されるものをクリックします。



ポリシーは、選択内容に応じて更新されます。

- このポリシーを有効にしている場合、STA はすぐにポリシー条件に基づいてメディアの評価を開始し、必要に応じてメディア検証リクエストを生成します。
- このポリシーを無効にしている場合、STA はポリシーのメディア検証リクエストを生成しなくなります。保留中または進行中のメディア検証リクエストは、取り消さないかぎり、完了するまで処理されます。詳細は、「[保留中または進行中の検証リクエストを取り消す](#)」を参照してください。

#### 8.8.14. メディア検証ポリシーのコピー

この手順を使用して、選択したメディア検証ポリシーをコピーします。ポリシーを新しいポリシーのベースとして使用するには、作成したいポリシーに近い既存のポリシーをコピーして、コピーを変更できます。手順については、「[メディア検証ポリシーを変更する](#)」を参照してください。

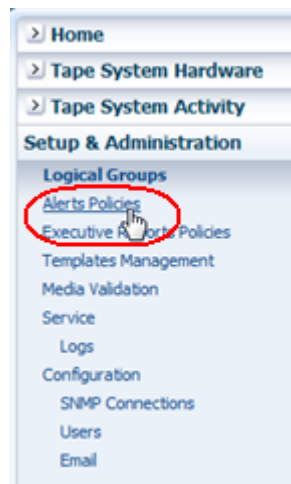
---

注:

この手順では、管理者権限が必要です。

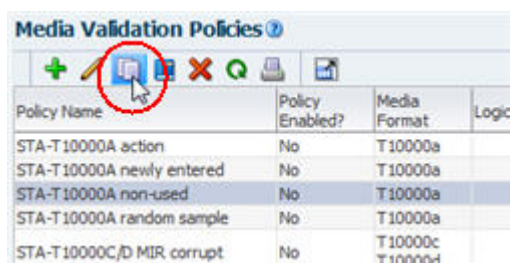
---

- ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Media Validation**」を選択します。



「Media Validation」画面が表示されます。

2. コピーするメディア検証ポリシーを選択して、「Copy Media Validation Policy」をクリックします。



「Media Validation Policies」ウィザードの最初の画面が表示されます。ポリシーのコピーには、次の点を除きオリジナルと同じすべての情報が含まれています。

- 「Copy」という単語が「Policy Name」の最後に追加されます。
- ポリシーが有効になっています（「Enable Validation Policy」チェックボックスが選択されています）。

3. 「Policy Name」フィールドに割り当てる名前を入力し、必要に応じて「Policy Description」を変更します。
4. 「Next」ボタン、またはダイアログボックスの上部にあるウィザードのブレッドグラムを使用して、変更する情報がある画面に移動します。これらの画面の指定手順については、「[メディア検証ポリシーの作成](#)」を参照してください。
5. 完了したら、「Save」をクリックします。

新しいポリシーが作成され、その情報で「Media Validation Policies」画面が更新されます。

次の例では、「STA-T10000B non-used」ポリシーが「STA-T10000A non-used」ポリシーからコピーされ、ポリシー条件が T10000B メディアに合わせて変更されています。

Policy Name	Policy Enabled?	Media Format	Logical Group	Library Complex	Policy Criteria	Va
STA-T10000A action	No	T10000a			Media Health = Action	Sti
STA-T10000A newly entered	No	T10000a			Newly Entered	Ba
STA-T10000A non-used	No	T10000a			Extended period of non-use	Ba
STA-T10000A random sample	No	T10000a			Random Selection	Ba
STA-T10000B non-used	Yes	T10000b			Extended period of non-use	Ba
STA-T10000C/D MIR corrupt	No	T10000c			Bad MIR detected	Ve

## 8.8.15. メディア検証ポリシーを変更する

この手順を使用して、選択したメディア検証ポリシーを変更します。ポリシーの任意の属性を変更できます。

注:

ポリシーを有効または無効にするより直接的な手法については、「[メディア検証ポリシーの有効化または無効化](#)」を参照してください。

注:

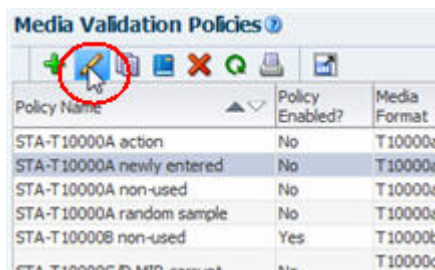
この手順では、管理者権限が必要です。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Media Validation**」を選択します。



「Media Validation Overview」画面が表示されます。

2. 変更するメディア検証ポリシーを選択して、「**Edit Media Validation Policy**」をクリックします。



「Media Validation Policies」ウィザードの最初の画面が表示され、ポリシーの現在の情報が示されます。



3. 「**Next**」ボタン、またはダイアログボックスの上部にあるウィザードのブレッドクラムを使用して、変更する情報がある画面に移動します。これらの画面の指定手順については、「[メディア検証ポリシーの作成](#)」を参照してください。
4. 完了したら、「**Save**」をクリックします。

ポリシーが更新され、変更が「Media Validation Policies」画面に表示されます。

### 8.8.16. メディア検証ポリシーの削除

この手順を使用して、メディア検証ポリシーを削除します。ポリシーを削除しても、そのポリシーから生成済みのメディア検証リクエストは削除されません。これらは、引き続き「Media Validation Overview」画面に表示できます。ポリシーから生成された保留中および進行中のリクエストは、完了するまで処理されます。

メディア検証ポリシーを削除する前に無効にする必要はありません。

---

**注:**

この手順では、管理者権限が必要です。

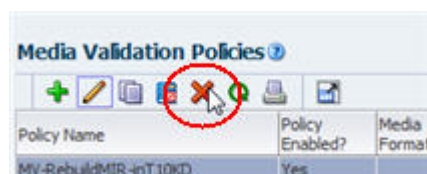
---

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Media Validation**」を選択します。



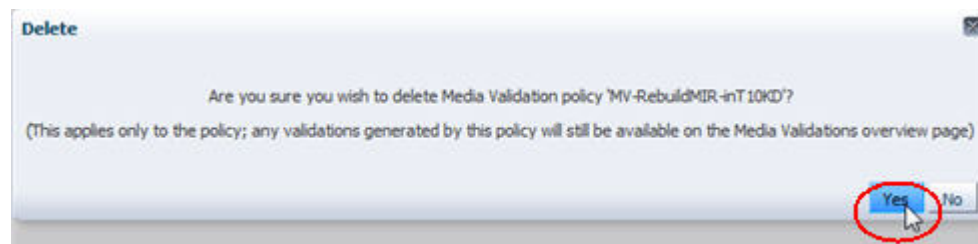
「Media Validation Policies」画面が表示されます。

2. 削除するメディア検証ポリシーを選択して、「Delete Media Validation Policy」をクリックします。



「Delete」ダイアログボックスが表示されます。

3. 選択を確認して、「Yes」をクリックして削除を確認します。



ポリシーが削除され、「Media Validation Policies」画面のリストが更新されます。

---



---

---

## STA ユーザー名と電子メール

この章では、STA ユーザー名を作成して管理する方法、および STA アラートとエグゼクティブレポートで使用できる電子メール受信者の定義方法について説明します。

この章の内容は次のとおりです。

- [STA ユーザー名](#)
- [STA ユーザー管理タスク](#)
- [電子メール構成タスク](#)

### 9.1. STA ユーザー名

プライマリ STA 管理者のユーザー名は、STA のインストール時に作成されています。STA 画面を使用していつでも、任意の数の STA ユーザー名を作成して管理できます。各 STA ユーザー名は一意で、1つのパスワードと1つの割り当て済みユーザー役割が指定されている必要があります。

#### 9.1.1. STA ユーザー名とパスワードの要件

STA ユーザー名の要件は次のとおりです。

- 1–16 文字の長さにする必要があります
- すべてのユーザー名が一意である必要があります

パスワード要件は次のとおりです。

- 8–31 文字の長さにする必要があります
- 少なくとも1つの数字および1つの大文字を含める必要があります
- 空白文字を含めてはいけません
- 次に示す特殊文字を含めないでください。

& ' ( ) < > ? { } \* / ' "

### 9.1.2. STA ユーザー役割

各 STA ユーザー名には、3 つの定義済みユーザー役割のいずれかを割り当てる必要があります。各役割には 1 セットの権限が付属しており、この権限によりその STA ユーザー名で利用できる画面とアクティビティーが決定されます。権限は定義済みで、変更はできません。ビューア役割では最低限の権限が付与され、管理者役割では最大限の権限が付与されます。

ユーザーの役割と権限の概要を下に示します。詳細は、[表9.1「画面別に編成したユーザー役割の権限」](#)に示されています。

#### ビューア

ビューアは、ナビゲーションバーの「**Home**」、「**Tape System Hardware**」、および「**Tape System Activity**」の各タブで画面を表示する権限を持っています。

ビューアは、現在のログインセッションの画面の外観のみの変更、画面のフィルタ、およびより高い権限を持つユーザーが作成したテンプレートの適用を行うことができます。また、より高い権限を持つユーザーが作成したエグゼクティブレポートをダウンロードすることもできます。

ビューアは、ナビゲーションバーの「**Setup & Administration**」タブにはアクセスできません。

#### オペレータ

オペレータは、ビューアが利用できるすべての権限に加えて、画面テンプレートの保存と管理、およびエグゼクティブレポートの実行を行うことができます。

オペレータは、ナビゲーションバーの「**Setup & Administration**」タブのすべての画面を表示して、管理者ユーザーが定義した STA ポリシーと構成設定を表示できます。ただし、ポリシーを作成したり、STA 構成タスクを実行したりすることはできません。

#### 管理者

管理者は、すべての STA 画面に完全にアクセスする権限を持っています。管理者は、オペレータが利用できるすべての権限に加えて、STA ポリシーの作成、構成設定の定義、および STA ユーザー名の作成を行うことができます。

表9.1 画面別に編成したユーザー役割の権限

タブ	画面	アクティビティー	ビューア	オペレータ	管理者
–	「Preferences」メニュー	STA ユーザー名の設定を構成します。 STA ユーザー名のパスワードを変更します。	X	X	X
–	テンプレートツールバー	テンプレートを現在の画面に適用します。	X	X	X

タブ	画面	アクティビティ	ビュー ア	オペ レータ	管理者
		現在のテンプレートを、STA ユーザー名の画面のデフォルトとして設定します。			
-	テンプレート ツールバー	テンプレートを作成します。  カスタムテンプレートの外観を変更します。  テンプレートを新しい名前で作成します。  STA ユーザー名の所有するカスタムテンプレートのパブリックまたはプライベート可視性設定を変更します。		X	X
Home	Dashboard	「Dashboard」ポートレットの追加と変更のみで、このセッションの画面表示を変更します。	X	X	X
Home	Quick Links	STA ユーザー名で使用可能なすべてのテンプレートのリストを表示します。  選択したテンプレートが適用された画面に移動します。	X	X	X
Home	エグゼクティブ レポート	自動またはオンデマンドで実行したパブリックレポートファイルのリストを表示します。  レポートファイルをエクスポートおよび表示します。	X	X	X
Home	エグゼクティブ レポート	パブリックレポートファイルを削除します。		X	X
Tape System Hardware	すべて	グラフとテーブル属性の追加と変更のみで、このセッションの画面表示を変更します。	X	X	X
Tape System Hardware	Drives – Overview	メディア検証ドライブプールに割り当てられているドライブを表示します。	X	X	X
Tape System Hardware	Drives – Overview	選択したドライブを手動論理グループに追加します。  選択したドライブの論理グループ割り当てを表示します。		X	X
Tape System Hardware	Media – Overview	選択したメディアを手動論理グループに追加します。		X	X

タブ	画面	アクティビティ	ビュー ア	オペ レータ	管理者
		<p>選択したメディアの論理グループ割り当てを表示します。</p> <p>手動メディア検証リクエストを送信します。</p> <p>中断された T1000T2 メディアの検証を再開します。</p>			
Tape System Activity	すべて	グラフとテーブル属性の追加と変更のみで、このセッションの画面表示を変更します。	X	X	X
Tape System Activity	Alerts Overview	<p>生成されるすべてのアラートのリストを表示します。</p> <p>アラートのリストをスプレッドシートまたはドキュメントにエクスポートします。</p> <p>アラートの詳細を表示します。</p> <p>アラートの状態を変更します。</p> <p>消去したアラートを表示するか非表示にします。</p>	X	X	X
Tape System Activity	Alerts Overview	アラートに注釈を付けます。		X	X
Tape System Activity	Media Validation Overview	<p>手動メディア検証リクエストを 1 回につき 1 つ送信します。</p> <p>保留中のメディア検証リクエストを並べ替えます。</p> <p>選択した保留中または進行中のメディア検証リクエストを取り消します。</p> <p>T1000T2 メディアの中断した検証を再開します。</p>	X	X	X
Tape System Activity	All Messages – Overview	<p>STA が受信したすべての SNMP トラップのリストを表示します。</p> <p>選択した SNMP トラップをスプレッドシートまたはドキュメントにエクスポートします。</p> <p>選択した SNMP トラップの詳細を表示します。</p>	X	X	X

タブ	画面	アクティビティ	ビュー ア	オペ レータ	管理者
Setup & Administration	Logical Groups	<p>手動または動的論理グループを作成します。</p> <p>論理グループに割り当てられているすべてのドライブとメディアを一覧表示します。</p> <p>手動論理グループからドライブとメディアを追加および削除します。</p> <p>動的論理グループの選択条件を変更します。</p> <p>動的論理グループを強制的に更新します。</p> <p>論理グループの名前を変更します。</p> <p>論理グループを削除します。</p>		X	X
Setup & Administration	Alerts Policies	定義済みのアラートポリシーのリストを表示します。		X	X
Setup & Administration	Alerts Policies	<p>アラートポリシーを定義、コピー、名前変更、および削除します。</p> <p>選択したポリシーの条件を変更します。</p> <p>ポリシーの電子メール受信者のリストを変更します。</p> <p>アラートポリシーを有効または無効にします。</p>			X
Setup & Administration	Executive Reports Policies	<p>パブリックのエグゼクティブレポートポリシーのリストを表示します。</p> <p>パブリックレポートをオンデマンドで実行します。</p>		X	X
Setup & Administration	Executive Reports Policies	<p>STA ユーザー名によって作成されたパブリックレポートポリシーまたはプライベートポリシーを作成、変更、および削除します。</p> <p>STA ユーザー名によって作成されたパブリックポリシーおよびプライベートポリシーのリストを表示します。</p> <p>レポートの通常スケジュールを定義します。</p>			X

タブ	画面	アクティビティー	ビュー ア	オペ レータ	管理者
		<p>パブリックまたはプライベート所有権をポリシーに割り当てます。</p> <p>レポートファイルを受信する電子メールアドレスを指定します。</p> <p>レポートの基になる「Dashboard」テンプレートを変更します。</p>			
Setup & Administration	Templates Management	<p>STA ユーザー名で使用可能なすべてのテンプレートのリストを表示します。</p> <p>STA ユーザー名のデフォルト画面テンプレートを変更します。</p> <p>カスタムテンプレートの名前を変更します。</p> <p>STA ユーザー名の所有するテンプレートのパブリックまたはプライベート可視性設定を変更します。</p> <p>カスタムテンプレートをエクスポートします。</p> <p>テンプレートをインポートします。</p> <p>テンプレートを削除します。</p> <p>STA の定義済みテンプレートを復元します。</p>	X		X
Setup & Administration	Media Validation	<p>メディア検証構成設定を表示します。</p> <p>メディア検証ドライブプール内のドライブを表示します。</p> <p>メディア検証ポリシーのリストを表示します。</p>	X		X
Setup & Administration	Media Validation	<p>STA 上でのメディア検証を有効または無効にします。</p> <p>ドライブのキャリブレーションを有効または無効にします。</p>			X

タブ	画面	アクティビティ	ビュー ア	オペ レータ	管理者
		<p>メディア検証ポリシーを定義、コピー、名前変更、および削除します。</p> <p>メディア検証ポリシーの条件を変更します。</p> <p>メディア検証ポリシーを有効または無効にします。</p>			
Setup & Administration	Service – Logs	<p>使用できるサービスログバンドルのリストを表示します。</p> <p>ログバンドルを作成します。</p> <p>ログバンドルの実行情報を表示します。</p> <p>ログバンドルをローカルコンピュータにダウンロードします。</p> <p>ログバンドルを削除します。</p>	X		X
Setup & Administration	Configuration – SNMP Connections	<p>STA の SNMP クライアント設定を表示します。</p> <p>すべてのモニター対象ライブラリの SNMP 接続設定を表示します。</p> <p>すべてのモニター対象ライブラリの SNMP 接続設定をテキストファイルにエクスポートします。</p>	X		X
Setup & Administration	Configuration – SNMP Connections	<p>STA の SNMP クライアント設定を構成します。</p> <p>ライブラリへの SNMP 接続を構成します。</p> <p>ライブラリへの SNMP 接続をテストします。</p> <p>モニター対象ライブラリの手動データ収集を実行します。</p> <p>STA からライブラリへの接続を削除します。</p>			X
Setup & Administration	Configuration – Users	すべての STA ユーザー名とその役割のリストを表示します。	X		X
Setup & Administration	Configuration – Users	<p>STA ユーザー名を作成および変更します。</p> <p>STA ユーザー名のパスワードを変更します。</p>			X

タブ	画面	アクティビティー	ビュー ア	オペ レータ	管理者
		STA ユーザー一名を削除します。			
Setup & Administration	Configuration – Email	STA の SMTP サーバーの構成設定を表示しま す。  有効なすべての電子メール受信者とその位置情 報のリストを表示します。	X		X
Setup & Administration	Configuration – Email	STA SMTP サーバーを構成します。  有効な電子メール受信者を構成します。  テスト電子メールを有効な受信者に送信します。  有効な電子メール受信者を削除します。			X

## 9.2. STA ユーザー管理タスク

次に示す手順を使用すると、STA ユーザーインターフェース経由で STA ユーザー一名を管理できます。

Open LDAP または IBM RACF ユーザー認証を構成する必要がある場合は、『*STA インストールおよび構成ガイド*』で説明されているアクセス制御サービスプロバイダの構成手順を参照してください。

注:

このセクションのすべてのタスクには、管理者権限が必要です。

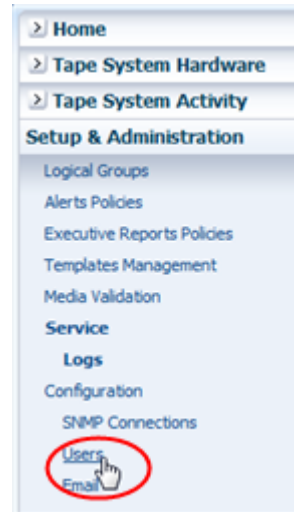
- [「STA ユーザー名の追加」](#)
- [「STA ユーザー名の変更」](#)
- [「STA ユーザー名の削除」](#)

### 9.2.1. STA ユーザー名の追加

この手順を使用して、新しい STA ユーザー一名を追加します。

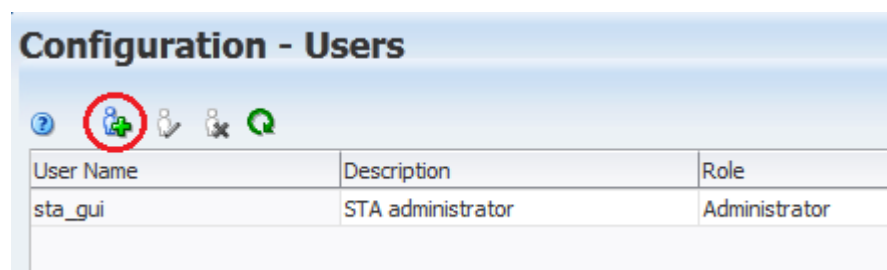
1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Users**」を選択します。





「Configuration – Users」画面が表示されます。

2. 「**Create New User**」アイコンをクリックします。



「User Configuration」ダイアログボックスが表示されます。

3. 次のようにダイアログボックスの操作を完了します。
  - 「*User Name*」: ユーザーの名前を入力します。
  - 「*Description*」: 必要に応じて、新しいユーザーの説明を入力します。
  - 「*Role*」: メニューで、「Administrator」、「Operator」、または「Viewer」を選択します。
  - 「*Enter Password*」: 新しいユーザーのログインパスワードを入力します。これは、少なくとも長さ 8 文字で、文字と数字の混合を含める必要があります。
  - 「*Verify Password*」: パスワードを再入力します。
4. 「**Save**」をクリックします。

ユーザー名が追加され、「Configuration – Users」テーブルが更新されます。

### 9.2.2. STA ユーザー名の変更

この手順を使用して、既存の STA ユーザー名のプロパティを変更します。

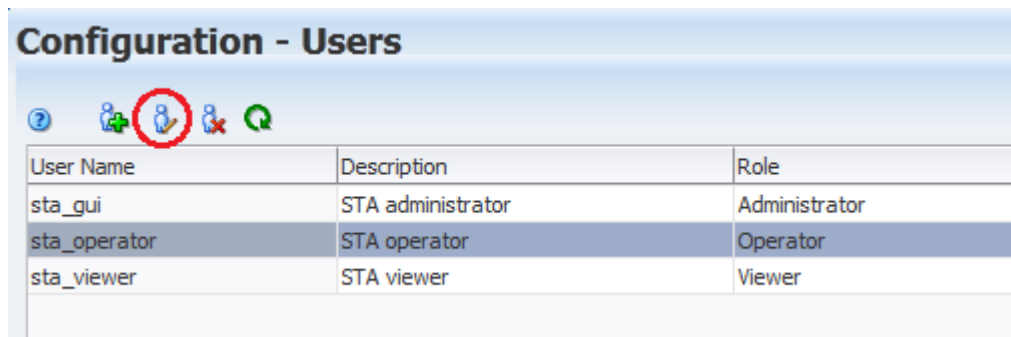
注:

すべてのユーザーは、メインツールバーから「**Preferences**」を選択して、「**General**」を選択して、自分のパスワードを変更できます。手順については、「[パスワードの変更](#)」を参照してください。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Users**」を選択します。

「**Configuration – Users**」画面が表示されます。

2. テーブルで、変更する STA ユーザー名を選択して、「**Modify User**」アイコンをクリックします。



User Name	Description	Role
sta_gui	STA administrator	Administrator
sta_operator	STA operator	Operator
sta_viewer	STA viewer	Viewer

「**User Configuration**」ダイアログボックスが表示されます。

3. ダイアログボックスで、ユーザーの「**Description**」、「**Role**」、または「**Password**」を変更して、「**Save**」をクリックします。パスワード要件の詳細については、「[STA ユーザー名とパスワードの要件](#)」を参照してください。

変更に従ってユーザー名が更新されます。

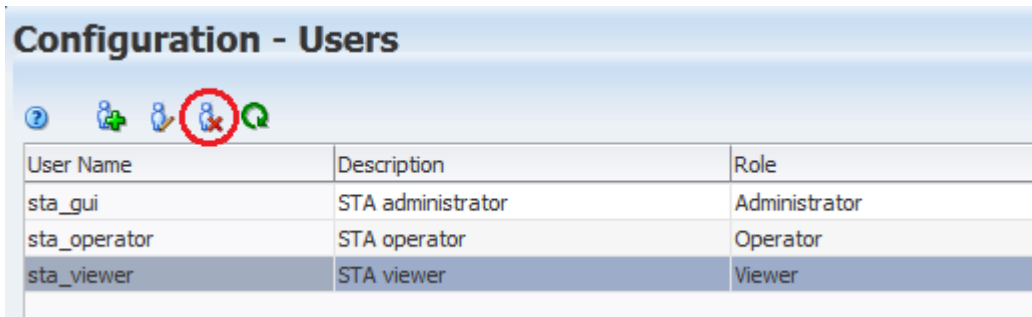
### 9.2.3. STA ユーザー名の削除

この手順を使用して、STA ユーザー名を削除します。ユーザー名が所有している論理グループとテンプレートを削除するか、または保持してパブリックにするかを指定する必要があります。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Users**」を選択します。

「**Configuration – Users**」画面が表示されます。

2. テーブルで、削除する STA ユーザー名を選択して、「**Delete User**」アイコンをクリックします。



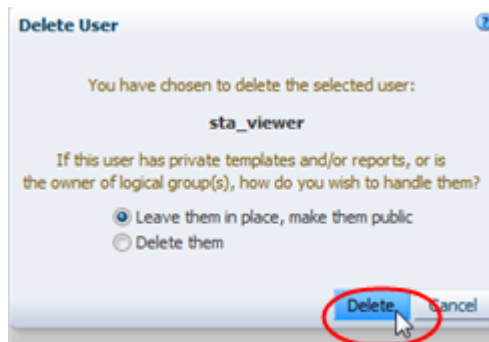
User Name	Description	Role
sta_gui	STA administrator	Administrator
sta_operator	STA operator	Operator
sta_viewer	STA viewer	Viewer

「Delete User」ダイアログボックスが表示されます。

3. ダイアログボックスで、次のいずれかを選択して、「Delete」をクリックします。
- 「**Leave them in place, make them public**」: このユーザー名が所有しているすべてのテンプレートと論理グループを保持します。項目がパブリックになり、すべてのユーザーが使用できるようになります。
  - 「**Delete them**」: このユーザー名が所有しているすべてのテンプレートと論理グループを削除します。

注:

論理グループを削除すると、その論理グループを使用しているフィルタ、テンプレート、およびエグゼクティブレポートがすべて無効になることがあります。



STA ユーザー名が削除されます。ユーザー名が所有しているテンプレートと論理グループはすべて、選択肢に応じて、更新または削除されます。

### 9.3. 電子メール構成タスク

電子メールを指定した電子メールアドレスに自動的に送信するように、STA アラートとエグゼクティブレポートポリシーを定義できます。これを実行する前に、次の手順を使用して STA 電子メールサーバーと有効な受信者アドレスを識別する必要があります。これらの手順は、電子メールサーバーがすでにサイトで構成されていることを前提としています。

有効な電子メール受信者を対応するポリシーに割り当てる方法の詳細については、「[アラート電子メール](#)」および「[エグゼクティブレポートの電子メール送信](#)」を参照してください。

このセクションのすべてのタスクには、オペレータまたは管理者権限が必要です。

- 「[STA SMTP サーバーの定義](#)」
- 「[有効な電子メール受信者の追加](#)」
- 「[電子メール構成情報の表示](#)」
- 「[電子メールサーバーと受信者定義のテスト](#)」
- 「[有効な電子メール受信者の変更](#)」
- 「[有効な電子メール受信者の削除](#)」

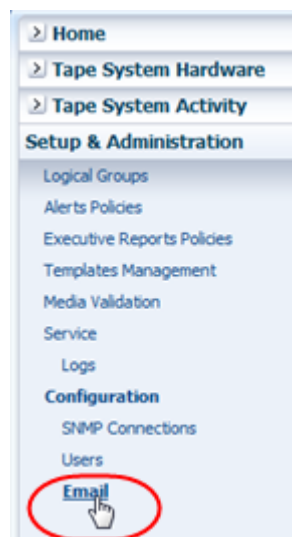
### 9.3.1. STA SMTP サーバーの定義

この手順を使用して、STA 電子メールサーバーを定義します。定義できる電子メールサーバーは 1 台のみです。

注:

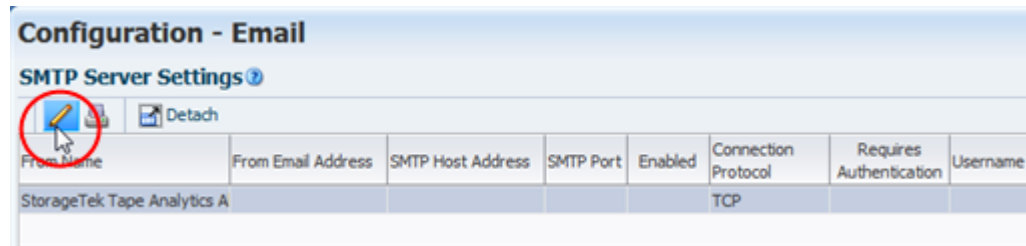
このタスクには、管理者権限が必要です。

1. STA 電子メールを送信するのに使用する電子メールサーバーのホストアドレスおよび認証要件を決定する場合は、IT 管理者にお問い合わせください。
2. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Email**」を選択します。



「Configuration – Email」画面が表示されます。

- 「SMTP Server Settings」テーブルで、「StorageTek Tape Analytics Alerts」レコードを選択して、「**Edit Selected SMTP Server**」アイコンをクリックします。



「Define SMTP Server Details」ダイアログボックスが表示されます。

- 次のようにダイアログボックスの操作を完了します。
  - 「*SMTP Host Address*」: STA 電子メールで使用する送信 SMTP サーバーの完全修飾名を入力します。これは、有効な電子メールサーバーにする必要があります。

注:

電子メールサーバーで認証が必要ない場合、「SMTP Host Address」に *localhost* を指定する必要があることがあります。

- 「*SMTP Port*」: 送信メールトランスポートのポート番号を入力します。

通常これはポート 25 ですが、これがサイトで使用されるポートであることを確認するには、IT 管理者に問い合わせてください。

- 「*From Name*」: 電子メールの「*From*」行に表示する名前を入力します。Oracle では、STA サーバーを識別するテキストを使用することを推奨しています。
- 「*From Email Address*」: STA 電子メールの送信元となる電子メールアドレスを入力します。これは、電子メールサーバーで有効なアドレスにする必要があります。

受信者はこのアドレスには返信できないため、*DoNotReply@YourCompany.com* など、これを示すアドレスを入力してもかまいません。

- 「*Enabled?*」: 電子メールサーバーを有効にするには、このチェックボックスを選択します。
- 「*Use Secure Connection Protocol*」: セキュア接続プロトコルを使用するために、このチェックボックスを選択してから、TLS または SSL をクリックしてプロトコルを選択します。
- 「*Requires Authentication*」: このチェックボックスが有効なのは、「*Use Secure Connection Protocol*」チェックボックスを選択した場合のみで

す。SMTP サーバーで認証が必要な場合は、チェックボックスを選択してから、残りのユーザー名およびパスワードフィールドに入力します。

5. 「Save」をクリックします。

入力した情報で、「SMTP Server Settings」テーブルが更新されます。

From Name	From Email Address	SMTP Host Address	SMTP Port	Enabled	Connection Protocol	Requires Authentication	Username
StorageTek Tape Analytics A	sta@example.com	internal-mail-router.	25	✓	SSL	✓	sta_email

### 9.3.2. 有効な電子メール受信者の追加

この手順を使用して、STA 電子メールを受信する有効な受信者のリストに電子メールアドレスを追加します。STA 電子メールを受信するために、STA ユーザー名は必要ありません。

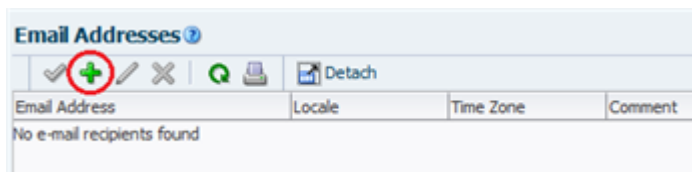
注:

このタスクには、管理者権限が必要です。

1. ナビゲーションバーで、「Setup & Administration」を選択して、「Email」を選択します。

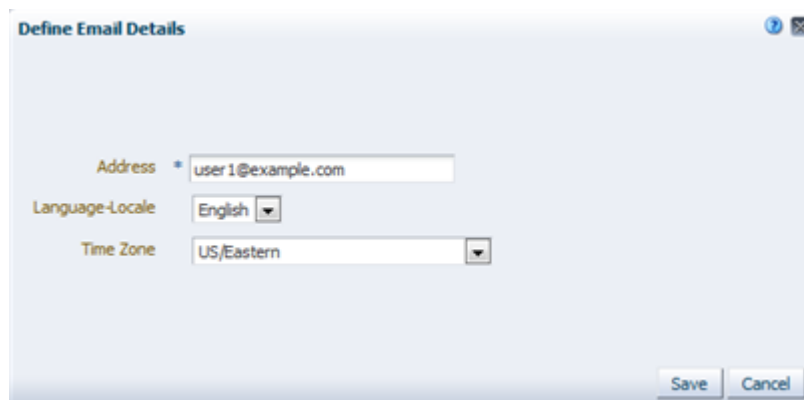
「Configuration – Email」画面が表示されます。

- 「Email Addresses」テーブルで、「Add Email」アイコンをクリックします。



「Define Email Details」ダイアログボックスが表示されます。

- 次のようにダイアログボックスに入力し、「Save」をクリックします。
  - 「Address」: 有効な電子メールアドレスを入力します (たとえば、`yourname@yourcompany.com`)。
  - 「Language-Locale」: このアドレスに送信される電子メールで優先する言語を選択します (現在選択できるのは英語のみです)。
  - 「Time Zone」: 受信者のタイムゾーンを選択します。



アドレスが「Email Addresses」テーブルに追加されます。現時点では、「Comment」フィールドは空白のままです。

**Configuration - Email**

**SMTP Server Settings**

From Name	From Email Address	SMTP Host Address	SMTP Port	Enabled	Connection Protocol	Requires Authentication	Username
StorageTek Tape Analytics A	sta@example.com	internal-mail-router.o	25	<input checked="" type="checkbox"/>	TCP		

**Email Addresses**

Email Address	Locale	Time Zone	Comment
user1@example.com	en	US/Eastern	

### 9.3.3. 電子メール構成情報の表示

この手順を使用して、STA 電子メールサーバー構成と有効な電子メール受信者に関する詳細を表示します。

注:

このタスクには、オペレータ権限または管理者権限が必要です。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Email**」を選択します。

「Configuration – Email」画面が表示されます。

**Configuration - Email**

**SMTP Server Settings**

From Name	From Email Address	SMTP Host Address	SMTP Port	Enabled	Connection Protocol	Requires Authentication	Username
StorageTek Tape Analytics A	sta@example.com	internal-mail-router.o	25	<input checked="" type="checkbox"/>	TCP		

**Email Addresses**

Email Address	Locale	Time Zone	Comment
user1@example.com	en	US/Eastern	
user2@example.com	en	US/Pacific	
user3@example.com	en	Iceland	



「SMTP Server Settings」テーブルには、STA 電子メールサーバーのすべての構成情報が表示されます。「Email Addresses」テーブルには、STA 電子メールを受信する有効なすべての電子メールアドレスが表示されます。

注:

「Email Addresses」テーブルの「Comment」フィールドは、各電子メールアドレス向けの電子メールアクティビティに関するシステム生成コメント用に予約済みです。ユーザーは、このフィールドを編集できません。

### 9.3.4. 電子メールサーバーと受信者定義のテスト

この手順を使用して、選択した受信者にテスト電子メールを送信することにより、STA 電子メールサーバーと受信者定義を確認します。テストできるのは、1 回につき 1 人の受信者のみです。

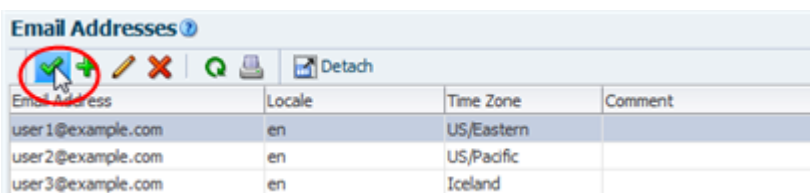
注:

このタスクには、管理者権限が必要です。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Email**」を選択します。

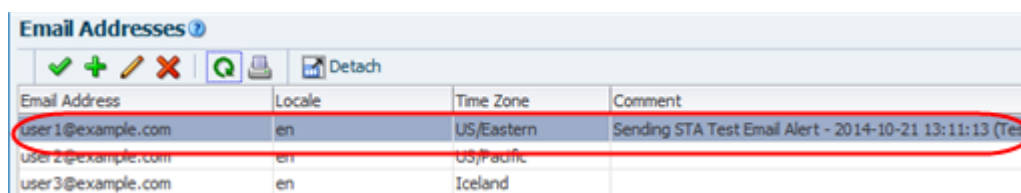
「Configuration – Email」画面が表示されます。

2. 「Email Addresses」テーブルで、テストするアドレスを選択してから、「**Test SMTP and Email Address Setup**」アイコンをクリックします。



Email Address	Locale	Time Zone	Comment
user1@example.com	en	US/Eastern	
user2@example.com	en	US/Pacific	
user3@example.com	en	Iceland	

STA 電子メールサーバーは、選択したアドレスにテスト電子メールを送信し、テストに関する詳細で「Comment」フィールドを更新します。必要な場合は、「**Refresh Table**」ボタンをクリックしてコメントを表示します。



Email Address	Locale	Time Zone	Comment
user1@example.com	en	US/Eastern	Sending STA Test Email Alert - 2014-10-21 13:11:13 (Test)
user2@example.com	en	US/Pacific	
user3@example.com	en	Iceland	

- 受信者の電子メールをチェックして、受信されたことを確認します。例9.1「STA テスト電子メールの例」に、テスト電子メールの内容の例を示します。

### 例9.1 STA テスト電子メールの例

From: stasmt@example.com  
 Date: 10/20/2014 2:24 PM  
 Subject: STA Test Email Alert - 2014-10-20 14:23:54 (Test Email sta\_server)  
 STA Test Email Alert - 2014-10-20 14:23:54 (Test Email sta\_server)

- 数分を経過しても電子メールが到着しない場合は、STA 電子メールサーバーと受信者が正しく定義されていることを確認してください。追加情報として、次の STA ログを確認することもできます。必要に応じて、IT 管理者にお問い合わせください。

`/Oracle_storage_home/Middleware/user_projects/domains/TBI/servers/staEngine/ logs/  
 staEngine.log`

### 9.3.5. 有効な電子メール受信者の変更

この手順を使用して、既存の有効な電子メール受信者を変更します。編集できるのは 1 回につき 1 つのアドレスのみです。

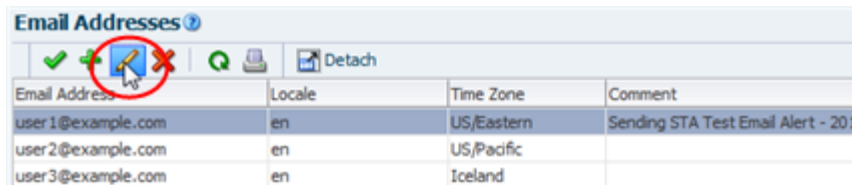
注:

このタスクには、管理者権限が必要です。

- ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Email**」を選択します。

「Configuration – Email」画面が表示されます。

- 「Email Addresses」テーブルで、変更するアドレスを選択してから、「**Edit Selected Email**」アイコンをクリックします。



Email Address	Locale	Time Zone	Comment
user1@example.com	en	US/Eastern	Sending STA Test Email Alert - 201
user2@example.com	en	US/Pacific	
user3@example.com	en	Iceland	

「Define Email Details」ダイアログボックスが表示されます。

- ダイアログボックスで、必要な変更を加えます。完了したら、「**Save**」をクリックします。

電子メールアドレスが更新され、「Email Addresses」テーブルに変更内容が表示されます。

### 9.3.6. 有効な電子メール受信者の削除

この手順を使用して、有効な受信者のリストから電子メールアドレスを削除します。このアドレスは、STA から電子メールを受信できなくなります。アラートまたはエグゼクティブレポートポリシーでこのアドレスが使用されている場合も削除されます。削除できるのは 1 回につき 1 つのアドレスのみです。

#### 注意:

この操作では、確認ダイアログボックスは表示されません。電子メールアドレスは、「**Delete Selected Email(s)**」ボタンをクリックするとすぐに削除されます。

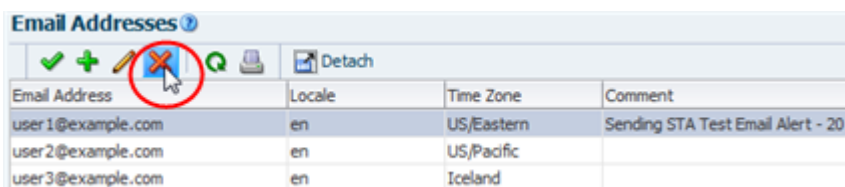
#### 注:

このタスクには、管理者権限が必要です。

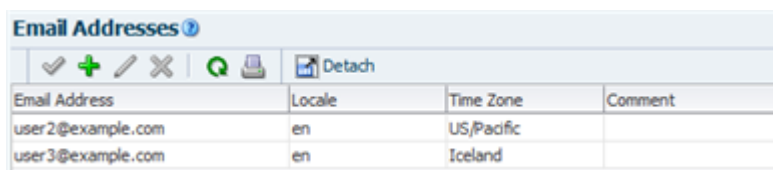
1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Email**」を選択します。

「Configuration – Email」画面が表示されます。

2. 「Email Addresses」テーブルで、削除する電子メールアドレスを選択してから、「**Delete Selected Email(s)**」アイコンをクリックします。



有効な受信者のリストから電子メールアドレスが削除されます。また、使用されているすべてのアラートおよびエグゼクティブレポートポリシーからも削除されます。





## STA サービスログ

STA は、Oracle の Remote Diagnostics Agent (RDA) を使用して、STA サーバーでの障害の原因を特定するために Oracle サポート担当者 で使用できる情報を収集します。

この章の内容は次のとおりです。

- [サービスログの概要](#)
- [サービスログのタスク](#)

### 10.1. サービスログの概要

STA サービスログは、STA ユーザーインターフェースと STA 管理対象サーバーの問題を解決するために役立ちます。Oracle サポート担当者は、パフォーマンス分析、デバッグ、セキュリティ分析、使用状況分析、および関連するほかの用途にこれらを使用できます。

注:

サービスログは、STA によってモニターされるライブラリとドライブの問題を解決するためには使用しません。

STA は、RDA を使用して、オペレーティングシステム、インストール、構成情報を含め、STA アプリケーションおよびデータベースに関連するすべてのログの最新のスナップショットを作成します。これらのログは自動的にログバンドルにグループ化され、関連付けられた日付とタイムスタンプが割り当てられます。

ログバンドルは削除しないかぎり無限に保存されますが、STA サーバーのディスク領域が上限になります。選択したログバンドルを zip ファイルとしてダウンロードして、分析のために Oracle サポート担当者に転送できます。

#### 10.1.1. ログバンドルを作成する理由

次の状況では、ログバンドルを作成できます。

- 予期しない STA アプリケーションイベントが発生し、それがバグである可能性がある場合。
- Oracle Service からスナップショットの作成を依頼された場合。

- STA ユーザーインターフェイスに、スナップショットを作成すべきであることを示すメッセージが自動的に表示された場合。

### 10.1.2. ログスナップショットの作成

次のいずれかの方法を使用すると、サービスログスナップショットを作成できます。複数のログバンドルを作成して格納できます。

#### STA ユーザーインターフェイスから

RDA サービスログ情報を収集するためのもっとも簡単な方法は、STA ユーザーインターフェイスを使用することです。この方法を使用すると、スナップショットは次のディレクトリに格納されます。

```
/Oracle_storage_home/Middleware/rda/snapshots
```

ここで、`/Oracle_storage_home` は、STA のインストール中に定義した Oracle のストレージホームの場所です。詳細は、『STA インストールおよび構成ガイド』を参照してください。

#### システムコマンド行から

STA ユーザーインターフェイスにアクセスできない場合、`rda.sh` ユーティリティを使用して、システムコマンド行から手動でログバンドルを作成できます。この方法を使用すると、スナップショットは次のディレクトリに格納されます。

```
/Oracle_storage_home/Middleware/rda/output
```

`rda.sh` ユーティリティに関する追加情報を表示するには、次のいずれかのコマンドを使用します。

- `./rda.sh -M` — ユーティリティの完全なマニュアルページを表示します。
- `./rda.sh -M STA` — STA のユーティリティによって生成されたログファイルのサマリーを表示します。
- `./rda.sh -h` — すべてのユーティリティオプションのヘルプ情報を表示します。

### 10.1.3. ログバンドルのプロセス

次に、ログバンドルの収集と送信のプロセスの概要を示します。

1. STA ログスナップショットを作成します。「[STA ユーザーインターフェイスからのサービスログバンドルの作成](#)」または「[システムコマンド行からのサービスログバンドルの作成](#)」を参照してください。
2. ログバンドルの zip ファイルをコンピュータにダウンロードします。「[ログバンドルのダウンロード](#)」を参照してください。

3. zip ファイルを Oracle Support に転送します。「[Oracle Support へのログスナップショットの転送](#)」を参照してください。

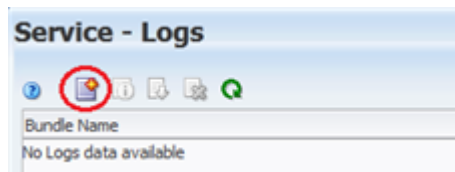
## 10.2. サービスログのタスク

- 「[STA ユーザーインターフェースからのサービスログバンドルの作成](#)」
- 「[システムコマンド行からのサービスログバンドルの作成](#)」
- 「[生成されたログバンドルの一覧表示](#)」
- 「[ログ実行情報の表示](#)」
- 「[ログバンドルのダウンロード](#)」
- 「[ログバンドルの削除](#)」
- 「[Oracle Support へのログスナップショットの転送](#)」

### 10.2.1. STA ユーザーインターフェースからのサービスログバンドルの作成

この手順を使用して、STA サーバーにおけるサービス情報の最新のスナップショットを含むログバンドルを生成します。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Logs**」を選択します。
2. 「**Create New Log Bundle**」アイコンをクリックします。



3. 「Log Bundle Name」フィールドに、これらの要件を満たすスナップショット名を入力します。
  - 最大 210 文字
  - 英数字とアンダースコアのみを含む (ただし、連続する 4 つ以上のアンダースコアは使用できません)
  - スペースを入力した場合、アンダースコアに置換されます
  - 次の大文字の文字で始まらないこと: COM、LPT、PRN、CON、AUX、または NUL。
4. 「**Save**」をクリックします。

ジョブがキューに入れられたことを示すメッセージが表示されます。送信されたジョブがテーブルに表示され、プロセスが完了するまでには数分かかることがあります。「Service - Logs」画面から離れた場合、プロセスはバックグラウンドで続行されます。

注:

処理中のログ実行のステータスを更新するには、「Refresh Table」アイコンをクリックします。



## 10.2.2. システムコマンド行からのサービスログバンドルの作成

この手順を使用して、システムコマンド行から手動でサービス情報を収集します。

1. STA サーバーにシステムの root ユーザーとしてログオンします。
2. RDA ディレクトリに移動します。例:

```
# cd /Oracle/Middleware/rda
```

3. RDA `setup.cfg` ファイルが存在することを確認します。

```
# ls -la setup.cfg
```

```
-rw-r----- 1 root root 13467 Nov 13 11:25 setup.cfg
```

4. 次のコマンドを入力して、ログバンドルを生成します。

```
# ./rda.sh -v -f
```

ここでは:

- `-v` – データ収集の進捗を表示します。このパラメータはオプションです。
- `-f` – 現在のデータ収集を強制的に行います。

ユーティリティーは、名前 `RDA.STA_servername.zip` で RDA ログバンドルを生成します。これには数分かかることがあります。例10.1「サービスログ作成コマンド行の出力のサンプル」は、コマンド出力の抜粋です。

### 例10.1 サービスログ作成コマンド行の出力のサンプル

```
# ./rda.sh -v -f
```

```
Collecting diagnostic data ...
```

```
-----  
RDA Data Collection Started 13-Nov-2014 10:46:33  
-----
```



```
Processing Initialization module ...
Processing OCM module ...
Processing PERF module ...
Processing CFG module ...
Processing OS module ...
Processing PROF module ...
Processing NET module ...
Processing Oracle installation module ...
Processing WREQ module ...
Processing STA module ...
Hashing credential information.....
Starting MySQL STA database dump to /var/log/tbi/db/dump.....
MySQL STA database dump complete
Processing RDSP module ...
Processing LOAD module ...
Processing End module ...
```

```
-----
RDA Data Collection Ended 13-Nov-2014 10:47:59
-----
```

```
Generating the reports ...
```

- STA\_WREQ\_d1\_R00162\_abbr.txt ...
- STA\_WREQ\_d1\_R00022\_log\_secureWebLogic\_sh.txt ...
- STA\_WREQ\_d1\_R00114\_log\_nm\_password\_properties.txt ...
- STA\_WREQ\_d1\_R00107\_log\_readme\_txt.txt ...
- STA\_WREQ\_d1\_R00171\_log\_dms\_mbeans\_xml.txt ...
- STA\_INST\_R00009\_oraInstall2014\_10\_30\_03\_53\_34PM\_out.dat ...
- STA\_INST\_oracle\_home.txt ...
- STA\_WREQ\_o1\_R00005\_log\_log\_txt.txt ...

```
...
```

If this file was generated to assist in resolving a Service Request, please send /Oracle/Middleware/rda/output/RDA.STA\_mystaserver.zip to Oracle Support by uploading the file via My Oracle Support. If ftp'ing the file, please be sure to ftp in BINARY format.

Please note: Do not submit any health, payment card or other sensitive

production data that requires protections greater than those specified in the Oracle GCS Security Practices (http://www.oracle.com/us/support/library/customer-support-security-practices-069170.pdf).

Information on how to remove data from your submission is available at https://support.oracle.com/rs?type=doc&id=1227943.1

Updating the setup file ...

#

5. RDA zip ファイルを一意の名前に変更します。例:

```
# mv RDA.STA_servername.zip ./RDA.STA_servername_xxxx.zip
```

ここで、xxxx は選択した一意の拡張子です。

6. オプションで、次のいずれかの方法を使用して、先ほど作成したファイルを表示します。
  - STA サーバーでブラウザウィンドウを開き、次の URL に移動します。

```
file:///Oracle_storage_home/Middleware/rda/output/STA_start.htm
```

- zip ファイルをローカルコンピュータにダウンロードして、バンドルを解凍し、上記の URL からログファイルにアクセスします。

### 10.2.3. 生成されたログバンドルの一覧表示

この手順を使用して、STA サーバーですべてのログバンドルに関するサマリー情報を表示します。

---

注:

この手順は、STA ユーザーインターフェースから作成されたログバンドルにのみ適用されます。

---

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Logs**」を選択します。

「Service Logs」画面には、ログバンドルごとに次の情報が表示されます。

- 「Bundle Name」 — ログスナップショットに割り当てられたユーザー定義の名前。「[STA ユーザーインターフェースからのサービスログバンドルの作成](#)」を参照してください。
- 「State」 — 新しいログバンドルの実行状態（「Running」または「Completed」）。
- 「Date Created」 — RDA の実行を開始した日付と時間。

- 「File Size (KB)」 — ログファイルのサイズ。

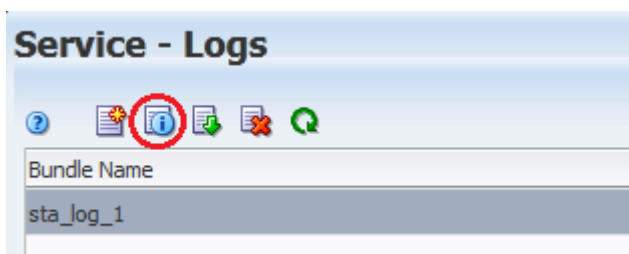
#### 10.2.4. ログ実行情報の表示

この手順を使用して、選択したログバンドルに関する詳細情報を表示します。この手順は、ログ実行の進行中または完了後に実行できます。

注:

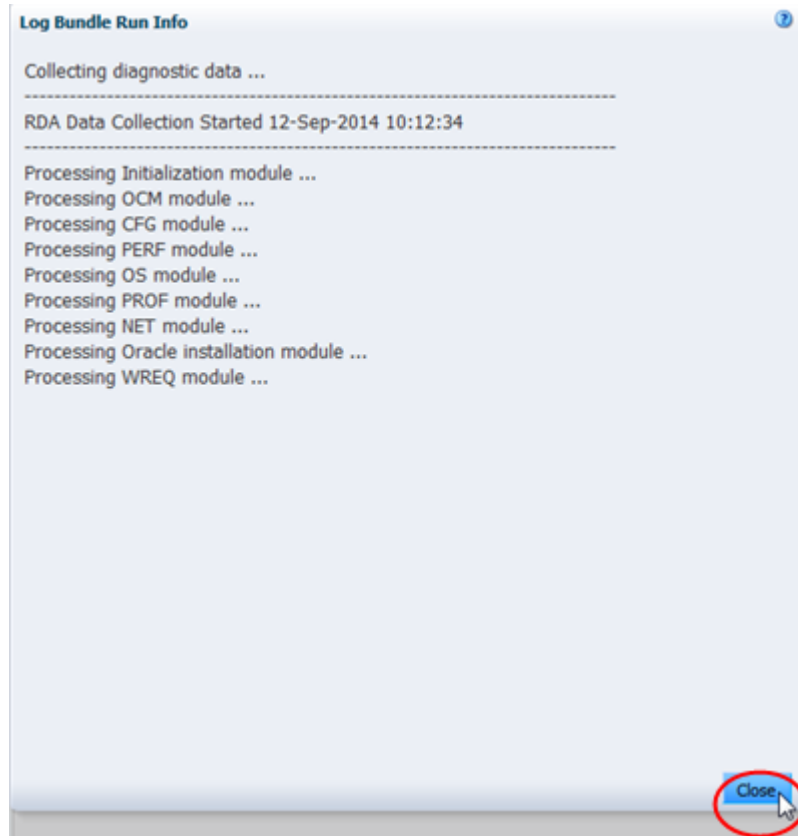
この手順は、STA ユーザーインターフェースから作成されたログバンドルにのみ適用されます。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Logs**」を選択します。
2. 表示するログバンドルを選択します。
3. 「**Log Bundle Run Info**」アイコンをクリックします。



ログ実行に関する情報が示された「Log Bundle Run Info」ダイアログボックスが表示されます。

4. 「**Close**」をクリックしてダイアログボックスを閉じます。



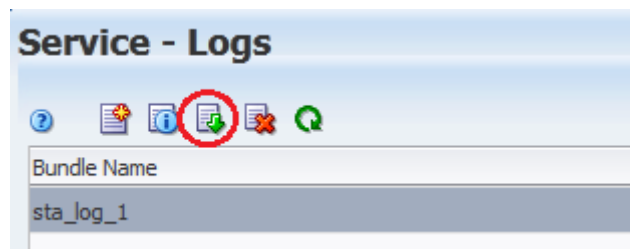
## 10.2.5. ログバンドルのダウンロード

この手順を使用して、完了したログバンドルをローカルコンピュータにダウンロードします。

注:

この手順は、STA ユーザーインターフェースから作成されたログバンドルにのみ適用されます。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Logs**」を選択します。
2. ダウンロードするログバンドルを選択します。
3. 「**Download Selected Log Bundle**」アイコンをクリックします。



4. ファイルを保存します。

---

注:

このエラーメッセージがログファイルに表示された場合は、無視しても構いません。

WARNING:

```
java.lang.ClassNotFoundException: oracle.tbi.view.faces.ExceptionHandler
```

---

## 10.2.6. ログバンドルの削除

この手順を使用して、選択したログバンドルを削除します。

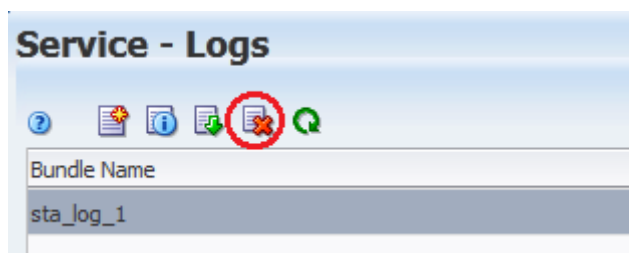
---

注:

この手順は、STA ユーザーインターフェースから作成されたログバンドルにのみ適用されます。

---

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**Logs**」を選択します。
2. 削除するログバンドルを選択します。
3. 「**Delete Selected Log Bundle**」アイコンをクリックします。



## 10.2.7. Oracle Support へのログスナップショットの転送

この手順を使用して、ログバンドルを評価するために Oracle Support に転送します。この手順は、STA ユーザーインターフェースまたはシステムコマンド行のいずれかから作成されたログバンドルに適用されます。

---

注:

この手順は、すべてのログバンドルに適用されます。

---

1. 次の URL にある My Oracle Support Web サイトにアクセスします。

<https://support.oracle.com/CSP/ui/flash.html>

2. 「サインイン」をクリックして、ユーザー名とパスワードを入力します。
3. 「サービス・リクエスト」タブを選択して、「**SR の作成**」を選択します。ウィザードのヒントを使用して、各必須フィールドに入力します。
4. 「問題は何ですか。」セクションに問題のサマリーと説明を入力します。

5. 「問題は何ですか。」セクションに入力して、報告する問題タイプの「サポート」タブ (ソフトウェア、ハードウェア、クラウドなど) を選択します。
6. リストから問題タイプを選択します。
7. 該当するサポート識別子 (SI) を選択し、「次へ」をクリックします。
8. 興味のあるナレッジ記事があれば閲覧します。
9. SR 作成を続行するには、ファイルをアップロードし、必要に応じて追加情報を入力します。
10. 重大度を選択し、連絡先情報を確認して、「送信」をクリックします。

---

---

## STA での SNMP 接続の管理

この章では、STA と、これがモニターするライブラリとの間の SNMP 接続を管理するための概念と手順について説明します。ここでは、Simple Network Management Protocol (SNMP) の基本を理解していることを前提としています。

この章の内容は次のとおりです。

- [STA 用の SNMP の構成](#)
- [STA データストア](#)
- [SNMP 接続と STA データストアの維持](#)
- [STA で実行される SNMP 保守タスク](#)
- [ライブラリで実行される SNMP 保守タスクのサポート](#)
- [特殊な SNMP 接続更新タスク](#)
- [SNMP 接続のトラブルシューティングタスク](#)

### 11.1. STA 用の SNMP の構成

STA と、これがモニターするライブラリとの間の通信は、SNMP インタフェースを介しています。ライブラリは、SNMP トラップおよび通知を通じて STA にデータを送信し、STA は、SNMP の `get` 関数を使用してライブラリ構成データを取得します。SNMP の用語では、STA はクライアントエージェントで、各ライブラリはサーバーエージェントです。

この章では、STA とモニター対象ライブラリとの間の SNMP 通信に、推奨される SNMP v3 プロトコルを使用していることを前提としています。ライブラリで実行される構成タスクを含む SNMP v3 の初期構成に関する詳細は、『[STA インストールおよび構成ガイド](#)』を参照してください。

### 11.2. STA データストア

STA データストアは、モニター対象ライブラリから受信した SNMP データを使用して作成され、維持されます。これには、次の情報タイプが含まれています。

#### ライブラリ構成モデル

これは、ライブラリとデバイスの構成、プロパティ、およびステータスの階層型のビューです。この情報を取得するには、STA は、ライブラリに送信される一連の SNMP 要求を使用してデータ収集を開始します。

#### 交換レコード

これらのレコードには、ドライブのクリーニングアクティビティーを含む、すべてのドライブとメディアの交換に関する詳細情報が含まれています。ライブラリは、非同期 SNMP トラップを介してこのデータを STA に送信します。

#### エラーとイベント

これらは、重大なライブラリのエラーとイベントのレコードです。ライブラリは、非同期 SNMP トラップを介してこのデータを STA に送信します。

## 11.3. SNMP 接続と STA データストアの維持

STA とライブラリ間の SNMP 接続が確立されたら、STA は通常、ライブラリからデータを連続して中断なしで受信します。ただし、接続を維持または再確立するために、手動での介入が推奨されるか必要になることがあります。

このセクションには、この章の後半で説明するタスクのバックグラウンド情報を提供する次のトピックが含まれています。

- [「ライブラリの SNMP 接続のテスト」](#)
- [「ライブラリ構成データの収集」](#)
- [「ライブラリ接続のステータス情報」](#)

### 11.3.1. ライブラリの SNMP 接続のテスト

ライブラリ接続テストでは、STA とモニター対象ライブラリ間の SNMP ハンドシェイクを確立または再確立します。一般に、ライブラリ接続のテストは 1 秒未満で終了しますが、この間はどのライブラリからもトラップを受信しません。そのため、接続テストはいつでも実行できますが、Oracle では、必要などきにのみ行うことをお勧めします。一度にテストできるライブラリ接続は 1 つだけです。手順については、[「ライブラリ SNMP 接続のテスト」](#)を参照してください。

#### 11.3.1.1. 接続テストを実行するとき

STA またはモニター対象ライブラリで実行される特定のアクティビティーによって、影響を受けるライブラリとの SNMP 接続が切断されることがあり、次にスケジュールされたデータ収集が完了するまで、STA はライブラリから SNMP データを受信できません。接続テストを実行すると、ライブラリ接続が切断される時間が最小限に抑えられ、大量の SNMP データが失われるのを防止できます。



Oracle では、接続テストは次のときに実行することをお勧めします。

- STA とライブラリ間の SNMP 接続の初期構成後。初期の接続テストでは、STA とライブラリ間の SNMP ハンドシェイクが確立されます。
- STA SNMP クライアントの設定の変更後 (詳細は、「[STA の SNMP クライアント設定の構成](#)」を参照してください)。これらの設定には、SNMP ユーザー名、接続認可、およびプライバシパスワードが含まれます。これらのいずれかの設定を変更した場合、すべてのモニター対象ライブラリの接続をテストする必要があります。
- モニター対象ライブラリの SNMP 設定の変更後 (詳細は、「[ライブラリへの SNMP 接続の構成](#)」を参照してください)。これらの設定を変更するたびに「Library Engine ID」フィールドがクリアされるため、ライブラリとの SNMP 接続が切断されたことがわかります。正しい接続を復元するために必要なのは、影響を受けたライブラリの接続をテストすることだけです。
- モニター対象ライブラリのリポート後。接続テストを開始する前に、ライブラリがフル稼働状態になるまで待ってください (詳細は、「[ライブラリが動作していることの確認](#)」を参照してください)。複数のライブラリをリポートする場合、そのうちの 1 つの接続のみをテストする必要がありますが、そうする前に、すべてのライブラリがフル稼働状態になるまで待ってください。
- モニター対象ライブラリで冗長電子デバイスの切り替えが発生したあと (SL3000 および SL8500 ライブラリのみ)。切り替えが終了し、ライブラリがフル稼働状態になるのを待って、接続テストを開始してください。詳細は、「[ライブラリの冗長電子デバイスの切り替え後の SNMP 接続の更新](#)」を参照してください。
- 1 つ以上のライブラリから SNMP データが失われたことが疑われる場合はいつでも。

### 11.3.1.2. 接続テストのステータスメッセージ

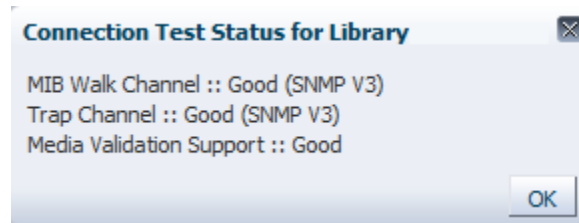
SNMP 接続テストの内容は次のとおりです。

- MIB ウォークチャンネルテスト — ライブラリの初期化、ネットワーク接続性、正しい SNMP クライアント設定、および正しいライブラリファームウェアを検査します。
- トラップチャンネルテスト — ライブラリがテストトラップ (13) を STA に送信するように要求します。
- メディア検証サポートテスト — STA メディア検証をサポートするために必要な最小のライブラリファームウェアと構成を検査します。

接続テストが完了したら、「Connection Test Status」メッセージボックスにこれらの各テストの結果が表示されます。例11.1「[成功した接続テスト](#)」から例11.4「[失敗したメディア検証サポートテスト](#)」は、接続テスト結果の例です。

接続テストが失敗した場合、推奨されるトラブルシューティング手順について「[SNMP 接続のトラブルシューティングタスク](#)」を参照してください。

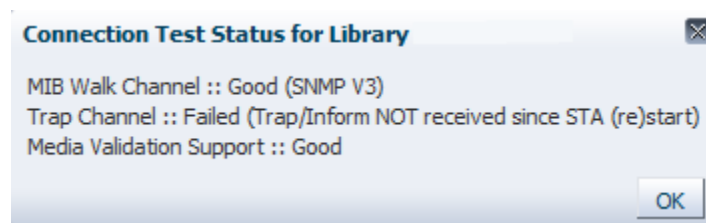
### 例11.1 成功した接続テスト



### 例11.2 失敗した MIB ウォークチャンネルテスト



### 例11.3 失敗したトラップチャンネルテスト



### 例11.4 失敗したメディア検証サポートテスト



## 11.3.2. ライブラリ構成データの収集

ライブラリとの SNMP 接続を確立すると、STA は SNMP トラップの受信を開始し、このデータを STA データストアに格納します。ただし、STA ライブラリ構成モデルが構築されるまで、このデータはユーザーインターフェースには表示されません。

### 11.3.2.1. STA ライブラリ構成モデルの構築

STA でライブラリの最初の構成モデルを構築するため、ライブラリ接続を確立したらすぐに、手動のデータ収集を開始してください。手順については、「[手動のデータ収集の実行](#)」を参照してください。

最初のデータ収集中に、STA は次のものを含むすべてのライブラリ構成情報を取得します。

- アクティブ化されているストレージセルの場所
- パーティション情報
- ドライブのタイプ、識別子、および場所
- メディアのタイプ、ボリュームシリアル番号 (volser)、および場所

最初のデータ収集にかかる時間は、ライブラリのサイズとアクティビティーレベルに応じて、数分から 1 時間以上です。データ収集が完了するまで、STA ユーザーインターフェースにはライブラリ環境と交換アクティビティーの全体像は表示されず、この間に、さまざまな分析とサマリーデータの変動が表示されることがあります。これは正常です。

### 11.3.2.2. 構成モデルを最新の状態にする

最初のデータ収集後、STA ライブラリ構成モデルは定期データ収集によって更新されます。1 台のライブラリ上で同時に実行できるデータ収集は 1 件のみで、同時実行できるデータ収集は 5 件のみです。

### 11.3.2.3. データ収集の開始方法

データ収集は、次のいずれかの方法で開始できます。

- スケジュール型 — スケジュール型データ収集は、ユーザー定義の時間に 24 時間ごとに自動的に実行されます。これは全ライブラリ構成データの完全収集で、ライブラリのアクティビティーが少ない時間帯にスケジュールする必要があります。手順については、「[ライブラリへの SNMP 接続の構成](#)」を参照してください。
- トリガー型 — STA は、ライブラリの状態や構成で重大な変更 (たとえば、ドライブやメディアの追加、パーティション構成の変更など) を検出したときは常に、トリガー型データ収集を自動的に開始します。これは部分的なデータ収集で、変更の影響を受けるライブラリ構成のみ更新されます。たとえば、新しいメディアを追加したためにトリガーされたデータ収集の場合、メディア構成情報のみが更新されます。トリガー型データ収集は短期間で済みます。

- 手動 — ライブラリへのアクティブな接続があるかぎり、手動データ収集はいつでも開始できます。これは、全ライブラリ構成データの完全収集です。手順については、「[手動のデータ収集の実行](#)」を参照してください。

#### 11.3.2.4. データ収集とライブラリのパフォーマンス

ライブラリは SNMP アクティビティーとデータ収集を通常のライブラリ操作より低い優先度で処理するため、データ収集はライブラリのパフォーマンスにほとんど影響を与えません。ただし、ライブラリのアクティビティーが多い期間にデータ収集を実行すると、データ収集自体が完了するのにより長い時間かかることがあります。Oracle では、スケジュール型データ収集と手動のデータ収集は、ライブラリのアクティビティーが少ない期間に実行することをお勧めします。

#### 11.3.2.5. データ収集が必要なとき

STA がライブラリから SNMP データを収集するには、次のときに手動のデータ収集を実行する必要があります。

- 新しいライブラリ接続が構成されたとき。これによって、最初の STA ライブラリ構成モデルが構築されます。
- STA とライブラリで SNMP 設定を変更したあと。詳細は、「[ライブラリへの SNMP 接続の構成](#)」を参照してください。
- 冗長電子デバイスの切り替えが発生したとき。「[ライブラリの冗長電子デバイスの切り替え後の SNMP 接続の更新](#)」を参照してください。

#### 11.3.2.6. データ収集が推奨される時

ライブラリ環境で変更の可能性があった場合にできるだけすぐに STA に通知するには、Oracle では、次のときに手動のデータ収集を実行することをお勧めします。

- SL3000 アクセス拡張モジュール (AEM) からなど、ライブラリから多数のメディアが挿入されたり取り出されたりしたとき。STA は、挿入と取り出しがライブラリによって通知されるとすぐに、トリガー型データ収集を開始しますが、大規模な変更の通知は完了するのに長時間かかる可能性があります。
- ドライブを追加、取り外し、または交換したとき。これは特に、以前に別のドライブがあったスロットにドライブが取り付けられるドライブの交換で重要です。古いドライブが取り外された時間と、新しいドライブが取り付けられた時間と、ライブラリが STA に変更を通知する時間の間には、遅れがある可能性があります。この時間の間、新しいドライブを使用する交換によって、新しいドライブと古いドライブの間にデータが混在する可能性があります。次のガイドラインに従ってデータ収集を開始してください。

- ドライブの追加または交換では、ドライブが初期化されたあとで 15 分待ってください。
- ドライブの取り外しでは、取り外し後に約 1 分待ってください。
- ロボットを追加、取り外し、または交換したとき。
- 冗長電子デバイスの切り替えが発生したか、ライブラリのアクティブなストレージ領域またはパーティションが変更されたとき。STA は、これらのタイプの変更がライブラリによって通知されるとすぐに、トリガー型データ収集を開始しますが、これらの変更は STA ライブラリ構成モデルに重大な影響を与える可能性があるため、手動のデータ収集を開始することをお勧めします。次のガイドラインに従ってデータ収集を開始してください。
  - ライブラリのアクティブなストレージ領域またはパーティションに対する変更の場合、ライブラリコントローラデータベースの更新後 15 分待ってください。
  - 冗長電子デバイスの切り替えの場合、新しくアクティブになったコントローラカードが完全に初期化されたあとで 15 分待ってください。手順については、「[ライブラリの冗長電子デバイスの切り替え後の SNMP 接続の更新](#)」を参照してください。
- ライブラリ構成データが STA で同期されていないことが疑われるときはいつでも。追加情報については、「[欠落したメディア](#)」および「[重複したボリュームシリアル番号](#)」を参照してください。
- STA の外部の理由により、データ収集が失敗したことが疑われるときはいつでも。

### 11.3.3. ライブラリ接続のステータス情報

「Settings – SNMP Connections」画面の「Monitored Libraries」セクションの接続ステータスフィールドには、最近のライブラリ接続テストまたはデータ収集のステータスが表示されます。

表11.1「[「Monitored Libraries」テーブルのライブラリ接続ステータスフィールド](#)」に、これらのフィールドの説明を示します。

表11.1 「Monitored Libraries」 テーブルのライブラリ接続ステータスフィールド

フィールド	説明
Last Successful Connection	最後に成功した接続テストまたはデータ収集の実行日時。
Last Connection Attempt	最新の接続テストまたはデータ収集の試行日時。試行が失敗した場合、この日付と時間は、「Last Successful Connection」より最近のものです。
Last Connection Status	最新の接続テストまたはデータ収集のステータス。データ収集では、プロセスが行われている間、STA ユーザー名に対して定義された画面のリフレッシュレートに従ってステータスが更新されます。ステータスには、次のものがあります。

フィールド	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• IN PROGRESS – データ収集の実行中です。</li> <li>• SUCCESS – 接続テストまたはデータ収集が正常に終了しました。</li> <li>• FAILED – 接続テストまたはデータ収集に失敗しました。考えられる理由が「Last Connection Failure Detail」フィールドに表示されます。</li> <li>• REJECTED – ライブラリがビジーであるか使用不可であるため、データ収集リクエストは拒否されました。</li> <li>• DUPLICATE – 進行中の別のデータ収集リクエストがあるため、データ収集リクエストは拒否されました。</li> </ul>
Last Connection Failure Detail	接続テストまたはデータ収集は失敗したか、拒否されました。考えられる原因がこのフィールドに一覧表示されます。

## 11.4. STA で実行される SNMP 保守タスク

次のタスクでは、STA と、これがモニターするライブラリの間での SNMP 接続を保守します。これらの手順は必要に応じて実行してください。

特に明記していないかぎり、これらの手順は、STA 管理者権限を持つユーザー名によって STA ユーザーインタフェースから実行されます。

- [「ライブラリとの SNMP 通信の検証」](#)
- [「STA の SNMP クライアント設定の構成」](#)
- [「ライブラリへの SNMP 接続の構成」](#)
- [「ライブラリ SNMP 接続のテスト」](#)
- [「手動のデータ収集の実行」](#)
- [「SNMP 接続設定のテキストファイルへのエクスポート」](#)
- [「STA からのライブラリ接続の削除」](#)

注:

このセクションの手順では、STA 通信に推奨される SNMP v3 プロトコルを使用していることを想定しています。

### 11.4.1. ライブラリとの SNMP 通信の検証

この手順を使用して、STA サーバーとライブラリの間での良好な SNMP 接続を確認します。

この手順では、UDP ポート 161 および 162 が、STA サーバーとライブラリの間のすべてのネットワークノードで有効になっていることを検証します。SNMP v3 トラップ受信者が正しく指定されていることは検証できません。

モニター対象の各ライブラリでこの手順を実行してください。冗長電子デバイスまたはデュアル TCP/IP のいずれかを備えた SL3000 または SL8500 ライブラリでは、この手順をライブラリに対して 2 回、プライマリライブラリ IP アドレスとセカンダリ IP アドレスのそれぞれについて 1 回実行します。

---

**注:**

この手順は、STA サーバーのシステムコマンド行から実行します。

---

1. STA サーバーで端末ウィンドウを開き、システムの root ユーザーとしてログインします。
2. SNMP v3 接続をテストします。指定する値は、ライブラリ上の対応する値と一致する必要があります。

```
# snmpget -v3 -u SNMP_user -a SHA -A auth_pwd -x DES -X priv_pwd -1  
authPriv library_IP_addr 1.3.6.1.4.1.1211.1.15.3.1.0
```

ここでは:

- *v3* は SNMP v3 を示しています
- *SNMP\_user* は SNMP v3 ユーザー名です。
- *SHA* は認証プロトコルを示しています。
- *auth\_pwd* は認可パスワードです。
- *DES* はプライバシープロトコルを示しています。
- *priv\_pwd* はプライバシーパスワードです。
- *authPriv* はコマンドでプライバシーが実行されることを示しています。
- *library\_IP\_addr* はライブラリのパブリックポートの IP アドレスです。
  - SL150 ライブラリの場合、これはネットワークポート 1 です。
  - SL500 ライブラリの場合、これはポート 1B です。
  - SL3000 および SL8500 ライブラリの場合、デュアル TCP/IP または冗長電子デバイスがライブラリでアクティブ化されているかどうかに応じて、テストするポートが複数存在する可能性があります。複数のポートがある場合、IP アドレスごとにこのコマンドを実行します。
- *1.3.6.1.4.1.1211.1.15.3.1.0* は、すべてのライブラリモデルで同じである、ライブラリの SNMP オブジェクト識別子 (OID) です。

コマンド出力にライブラリモデルが表示される場合、テストは成功です。次にコマンドの例を示します。

### 例11.5 成功した snmpget コマンド

```
# snmpget -v3 -u STAsnmp -a SHA -A authpwd1 -x DES -X privpwd1 -l authPriv 192.0.2.20 1.3.6.1.4.1.1211.1.15.3.1.0
```

```
SNMPv2-SMI::enterprises.1211.1.15.3.1.0 =STRING: "SL8500"
```

### 例11.6 失敗した snmpget コマンド — ネットワークのタイムアウト

```
# snmpget -v3 -u STAsnmp -a SHA -A authpwd1 -x DES -X privpwd1 -l authPriv 192.0.2.20 1.3.6.1.4.1.1211.1.15.3.1.0
```

```
Timeout: No Response from 192.0.2.20.
```

### 例11.7 失敗した snmpget コマンド — 無効なパスワード

```
# snmpget -v3 -u WrongUsr -a SHA -A authpwd1 -x DES -X WrongPwd -l authPriv 192.0.2.20 1.3.6.1.4.1.1211.1.15.3.1.0
```

```
snmpget: Authentication failure (incorrect password, community or key)
```

3. SNMP v2c 接続をテストします。

```
# snmpget -v2c -c public -l authPriv library_IP_addr
```

ここでは:

- `v2c` は SNMP v2c を示しています
- `public` はコミュニティー文字列を示しています。
- `authPriv` はコマンドでプライバシーが実行されることを示しています。
- `library_IP_addr` はライブラリのパブリックポートの IP アドレスです。

4. 両方の SNMP 接続テストが成功した場合、この手順を終了できます。いずれかのテストが失敗した場合、次の段階に進んで、必要に応じて疑わしいネットワークの問題をトラブルシューティングします。
5. STA サーバーからライブラリへのパケットルーティングを確認します。

```
# traceroute -I library_IP_addr
```

ここでは:



- `-I` (大文字の「I」) は、User Datagram Protocol (UDP) データグラム代わりに Internet Control Message Protocol (ICMP) エコーリクエストパケットを使用することを示しています。
- `library_IP_addr` はライブラリのパブリックポートの IP アドレスです。

出力に、ホップ数と各ホップに到達するための往復時間が示されます。往復時間 (コマンド出力の最後の行) は、1 秒未満であるべきです。そうではない場合、ネットワークのパフォーマンスをネットワーク管理者と確認してください。

6. STA サーバーとライブラリの間で送信される TCP/IP パケットをモニターします。

```
# tcpdump -v host library_IP_addr > /var/tmp/file_name &
```

ここでは:

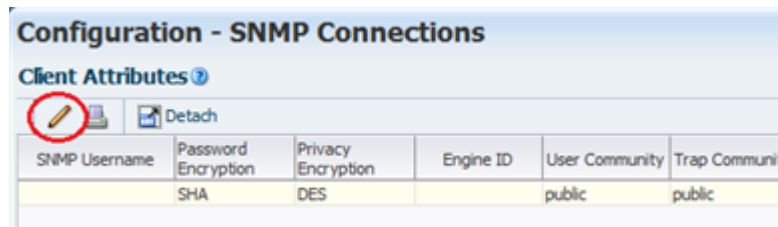
- `-v` は詳細出力を示しています。
- `host` は指定したホスト (この場合、ライブラリ) で送受信されるパケットのみを収集することを示しています。
- `library_IP_addr` はライブラリのパブリックポートの IP アドレスです。
- `file_name` は出力の保存先のファイル名です。

### 11.4.2. STA の SNMP クライアント設定の構成

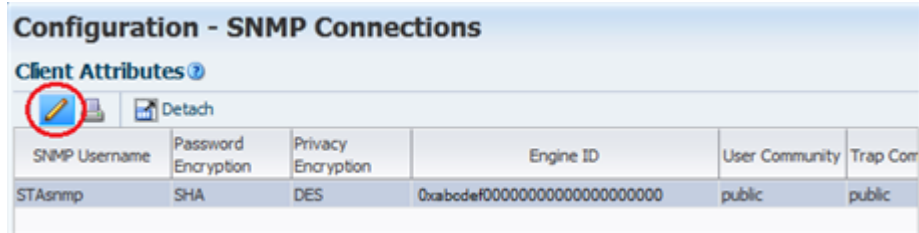
STA の SNMP クライアント設定を追加または変更するには、この手順を使用します。これらの設定では、1 つ以上のライブラリから SNMP データを受信するように STA を構成します。

サイトには STA インスタンスごとに 1 つの SNMP クライアントエントリのみが存在します。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**SNMP Connections**」を選択します。
2. 次のように進めます。
  - はじめてクライアント設定を構成するには、「**Client Attributes**」表で空の表行を選択して、「**Edit**」を選択します。



- 既存のクライアント設定を変更するには、「Client Attributes」表でエントリを選択して、「Edit」をクリックします。



SNMP Username	Password Encryption	Privacy Encryption	Engine ID	User Community	Trap Community
STAsnmp	SHA	DES	0xab0def00000000000000000000000000	public	public

「Define SNMP Client Settings」ダイアログボックスが表示されます。これが新しい構成の場合、フィールドは空白です。

3. 次のようにダイアログボックスの操作を完了します。指定する値は、ライブラリ上の対応する値と一致する必要があります。

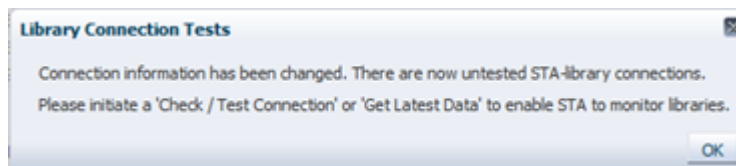
注:

STA が SNMP v2c 通信用に構成されたライブラリのみをモニターしている場合でも、SNMP v3 に適用されるフィールドを含め、すべてのフィールドに入力する必要があります。フィールドを空白のままにはできません。

- 「*STA SNMP Connection Username (Auth)*」— SNMP v3 ユーザー名を入力します。
- 「*Enter STA SNMP Connection Password (Auth)*」— 接続承認パスワードを入力します。
- 「*Enter Privacy Encryption Password (Privacy)*」— プライバシ暗号化パスワードを入力します。
- 「*User Community*」— ライブラリとの SNMP ハンドシェイクの場合、またはライブラリとの STA 通信に SNMP v2c を使用している場合、このフィールドは必須です。ライブラリで指定したコミュニティ名を入力します。デフォルト値は *public* です。
- 「*Trap Community*」— ライブラリとの通信に SNMP v2c を使用する場合にのみ使用されます。SNMP v3 を使用している場合、この値はデフォルトである「*public*」に設定されたままにします。SNMP v2c を使用している場合、ライブラリで指定したトラップコミュニティ名を入力します。

4. 「**Save**」をクリックします。

構成レコードが更新され、ライブラリとの SNMP 通信ハンドシェイクを確立または再確立するためにライブラリ接続テストを実行すべきであることを示すメッセージボックスが表示されます。



5. 「**OK**」をクリックしてメッセージを閉じます。

### 11.4.3. ライブラリへの SNMP 接続の構成

この手順を使用して、STA でモニターする各ライブラリへの SNMP 接続を構成するか、既存の接続を変更します。既存の接続では、ライブラリ IP アドレスへの変更など、モニター対象ライブラリでいずれかの SNMP 構成設定に対する変更がある場合に、この手順を実行する必要があります。

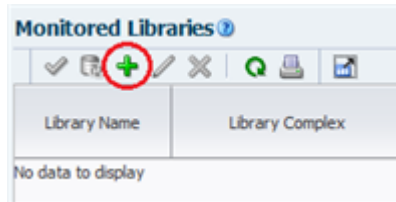
注:

一度に複数のライブラリ接続を構成している場合、ライブラリの中断を最小限に抑えるために、SNMP 接続をテストする前にすべてのライブラリに対してこの手順を実行してください。

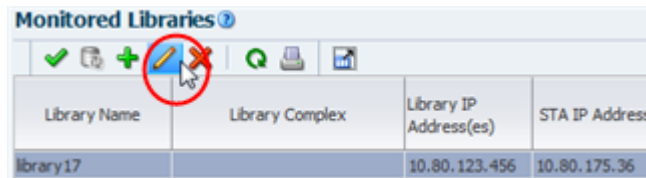
1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**SNMP Connections**」を選択します。

## 2. 次のように進めます。

- ライブラリへの接続をはじめて構成するには、「Monitored Libraries」ツールバーで「Add」をクリックします。



- 既存のライブラリ接続を変更するには、「Monitored Libraries」表でライブラリを選択して、「Edit」をクリックします。



「Define Library Connection Details」ダイアログボックスが表示されます。これが新しいライブラリ接続の場合、フィールドは空白です。

## 3. 次のようにダイアログボックスの操作を完了します。指定する値は、ライブラリ上の対応する値と一致する必要があります。

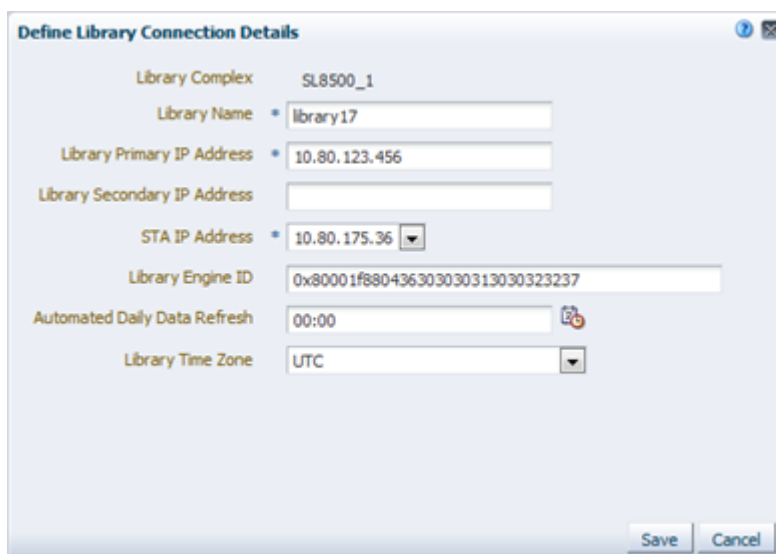
- 「*Library Name*」— STA ユーザーインターフェース画面全体でライブラリを識別する名前を入力します (たとえば、ライブラリホスト名)。
- 「*Library Primary IP Address*」— ライブラリでのプライマリパブリックポートの IP アドレスを入力します。ほかのモニター対象ライブラリの IP アドレスは指定できません。
- 「*Library Secondary IP Address*」— デュアル TCP/IP または冗長電子デバイスを使用している SL3000 および SL8500 ライブラリにのみ適用されます。ライブラリでのセカンダリパブリックポートの IP アドレスを指定します。ほかのモニター対象ライブラリの IP アドレスは指定できません。すべての SL500 および SL150 ライブラリを含め、その他すべてのライブラリではフィールドを空白のままにします。
- 「*STA IP Address*」— STA サーバーの IP アドレスを選択します。
- 「*Library Engine ID*」— このフィールドは変更しないでください。これは、ライブラリの一意的 SNMP エンジン ID であり、STA とライブラリ間の初期接続の確立時に自動的に指定されます。新しい接続では空白です。
- 「*Automated Daily Data Refresh*」— STA がライブラリから最新の構成データを収集する時間を指定します。データは、この時間に 24 時間ごとに自動的に収集さ

れます。通常、ライブラリの使用率が低くなる時間を選択する必要があります。デフォルトは 00:00 (深夜 12:00) です。24 時間制を使用してください。

**注意:**

このフィールドを空白のままにする場合、スケジュールされた自動ライブラリデータ収集は無効になります。この場合、STA ライブラリ構成データがライブラリと同期しなくなります。

- 「Library Time Zone」— ライブラリのローカルタイムゾーンを選択します。



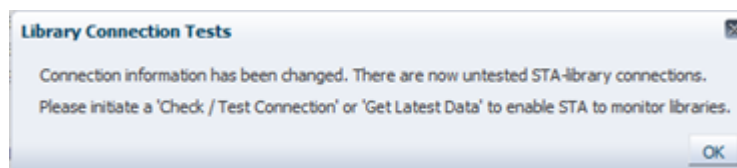
The dialog box titled "Define Library Connection Details" contains the following fields and values:

Library Complex	SL8500_1
Library Name	library17
Library Primary IP Address	10.80.123.456
Library Secondary IP Address	
STA IP Address	10.80.175.36
Library Engine ID	0x80001f880436303030313030323237
Automated Daily Data Refresh	00:00
Library Time Zone	UTC

Buttons: Save, Cancel

4. 「Save」をクリックします。

構成レコードが更新され、ライブラリとの SNMP 通信ハンドシェイクを確立または再確立するためにライブラリ接続テストを実行すべきであることを示すメッセージボックスが表示されます。



5. 「OK」をクリックしてメッセージを閉じます。

既存のライブラリ接続を変更した場合、「Monitored Libraries」表内の「Library Engine ID」フィールドはクリアされるため、SNMP 接続が切断されたことがわかります。

#### 11.4.4. ライブラリ SNMP 接続のテスト

この手順を使用して、STA とライブラリ間の SNMP 接続をテストして、通信ハンドシェイクを確立または再確立します。接続が切断されて SNMP トラップが失われるのを防ぐには、ラ

イブライまたは STA クライアントの SNMP 構成設定を追加または変更したときは必ず、モニター対象ライブラリごとにこの手順を実行してください。

一度にテストできるライブラリ接続は 1 つだけです。

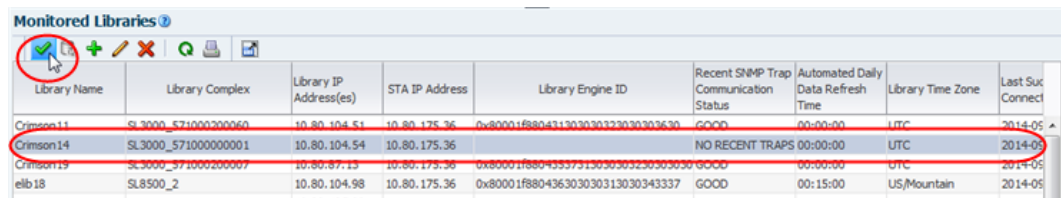
注:

接続テストを実行すると、着信 SNMP パケットが一瞬失われる可能性があるため、この手順は必要なときにのみ行うべきです。

注:

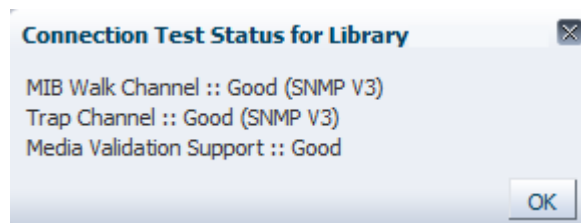
この手順を実行する前に、ライブラリが動作していることを確認できます。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**SNMP Connections**」を選択します。
2. 「**Monitored Libraries**」表で、ライブラリを選択して、「**Check / Test Connection**」をクリックします。



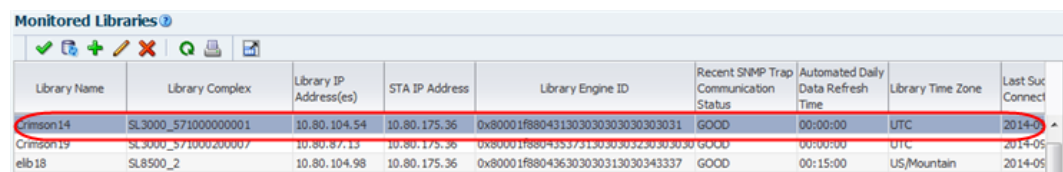
Library Name	Library Complex	Library IP Address(es)	STA IP Address	Library Engine ID	Recent SNMP Trap Communication Status	Automated Daily Data Refresh Time	Library Time Zone	Last Suc Connect
Crimson11	SL3000_571000200060	10.80.104.51	10.80.175.36	0x80001f880431303030323030303630	GOOD	00:00:00	UTC	2014-05
Crimson14	SL3000_571000000001	10.80.104.54	10.80.175.36	0x80001f8804313030303030303031	NO RECENT TRAPS	00:00:00	UTC	2014-05
Crimson19	SL3000_571000200007	10.80.87.13	10.80.175.36	0x80001f88043537313030303230303030	GOOD	00:00:00	UTC	2014-05
elb18	SL8500_2	10.80.104.98	10.80.175.36	0x80001f880436303030313030343337	GOOD	00:15:00	US/Mountain	2014-05

「MIB Walk Channel」、「Trap Channel」、および「Media Validation Support」テストの結果が示された「**Connection Test Status**」メッセージボックスが表示されます。



3. 「**OK**」をクリックして、メッセージボックスを閉じます。

「**Monitored Libraries**」表がテストの結果で更新されます。



Library Name	Library Complex	Library IP Address(es)	STA IP Address	Library Engine ID	Recent SNMP Trap Communication Status	Automated Daily Data Refresh Time	Library Time Zone	Last Suc Connect
Crimson14	SL3000_571000000001	10.80.104.54	10.80.175.36	0x80001f8804313030303030303031	GOOD	00:00:00	UTC	2014-05
Crimson19	SL3000_571000200007	10.80.87.13	10.80.175.36	0x80001f88043537313030303230303030	GOOD	00:00:00	UTC	2014-05
elb18	SL8500_2	10.80.104.98	10.80.175.36	0x80001f880436303030313030343337	GOOD	00:15:00	US/Mountain	2014-05

- 「*Library Complex*」フィールドは空白の場合、手動データ収集の実行後に指定されます。
- 「*Library Engine ID*」は、ライブラリの一意的 SNMP エンジン ID を示しています。
- 「*Last Connection Attempt*」は、接続テストが開始された日付と時間を示しています。
- 「*Last Successful Connection*」は、テストが成功した場合の完了時の日付と時間を示しています。
- 「*Last Connection Status*」はテストの結果を示しています。テストが失敗した場合、STA は、「*Last Connection Failure Detail*」フィールドに情報を表示します。(値全体を表示するには、列幅の拡大が必要になることがあります。)

---

注:

タイムアウトのためにテストが失敗した場合、ライブラリのアクティビティーが少ない期間中にこの手順を繰り返してください。

---

#### 11.4.5. 手動のデータ収集の実行

この手順を使用して、ライブラリの手動のデータ収集を開始して、最新のライブラリ構成データを取得します。この手順が正常に完了すると、STA はライブラリのモニタリングとデータでの分析の実行を開始します。

STA は、スケジュールされた時間に 24 時間ごとにデータ収集を自動的に実行しますが、ライブラリまたは STA クライアントの SNMP 構成設定を追加または変更するたびに、モニター対象ライブラリごとに手動のデータ収集を実行する必要があります。

データ収集には、ライブラリサイズに応じて数分から 1 時間かかる場合があります。

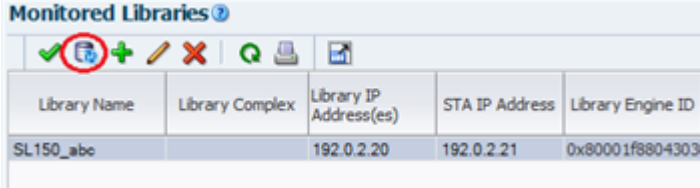
---

注:

複数のデータ収集を同時に実行できますが、一度に開始するのは 1 つにする必要があります。毎回別のライブラリを選択して、必要な回数だけこの手順を繰り返します。

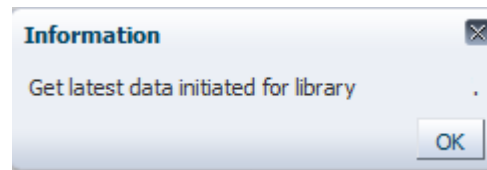
---

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**SNMP Connections**」を選択します。
2. 「**Monitored Libraries**」表でライブラリを選択して、「**Get latest data**」をクリックします。ライブラリは一度に 1 つのみ選択できます。



Library Name	Library Complex	Library IP Address(es)	STA IP Address	Library Engine ID
SL150_abc		192.0.2.20	192.0.2.21	0x80001f8804303

確認メッセージボックスが表示されます。



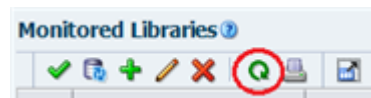
3. 「OK」をクリックして、メッセージボックスを閉じます。

データ収集が続行され、「Monitored Libraries」表が結果で更新されます。

- 「Library Complex」は、ライブラリコンプレックス ID を示しています。
- 「Library Engine ID」は、ライブラリの一意的 SNMP エンジン ID を示しています。
- 「Last Connection Attempt」は、データ収集が開始された日付と時間を示しています。
- 「Last Successful Connection」は、データ収集が成功した場合の完了時の日付と時間を示しています。
- 「Last Connection Status」は次のように更新されます。
  - 「IN PROGRESS」: データの収集プロセスが進行中です。
  - 「SUCCESS」: データ収集が成功しました。STA は、ライブラリからの交換データの受信を開始します。
  - 「FAILED」: データ収集に失敗しました。可能な場合、STA は、「Last Connection Failure Detail」フィールドに情報を表示します。(値全体を表示するには、列幅の拡大が必要になることがあります。)

注:

ステータスは 4 分ごとに更新され、デフォルトの画面リフレッシュ間隔は 480 秒です。ただし、「Refresh Table」ボタンをクリックして、表のリフレッシュをいつでも強制的に行えます。



- 「Recent SNMP Trap Communication Status」に、「MISSED HEARTBEAT」が断続的に示されることがあります。これは正常なことです。

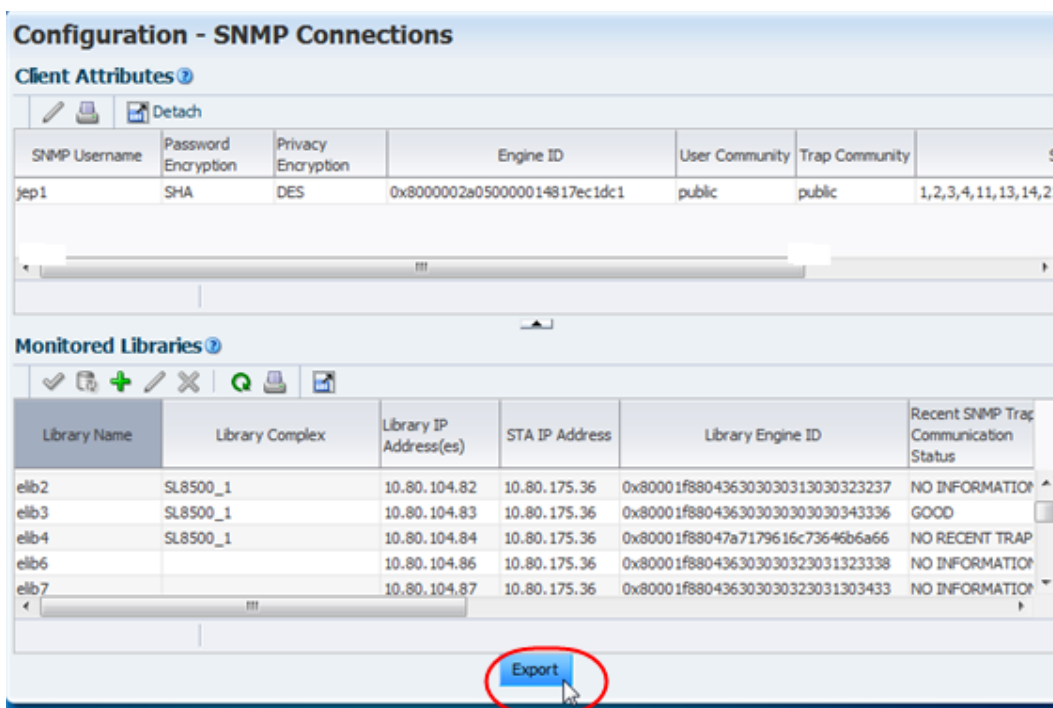


## 11.4.6. SNMP 接続設定のテキストファイルへのエクスポート

この手順を使用して、すべての SNMP 接続情報をテキストファイルにエクスポートします。パスワードはファイルに含まれていません。

このファイルは、接続問題のトラブルシューティングや接続情報の再入力時に役立ちます。例11.8「SNMP 構成ファイルのサンプル」はサンプルファイルです。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**SNMP Connections**」を選択します。



2. 画面の下部で、「**Export**」をクリックします。

ファイルは名前 *SnmConfiguration.txt* で保存されます。

### 例11.8 SNMP 構成ファイルのサンプル

Define SNMP Client Settings

Client Attributes

```

STA SNMP Connection Username (Auth) = abc1
Connection Password Encryption (Auth) = Not Specified
Connection Password Encryption (Auth) = SHA
Privacy Encryption Password (Privacy) = Not Specified
Connection Password Encryption (Auth) = DES

```

```

STA Engine ID = 0x8000002a050000014817ec1dc1
SNMP Trap Levels = 1, 2, 3, 4, 11, 13, 14, 21, 25, 27, 41, 45, 61, 63, 65, 81, 85, 100
Trap Community = public
User Community = public
V2C Fallback = false

```

#### Monitored Libraries

```

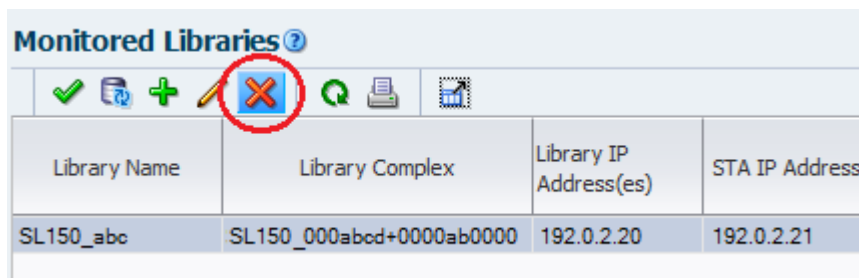
-----
STA IP Address = 10.80.145.78
Library Name = SL3000A
Library Complex = SL3000_5720123200089
Library Primary IP Address = 10.80.104.51
Library Secondary IP Address = Not Specified
Library Engine ID = 0x80001f880431303030123123303000
Requested MIB Walk Time = 00:00:00
Library Serial Number = 5720123200089
Library Time Zone = UTC
Recent SNMP Trap Communication Status = GOOD
Last Connection Status = SUCCESS
Last Connection Failure Detail = Not Specified

```

### 11.4.7. STA からのライブラリ接続の削除

STA からライブラリの SNMP 接続を削除するには、この手順を使用します。ライブラリのすべての既存のデータが STA の画面から削除されますが、STA データストアには保持されます。この手順の影響の詳細は、「[取り外したライブラリ](#)」を参照してください。

1. ナビゲーションバーで、「**Setup & Administration**」を選択して、「**SNMP Connections**」を選択します。
2. 「Monitored Libraries」テーブルで、削除するライブラリを選択し、「**Delete**」をクリックします。



3. ライブラリから STA SNMP トラップ受信者を削除します。

```
snmp deleteTrapRecipient id index
```

ここでは:

- *index* は削除するトラップ受信者のインデックス番号です。

例:

```
ADMIN> snmp deleteTrapRecipient id 1

requestId 1

requestId 2

Device 1,0,0,0

Success true

Done

Failure Count 0

Success Count 1

COMPLETED
```

## 11.5. ライブラリで実行される SNMP 保守タスクのサポート

必要に応じてこれらの手順を使用して、ライブラリで SNMP 接続情報を表示または変更します。

- 「[ライブラリが動作していることの確認](#)」
- 「[すべての SNMP トラップ受信者の表示](#)」
- 「[STA トラップ受信者の削除または変更](#)」

### 11.5.1. ライブラリが動作していることの確認

この手順を使用して、ライブラリが完全に初期化され、動作していることを確認します。ライブラリが完全に初期化されていない場合、これらのプロセスは失敗するため、SNMP 接続テストまたはデータ収集を行う前にこの手順を実行できます。

---

注:

一度に複数のライブラリ接続を構成している場合、ライブラリの中断を最小限に抑えるために、SNMP 接続をテストする前にすべてのライブラリに対してこの手順を実行してください。

---

この手順は、SL コンソールまたは SL150 ブラウザベースのインタフェースから実行します。

#### SL500 ライブラリ

1. SL コンソールを使用してライブラリにログインします。
2. 「**Tools**」メニューで、「**System Detail**」を選択します。

3. ナビゲーションツリーで、「**Library**」を選択します。
4. 「**Status**」タブを選択します。
5. ライブラリの「Operational State」に「*Operational*」と示されていることを確認します。

### SL3000 および SL8500 ライブラリ

1. SL コンソールを使用してライブラリにログインします。
2. 「**Tools**」メニューで、「**System Detail**」を選択します。
3. ナビゲーションツリーで、「**Library**」を選択します。
4. 「**Status**」タブを選択して、「**General**」タブを選択します。
5. 「Device State」に「*Ready*」と示されていることを確認します。

### SL150 ライブラリ

1. ブラウザベースのユーザーインターフェースにログインします。
2. 画面の上部で、「Health」フィールドに「*Operational*」と示されていることを確認します。

## 11.5.2. すべての SNMP トラップ受信者の表示

この手順を使用して、ライブラリで定義されたすべてのトラップ受信者を表示して、設定を確認します。

### SL150 を除くすべてのライブラリ

1. ライブラリ CLI にログインします。
2. 次のコマンドを発行します。

```
snmp listTrapRecipients
```

例:

```
ADMIN> snmp listTrapRecipients
```

```
requestId
```

```
requestId 1
```

```
Attributes Auth SHA
```

```
AuthPass *****
```

```
Engine Id 0x80001f88807ad87e39453f
```

```
Host 192.0.2.20

Index 1

Name STAuser

Port 162

Priv DES

Priv Pass *****

Trap Level 1,2,3,4,11,13,14,21,25,27,41,45,61,63,65,81,85,100

Version v3

Object Snmp snmp

Done

Failure Count 0

Success Count 1

COMPLETED
```

3. 表示された出力から STA トラップ受信者のインデックス番号をメモします。上の例では、インデックス番号は「1」です。

## SL150 ライブラリ

1. ブラウザベースのユーザーインターフェースにログインします。
2. ナビゲーションツリーで、「SNMP」を選択して、「SNMP Trap Recipients」を選択し、トラップ受信者のリストを表示します。

### 11.5.3. STA トラップ受信者の削除または変更

この手順を使用して、ライブラリで STA トラップ受信者を変更または削除します。SL150 を除くすべてのライブラリモデルでは、トラップ受信者定義を変更するには、最初に既存の定義を削除してから、新しい定義を追加する必要があります。

#### SL150 を除くすべてのライブラリ

1. ライブラリ CLI にログインします。
2. トラップ受信者を削除します。

```
snmp deleteTrapRecipient id index
```

ここでは:

- *index* は削除するトラップ受信者のインデックス番号です。

例:

```
ADMIN> snmp deleteTrapRecipient id 1
```

```
requestId 1
```

```
requestId 2
```

```
Device 1,0,0,0
```

```
Success true
```

```
Done
```

```
Failure Count 0
```

```
Success Count 1
```

```
COMPLETED
```

3. 必要に応じて、トラップ受信者を追加し直します。手順については、『[STA インストールおよび構成ガイド](#)』を参照してください。

### SL150 ライブラリ

1. ブラウザベースのユーザーインターフェースにログインします。
2. ナビゲーションツリーで、「**SNMP**」を選択して、「**SNMP Trap Recipients**」を選択します。
3. リストからトラップ受信者を選択します。
4. 「**Edit Trap Recipient**」または「**Delete Trap Recipient**」を選択します。
5. トラップ受信者を変更する場合は、設定を変更し、「**Save**」をクリックします。

## 11.6. 特殊な SNMP 接続更新タスク

次のタスクは、特殊な状況でのみ必要です。次を参照してください

- [「ライブラリの冗長電子デバイスの切り替え後の SNMP 接続の更新」](#)
- [「ライブラリファームウェアのアップグレード後の SNMP 接続の更新」](#)
- [「STA サーバーの IP アドレスへの変更後に SNMP 接続を更新」](#)

## 11.6.1. ライブラリの冗長電子デバイスの切り替え後の SNMP 接続の更新

---

注:

この手順は、SL3000 および SL8500 ライブラリにのみ適用されます。

---

STA が冗長電子デバイスをサポートするように構成されている場合に、コントローラカードの切り替えが行われると、STA は、セカンダリライブラリ IP アドレスとして指定されたポートを介してライブラリとの接続を保持します。ただし、切り替えの完了後に、次の手動の手順も実行する必要があります。

この手順は、STA ユーザーインターフェースから実行します。

1. 新しくアクティブになったコントローラカードの初期化が完全に終了してから、15 分待ちます。
2. 接続テストを実行して、ライブラリの SNMP 接続を検証します。手順については、「[ライブラリ SNMP 接続のテスト](#)」を参照してください。
3. データ収集を実行して、最新のライブラリ構成データを取得します。手順については、「[手動のデータ収集の実行](#)」を参照してください。
4. 冗長電子デバイスの切り替え後にコントローラカードを交換した場合、ライブラリの IP アドレスが変更されるため、STA に SNMP 接続情報を再度入力する必要があります。手順については、「[ライブラリへの SNMP 接続の構成](#)」を参照してください。

冗長電子デバイスをサポートするよう STA を構成する方法の詳細は、『[STA インストールおよび構成ガイド](#)』を参照してください。

## 11.6.2. ライブラリファームウェアのアップグレード後の SNMP 接続の更新

---

注:

この手順は SL150 ライブラリには適用されません。

---

次のバージョン以上のライブラリファームウェアにアップグレードしたあと、この手順を使用してライブラリと STA の SNMP 構成を更新します。

- SL500 – FRS 1468
- SL3000 – FRS 4.0
- SL8500 – FRS 8.0

これらのファームウェアバージョン以降、ライブラリエンジン ID は新しい 32 ビットの値で生成されます。この手順を実行しなかった場合、STA はライブラリから SNMP トラップを受信できません。

この手順は、2 つのパートに分かれています。

- [STA での SNMP 設定の更新](#)
- [ライブラリでの SNMP 設定の確認](#)

### STA での SNMP 設定の更新

1. STA ユーザーインターフェイスにログインします。
2. アップグレードしたライブラリのライブラリ接続の詳細を編集します。[「ライブラリへの SNMP 接続の構成」](#)を参照してください。
3. 「Define Library Connection Details」ダイアログボックスで「Library Engine ID」フィールドをクリアして、「**Save**」をクリックします。これによって、STA がライブラリに再接続したときに、エンジン ID を新しい値に強制的に更新します。
4. ライブラリとの SNMP 接続を再確立します。手順については、[「ライブラリ SNMP 接続のテスト」](#)を参照してください。
5. SNMP 接続テーブルに表示された新しい SNMP エンジン ID を記録します。この値は、手順の次のパートで使用します。

### ライブラリでの SNMP 設定の確認

1. アップグレードしたライブラリの CLI にログインします。
2. すべての SNMP トラップ受信者を表示します。手順については、[「すべての SNMP トラップ受信者の表示」](#)を参照してください。
3. STA サーバーについて表示される SNMP バージョンレベルを確認して、次のように続行します。
  - 「v2c」の場合、この手順を終了できます。
  - 「v3」の場合、次の段階に進みます。
4. 表示されたエンジン ID と、この手順の最初のパートでメモした ID を比較します。
  - 一致した場合、この手順を終了できます。
  - 一致しなかった場合は、次の段階に進みます。
5. STA トラップ受信者のインデックス番号を記録します。
6. STA トラップ受信者を削除します。手順については、[「STA トラップ受信者の削除または変更」](#)を参照してください。



7. 新しいライブラリエンジン ID を使用して、STA SNMP v3 トラップ受信者を追加し直します。手順については、『STA インストールおよび構成ガイド』で SNMP v3 トラップ受信者の作成手順を参照してください。

### 11.6.3. STA サーバーの IP アドレスへの変更後に SNMP 接続を更新

STA サーバーの IP アドレスが変更された場合、この手順を使用して、STA とすべてのモニター対象ライブラリ間の SNMP 接続を確認します。モニター対象ライブラリごとに完全な手順を実行する必要があります。

手順は次のパートに分かれています。

- [ネットワークと SNMP 接続の確認](#)
- [ライブラリでの SNMP 設定の更新](#)
- [STA での SNMP 設定の更新](#)

#### ネットワークと SNMP 接続の確認

1. STA とライブラリ間の良好な接続を確認します。手順については、「[ライブラリとの SNMP 通信の検証](#)」を参照してください。

#### ライブラリでの SNMP 設定の更新

1. STA トラップ受信者のインデックス番号を取得します。手順については、「[すべての SNMP トラップ受信者の表示](#)」を参照してください。
2. 古い IP アドレスを持つ STA トラップ受信者を削除します。手順については、「[STA トラップ受信者の削除または変更](#)」を参照してください。
3. 新しい IP アドレスを持つ STA トラップ受信者を追加します。手順については、『STA インストールおよび構成ガイド』を参照してください。

#### STA での SNMP 設定の更新

1. SNMP 接続設定内の STA の IP アドレスを更新します。手順については、「[ライブラリへの SNMP 接続の構成](#)」を参照してください。
2. ライブラリとの SNMP 接続を再確立します。手順については、「[ライブラリ SNMP 接続のテスト](#)」を参照してください。
3. ライブラリ構成データを更新します。ドライブまたはメディアの構成変更がライブラリで発生した場合にのみ、この段階が必要です。手順については、「[手動のデータ収集の実行](#)」を参照してください。

## 11.7. SNMP 接続のトラブルシューティングタスク

次のタスクは、STA とモニター対象ライブラリ間の SNMP 接続の問題を診断して解決するために役立ちます。発生している問題に適用される手順を使用してください。

- 「失敗した MIB ウォークチャンネルテストのトラブルシューティング」
- 「失敗したトラップチャンネルテストのトラブルシューティング」
- 「失敗したメディア検証サポートテストのトラブルシューティング」
- 「失敗したトラップ処理のトラブルシューティング」

失敗した接続テストとともに表示されるメッセージの例については、「[接続テストのステータスメッセージ](#)」を参照してください。

### 11.7.1. 失敗した MIB ウォークチャンネルテストのトラブルシューティング

MIB ウォークチャンネルテストは、ライブラリの初期化、ネットワーク接続性、正しい SNMP クライアント設定、および正しいライブラリファームウェアを検査します。このテストが失敗した場合、次の 1 つ以上の問題が原因になっている可能性があります。

- STA が構成されていない。
- ライブラリが初期化されていない。
- ライブラリファームウェアが STA の最小を満たしていない。
- STA サーバーとライブラリ間にネットワークの問題がある。
- 静的 IP アドレスが STA サーバーまたはライブラリに割り当てられていない。
- SNMP がライブラリで有効になっていない。
- SNMP クライアント設定が STA サーバーとライブラリの間で一致しない。

この手順を使用して、問題を診断して解決します。ライブラリで実行する段階の詳細な手順については、『[STA インストールおよび構成ガイド](#)』を参照してください。

#### ライブラリで実行する段階

1. ライブラリ CLI にログインします。
2. ライブラリが完全に初期化されていることを確認します。手順については、「[ライブラリが動作していることの確認](#)」を参照してください。
3. ライブラリから STA サーバーへの通信を確認します。このコマンドは、SL150 では使用できません。

- SL8500 および SL3000:

```
traceRoute sta_server_IP_addr
```

- SL500:

```
tracroute sta_server_IP_addr
```

ここでは:

- `sta_server_IP_addr` は、STA サーバーでのパブリックポートの IP アドレスです。

出力に、ホップ数と各ホップに到達するための往復時間が示されます。往復時間 (コマンド出力の最後の行) は、1 秒未満であるべきです。そうではない場合、ネットワークのパフォーマンスをネットワーク管理者と確認してください。

4. SNMP がパブリックポートで有効になっていることを確認します。手順については、『*STA インストールおよび構成ガイド*』でライブラリの SNMP を有効にする手順を参照してください。
5. SNMP v2c ユーザーが 1 つのみ存在することを確認します。手順については、『*STA インストールおよび構成ガイド*』で SNMP v2c ユーザーが 1 つ存在することを確認するための手順を参照してください。
6. SNMP v3 ユーザーが正しく追加されたことを確認します。
  - SL500、SL3000、および SL8500 ライブラリで、`snmp listUsers` コマンドを使用して SNMP ユーザーのリストを表示します。SL150 ライブラリの場合、ナビゲーションツリーで、「**SNMP**」を選択して、「**SNMP Trap Recipients**」を選択します。
  - SNMP v3 ユーザーを追加するには、『*STA インストールおよび構成ガイド*』で SNMP v3 ユーザーを作成するための手順を参照してください。
7. 静的 IP アドレスがライブラリに割り当てられていることを確認します。手順については、『*STA インストールおよび構成ガイド*』でライブラリ IP アドレスを取得する手順を参照してください。
8. ライブラリと STA サーバーの両方でその他すべての段階を実行したあとで、SNMP v3 ユーザーを削除して再度追加することを検討してください。

### STA サーバーで実行する段階

1. STA サーバーにログインします。
2. STA サーバーが静的 IP アドレスを使用していることを確認します。
3. STA サーバーからライブラリへの通信を確認します。

```
# traceroute -I library_IP_addr
```

ここでは:

- `-I` (大文字の「I」) は、User Datagram Protocol (UDP) データグラムの代わりに Internet Control Message Protocol (ICMP) エコーリクエストパケットを使用することを示しています。
- `library_IP_addr` はライブラリのパブリックポートの IP アドレスです。

出力に、ホップ数と各ホップに到達するための往復時間が示されます。往復時間 (コマンド出力の最後の行) は、1 秒未満であるべきです。そうではない場合、ネットワークのパフォーマンスをネットワーク管理者と確認してください。

4. STA サーバーがライブラリのパブリックポートに到達できることを確認するには、プライマリライブラリ IP アドレスの ping を行なって、該当する場合はセカンダリ IP アドレスの ping を行います。
5. UDP ポート 161 および 162 が、STA サーバーとライブラリの間のすべてのネットワークノードで有効になっていることを確認します。手順については、[「ライブラリとの SNMP 通信の検証」](#)を参照してください。
6. STA の「SNMP Client Attributes」画面の設定が、ライブラリ上の SNMP v3 ユーザーとトラップ受信者の対応する設定と正確に一致することを確認します。手順については、[333 ページの「STA の SNMP クライアント設定の構成」](#)を参照してください。
7. STA の「Monitored Libraries」画面の設定がライブラリについて正しいことを確認します。手順については、[335 ページの「ライブラリへの SNMP 接続の構成」](#)を参照してください。

## 11.7.2. 失敗したトラップチャネルテストのトラブルシューティング

トラップチャネルテストは、ライブラリがテストトラップ (13) を STA サーバーに送信するように要求します。テストが失敗した場合、STA は、最後のトラップまたは通知を受信した日付と時間を示しています。テストが失敗したか、「Unknown」と示される場合、次の 1 つ以上の問題が原因になっている可能性があります。

- ライブラリファームウェアがテストトラップをサポートしていない。
- STA がライブラリでトラップ受信者として正しく構成されていない。
- 最近 STA 2.0.x にアップグレードした場合、STA サーバーの IP アドレスがライブラリの接続詳細で指定されていない。

この手順を使用して、問題を診断して解決します。ライブラリで実行する段階の詳細な手順については、『[STA インストールおよび構成ガイド](#)』を参照してください。

1. ライブラリが推奨以上のファームウェアを実行していることを確認します。詳細は、『[STA 要件ガイド](#)』を参照してください。より低いファームウェアバージョンではテストトラップ (13) がサポートされない可能性があります。
2. STA 2.0.x へのアップグレード後に、STA サーバーの IP アドレスをライブラリの接続詳細で選択したことを確認します。手順については、『[ライブラリへの SNMP 接続の構成](#)』を参照してください。
3. `snmp engineId` (SL500 ライブラリの場合) または `snmp engineId print` (SL3000 および SL8500 ライブラリの場合) コマンドを使用して、ライブラリエンジン ID を表示します。(SL150 ライブラリには適用されません。)
4. STA がトラップ受信者として正しく構成されていることを確認します。手順については、『[すべての SNMP トラップ受信者の表示](#)』を参照してください。
  - 「*Engine Id*」: 段階 3 で表示されたライブラリエンジン ID と一致する必要があります。入力には、大文字が含まれてはいけません。SL8500 および SL3000 ライブラリの場合、入力には 0x 接頭辞が含まれている必要があります (SL500 でもこの接頭辞が表示されることがあります)。
  - 「*Host*」: STA サーバーの IP アドレス。
  - 「*Version*」: 「v3」である必要があります。
  - 「*Auth*」: 「SHA」である必要があります。
  - 「*Priv*」: 「DES」である必要があります。
  - 「*Auth Pass*」および「*Priv Pass*」: STA の「SNMP Client Attributes」画面のパスワード、および SNMP ユーザーの作成時に指定したパスワードと一致する必要があります。SL500 ライブラリの場合、パスワードに単一引用符がテキストとして含まれていないことを確認します。
  - 「*Trap Level*」: トラップ 13 が含まれている必要があります。
5. 段階 3 のライブラリエンジン ID が、STA の「Monitored Libraries」画面の値と一致することを確認します。詳細は、『[ライブラリへの SNMP 接続の構成](#)』を参照してください。

一致しない場合、画面の「*Library Engine ID*」フィールドをクリアして、ライブラリ接続テストを実行します。手順については、[337 ページの「ライブラリ SNMP 接続のテスト」](#)を参照してください。

### 11.7.3. 失敗したメディア検証サポートテストのトラブルシューティング

メディア検証サポートテストでは、STA メディア検証をサポートするために必要な最小のライブラリファームウェアと構成を検査します。ライブラリ構成でメディア検証がサポートされない

場合、テストでは「*Not Applicable*」と報告されます。メディア検証をサポートできるライブラリでテストが失敗した場合、次の 1 つ以上の問題が原因になっている可能性があります。

- ライブラリファームウェアがメディア検証をサポートしていない。
- SNMP v3 が構成されていない。
- メディア検証プール内にドライブがない。
- メディア検証プール内に空のドライブまたは予約可能なドライブがない。

この手順を使用して、問題を診断して解決します。ライブラリで実行する段階の詳細な手順については、『*STA インストールおよび構成ガイド*』を参照してください。

1. ライブラリどドライブがメディア検証に必要な最小のファームウェアレベルを満たしていることを確認します。詳細は、『*STA 要件ガイド*』を参照してください。
2. ライブラリと STA サーバーの両方で SNMP v3 ユーザーが構成されていること、およびライブラリでのトラップ受信者にする STA サーバーが構成されていることを確認します。『*STA インストールおよび構成ガイド*』でライブラリの SNMP 構成の段階を確認します。

メディア検証の構成に関する詳細は、『*STA ユーザーズガイド*』を参照してください。

#### 11.7.4. 失敗したトラップ処理のトラブルシューティング

トラップが STA サーバーによって受信されていないか、トラップが STA によって処理されていない場合、この手順を使用します。

1. STA サーバーにシステムの root ユーザーとしてログインします。
2. STA サーバーが静的 IP アドレスを使用していることを確認します。
3. STA サーバーとライブラリの間で送信される TCP/IP パケットをモニターします。

```
# tcpdump -v host library_IP_addr > /var/tmp/file_name &
```

ここでは:

- `-v` は詳細出力を示しています。
  - `host` は指定したホスト (この場合、ライブラリ) で送受信されるパケットのみを収集することを示しています。
  - `library_IP_addr` はライブラリのパブリックポートの IP アドレスです。
  - `file_name` は出力の保存先のファイル名です。
4. 出力で、`.snmptrap` と `SNMPv3` を探します。データ収集要求のネットワークトラフィックには `.snmp` が含まれています。

ライブラリ上でアクティビティがあっても、トラップを受信していない場合、ライブラリトラップ受信者のエントリが正しいことを確認します。「[失敗したトラップチャネルテストのトラブルシューティング](#)」を参照してください。

5. SNMP ポート 162 が STA で使用可能であることを確認します。STA トラップリスナーは、このポートを使用してトラップを処理します。

必要に応じて、次の段階を実行して、このポートを介した通信をトラブルシューティングします。

- a. `/Oracle_storage_home/Middleware/user_projects/domains/tbi/servers/staAdapter/logs/staAdapter.log` ファイルで次のような「SEVERE」エラーを調べます。

```
"SEVERE: SNMP Trap/Inform Listener Port 162 is NOT bindable.Stop the application currently bound to that port."
```

- b. ポート 162 がすでに使用中の場合、これを使用しているプロセスを判別します。

```
# netstat -ap |grep -I snmp
```

```
# netstat -anp |grep ":162"
```

- c. ポートに関連するプロセスを調べるか、システムのブート中に開始された可能性があるサービスを確認します。

```
# chkconfig --list
```

6. `snmpd` または `snmtrapd` サービスが実行中の場合、次の段階を実行して、これらのサービスが永続的にオフになっていることを確認します。

- a. SNMP サービスを構成解除します。

```
# chkconfig snmpd off
```

```
# chkconfig snmtrapd off
```

- b. SNMP サービスを停止します。

```
# service snmtrapd stop
```

```
# service snmpd stop
```

- c. STA サービスを停止して再起動します。

```
# STA stop all
```

**# STA start all**

7. STA の「Notifications」画面で一部のトラップが報告される場合、ライブラリでのトラップ受信者の作成時にすべてのトラップレベルを指定したことを確認します。サポートされるトラップレベルのリストについては、『*STA インストールおよび構成ガイド*』で SNMP v3 トラップ受信者の作成手順を参照してください。
8. SL500 の場合、サポートされるバージョンの SL コンソールでライブラリを構成したことを確認します。前のバージョンの SL コンソールでは、入力できるトラップレベル文字の数が制限されます。
9. SL500 および SL150 ライブラリの場合、ボリュームラベル形式が正しく設定されていることを確認します。詳細は、『*STA インストールおよび構成ガイド*』でボリュームラベル形式の設定手順を参照してください。



## STA の分析の理解

このセクションでは、STA によって提供されるデータを解釈して使用するために役立つ概念とタスクについて説明します。ここでは、STA の機能の基本を理解していることを前提としています。

この章の内容は次のとおりです。

- データの保存
- 不完全な交換
- STA 画面で選択できない値
- 取り外したドライブとメディア
- 取り外したライブラリ
- 「欠落した」メディア
- 重複したボリュームシリアル番号
- ホストと STA ドライブ識別子のマップ

### 12.1. データの保存

STA データストア内のデータは、履歴レコードとして無期限に保存され、削除されません。ただし、ユーザー名の「Data Handling」設定によっては、取り外したリソース (ライブラリ、ドライブ、およびメディア) のデータは、STA データ画面で非表示になることがあります。詳細は、「[取り外したドライブとメディア](#)」と「[取り外したライブラリ](#)」を参照してください。

STA がはじめてライブラリ、ドライブ、またはメディアの追跡を開始すると、そのリソースには STA の「Start Tracking」のタイムスタンプが割り当てられます。リソースがあとでライブラリ環境から取り外された場合、STA の「Stop Tracking」のタイムスタンプが割り当てられます。さらに、リソースがあとで再度追加された場合、STA の「Start Tracking」属性には、STA がはじめてリソースの追跡を開始したときに割り当てられた元のタイムスタンプが反映されます。

注:

データベースが大きくなるのを最小限に抑えるために、定期的に、MySQL のイベントスケジューラは、処理された SNMP レコードをデータベースからパージします。

## 12.2. 不完全な交換

開始ホスト要求の性質によっては、メディアの交換は処理して完了するために数分から数時間かかることがあります。交換および更新ドライブとメディアの健全性に関する完全な分析を実行するには、STA が、メディアのマウントイベントとマウント解除イベントの両方から情報を受信する必要があります。交換の進行中にライブラリ接続が切断されると、「Exchanges Overview」画面に不完全な交換が表示されることがあります。

次に、ライブラリ接続が切断される場合がある理由を示します。

- STA ユーザーインターフェースからライブラリ接続を手動で削除します。
- サーバーの保守または STA のアップグレードを実行するために STA を停止します。
- STA サーバーに影響を与える電源またはネットワークの停止が発生します。

ライブラリ接続が復元されると、STA はすべての新しい交換を正常に処理して報告します。ただし、接続のダウン中には、STA は交換情報を受信せず、これによって次の影響があります。

- STA は、接続のダウンタイム中に完全に開始および終了した交換の記録を受信しません。これらの交換は STA 画面には表示されず、ドライブまたはメディアの健全性の計算時に使用されません。
- STA は、接続のダウン中に開始または終了した交換に関する部分的な情報しか受信しません。たとえば、接続のダウン中に開始して、接続の復元後に終了した交換の場合、STA はマウント解除情報のみを受信します。逆に、STA は、接続のアップ中に開始しても、接続のダウン中に終了した交換についてはマウント情報しか受信しません。これらの部分的な交換については、STA は、完全な分析を実行するために十分な情報を持っておらず、「Exchanges Overview」画面上の「Drive and Media Health」、「Exchange Elapsed Time」、「Exchange Mount Time」、「Media and Drive Exchange Status」などの属性は、null または「Unknown」に設定されます。さらに、これらの交換は、ドライブまたはメディアの健全性の計算時には使用されません。

## 12.3. STA 画面で選択できない値

画面で選択できない(またはグレー表示された) データ要素またはリソース識別子が表示されることがあります。これらのデータ要素は通常、追加の詳細へのアクティブなリンクですが、選択不可の値はリンクではありません。次に、選択不可になる可能性がある要素を示します。

- 取り外したドライブ。詳細は、「[取り外したドライブとメディア](#)」を参照してください。
- 取り外したメディア。詳細は、「[取り外したドライブとメディア](#)」を参照してください。

- まだ完了していない交換。交換が完了したら、識別子は選択不可ではなくなり、リンクがアクティブになります。
- 対応する要素が存在しないアラートイベントタイプ

選択不可のデータ要素は、進行中のアップグレードによっても発生することがあります。処理されるにつれて、徐々にアクティブになります。

## 12.4. 取り外したドライブとメディア

デフォルトでは、テープライブラリ環境から取り外されたドライブとメディアは、STA 画面には表示されません。STA ユーザー名の「Data Handling」設定では、取り外したドライブ、取り外したメディア、またはその両方の表示をオンにできます。選択は即時に有効になるため、ニーズに応じて、取り外したドライブとメディアをログインセッション全体で選択的に表示したり非表示にしたりできます。詳細は、次のセクションを参照してください。

- これらの表示設定の変更手順については、『[STA 画面基本ガイド](#)』。
- 取り外したドライブとメディアが「Overview」画面に表示される方法については、「[取り外したドライブとメディアの特定](#)」。
- 計算値がこれらの表示設定によって受ける影響については、「[計算される合計に対する取り外したドライブとメディアの影響](#)」。

---

注:

取り外したドライブとメディアのデータは STA データストアから削除されません。詳細は、「[データの保存](#)」を参照してください。

---

### 12.4.1. 取り外したドライブとメディアの特定

取り外したドライブまたはメディアを表示することを選択する場合、「Drives – Overview」と「Media – Overview」画面の次の属性値で特定されます。

- STA の「Stop Tracking」の日付は、いずれのモニター対象ライブラリにもドライブまたはメディアが存在していないと STA が判断した日付と時間を示します。ドライブまたはメディアが取り外された時間と、ライブラリが STA に変更を通知する時間の間には遅れがある可能性があるため、この値は、項目が物理的に取り外された時間とはわずかに異なる場合があります。
- 次の属性が「REMOVED」に設定されます。
  - 「Library Complex Name」
  - 「Drive Library Name」または「Media Library Name」
  - 「Library Model」

- 「Partition Type」
- 「Partition Name」
- 「Physical Address」

「Exchanges – Overview」や「Media Validation Overview」などのアクティビティ画面では、取り外したドライブとメディアの識別子は選択不可です。詳細は、「[STA 画面で選択できない値](#)」を参照してください。

## 12.4.2. 計算される合計に対する取り外したドライブとメディアの影響

STA は、テープライブラリシステムに関する最新情報と、ある期間にわたって収集された履歴情報の両方を提供します。ドライブとメディアが追加されてシステムから取り外されると、STA の計算に使用されるドライブのメディアの合計数も異なります。これらのばらつきは、30 日のローリング平均などの履歴サマリー値と、現在表示されているレコードのみを使用して計算された対応する値の間の相違によって発生する可能性があります。

- 履歴サマリー — ローリングの 30 日および日次のサマリーと平均は常に、レポート期間中のシステム内のドライブとメディアの数に基づいて計算されるため、STA ユーザー名の取り外したドライブとメディアの設定によって影響を受けません。たとえば、30 日の期間の 10 日目に取り外されたドライブは、この期間の最初の 10 日間のサマリーと平均の計算に含まれますが、残りの 20 日間のサマリーと平均の計算には含まれません。例については、「[取り外したドライブとメディアが、計算されるサマリーに与える影響](#)」を参照してください。
- 現在表示されている値 — 「Overview」と「Analysis」画面に表示される合計とアグリゲーションは、現在表示されているレコードの数に基づいて計算されるため、STA ユーザー名の取り外したドライブとメディアの設定によって影響を受けます。たとえば、取り外したドライブの表示設定をオフにしている場合、取り外したドライブは、「Drives – Overview」画面には一覧表示されず、その画面のレコード数合計にも含まれず、「Drives – Analysis」画面のアグリゲーションにも含まれません。例については、「[取り外したドライブとメディアが「Overview」と「Analysis」画面に与える影響](#)」を参照してください。

## 12.4.3. 取り外したドライブとメディアが、計算されるサマリーに与える影響

STA は、読み取り、書き込み、送信、および受信 M バイト数、ドライブエラーと消去の数、ドライブ利用率など、日次および 30 日のさまざまなサマリー属性を計算します。ドライブとメディアは、テープライブラリシステムから取り外されるまでこれらの値の計算に含まれます。

たとえば、4月15日の17:00にモニター対象ライブラリからドライブを取り外すと、これらのサマリー値は次の影響を受けます。

- 日次サマリー — 17:00より前の4月15日のドライブのアクティビティは、その日の日次サマリーに含まれます。ドライブは取り外されているため、4月16日以降の日次サマリーに含めるアクティビティはありません。
- 30日のサマリー — 30日の期間が進むにつれて含まれる日数のアクティビティは日に日に減りますが、ドライブのアクティビティは、4月15日と次の30日間の30日のサマリーすべてに含まれます。5月15日の30日のサマリーは、ドライブのアクティビティを含まない最初のサマリーになります。

#### 12.4.4. 取り外したドライブとメディアが「Overview」と「Analysis」画面に与える影響

このセクションでは、取り外したドライブとメディアの表示設定が次の画面に与える影響を説明する例を示します。

- 「[Drives – Overview](#)」画面」
- 「[Drives – Analysis](#)」画面」
- 「[交換とクリーニングのアクティビティ](#)の画面」
- 「[Alerts Overview](#)」画面」
- 「[Media Validation Overview](#)」画面」

注:

これらの例では取り外したドライブに焦点を当てていますが、同じ原則と画面表示の特徴が、取り外したメディアと「Show Removed Media」設定に適用されます。

##### 12.4.4.1. 「Drives – Overview」画面

図12.1「[Drives – Overview](#)」画面、「[Show Removed Drives](#)」設定は「On」は、「Show Removed Drives」設定を選択したあとの「Drives – Overview」画面を示しています。取り外したドライブは「Drives – Overview」画面に一覧表示され、レコードの合計数には取り外したドライブが含まれています。この例では、合計1,024のドライブがあり、「Library Complex Name」と「Drive Library Name」の両方が「REMOVED」を示しており、ドライブが取り外された日付が「STA Stop Tracking」列に表示されていることを示すためにドライブ HU180214PTが強調表示されています。

図12.1 「Drives – Overview」画面、「Show Removed Drives」設定は「On」

Drive Serial Number	Library Complex Name	Drive Library Name	STA Stop Tracking	Drive WWNN	Drive Type	Drive Health Indicator	Exchange St
572004012140	SL3000_5710002	Crimson11		50:01:04:F0:00:AC:BE:3D	T10000b	❌	2014-03-23 19:52:...
1210140782	SL3000_5710002	Crimson11		50:01:04:F0:00:AC:BE:64	IbmUltrium3	❌	2014-03-23 20:03:...
1068000591	SL8500_50	SL8500-160		50:01:04:F0:00:79:1B:3A	IbmUltrium6	⚠️	2014-03-23 16:52:...
HU180214PT	REMOVED	REMOVED	2014-03-21 08:40:43	50:01:04:F0:00:A0:E5:2C	HpUltrium4	⚠️	2014-03-18 09:20:...
HU1239RHFG	SL8500_33	SL8500-163		50:01:04:F0:00:79:1C:24	HpUltrium6	⚠️	2014-03-20 09:22:...
1310250698	REMOVED	REMOVED	2014-03-21 12:15:14	50:01:04:F0:00:A0:E4:C9	IbmUltrium4	⚠️	2014-03-18 06:20:...
1068000506	REMOVED	REMOVED	2014-03-22 00:15:01	50:01:04:F0:00:AC:B6:1D	IbmUltrium6	⚠️	2014-03-21 07:58:...
10WT005924	REMOVED	REMOVED	2014-03-20 21:10:23	50:01:04:F0:00:CC:AE:B7	IbmUltrium6	⚠️	2014-03-19 18:15:...
HU17410GRH	SL500_5220000C	green23		57:64:89:44:26:85:75:B2	HpUltrium4	⚠️	2014-03-19 10:21:...

図12.2「「Drives – Overview」画面、「Show Removed Drives」設定は「Off）」と図12.3「「Drives – Overview」画面、「Show Removed Drives」設定は「Off」で、既知の取り外したドライブでフィルタ」は、「Show Removed Drives」設定が選択解除されたあとの「Drives – Overview」画面を示しています。取り外したドライブは「Drives – Overview」画面に一覧表示されておらず、レコードの合計数には取り外したドライブは含まれていません。図12.2「「Drives – Overview」画面、「Show Removed Drives」設定は「Off）」では、合計 936 のドライブがあり、「STA Stop Tracking」の日付は、表示されているすべてのドライブで空白です。



図12.2 「Drives – Overview」画面、「Show Removed Drives」設定は「Off」

Drive Serial Number	Library Complex Name	Drive Library Name	STA Stop Tracking	Drive WWNN	Drive Type	Drive Health Indicator	Exchange Start
572004012140	SL3000_5710002	Crimson11		50:01:04:F0:00:AC:BE:3D	T10000b	❌	2014-03-23 19:52:...
1210140782	SL3000_5710002	Crimson11		50:01:04:F0:00:AC:BE:64	IbmUltrium3	❌	2014-03-23 20:03:...
1068000591	SL8500_50	SL8500-160		50:01:04:F0:00:79:1B:3A	IbmUltrium6	⚠️	2014-03-23 16:52:...
HU1239RHF	SL8500_53	sl8500-163		50:01:04:F0:00:79:1C:24	HpUltrium6	⚠️	2014-03-20 09:22:...
HU17410GRH	SL500_5220000	green23		57:64:89:44:26:85:75:B2	HpUltrium4	⚠️	2014-03-19 10:21:...
50000002152	SL3000_5710002	Crimson11		50:01:04:F0:00:AC:BE:40	S&K9840c	✅	2014-03-23 19:47:...
5700GU011629	SL3000_5710002	Crimson11		50:01:04:F0:00:AC:BE:43	S&K9840d	✅	2014-03-23 19:47:...
531002002907	SL3000_5710002	Crimson11		50:01:04:F0:00:AC:BE:55	T10000a	✅	2014-03-23 19:52:...
576004000119	SL8500_2	elb19		50:01:04:F0:00:8B:5A:8F	T10000c	✅	2014-03-20 09:11:...

図12.3「Drives – Overview」画面、「Show Removed Drives」設定は「Off」で、既知の取り外したドライブでフィルタでは、「Drives – Overview」画面はフィルタされ、「HU180214」で始まるシリアル番号が付いたすべてのドライブが表示されています。取り外したドライブ HU180214PT は、リストには表示されません。

図12.3 「Drives – Overview」画面、「Show Removed Drives」設定は「Off」で、既知の取り外したドライブでフィルタ

Drive Serial Number	Library Complex Name	Drive Library Name	STA Stop Tracking	Drive WWNN	Drive Type	Drive Health Indicator	Exchange Start
HU180214PW	SL3000_5710002	Crimson11		50:01:04:F0:00:AC:BE:46	HpUltrium4	✅	2014-03-23 19:48:34
HU180214UA	SL3000_5710002	SL3000-174		50:01:04:F0:00:AC:BB:0C	HpUltrium4	✅	2014-03-24 10:01:33
HU180214PU	SL8500_53	sl8500-163		50:01:04:F0:00:79:1C:7B	HpUltrium4	?	
HU180214R0	SL8500_53	sl8500-163		50:01:04:F0:00:79:1C:72	HpUltrium4	?	
HU180214UF	SL3000_5710002	SL3000-BAS		50:01:04:F0:00:AC:A7:E9	HpUltrium4	?	
HU180214UP	SL3000_5710002	SL3000-174		50:01:04:F0:00:AC:BB:39	HpUltrium4	?	

#### 12.4.4.2. 「Drives – Analysis」画面

図12.4「Drives – Analysis」画面、「Show Removed Drives」設定は「On」は、「Show Removed Drives」設定が選択されたあとの「Drives – Analysis」画面を示しています。取り外したドライブの集約データは、見出し「Library Complex Name」の「REMOVED」と「Drive

Library Number」の「-1」に含まれています。ドライブの合計数は 1024 で、取り外したドライブの合計数は 88 です。

図12.4 「Drives – Analysis」画面、「Show Removed Drives」設定は「On」

Drive Library number	ACTION	EVALUATE	MONITOR	USE	UNKNOWN	Total
SL8500_8						
Drive Library number total	0	1	0	13	22	36
1 STK	0	0	0	0	13	13
HP	0	0	0	0	13	13
IBM	0	0	0	0	3	3
Drive Manufacturer Total	0	0	0	0	29	29
2 STK	0	0	0	0	26	26
HP	0	0	0	0	2	2
IBM	0	0	0	0	7	7
Drive Manufacturer Total	0	0	0	0	35	35
3 STK	0	0	0	0	2	2
HP	0	0	0	0	17	17
IBM	0	0	0	0	12	12
Drive Manufacturer Total	0	0	0	0	31	31
Drive Library Number Total	0	0	0	0	95	95
REMOVED						
-1 STK	0	0	0	0	1	1
HP	0	1	0	6	10	17
IBM	0	0	3	1	37	41
UNKNOWN	0	0	0	0	29	29
Drive Manufacturer Total	0	1	3	7	77	88
Drive Library Number Total	0	1	3	7	77	88
Library Complex Name Total	2	3	4	121	894	1024

図12.4「Drives – Analysis」画面、「Show Removed Drives」設定は「On」は、「Show Removed Drives」設定が選択解除されたあとの「Drives – Analysis」画面を示しています。取り外したドライブの集約データは、表には含まれていません。「Library Complex Name」の「REMOVED」と「Drive Library Name」の「-1」の見出しはありません。ドライブの合計数は 936 です。



図12.5 「Drives – Analysis」画面、「Show Removed Drives」設定は「Off」

		ACTION	EVALUATE	MONITOR	USE	UNKNOWN	Total
	Drive Manufacturer Total	0	0	0	11	20	31
	Drive Library Number Total	0	0	0	11	20	31
SL8500_53	1 HP	0	1	0	13	10	24
	IBM	0	0	0	0	12	12
	Drive Manufacturer Total	0	1	0	13	22	36
	Drive Library Number Total	0	1	0	13	22	36
SL8500_8	1 STK	0	0	0	0	13	13
	HP	0	0	0	0	13	13
	IBM	0	0	0	0	3	3
	Drive Manufacturer Total	0	0	0	0	29	29
	2 STK	0	0	0	0	26	26
	HP	0	0	0	0	2	2
	IBM	0	0	0	0	7	7
	Drive Manufacturer Total	0	0	0	0	35	35
	3 STK	0	0	0	0	2	2
	HP	0	0	0	0	17	17
	IBM	0	0	0	0	12	12
	Drive Manufacturer Total	0	0	0	0	31	31
	Drive Library Number Total	0	0	0	0	95	95
Library Complex Name Total							936

#### 12.4.4.3. 交換とクリーニングのアクティビティの画面

「Exchanges Overview」と「Drive Cleanings Overview」画面には常に、表示設定に関係なく、取り外したドライブとメディアに関する交換が表示されます。すべての画面属性が、交換時の値を示しています。

図12.6「Exchanges Overview」画面、「Show Removed Drives」設定は「On」では、「Show Removed Drives」設定が選択されています。取り外したドライブの「Drive Serial Number」の項目は「Drives – Overview」、「Detail View」画面へのアクティブなリンクです。

図12.6 「Exchanges Overview」画面、「Show Removed Drives」設定は「On」

Exchange Start	Library Complex Name	Drive Library Number	Drive Serial Number	Drive Stop Tracking	Drive Model	Volume Serial Number	M
2012-05-11 16:01:14	SL8500_7	1	331002043768	2012-05-15 12:47:17	9840A	HN1262	9840F
2012-05-11 16:07:20	SL8500_7	1	331002043768	2012-05-15 12:47:17	9840A	RG2955	9840F
2012-05-11 16:13:06	SL8500_7	1	331002043768	2012-05-15 12:47:17	9840A	HN1265	9840F

図12.7「Exchanges Overview」画面、「Removed Drives」設定は「Off」では、「Show Removed Drives」設定が選択解除されています。取り外したドライブの「Drive Serial Number」の項目は選択不可で、アクティブなリンクではありません。

図12.7 「Exchanges Overview」画面、「Removed Drives」設定は「Off」

Exchange Start	Library Complex Name	Drive Library Number	Drive Serial Number	Drive Stop Tracking	Drive Model	Volume Serial Number	Me
2012-05-11 16:01:14	SL8500_7	1	331002043768	2012-05-15 12:47:17	9840A	HN1262	9840R
2012-05-11 16:07:20	SL8500_7	1	331002043768	2012-05-15 12:47:17	9840A	RG2955	9840R
2012-05-11 16:13:06	SL8500_7	1	331002043768	2012-05-15 12:47:17	9840A	HN1265	9840R
2012-05-11 16:19:58	SL8500_7	1	331002043768	2012-05-15 12:47:17	9840A	M01466	9840R

#### 12.4.4.4. 「Alerts Overview」画面

「Alerts Overview」画面には常に、表示設定に関係なく、取り外したドライブとメディアに関するアラートが表示されます。関連するドライブまたはメディアが取り外されたあとでも、アラートは常に保持されます。

次の例では、「Show Removed Drives」設定が選択解除されています。STA は、60 のドライブがある LibraryABC をモニターしており、2 つのドライブが過去 30 日の期間に表示された 27 のドライブアラートすべてに関与します。2 つのドライブは、あとでライブラリから取り外されます。

「Drives – Overview」画面で、LibraryABC 内にあるすべてのドライブの「Drive Alerts (30 Days)」属性の値が「0」に設定されています。これは、27 のアラートすべてに関与するドライブがライブラリから取り外されたためです。

「Alert Type Is Drive」でフィルタされた「Alerts Overview」画面には、27 のアラートが表示されます。

#### 12.4.4.5. 「Media Validation Overview」画面

取り外したドライブとメディアの保留中の STA メディア検証要求は、ユーザーが明示的に取り消すまで検証要求キューに残ります。詳細は、「保留中のメディア検証リクエストの取り消し」を参照してください

## 12.5. 取り外したライブラリ

テープライブラリ環境からライブラリを取り外した場合、STA 画面に次の更新が即時に行われます。

- STA は、ライブラリからデータを収集しなくなり、ユーザーは、ライブラリ SNMP 構成から STA サーバーのトラップ受信者を削除できます。
- ライブラリは「Libraries Overview」と「Complexes Overview」画面から削除されます。
- ライブラリ内に含まれていたドライブとメディアは、「Drives」と「Media」画面から削除されます。
- ライブラリで発生したすべての交換とクリーニングのアクティビティーが、「Exchanges Overview」と「Drive Cleanings Overview」画面から削除されます。
- ライブラリとそのドライブとメディアに関するすべてのメッセージが、「Drives Messages」、「Media Messages」、および「All Messages Overview」画面から削除されます。
- 保留中の STA メディア検証要求は、ユーザーが明示的に取り消すまで検証要求キューに残ります。詳細は、「[保留中のメディア検証リクエストの取り消し](#)」を参照してください

手順については、「[STA からのライブラリ接続の削除](#)」を参照してください。

ライブラリデータはユーザーインターフェース画面から削除されますが、STA データストアからは削除されません。あとでライブラリへの接続を再確立した場合、既存のすべてのライブラリデータが STA 画面で再度使用可能になります。「[データの保存](#)」を参照してください。

## 12.6. 「欠落した」メディア

メディアは、検出されるためには、データの収集時にライブラリストレージセルまたはドライブ内に存在する必要があります (データ収集プロセスの詳細は、「[SNMP 接続と STA データストアの維持](#)」を参照してください)。「一時的な」場所にあるメディアはデータ収集で検出されません。一時的な場所は、次のいずれかとして定義されます。

- ロボットハンド
- エレベーター — SL8500 ライブラリのみ
- パススルーポート (PTP) — SL8500 コンプレックスのみ
- ライブラリの初期化時 (つまり、メディアがまだドライブ内に残っている間にライブラリが再初期化されたとき) のドライブ。

STA アプリケーションには、これらの一時的な移動を処理するためのロジックが組み込まれています。予期せず「消えた」メディアは、特定の短い期間内に再度検出されることを予期し

て STA 画面に保持されます。STA は、その期間内にメディアをまだ検出しない場合にのみそのメディアを画面から削除します。これはまれにしか発生しませんが、メディアカートリッジがパススルーポート (PTP) を使用して頻繁にあるライブラリから別のライブラリに転送される SL8500 コンプレックスで発生する可能性がもっとも高くなります。

「Media – Overview」画面に表示されることが予期されるボリュームシリアル番号 (VSN または volser) が見つからない場合、次の操作を行うことをお勧めします。

1. 正しい volser があることを確認します。
2. その volser で「Media – Overview」画面をフィルタして、本当にリストにないことを確認します。
3. volser が「Media – Overview」画面に表示される場合、「Start Tracking」、「End Tracking」、および「Ejected Date」属性を確認します。「Ejected Date」は、メディアがカートリッジアクセスポート (CAP) またはアクセス拡張モジュール (AEM) (SL3000 ライブラリ) またはメールスロット (SL150 ライブラリ) から取り出されたことを示しています。
4. メディアに「End Tracking」の日付があっても、「Ejected Date」がない場合、メディアは、開いたライブラリのドアなどのサポートされない方法でライブラリ環境から取り外された可能性があります。「Dashboard」で、「Media Exception Report」ポートレットを確認してください。このレポートには、CAP、AEM、またはメールスロット以外の方法を使用してライブラリに残っていたメディアが一覧表示されます。
5. メディアがあることが予期されるライブラリで手動によるデータ収集を開始します。手順については、「[手動のデータ収集の実行](#)」を参照してください。

## 12.7. 重複したボリュームシリアル番号

STA データストアでは、メディアの履歴はボリュームシリアル番号 (VSN または volser) によって保持されます。つまり、メディアの特定部分のすべての履歴がその volser に関連付けられています。このため、STA によってモニターされるテープ環境では重複したボリュームシリアル番号 (VSN または volser) を避けることをお勧めします。volser は、モニター対象のすべてのライブラリにわたって一意であるべきです。volser が重複していると、メディアの異なる部分のデータが混在します。

同じ volser を持つメディアのドメインとタイプも同じ場合にのみ、volser は重複していると見なされます。次の例に示すように、ドメインはメディアの形式を示し、タイプはバージョンを示します。

- LTO6 –「LTO」がドメインで、「6」がタイプです。
- T10000T1 –「T10000」がドメインで、「T1」がタイプです。

2つの異なる LTO4 カートリッジで使用される同じ volser は重複していると見なされるのに対して、LTO4 カートリッジと LTO5 または T10000T1 カートリッジの同じ volser は重複していると見なされません。

本当の重複する volser は、次のようなさまざまな理由で発生する可能性があります。

- クリーニングメディアの場合、グローバルに使用可能な volser は 999 しかありません。1,000 以上のクリーニングメディアがある大規模なテープ環境では、必然的に重複した volser が発生します。
- さまざまなテープ管理アプリケーションでは、重複した volser が許可されることがあります。これは、SCSI ホスト接続のあるライブラリである SL150、SL500、および一部の SL3000 ライブラリにのみ当てはまります。Host Library Interface (HLI) ホスト接続を持つライブラリである SL8500 と一部の SL3000 ライブラリは、重複が許可されない Oracle の StorageTek エンタープライズライブラリソフトウェア (ELS) または Oracle の StorageTek 自動カートリッジシステムライブラリソフトウェア (ACSL) を使用します。

次に、重複した volser があるように見えても、実際には 1 つのメディアで、volser は一意である状況を示します。

- メディアがあるライブラリから別のライブラリに移動される。
- メディアがライブラリから取り出され、しばらくの間サイトから切り離されてから、ライブラリに再度入れられる。

### 12.7.1. 交換での「Duplicate Detected」フラグ

「Duplicate Detected」フラグが「Exchanges Overview」画面に表示され、交換で使用される volser が重複していることが示されます。メディアには、ドメインとタイプが同じでも、メディアシリアル番号 (MSN) が異なる別のメディアと同じ volser があります。このフラグが付いた交換を検出した場合、2 つのメディアのデータが混在するため、調査して、メディアの 1 つに別の volser を割り当てるかどうかを決定する必要があります。詳細は、『STA データリファレンスガイド』を参照してください。

注:

一部のドライブタイプとファームウェアレベルのみが MSN を報告するため、一部のドライブタイプでは、STA は重複した volser を検出するために必要なすべての情報を受信しない可能性があります。

## 12.8. ホストと STA ドライブ識別子のマップ

STA では、テープドライブは、ドライブのシリアル番号、World Wide Name (WWN)、またはライブラリ内の物理的な場所で識別できます。ただし、STA は、ホストがドライブを識別する

ために使用する論理デバイス ID を認識せず、表示できません。ホストのドライブ識別子を STA 識別子にマップする場合は、これを手動で行う必要があります。

### 12.8.1. メインフレーム識別子

メインフレームホストは、4 桁の 16 進のドライブ ID (0000 – FFFF) を使用してドライブを識別します。ホスト識別子を STA 識別子にマップするには、メインフレームホストで Oracle のエンタープライズライブラリソフトウェア (ELS) の *Display DRives* コマンドを使用できます。*IDEntity* オプションは、ドライブごとにメインフレームの 16 進 ID、シリアル番号、および WWN を一覧表示します。次に、コマンド出力の例を示します。

#### 例12.1 サンプルの ELS Display DRives コマンドの出力

```
DISPLAY DRIVES IDENTITY
.SLS4633I Display Drives Command 994
DRIVE LOCATION MODEL WORLD WIDE NAME SERIAL NUMBER
0A10 00:02:01:08 T9840D 50:01:04:F0:00:79:18:CD 5700GU008737
0A11 00:02:01:09 T9840D 50:01:04:F0:00:79:18:C1 5700GU006080
0B04 01:01:01:14 T9940B 50:01:04:F0:00:89:A7:74 479000025047
0B05 01:02:01:14 T9940B 50:01:04:F0:00:89:A7:44 479000026693
0B06 01:02:01:15 T1B35 50:01:04:F0:00:89:A7:68 572004003720
0B07 01:02:01:11 T1B35 50:01:04:F0:00:89:A7:68 572004003720
```

このコマンドは、オペレータコンソールや *SMCUUI* ユーティリティーバッチジョブなどのメインフレームホスト上のさまざまな場所から発行できます。オプションで、コマンドの出力を *.csv* または *.xml* ファイルに保存できます。使用法、構文、およびオプションの詳細は、*ELS* コマンド、制御文、およびユーティリティーに関するリファレンスのマニュアルを参照してください。

### 12.8.2. オープンシステム識別子

オープンシステムホスト (Linux および Solaris) では、テープドライブの論理デバイス名は */dev/rmt* ディレクトリにあります。ホストの論理名を STA 識別子にマップするには、このディレクトリの長い一覧表示 (*ls -l*) を行う必要があります。このコマンド出力は、論理デバイス名、およびドライブの WWN が含まれている raw デバイスファイルへのポインタを示しています。次に、Linux での出力の例を示します。各ドライブの論理デバイス名と WWN は太字で強調表示されています。

#### 例12.2 サンプルの Linux /dev/rmt ディレクトリの一覧表示

```
# ls -l /dev/rmt
lrwxrwxrwx 1 root root 86 Jan 31 16:31 /dev/rmt/0cbn ->.././devices/pci@79,0/pci10de,377@a/pci1077,171@0/fp@0,0/tape@w500104f000b8050e,0:cbn
lrwxrwxrwx 1 root root 86 Jan 31 16:31 /dev/rmt/1cbn ->.././devices/pci@79,0/pci10de,377@a/pci1077,171@0/fp@0,0/tape@w500104f000b80511,0:cbn
#
```

## STA を使用したテープ環境に関する質問への回答

この章では、前の章で説明した内容と手順を組み合わせて、テープストレージの操作および健全性に関する一般的な質問に対処します。ここでは、方法について完全には説明しませんが、STA を使用して、これらの質問や同様の質問に回答し、その過程で、STA 製品の使用についての専門知識を構築できるいくつかの方法の例を示します。

各手順には、前の章で示した内容と手順を参照する「参照タスク」セクションが含まれています。

質問は、次のカテゴリに分類されています。

- [ドライブとメディアの健全性に関する質問](#)
- [容量およびリソース管理に関する質問](#)

### 13.1. ドライブとメディアの健全性に関する質問

質問	タスク
最近 30 日間で、もっとも多くのエラーが発生したドライブとメディアはどれですか。2 つの間には相関関係がありますか。	<a href="#">「もっとも多くのエラーが発生したメディアとドライブのレポート」</a>
今週、もっとも多くのエラーが発生したドライブはどれですか。エラー率は上がりましたか。	<a href="#">「ドライブのエラー率の傾向のレポート」</a>
長期にわたって、効率性が大幅に低下しているドライブはどれですか。	<a href="#">「ドライブの効率性傾向のレポート」</a>
今日 2 回目の障害が発生したのは、2 か月前に問題が発生したのと同じドライブですか。	<a href="#">「ドライブの障害傾向のレポート」</a>
今日の午前 9 時に、テープジョブのいずれかでエラーが発生しました。関与したドライブとメディアはどれですか。ほかのエラーも発生しましたか。	<a href="#">「テープジョブエラーのトラブルシューティングに役立つ情報のレポート」</a>
先月、STA にレポートされたクリティカルなエラーは何ですか。合計数は増加している傾向ですか。それとも、安定していますか。	<a href="#">「クリティカルなエラーの傾向のレポート」</a>



### 13.1.1. もっとも多くのエラーが発生したメディアとドライブのレポート

これらの手順は次の質問に対処します。「最近 30 日間で、もっとも多くのエラーが発生したドライブとメディアはどれですか。2 つの間には相関関係がありますか。」

次の方法について説明します。

- 「もっとも多くのエラーが発生したドライブのレポート」(下記)
- 「もっとも多くのエラーが発生したメディアのレポート」
- 「2 つの間の相関関係の表示」

#### 13.1.1.1. 参照タスク

- 「テンプレートの適用」
- 列でソートするには、『*STA 画面基本ガイド*』
- ライブラリリソースをグラフに適用するには、『*STA 画面基本ガイド*』
- 「[Filter Data](#)」ダイアログボックスを使用したテーブルフィルタの変更」

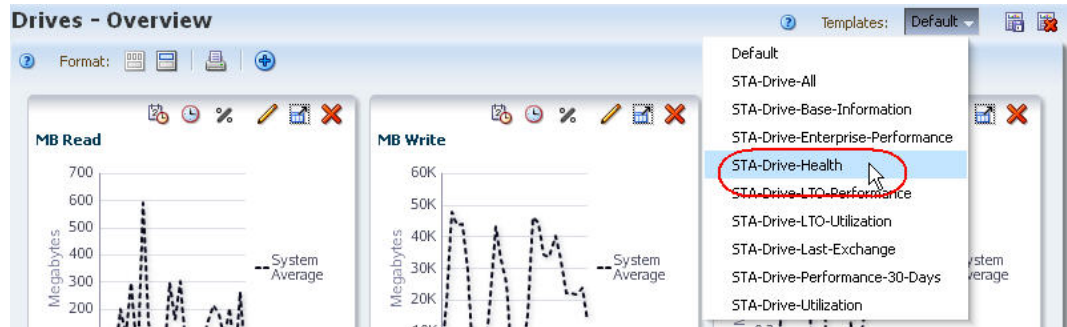
#### 13.1.1.2. もっとも多くのエラーが発生したドライブのレポート

1. ナビゲーションバーで、「**Tape System Hardware**」を選択して、「**Drives Overview**」を選択します。



2. 「**Templates**」メニューで、「**STA-Drive-Health**」テンプレートを適用します。





3. 「Drive Errors (30 Days)」列で、「Sort Descending」矢印をクリックします。

Drive Errors (30 Days)	% Drive Utilization
0	19.72
0	0.00
0	0.00
0	0.00
0	0.00

もっとも多くのエラーが発生したドライブがリストの 1 番目に表示されます。

Drive Serial Number	Drive WWNN	Drive Model	Drive Physical Address	Drive Library Name	Drive Library Serial Number	Drive Health Indicator	Exchange Drive Suspicion	Exchange Write Efficiency	Drive Load Limit Alert	Diagnostic Required Alert
HU1047DLTA	50:01:04:F0:00:7A:82:10	LTO5	4,3,1,9	sl500-goldie	52200000074	🔴	100.00			0
572001000315	50:01:04:F0:00:AC:A7:D7	T10000B	1,1,-1,1,3	sl3000	57100020003	🔴	100.00			0
HU18031659	50:01:04:F0:00:AC:A7:D1	LTO4	1,1,-3,1,2	sl3000	57100020003	🟡	80.00			0
HU19477NBJ	50:01:04:F0:00:AC:A7:E0	LTO5	1,1,-4,1,3	sl3000	57100020003	🟡	80.00			0
HU19477NCA	50:01:04:F0:00:8A:BA:33	LTO5	1,4,-1,1,3	bas-sl8500	51600010045	🟡	80.00			0

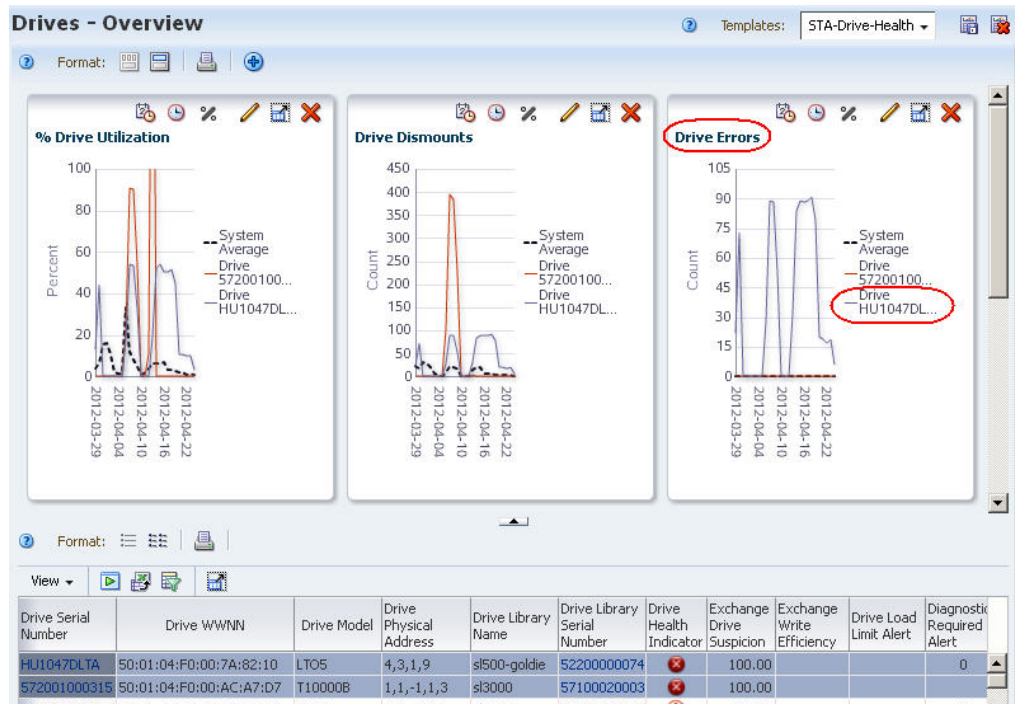
4. 次の段階を使用して、選択したドライブをグラフに追加します。

ドライブをグラフに追加すると、その属性値をシステム平均と比較できます。デフォルトでは、常にグラフにシステム平均が含まれています。

- リストビューテーブルで、グラフに追加するドライブを選択します。
- テーブルツールバーで「Apply Selection」をクリックします。

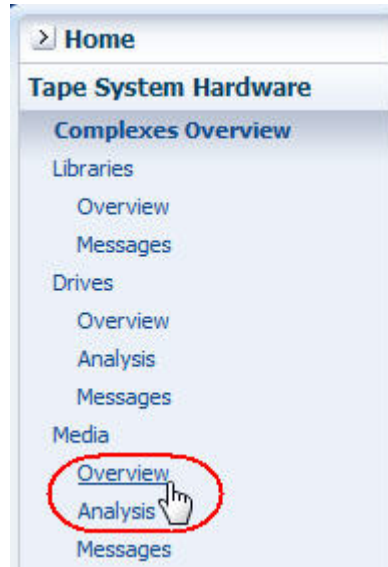
Drive Serial Number	Drive WWNN	Drive Model	Drive Physical Address	Drive Library Name	Drive Library Serial Number	Drive Health Indicator	Exchange Drive Suspicion	Exchange Write Efficiency	Drive Load Limit Alert	Diagnostic Required Alert
HU1047DLTA	50:01:04:F0:00:7A:82:10	LTO5	4,3,1,9	sl500-goldie	52200000074	⊗	100.00			0
572001000315	50:01:04:F0:00:AC:A7:D7	T10000B	1,1,-1,1,3	sl3000	57100020003	⊗	100.00			0
HU18031659	50:01:04:F0:00:AC:A7:D1	LTO4	1,1,-3,1,2	sl3000	57100020003	⊕	80.00			0
HU19477NBJ	50:01:04:F0:00:AC:A7:E0	LTO5	1,1,-4,1,3	sl3000	57100020003	⊕	80.00			0
HU19477NCA	50:01:04:F0:00:8A:BA:33	LTO5	1,4,-1,1,3	bas-sl8500	51600010045	⊕	80.00			0

グラフはドライブデータで更新されます。次の例では、システム平均と比較すると、1台のドライブで高レベルのエラーが表示されています。



### 13.1.1.3. もっとも多くのエラーが発生したメディアのレポート

1. ナビゲーションバーで、「Tape System Hardware」を選択して、「Media Overview」を選択します。



2. 「**Templates**」メニューで、「STA-Media-Health」テンプレートを適用します。



3. 「Dismounts With Errors (30 Days)」列で、「**Sort Descending**」矢印をクリックします。

Dismounts with Errors (30 Days)	Avg Mount Read	MB Throughput
0	0.00	
0	0.01	

もっとも多くのエラーが発生したメディアがリストの1番目に表示されます。

Volume Serial Number	Media Factory	Media Life Indicator	Media Warranty Indicator	Media Load Limit Alert	Exchange Write Inefficient	Exchange Read Marginal	Discontinued with Errors (30 Days)	Avg Mount Read MB Throughput (30 Days)	Avg Mount Write MB Throughput (30 Days)	Avg Mount R/W MB Throughput (30 Days)	Media Health Indicator
T50218		✓	✓				100	0.01	25.37	25.37	✓
T50219		✓	✓				100	0.01	25.72	25.72	✓
T50230		✓	✓				99	0.01	26.85	26.85	✓
T50217		✓	✓				99	0.01	26.81	26.81	✓

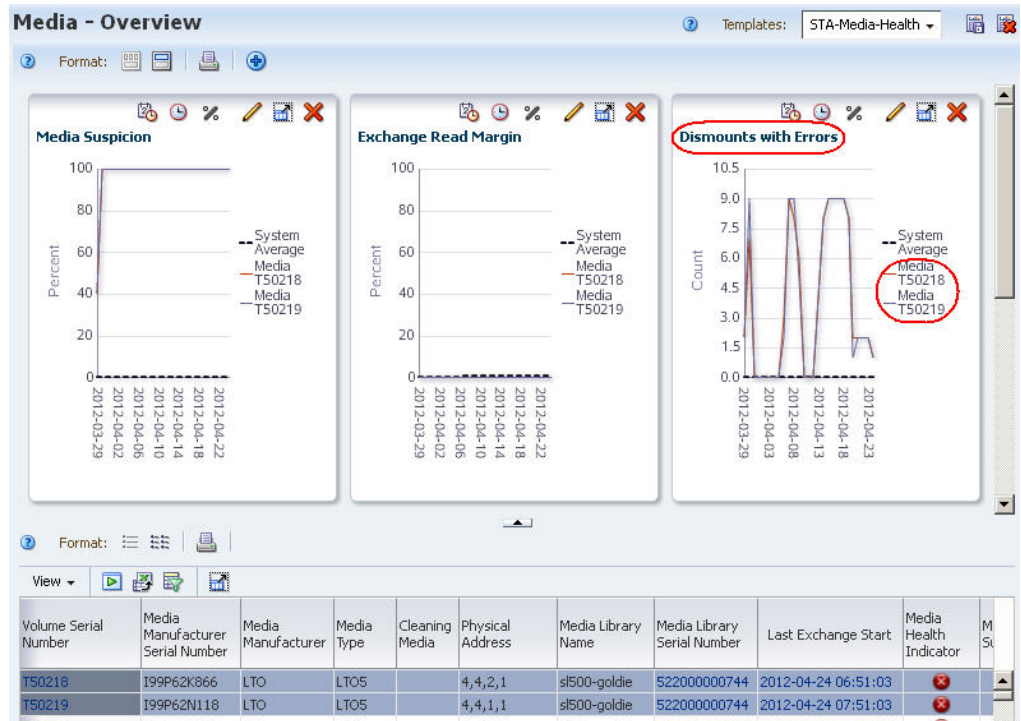
4. 次の段階を使用して、選択したメディアをグラフに追加します。

メディアをグラフに追加すると、その属性値を簡単にシステム平均と比較できます。デフォルトでは、常にグラフにシステム平均が含まれています。

- リストビューテーブルで、グラフに追加するメディアを選択します。
- テーブルツールバーで「**Apply Selection**」をクリックします。

Volume Serial Number	Serial Number	Media Manufacturer	Media Type	Cleaning Media	Physical Address	Media Library Name	Media Library Serial Number	Last Exchange Start	Media Health Indicator
T50218	I99P62K866	LTO	LTO5		4,4,2,1	sl500-goldie	522000000744	2012-04-24 06:51:03	✗
T50219	I99P62N118	LTO	LTO5		4,4,1,1	sl500-goldie	522000000744	2012-04-24 07:51:03	✗
T50230	I9826D5035	LTO	LTO5		4,4,7,3	sl500-goldie	522000000744	2012-04-24 08:05:05	✗
T50217	I99P62L370	LTO	LTO5		4,4,7,6	sl500-goldie	522000000744	2012-04-24 06:42:47	✗

グラフはメディアデータで更新されます。次の例では、システム平均と比較すると、両方のメディアで多数のエラーが表示されています。



### 13.1.1.4. 2 つの間の相関関係の表示

この手順は、もっとも多くのエラーが発生したドライブとメディアとの間に相関関係があるかどうかを判断する際に役立ちます。このアクティビティーでは、交換ごとに正確に 1 台のドライブと 1 つのメディアが関与するため、「Exchanges Overview」画面がもっとも役立ちます。

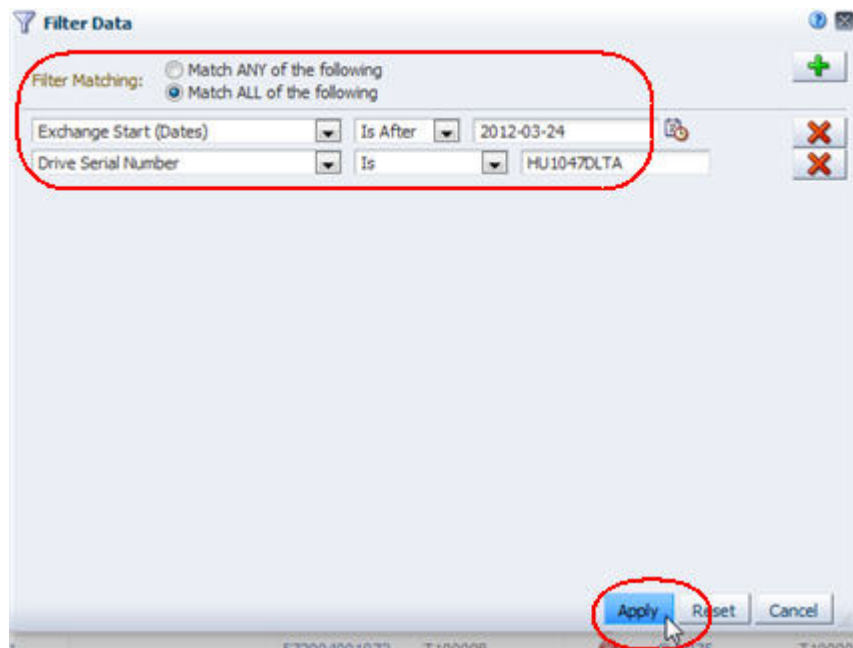
1. ナビゲーションバーで、「Tape System Activity」を選択して、「Exchanges Overview」を選択します。



2. 次の段階を使用して、最近 30 日以内で発生した交換のうち、もっとも多くのエラーが発生したドライブが関与したもののみを表示します。

もっとも多くのエラーが発生したドライブは、「もっとも多くのエラーが発生したドライブのレポート」で特定されました。

- a. 「Filter Data」をクリックします。
- b. 「Filter Matching」フィールドで「Match ALL entered criteria」を選択します。
- c. 次のフィルタ条件を追加します。
  - 「Exchange Start (Dates)」は、30 日前の日付後
  - 「Drive Serial Number」は、もっとも多くのエラーが発生したドライブのシリアル番号
- d. 「Apply」をクリックします。



テーブルは選択条件に従って更新されます。

Format: [Icons] Limit: 1,000 Applied Filter: Exchange Start > 2012-03-24 and Drive Serial Number Is 'HU1047DLTA'

Exchange Start	Drive Serial Number	Drive Model	Drive Health Indicator	Volume Serial Number	Media Type	Media Health Indicator	Drive Exchange Status	Media Status
2012-04-24 10:14:46	HU1047DLTA	LTO5	⊘	T50236	LTO5	⊘	DRIVE_ERROR	DRIVE_ERROR
2012-04-24 09:14:12	HU1047DLTA	LTO5	⊘	T50235	LTO5	⊘	DRIVE_ERROR	DRIVE_ERROR
2012-04-24 09:04:04	HU1047DLTA	LTO5	⊘	T50234	LTO5	⊘	DRIVE_ERROR	DRIVE_ERROR

3. エラーに関与するメディアに焦点を当てるには、関連する列でテーブルをソートします。

推奨されている列は、「Media Exchange Status」、「Exchange FSC」、または「Media Health Indicator」です。





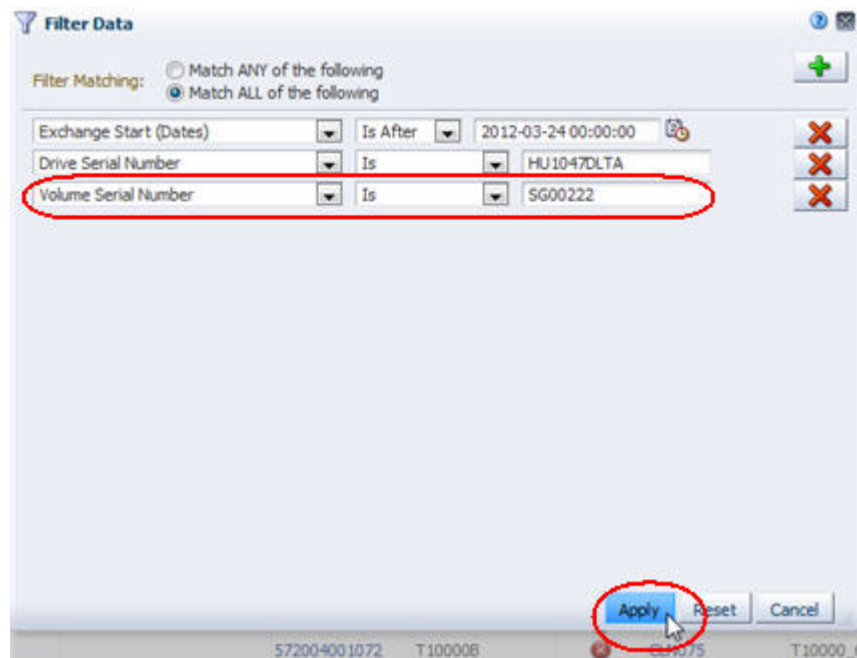
4. 「Volume Serial Number」フィールドに目を通して、ドライブのエラーと特定のメディアとの間に相関関係があるかどうかを確認します。
5. 潜在的な相関関係を見つける場合は、次の段階を使用して、障害のあるドライブと疑わしいメディアの両方が関与する交換のみが表示されるように、データをさらにフィルタリングします。

- a. 「**Filter Data**」をクリックします。

すでに有効になっている選択条件は、「Filter Data」ダイアログボックスに表示されます。

- b. 現在の条件をそのままにして、次の行を追加します。

- 「**Volume Serial Number**」は、段階 4 で特定された、疑わしいメディアの volser です。



- c. 「**Apply**」をクリックします。

テーブルは選択条件に従って更新されます。

### 13.1.2. ドライブのエラー率の傾向のレポート

この手順は、「今週、もっとも多くのエラーが発生したドライブはどれですか。エラー率は上がりましたか」という質問に対処します。

STA の画面には、デフォルトで 30 日分のデータが表示されますが、フィルタおよび選択条件を使用すれば、今週のみ絞り込むことができます。次の方法について説明します。

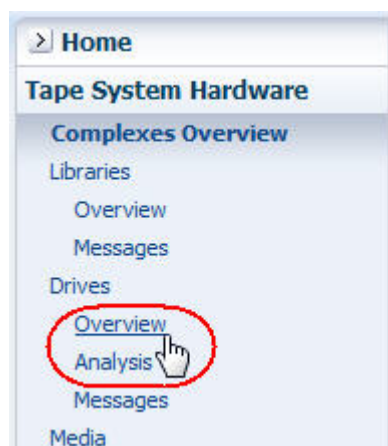
- 「[「Drives – Overview」画面の使用](#)」(下記)
- 「[「Exchanges – Overview」画面の使用](#)」
- 「[「Drives – Messages」画面の使用](#)」

#### 13.1.2.1. 参照タスク

- 「[テンプレートの適用](#)」
- 列でソートするには、『[STA 画面基本ガイド](#)』
- ライブラリリソースをグラフに適用するには、『[STA 画面基本ガイド](#)』
- 日付範囲を変更するには、『[STA 画面基本ガイド](#)』
- 列を移動するには、『[STA 画面基本ガイド](#)』
- 列を非表示にしたり表示したりするには、『[STA 画面基本ガイド](#)』
- 「[「Filter Data」ダイアログボックスを使用したテーブルフィルタの変更](#)」

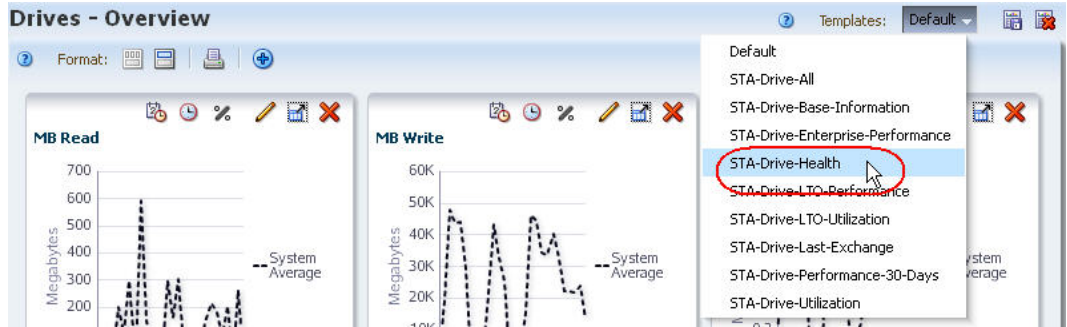
#### 13.1.2.2. 「Drives – Overview」画面の使用

1. ナビゲーションバーで、「**Tape System Hardware**」を選択して、「**Drives Overview**」を選択します。



2. 「**Templates**」メニューで、「**STA-Drive-Health**」テンプレートを適用します。





テーブルおよびグラフペインのいずれかに、連続 30 日間のドライブエラーの合計が表示されます。

3. 「Drive Errors (30 Days)」列で、「Sort Descending」矢印をクリックします。

 This is a close-up of the table header. The column 'Drive Errors (30 Days)' is circled in red. A yellow box highlights the 'Sort Descending' arrow icon next to the column header. Below the header, a portion of the table data is visible:
 

Drive Errors (30 Days)	% Drive Utilization (30 Days)
1,020	20.73
0	21.49
0	0.13
0	266.62

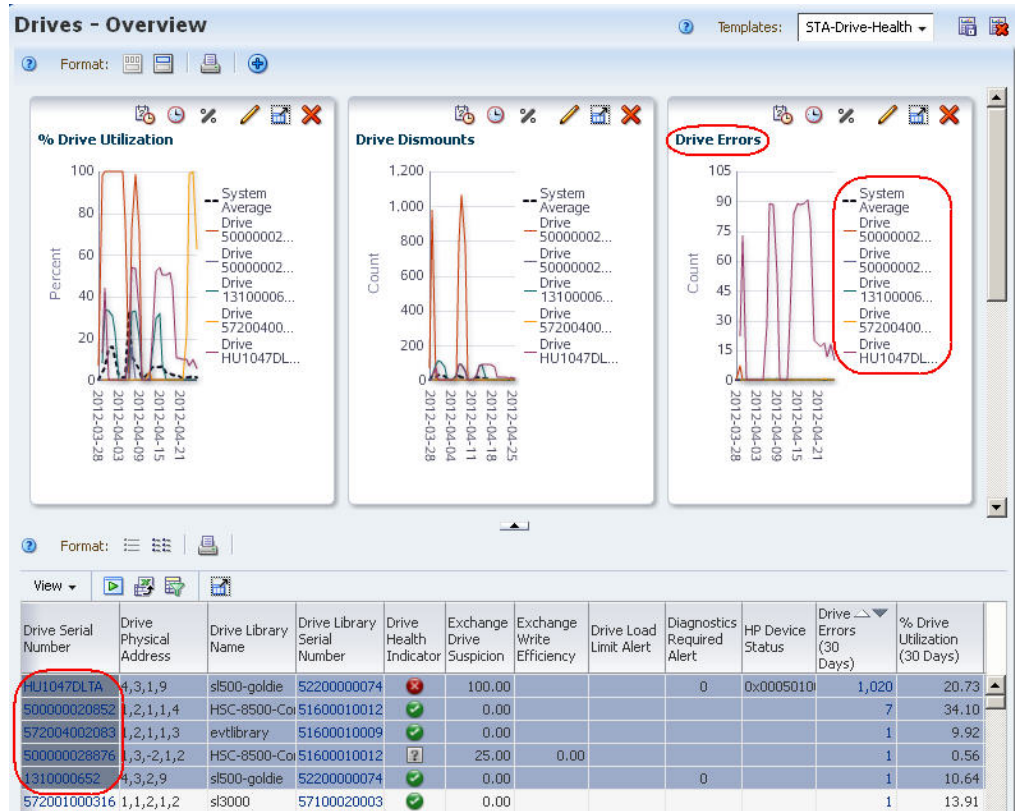
もっとも多くのエラーが発生したドライブがリストの 1 番目に表示されます。

4. 次の段階を使用して、上位 5 台のドライブを画面のグラフに追加します。
  - a. リストビューテーブルで、上位 5 台のドライブを選択します。
  - b. リストビューのツールバーで「Apply Selection」をクリックします。

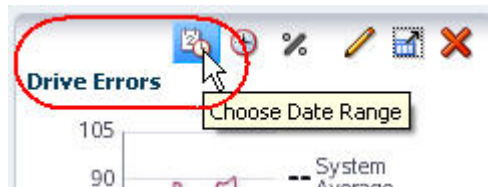
 The screenshot shows a table of drive information. The top 5 rows are highlighted with a red box. The 'Apply Selection' button in the toolbar is also circled in red. The table data is as follows:
 

Drive Serial Number	Address	Drive Library Name	Drive Library Serial Number	Drive Health Indicator	Exchange Drive Suspicion	Exchange Write Efficiency	Drive Load Limit Alert	Diagnostics Required Alert	HP Device Status	Drive Errors (30 Days)	% Drive Utilization (30 Days)
HJ1047DLTA	4,3,1,9	sl500-goldie	5220000074	🔴	100.00			0	0x0005010	1,020	20.73
500000020852	1,2,1,1,4	H5C-8500-Cor	51600010012	🟢	0.00					7	34.10
572001000316	1,1,2,1,2	sl3000	57100020003	🟢	0.00					1	13.91
500000028876	1,3,-2,1,2	H5C-8500-Cor	51600010012	🟡	25.00	0.00				1	0.56
572004002083	1,2,1,1,3	evtlibrary	51600010009	🟢	0.00					1	9.97
531001002710	1,2,1,1,3	H5C-8500-Cor	51600010012	🟡	90.00					1	0.89

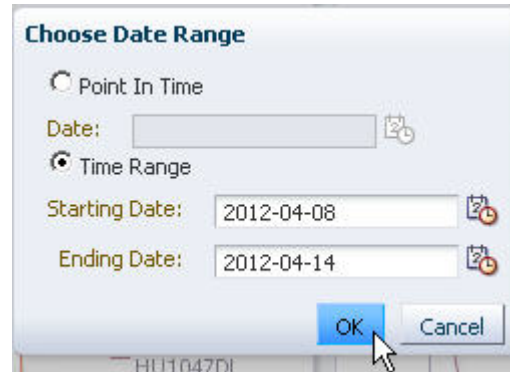
これらのドライブが 30 日間にわたって表示されるように、すべてのグラフ（「Drive Errors」を含む）が更新されます。



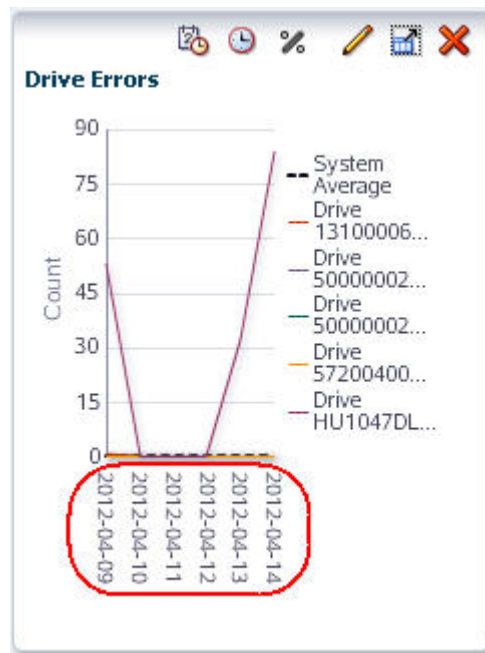
5. 次の段階を使用して、「Drive Errors」グラフペインで日付範囲を絞り込みます。
  - a. 「Drive Errors Graph」グラフペインのツールバーで「Choose Date Range」をクリックします。



- b. 次のように、「Choose Date Range」ダイアログボックスを設定します。
  - 「Time Range」を選択します。
  - 「Starting Date」および「Ending Date」フィールドに、今週の開始日付と終了日付を入力します。
- c. 「OK」をクリックします。



グラフは選択条件に従って更新されます。グラフ線の変動は、該当週におけるエラー率の増減を示しています。



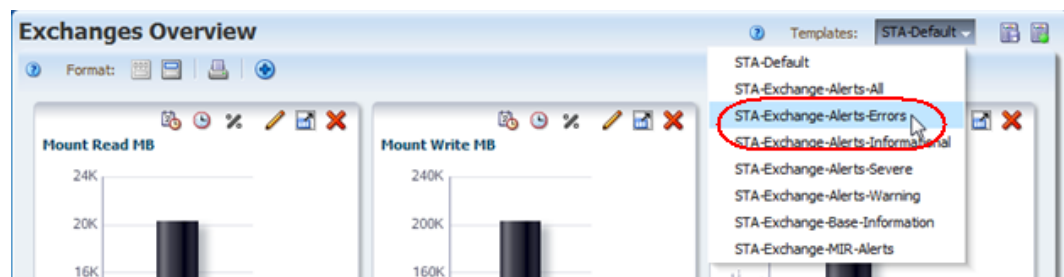
### 13.1.2.3. 「Exchanges – Overview」画面の使用

1. ナビゲーションバーで、「Tape System Activity」を選択して、「Exchanges Overview」を選択します。



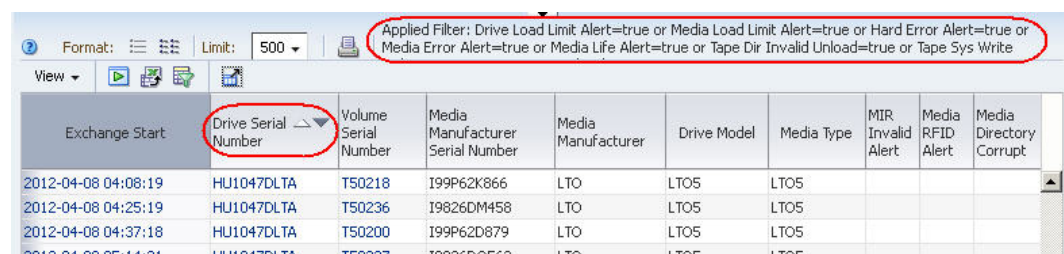
2. 「**Templates**」メニューで、「STA-Exchange-Alerts-Errors」テンプレートを適用します。

このテンプレートをフィルタに適用すると、エラーが発生した交換のみが表示されます。



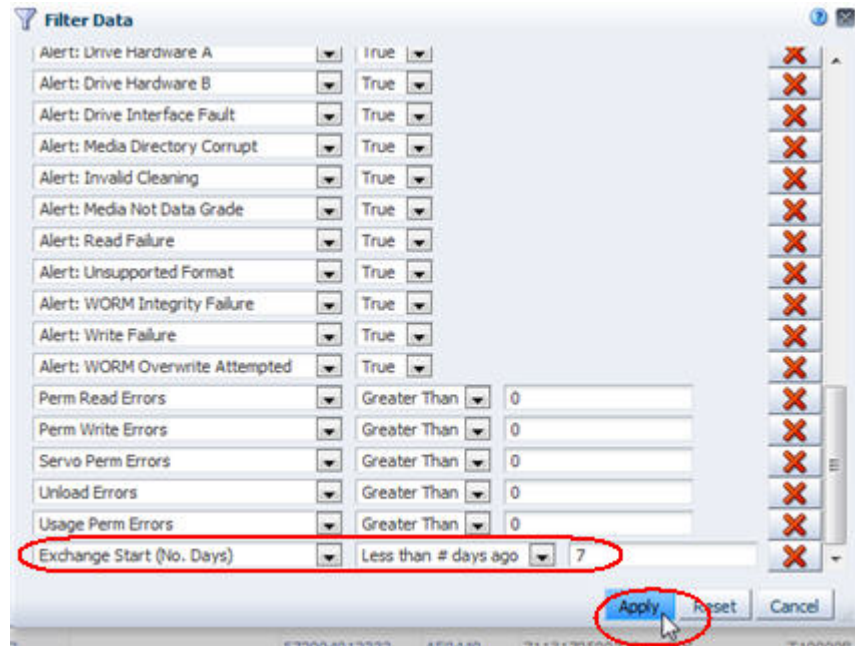
3. 「Drive Serial Number」列で、「**Sort Ascending**」または「**Sort Descending**」矢印をクリックします。

エラーがドライブ別にグループ化されるため、障害のあるドライブに絞り込むことができません。



4. 特定のエラーに焦点を当てるには、次のタスクを使用して、列を並べ替え、空の列を削除します (該当する場合)。
  - 列を移動するには、『*STA 画面基本ガイド*』
  - 列を非表示にしたり表示したりするには、『*STA 画面基本ガイド*』
5. 次の段階を使用して、今週のデータのみを表示します。

- a. 「**Filter Data**」をクリックします。
- b. 「Filter Matching」フィールドで「**Match ALL entered criteria**」を選択します。
- c. 次の選択条件を追加します。
  - 「**Exchange Start (No. Days)**」は、7 日前よりも前
- d. 「**Apply**」をクリックします。



テーブルは選択条件に従って更新されます。

#### 13.1.2.4. 「Drives – Messages」画面の使用

ほとんどのメッセージには特定ドライブの参照が含まれていないため、この方法で取得した情報は、その他の情報ほど包括的ではありません。しかし、この方法によって、健全性状態が変化したドライブのスナップショットをすばやく提供できます。

1. ナビゲーションバーで、「**Tape System Hardware**」を選択して、「**Drives Messages**」を選択します。



2. 「Device Serial Number」列で、「Sort Ascending」または「Sort Descending」矢印をクリックします。

エラーおよびステータスは、ドライブ別にグループ化されます。

Date SNMP trap recv'd	Text	Drive Type	Drive Vendor	Device Serial Number	Device State	Proper
2012-04-03 17:27:57		Stk9840c	StorageTek	500000020336	DEGRADED	
2012-03-30 15:56:31		Stk9840c	StorageTek	500000011337	DEGRADED	
2012-03-30 15:56:31		Stk9840c	StorageTek	500000011337	NORMAL	
2012-03-30 15:55:12		Stk9840c	StorageTek	500000011337	NOTOPERATIVE	
2012-04-05 14:52:57		Stk9940b	StorageTek	479002034139	NORMAL	
2012-04-05 14:52:57		Stk9940b	StorageTek	479002034139	DEGRADED	
2012-04-05 13:55:28		Stk9940b	StorageTek	479002034139	NOTOPERATIVE	

3. リストに目を通して、各ドライブのデバイス状態に変化がないかどうかを確認します。

### 13.1.3. ドライブの効率性傾向のレポート

この手順は、「長期にわたって、効率性が大幅に低下しているドライブはどれですか」という質問に対処します。

STA では、データ転送速度の効率性 (読み取り、書き込み、および読み取りと書き込みを組み合わせた速度を含む) を測定する数多くの値が記録および表示されます。STA では、交換ごとの速度が収集され、毎日および 30 日間に集約されます。さらに、一部のドライブタイプでは、独自の効率性計算も提供されています。STA によってレポートされる一部の効率性属性を次に示します。

#### 13.1.3.1. 参照タスク

- 「テンプレートの適用」



- グラフペインを追加するには、『STA 画面基本ガイド』
  - グラフ化された属性を変更するには、『STA 画面基本ガイド』
  - ライブラリリソースをグラフに適用するには、『STA 画面基本ガイド』
1. ナビゲーションバーで、「**Tape System Hardware**」を選択して、「**Drives Overview**」を選択します。



2. 「**Templates**」メニューで、「STA-Drive-Performance-30-Days」テンプレートを適用します。



このテンプレートには、ドライブのパフォーマンスに関連する属性が含まれています。グラフペインは含まれていません。

---

**注:**

STA がデータを収集し、正確な数値を計算するのに十分な長さの時間、ドライブをモニターしていない場合、一部の測定値が NULL またはゼロになります。

---

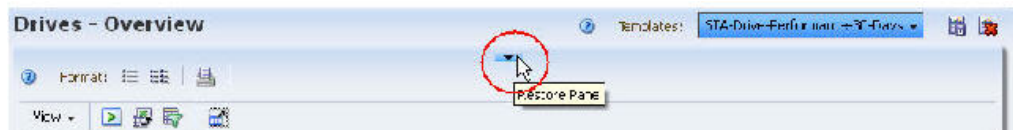
Drive Serial Number	MD Read (30 Days)	MD Write (30 Days)	MB R/W (30 Days)	MD Sent (30 Days)	MD Received (30 Days)	Mount Read MB/W (30 Days)	Mount Write MB/W (30 Days)	Mount R/W MB/W (30 Days)	Avg MB (30 Days)
-U1347D1TA	0.17	12,548,406.00	12,548,406.00	2.02	12,381,714.00	C.C1	25.51	26.51	
72001C00315	7,910.00	2,415,142.00	2,423,053.00	0.00042	2,411,659.50	C.C0	3.44	5.47	
-U1331:66d	1.84	8,254.64	8,265.38	1.65	8,255.02	L.L1	2.38	2.88	

3. 次の段階を使用して、目的のグラフをグラフ領域に追加します。

選択した属性をグラフ化すると、長期にわたる効率性の増減を確認し、各ドライブの効率性の数値をシステム平均と比較できます。

- a. 画面のいちばん上にある「**Restore Pane**」をクリックして、グラフィックス領域を表示します。

グラフィックス領域は空白です。



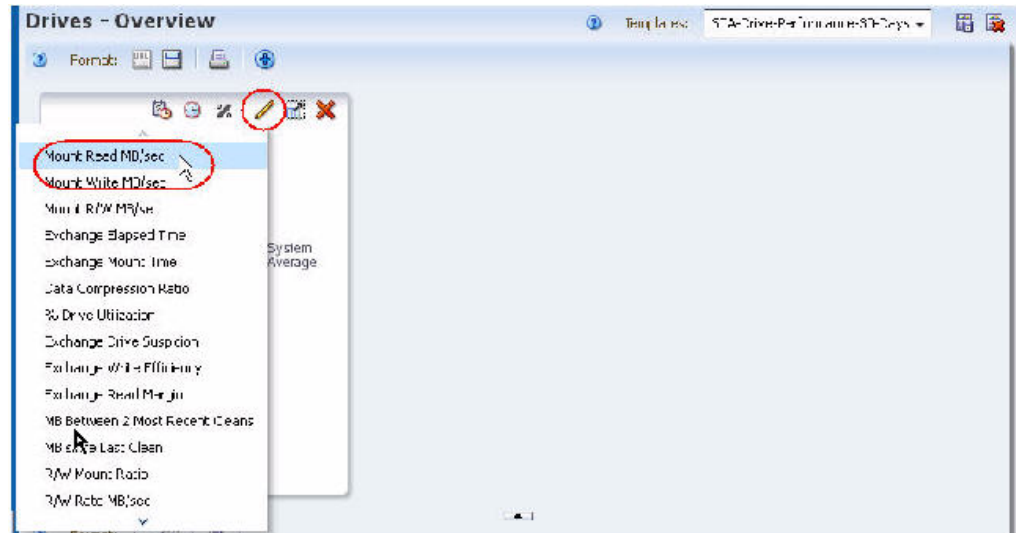
- b. グラフィックス領域のツールバーで「**Add Graph**」をクリックします。



グラフィック領域の表示に、「MB Read」属性が指定された新しいグラフペインが追加されます。

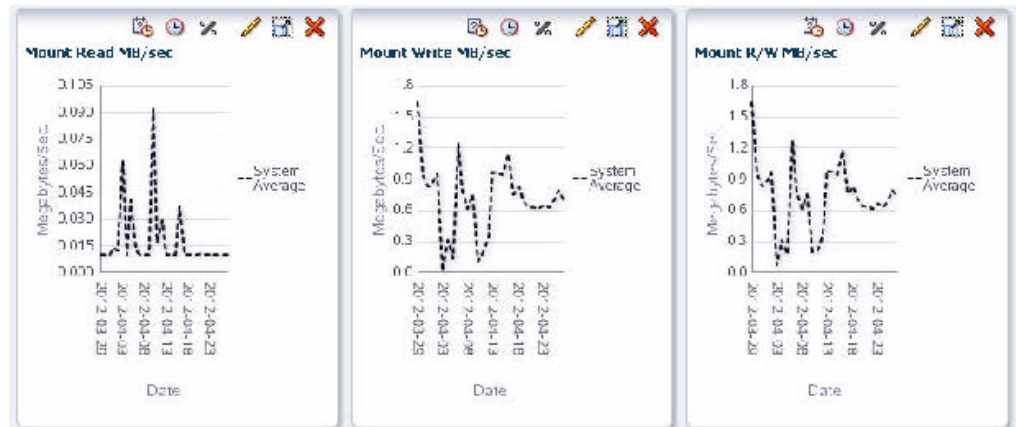
- c. グラフペインのツールバーで「**Change Graphed Attribute**」をクリックし、目的の属性を選択します。





- d. グラフ化する属性を追加するたびに、前の 2 つの段階を繰り返します。

グラフは、選択した属性のシステム平均が表示されるように更新されます。次の例では、「Mount Read MB/sec」、「Mount Write MB/sec」、および「Mount R/W MB/sec」が表示されています。



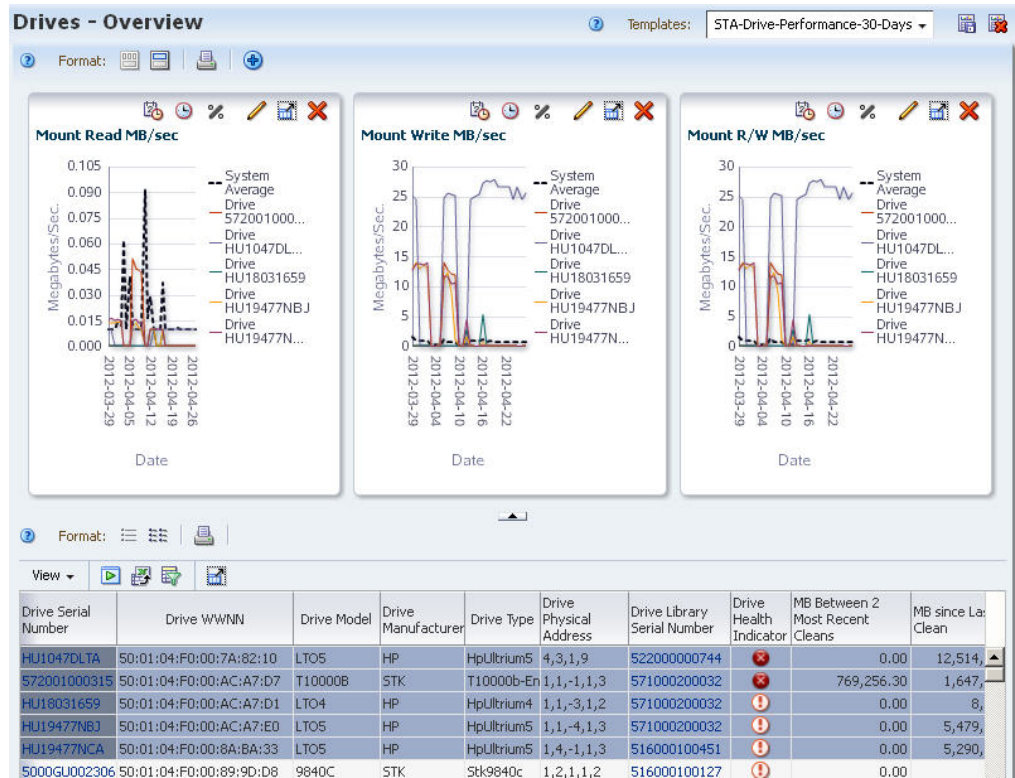
4. 次の段階を使用して、上位 5 台のドライブをグラフに追加します。

ドライブをグラフに追加すると、その属性値をシステム平均と比較できます。デフォルトでは、常にグラフにシステム平均が含まれています。

- リストビューテーブルで、上位 5 台のドライブを選択します。
- テーブルツールバーで「**Apply Selection**」をクリックします。

Drive Serial Number	Drive WWNN	Drive Model	Drive Manufacturer	Drive Type	Drive Physical Address	Drive Library Serial Number	Drive Health Indicator	MB Between 2 Most Recent Cleans	MB since Last Clean
HU1047DLTA	50:01:04:F0:00:7A:82:10	LTO5	HP	HpUltrium5	4,3,1,9	52200000744	⊗	0.00	12,514
572001000315	50:01:04:F0:00:AC:A7:D7	T10000B	STK	T10000b-En	1,1,-1,1,3	571000200032	⊗	769,256.30	1,647
HU18031659	50:01:04:F0:00:AC:A7:D1	LTO4	HP	HpUltrium4	1,1,-3,1,2	571000200032	⊗	0.00	8
HU19477NBJ	50:01:04:F0:00:AC:A7:E0	LTO5	HP	HpUltrium5	1,1,-4,1,3	571000200032	⊗	0.00	5,479
HU19477NCA	50:01:04:F0:00:8A:BA:33	LTO5	HP	HpUltrium5	1,4,-1,1,3	516000100451	⊗	0.00	5,290

すべての画面のグラフにドライブが追加されます。



### 13.1.4. ドライブの障害傾向のレポート

この手順は、「今日 2 回目の障害が発生したのは、2 か月前に問題が発生したものと同じドライブですか」という質問に対処します。

「Messages」または「Exchanges」テーブルにドライブのエラーが表示されている場合は、ドライブ ID でテーブルをフィルタリングして、現在のデータと過去のデータを調査できます。特に、「Exchanges」テーブルでは、特定期間のデータを選択できます。

#### 13.1.4.1. 参照タスク

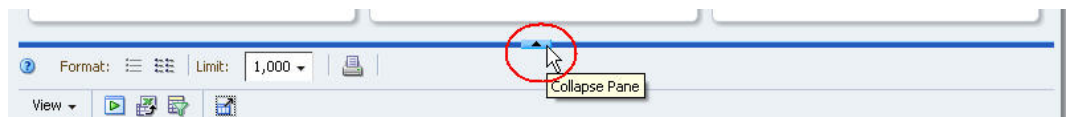
- グラフ領域を縮小したり復元したりするには、『STA 画面基本ガイド』

- 「Filter Data」ダイアログボックスを使用したテーブルフィルタの変更」

1. ナビゲーションバーで、「Tape System Activity」を選択して、「Exchanges Overview」を選択します。



2. より多くのテーブルデータを一度に表示するには、画面の中央にある「Collapse Pane」アイコンをクリックして、テーブルを縦方向に拡張します。



3. 次の段階を使用して、4 か月前から 5 か月前までの間に発生した交換のうち、疑わしいドライブが関与したものにデータを絞り込みます。
  - a. 「Filter Data」をクリックします。
  - b. 「Filter Matching」フィールドで「Match ALL entered criteria」を選択します。
  - c. 次の選択条件を追加します。
    - 「Exchange Start (Dates)」は、3 か月前の日付後
    - 「Exchange End (Dates)」は、2 か月前の日付前
    - 「Drive Serial Number」は、エラーが発生したドライブのシリアル番号

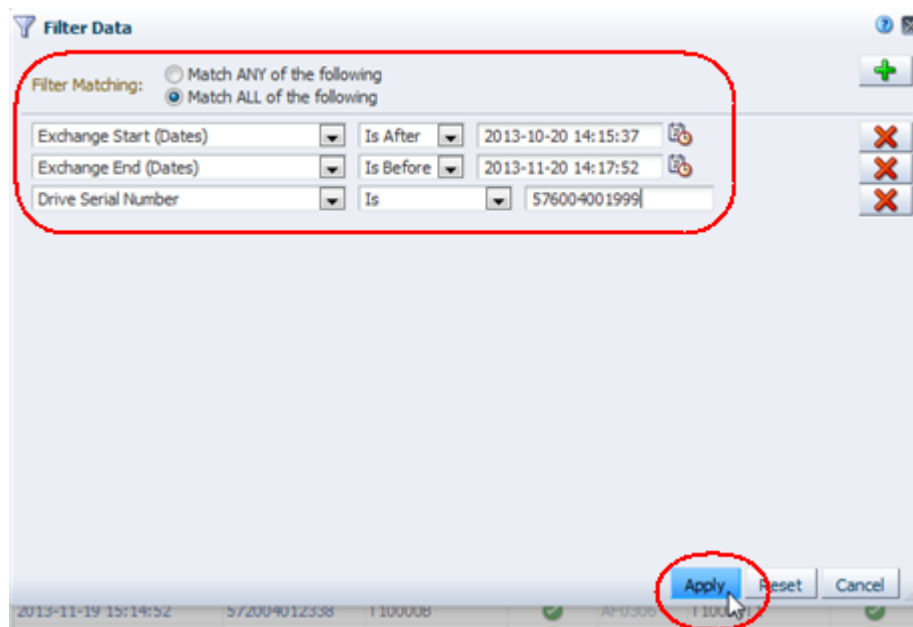
---

注:

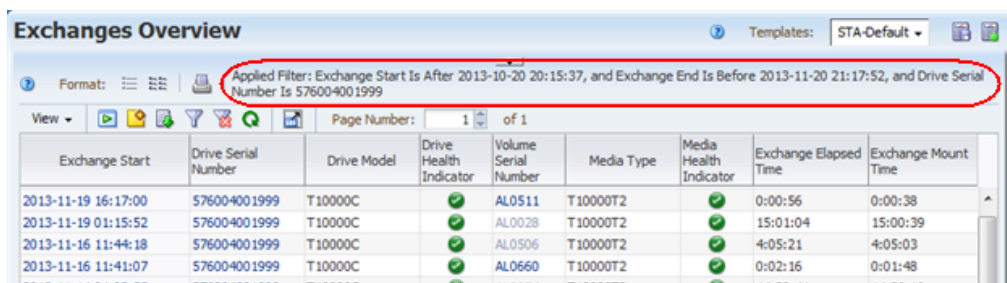
サイトで交換が数日間続いた場合は、問題のドライブが関与した交換が完全に含まれるように、日付の設定を調整する必要があることがあります。

---

- d. 「Apply」をクリックします。



テーブルは選択条件に従って更新されます。



4. データに目を通して、この期間内にドライブの交換でエラーが発生したかどうかを判断します。

### 13.1.5. テープジョブエラーのトラブルシューティングに役立つ情報のレポート

この手順は、「今日の午前 9 時に、テープジョブのいずれかでエラーが発生しました。関与したドライブとメディアはどれですか。ほかのエラーも発生しましたか」という質問に対処します。

次の方法について説明します。

- 「[Exchanges – Overview] 画面の使用」
- 「[All Messages – Overview] 画面の使用」

### 13.1.5.1. 参照タスク

- グラフ領域を縮小したり復元したりするには、『[STA 画面基本ガイド](#)』
- 「[「Filter Data」ダイアログボックスを使用したテーブルフィルタの変更](#)」
- リンクを使用して移動するには、『[STA 画面基本ガイド](#)』

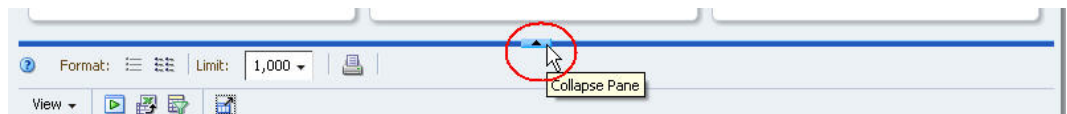
### 13.1.5.2. 「Exchanges – Overview」画面の使用

各「ジョブ」が独立した交換（つまり、マウント、データの読み取り/書き込み、マウント解除）である場合、この方法を使用すると、テープジョブの失敗に関する情報にアクセスできます。

1. ナビゲーションバーで、「**Tape System Activity**」を選択して、「**Exchanges Overview**」を選択します。



2. したがって、より多くのテーブルデータを一度に表示し、画面の中央にある「**Collapse Pane**」アイコンをクリックすると、テーブルを縦方向に拡張できます。

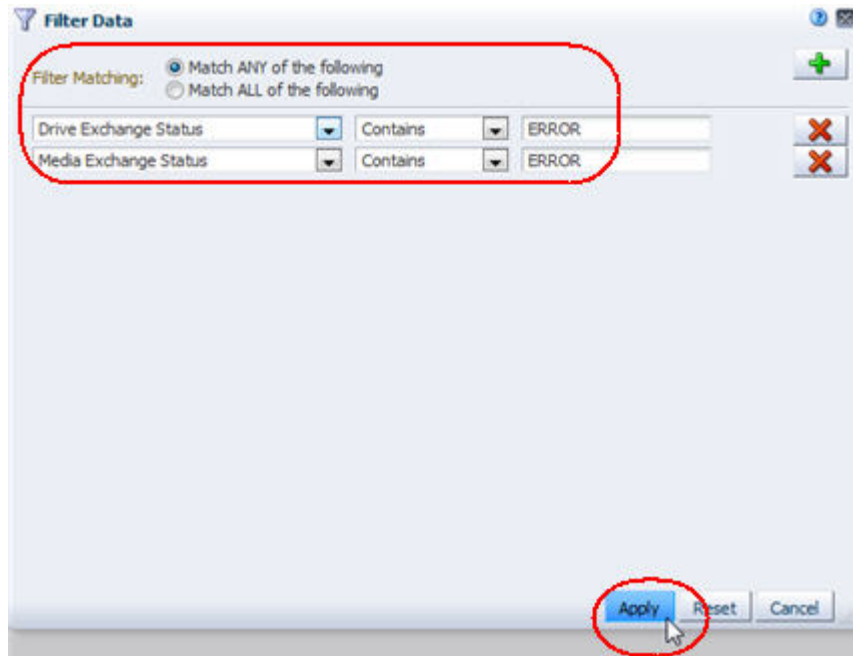


3. 次の段階を使用して、エラーが発生した交換だけにデータを絞り込みます。
  - a. 「**Filter Data**」をクリックします。
  - b. 「Filter Matching」フィールドで「**Match ANY entered criteria**」を選択します。
  - c. 次の選択条件を追加します。
    - 「**Drive Exchange Status**」に「**ERROR**」が含まれる
    - 「**Media Exchange Status**」に「**ERROR**」が含まれる

注:

エントリの大文字と小文字は区別されないため、「ERROR」は「error」や「Error」と一致します。

- d. 「Apply」をクリックします。



テーブルは選択条件に従って更新されます。

注:

「Drive Health Indicator」および「Media Health Indicator」列には、エラー発生後も「Use」と表示される場合があります。これは、これらの属性値が長期間にわたって集計されたことが原因です。特定の値は、エラーの頻度や重大度、および後続の交換で問題が発生していないかどうかによって異なります。最近の交換で問題が発生していなければ、集計された値が「Use」ステータスに移行します。

Format: [Icons] Limit: 1,000 Applied Filter: Drive Exchange Status Contains 'ERROR' or Media Exchange Status Contains 'ERROR'

Exchange Start	Drive Serial Number	Drive Model	Drive Health Indicator	Volume Serial Number	Media Type	Media Health Indicator	Drive Exchange Status	Media Status
2012-04-30 15:33:53	531002002155	T10000A	🚩	EVT525	T10000	🚩	PERM_ERROR	PERM
2012-04-30 15:32:59	572004002083	T10000B	🚩	EVT526	T10000	🚩	PERM_ERROR	PERM
2012-04-30 13:17:10	HU1047DLTA	LTO5	🚫	T50205	LTO5	🚫	DRIVE_ERROR	DRIVE
2012-04-30 12:16:29	HU1047DLTA	LTO5	🚫	T50200	LTO5	🚫	DRIVE_ERROR	DRIVE

4. エラーに関する詳細については、今日の午前 9 時ごろに発生した交換までスクロールして、「Drive Exchange Status」、「Media Exchange Status」、および「Exchange FSC」列の情報を確認してください。

デフォルトでは、テーブルの行は「Exchange Start」の時間でソートされます。



Exchange Start	Drive Health Indicator	Volume Serial Number	Media Type	Media Health Indicator	Drive Exchange Status	Media Exchange Status	Exchange FSC	Exchange Time
2012-04-25 09:18:26	✖	T50217	LTO5	✖	DRIVE_ERROR	DRIVE_ERROR		0:09:...
2012-04-25 09:07:54	✖	T50205	LTO5	✖	DRIVE_ERROR	DRIVE_ERROR		0:07:54
2012-04-25 08:07:52	✖	T50200	LTO5	✖	DRIVE_ERROR	DRIVE_ERROR		0:07:52

5. オプションで、エラーに関与するドライブまたはメディアに関する詳細を表示するには、「Drive Serial Number」または「Volume Serial Number」列でテキストリンクを選択します。

Exchange Start	Drive Health Indicator	Volume Serial Number	Media Type	Media Health Indicator	Drive Exchange Status	Media Exchange Status	Exchange FSC	Exchange Time
2012-04-25 09:07:54	✖	T50205	LTO5	✖	DRIVE_ERROR	DRIVE_ERROR		0:07:54
2012-04-25 08:07:52	✖	T50200	LTO5	✖	DRIVE_ERROR	DRIVE_ERROR		0:07:52
2012-04-25 07:08:06	✖	T50237	LTO5	✖	DRIVE_ERROR	DRIVE_ERROR		0:08:06

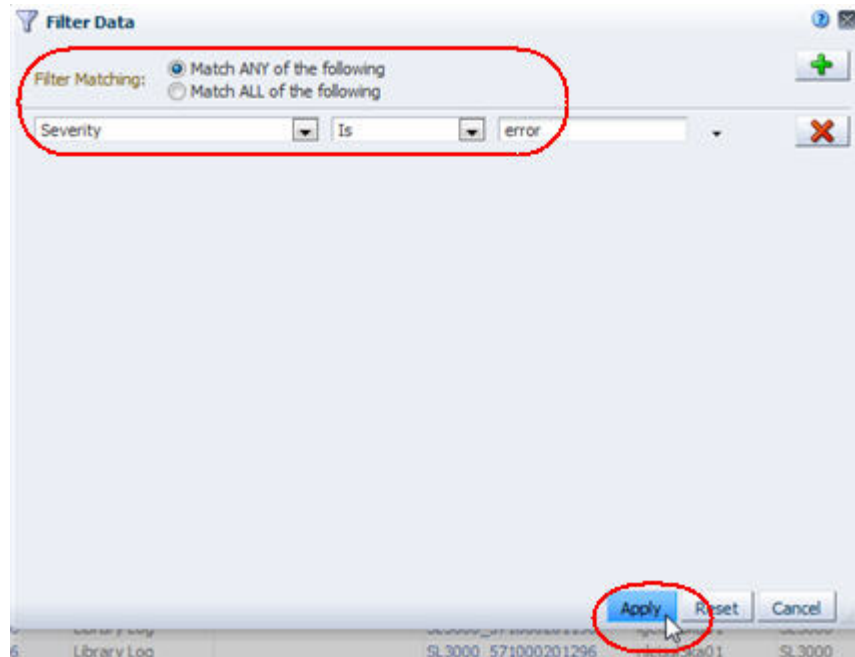
### 13.1.5.3. 「All Messages – Overview」画面の使用

ジョブの失敗が発生した時間が判明している場合は、この方法を使用して、関連する STA エラーメッセージを確認できます。

- ナビゲーションバーで、「Tape System Activity」を選択して、「All Messages Overview」を選択します。



- 次の段階を使用して、エラーに関与したトラップだけにデータを絞り込みます。
  - 「Filter Data」をクリックします。
  - 「Severity」が「error」
  - 「Apply」をクリックします。



テーブルは選択条件に従って更新されます。

Format: [Icons] Limit: 1,000 Applied Filter: Severity=error

Date SNMP trap recv'd	Device ID	Device Activity	Severity	Text	Drive Type
2012-05-02 13:04:39	HBC 66000703	queryDrive	error	"Error from device Code: 604 - Drive is not functional", Unknown	
2012-05-02 05:29:38	HBC 74000397	move	error	"Drive not unloaded for fetch - on rewindUnload", hllsi Unknown	
2012-05-02 05:29:38	HBC 74000397	move	error	"Error from device Code: 601 - Drive is loaded", Data= Unknown	
2012-05-02 05:00:23	HBC 74000397	internal	error	"Drive communication time-out 1,2,-2,1,"	Unknown

- 今日の午前 9 時ごろに受信されたトラップまでスクロールして、エントリを確認します。

デフォルトでは、テーブルの行は「Date SNMP trap recv'd」の時間でソートされます。

### 13.1.6. クリティカルなエラーの傾向のレポート

この手順は、「先月、STA にレポートされたクリティカルなエラーは何ですか。合計数は増加している傾向ですか。それとも、安定していますか」という質問に対処します。

STA では、多種多様なエラータイプの事例がレポートされます。この手順では、エラーデータをスプレッドシートアプリケーションにエクスポートする方法を示します。これを使用すると、長期にわたるエラーの傾向を集約できます。

次の方法について説明します。

- 「[All Messages – Overview](#)」画面の使用」
- 「[Exchanges – Overview](#)」画面の使用」



### 13.1.6.1. 参照タスク

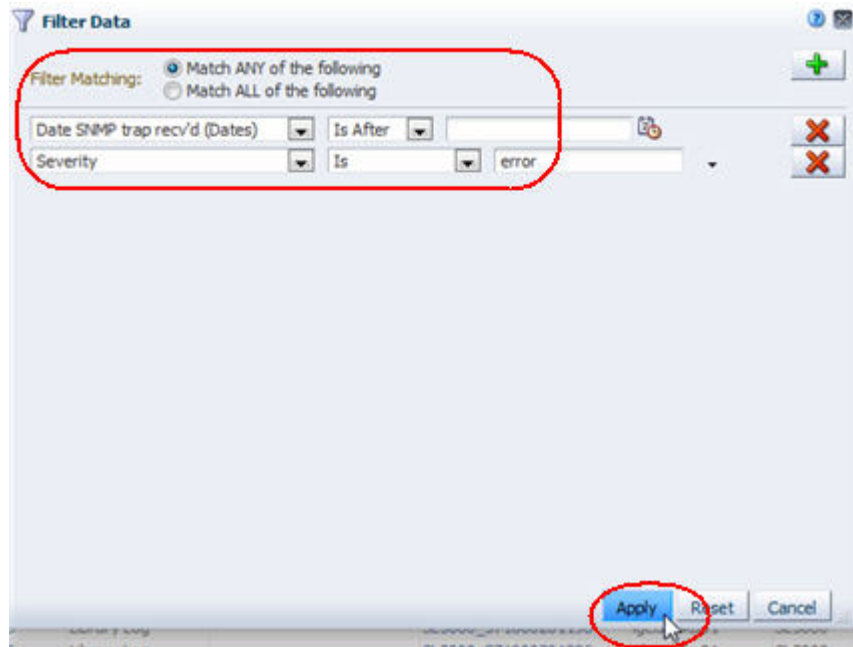
- 「[Filter Data](#)」ダイアログボックスを使用したテーブルフィルタの変更」
- 列を移動するには、『[STA 画面基本ガイド](#)』
- ツールチップについては、『[STA 画面基本ガイド](#)』
- 列の幅を変更するには、『[STA 画面基本ガイド](#)』
- テーブルデータをエクスポートするには、『[STA 画面基本ガイド](#)』
- 「[テンプレートの適用](#)」
- グラフ領域を縮小したり復元したりするには、『[STA 画面基本ガイド](#)』
- グラフペインを追加するには、『[STA 画面基本ガイド](#)』
- グラフ化された属性を変更するには、『[STA 画面基本ガイド](#)』

### 13.1.6.2. 「All Messages – Overview」画面の使用

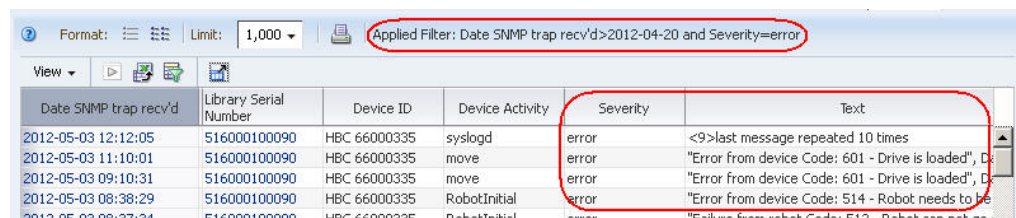
1. ナビゲーションバーで、「**Tape System Activity**」を選択して、「**All Messages Overview**」を選択します。



2. 次の段階を使用して、先月中に送信されたトラップにデータを絞り込みます。
  - a. 「**Filter Data**」をクリックします。
  - b. 「Filter Matching」フィールドで「**Match ALL entered criteria**」を選択します。
  - c. 次の選択条件を追加します。
    - 「**Date SNMP trap recv'd (Dates)**」は、1 か月前の日付後
    - 「**Severity**」が「**error**」
  - d. 「**Apply**」をクリックします。



テーブルは選択条件に従って更新されます。「Severity」列と「Text」列は隣接しているため、同時に確認できます。列を表示するために、右方向にスクロールする必要がある場合があります。



3. 次の方法のいずれかを使用すると、エラーメッセージのフルテキストを表示できます。

- セル下部の境界線上にマウスを移動すると、ツールチップにフルテキストが表示されます。

Severity	Text	Drive Type	Drive Vendor
error	"Error from device Code: 510 - Robot says location full, Unknown	Unknown	Unknown
error	"Destination full - cartridge returned to source", volumeLabel=SL1185~R hllsm=7	Unknown	Unknown
error	"Error from device Code: 510 - Robot says location full, Unknown	Unknown	Unknown
error	"Destination full - cartridge returned to source", volumeLabel=SL1185~R hllsm=7	Unknown	Unknown
error	"Error from device Code: 510 - Robot says location full, Unknown	Unknown	Unknown

- 「Text」列の幅を広げます。

- テーブルをファイルにエクスポートします。次に、互換性のあるスプレッドシートアプリケーションを使用してファイルを開き、テーブルの列内で折り返されるようにエラーメッセージのテキストを書式設定します。

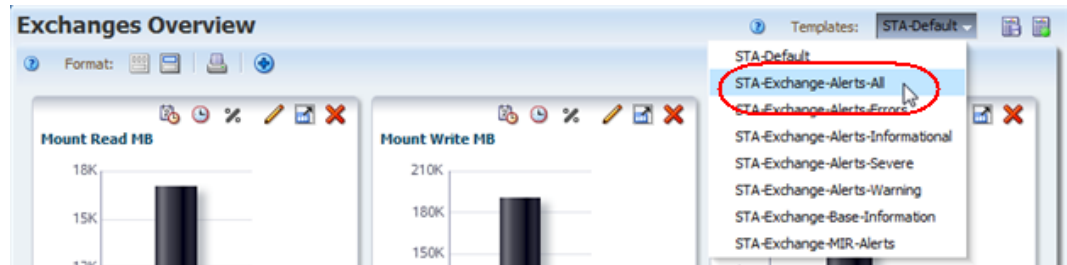
### 13.1.6.3. 「Exchanges – Overview」画面の使用

ドライブおよびメディアのエラーは、交換の結果としてレポートされます。したがって、「Drives」や「Media」画面よりも、ドライブおよびメディアのデータが統合されている「Exchanges Overview」画面でエラーを検索した方が効率的です。

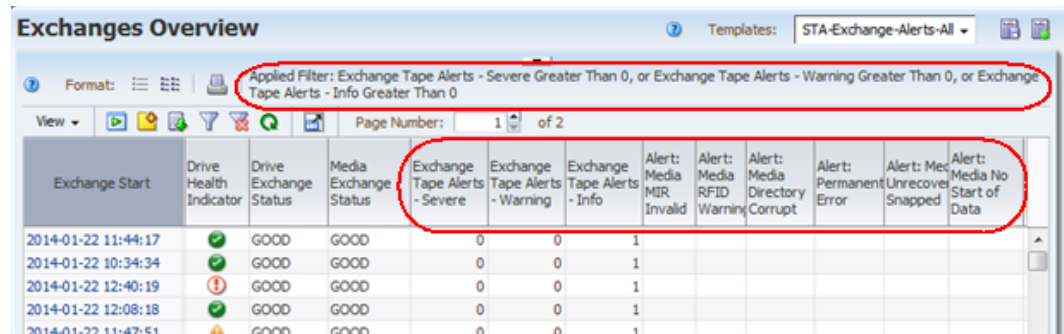
1. ナビゲーションバーで、「Tape System Activity」を選択して、「Exchanges Overview」を選択します。



2. 「Templates」メニューで、「STA-Exchanges-Alerts-All」テンプレート (より細かい部分を表示する場合は、「STA-Exchanges-Alerts-Errors」テンプレート) を適用します。



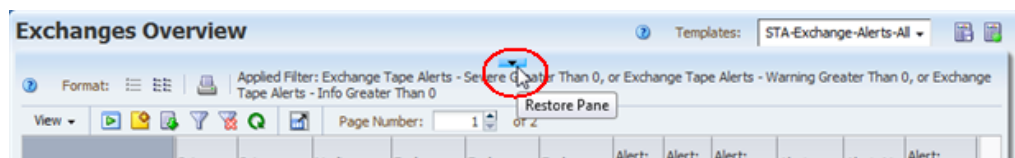
このテンプレートには、さまざまなタイプのエラーを示す複数の列が含まれています。交換は逆年代順 (最近の交換が最初) でソートされるため、先月サイトで多く見られたエラータイプをひと目で確認できます。



3. 潜在的な傾向を示すのに十分なエラーがある場合は、次の段階を使用して、目的のグラフをグラフ領域に追加します。

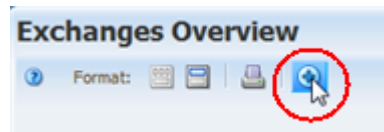
エラーと関連する可能性のある属性は、「Write Efficiency」、「Read Margin」、「R/W Rate MB/sec」などです。

- a. 画面のいちばん上にある「**Restore Pane**」アイコンをクリックして、グラフィックス領域を表示します。



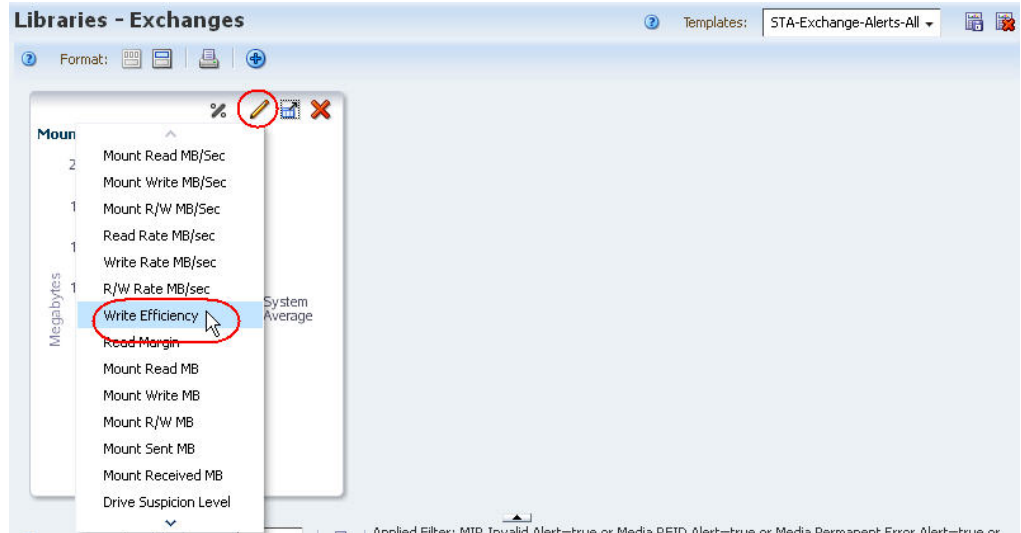
グラフィックス領域は空白です。

- b. グラフィックス領域のツールバーで「**Add Graph**」アイコンをクリックします。



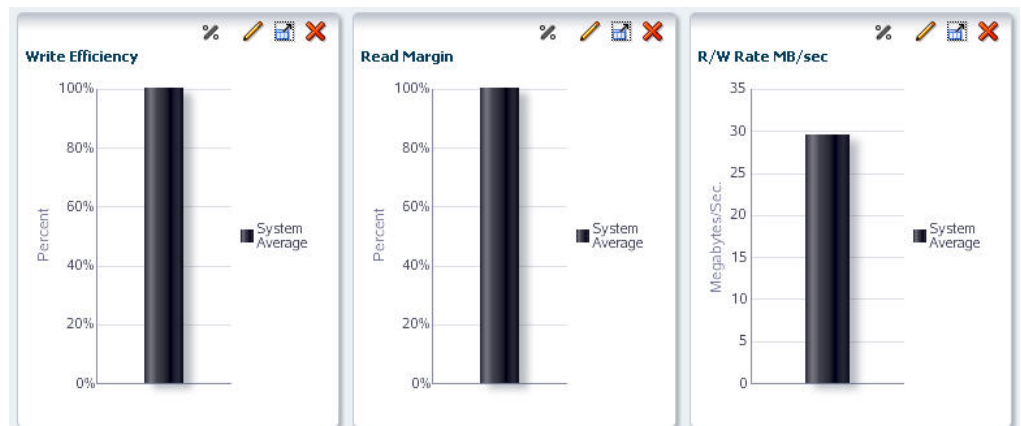
グラフィック領域の表示に、「Mount Read MB」属性が指定された新しいグラフペインが追加されます。

- c. グラフペインのツールバーで「**Change Graphed Attribute**」アイコンをクリックして、グラフ化する属性を選択します。

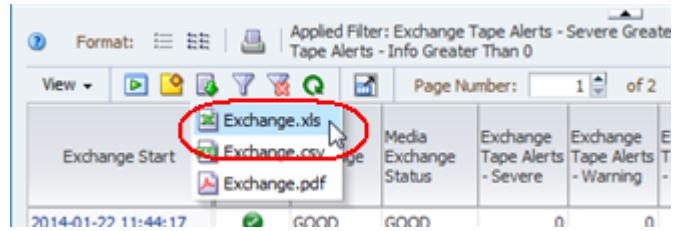


- d. グラフ化する属性を追加するたびに、前の 2 つの段階を繰り返します。

グラフは、選択した属性のシステム平均が表示されるように更新されます。次のサンプルでは、「Write Efficiency」、「Read Margin」、および「R/W Rate MB/sec」が表示されています。



4. エラーの合計数をエラータイプ別に計算するには、外部スプレッドシートアプリケーションを使用する必要があります。次の段階を使用して、HTML ベースの Excel 互換性ファイルに、テーブルに表示されたデータをエクスポートします。
- a. テーブルツールバーで「Export」アイコンをクリックし、「Exchange.xls」を選択します。



- b. ローカルコンピュータ上の場所にファイルを保存します。
- c. 互換性のあるスプレッドシートアプリケーションを使用してファイルを開き、データを集約します。

## 13.2. 容量およびリソース管理に関する質問

質問	タスク
テープシステム環境内に、ライブラリ、ドライブ、またはメディアがいくつありますか。	「ライブラリ、ドライブ、またはメディアの合計数のレポート」
テープシステム環境内に、特定タイプのドライブまたはメディアはいくつありますか。	「ドライブおよびメディアタイプのレポート」
利用率に関して上位 3 台のドライブはどれですか。	「もっとも利用率が高いドライブのレポート」
供給不足のメディアタイプはどれですか。供給過剰のタイプはありますか。	「メディアの不足または過剰のレポート」
来年は、より多くのメディア、ドライブ、またはストレージセルが必要になる見込みですか。その場合は、いくつかですか。	「今後のメディア、ドライブ、またはストレージセルに対する要件の計画」
テープシステムで、もっとも多く使用されているドライブまたはメディアのタイプはどれですか。	「もっとも利用率が高いリソースのレポート」
テープ環境内で、もっともビジー状態であるライブラリはどれですか。もっともビジー状態でないのはどれですか。	「ライブラリ関連のアクティビティレベルのレポート」
満杯の 90% を超えているメディアはどれですか。ライブラリから取り出すためのスクリプトを作成する際に使用できるリストは、どのように生成しますか。	「満杯に近づいているメディアのレポート」
ドライブはすべて最新のファームウェアにアップグレードされていますか。	「ドライブのファームウェアレベルのレポート」

### 13.2.1. ライブラリ、ドライブ、またはメディアの合計数のレポート

これらの手順は、「テープシステム環境内に、ライブラリ、ドライブ、またはメディアがいくつありますか」という質問に対処します。

次の方法について説明します。

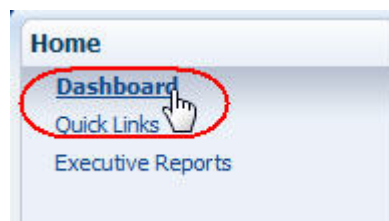
- 「[「Dashboard」の使用](#)」
- 「[「Overview」画面の使用](#)」
- 「[「Analysis」画面の使用](#)」

### 13.2.1.1. 関連トピック

- ツールチップについては、『[STA 画面基本ガイド](#)』
- 「[現在のフィルタのクリア](#)」

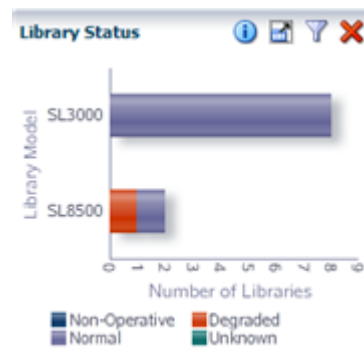
### 13.2.1.2. 「Dashboard」の使用

1. ナビゲーションバーで、「**Home**」を選択して、「**Dashboard**」を選択します。



2. リソース (ライブラリ、ドライブ、またはメディア) の数が少ない場合は、グラフを読むだけで、すばやく目視で数えることができます。

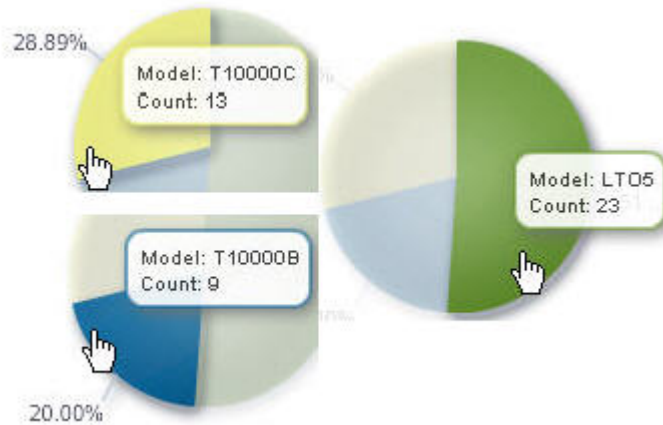
次のサンプルでは、ライブラリの合計数が 10 台 (8 + 2) であることがグラフから推定できます。



3. リソースの数が多い場合は、円グラフの各スライス上にマウスを移動すると、合計数などの情報を説明したツールチップを表示できます。

次のサンプルでは、円グラフのツールチップに合計台数 (13 + 9 + 23 = 45) が表示されています。





### 13.2.1.3. 「Overview」画面の使用

「Overview」画面では、表示されたレコードの合計数がリストビューテーブルの右下隅にリスト表示されます。フィルタが適用されていない場合は、この数値は STA でモニターされるリソースタイプ (ライブラリ、ドライブ、またはメディア) の合計数です。

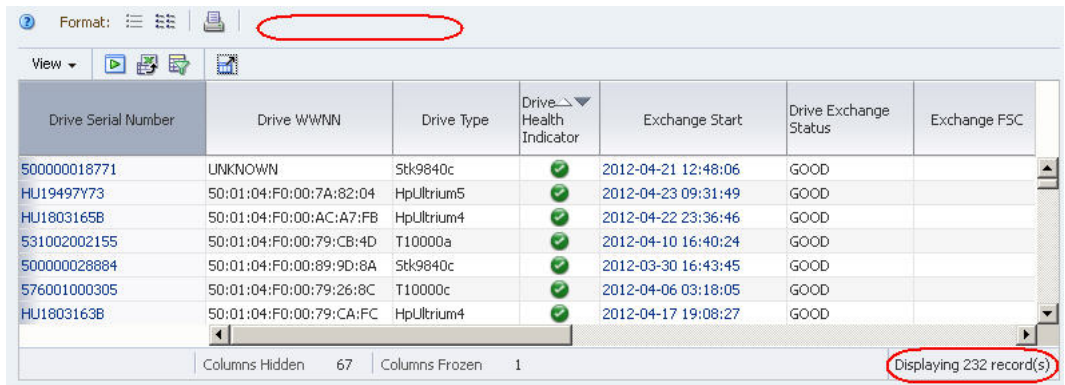
1. ナビゲーションバーで「Overview」画面を選択します。



2. テーブルの「Applied Filter」領域をチェックして、フィルタが有効になっていないことを確認します。フィルタが適用されている場合は、「現在のフィルタのクリア」を参照して、クリアする方法を確認してください。

次のサンプルでは、「Drives – Overview」画面に、フィルタが適用されておらず、STA でモニターされるドライブの合計数が 232 台であることが表示されています。



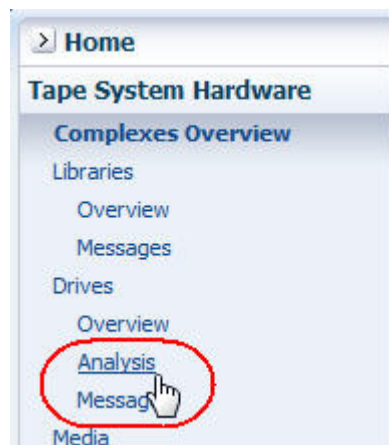


Drive Serial Number	Drive WWNN	Drive Type	Drive Health Indicator	Exchange Start	Drive Exchange Status	Exchange FSC
500000018771	UNKNOWN	5k9840c	✓	2012-04-21 12:48:06	GOOD	
HU19497Y73	50:01:04:F0:00:7A:82:04	HpUltrium5	✓	2012-04-23 09:31:49	GOOD	
HU1803165B	50:01:04:F0:00:AC:A7:FB	HpUltrium4	✓	2012-04-22 23:36:46	GOOD	
531002002155	50:01:04:F0:00:79:CB:4D	T10000a	✓	2012-04-10 16:40:24	GOOD	
500000028884	50:01:04:F0:00:89:9D:8A	5k9840c	✓	2012-03-30 16:43:45	GOOD	
576001000305	50:01:04:F0:00:79:26:8C	T10000c	✓	2012-04-06 03:18:05	GOOD	
HU1803163B	50:01:04:F0:00:79:CA:FC	HpUltrium4	✓	2012-04-17 19:08:27	GOOD	

### 13.2.1.4. 「Analysis」画面の使用

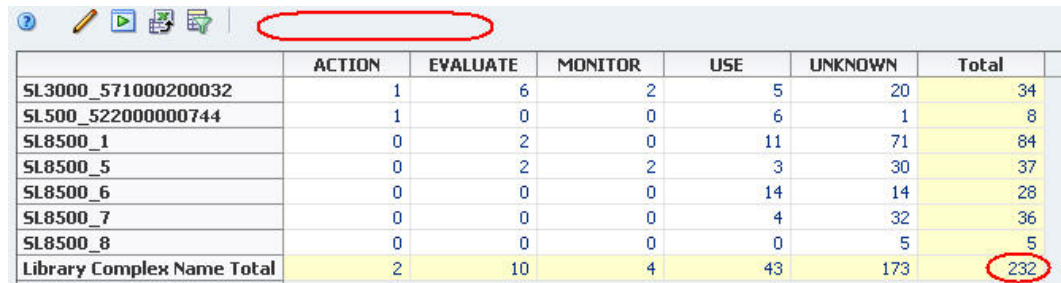
「Analysis」画面では、さまざまな条件に従ってデータが集計されます。

1. ナビゲーションバーで「Analysis」画面を選択します。



2. テーブルの「Applied Filter」領域をチェックして、フィルタが有効になっていないことを確認します。フィルタが適用されている場合は、「現在のフィルタのクリア」を参照して、クリアする方法を確認してください。

次の「Drives – Analysis」画面のサンプルでは、フィルタが適用されておらず、ピボットテーブルで合計 232 台のドライブがライブラリコンプレックス別および状態別に分類されています。



	ACTION	EVALUATE	MONITOR	USE	UNKNOWN	Total
SL3000_571000200032	1	6	2	5	20	34
SL500_522000000744	1	0	0	6	1	8
SL8500_1	0	2	0	11	71	84
SL8500_5	0	2	2	3	30	37
SL8500_6	0	0	0	14	14	28
SL8500_7	0	0	0	4	32	36
SL8500_8	0	0	0	0	5	5
Library Complex Name Total	2	10	4	43	173	232

## 13.2.2. ドライブおよびメディアタイプのレポート

次の手順は、「テープシステム環境内に、特定タイプのドライブまたはメディアはいくつありますか」という質問に対処します。

次の方法について説明します。

- 「[「Dashboard」の使用](#)」
- 「[「Analysis」画面の使用](#)」

### 13.2.2.1. 参照タスク

- ツールチップについては、『[STA 画面基本ガイド](#)』
- リンクを使用して移動するには、『[STA 画面基本ガイド](#)』

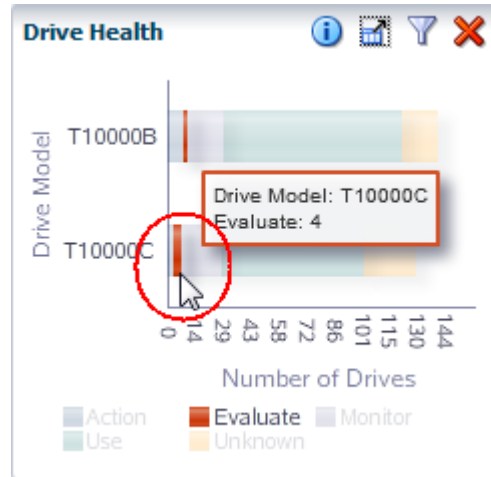
### 13.2.2.2. 「Dashboard」の使用

1. ナビゲーションバーで「**Dashboard**」を選択します。



2. 円グラフまたは棒グラフの関連セクション上にマウスを移動して、記述的情報および合計数を示すツールチップを表示します。

次のサンプルでは、T10000C のバー上にマウスを移動すると、健全性が「Evaluate」の T10000C ドライブが 4 台あることが表示されます。



- 棒グラフまたは円グラフのセクションを選択すると、該当するタイプのドライブまたはメディアでフィルタリングされた状態の関連する「Overview」画面に移動します。

次のサンプルでは、健全性が「Evaluate」の T10000C ドライブのみが表示されるようにフィルタリングされた状態で、「Drives – Overview」画面が表示されています。

The figure shows the 'Drives - Overview' interface. At the top, a filter is applied: 'Applied Filter: Drive Model Is T10000C, and Drive Health Indicator Is EVALUATE'. Below is a table with the following data:

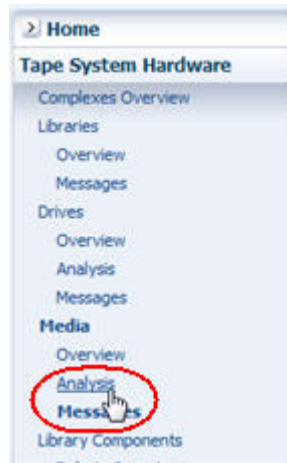
Drive Serial Number	Drive WWNN	Drive Type	Drive Health Indicator	Exchange Start	Drive Exchange Status	Exchange Drive Cleaning Required	Exchange I
576004002350	50:01:04:F0:00:80:41:0D	T10000c-Enc	!	2014-01-22 11:30:03	GOOD		
576004002512	50:01:04:F0:00:80:41:07	T10000c-Enc	!	2014-01-22 01:08:42	GOOD		
576004003980	50:01:04:F0:00:80:A6:73	T10000c-Enc	!	2014-01-22 09:37:44	GOOD		
576004005283	50:01:04:F0:00:8B:15:4B	T10000c-Enc	!	2014-01-17 21:57:01	GOOD		

At the bottom right, it says 'Displaying 4 record(s)'.

### 13.2.2.3. 「Analysis」画面の使用

この方法は、一連の条件 (ライブラリの状態やメディアの状態など) 別にデータを集計する場合に、特に役立ちます。「Analysis」画面のピボットテーブルには、この情報が簡潔な形式で表示されます。

- ナビゲーションバーで、「Analysis」画面 (「Drives – Analysis」または「Media – Analysis」) を選択します。



次の「Media – Analysis」画面のサンプルでは、各列のいちばん下に小計、各行の右側に合計が表示されています。

		ACTION	EVALUATE	MONITOR	USE	UNKNOWN	Total
SL3000_571000200032	1	7	0	0	125	459	591
	Library Number Total	7	0	0	125	459	591
SL500_522000000744	1	0	0	0	16	5	21
	2	0	0	0	8	3	11
	3	0	0	0	6	12	18
	4	10	0	0	8	1	19
	Library Number Total	10	0	0	38	21	69
SL8500_1	1	0	0	1	6	941	948
	2	0	0	0	19	534	553
	Library Number Total	0	0	1	25	1475	1501
SL8500_5	1	1	0	0	44	413	458
	Library Number Total	1	0	0	44	413	458
SL8500_6	1	0	0	0	86	204	290
	Library Number Total	0	0	0	86	204	290
SL8500_7	1	0	0	1	5	314	320
	Library Number Total	0	0	1	5	314	320
SL8500_8	1	0	0	0	0	434	434
	Library Number Total	0	0	0	0	434	434
Library Complex Name Total		18	0	2	323	3320	3663

### 13.2.3. もっとも利用率が高いドライブのレポート

これらの手順は、「利用率に関して上位 3 台のドライブはどれですか」という質問に対処します。

利用率は、有効使用期間、渡されたデータの量、マウントの回数など、複数の方法で定義できます。次の方法について説明します。

- 「合計稼働時間の使用」
- 「最近 30 日間にわたる使用時間の使用」

### 13.2.3.1. 参照タスク

- 「[テンプレートの適用](#)」
- 列でソートするには、『[STA 画面基本ガイド](#)』

### 13.2.3.2. 合計稼働時間の使用

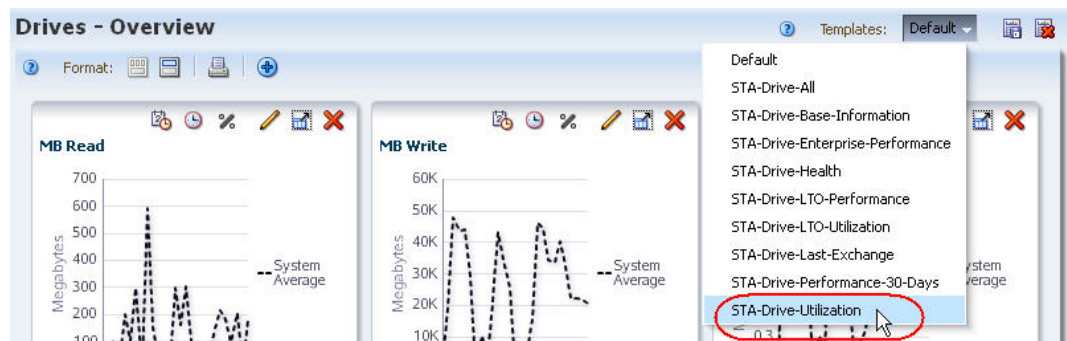
注:

この情報は、StorageTek エンタープライズドライブでのみ提供されます。

1. ナビゲーションバーで、「**Tape System Hardware**」を選択して、「**Drives Overview**」を選択します。



2. 「**Templates**」メニューで、「**STA-Drive-Utilization**」テンプレートを適用します。



3. 「**Drive Lifetime Hours in Motion**」列で、「**Sort Descending**」矢印をクリックします。

Drive Lifetime Hours in Motion	Time Spent Reading
,903 1,140	
,685 894	
,435 1,110	
,031 1,709	
,993	
,135	0:00:00 0
,238	0:00:00 0

稼働時間に関して上位 3 台のドライブがリストの 1 番目に表示されます。

Drive Serial Number	Drive WWNN	Drive Model	Drive Physical Address	Drive Library Serial Number	Drive Health Indicator	% Drive Utilization (30 Days)	Drive Lifetime Cleans	Drive Lifetime Loads	Drive Lifetime Meters	Drive Lifetime Power Hours	Drive Lifetime Hours in Motion	Tin Re
HU18393BG2	50:01:04:F0:00:7A:82::LTO4	1,1,2,9	522000000744	1,1,2,9	522000000744	54.03	0	28,888	31,545,80'	13,126	1,904	
HU19477NCB	50:01:04:F0:00:8A:BA::LTO5	1,4,-1,1,2	516000100451	1,4,-1,1,2	516000100451	110.79	0	71,897	21,245,68'	20,008	1,859	
HU19477NCA	50:01:04:F0:00:8A:BA::LTO5	1,4,-1,1,3	516000100451	1,4,-1,1,3	516000100451	80.36	1	65,505	19,279,99'	20,031	1,709	
HU1038CKW1	50:01:04:F0:00:7A:82::LTO5	3,2,3,9	522000000744	3,2,3,9	522000000744	51.51	0	31,636	22,272,09'	10,916	1,594	

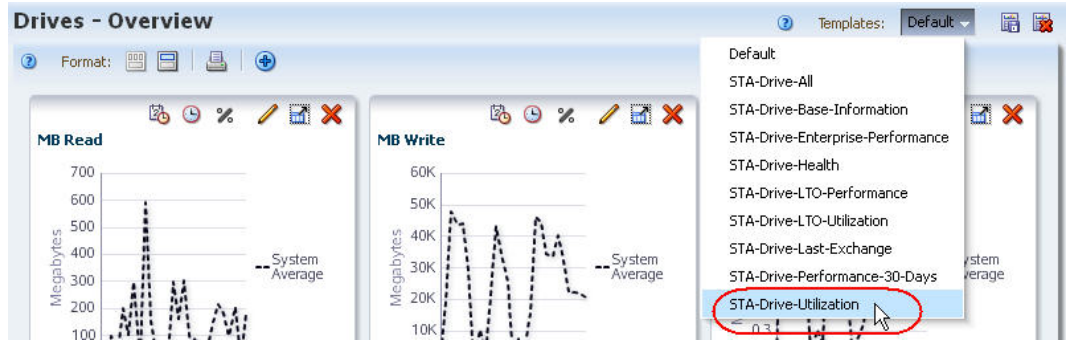
### 13.2.3.3. 最近 30 日間にわたる使用時間の使用

1. ナビゲーションバーで、「Tape System Hardware」を選択して、「Drives Overview」を選択します。

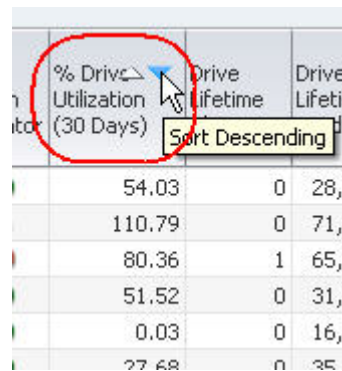


2. 「Templates」メニューで、「STA-Drive-Utilization」テンプレートを適用します。





3. 「% Drive Utilization (30 Days)」列で、「Sort Descending」矢印をクリックします。



使用時間の割合に関して上位 3 台のドライブがリストの 1 番目に表示されます。

Drive Serial Number	Drive WWNN	Drive Model	Drive Physical Address	Drive Library Serial Number	Drive Health Indicator	% Drive Utilization (30 Days)	Drive Lifetime Cleans	Drive Lifetime Loads	Drive Lifetime Meters	Drive Lifetime Power H
HU19477NBJ	50:01:04:F0:00:AC:A7:E0	LTO5	1,1,-4,1,3	571000200032	!	297.38	2	48,436	12,371,792	19
HU19477N8A	50:01:04:F0:00:AC:A7:DD	LTO5	1,1,-3,1,3	571000200032	!	269.21	0	45,417	12,009,237	19
HU19477NCB	50:01:04:F0:00:8A:BA:3F	LTO5	1,4,-1,1,2	516000100451	!	110.79	0	71,897	21,245,687	20
HU19477NCA	50:01:04:F0:00:8A:BA:33	LTO5	1,4,-1,1,3	516000100451	!	80.36	1	65,505	19,279,994	20

### 13.2.4. メディアの不足または過剰のレポート

この手順は、「もっとも不足しているメディアのタイプはどれですか。供給過剰のタイプはありますか」という質問に対処します。

書き込み可能なメディアの定義は、サイトによって異なります。たとえば、メディアを再利用しないサイトでは、単にメディアタイプごとに合計容量と使用可能な容量を比較する場合があります。メディアを再利用する別のサイトでは、代わりに、いくつかのメディアの有効期間の測定値を調査する場合があります。STA 内では、これらの測定値の両方（およびその他の測定値）を使用できます。この手順では、合計容量と使用可能な容量を使用します。

### 13.2.4.1. 参照タスク

- 「[テンプレートの適用](#)」
  - 「[「Filter Data」ダイアログボックスを使用したテーブルフィルタの変更](#)」
  - 複数の列でソートするには、『[STA 画面基本ガイド](#)』
  - 列を移動するには、『[STA 画面基本ガイド](#)』
  - テーブルデータをエクスポートするには、『[STA 画面基本ガイド](#)』
1. ナビゲーションバーで、「**Tape System Hardware**」を選択して、「**Media Overview**」を選択します。



2. 「**Templates**」メニューで、「**STA-Media-Utilization**」テンプレートを選択します。

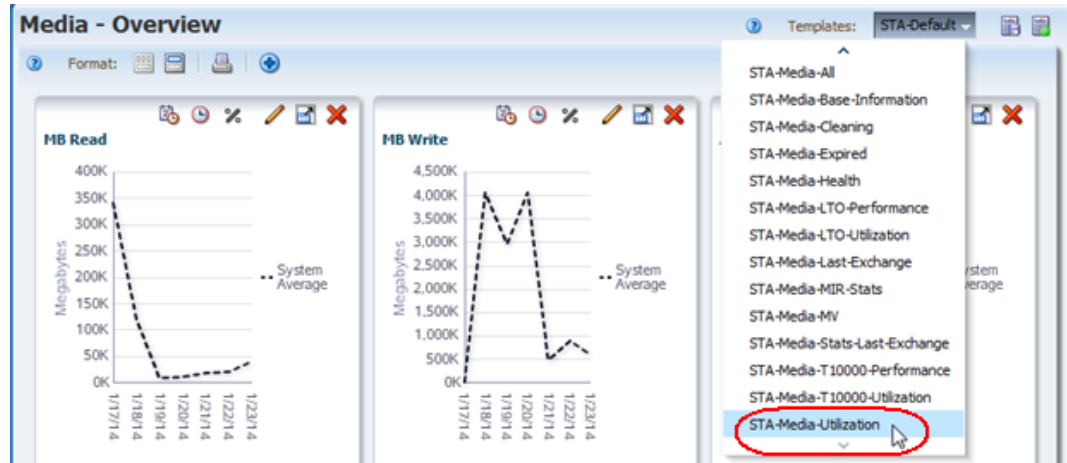
---

注:

STA ユーザー名が使用できるテンプレートの数によっては、選択肢を表示するために、メニューで下にスクロールする必要がある場合があります。

---





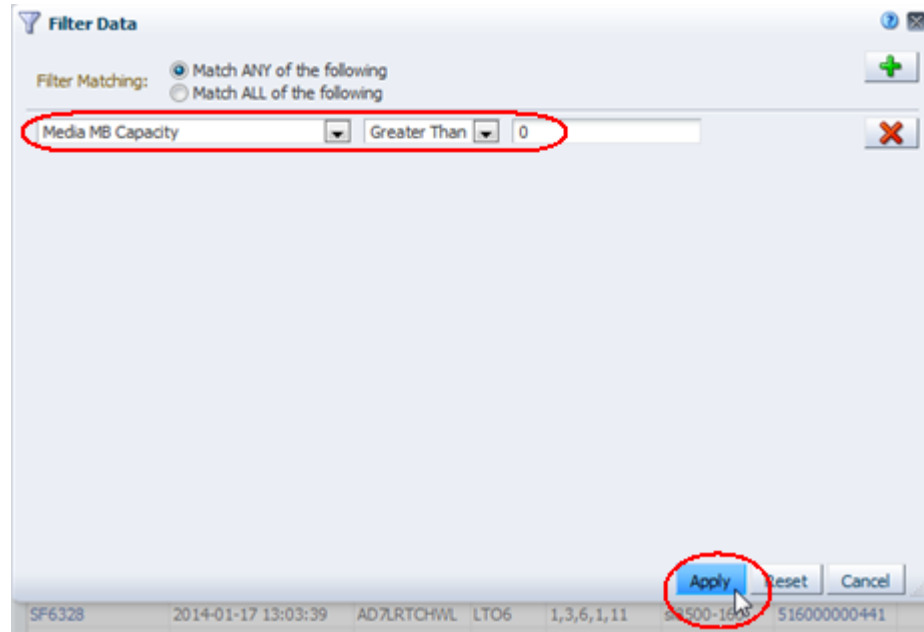
このテンプレートには、利用率に関連するすべての属性（「Media Dismounts (30 Days)」、「MB Read (30 Days)」、「Media Life Indicator」など）が含まれています。

Volume Serial Number	STA Start Tracking	Media Manufacturer Serial Number	Media Type	Media Physical Address	Media Library Name	Media Library Serial Number	Media Health Indicator	Drive Serial Number	Media Dismount (30 Days)
M03929	2014-01-17 14:25:34		9840R	1,1,-9,1,4	crimson-acsis1	57100000017	⊗	50000020966	
CLNE00	2014-01-17 13:03:38		LTO_CLN	1,2,-20,1,3	sl8500-160	516000000441	⊗	HJ1239RHG6	
CLNE06	2014-01-17 13:03:39		LTO_CLN	1,3,-16,1,5	sl8500-160	516000000441	⊗	HJ1239RHG6	

3. 次の段階を使用して、容量または可用性に関する情報が使用できないメディアを削除します。

STA がライブラリをモニターする時間が長くなるほど、受信される交換データが多くなり、全体の不確実性レベルが低くなります。

- a. 「**Filter Data**」をクリックします。
- b. 次の選択条件を追加します。
  - 「**Media MB Capacity**」が 0 よりも大きい
- c. 「**Apply**」をクリックします。



4. 不確実性レベルに反映されるため、削除されたレコードの数に留意してください。

次のサンプルでは、レコード数が 647 から 431 までであり、不確実性レベルが高いことを示しています。このライブラリは、数日間だけモニターされています。

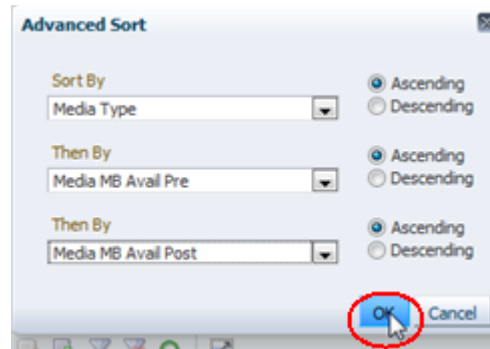
Volume Serial Number	STA Start Tracking	Media Manufacturer Serial Number	Media Type	Media Physical Address	Media Library Name	Media Library Serial Number	Media Health Indicator	Drive Serial Number	Media Dismount (30 Day)
SF6328	2014-01-17 13:03:39	AD7LRTCHWL	LTO6	1,3,6,1,11	sl8500-160	516000000441	⚠	1068000584	3
LT5043	2014-01-17 12:06:20	AA6KE22DIE	LTO5	0,1,1,2	SL500-155	522000000398	⚠	HU1232PLLJ	
INV390	2014-01-17 14:25:34	707301020139:T10000T1	1,1,-6,2,38	crimson-acsls1	571000000017	531002001231	⚠	531001001130	
INV391	2014-01-17 14:25:34	707301020140:T10000T1	1,1,-6,2,42	crimson-acsls1	571000000017	531004002809	⚠		
INV394	2014-01-17 14:25:33	707301020299:T10000T1	1,1,-15,1,1	crimson-acsls1	571000000017				

5. 結果リストのメディアに対して次の段階を使用して、表示されたメディアごとに使用可能な容量と空き領域を表示します。
- 表のツールバーで、「**View**」、「**Sort**」、「**Advanced**」の順に選択します。
  - 次のように、「Advanced Sort」ダイアログボックスに入力します。
    - 「Sort By」メニューで、「**Media Type**」を選択します。
    - 最初の「Then By」メニューで、「**Media MB Avail Pre**」を選択します。
    - 次の「Then By」メニューで、「**Media MB Avail Post**」を選択します。

注:

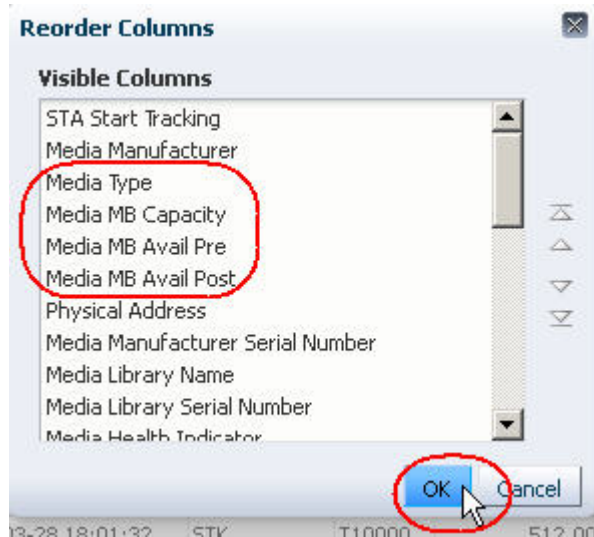
LTOドライブでは「Media MB Avail Pre」属性がレポートされ、StorageTek エンタープライズドライブでは「Media MB Avail Post」がレポートされます。ソート条件に両方の属性を含めると、すべてのメディアタイプが含まれます。

- c. 「OK」をクリックします。



テーブルは条件に従ってソートされます。

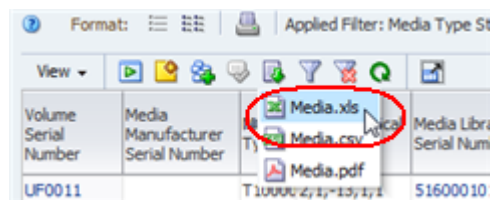
6. 画面に容量データをまとめて表示して見やすくするには、次の段階を使用して、テーブルの列を並べ替えます。
- 表のツールバーで、「**View**」を選択して、「**Reorder Columns**」を選択します。
  - 「Reorder Columns」ダイアログボックスで、次の属性がまとめてリスト表示されるように整理します。
    - Media Type
    - Media MB Capacity
    - Media MB Avail Pre
    - Media MB Avail Post
  - c. 「OK」をクリックします。



テーブルの列は条件に従って並べ替えられます。

Volume Serial Number	STA Start Tracking	Media Manufacturer Serial Number	Media Type	Media MB Capacity	Media MB Avail Pre	Media MB Avail Post	Media Physical Address	Media Library Name
TCS075	2014-01-17 12:04:18	813030070210	T10000T2	8,388,608.00		1,485,878.75	1,2,50,1,5	elib19
TEE505	2014-01-17 12:07:05	812146010295	T10000T2	5,242,880.00		4,263,489.88	1,1,1,2,6	lib
TEE509	2014-01-17 12:07:05	812146030370	T10000T2	5,242,880.00		4,263,511.21	1,1,-9,2,9	lib
TEE508	2014-01-17 12:07:05	812146030300	T10000T2	5,242,880.00		4,263,539.00	1,3,-11,2,14	lib

7. メディアタイプごとに合計容量および空き領域を計算するには、外部スプレッドシートアプリケーションを使用する必要があります。次の段階を使用して、HTML ベースの Excel 互換性ファイルに、テーブルに表示されたデータをエクスポートします。
  - a. テーブルツールバーで「**Export**」アイコンをクリックし、「**Media.xls**」オプションを選択します。



- b. ローカルコンピュータ上の場所にファイルを保存します。
8. 互換性のあるスプレッドシートアプリケーションを使用してファイルを開き、データを集約します。たとえば、合計、使用されている割合、または平均をメディアタイプ別に計算する場合があります。

### 13.2.5. 今後のメディア、ドライブ、またはストレージセルに対する要件の計画

次の手順は、「来年は、より多くのメディア、ドライブ、またはストレージセルが必要になる見込みですか。その場合は、いくつですか」という質問に対処します。

ドライブまたはメディアを交換する必要があるかどうかを判断する条件は、サイトによって異なります。

ドライブの場合、STA では、多数の適用可能な条件 (特に、「Drive Lifetime Loads」、「Drive Lifetime Meters」、「Drive Lifetime Power Hours」などのドライブの有効期間に関する複数の測定値) が追跡されます。一例については、下記の「[ドライブの利用率のレポート](#)」を参照してください。

メディアの場合、STA では、次のようなさまざまなシナリオで役立つデータが提供されます。

- サイトをあるタイプのメディアから移行していて、別のメディアに交換する必要がある (詳細については、「[メディアの移行に関連するデータのレポート](#)」を参照)。
- 既存のメディアがエージング中であるか、またはサイトで定義された適切なしきい値を上回るエラーを示している (詳細については、「[メディアのエージングに関連するデータのレポート](#)」を参照)。
- 既存のメディアが満杯に近づいている (詳細については、「[メディアの不足または過剰のレポート](#)」を参照)。

#### 13.2.5.1. 参照タスク

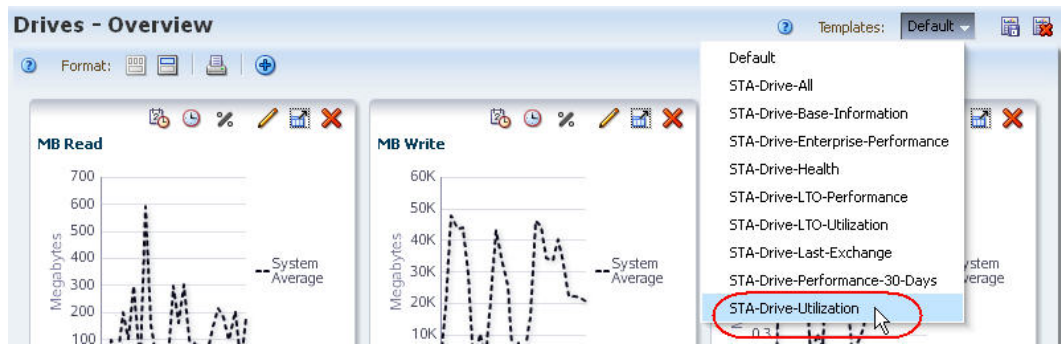
- [「テンプレートの適用」](#)
- 列でソートするには、『[STA 画面基本ガイド](#)』
- [「Filter Data」ダイアログボックスを使用したテーブルフィルタの変更](#)
- ツールチップについては、『[STA 画面基本ガイド](#)』
- [「テンプレートの作成」](#)

#### 13.2.5.2. ドライブの利用率のレポート

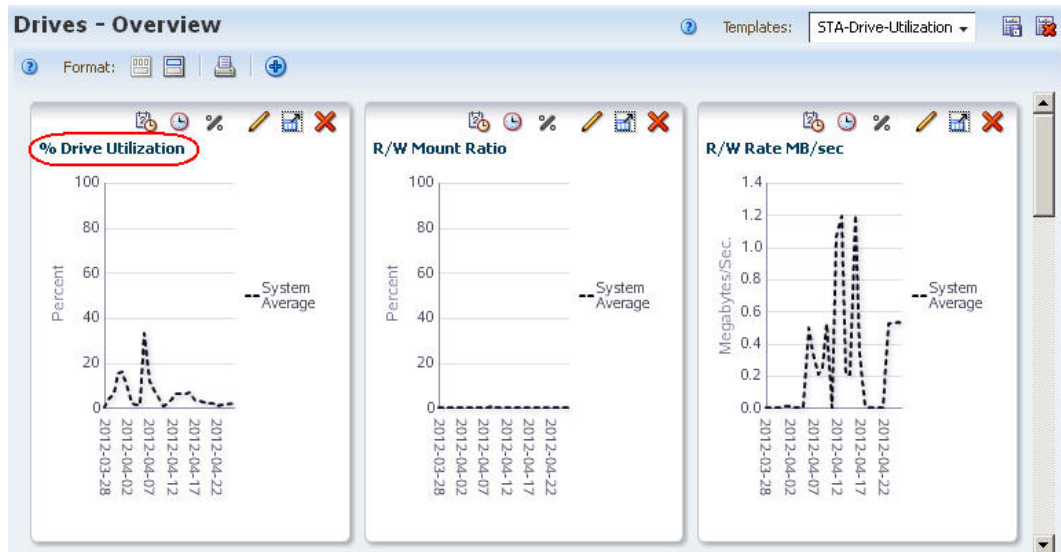
1. ナビゲーションバーで、「**Tape System Hardware**」を選択して、「**Drives Overview**」を選択します。



2. 「Templates」メニューで、「STA-Drive-Utilization」テンプレートを選択します。



画面上の 1 番目のグラフは、長期にわたるドライブ利用率 (%) のシステム平均が表示される「% Drive Utilization」です。このグラフでは、環境内にあるすべてのドライブのアクティビティを高いレベルで測定できます。



3. 各ドライブのアクティビティレベルを区別および比較し、潜在的なホットスポットを特定するには、ドライブタイプやライブラリなどのさまざまな条件によって、テーブル内のドライブをソートまたはフィルタリングします。

次のサンプルでは、「% Drive Utilization (30 Days)」の降順 (もともと高い利用率が 1 番目) でテーブルがソートされています。

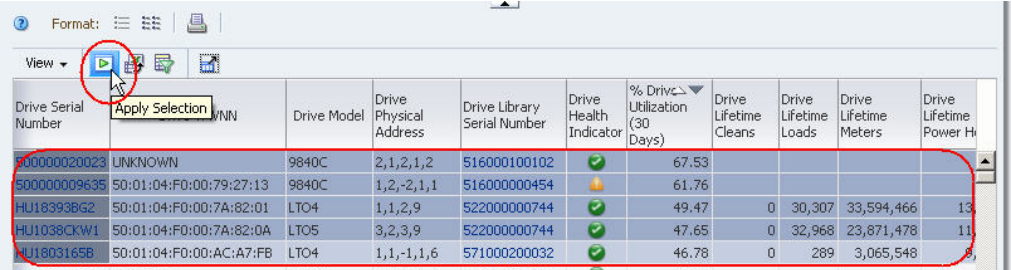


Drive Serial Number	Drive WWNN	Drive Model	Drive Physical Address	Drive Library Serial Number	Drive Health Indicator	% Drive Utilization (30 Days)	Drive Lifetime Cleans	Drive Lifetime Loads	Drive Lifetime Meters	Drive Lifetime Power Hours
500000020023	UNKNOWN	9840C	2,1,2,1,2	516000100102	🟢	67.53				
500000009635	50:01:04:F0:00:79:27:13	9840C	1,2,-2,1,1	516000000454	🟡	61.76				
HU18393BG2	50:01:04:F0:00:7A:82:01	LTO4	1,1,2,9	522000000744	🟢	49.47	0	30,307	33,594,466	13,...
HU1038CKW1	50:01:04:F0:00:7A:82:0A	LTO5	3,2,3,9	522000000744	🟢	47.65	0	32,968	23,871,478	11,...

4. 次の段階を使用して、上位 5 台のドライブを画面のグラフに追加します。

ドライブをグラフに追加すると、その属性値をシステム平均と比較できます。

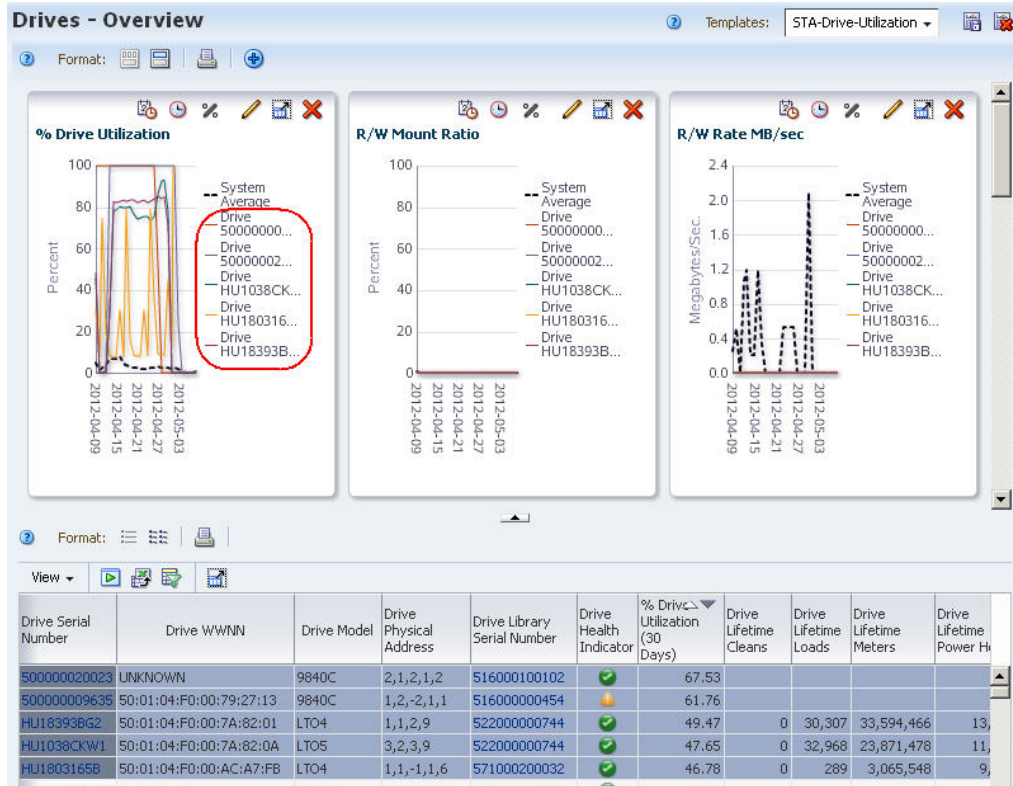
- リストビューテーブルで、上位 5 台のドライブを選択します。
- リストビューのツールバーで「**Apply Selection**」アイコンをクリックします。



Drive Serial Number	Drive WWNN	Drive Model	Drive Physical Address	Drive Library Serial Number	Drive Health Indicator	% Drive Utilization (30 Days)	Drive Lifetime Cleans	Drive Lifetime Loads	Drive Lifetime Meters	Drive Lifetime Power Hours
500000020023	UNKNOWN	9840C	2,1,2,1,2	516000100102	🟢	67.53				
500000009635	50:01:04:F0:00:79:27:13	9840C	1,2,-2,1,1	516000000454	🟡	61.76				
HU18393BG2	50:01:04:F0:00:7A:82:01	LTO4	1,1,2,9	522000000744	🟢	49.47	0	30,307	33,594,466	13,...
HU1038CKW1	50:01:04:F0:00:7A:82:0A	LTO5	3,2,3,9	522000000744	🟢	47.65	0	32,968	23,871,478	11,...
HU1803165B	50:01:04:F0:00:AC:A7:FB	LTO4	1,1,-1,1,6	571000200032	🟢	46.78	0	289	3,065,548	...

グラフにドライブが追加されます。





### 13.2.5.3. メディアの移行に関連するデータのレポート

1. ナビゲーションバーで、「Home」を選択して、「Dashboard」を選択します。

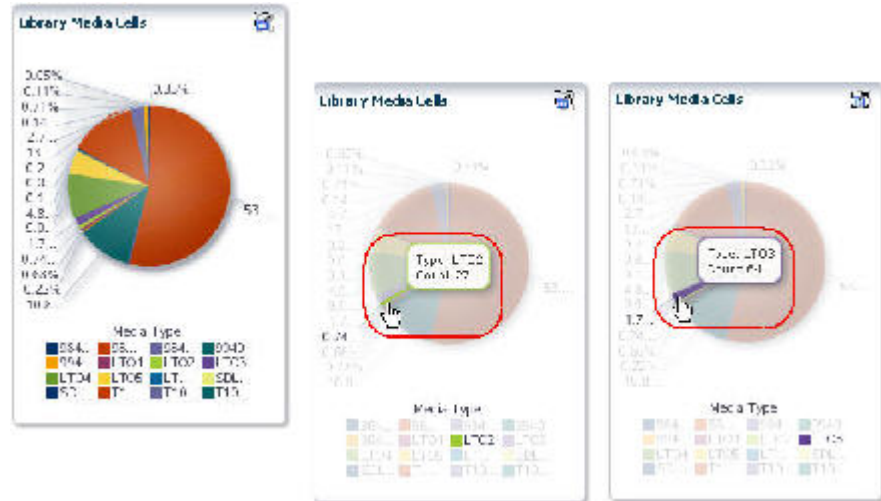


この画面では、タイプ別に集計されたメディア数を高いレベルで表示できます。

2. 「Library Media Cells」グラフ上にマウスを移動して、ライブラリシステムに格納されたメディアのタイプごとに詳細を表示します。

次のサンプルでは、旧世代の LTO2 および LTO3 テープから移行する配置計画を示します。円グラフの次の 2 つのセクション上にマウスを移動すると、合計で 27 個の LTO2 メディアと 64 個の LTO3 メディアを交換する必要があることが表示されます。





3. 円グラフのセクションを選択して、該当するメディアタイプでフィルタリングされている「Media – Overview」画面に移動します。

次のサンプルでは、LTO2 メディアでフィルタリングされた画面が表示されています。この画面では、残り容量、物理的な場所、または移行プロセスに関するその他の属性別に、メディアレコードを整理できます。

Format: [Icons] Applied Filter: Media Type=LTO2

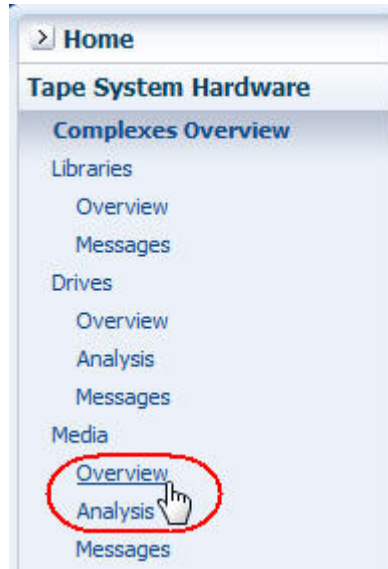
Volume Serial Number	Media Type	Media Health Indicator	Drive Serial Number	Drive WWNN	Drive Type	Drive Health Indicator	Last Exchange Start	Med
A75159	LTO2	[?]				[?]		
ACS147	LTO2	[?]	1110237123	50:01:04:F0:00:79:CB:5C	IbmUltrium2	[?]	2012-05-08 12:32:09	
ACS151	LTO2	[?]				[?]		
ACS198	LTO2	[?]				[?]		
ACS211	LTO2	[?]				[?]		

Columns Hidden: 61 Columns Frozen: 1 Displaying 27 record(s)

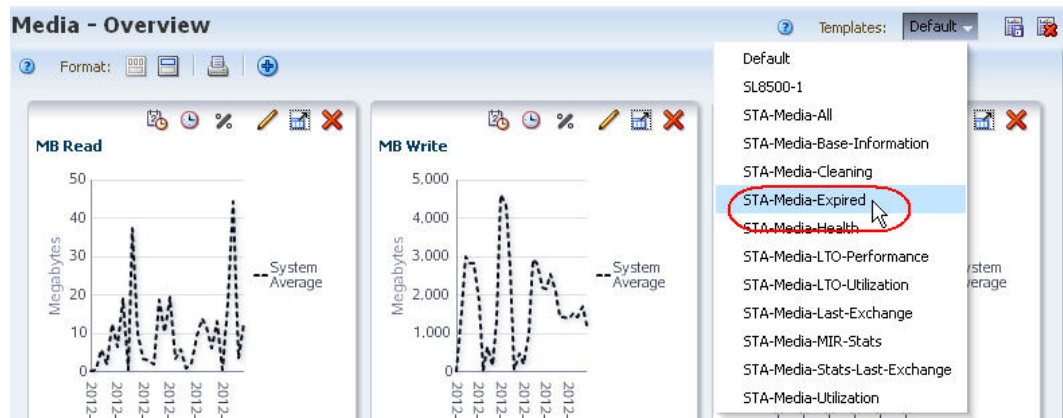
4. この情報を収集する代替のアプローチは、タイプ別にメディアの合計を集約、フィルタリング、または集計できる次の画面のいずれかを使用する方法です。
  - Media – Overview
  - Media – Analysis

### 13.2.5.4. メディアのエージングに関連するデータのレポート

1. ナビゲーションバーで、「Tape System Hardware」を選択して、「Media Overview」を選択します。



- 「Templates」メニューで、「STA-Media-Expired」を選択します。



このテンプレートには、期限切れになったため、サービスから削除すべきメディアに関連するフィルタおよび属性が含まれています。

Applied Filter: Media Life Indicator=true or Media Warranty Indicator=OUT\_OF\_WARRANTY

Volume Serial Number	Media Library Name	Media Library Serial Number	Cleaning Media	Cleaning Media Expired	Media Suspicion	Media Health Indicator	Media Life Indicator	Media Warranty Indicator	Drive Serial Number	Media Load Limit Alert
C00003	H5C-8500-Complex	516000100127			0.00	✓	✗	✗	500000020852	✓
C00006	H5C-8500-Complex	516000100127			0.00	✓	✗	✗	500000028884	✓
SL1105	H5C-8500-Complex	516000100127			0.00	✓	✗	✗	500000020684	✓
W00594	H5C-8500-Complex	516000100127			0.00	✓	✗	✗	500000028875	✓

## 13.2.6. もっとも利用率が高いリソースのレポート

この手順は、「テープシステムで、もっとも多く使用されているドライブまたはメディアのタイプはどれですか」という質問に対処します。

必ずしも、システムの大部分を構成するドライブおよびメディアがもっとも多く使用されるとは限りません。利用率は、クライアントの構成や、これらのクライアントによって要求されたドライブおよびメディアのタイプによる影響を受けます。この手順は、もっとも多い使用を定義するもっとも一般的な方法のいくつかに対処します。

次の方法について説明します。

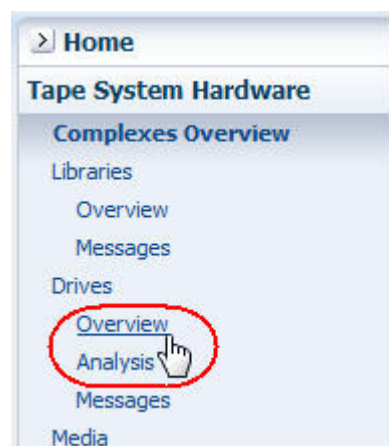
- 「[ドライブの利用率のレポート](#)」
- 「[メディアの利用率のレポート](#)」

### 13.2.6.1. 参照タスク

- 「[テンプレートの適用](#)」
- 「[「Filter Data」ダイアログボックスを使用したテーブルフィルタの変更](#)」
- 複数の列でソートするには、『[STA 画面基本ガイド](#)』
- テーブルデータをエクスポートするには、『[STA 画面基本ガイド](#)』

### 13.2.6.2. ドライブの利用率のレポート

1. ナビゲーションバーで、「**Tape System Hardware**」を選択して、「**Drives Overview**」を選択します。



2. 「**Templates**」メニューで、「**STA-Drive-Utilization**」テンプレートを適用します。



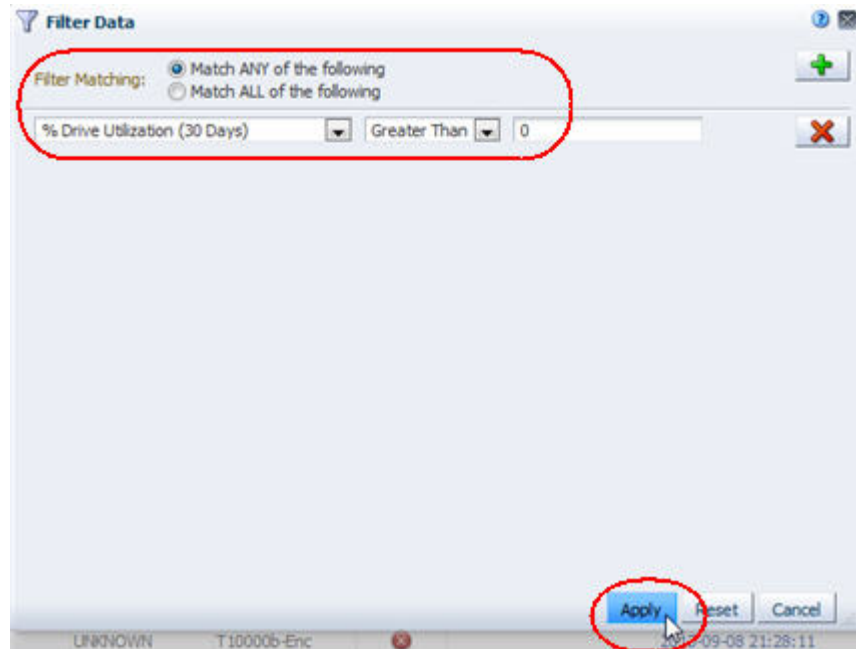
このテンプレートでは、すべてのドライブタイプに関する利用率の統計情報が表示されます。

3. 次の段階を使用して、STA に利用率データが存在しないドライブを削除します。
  - a. 「**Filter Data**」をクリックします。
  - b. 選択条件で、目的の利用率の測定方法を表す属性を選択します。「**Greater Than**」を選択し、「0」を入力します。

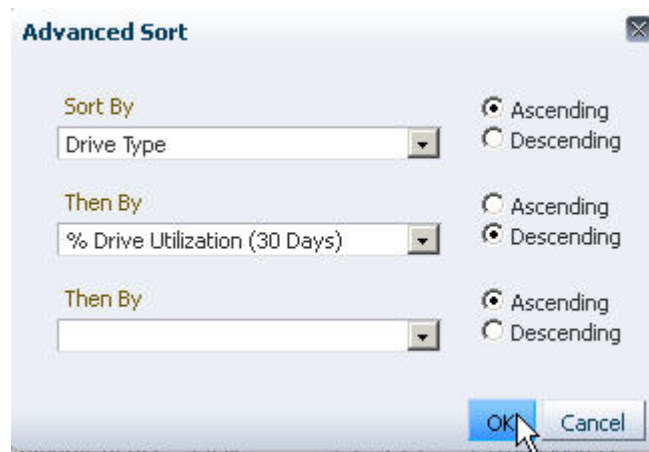
ドライブ利用率の測定に推奨されている属性の一部を次に示します。

- もっとも利用率が高いドライブを特定するには、「% Utilization (30 Days)」を使用します。
- 最新のデータを記録したドライブを特定するには、「MB Write (30 Days)」または「MB Received (30 Days)」を使用します。
- ドライブヘッドで大部分のデータが渡されたドライブを特定するには、「MB R/W (30 Days)」を使用します。
- 使用期間全体でライブラリ内に存在したドライブの場合、ドライブの有効期間属性（「Drive Lifetime Loads」や「Drive Lifetime Hours in Motion」など）もアクティビティの測定に役立ちます。

- c. 「**Apply**」をクリックします。

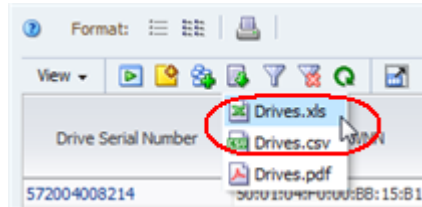


4. 複数列でソートを実行して、ドライブタイプ別、利用率別の順にレコードをグループ化します。
  - a. 表のツールバーで、「**View**」、「**Sort**」、「**Advanced**」の順に選択します。
  - b. 次のように、「Advanced Sort」ダイアログボックスに入力します。
    - 「Sort By」フィールドで、「**Drive Type**」を選択します。
    - 「Then By」フィールドで、上記の段階 **b** で使用した属性、および「**Descending**」を選択します。
  - c. 「**OK**」をクリックします。



テーブルは条件に従ってソートされます。

5. ドライブタイプ別にデータを集約するには、外部スプレッドシートアプリケーションを使用する必要があります。次の段階を使用して、HTML ベースの Excel 互換性ファイルに、テーブルに表示されたデータをエクスポートします。
  - a. テーブルツールバーで「**Export**」アイコンをクリックし、「**Drives.xls**」を選択します。



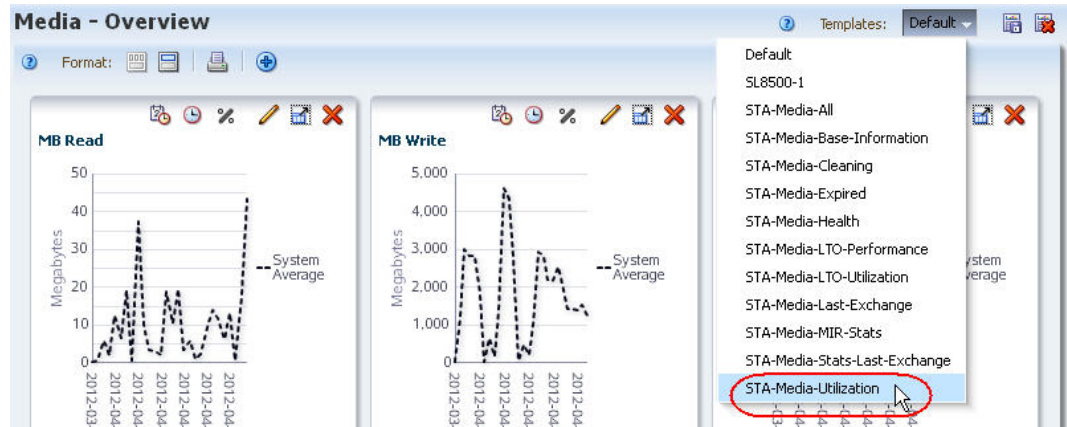
- b. ローカルコンピュータ上の場所にファイルを保存します。
6. 互換性のあるスプレッドシートアプリケーションを使用してファイルを開き、データを集約します。

### 13.2.6.3. メディアの利用率のレポート

1. ナビゲーションバーで、「**Tape System Hardware**」を選択して、「**Media Overview**」を選択します。



2. 「**Templates**」メニューで、「**STA-Media-Utilization**」テンプレートを適用します。



このテンプレートでは、すべてのメディアタイプに関する利用率の統計情報が表示されます。

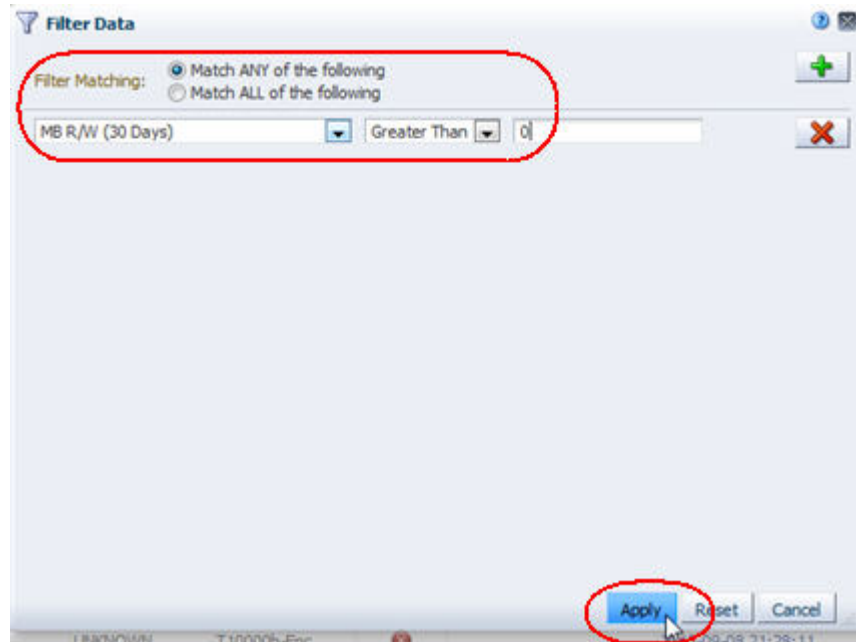
3. 次の段階を使用して、STA に利用率データが存在しないメディアを削除します。
  - a. 「**Filter Data**」をクリックします。
  - b. 選択条件で、目的の利用率の測定方法を表す属性を選択します。「**Greater Than**」を選択し、「0」を入力します。

メディア利用率の測定に推奨されている属性の一部を次に示します。

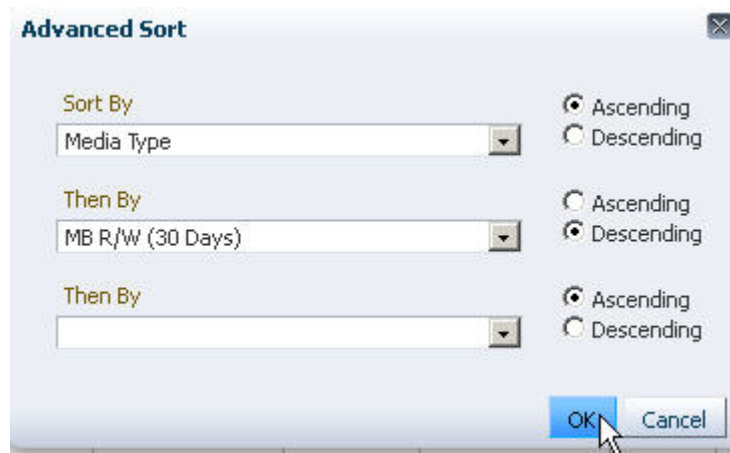
- もっとも移動量が多いメディアを特定するには、「Time Spent Reading or Writing」を使用します。
- 空き領域の特定のしきい値を下回るメディアを特定するには、「Media MB Avail Pre/Post」を使用します。
- もっともマウントおよびマウント解除の回数が多いメディアを特定するには、「Media Dismounts (30 days)」を使用します。
- もっともデータの読み取りまたは書き込みの量が多いメディアを特定するには、「MB R/W (30 days)」を使用します。

- c. 「**Apply**」をクリックします。



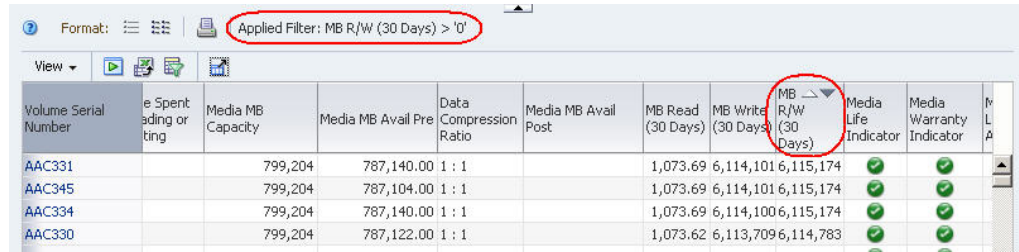


4. 複数列でソートを実行して、メディアタイプ別、利用率別の順にレコードをグループ化します。
  - a. 表のツールバーで、「**View**」、「**Sort**」、「**Advanced**」の順に選択します。
  - b. 次のように、「Advanced Sort」ダイアログボックスに入力します。
    - 「Sort By」フィールドで、「**Media Type**」を選択します。
    - 「Then By」フィールドで、上記の段階 **b** で使用した属性、および「**Descending**」を選択します。
  - c. 「**OK**」をクリックします。



テーブルは条件に従ってソートされます。

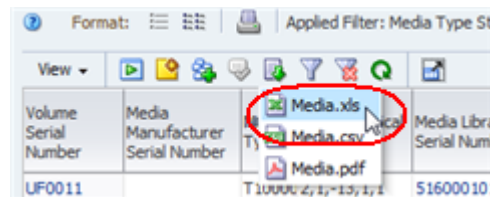




Volume Serial Number	Media MB Capacity	Media MB Avail Pre	Data Compression Ratio	Media MB Avail Post	MB Read (30 Days)	MB Write (30 Days)	MB R/W (30 Days)	Media Life Indicator	Media Warranty Indicator
AAC331	799,204	787,140.00	1 : 1		1,073.69	6,114,101	6,115,174	✓	✓
AAC345	799,204	787,104.00	1 : 1		1,073.69	6,114,101	6,115,174	✓	✓
AAC334	799,204	787,140.00	1 : 1		1,073.69	6,114,100	6,115,174	✓	✓
AAC330	799,204	787,122.00	1 : 1		1,073.62	6,113,709	6,114,783	✓	✓

5. メディアタイプ別にデータを集約するには、外部スプレッドシートアプリケーションを使用する必要があります。次の段階を使用して、HTML ベースの Excel 互換性ファイルに、テーブルに表示されたデータをエクスポートします。

- a. テーブルツールバーで「Export」アイコンをクリックし、「Media.xls」を選択します。



- b. ローカルコンピュータ上の場所にファイルを保存します。

6. 互換性のあるスプレッドシートアプリケーションを使用してファイルを開き、データを集約します。

### 13.2.7. ライブラリ関連のアクティビティーレベルのレポート

この手順は、「テープ環境内で、もっともビジー状態であるライブラリはどれですか。もっともビジー状態でないのはどれですか」という質問に対処します。

ビジー状態の定義は、サイトによって異なります。一般的な定義には、交換、マウント、またはマウント解除の回数が含まれています。この手順では、マウントの回数を使用します。さらに、ライブラリを相互に比較したり、システム平均と比較したりできるように、データをグラフ化する手順も提供します。

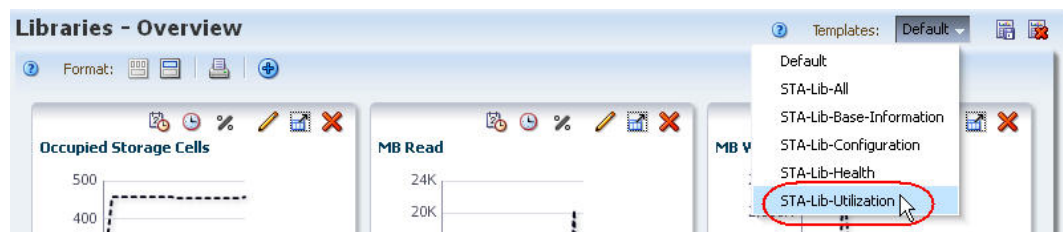
#### 13.2.7.1. 参照タスク

- 「[テンプレートの適用](#)」
- 列でソートするには、『[STA 画面基本ガイド](#)』
- グラフペインを追加するには、『[STA 画面基本ガイド](#)』
- グラフ化された属性を変更するには、『[STA 画面基本ガイド](#)』
- ライブラリリソースをグラフに適用するには、『[STA 画面基本ガイド](#)』
- グラフペインを切り離すには、『[STA 画面基本ガイド](#)』

1. ナビゲーションバーで、「**Tape System Hardware**」を選択して、「**Libraries Overview**」を選択します。



2. 「**Templates**」メニューで、「**STA-Lib-Utilization**」テンプレートを適用します。



3. 「Mounts (30 Days)」列で、「**Sort Ascending**」または「**Sort Descending**」矢印をクリックします。

注:

ソート基準となり得るその他の列は、「Enters (30 Days)」、「Ejects (30 Days)」、「Occupied Storage Cells」、または「MB R/W (30 Days)」です。

The screenshot shows a data table with the following columns: Library Serial Number, Upgraded Pages, Empty Storage Cells, Occupied Drive Bays, Empty Drive Bays, Enters (30 Days), Ejects (30 Days), Mounts (30 Days), % Drive Utilization (30 Days), MB R/W (30 Days), MB Read (30 Days), and MB Write (30 Days). The 'Mounts (30 Days)' column is circled in red. The data rows are as follows:

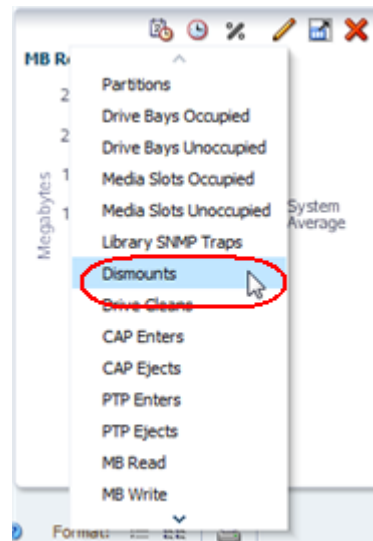
Library Serial Number	Upgraded Pages	Empty Storage Cells	Occupied Drive Bays	Empty Drive Bays	Enters (30 Days)	Ejects (30 Days)	Mounts (30 Days)	% Drive Utilization (30 Days)	MB R/W (30 Days)	MB Read (30 Days)	MB Write (30 Days)
516000100127	948	9,140	50	14	0	0	27,296	3.01	0	0	0
522000000744	69	311	8	0	4	5	16,599	28.46	132,599,968	29,949	132,570,016
571000200032	591	1,214	34	14	0	0	13,696	20.29	38,170,824	29,116	38,141,708
516000100451	458	2,718	37	27	0	0	10,696	7.14	16,037,375	17,363	16,020,013
516000100102	553	895	34	30	0	1	7,057	0.97	210,250	69,862	140,388
516000000454	290	1,158	28	36	0	0	5,367	4.15	3,607,462	577,915	3,029,547
516000100090	320	1,128	36	28	18	15	54	0.29	812,857	360,703	452,154
516000100561	434	9,654	5	59	0	0	0	0.00	0	0	0

4. 次の段階を使用して、マウント解除が表示されているグラフペインを追加します。
  - a. グラフィックス領域のツールバーで「**Add Graph**」アイコンをクリックします。



グラフィック領域表示の末尾に、「MB Read」属性が指定された新しいグラフペインが追加されます。グラフを表示するために、下方方向にスクロールする必要がある場合があります。

- b. グラフペインのツールバーで「**Change Graphed Attribute**」アイコンをクリックして、メニューから「**Dismounts**」属性を選択します。



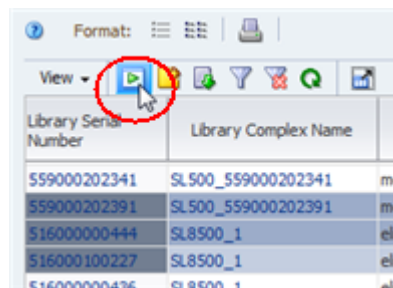
グラフは、マウント解除データのシステム平均が表示されるように更新されます。



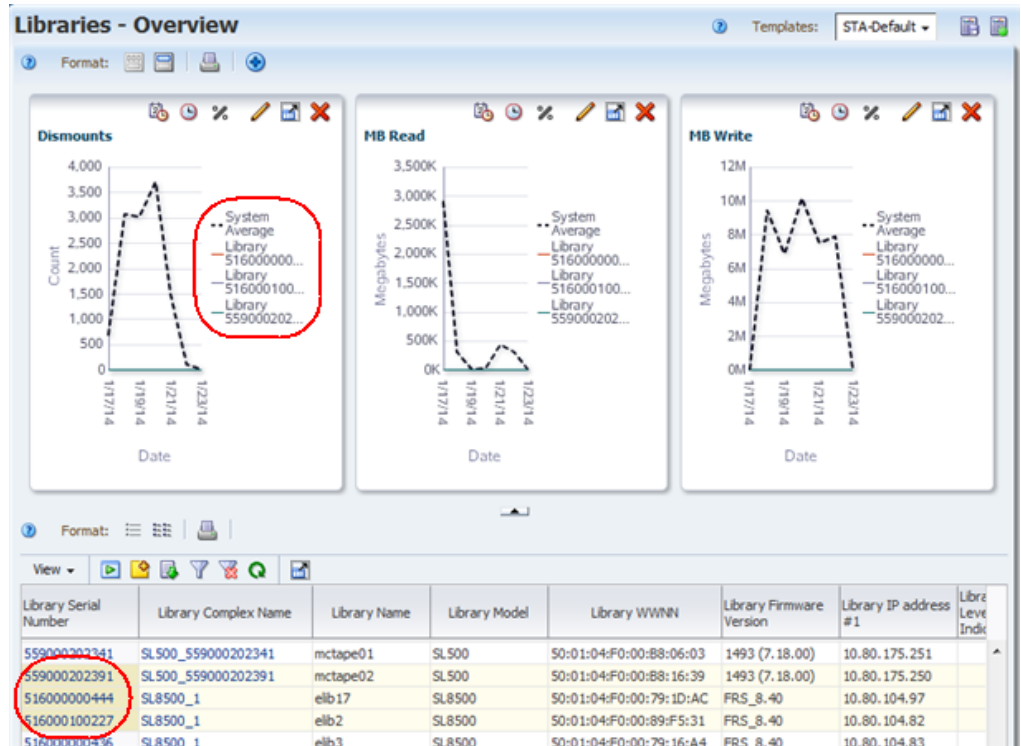
5. 次の段階を使用して、選択したライブラリを画面のグラフに追加します。

ライブラリをグラフに追加すると、属性値をシステム平均と比較できます。

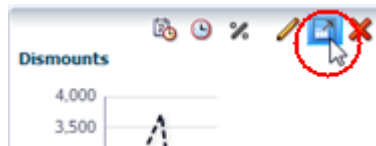
- リストビューテーブルで、グラフに追加するライブラリを選択します。
- リストビューのツールバーで「**Apply Selection**」アイコンをクリックします。



次のサンプルでは、もっともマウント回数が多い 3 台のライブラリがすべてのグラフに追加されています。



- 「Dismounts」グラフペインで「Detach Pane」アイコンをクリックして、拡大してより詳細に表示されるように、グラフを切り離します。



### 13.2.8. 満杯に近づいているメディアのレポート

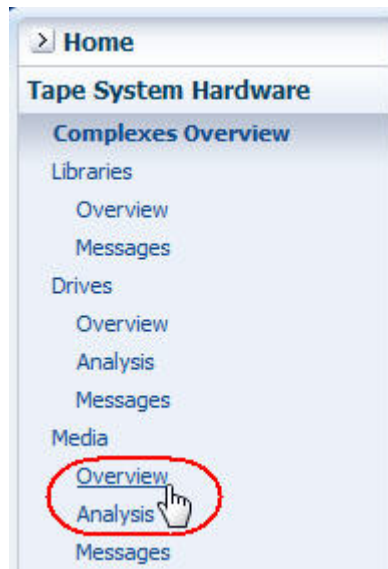
この手順は、「満杯の 90% を超えているメディアはどれですか。ライブラリから取り出すためのスクリプトを作成する際に使用できるリストは、どのように生成しますか」という質問に対処します。

STA では、メディアの容量および空き領域がパーセンテージではなく、数値のみでレポートされます。この手順では、数値をスプレッドシートアプリケーションにエクスポートする方法を示します。これを使用すると、パーセンテージを計算できます。結果リストは、メディア取り出しスクリプトで使用できます。

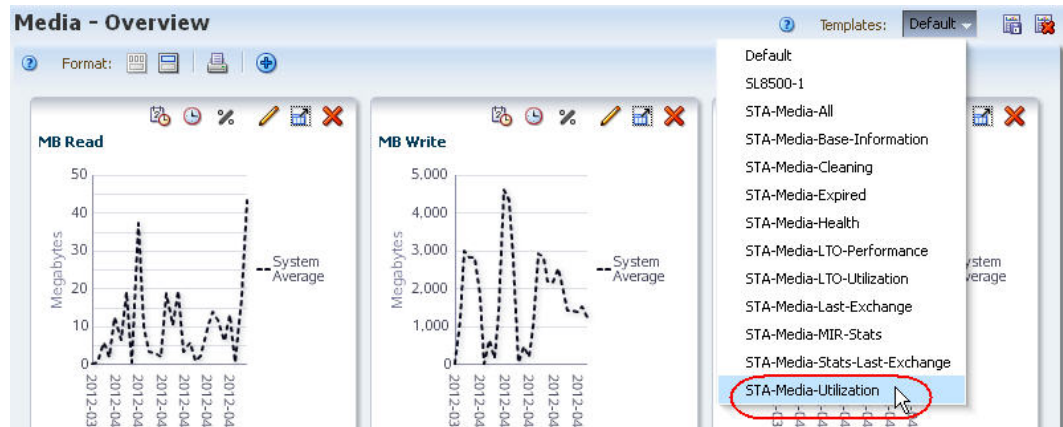
#### 13.2.8.1. 参照タスク

- 「テンプレートの適用」

- 列でソートするには、『STA 画面基本ガイド』
  - テーブルデータをエクスポートするには、『STA 画面基本ガイド』
1. ナビゲーションバーで、「**Tape System Hardware**」を選択して、「**Media Overview**」を選択します。



2. 「**Templates**」メニューで、「STA-Media-Utilization」テンプレートを適用します。



このテンプレートには、「Media MB Available」および「Media MB Capacity」属性が含まれています。

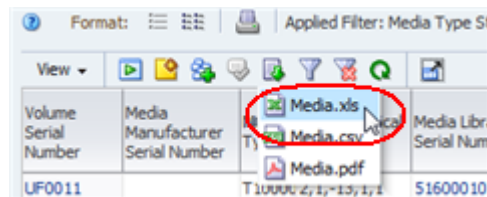
3. 「Media MB Capacity」列で、「**Sort Descending**」矢印をクリックします。

Media MB Capacity	Media MB Avail Pre
1,048,576	
512,000	

もっとも容量が多いメディアがリストの 1 番目に表示されます。このソートは、容量がメディアタイプによって変わる傾向があるため、タイプ別にメディアをグループ化する際にも役立ちます。

Volume Serial Number	Media Library Serial Number	Media Health Indicator	Drive Serial Number	Media Dismounts (30 Days)	Time Spent Reading	Time Spent Writing	Time Spent Reading or Writing	Media MB Capacity	Media MB Avail
BA5517	571000200032	✓	576001000451	10	0:01:03	0:00:00	0:01:03	5,242,880	
BA5506	571000200032	✓	576001000224	8	0:00:00	0:00:52	0:00:52	5,242,880	
BA5507	571000200032	✓	576001000451	9	0:00:05	0:00:00	0:00:05	5,242,880	
BA5504	571000200032	✓	576001000224	10	0:00:00	0:00:00	0:00:00	5,242,880	
BA5500	571000200032	✓	576001000451	8	0:00:00	0:00:52	0:00:52	5,242,880	

4. メディア取り出しスクリプトで使用できるリストを作成するには、外部スプレッドシートアプリケーションを使用する必要があります。次の段階を使用して、HTML ベースの Excel 互換性ファイルに、テーブルに表示されたデータをエクスポートします。
  - a. テーブルツールバーで「**Export**」アイコンをクリックし、「**Media.xls**」オプションを選択します。



- b. ローカルコンピュータ上の場所にファイルを保存します。
5. 互換性のあるスプレッドシートプログラムを使用して、エクスポートされたテーブルの属性から導出された計算値を含む「Percentage Full」列を追加します。列の値でテーブルをソートして、満杯の 90% を超えているメディアのリストを特定します。

### 13.2.9. ドライブのファームウェアレベルのレポート

この手順は、「ドライブはすべて最新のファームウェアにアップグレードされていますか」という質問に対処します。通常、ファームウェアレベルはドライブタイプまたはモデルで評価されます。

次の方法について説明します。



- 「Drives – Overview」画面の使用」
- 「Drives – Analysis」画面の使用」

### 13.2.9.1. 参照タスク

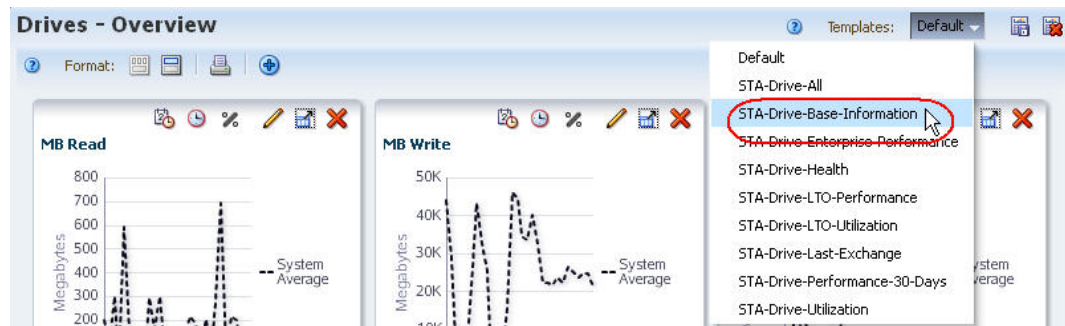
- 「テンプレートの適用」
- 列を移動するには、『STA 画面基本ガイド』
- 複数の列でソートするには、『STA 画面基本ガイド』
- 「Filter Data」ダイアログボックスを使用したテーブルフィルタの変更」
- 行の高さを変更するには、『STA 画面基本ガイド』
- 集約数リンクを使用して移動するには、『STA 画面基本ガイド』

### 13.2.9.2. 「Drives – Overview」画面の使用

1. ナビゲーションバーで、「Tape System Hardware」を選択して、「Drives Overview」を選択します。



2. 「Templates」メニューで、「STA-Drives-Base-Information」テンプレートを適用します。

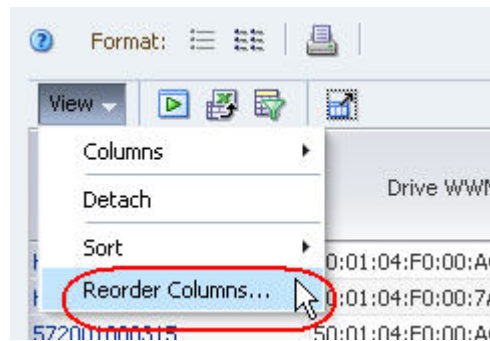




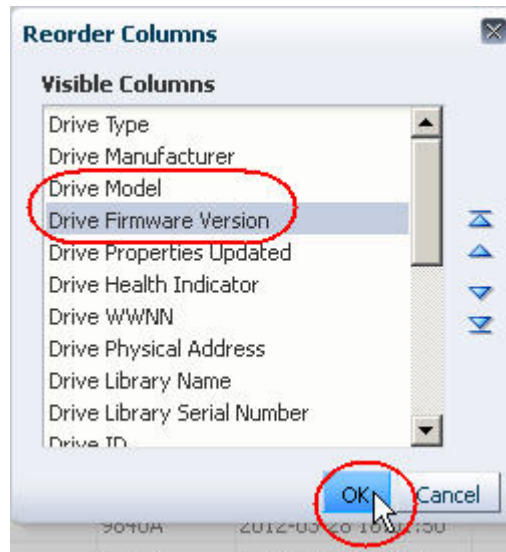
このテンプレートには、ドライブのファームウェアバージョンやその他の関連する属性が含まれています。

Drive Serial Number	Drive Type	Drive Manufacturer	Drive Model	Drive Properties Updated	Drive Health Indicator	Drive WWNN	Drive Physical Address	Drive Library Name	Drive Li Serial N
HU1803162U	HpUltrium4	HP	LTO4	2012-03-28 18:01:31		50:01:04:F0:00:AC:A7:FE	1,1,-2,1,6	sl3000	571000
HU1047DLTA	HpUltrium5	HP	LTO5	2012-03-28 18:01:55		50:01:04:F0:00:7A:82:10	4,3,1,9	sl500-goldie	522000
572001000315	T10000b-Fw-STV	T10000R	T10000R	2012-04-06 18:01:39		50:01:04:F0:00:AC:A7:D7	1,1,1,1,3	sl3000	571000

3. 次の段階を使用して、ドライブのファームウェアレベルがドライブモデルの横に表示されるように、テーブルの列を並べ替えます。
  - a. 表のツールバーで、「View」を選択して、「Reorder Columns」を選択します。



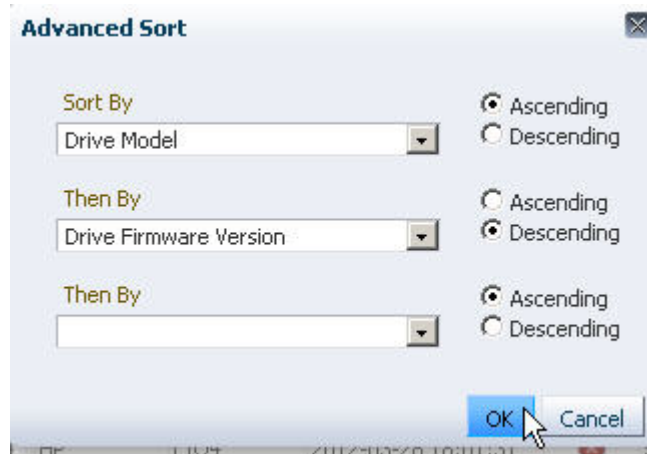
- b. 「Reorder Columns」ダイアログボックスで、次の属性がまとめてリスト表示されるように整理します。
      - Drive Model
      - Drive Firmware Version
    - c. 「OK」をクリックします。



テーブルの列は条件に従って並べ替えられます。

Drive Serial Number	Drive Type	Drive Manufacturer	Drive Model	Drive Firmware Version	Drive Properties Updated	Drive Health Indicator	Drive WWNN	Drive Physical Address	Drive Li Name
HU1803162U	HpUltrium4	HP	LTO4	H645-015.021	2012-03-28 18:01:31	⊘	50:01:04:F0:00:AC:A7:FE	1,1,-2,1,6	sl3000
HU1047DLTA	HpUltrium5	HP	LTO5	I585-015.762	2012-03-28 18:01:55	⊘	50:01:04:F0:00:7A:82:10	4,3,1,9	sl500-g
572001000315	T10000h-E	STV	T10000B	1.48.105.5.30	2012-04-06 18:01:30	⊘	50:01:04:F0:00:AC:A7:07	1,1,1,1,3	sl3000

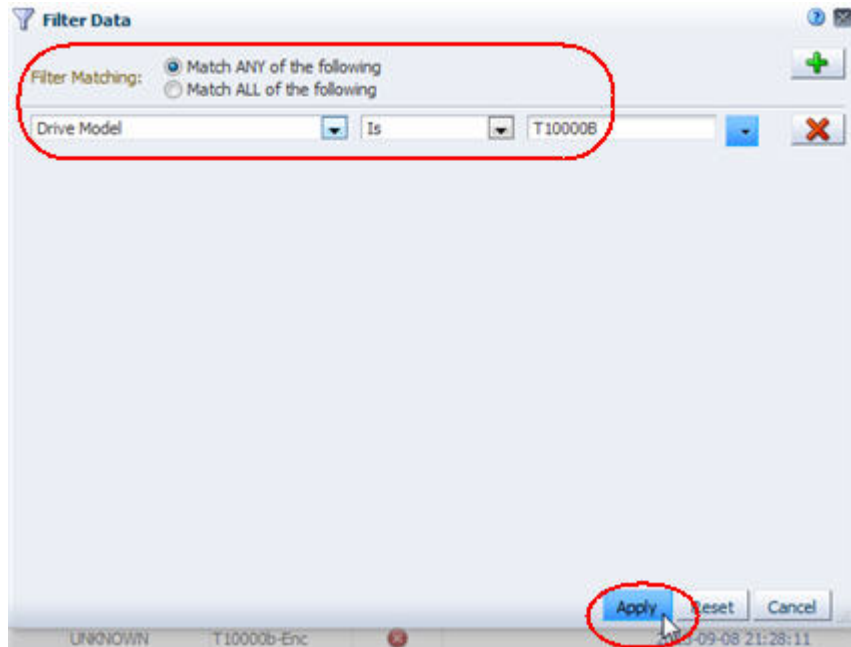
4. ファームウェアレベルをドライブタイプ別に表示するには、次の段階を使用して、複数列のソートを設定します。
  - a. 表のツールバーで、「View」、「Sort」、「Advanced」の順に選択します。
  - b. 次のように、「Advanced Sort」ダイアログボックスに入力します。
    - 「Sort By」フィールドで、「Drive Model」を選択します。
    - 「Then By」フィールドで、「Drive Firmware Version」および「Descending」を選択します。
  - c. 「OK」をクリックします。



テーブルは条件に従ってソートされます。

Drive Serial Number	Drive Type	Drive Manufacturer	Drive Model	Drive Firmware Version	Drive Properties Updated	Drive Health Indicator	Drive WWNN	Drive Physical Address	Drive LUN Name
331000013515	Stk9840a	STK	9840A	1.44.108-5.10	2012-03-28 18:01:39	?	UNKNOWN	2,2,-2,1,3	HSC-85
331000024195	Stk9840a	STK	9840A	1.44.108-5.10	2012-03-28 18:01:39	?	UNKNOWN	2,2,-1,1,2	HSC-85

5. 次の段階を使用して、特定のドライブモデルに対応するファームウェアレベルを表示します。
  - a. 「**Filter Data**」をクリックします。
  - b. 次の選択条件を指定します。
    - 「**Drive Model**」は目的のドライブモデル。
  - c. 「**Apply**」をクリックします。



テーブルは選択条件に従って更新されます。

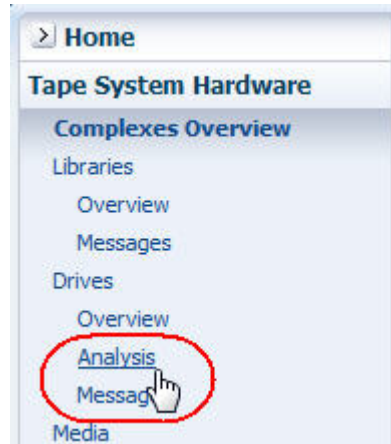
Applied Filter: Drive Model=T10000B

Drive Serial Number	Drive Type	Drive Manufacturer	Drive Model	Drive Firmware Version	Drive Properties Updated	Drive Health Indicator	Drive WWNN	Drive Physical Address	Drive Libra Name
572004002083	T10000b	STK	T10000B	RP.48205-5.30	2012-04-30 13:11:21	✓	50:01:04:F0:00:79:CB:50	1,2,1,1,3	evtlibrary
572001000214	T10000b	STK	T10000B	1.48.205-5.30	2012-03-30 14:35:43	?	50:01:04:F0:00:8A:BA:84	1,2,1,1,4	bas-sl8500
572004000099	T10000b-Enc	STK	T10000B	1.48.205-5.30	2012-03-28 18:01:31	?	50:01:04:F0:00:AC:A7:BC	1,1,1,1,6	sl3000
572001000315	T10000b-Enc	STK	T10000B	1.48.105-5.30	2012-04-06 18:01:39	✗	50:01:04:F0:00:AC:A7:D7	1,1,-1,1,3	sl3000
572004000129	T10000b	STK	T10000B	1.48.105-5.30	2012-04-04 18:02:37	?	50:01:04:F0:00:8A:BA:BA	1,1,-2,1,4	bas-sl8500
572001000316	T10000b	STK	T10000B	1.48.105-5.30	2012-04-04 18:01:36	✓	50:01:04:F0:00:AC:A7:89	1,1,2,1,2	sl3000
572001000201	T10000b	STK	T10000B	1.48.105-5.30	2012-04-06 18:04:52	⚠	50:01:04:F0:00:8A:BA:AB	1,2,-1,1,1	bas-sl8500

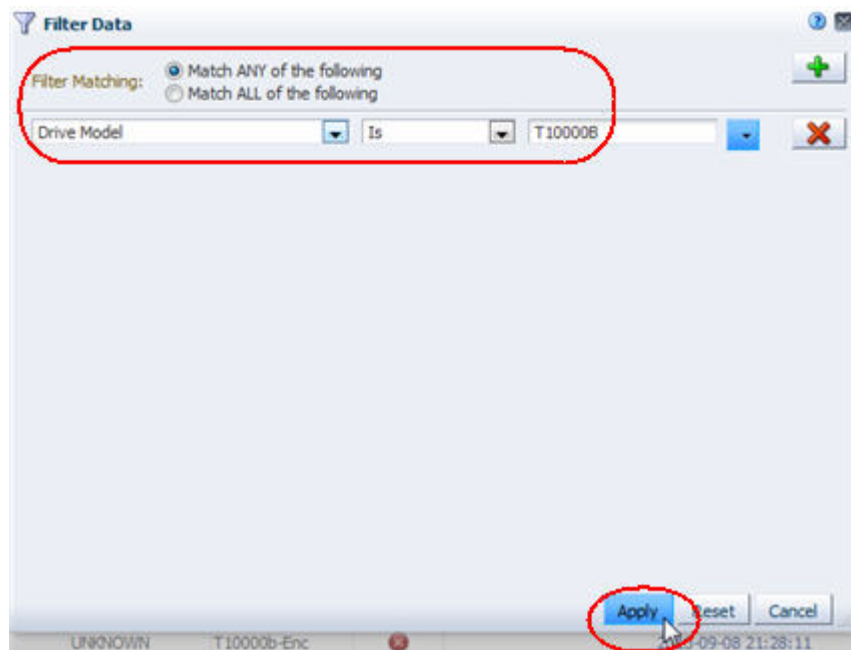
### 13.2.9.3. 「Drives – Analysis」画面の使用

この方法では、ドライブ別およびファームウェアレベル別の合計を提供し、その合計をライブラリコンプレックス別に集計します。

1. ナビゲーションバーで、「Tape System Hardware」を選択して、「Drives Analysis」を選択します。



2. 次の段階を使用して、特定のドライブモデルに対応するファームウェアレベルを表示します。
  - a. 「**Filter Data**」をクリックします。
  - b. 次の選択条件を指定します。
    - 「**Drive Model**」は目的のドライブモデル。
  - c. 「**Apply**」をクリックします。



テーブルは選択条件に従って更新されます。

Applied Filter: Drive Model=T10000B

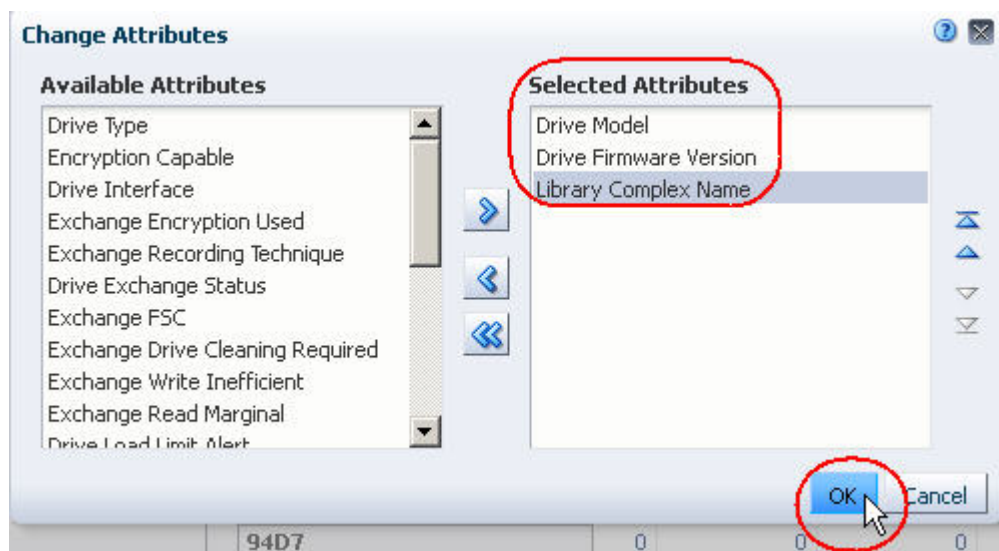
		ACTION	EVALUATE	MONITOR	USE	UNKNOWN	Total
5L3000_571000200032	1 STK	1	0	0	1	1	
	Drive Manufacturer Total	1	0	0	1	1	
	Drive Library Number Total	1	0	0	1	1	
5L8500_5	1 STK	0	0	1	1	2	
	Drive Manufacturer Total	0	0	1	1	2	
	Drive Library Number Total	0	0	1	1	2	
5L8500_7	1 STK	0	0	1	0	0	
	Drive Manufacturer Total	0	0	1	0	0	
	Drive Library Number Total	0	0	1	0	0	
5L8500_8	1 STK	0	0	0	0	1	
	Drive Manufacturer Total	0	0	0	0	1	
	Drive Library Number Total	0	0	0	0	1	
Library Complex Name Total		1	0	2	2	4	

3. 次の段階を使用して、ファームウェアレベルがドライブモデル別に集計されるように、ピボットテーブルを再構成します。
  - a. ピボットテーブルのツールバーで「**Change Attribute**」アイコンをクリックします。
  - b. 「Change Attributes」ダイアログボックスで、「Selected Attributes」リストが次のように表示されるように、属性を再配置します。
    - Drive Model
    - Drive Firmware Version
    - 「Library Complex Name」

注:

リスト内の最後の属性 (この場合は、「Library Complex Name」) には、常に列ヘッダーが指定されます。残りの属性には、リスト表示された順序で入れ子になった行レイヤー (この場合は、「Drive Model」内の「Drive Firmware Version」) が指定されます。

- c. 「OK」をクリックします。



ピボットテーブルは条件に従って更新されます。

		SL3000_5710	SL500_52200	SL8500_1	SL8500_5	SL8500_6	SL8500_7	SL8500_8
T10000B	1.46.209-5.20	0	0	0	0	0	0	0
	1.48.105-5.30	2	0	0	3	0	0	0
	1.48.205-5.30	1	0	0	1	0	0	0
	RP.48205-5.30	0	0	0	0	0	0	1
	Drive Firmware Version Total	3	0	0	4	0	1	1
Drive Model Total		3	0	0	4	0	1	1

4. いずれかの小計の詳細なリストを表示するには、セル内のテキストリンクをクリックします。

		SL3000_5710	SL500_52200	SL8500_1	SL8500_5	SL8500_6	SL8500_7	SL8500_8
T10000B	1.46.209-5.20	0	0	0	0	0	0	0
	1.48.105-5.30	2	0	0	3	0	0	0
	1.48.205-5.30	1	0	0	1	0	0	0
	RP.48205-5.30	0	0	0	0	0	0	1
	Drive Firmware Version Total	3	0	0	4	0	1	1
Drive Model Total		3	0	0	4	0	1	1

選択した小計に含まれるドライブに関する追加の詳細が表示された「Drives – Overview」画面に移動します。

**Drives - Overview**

Format: [Icons] Templates: Default

MB Read, MB Write, Mount R/W MB/sec (System Average graphs)

Applied Filter: Drive Model=T10000B and Drive Firmware Version Is '1.48.105-5.30' and Library Complex Name=SL8500\_5

Drive Serial Number	Drive WWNN	Drive Type	Drive Health Indicator	Exchange Start	Drive Exchange Status	Exchange FSC	Exc Driv Cle Rei
572001000201	50:01:04:F0:00:8A:BA:AB	T10000b	🔥	2012-04-16 13:54:03	GOOD		
572004000129	50:01:04:F0:00:8A:BA:BA	T10000b	🟡				
572001000141	50:01:04:F0:00:8A:BA:D5	T10000b-Enc	🟢	2012-04-15 14:10:27	GOOD		





## ダッシュボードポートレット

このセクションには、使用可能なダッシュボードポートレットの説明が含まれています。

- [グラフポートレット](#)
- [表ポートレット](#)
- [レポートポートレット](#)

---

注:

ダッシュボードポートレットのすべてのデータは、UTC 時間で報告されます。詳細は、「[「Dashboard」に表示される時間](#)」を参照してください。

---

### A.1. グラフポートレット

グラフポートレットには、複数の形式が含まれます。棒グラフと円グラフは、関連データのポイントインタイムレポートです。線グラフおよび面グラフは、選択した日付範囲の値を示します。これらのグラフ形式の詳細については、『[STA 画面基本ガイド](#)』を参照してください。

ダッシュボードを表示するタイミングによっては、各グラフの最後の期間にデータの急降下が見られることがありますが、これは期間の一部であるためです。

#### Alerts

選択した日付範囲における生成されたドライブ、メディア、ライブラリ、CAP、および PTP の STA アラートの合計数を示す棒グラフ。

---

注:

アラートは、ユーザー定義のアラートポリシーに基づいて生成されます。アラートポリシーの数、およびアラートポリシーの条件と重要度は完全にユーザー定義であるため、このグラフは、必ずしもテープライブラリシステム環境の問題を示していません。

---

#### Alert Trends

選択した日付範囲の各日における STA アラートの合計数と重要度を示す線グラフ。

---

注:

アラートは、ユーザー定義のアラートポリシーに基づいて生成されます。アラートポリシーの数、およびアラートポリシーの条件と重要度は完全にユーザー定義であるため、このグラフは、必ずしもテープライブラリシステム環境の問題を示していません。

---

### **Cum Data Read and Written**

選択した日付範囲における読み書きされたデータの合計量を示す線グラフ。

### **Drive Activity Trends**

選択した日付範囲の各日におけるマウント解除の合計数をドライブモデル別に示す面グラフ。

### **Drive Health**

STA で計算された各 Drive Health Indicator のドライブの合計数をドライブモデル別に示す棒グラフ。

### **Drive Health Trends**

選択した日付範囲の各日における平均の Drive Suspicion Level をドライブモデル別に示す線グラフ。

### **Drive Utilization (Hourly, Daily, Weekly, or Monthly)**

各時、日、週、または月におけるドライブ占有時間の平均割合を示す線グラフ。ドライブ位置 (コンプレックス、ライブラリ、レールなど) 別および日付範囲別にフィルタできます。

### **I/O Throughput (Hourly, Daily, Weekly, or Monthly)**

選択した日付範囲の各時、日、週、または月における読み書きされたデータの合計量を示す線グラフ。

### **Library Component Health Trends**

選択した日付範囲における平均の日次状態をライブラリコンポーネントタイプ (ロボット、CAP、エレベータ、パススルーポートなど) 別に示す線グラフ。

---

注:

状況は、STA の分析ではなくライブラリによって報告されたものです。

---

### **Library Component Status**

報告された各状況であるコンポーネントの現在の合計数をライブラリコンポーネントタイプ (ロボット、CAP、エレベータ、パススルーポートなど) 別に示す棒グラフ。

---

注:

状況は、STA の分析ではなくライブラリによって報告されたものです。

---

### **Library Drive Bays**

取り付けられたドライブの現在のタイプ別分布、および空のドライブスロットを示す円グラフ。

### **Library Media Slots**

占有されたメディアスロットの現在のメディアタイプ別分布、および空のドライブスロットを示す円グラフ。

### **Library Status**

ライブラリによって報告される各 Top-Level Indicator の現在の合計数をライブラリモデル別に示す棒グラフ。

### **Maximum Mount Times (Hourly, Daily, Weekly, or Monthly)**

選択した日付範囲の各時、日、週、または月におけるマウントにかかる時間が最長だった 1 回の交換でのマウントにかかる時間の合計を示す線グラフ。プロットされる値は、交換の開始からマウントの開始までの合計時間です。

### **Media – Least Recently Mounted (Hourly, Daily, Weekly, or Monthly)**

選択した日付範囲の各時、日、週、または月における前回の交換から最長であるメディアを示す線グラフ。プロットされる値は、前回の交換以降の合計時間です。交換アクティビティがあったメディアのみが含まれます。

### **Media Health**

STA で計算された各 Media Health Indicator のメディアの合計数をメディアタイプ別に示す棒グラフ。

### **Media Health Trends**

選択した日付範囲の各日における平均の Media Suspicion Level をメディアタイプ別に示す線グラフ。

### **Media Movements (Hourly, Daily, Weekly, or Monthly)**

選択した日付範囲の各時、日、週、または月におけるメディアがエンター、イジェクト、または移動された合計時間を示す線グラフ。「その他」の移動には、ロボット、エレベータ、PTP などによる移動が含まれます。

### **Media Slots Available (Hourly, Daily, Weekly, or Monthly)**

選択した日付範囲の各時、日、週、または月における使用可能なメディアスロット数の最小および最大を示す線グラフ

### **Media Utilization (Hourly, Daily, Weekly, or Monthly)**

選択した日付範囲の各時、日、週、または月における平均メディア使用率の見積もりを示す線グラフ。メディア使用率とは、データで使用された合計メディア容量の割合、つまりメディアの「満杯度」です。交換アクティビティがあったメディアのみが含まれます。

### **Media Utilization Bands (Hourly, Daily, Weekly, or Monthly)**

選択した日付範囲の各時、日、週、または月におけるメディア帯域(使用率の範囲)の見積もりを示す線グラフ。帯域は、使用率の値がその範囲内であるメディアがある場合のみグラフに表示されます。

0.001% 未満の帯域には、文字どおり空であるメディアと、内部ラベルは付いているものの実際のデータはないために実質的に空であるメディアの両方が含まれます。

### **Media Validation**

選択した期間におけるメディア検証の合計数、および合格、失敗、不明の合計を示す線グラフ。

### **Mounts (Hourly, Daily, Weekly, or Monthly)**

選択した日付範囲の各時、日、週、または月におけるマウントの合計数を示す線グラフ。プロットされる値は、マウント解除ではなくマウントの回数です。

### **Robot Health**

STA で計算された Robot Health 別のロボットの現在数を示す棒グラフ。

### **SL8500 Dismount Efficiency (moves)**

交換の一部としてマウント解除リクエストを完了するためにメディアが移動するレールの合計数をサマリーする棒グラフ。これには、ロボット、エレベータ、および PTP による移動が含まれます。メディアが停止せずにレール上を移動した場合、そのレールはカウントに含まれません。例:

- ドライブから同じレールのメディアスロットにメディアが移動した場合、カウントは「1」です。

- レール #4 のドライブからレール #1 のメディアスロットにメディアが移動した場合、カウントは「2」です。
- レール #4 のドライブからレール #3 の PTP へ、そこから別ライブラリのレール #1 のドライブにメディアが移動した場合、カウントは「3」です。

---

注:

StorageTek ACSLS によって管理されるライブラリでメディアのフロートオプションが有効な場合、メディアスロットがドライブと同じ LSM 内で使用可能などときには常にマウント解除による移動効率は「1」です。

---

### SL8500 Mount Efficiency (moves)

交換の一部としてマウントリクエストを完了するためにメディアが移動するレールの合計数をサマリーする棒グラフ。これには、ロボット、エレベータ、および PTP による移動が含まれます。メディアが停止せずにレール上を移動した場合、そのレールはカウントに含まれません。例:

- メディアスロットから同じレールのドライブにメディアが移動した場合、カウントは「1」です。
- レール #1 のメディアスロットからレール #4 のドライブにメディアが移動した場合、カウントは「2」です。
- レール #1 のドライブからレール #3 の PTP へ、そこから別ライブラリのレール #4 のドライブにメディアが移動した場合、カウントは「3」です。

## A.2. 表ポートレット

一部の表ポートレットは、関連データのポイントインタイムレポートです。その他には、選択した日付範囲における開始値、終了値、高値、低値を示す傾向レポートです。カーソルを表セルの上に置くと、詳細な値および日付が含まれるツールチップが表示されます。

傾向レポートには、選択した日付範囲における開始値、終了値、高値、低値という最大 4 つの重要な値をプロットする小さな線グラフである、埋め込みのスパークチャートがあります。スパークチャートの詳細については、『*STA 画面基本ガイド*』を参照してください。

### Data Read/Written Trends

選択した日付範囲における読み書きされたデータの量および平均データ圧縮率をサマリーします。

「Total Data Stored」の値は、示された日付における選択したライブラリのすべてのメディアに格納されているデータの合計量です。

表に表示される「Data Compression」の値は直近の整数に丸められ、表セルのツールチップには小数値の詳細が表示されます。

このポートレットには、過去 6 か月 (180 日) 内の日付における値のみが表示されます。過去 6 か月よりも前の日付範囲でフィルタすると、ポートレットには許容範囲内にある日付における値のみが表示されます。次に例を示します。

- 「Number of Days More Than 25」のフィルタでは、60 - 25 日前までの期間における値が表示されます。
- 「Number of Days Less Than 75」のフィルタでは、60 日前から現在までの期間における値が表示されます。
- 「Number of Days More Than 200」のフィルタでは、データが表示されません。

#### **Drive Capacity Planning (30 Days)**

過去 30 日間における取り付けられたドライブスロット、取り付けられたドライブ、取り外されたドライブ、およびドライブ使用率統計をサマリーします。

「Drives Under-utilized」カウントには、不明ドライブ (STA がデータを受信したことのないドライブ) および一度も使用されたことのないドライブが含まれます。

#### **Drives Fewest Meters Between Recent Cleanings**

直近の 2 回のクリーニングの間で使用されたメートル数をもっとも少ないドライブを一覧表示します。表には、STA が少なくとも 2 回のクリーニングアクションを記録したドライブのみが含まれます。これは現時点の状態です。

#### **Drives Watch List**

ドライブの健全性が「Action」または「Evaluate」であるドライブをサマリーします。ドライブのシリアル番号、モデル、Drive Health Indicator、Drive Health Trend、および最新の注釈が一覧表示されます。これは現時点の状態です。

#### **Media Capacity Planning (30 Days)**

過去 30 日における取り付けられ、アクティブ化され、占有されたメディアスロット、取り外されたメディア、およびメディア使用率統計をサマリーします。

#### **Media Exceptions**

カートリッジアクセスポート (CAP)、SL3000 アクセス拡張モジュール (AEM)、SL150 メールスロット以外の何らかの方法でテープライブラリシステムから取り外されたメディアを一覧表示します。これは現時点の状態です。

#### **Media Validation**

検証テストタイプ別にメディア検証結果をサマリーします。デフォルトで、このポートレットには過去 14 日間のデータが表示されます。「Pass」、「Fail」、および「Unknown」列の値は、次のように「MV Result」属性に基づきます。

- Use – 「MV Result」が「Use」
- Fail – 「MV Result」が「Failed」または「Degraded」
- Unknown – 「MV Result」が「Unknown」

この表では、完了した検証のみが報告されます。保留中または進行中の検証は含まれません。これには、ホストアプリケーション、SL Console、ライブラリ CLI、STA など、すべて

のソースによって開始された検証が含まれます。詳細については、「[メディア検証イニシエータ](#)」を参照してください。

**Media Watch List**

メディアの健全性が「Action」または「Evaluate」であるメディアをサマリーします。ボリュームのシリアル番号 (volser)、タイプ、Media Health Indicator、Media Health Trend、および最新の注釈が一覧表示されます。これは現時点の状態です。

**Monitored Device Trends**

選択した日付範囲におけるテープライブラリシステム内のリソース数をサマリーします。情報には、ライブラリ、ロボット、CAP、パススルーポート (PTP)、エレベータ、ドライブ、メディアのほか、CAP、SL3000 AEM、または SL150 メールスロットによって取り外されたメディアが含まれます。

## A.3. レポートポートレット

レポートポートレットは、テープライブラリシステムに関する現在の情報のテキストのみのサマリーです。

**Data Read Report**

メディアから読み込まれた合計データをサマリーします (日次の平均、日次の高点と低点、平均圧縮率など)。

**Data Written Report**

メディアに書き込まれた合計データをサマリーします (日次の平均、日次の高点と低点、平均圧縮率など)。

**Drives Health Report**

STA によって計算された Drive Health Indicator 別のドライブ数をサマリーします。

**Library Status Report**

ライブラリによって報告された Library Top-Level Indicator 別のライブラリ数をサマリーします。

**Media Health Report**

STA によって計算された Media Health Indicator 別のメディア数をサマリーします。「Unknown」カテゴリには、STA が十分なデータを受信しなかったために健全性を計算できていないメディアが含まれます。これは、次の理由で発生することがあります。

- メディアは、STA がモニターしている間にドライブにマウントされませんでした。
- メディアの「STA Supported」属性の値が「True」です。これは、メディアのタイプが STA 分析の最小要件を満たしていないことを示しています (SDLT、LTO-2 メディアなど)。サポートされるメディアタイプの詳細については、『[STA 要件ガイド](#)』を参照してください。

**Media Validation Report**

実行された検証のブレークダウン、検証されたメディア数、使用されたドライブ数、検証の経過時間など、メディア検証アクティビティをサマリーします。

**Monitored Device Counts**

テープライブラリシステムのモニター対象である合計デバイス数をサマリーします (ライブラリ、ロボット、CAP、パススルーポート (PTP)、エレベータ、ドライブ、メディアのほか、CAP、SL3000 AEM、または SL150 メールスロットによって取り外されたメディアを含む)

デフォルトで、このレポートには、現在の日付時点におけるすべてのデバイスが含まれます。ただし、「STA Start Tracking Date (Days)」または「STA Start Tracking Date (No. Days)」によってフィルタされているときは、「STA Start Tracking」の日付が指定された日付範囲内または日数内であるデバイスの数がレポートカウントに含まれます。たとえば、「STA Start Tracking Date Less Than 7 Days Ago」というフィルタを使用する場合、過去7日間にテープライブラリ環境に追加されたデバイスのみがレポートで計上され、それよりも長い間モニターされているデバイスは含まれません。





## STA の定義済みテンプレート

このセクションでは、各「Overview」、「Analysis」、および「Messages」画面の定義済みテンプレートについて簡潔に説明します。STA 定義済みテンプレートには常に、「STA-」接頭辞が付けられています。

### 「Home」 タブ

- 「「Dashboard」のテンプレート」

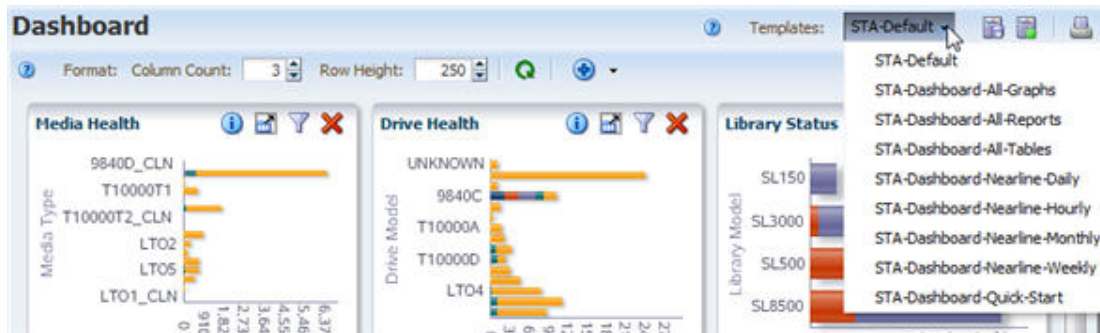
### 「Tape System Hardware」 タブ

- 「「Complexes Overview」のテンプレート」
- 「「Libraries – Overview」のテンプレート」
- 「「Libraries – Messages」のテンプレート」
- 「「Drives – Overview」のテンプレート」
- 「「Drives – Analysis」のテンプレート」
- 「「Drives – Messages」のテンプレート」
- 「「Media – Overview」のテンプレート」
- 「「Media – Analysis」のテンプレート」
- 「「Media – Messages」テンプレート」
- 「「Robots Overview」のテンプレート」
- 「「CAPs Overview」のテンプレート」
- 「「PTPs Overview」のテンプレート」
- 「「Elevators Overview」のテンプレート」

### 「Tape System Activity」 タブ

- 「「Alerts Overview」のテンプレート」
- 「「Exchanges Overview」のテンプレート」
- 「「Drive Cleanings Overview」のテンプレート」
- 「「Media Validation Overview」のテンプレート」
- 「「All Messages – Overview」のテンプレート」
- 「「All Messages – Analysis」テンプレート」

## B.1. 「Dashboard」のテンプレート



### STA-Default

テープライブラリシステムの状態、構成、および日常的なパフォーマンスの包括的なサマリーを提供します。

### STA-Dashboard-All-Graphs

使用可能なすべてのグラフポートレットをアルファベット順に表示します。このテンプレートは、Dashboard テンプレートやエグゼクティブレポートに含めるポートレットを選択する際に役立ちます。

### STA-Dashboard-All-Reports

使用可能なすべてのレポートポートレットをアルファベット順に表示します。このテンプレートは、Dashboard テンプレートやエグゼクティブレポートに含めるポートレットを選択する際に役立ちます。

### STA-Dashboard-All-Tables

使用可能なすべてのテーブルポートレットをアルファベット順に表示します。このテンプレートは、Dashboard テンプレートやエグゼクティブレポートに含めるポートレットを選択する際に役立ちます。

### STA-Dashboard-Nearline-Daily

過去 30 日間のテープライブラリシステムのドライブおよびメディアアクティビティに関する日次サマリー情報を表示します。表示されるポートレットには、マウントアクティビティ、I/O スループット、ドライブとメディアの利用率、およびドライブとメディアスロットの可用性の概要が示されます。

#### 注:

このテンプレートに表示されるデータは、毎日の終わりに更新されます。棒グラフの場合、データを表示するには、少なくとも丸 1 日分のデータが STA により収集されている必要があります。折れ線グラフの場合、2 つ以上のデータポイントが必要であるため、少なくとも 2 日分のデータが必要になります。

### STA-Dashboard-Nearline-Hourly

過去 4 日間のテープライブラリシステムのドライブおよびメディアアクティビティに関する日次サマリー情報を表示します。表示されるポートレットには、マウントアクティビティ、I/O スループット、ドライブとメディアの利用率、およびドライブとメディアスロットの可用性の概要が示されます。

**注:**

このテンプレートに表示されるデータは、毎時間の最後に更新されます。棒グラフの場合、データを表示するには、少なくとも丸 1 時間分のデータが STA により収集されている必要があります。折れ線グラフの場合、2 つ以上のデータポイントが必要であるため、少なくとも 2 時間分のデータが必要になります。

**STA-Dashboard-Nearline-Monthly**

過去 365 日間のテープライブラリシステムのドライブおよびメディアアクティビティに関する月次サマリー情報を表示します。表示されるポートレットには、マウントアクティビティ、I/O スループット、ドライブとメディアの利用率、およびドライブとメディアスロットの可用性の概要が示されます。

**注:**

このテンプレートに表示されるデータは、毎月の最後に更新されます。棒グラフの場合、データを表示するには、少なくとも丸 1 か月分のデータが STA により収集されている必要があります。折れ線グラフの場合、2 つ以上のデータポイントが必要であるため、少なくとも 2 か月分のデータが必要になります。

**STA-Dashboard-Nearline-Weekly**

過去 100 日間のテープライブラリシステムのドライブおよびメディアアクティビティに関する日次サマリー情報を表示します。表示されるポートレットには、マウントアクティビティ、I/O スループット、ドライブとメディアの利用率、およびドライブとメディアスロットの可用性の概要が示されます。

**注:**

このテンプレートに表示されるデータは、毎週の最後に更新されます。棒グラフの場合、データを表示するには、少なくとも丸 1 週間分のデータが STA により収集されている必要があります。折れ線グラフの場合、2 つ以上のデータポイントが必要であるため、少なくとも 2 週間分のデータが必要になります。

**STA-Dashboard-Quick-Start**

テープライブラリシステムの全体的な構成および状態に関する情報を表示します。『STA クイックスタートガイド』を参照してください。

## B.2. 「Complexes Overview」のテンプレート

**STA-Default**

基本的なライブラリコンプレックス構成を表示します。

### STA-Complex-All

ライブラリコンプレックスのグラフおよびテーブル属性をすべて表示します。

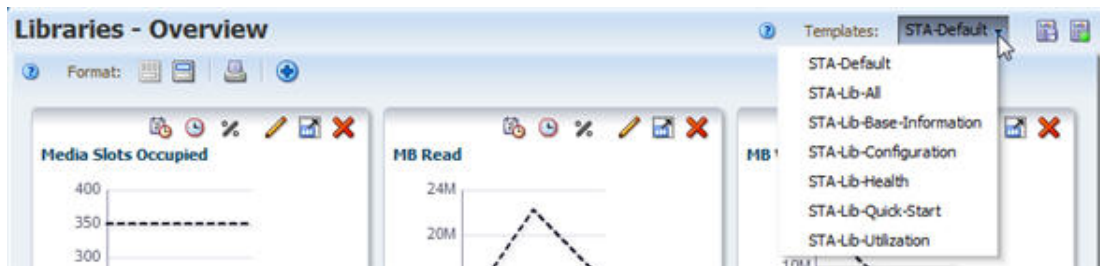
### STA-Complex-Configuration

ライブラリコンプレックスの物理およびパーティションの構成に関する情報を表示します。

### STA-Complex-Utilization

ライブラリコンプレックスの物理構成を表示し、コンプレックス内にアクティビティー (入力数と取り出し数、マウント数とマウント解除数、ドライブ使用率を含む) の概要を表示します。

## B.3. 「Libraries – Overview」のテンプレート



### STA-Default

基本的なライブラリプロパティと構成の情報を表示します。

### STA-Lib-All

すべてのライブラリテーブル属性を表示します。

### STA-Lib-Base-Information

基本ライブラリ構成および比較的静的なデータを表示します。ライブラリの説明およびインベントリのリスト作成に役立ちます。

### STA-Lib-Configuration

ライブラリの物理およびパーティションの構成に関する情報を表示します。接続の問題のトラブルシューティングに役に立つ接続情報も含まれています。

### STA-Lib-Health

ライブラリの健全性、ファームウェア、および STA との SNMP 接続に関する情報を表示します。

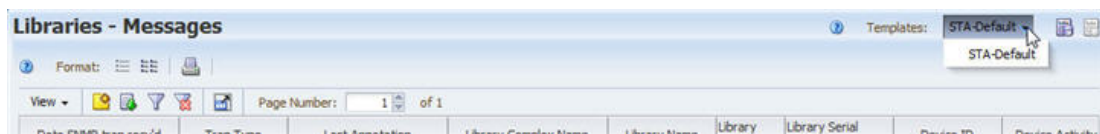
### STA-Lib-Quick-Start

ライブラリの全体的な構成および状態に関する情報を表示します。『STA クイックスタートガイド』を参照してください。

### STA-Lib-Utilization

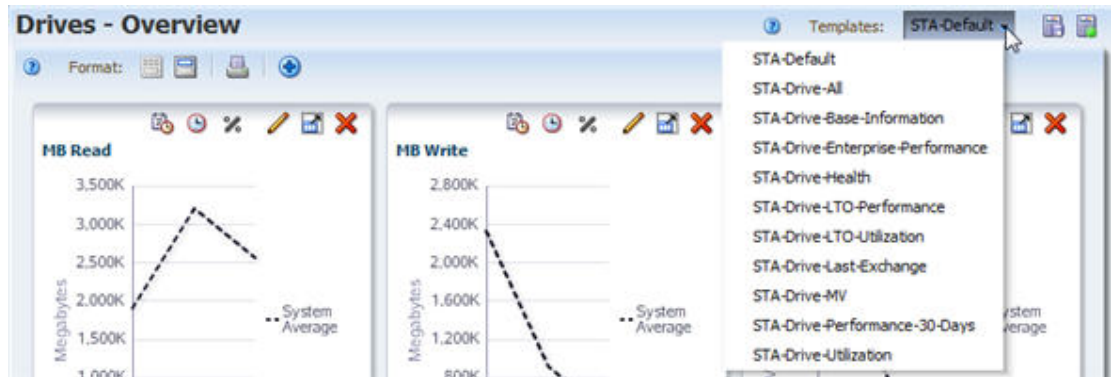
ライブラリのアクティビティーおよびドライブ利用の量と割合に関するサマリー情報を表示します。

## B.4. 「Libraries – Messages」のテンプレート



**STA-Default**

関係するライブラリとデバイスの詳細を含む、SNMPトラップを表示します。トラップタイプがCAP、ハートビート、ライブラリ環境のチェック、ライブラリのログ、ライブラリのステータス、およびPTPであるメッセージが含まれています。一部のメッセージは、「Drives – Messages」および「Media – Messages」画面に表示されることもあります。

**B.5. 「Drives – Overview」のテンプレート****STA-Default**

ドライブ構成情報およびドライブで最近発生した交換のステータスを表示します。

**STA-Drive-All**

ドライブのグラフおよびテーブル属性をすべて表示します。

**STA-Drive-Base-Information**

基本ドライブ構成および比較的静的なデータを表示します。ドライブの説明およびインベントリのリスト作成に役立ちます。

**STA-Drive-Enterprise-Performance**

エンタープライズドライブのみのサマリーパフォーマンスデータを表示します。

**STA-Drive-Health**

すべてのドライブの健全性およびアクティビティに関する現在の情報とサマリー情報を表示します。

**STA-Drive-Last-Exchange**

各ドライブで発生した前回の交換に関する情報を表示します。

**STA-Drive-LTO-Performance**

LTOドライブのみのパフォーマンスデータを表示します。

**STA-Drive-LTO-Utilization**

LTOドライブのみの利用率統計を表示します。

**STA-Drive-MV**

STA メディア検証を実行するための条件を満たすドライブを表示します。表示される属性は、検証ドライブプールに割り当て可能なドライブのパフォーマンスの選択やモニタリングに役立つ詳細を提供します。

**STA-Drive-Performance-30-Days**

過去 30 日間のすべてのドライブのサマリーパフォーマンスデータを表示します。

### STA-Drive-Utilization

すべてのドライブの利用率統計を表示します。

## B.6. 「Drives – Analysis」のテンプレート



### STA-Default

現在のドライブの健全性の概要を、ライブラリコンプレックスごとに表示します。

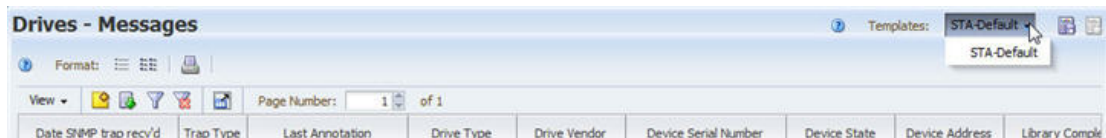
### STA-Drive-Firmware-Levels

現在のドライブファームウェアレベルの概要を、ドライブタイプごとに示します。

### STA-Drive-Read-Marginal

適用可能なドライブの「Exchange Read Marginal」ステータスの概要を、ライブラリコンプレックス名ごとに表示します。StorageTek T10000 ドライブのみに適用できます。

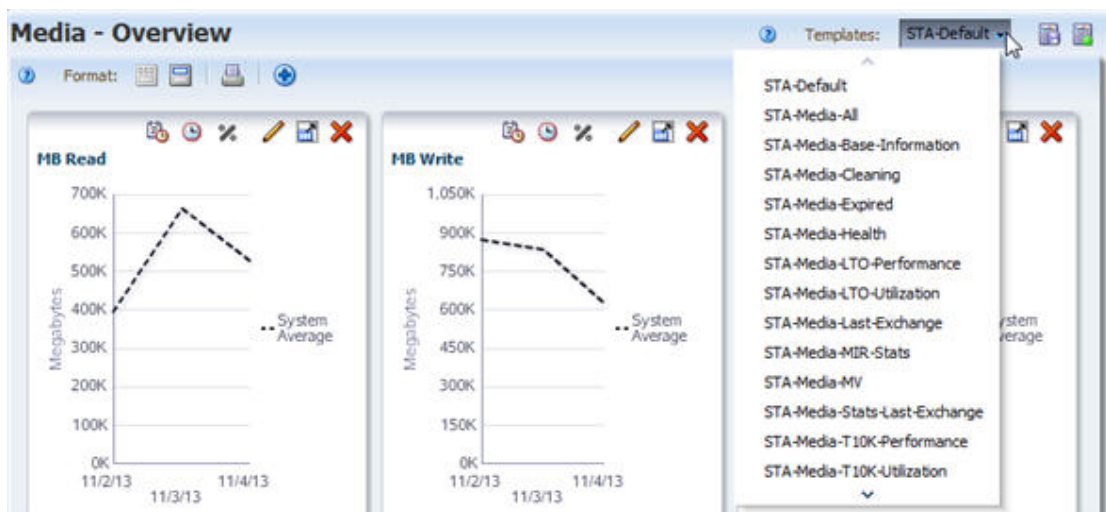
## B.7. 「Drives – Messages」のテンプレート



### STA-Default

関係するドライブの詳細を含む、SNMPトラップを表示します。トラップタイプがドライブ、ライブラリ環境のチェック、およびライブラリのログであるドライブ関連のメッセージが含まれています。一部のメッセージは、「Libraries – Messages」および「Media – Messages」画面に表示されることもあります。

## B.8. 「Media – Overview」のテンプレート





**STA-Default**

メディア、最近の交換、および関係するドライブに関する基本情報を表示します。

**STA-Media-All**

すべてのメディアグラフおよびテーブル属性を表示します。

**STA- Media-Base-Information**

基本メディア情報および比較的静的なデータを表示します。メディアの説明およびインベントリのリスト作成に役立ちます。

**STA-Media-Cleaning**

クリーニングメディアのみに関する基本情報を表示します。また、クリーニングメディアの最近の交換および関係するドライブのステータスも表示します。

**STA-Media-Expired**

期限切れのメディアの情報を表示します。Oracle サポート担当者 から、エラーログ情報を送信する前にこのテンプレートを使用するよう求められることがあります。

**STA-Media-Health**

すべてのメディアの健全性およびアクティビティに関する現在の情報とサマリー情報を表示します。

**STA-Media-Last-Exchange**

各メディアの前の交換に関する情報を表示します。

**STA-Media-LTO-Performance**

LTO メディアのみのサマリーパフォーマンス情報を表示します。

**STA-Media-LTO-Utilization**

LTO メディアのみのサマリー利用率情報を表示します。

**STA-Media-MIR-Stats**

メディア情報レコード (MIR) からのデータを表示します。

**STA-Media-MV-Calibration**

キャリブレーションメディア論理グループに割り当てられているメディアに関する詳細 (メディアが実行した最後のキャリブレーションに関する情報を含む) を表示します。

**STA-Media-MV-Performed**

過去 30 日以内に検証されたメディアを表示します。表示される属性は、これらのメディアで実行されたメディア検証操作に関する詳細を提供します。

**STA-Media-Stats-Last-Exchange**

各メディアの前の交換に関するスループットおよび効率性の情報を表示します。Oracle サポート担当者 から、エラーログ情報を送信する前にこのテンプレートを使用するよう求められることがあります。

**STA-Media-T10K-Performance**

T10000 メディアのみのサマリーパフォーマンス情報を表示します。

**STA-Media-T10K-Utilization**

T10000 メディアのみのサマリー利用率情報を表示します。

**STA-Media-Utilization**

すべてのメディアのサマリー利用率情報を表示します。

## B.9. 「Media – Analysis」のテンプレート



### STA-Default

現在のメディアの健全性の概要を、ライブラリコンプレックスごとに表示します。

### STA-Media-HealthByMediaType

現在のメディアの健全性の概要を、メディアタイプごとに表示します。

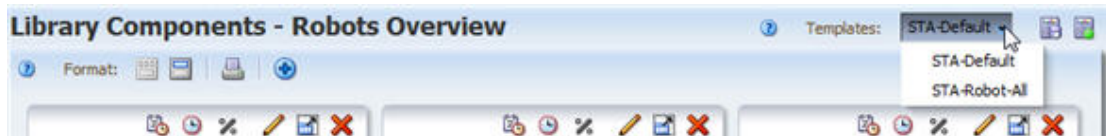
## B.10. 「Media – Messages」テンプレート



### STA-Default

関係するメディアの詳細を含む、SNMPトラップを表示します。トラップタイプがライブラリ環境のチェックおよびライブラリのログである、メディア関連のメッセージが含まれています。一部のメッセージは、「Libraries – Messages」および「Drives – Messages」画面に表示されることもあります。

## B.11. 「Robots Overview」のテンプレート



### STA-Default

すべてのライブラリロボットのプロパティおよびアクティビティを表示します。

### STA-Robot-All

すべてのライブラリロボットで使用可能なすべてのデータ属性を表示します。

## B.12. 「CAPs Overview」のテンプレート



### STA-Default

すべてのライブラリカートリッジアクセスポート (CAP)、SL3000 Access Expansion Module (AEM)、および SL150 メールスロットのプロパティとアクティビティを表示します。



**STA-CAP-All**

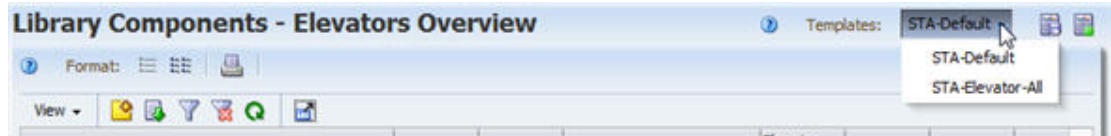
すべてのライブラリ CAP、SL3000 AEM、および SL150 メールスロットで使用可能なすべてのデータ属性を表示します。

**B.13. 「PTPs Overview」のテンプレート****STA-Default**

すべての SL8500 ライブラリパススルーポート (PTP) のプロパティとアクティビティを表示します。

**STA-PTP-All**

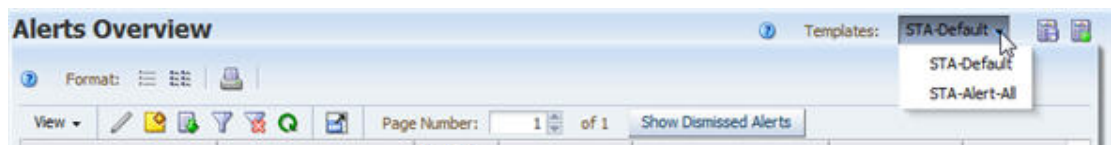
すべての SL8500 ライブラリ PTP で使用可能なすべてのデータ属性を表示します。

**B.14. 「Elevators Overview」のテンプレート****STA-Default**

すべての SL8500 ライブラリエレベータのプロパティおよびアクティビティを表示します。

**STA-Elevator-All**

すべての SL8500 ライブラリエレベータで使用可能なすべてのデータ属性を表示します。

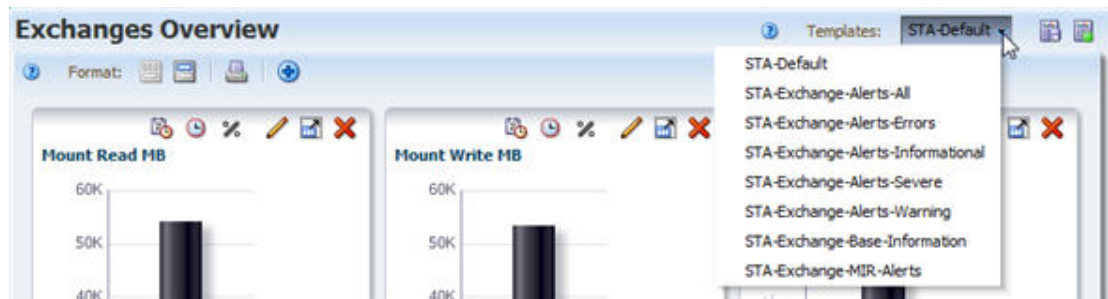
**B.15. 「Alerts Overview」のテンプレート****STA-Default**

すべての STA アラートのサマリー情報を表示します。表示される属性で、アラートポリシー、重要度、条件、およびアラートが生成されるテープライブラリシステムのリソースまたはイベントを識別できます。

**STA-Alert-All**

すべての STA アラートで使用可能なすべての属性を表示します。

## B.16. 「Exchanges Overview」のテンプレート



### STA-Default

各交換に関係するドライブ、メディア、およびライブラリの識別情報とステータス情報を表示します。

### STA-Exchange-Alerts-All

交換時に発生するアラートに関する情報を表示します。アラートを生成しなかった交換は含まれません。

### STA-Exchange-Alerts-Errors

1つ以上の重大または警告のテープアラートが発生したすべての交換を表示します。表示される属性は、発生したエラーのタイプに関する詳細を提供します。重大なテープアラートは、データを危険にさらす可能性のある交換時のエラーを示します。警告のテープアラートは、ハードウェア障害が関係している可能性のあるエラーを示します。

Oracle サポート担当者 から、エラーログ情報を送信する前にこのテンプレートを使用するよう求められることがあります。

### STA-Exchange-Alerts-Informational

1つ以上の情報テープアラートが発生したすべての交換を表示します。表示される属性は、発生したアラートのタイプに関する詳細を提供します。情報テープアラートは、クリーニングアラートのように、交換時のエラーを意味しません。

### STA-Exchange-Alerts-Severe

1つ以上の重大テープアラートが発生したすべての交換を表示します。表示される属性は、発生したエラーのタイプに関する詳細を提供します。重大なテープアラートは、データを危険にさらす可能性のある交換時のエラーを示します。

### STA-Exchange-Alerts-Warning

1つ以上の警告のテープアラートが発生したすべての交換を表示します。表示される属性は、発生したエラーのタイプに関する詳細を提供します。警告のテープアラートは、ハードウェア障害が関係している可能性のある交換時のエラーを示します。

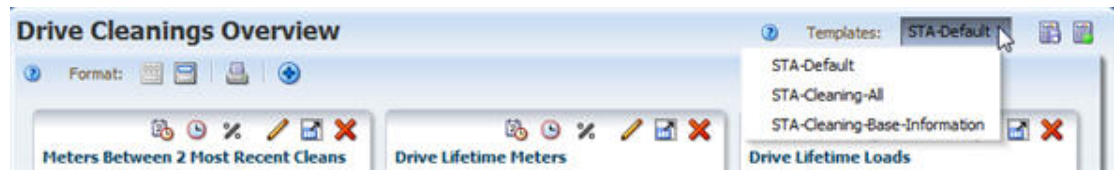
### STA-Exchange-Base Information

すべての交換の基本情報 (ドライブやボリュームのシリアル番号、ドライブやメディアの健全性、ドライブやメディアの交換ステータス、MB 読み取りと書き込み、時間など) を表示します。

### STA-Exchange-MIR-Alerts

メディア情報レコード (MIR) 関連のアラートが発生したすべての交換を表示します。Oracle サポート担当者 から、エラーログ情報を送信する前にこのテンプレートを使用するよう求められることがあります。

## B.17. 「Drive Cleanings Overview」のテンプレート



### STA-Default

各クリーニング交換に関するドライブ、メディア、およびライブラリの識別情報とステータス情報を表示します。

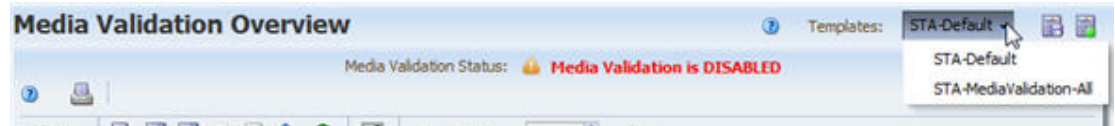
### STA-Cleaning-All

すべてのクリーニング交換属性を表示します。

### STA-Cleaning-Base-Information

すべてのクリーニング交換の基本情報 (ドライブやボリュームのシリアル番号、ドライブの有効期間クリーン、現在および最大のクリーニング使用) を表示します。

## B.18. 「Media Validation Overview」のテンプレート



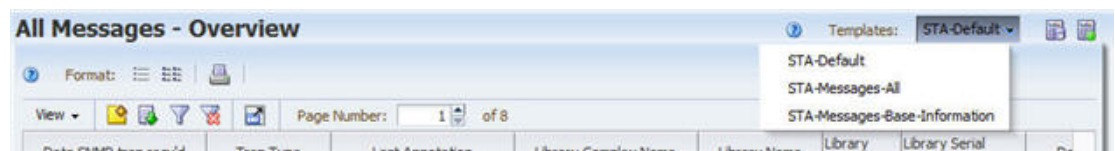
### STA-Default

すべてのメディア検証リクエストのサマリー情報を表示します。表示される属性は、リクエストの状態、検証テスト、イニシエータ、およびポリシー名 (適用可能な場合) を示します。問題のあるリクエストに対する推奨アクションを含む、完了した検証の検証結果が表示されます。

### STA-MediaValidation-All

すべてのメディア検証で使用可能なすべての属性を表示します。

## B.19. 「All Messages – Overview」のテンプレート



### STA-Default

関係するライブラリとデバイスの詳細を含む、SNMPトラップを表示します。

### STA-Messages-All

SNMPトラップで使用可能なすべての属性を表示します (この画面で使用可能なグラフはありません)。

### STA- Messages-Base-Information

SNMPトラップの基本データを表示します。STA メッセージの概要、説明、およびリスト表示に役立ちます。

## B.20. 「All Messages – Analysis」 テンプレート



### **STA-Default**

STA メッセージの重大度レベルの概要を、ライブラリコンプレックスごとに表示します。

## STA ダイアログボックスリファレンス

このセクションには、次のタイプの STA データ入力ダイアログボックスに関するリファレンス情報が含まれています。

- [「Login」ダイアログボックス](#)
- [ダッシュボードのダイアログボックス](#)
- [フィルタのダイアログボックス](#)
- [メディア検証の概要のダイアログボックス](#)
- [論理グループのダイアログボックス](#)
- [「Alerts Policies」ダイアログボックス](#)
- [エグゼクティブレポートポリシーのダイアログボックス](#)
- [テンプレート管理のダイアログボックス](#)
- [メディア検証ポリシーのウィザードおよびダイアログボックス](#)
- [サービスログのダイアログボックス](#)
- [SNMP 接続のダイアログボックス](#)
- [ユーザー管理のダイアログボックス](#)
- [電子メール構成のダイアログボックス](#)

ユーザー設定および表に関連するダイアログボックスの説明については、『*STA 画面基本ガイド*』を参照してください。

### C.1. 「Login」ダイアログボックス

- [「Login」](#)

## C.1.1. Login



### C.1.1.1. 説明

このダイアログボックスは、ブラウザで STA サーバーの URL を入力するときに表示されます。ログイン用の STA ユーザー名およびパスワードは、STA 管理者から提供されます。

---

注:

ログインに成功するには最大で 5 回の機会があります。失敗したログイン試行が 5 分以内に 5 回あると、ユーザーアカウントが 30 分間ロックアウトされます。セキュリティ上の理由から、STA 管理者であってもロックアウト期間中にアカウントをリセットすることはできないため、再度ログインを試行するまで 30 分間待つ必要があります。

---

### C.1.1.2. 画面のフィールド

#### **Username**

必須。

ログインに使用する STA ユーザー名を入力します。

#### **Password**

必須。

STA ユーザー名に割り当てられたパスワードを入力します。

### C.1.1.3. ボタン

#### **Login**

クリックすると、ログインします。ユーザー名およびパスワードが認証されると、「Dashboard」に移動します。

---

注:

「Dashboard」の前に、「Accessibility Settings」ダイアログボックスが表示されることがあります。

---

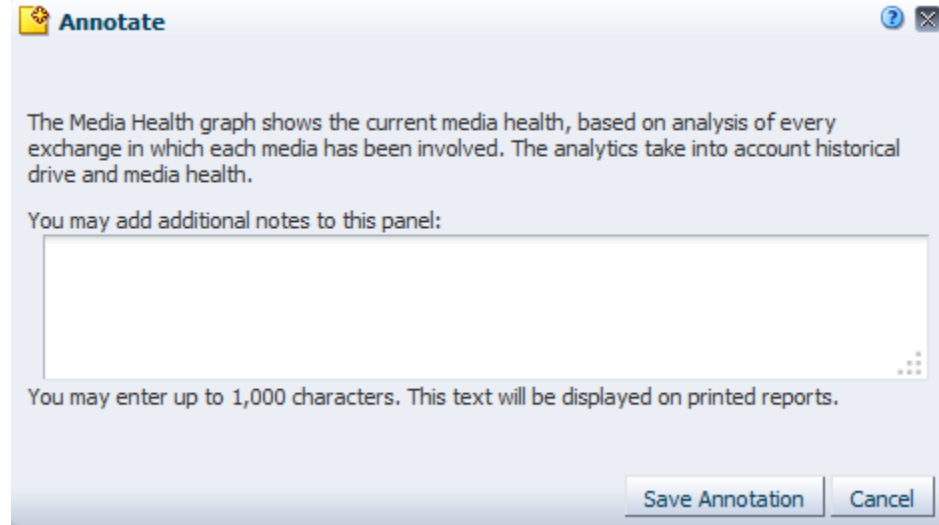
### C.1.1.4. 関連項目

- [「STA へのログイン」](#)

## C.2. ダッシュボードのダイアログボックス

- 「Annotate」

### C.2.1. Annotate



#### C.2.1.1. 説明

このダイアログボックスでは、「Dashboard」ポートレット注釈を追加または変更できます。これは、「Dashboard」ポートレットで「**Portlet Information**」をクリックすると表示されます。

---

注:

入力するテキストは、現在の「Dashboard」テンプレートに固有です。たとえば、「Drive Health」ポートレットはいくつかの「Dashboard」テンプレートに表示され、「Drive Health」ポートレットの各インスタンスには異なる注釈が関連付けられています。

---

注:

注釈テキストは STA ユーザー名に固有です。たとえば、あるユーザーが「Drive Health」ポートレットで入力した注釈は、別の STA ユーザー名を使用してログインしたユーザーには表示されません。

#### C.2.1.2. 画面のフィールド

**You may add additional notes to this panel:**

エグゼクティブレポートに表示するテキストを入力します。

注釈の長さの最大は 1,000 ASCII 文字です。太字や色などの書式オプションはありません。また、強制的な改行などの余白オプションは、エグゼクティブレポートでは保存されません。

### C.2.1.3. ボタン

#### Save Annotation

クリックすると、注釈をダッシュボードポートレットに適用します。

#### Cancel

クリックすると、注釈を適用せずに、このダイアログボックスを閉じます。

### C.2.1.4. 関連項目

- 「[「Dashboard」ポートレットの注釈の追加または変更](#)」

## C.3. フィルタのダイアログボックス

- 「[Filter Data](#)」

### C.3.1. Filter Data

The screenshot shows the 'Filter Data' dialog box. It features a title bar with a help icon and a close button. The main area contains a 'Filter Matching' section with two radio buttons: 'Match ANY of the following' (selected) and 'Match ALL of the following'. Below this, there are two filter conditions: 'Drive Model' is 'Is' 'LTO5' and 'Encryption Capable' is 'True'. Each condition has a red 'X' button to its right. At the bottom right, there are 'Apply', 'Reset', and 'Cancel' buttons. A green '+' button is also visible in the top right area.

#### C.3.1.1. 説明

このダイアログボックスでは、リストビュー表またはピボットテーブルでデータをフィルタするとき使用する条件を指定できます。条件は必要な数だけ指定できます。



このダイアログボックスは、表ツールバーの「**Filter Data**」をクリックすると表示されます。

### C.3.1.2. 画面のフィールド

#### Filter Matching

フィルタに使用する一致のタイプを示します。オプションは次のとおりです。

- Match ANY of the following – 指定する条件のいずれかと一致する表レコードを選択します。これはデフォルトです。
- Match ALL of the following – 指定する条件のすべてと一致するレコードのみを選択します。

#### フィルタ条件リスト

表に適用するフィルタ条件を入力します。行は必要な数だけ追加できます。行ごとに、次のメニュー選択を使用して条件を指定します。

- 表属性 – 表で使用可能なすべての属性がメニューに一覧表示されます。

---

注:

選択する属性の名前が判明している場合は、最初の数文字を入力すると、メニュー内のその項目にカーソルをすばやく移動させることができます。

- フィルタ演算子 – フィルタ演算子は、属性タイプによって異なります。
- 属性値 – 属性値は、属性によって異なります。

メニューの選択枝の詳細については、「[属性タイプ別のフィルタ演算子](#)」を参照してください。

### C.3.1.3. ボタン

#### 新しいフィルタ条件行の追加

クリックすると、フィルタ条件のリストに新しい行を追加します。

#### このフィルタ条件行の削除

クリックすると、フィルタ条件の現在の行を削除します。

#### Apply

クリックすると、エントリを適用します。表が更新され、指定した選択条件を満たすレコードのみが表示されます。

#### Reset

クリックすると、ダイアログボックスをデフォルト設定にリセットします。

#### Cancel

クリックすると、エントリを適用せずに、このダイアログボックスを閉じます。

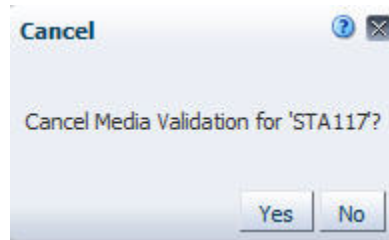
### C.3.1.4. 関連項目

- 「[「Filter Data」ダイアログボックスを使用したテーブルフィルタの変更](#)」

## C.4. メディア検証の概要のダイアログボックス

- [「リクエストの取消し」](#)
- [「Resubmit Media」](#)
- [「Reorder Pending Requests」](#)

### C.4.1. リクエストの取消し



#### C.4.1.1. 説明

このダイアログボックスでは、選択したメディア検証リクエストを取り消すことができます。これは、「Media Validation Overview」画面で進行中または保留中のメディア検証リクエストを選択し、「Cancel」をクリックしたときに表示されます。

#### C.4.1.2. ボタン

**Yes**

クリックすると、選択したメディア検証リクエストを取り消します。

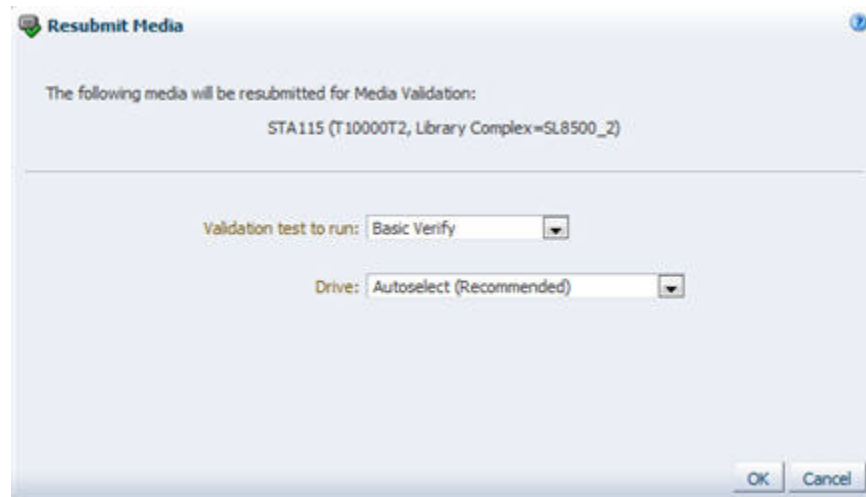
**No**

クリックすると、メディア検証リクエストを取り消さずに、ダイアログボックスを閉じます。

#### C.4.1.3. 関連項目

- [「保留中のメディア検証リクエストの取り消し」](#)
- [「進行中の「Complete Verify」検証の取り消し」](#)

## C.4.2. Resubmit Media



### C.4.2.1. 説明

このダイアログボックスでは、選択したメディア検証リクエストを再送信できます。これは、「Media Validation Overview」画面で完了済みのメディア検証リクエストを選択し、「Resubmit Media」をクリックしたときに表示されます。

### C.4.2.2. 画面のフィールド

#### Validation test to run

実行するメディア検証を選択します。メニューには、T10000C および T10000D ドライブで使用可能なすべての検証テストが一覧表示されます。

#### Perform validations from beginning of tape

「Complete Verify」または「Complete Verify Plus」を選択した場合のみ表示されます。テープの先頭 (BOT) からすべての選択したメディアを検証する場合は、このオプションを選択します。

#### Resume interrupted validations when possible, otherwise start at beginning

「Complete Verify」または「Complete Verify Plus」を選択した場合のみ表示されます。前回の検証の終了位置をメディア情報レコード (MIR) から判断できるときにそこからすべての選択したメディアを検証する場合は、このオプションを選択します。

#### Drive

使用する検証ドライブを選択します。メニューには、スタンドアロンライブラリまたはライブラリコンプレックス内のすべての検証ドライブが表示されます。

このオプションは、検証対象として選択したすべてのメディアが同一のスタンドアロンライブラリまたはライブラリコンプレックス内にある場合のみ使用できます。このオプションを使用できない場合、STA は、互換性のあるドライブを自動で選択して検証を実行します。

### C.4.2.3. ボタン

#### OK

クリックすると、リクエストを送信します。

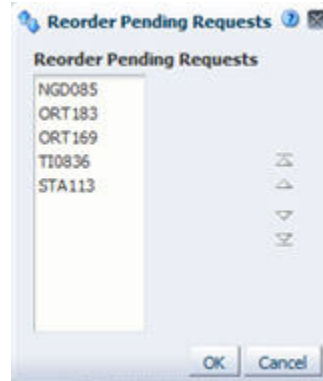
#### Cancel

クリックすると、リクエストを送信せずに、ダイアログボックスを閉じます。

### C.4.2.4. 関連項目

- ・「[手動メディア検証リクエストの送信](#)」

## C.4.3. Reorder Pending Requests



### C.4.3.1. 説明

このダイアログボックスでは、保留中のメディア検証リクエストを並べ替えることができます。これは、「Media Validation Overview」画面で「**Reorder Pending Requests**」をクリックすると表示されます。

### C.4.3.2. 画面のフィールド





#### Reorder Pending Requests

すべての保留中のメディア検証リクエストを実行順に一覧表示します。並べ替える1つ以上のリクエストを選択します。このフィールドは複数選択をサポートしています。

### C.4.3.3. ボタン

#### Ordering arrows

これらのボタンは、「Reorder Pending Requests」リストで1つ以上の項目を選択した場合のみアクティブです。

矢印	説明
 or 	選択した項目 (複数可) を1回につき1つ上または下に移動します。
 or 	選択した項目をリストの一番上または一番下に移動します。

**OK**

クリックすると、更新を適用します。

**Cancel**

クリックすると、更新を適用せずに、このダイアログボックスを閉じます。

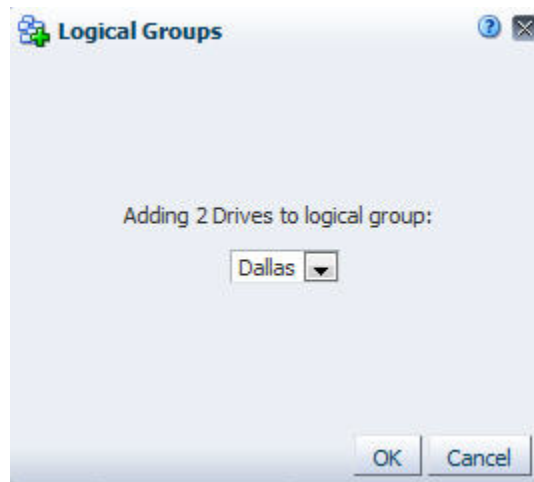
#### C.4.3.4. 関連項目

- 「保留中のメディア検証リクエストの再順序付け」

### C.5. 論理グループのダイアログボックス

- 「Logical Groups」
- 「「Create Logical Group」または「Edit Logical Group」」
- 「Delete Logical Group」
- 「Unassign Entities」

#### C.5.1. Logical Groups



##### C.5.1.1. 説明

このダイアログボックスでは、ドライブまたはメディアを手動論理グループに追加できます。これは、「Drives – Overview」または「Media – Overview」画面で 1 つ以上のドライブまたはメディアを選択して「**Logical Groups**」をクリックしたときに表示されます。

##### C.5.1.2. 画面のフィールド

論理グループへの追加メニュー

選択したドライブまたはメディアの追加先論理グループを選択します。

### C.5.1.3. ボタン

**OK**

クリックすると、エントリを適用します。

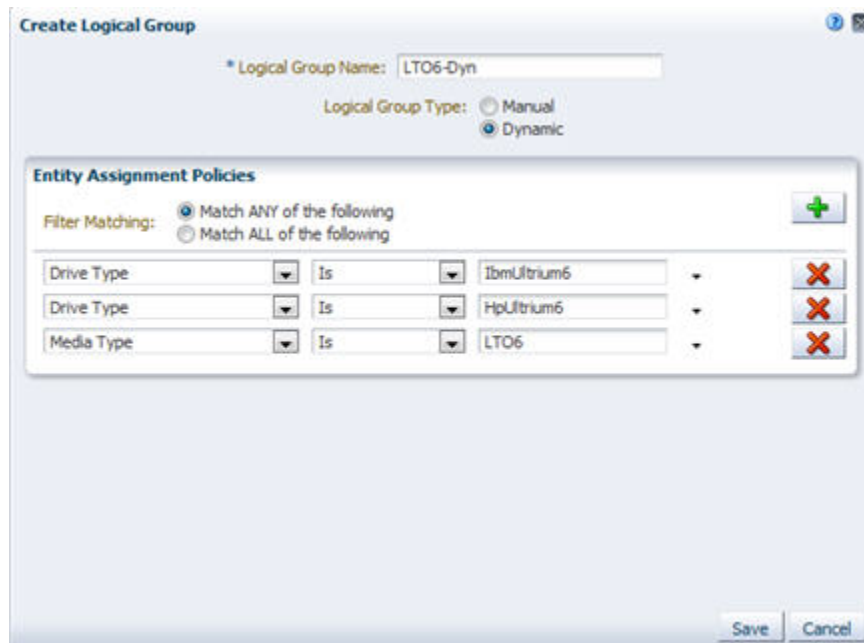
**Cancel**

クリックすると、エントリを適用せずに、このダイアログボックスを閉じます。

### C.5.1.4. 関連項目

- ・「[手動論理グループへのドライブおよびメディアの追加](#)」

## C.5.2. 「Create Logical Group」または「Edit Logical Group」



### C.5.2.1. 説明

このダイアログボックスでは、手動および動的の論理グループを作成できます。動的グループの場合は、このダイアログボックスを使用して、グループのドライブおよびメディアを選択するために照合するポリシー条件を定義します。

このダイアログボックスは、「Logical Groups」画面で「Add Logical Group」または「Edit Logical Group」をクリックしたときに表示されます。

### C.5.2.2. 画面のフィールド

**Logical Group Name**

論理グループにユーザーが割り当てた名前。エントリは最大 249 文字の英数字にすることができ、一意にする必要があります。

**Logical Group Type**

「Create Logical Group」ダイアログボックスの必須フィールド。「Edit Logical Group」ダイアログボックスの表示専用フィールド。

論理グループのタイプを示します。オプションは次のとおりです。

- **Dynamic** – ドライブおよびメディアは、定義した選択条件に基づいて、このグループ用に自動で選択されます。
- **Manual** – ドライブおよびメディアは、このグループ用に手動で選択されます。

**Filter Matching**


---

注:

このフィールドは、動的論理グループのみに表示されます。

---

選択条件に使用する一致のタイプを示します。オプションは次のとおりです。

- **Match ANY of the following** – 指定する条件のいずれかと一致するドライブおよびメディアを選択します。これはデフォルトです。
- **Match ALL of the following** – 指定する条件のすべてと一致するドライブおよびメディアのみを選択します。

**Selection criteria rows**


---

注:

これらのフィールドは、動的論理グループのみに表示されます。

---

このグループ用に使用する選択条件を入力します。行は必要な数だけ追加できます。行ごとに、次のメニュー選択を使用して条件を指定します。

- **ドライブおよびメディアの属性** – 選択したドライブおよびメディアの属性がメニューに一覧表示されます。完全なリストについては、「[動的グループの選択条件](#)」を参照してください。

---

注:

選択する属性の名前が判明している場合は、最初の数文字を入力すると、メニュー内のその項目にカーソルをすばやく移動させることができます。

---

- **選択演算子** – 選択演算子は、属性タイプによって異なります。これらは、「Filter Data」ダイアログボックスの演算子と似ています。詳細は、「[属性タイプ別のフィルタ演算子](#)」を参照してください。
- **属性値** – 属性値は、属性によって異なります。

### C.5.2.3. ボタン

#### 新しいフィルタ条件行の追加

注:

このボタンは、動的論理グループのみに表示されます。

---

クリックすると、選択条件のリストに新しい行を追加します。

#### このフィルタ条件行の削除

注:

このボタンは、動的論理グループのみに表示されます。

---

クリックすると、関連する選択条件行を削除します。

#### Save

クリックすると、論理グループを保存します。動的グループの場合、STA は、指定された選択条件に従ってグループの構築を開始します。

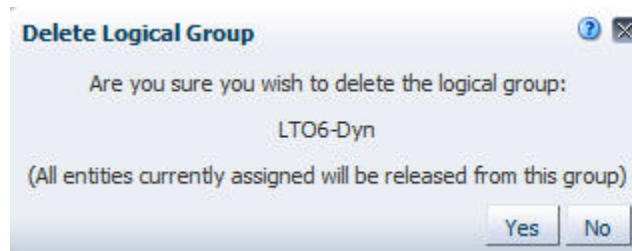
#### Cancel

クリックすると、エントリを適用せずに、このダイアログボックスを閉じます。

### C.5.2.4. 関連項目

- [「手動論理グループの作成」](#)
- [「動的論理グループの作成および定義」](#)

## C.5.3. Delete Logical Group



### C.5.3.1. 説明

このダイアログボックスでは、選択した論理グループを削除するかどうかを確認できます。これは、「Logical Groups」画面で論理グループを選択してから「Delete」をクリックしたときに表示されます。

### C.5.3.2. ボタン

#### Yes

クリックすると、選択した論理グループを削除します。



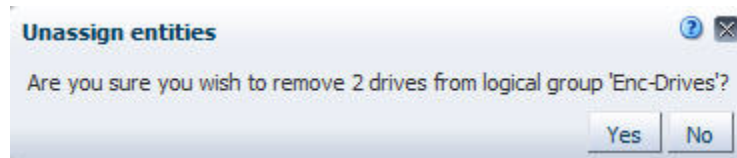
**No**

クリックすると、削除を取り消し、選択した論理グループを保持します。

### C.5.3.3. 関連項目

- ・「[論理グループの削除](#)」

### C.5.4. Unassign Entities



#### C.5.4.1. 説明

このダイアログボックスでは、選択したドライブまたはメディアを手動論理グループから削除するかどうかを確認できます。これは、「Logical Groups」画面の「Drives」または「Media」表で1つ以上のレコードを選択してから「Unassign Entities」をクリックしたときに表示されます。

#### C.5.4.2. ボタン

**Yes**

クリックすると、選択したドライブまたはメディアをグループから削除します。

**No**

クリックすると、削除を取り消し、グループ内で選択したドライブまたはメディアを保持します。

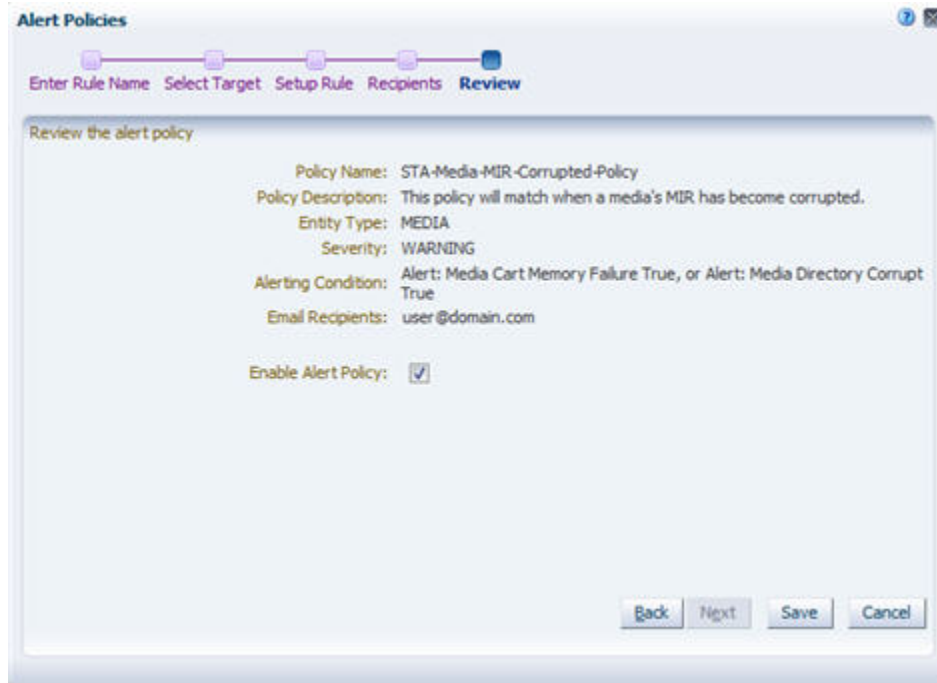
### C.5.4.3. 関連項目

- ・「[手動論理グループからのドライブおよびメディアの削除](#)」

## C.6. 「Alerts Policies」ダイアログボックス

- ・「[「Alert Policy」ウィザード](#)」

## C.6.1. 「Alert Policy」ウィザード



### C.6.1.1. 説明

このウィザードでは、新しいアラートポリシーを定義および有効化することができます。また、既存のポリシーの情報を変更することもできます。

このウィザードは、「Alerts Policies」画面で「**New Alert Policy**」または「**Edit Alert Policy**」を選択したときに表示されます。

### C.6.1.2. 画面のフィールド

#### Policy Name

##### Policy Name

アラートポリシーにユーザーが割り当てた名前。エンタリは最大 250 文字の英数字にすることができ、一意にする必要があります。

##### Policy Description

オプションのフィールド。アラートポリシーにユーザーが割り当てた説明。

#### Policy Type

##### Entity Type

このポリシーによってアラートが生成される可能性のあるライブラリシステムコンポーネントまたはイベントのタイプを選択します。

##### Select Severity

アラートポリシーの重要度レベルを選択します。オプションは次のとおりです。

- Severe – 1 時間ごとにアラートを生成する可能性があります
- Warning – 24 時間ごとにアラートを生成する可能性があります
- Informative – 1 つだけアラートを生成する可能性があります

## Alert Criteria

### Filter Matching

アラートポリシー条件に使用する一致のタイプを示します。オプションは次のとおりです。

- Match ANY of the following – 指定する条件のいずれかと一致するときにアラートをトリガーします。これはデフォルトです。
- Match ALL of the following – 指定する条件のすべてと一致するときに限りアラートをトリガーします。

### Alert criteria rows

このアラートポリシー用に使用する条件を入力します。行は必要な数だけ追加できます。行ごとに、次のメニュー選択を使用して条件を指定します。

- 属性 – 属性は、選択したエンティティタイプによって異なります。

---

注:

選択する属性の名前が判明している場合は、最初の数文字を入力すると、メニュー内のその項目にカーソルをすばやく移動させることができます。

- 選択演算子 – 選択演算子は、属性タイプによって異なります。これらは、「Filter Data」ダイアログボックスの演算子と似ています。詳細は、「[属性タイプ別のフィルタ演算子](#)」を参照してください。
- 属性値 – 属性値は、属性によって異なります。

## Recipients

### Email Recipients

このポリシーからアラートが生成されたときに必ず電子メールを受信する各電子メールアドレスのチェックボックスを選択します。

## Review

### Enable Alert Policy

チェックボックスを選択すると、ポリシーを作成してただちに有効化します。チェックボックスを選択解除すると、ポリシーを作成しますが、無効なままにしておきます。あとで有効にすることができます。

## C.6.1.3. ボタン

### ブレッドクラム

ウィザードの画面のうちすでにアクセスした画面と直後の画面のブレッドクラムがアクティブ化されます。リンクをクリックすると、選択した画面に直接移動します。

**Back**

クリックすると、ウィザードで前の画面に戻ります。

**Next**

クリックすると、ウィザードで次の画面に移動します。

**Cancel**

クリックすると、エントリを適用せずに、ウィザードを終了します。

**Save**

---

注:

このボタンは、ウィザードの最後の画面にのみ表示されます。

---

クリックすると、エントリを適用し、アラートポリシーを作成または更新します。

#### C.6.1.4. 関連項目

- [「アラートポリシーの作成」](#)
- [「アラートポリシーの変更」](#)

## C.7. エグゼクティブレポートポリシーのダイアログボックス

- [「Add/Edit Executive Reports Policy」](#)
- [「Reports」](#)
- [「Delete」](#)

### C.7.1. Add/Edit Executive Reports Policy

The screenshot shows a dialog box titled "Add/Edit Executive Reports Policy". It contains the following fields and controls:

- Report Name: \* Daily All Reports 30-1
- Source Dashboard Template: \* STA-Dashboard-Nearline-Daily
- Locale: \* English
- Start Date: 2014-03-21
- Run Frequency: Every 30 days
- Shared:  Public  Private
- Email Recipients: user 1@example.com; user 2@ex

Buttons at the bottom: Save, Save and Run, Cancel.

### C.7.1.1. 説明

このダイアログボックスでは、名前、ソースダッシュボードテンプレート、実行頻度、共有ステータス、電子メール受信者などのエグゼクティブレポート定義を定義または変更することができます。

このダイアログボックスは、「Executive Reports Policies」画面で「Add」または「Edit」をクリックしたときに表示されます。

### C.7.1.2. 画面のフィールド

#### Report Name

レポートに割り当てる名前を入力します。エントリには 255 文字までの英数字を使用できます。

#### Source Dashboard Template

メニューには、現在の STA ユーザー名で使用可能なすべてのダッシュボードテンプレートが一覧表示されます。エグゼクティブレポートの基として使用するテンプレートを選択します。レポートには、このテンプレート内のすべての情報が含まれます。

#### Locale

メニューには、エグゼクティブレポートを生成できるすべての言語が一覧表示されます。「English」を選択します。

#### Start Date

このレポートのスケジュール実行を開始する日付を指定します。レポートは、この日付から開始して、00:30 UTC の直後に実行されます。デフォルトは翌日であり、定義した次の日の 00:30 UTC にレポートが初回実行されます。

#### Run Frequency

メニューで、レポートを実行する頻度を選択します。オプションは次のとおりです。

- Daily
- Every 7 days
- Every 30 days
- Every 90 days
- Every 365 days

#### Shared

このフィールドでは、STA ユーザーインターフェースでこのレポートをすべての STA ユーザーと共有することができるかどうかを指定できます。次のオプションの 1 つを選択する必要があります。

- Public – レポートは、すべてのユーザーが使用できます。
- Private – レポートは、現在の STA ユーザー名のみが使用できます。これは、電子メール受信者リストには影響せず、STA に定義された任意のアドレスに対してレポートのコピーを電子メールで送信できます (後述)。

### Email Recipients

各レポート実行後にこのレポートのコピーを電子メールで送信する宛先となる電子メールアドレスを指定します。電子メールは、レポートの PDF 添付ファイル付きで各アドレスに送信されます。

メニューには、STA に定義されたすべての電子メールアドレスが一覧表示されます。メニューで、このレポートを受信する各電子メールアドレスの横にあるチェックボックスを選択します。アドレスは必要な数だけ選択できます。「All」チェックボックスを選択すると、リスト内のすべてのチェックボックスが選択されます。

## C.7.1.3. ボタン

### Save

クリックすると、エントリを適用します。レポートは、最初のスケジュール済み日付に自動で実行されます。「**Setup & Administration**」を選択して、「**Executive Reports Policies**」を選択することで、レポートを手動で実行することもできます。

### Save and Run

クリックすると、エントリを適用し、このレポートをただちに実行します。これは、レポートの定期スケジュールに影響を与えません。

### Cancel

クリックすると、エントリを適用せずに、このダイアログボックスを閉じます。

## C.7.1.4. 関連項目

- ・ [「エグゼクティブレポートポリシーの作成または変更」](#)

## C.7.2. Reports



### C.7.2.1. 説明

このダイアログボックスでは、選択したエグゼクティブレポートを実行するかどうかを確認できます。レポートは、最初の利用可能な機会に実行されます (最大 2 分遅れることがあります)。

このダイアログボックスは、「Executive Reports Policies」画面で「**Run**」をクリックしたときに表示されます。

### C.7.2.2. ボタン

**OK**

クリックすると、レポートを実行します。

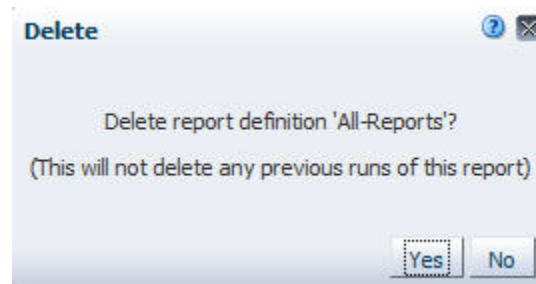
**Cancel**

クリックすると、レポートを実行せずに、ダイアログボックスを閉じます。

### C.7.2.3. 関連項目

- ・「[エグゼクティブレポートのオンデマンド実行](#)」

### C.7.3. Delete



#### C.7.3.1. 説明

このダイアログボックスでは、選択したエグゼクティブレポート定義を削除するかどうかを確認できます。

このダイアログボックスは、「Executive Reports Policies」画面で「Delete」をクリックしたときに表示されます。

#### C.7.3.2. ボタン

**Yes**

クリックすると、選択したエグゼクティブレポート定義を削除します。これは、すでに実行されたこのレポートのコピーに影響せず、「Home」を選択して、「Executive Reports」を選択することで引き続き表示できます。

**No**

クリックすると、削除を取り消し、選択したエグゼクティブレポート定義を保持します。

#### C.7.3.3. 関連項目

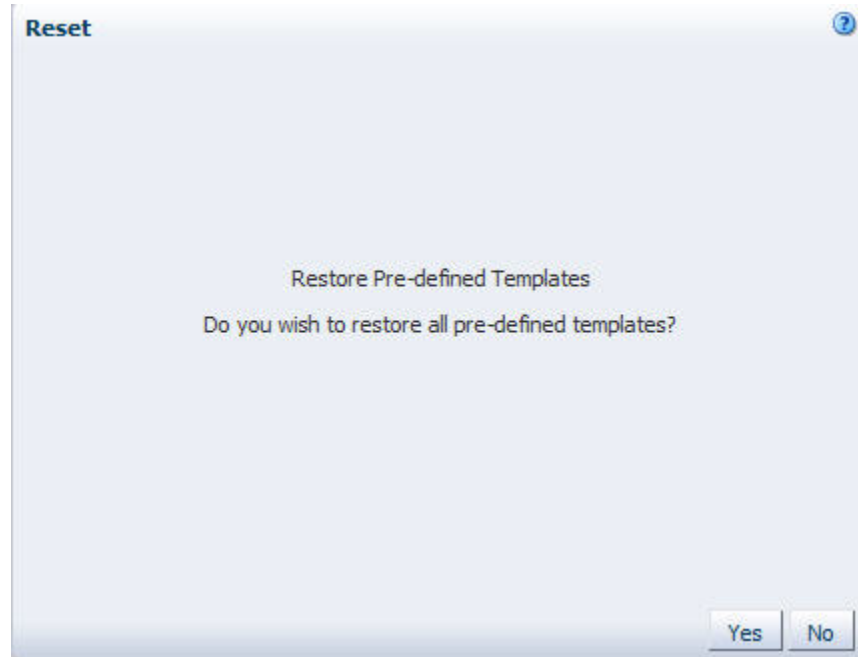
- ・「[エグゼクティブレポートポリシーの削除](#)」

## C.8. テンプレート管理のダイアログボックス

- ・「[「Reset」\(テンプレート\)](#)」

- 「Import Template」
- 「Rename Template」
- 「Delete Template」
- 「Save Template」
- 「Save Template (上書き)」
- 「Default Template」

### C.8.1. 「Reset」 (テンプレート)



#### C.8.1.1. 説明

このダイアログボックスでは、削除されたすべての STA 事前定義済みテンプレートを復元できます。テンプレートが復元され、すべてのユーザーが使用できるようになります。

このダイアログボックスは、「Templates Management」画面で「**Restore Predefined Templates**」をクリックしたときに表示されます。

#### C.8.1.2. 画面のフィールド

なし

#### C.8.1.3. ボタン

##### Yes

クリックすると、すべての STA 事前定義済みテンプレートを復元します。



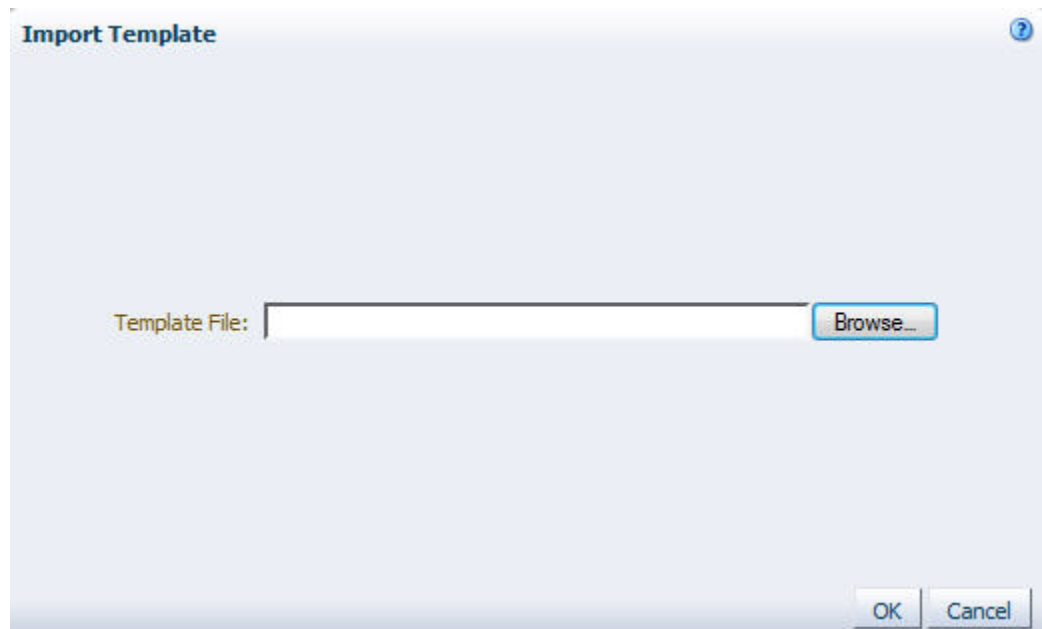
**No**

クリックすると、テンプレートを復元せずに、このダイアログボックスを閉じます。

#### C.8.1.4. 関連項目

- ・「[STA 定義済みテンプレートの復元](#)」

### C.8.2. Import Template



#### C.8.2.1. 説明

このダイアログボックスでは、自分の STA ユーザー名で使用できるようにテンプレートをローカルコンピュータからインポートできます。

#### C.8.2.2. 画面のフィールド

**Template File**

「**Browse**」をクリックして、インポートするテンプレートファイルの場所に移動します。ファイルには、`.xml` 拡張子が付いている必要があります。

#### C.8.2.3. ボタン

**OK**

クリックすると、指定したテンプレートをインポートします。

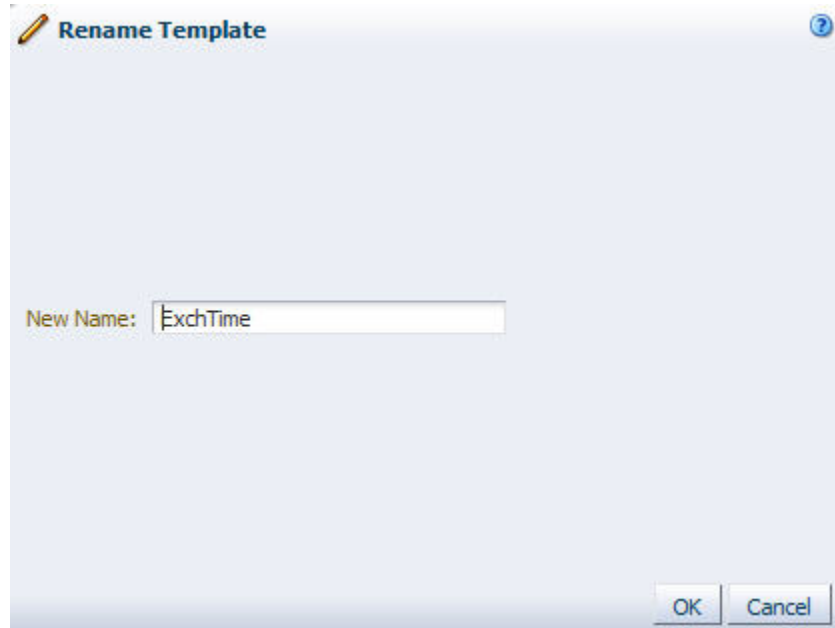
**Cancel**

クリックすると、テンプレートをインポートせずに、ダイアログボックスを閉じます。

### C.8.2.4. 関連項目

- ・「[テンプレートのインポート](#)」

### C.8.3. Rename Template



#### C.8.3.1. 説明

このダイアログボックスでは、カスタムテンプレートの名前を変更できます。

#### C.8.3.2. 画面のフィールド

##### New Name

割り当てる名前を入力します。エントリは最大 255 文字の英数字にすることができ、一意にする必要があります。

#### C.8.3.3. ボタン

##### OK

クリックすると、変更を適用します。

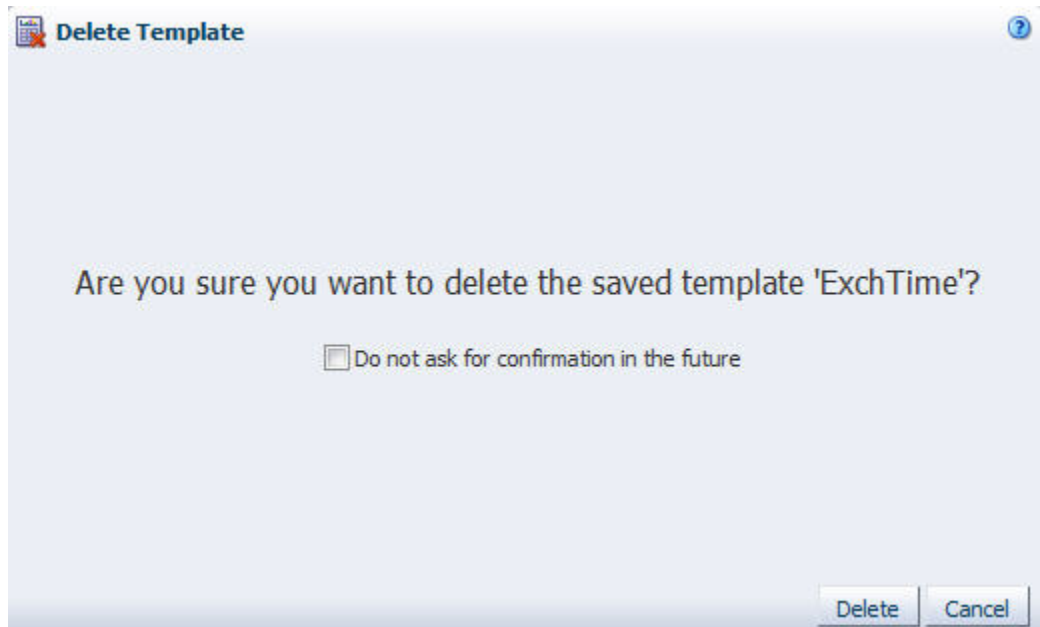
##### Cancel

クリックすると、変更を適用せずに、このダイアログボックスを閉じます。

### C.8.3.4. 関連項目

- ・「[テンプレート名の変更](#)」

## C.8.4. Delete Template



### C.8.4.1. 説明

このダイアログボックスでは、テンプレートの削除を確認できます。これは、確認の設定でテンプレートの削除前に確認を求めるように指定されている場合に、「Templates Management」画面で「Delete」をクリックしたときに表示されます。

### C.8.4.2. 画面のフィールド

#### **Do not ask for confirmation in the future**

このチェックボックスを選択すると、今後のテンプレート削除時にこのダイアログボックスを抑制します。

ダイアログボックスをいつでも復元できます。手順については、『STA 画面基本ガイド』を参照してください。

### C.8.4.3. ボタン

#### **Delete**

クリックすると、テンプレートを削除します。

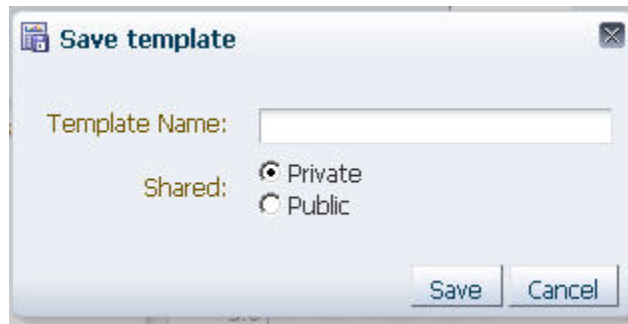
#### **Cancel**

クリックすると、テンプレートを削除せずに、ダイアログボックスを閉じます。

### C.8.4.4. 関連項目

- [「テンプレートの削除」](#)

## C.8.5. Save Template



### C.8.5.1. 説明

このダイアログボックスでは、現在の画面設定をテンプレートとして保存できます。これは、テンプレートツールバーの「Save Template」をクリックすると表示されます。

### C.8.5.2. 画面のフィールド

#### Template Name

このテンプレートのユーザー定義名。エントリには 255 文字の長さまでの英数字を使用できます。

新しい名前を入力した場合、新しいテンプレートが作成されます。すでに存在する名前を入力した場合、指定したテンプレートは、画面に対する変更で上書きされます。確認の設定によっては、既存のテンプレートを上書きする前に、確認を求められることがあります。

#### Shared

テンプレートをほかの STA ユーザー名に表示するかどうかを示します。オプションは次のとおりです。

- Private – テンプレートは、現在の STA ユーザー名のみが使用できます。
- Public – テンプレートは、すべての STA ユーザー名が使用できます。

### C.8.5.3. ボタン

#### Yes

クリックすると、テンプレートを保存します。

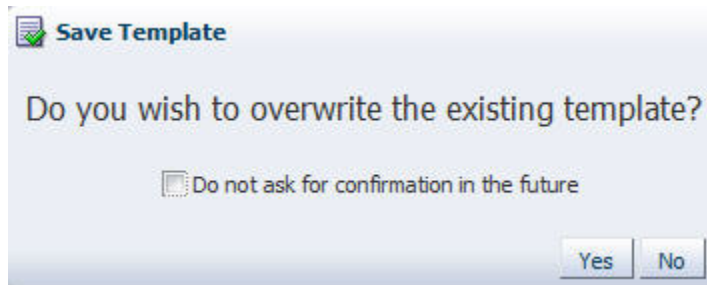
#### No

クリックすると、テンプレートを保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

### C.8.5.4. 関連項目

- [「テンプレートの作成」](#)

## C.8.6. Save Template (上書き)



### C.8.6.1. 説明

このダイアログボックスでは、既存のテンプレートに対する変更を確認できます。これは、確認の設定で事前に確認を求めるように指定されている場合に、既存のテンプレートを上書きしようとしているときに表示されます。

### C.8.6.2. 画面のフィールド

#### **Do not ask for confirmation in the future**

このチェックボックスを選択すると、今後のテンプレート変更時にこのダイアログボックスを抑制します。

ダイアログボックスをいつでも復元できます。手順については、『*STA 画面基本ガイド*』を参照してください。

### C.8.6.3. ボタン

#### **Yes**

クリックすると、現在のレイアウトと一致するようにテンプレートを上書きします。

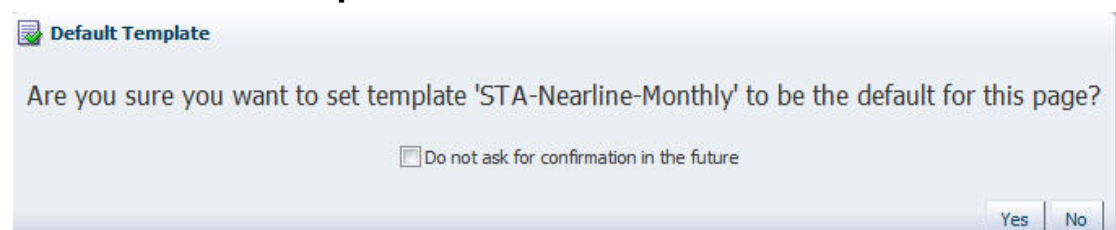
#### **No**

クリックすると、テンプレートを上書きせずに、ダイアログボックスを閉じます。

### C.8.6.4. 関連項目

- ・ [「テンプレートの変更」](#)

## C.8.7. Default Template



### C.8.7.1. 説明

このダイアログボックスでは、現在適用されているテンプレートをこの画面のデフォルトとして確認できます。これは、確認の設定で新しいデフォルトの設定前に確認を求めるように指定されている場合に、任意の画面のテンプレートツールバーで「**Default Template**」をクリックしたときに表示されます。

### C.8.7.2. 画面のフィールド

#### **Do not ask for confirmation in the future**

このチェックボックスを選択すると、今後のデフォルトテンプレート設定時にこのダイアログボックスを抑制します。

ダイアログボックスをいつでも復元できます。手順については、『*STA 画面基本ガイド*』を参照してください。

### C.8.7.3. ボタン

#### **Yes**

クリックすると、このテンプレートをデフォルトとして保存します。

#### **No**

クリックすると、デフォルトテンプレートを設定せずに、ダイアログボックスを閉じます。

### C.8.7.4. 関連項目

- ・ [「画面のデフォルトテンプレートを設定する」](#)

## C.9. メディア検証ポリシーのウィザードおよびダイアログボックス

- ・ [「メディア検証の構成の確認」](#)
- ・ [「メディア検証ポリシーウィザード」](#)

### C.9.1. メディア検証の構成の確認



### C.9.1.1. 説明

このダイアログボックスでは、STA でメディア検証機能を有効にするのか無効にするのかを確認できます。これはグローバル設定であり、テープライブラリシステム全体のメディア検証操作に影響します。

このダイアログボックスは、「Media Validation Configuration」画面の「Media Validation State」フィールドで「**Enabled**」または「**Disabled**」ラジオボタンを選択したときに表示されます。

### C.9.1.2. ボタン

**Yes**

クリックすると、選択を確認します。

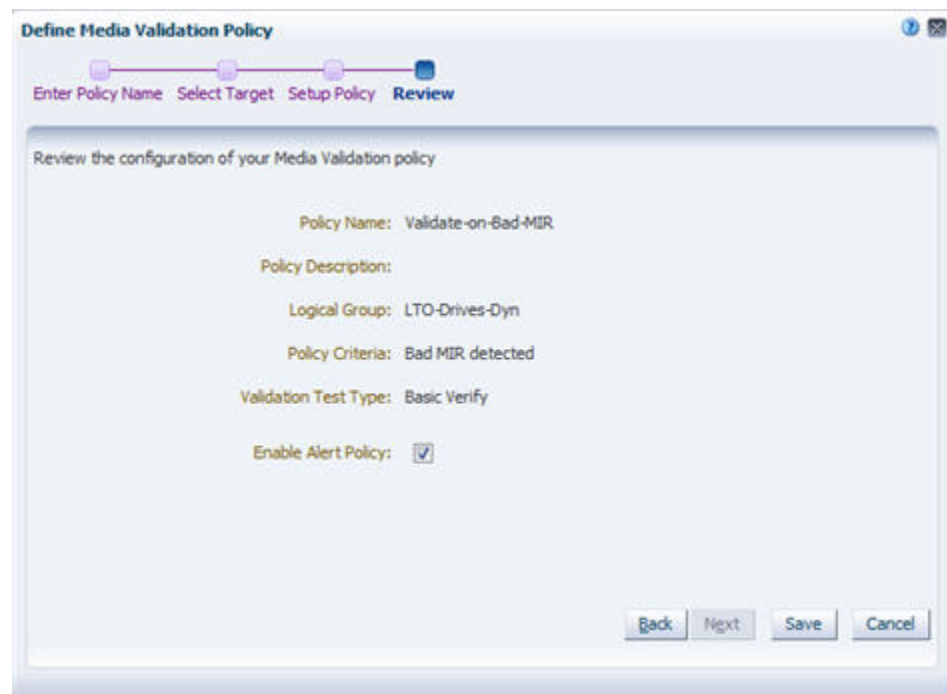
**Cancel**

クリックすると、選択を適用せずに、このダイアログボックスを閉じます。

### C.9.1.3. 関連項目

- ・「[STA 上でメディア検証を有効または無効にする](#)」

## C.9.2. メディア検証ポリシーウィザード



### C.9.2.1. 説明

このウィザードでは、新しいメディア検証ポリシーを定義および有効化することができます。また、既存のポリシーの情報を変更することもできます。

このウィザードは、メディア検証ポリシーツールバーの「**New Media Validation Policy**」、「**Edit Media Validation Policy**」、または「**Copy Media Validation Policy**」をクリックしたときに表示されます。

### C.9.2.2. 画面のフィールド

#### Enter Policy Name

**Policy Name**

メディア検証ポリシーにユーザーが割り当てた名前。エントリーは最大 250 文字の英数字にすることができ、一意にする必要があります。

**Policy Description**

オプションのフィールド。メディア検証ポリシーにユーザーが割り当てた説明。

#### Select Target

**Select media type and optional library complex**

このボタンをクリックすると、メディアタイプおよびオプションでライブラリコンプレックスに基づいて検証用にメディアが選択されるようにすることを指定します。

**Media Type**

メディアのタイプを選択します。

**Library Complex (Optional)**

ライブラリコンプレックスを選択します。

**Select logical group**

このボタンをクリックすると、定義された論理グループに基づいて検証用にメディアが選択されるようにすることを指定します。

**Logical Group**

論理グループを選択します。

#### Set Up Policy

**Policy Criteria**

前の画面で指定したグループ内のメディアを選択する条件を選択します。オプションは次のとおりです。

- Random selection – これはデフォルトです。
- Media Health = Action
- Media Health = Evaluate
- Media Health = Monitor



- Extended period of non-use
- Newly entered
- Bad MIR detected

**Validation Test Type**

このポリシーで実行される検証のタイプを選択します。オプションは次のとおりです。

- Basic Verify
- Standard Verify
- Complete Verify
- Complete Verify Plus
- Verify Rebuild MIR

**Review****Enable Policy**

チェックボックスを選択すると、ポリシーを作成してただちに有効化します。チェックボックスを選択解除すると、ポリシーを作成しますが、無効なままにしておきます。あとで有効にすることができます。

**C.9.2.3. ボタン****ブレットクラム**

ウィザードの画面のうちすでにアクセスした画面と直後の画面のブレットクラムがアクティブ化されます。リンクをクリックすると、選択した画面に直接移動します。

**Back**

クリックすると、ウィザードで前の画面に戻ります。

**Next**

クリックすると、ウィザードで次の画面に移動します。

**Cancel**

クリックすると、エントリを適用せずに、ウィザードを終了します。

**Save**

---

注:

このボタンは、ウィザードの最後の画面にのみ表示されます。

---

クリックすると、エントリを適用し、アラートポリシーを作成または更新します。

**C.9.2.4. 関連項目**

- [「メディア検証ポリシーの作成」](#)
- [「メディア検証ポリシーを変更する」](#)

## C.10. サービスログのダイアログボックス

- 「[Create New Log Bundle](#)」
- 「[Log Bundle Run Info](#)」
- 「[Delete Selected Log Bundle](#)」

### C.10.1. Create New Log Bundle



#### C.10.1.1. 説明

このダイアログボックスでは、新しい RDA (Remote Diagnostic Agent) ログバンドルに名前を割り当てます。

このダイアログボックスは、ログツールバーの「**Create New Log Bundle**」をクリックしたときに表示されます。

#### C.10.1.2. 画面のフィールド

##### **Log Bundle Name**

名前を入力します。ログ名の要件は次のとおりです。

- 最大 210 文字
- 半角英数字とアンダースコアのみ使用できますが、4 文字以上の連続するアンダースコアは使用できません。
- スペースはアンダースコアで置き換えられます。
- 次の大文字で開始することはできません。

COM

LPT

PRN

CON



### C.10.2.2. ボタン

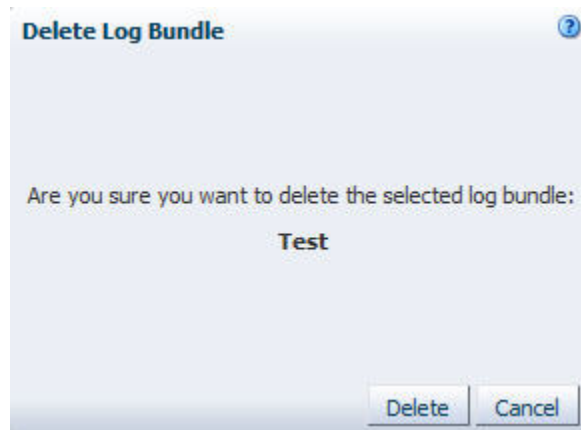
**Close**

クリックすると、このダイアログボックスを閉じます。

### C.10.2.3. 関連項目

- [「ログ実行情報の表示」](#)

## C.10.3. Delete Selected Log Bundle



### C.10.3.1. 説明

このダイアログボックスでは、選択したログバンドルを削除するかどうかを確認できます。これは、「Service – Logs」画面でバンドルを選択してから「Delete」をクリックしたときに表示されます。選択したバンドルの名前がダイアログボックスに表示されます。

### C.10.3.2. ボタン

**Delete**

クリックすると、ログバンドルを削除します。

**Cancel**

クリックすると、ログバンドルを削除せずに、ダイアログボックスを閉じます。

### C.10.3.3. 関連項目

- [「ログバンドルの削除」](#)

## C.11. SNMP 接続のダイアログボックス

- [「Define SNMP Client Settings」](#)

- 「Define Library Connection Details」
- 「Confirmation (ライブラリ接続の削除)」

### C.11.1. Define SNMP Client Settings

#### C.11.1.1. 説明

このダイアログボックスでは、1つ以上のライブラリから SNMP データを受信できるように、STA の SNMP 接続設定を定義できます。SNMP v3 と SNMP v2c の両方のプロトコルの設定を定義する必要があります。ライブラリファームウェアレベルおよびライブラリで使用するように構成されている SNMP プロトコルに応じて、各モニター対象ライブラリに対して適切な設定 (SNMP v3 または SNMP v2c) が使用されます。

次のすべての設定を定義する必要があります。

- SNMP v3 接続の場合:
  - ユーザー名
  - 接続承認パスワード
  - プライバシパスワード
- SNMP v2c 接続の場合:
  - ユーザーコミュニティ名
  - トラップ受信者名

このダイアログボックスは、SNMP クライアント属性ツールバーの「Edit」をクリックしたときに表示されます。

## C.11.1.2. 画面のフィールド

注:

次のフィールドは、STA の SNMP v3 接続設定を定義し、すべてが必須です。すべてのモニター対象ライブラリが STA 通信に SNMP v2c を使用する場合、これらのエントリは無視されるため、任意の値を入力できます。

### **STA SNMP Connection Username (Auth)**

必須。

STA SNMP v3 ユーザーの名前を入力します。このユーザーは、STA 通信に SNMP v3 プロトコルを使用するすべてのモニター対象ライブラリでも定義される必要があります。

### **Enter STA SNMP Connection Password (Auth)**

必須。

SNMP v3 ユーザーの接続承認パスワードを入力します。このパスワードは、STA 通信に SNMP v3 プロトコルを使用するすべてのモニター対象ライブラリでも定義される必要があります。

### **Verify STA SNMP Connection Password (Auth)**

必須。

接続パスワードを再度入力して、正しく入力したことを確認します。2つのパスワードが一致しない場合は、エラーメッセージが表示されます。

### **Connection Password Encryption (Auth)**

表示専用。

接続パスワードを格納するための暗号化手法。これは常に SHA (Secure Hash Algorithm) です。

### **Enter Privacy Encryption Password (Privacy)**

必須。

SNMP v3 ユーザーのプライバシー暗号化パスワードを入力します。このパスワードは、STA 通信に SNMP v3 プロトコルを使用するすべてのモニター対象ライブラリでも定義される必要があります。

### **Verify Privacy Encryption Password (Privacy)**

必須。

プライバシーパスワードを再度入力して、正しく入力したことを確認します。2つのパスワードが一致しない場合は、エラーメッセージが表示されます。

### **Privacy Encryption Protocol (Privacy)**

表示専用。

SNMP プライバシメカニズムの暗号化手法。これは常に DES (Data Encryption Standard) です。

**STA Engine ID**

表示専用。

グローバルに一意的な STA サーバーの SNMP エンジン ID。これは、STA によって割り当てられ、各ライブラリによって提供されるライブラリエンジン ID とは異なります。セキュアな通信を確保するには両方が必要です。

**Trap Levels**

表示専用。

STA が処理できるすべての SNMP トラップのリスト。これは、これらのトラップがモニター対象ライブラリで構成済みであることを必ずしも意味しないため、各ライブラリで検証する必要があります。

---

注:

次のフィールドは、STA の SNMP v2c 接続設定を定義し、両方が必須です。

---

**User Community**

必須。

STA SNMP v2c ユーザーの名前を入力します。このユーザーは、STA 通信に SNMP v2 プロトコルを使用するすべてのモニター対象ライブラリでも定義される必要があります。デフォルトは、*public* です。

---

注:

すべてのモニター対象ライブラリが STA 通信に SNMP v3 を使用する場合、このエントリは無視されるため、値が *public* に設定されたままにする必要があります。

---

**Trap Community**

必須。

STA SNMP v2c トラップ受信者の名前を入力します。このトラップ受信者は、STA にトラップを送信するために SNMP v2 プロトコルを使用するすべてのモニター対象ライブラリでも定義される必要があります。デフォルトは、*public* です。

---

注:

すべてのモニター対象ライブラリが STA トラップの送信に SNMP v3 を使用する場合、このエントリは無視されるため、値が *public* に設定されたままにする必要があります。

---

### C.11.1.3. ボタン

**Save**

クリックすると、エントリを適用します。

**Cancel**

クリックすると、エントリを適用せずに、このダイアログボックスを閉じます。

### C.11.1.4. 関連項目

- ・ [「STA の SNMP クライアント設定の構成」](#)

## C.11.2. Define Library Connection Details

Define Library Connection Details

Library Complex: Unknown

Library Name: \*

Library Primary IP Address: \*

Library Secondary IP Address:

STA IP Address: \* 10.80.175.36

Library Engine ID:

Automated Daily Data Refresh: 00:00

Library Time Zone: UTC

Save Cancel

### C.11.2.1. 説明

このダイアログボックスでは、STA に接続させるライブラリの接続の詳細を定義できます。

このダイアログボックスは、SNMP モニター対象ライブラリツールバーの「**Add**」または「**Edit**」をクリックしたときに表示されます。

### C.11.2.2. 画面のフィールド

**Library Complex**

表示専用。

ライブラリコンプレックス ID。この ID は、最新のライブラリ構成データを正常に受信したときに STA によって自動で生成されます。

**Library Name**

必須。



ライブラリに割り当てる名前を入力します。この名前は、STA の画面全体でライブラリを識別するために使用されます。ライブラリホスト名を使用できます。

**Library Primary IP Address**

必須。

ライブラリのパブリックポートの IP アドレスを入力します。これは、SL150 ライブラリの場合は Network Port 1 ポート、SL500 ライブラリの場合は 1B ポート、SL3000 および SL8500 ライブラリの場合は 2B ポートです。

---

**注:**

冗長電子デバイス機能を使用する SL3000 および SL8500 ライブラリの場合、これはアクティブコントローラカード上の 2B ポートです。

---

**Library Secondary IP Address**

このフィールドは、SL150 および SL500 ライブラリには適用されないため、空白のままにする必要があります。

SL3000 および SL8500 ライブラリの場合、このフィールドのエントリは固有のライブラリ構成に依存します。このエントリによって、冗長電子デバイスの切り替えまたはデュアル TCP/IP のフェイルオーバーが発生した場合に、STA はライブラリとの無中断 SNMP 通信を維持できます。

- 冗長電子デバイス機能を使用するライブラリの場合、代替 (スタンバイ) コントローラカード上の 2B ポートの IP アドレスを入力します
- デュアル TCP/IP 機能を使用するライブラリの場合、アクティブコントローラカード上の 2A ポートの IP アドレスを入力します。
- 両方の機能を使用するライブラリの場合、STA で中断なしにサポートさせる機能に応じて、入力する IP アドレスを選択できます。
- これらの機能をどちらも使用しないライブラリの場合、このフィールドを空白のままにします。

**STA IP Address**

必須。

メニューには、STA サーバーの使用可能なすべての IP アドレスが一覧表示されます。SNMP データをサーバーに送信するためにライブラリが使用する必要のある IPv4 アドレスを選択します。複数が一覧表示されていて、どれを使用するのがわからない場合は、STA 管理者に問い合わせてください。

**Library Engine ID**

ライブラリデータ収集が実行されるときには常にライブラリによって自動で提供される、一意なライブラリの SNMP エンジン ID。

通常の場合では、このフィールドを変更しないでください。ただし、(たとえばファームウェアのアップグレードが原因で) ライブラリエンジン ID が変更されたと考えられる場合は、このフィールドを空白にすると、STA が次の「**Check/Test Connection**」または「**Get Latest Data**」操作の間に新しいエンジン ID を検出します。これがこのフィールドを変更する必要がある唯一のタイミングです。

#### Automated Daily Data Refresh

STA がライブラリから最新の構成データを収集する時間を入力します。データは 24 時間おきのこの時間 (「Time Zone」フィールドで指定するタイムゾーンにローカル) に自動で収集されます。

デフォルトは 00:00 (深夜 12:00) です。エントリには 24 時間形式を使用します (たとえば 13:00 は午後 1:00 です)。

---

#### 注:

データ収集がその他の重要なライブラリアクティビティと競合しないように、ライブラリの使用率が通常は低い時間帯を選択することをお勧めします。

---

#### 注意:

このフィールドを空白のままにする場合、スケジュールされた自動ライブラリデータ収集は無効になります。この場合、STA ライブラリ構成データがライブラリと同期しなくなります。

---

#### Library Time Zone

メニューで、ライブラリのローカルタイムゾーンを選択します。

### C.11.2.3. ボタン

#### Save

クリックすると、エントリを適用します。

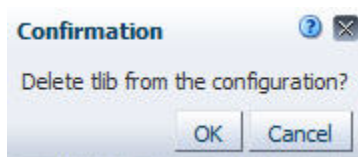
#### Cancel

クリックすると、エントリを適用せずに、このダイアログボックスを閉じます。

### C.11.2.4. 関連項目

- [「ライブラリへの SNMP 接続の構成」](#)

### C.11.3. Confirmation (ライブラリ接続の削除)



### C.11.3.1. 説明

このダイアログボックスでは、選択したライブラリ接続を削除するかどうかを確認できます。これは、「Configuration – SNMP Connections」画面でモニター対象ライブラリを選択してから「Delete」をクリックしたときに表示されます。

### C.11.3.2. ボタン

**OK**

クリックすると、選択したライブラリ接続を削除します。

**Cancel**

クリックすると、削除を取り消し、ライブラリ接続を保持します。

### C.11.3.3. 関連項目

- ・「[STA からのライブラリ接続の削除](#)」

## C.12. ユーザー管理のダイアログボックス

- ・「[User Configuration](#)」
- ・「[Delete User](#)」

### C.12.1. User Configuration



#### C.12.1.1. 説明

このダイアログボックスでは、STA ユーザー名を作成または変更できます。これは、「Configuration – Users」画面で「Create New User」または「Modify User」をクリックしたときに表示されます。

## C.12.1.2. 画面のフィールド

### User Name

注:

このフィールドは、「**Create New User**」の場合のみアクティブです。

---

この STA ユーザーに割り当てる名前を入力します。

STA ユーザー名の要件は次のとおりです。

- 1–16 文字の長さにする必要があります
- すべてのユーザー名が一意である必要があります

### Description

STA ユーザー名の短い説明を入力します。

### Role

この STA ユーザー名に割り当てる役割を選択します。オプションは次のとおりです。

- 「**Viewer**」– 「Home」、「Tape System Hardware」、および「Tape System Activity」画面のすべてにアクセスできます。
- 「**Operator**」– 「Viewer」役割のすべての権限を持っています。また、「Setup & Administration」の一部の画面の編集権限、および「Configuration」の画面の表示専用権限も持っています。
- 「**Administrator**」– 「Operator」役割のすべての権限を持っており、さらに、「Setup & Administration」のすべての画面のフル編集権限も持っています。

### Enter Password

ユーザーに割り当てるパスワードを入力します。エントリは、入力するとマスクされます。

パスワード要件は次のとおりです。

- 8–31 文字の長さにする必要があります
- 少なくとも 1 つの数字および 1 つの大文字を含める必要があります
- 空白文字を含めてはいけません
- 次に示す特殊文字を含めないでください。

& ' ( ) < > ? { } \* / ' "

### Verify Password

正しく入力したことを確認するために、パスワードをもう一度入力します。

## C.12.1.3. ボタン

### Save

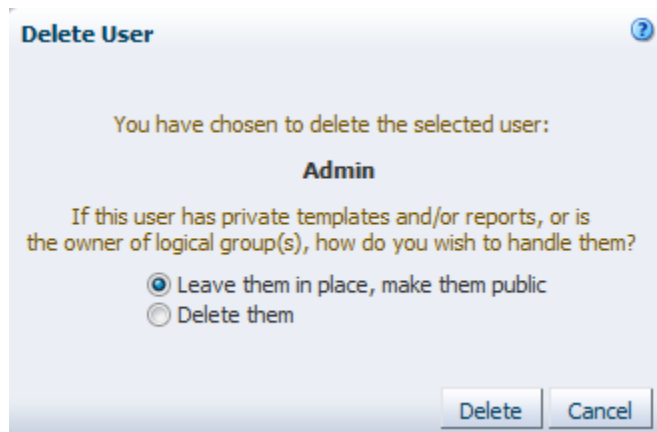
クリックすると、エントリを適用します。

**Cancel**

クリックすると、エントリを適用せずに、このダイアログボックスを閉じます。

**C.12.1.4. 関連項目**

- ・「STA ユーザー名の追加」

**C.12.2. Delete User****C.12.2.1. 説明**

このダイアログボックスでは、選択したユーザーを削除するかどうかを確認できます。これは、「Configuration – Users」画面で STA ユーザー名を選択してから「Delete」をクリックしたときに表示されます。

**C.12.2.2. 画面のフィールド****If this user has private templates or groups, how do you wish to handle them?**

この STA ユーザー名が所有する論理グループまたはプライベートテンプレートに対する処理を指定します。オプションは次のとおりです。

- Make them public – テンプレート、エグゼクティブレポートポリシー、および論理グループを保持しますが、パブリックにしてすべての STA ユーザー名が使用できるようにします。これはデフォルトです。
- Delete them – この STA ユーザー名が所有するすべてのプライベートテンプレート、エグゼクティブレポートポリシー、および論理グループを削除します。

**C.12.2.3. ボタン****Delete**

クリックすると、STA ユーザー名を削除します。

### Cancel

クリックすると、STA ユーザー一名を削除せずに、ダイアログボックスを閉じます。

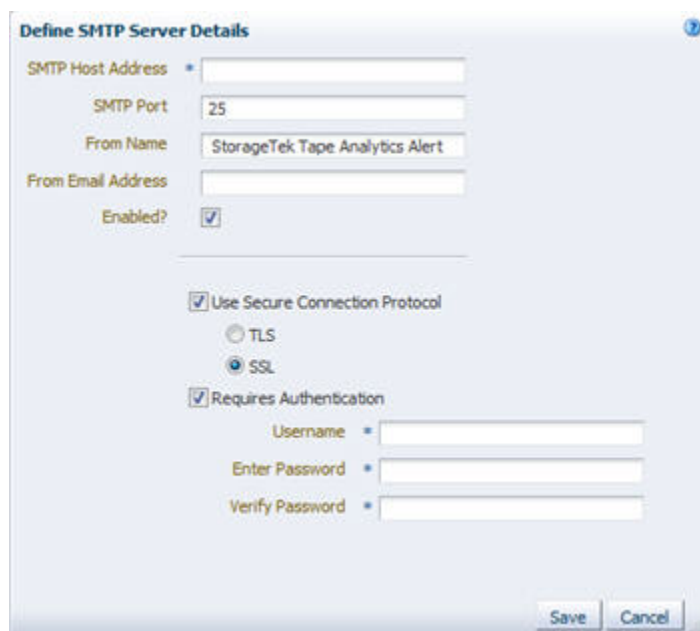
## C.12.2.4. 関連項目

- 「STA ユーザー名の削除」

## C.13. 電子メール構成のダイアログボックス

- 「Define SMTP Server Details」
- 「Define Email Details」

### C.13.1. Define SMTP Server Details



#### C.13.1.1. 説明

このダイアログボックスでは、STA アプリケーションから電子メールを送信するときに使用される SMTP サーバーの電子メール設定を定義できます。

このダイアログボックスは、「Configuration – Email」画面で「**Edit Selected SMTP Server**」をクリックしたときに表示されます。

#### C.13.1.2. 画面のフィールド

##### SMTP Host Address

SMTP 電子メールサーバーの IP アドレスまたは完全修飾 DNS エイリアスを入力します。

**SMTP Port**

送信メール伝送用の SMTP ポート番号を入力します。通常、これはポート 25 ですが、IT システム管理者に確認して、これがサイトで使用されているポートであることを検証してください。

**From Name**

サーバーからの電子メールの「From」行に表示される名前を入力します。

**From Email Address**

電子メールの送信元である電子メールアドレスを入力します。ユーザーがこの電子メールに返信できないようにする場合は、次の形式でアドレスを入力できます。

`DoNotReply@Your_Company.com`

**Enabled?**

このチェックボックスを選択すると、SMTP 電子メールサーバーが有効になります。このチェックボックスを選択解除すると、電子メールサーバーが無効になります。

**Use Secure Connection Protocol**

このチェックボックスを選択して、適切なセキュア接続プロトコルを選択します。適切な接続を判断するには、IT システム管理者に問い合わせてください。次のオプションの 1 つを選択する必要があります。

- TLS – クリックすると、Transport Layer Security が選択されます。
- SSL – クリックすると、Secure Sockets Layer が選択されます。

**Requires Authentication**

このチェックボックスを選択すると、SMTP サーバーで認証が必要であることを指定します。

**Username**

SMTP サーバーでサポートされるユーザー名を入力します。「**Requires Authentication**」チェックボックスを選択した場合のみ必須です。

**Enter Password**

ユーザーに割り当てられたパスワードを入力します。「**Requires Authentication**」チェックボックスを選択した場合のみ必須です。

**Verify Password**

パスワードをもう一度入力して、パスワードを正しく入力したことを検証します。「**Requires Authentication**」チェックボックスを選択した場合のみ必須です。

### C.13.1.3. ボタン

**Save**

クリックすると、エントリを適用します。

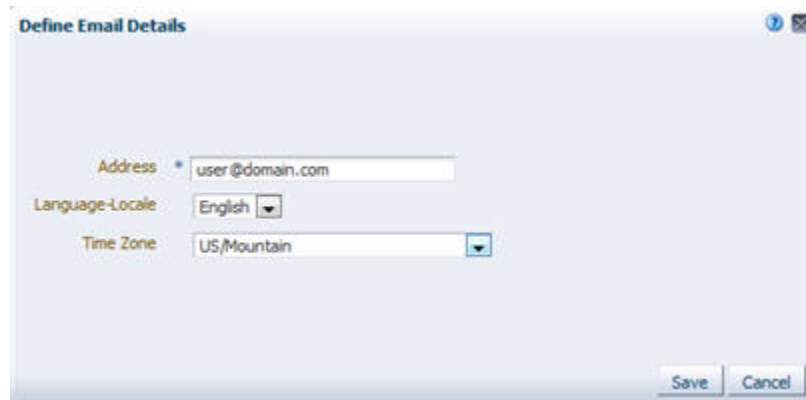
**Cancel**

クリックすると、エントリを適用せずに、このダイアログボックスを閉じます。

### C.13.1.4. 関連項目

- [「STA SMTP サーバーの定義」](#)

## C.13.2. Define Email Details



### C.13.2.1. 説明

このダイアログボックスでは、STA から電子メールを受信するのに的確な電子メールアドレスを追加できます。

このダイアログボックスは、「Configuration – Email」画面の電子メールアドレスツールバーで「Add Email」または「Edit Selected Email」をクリックしたときに表示されます。

### C.13.2.2. 画面のフィールド

#### Address

電子メールの送信先を次の形式で入力します。

*your\_name@your.company.com*

#### Language-Locale

メニューで、「English」が表示されていない場合は選択します。

#### Time Zone

メニューで、受信者のローカルタイムゾーンを選択します。

### C.13.2.3. ボタン

#### Save

クリックすると、エントリを適用します。

#### Cancel

クリックすると、エントリを適用せずに、このダイアログボックスを閉じます。

### C.13.2.4. 関連項目

- [「有効な電子メール受信者の追加」](#)



# 索引

## あ

### アラート

- 手動のワークフロー (オプション), 143, 162
- 消去, 144, 162
- 消去した
  - 非表示, 163
  - 表示, 163
- 詳細の表示, 160
- 状態の変更, 162
- 生成, 131, 132
- 説明, 131
- 電子メール, 143, 155
- モニタリング, 133, 144
  - ユーザーの役割, 134
- リストの管理, 159
- アラートの電子メール
  - 適格なアドレス, 508
- アラートプロセス, 131
- アラートポリシー, 131
  - STA のサンプル, 142
    - 削除, 142, 158
    - 変更, 142
    - 命名規則, 142, 158
  - エンティティ, 134, 147
  - 多すぎるアラートの回避, 141
  - コピー, 151
  - 削除, 158
  - 重要度, 135, 147
    - 交換, 135
    - ベストプラクティス, 141
    - メディア検証アクティビティ, 135
    - 例, 135
  - 定義, 131, 134, 135, 144, 145
  - 電子メール受信者の定義, 143, 149, 155
  - 変更, 153
  - 無効化, 150, 157
  - 有効化, 131, 150, 157
  - ユーザーの役割, 133
  - リストの管理, 144
  - 論理グループを使用した定義, 142
- 一時的なライブラリの場所, 367
- エグゼクティブレポートの電子メール
  - 適格なアドレス, 508

### エグゼクティブレポートファイル

- PDF 形式, 169, 177
- オンデマンドで実行, 168, 171, 175
  - スケジュールへの影響, 171, 175
- 管理, 168, 179
- 削除, 168, 178
- 作成プロセス, 167
- 電子メールでの受信, 169, 174
- 日時スタンプ, 168
- バックアップ, 168
- パブリック, 175
- 表示, 168, 168, 169, 175, 176
- プライベート
  - 電子メール受信者および, 182
  - 表示, 175
- ユーザーの役割, 171
- エグゼクティブレポートポリシー
  - 削除, 183
    - レポートファイルへの影響, 183
  - 作成, 167, 172, 180
  - 所有権の定義, 173, 182
  - スケジュールの定義
    - オンデマンドレポートと, 171, 175
    - 開始日, 171, 173
    - 頻度, 173
  - ダッシュボードテンプレートと, 167, 167, 173, 181
  - 電子メール受信者の定義, 168, 174, 174
  - プライベート, 173
    - STA ユーザー名の削除と, 173
  - 変更, 180
  - ユーザーの役割, 174
  - リストの管理, 184

## か

- 画面のペアリング, 109
- クライアント属性, 333
- 「欠落した」メディア, 367
- 構成データ
  - 構築, 327
  - 最新の状態にする, 327
  - 収集, 326

## さ

- 重複したボリュームシリアル番号
  - 「duplicate detected」フラグ, 369
  - 回避, 368

定義, 368  
理由, 369  
手動のデータ収集  
 実行するとき, 328  
 ライブラリのアクティブなストレージ領域の変更お  
 よび, 329  
 ライブラリパーティションの変更および, 329  
 ライブラリへのカートリッジの挿入および, 328  
 ライブラリへのドライブの追加および, 328  
手動論理グループ, 187  
冗長電子デバイス、切り替え後のタスク, 347  
ステータス、接続, 329  
接続ステータス, 329  
接続設定のエクスポート, 341  
接続テスト  
 冗長電子デバイスの切り替えおよび, 325  
 説明, 324  
 ライブラリの SNMP 設定の変更および, 325  
 ライブラリのレポートおよび, 325  
接続のテスト, 324  
接続のテスト、実行するとき, 325  
ソフトウェアのバージョン情報  
 表示, 41

## た

データストア  
 データのタイプ, 323  
 データの保存, 357  
データ品質インデックス  
 メディア検証および, 243  
テープジョブのエラー  
 トラブルシューティング, 392  
電子メール  
 アドレスの削除, 311  
 アドレスの追加, 306, 308  
 アドレスの編集, 310  
 サーバーの詳細の定義, 304  
 設定のテスト, 309  
電子メールの詳細のダイアログ, 508  
テンプレート  
 「Confirmations」設定と, 96  
 インポート, 83, 103  
 エクスポート, 83, 102  
 可視性, 82  
 パブリック, 83  
 プライベート, 83

変更, 101  
カスタム, 80  
画面特性  
 含まれない, 82  
 含まれる, 81  
画面のデフォルト, 79, 81  
 クリア, 93  
 設定, 91  
管理, 81, 83, 93  
共有, 83  
固定的な動作, 81  
削除, 104  
作成, 81, 94  
使用タスク, 87  
所有権, 82  
説明, 79  
定義済み, 80, 81, 106  
 Alerts Overview, 461  
 All Messages - Analysis, 464  
 All Messages - Overview, 463  
 CAPs Overview, 460  
 Complexes Overview, 455  
 Dashboard, 454  
 Drive Cleanings Overview, 463  
 Drives - Analysis, 458  
 Drives - Messages, 458  
 Drives - Overview, 457  
 Elevators Overview, 461  
 Exchanges Overview, 462  
 Libraries - Messages, 456  
 Libraries - Overview, 456  
 Media - Analysis, 460  
 Media - Messages, 460  
 Media - Overview, 458  
 Media Validation Overview, 463  
 PTPs Overview, 461  
 「Quick Links」画面と, 86  
 Robots Overview, 460  
 説明,  
 復元, 106  
適用, 87  
 「Quick Links」画面から, 85, 90  
 テンプレートツールバーで, 88  
名前の変更, 100  
変更, 97  
保存, 94

ユーザー役割  
管理用, 83  
使用, 81  
論理グループおよび, 186  
テンプレートツールバー, 84  
テンプレートのリセットダイアログ, 484  
動的論理グループ, 187  
ドライブ  
メディア検証用のキャリブレーション, 227  
メディア検証用の適格性検査, 227  
論理グループおよび, 185, 198, 200  
論理グループメンバーシップの表示, 209  
ドライブ識別子  
オープンシステム, 370  
ホストと STA のマップ, 369  
メインフレーム, 370  
ドライブタイプ, 406  
ドライブのエラー  
傾向, 380, 396  
メディアに関連付けられた, 377  
もっとも多く発生したドライブ, 372  
率, 372, 380  
ドライブの効率性  
傾向, 386  
ドライブの障害  
傾向, 390  
ドライブのファームウェアレベル, 435  
ドライブの利用率, 408  
トラップ受信者  
削除, 345  
追加, 346  
表示, 344  
変更, 345  
トラブルシューティング, 350  
失敗した接続テスト, 350  
失敗したデータ収集, 350  
失敗したトラップ処理, 354  
取り外したドライブとメディア  
STA の「Stop Tracking」のタイムスタンプ, 357,  
359  
サマリーに与える影響, 360, 360  
特定, 359  
表示, 359  
例, 361  
取り外したライブラリ, 367  
取り外したライブラリリソース

あとでふたたび追加, 357  
データ画面に対する影響, 361

## は

パスワードの要件, 36  
ピボットテーブル  
フィルタ処理  
「Filter Data」ダイアログボックスの使用, 118  
集計数リンクの使用, 124  
フィルタのクリア, 123  
表  
データのフィルタ, 468  
ファームウェアのアップグレード、あとのタスク, 347,  
347  
フィルタ  
「Dashboard」ポートレット上, 70, 73  
「Dashboard」ポートレットのクリア, 73  
および画面のペ어링, 109  
クリア, 123  
説明, 109  
選択した条件のクリア, 74, 123  
タスク, 118  
適用する方法, 110  
の期間, 110  
フィルタ処理  
「Filter Data」ダイアログボックスの使用, 118  
集計数リンクの使用, 115, 124  
ダッシュボードから, 127  
ダッシュボードグラフィックスの使用, 117  
テンプレートの適用による, 116  
論理グループによる, 189, 191

## ま

満杯に近づいているメディア, 433  
メディア  
論理グループおよび, 185, 198, 200  
論理グループメンバーシップの表示, 209  
メディア検証  
SL コンソールと, 217, 221  
機能, 216, 217  
検証テストの種類, 218, 281  
Basic Verify, 218  
Complete Verify, 219  
Complete Verify Plus, 219  
Standard Verify, 219  
Verify and Rebuild MIR, 220

- 検証ドライブ, 221
    - STA の最小要件, 221
    - 健全性の保証, 229
    - 選択, 222
    - 表示, 247
    - プールへの割り当て, 221
    - ライブラリコンプレックスと, 221
  - 構成, 220, 246
    - ユーザーの役割, 245
  - 準備, 220
  - 進行中の検証の取り消し, 275
  - 説明, 215
  - 中断された検証を再開する, 281
  - 適したメディア, 239
  - 動作効率, 229
  - ドライブのキャリブレーションと適格性検査, 227
    - キャリブレーションメディアの条件, 233
    - キャリブレーションメディアの選択, 233
    - キャリブレーションメディア論理グループ, 232, 252
    - 結果, 231, 232
    - 準備, 232
    - 説明, 230
    - プロセス, 230, 231
    - 無効化, 258
    - 有効化, 256
    - 用語, 227
    - 利点, 228
  - ポリシーを使用した自動化, 238
  - 無効化, 226, 250
  - 有効化, 224, 250
  - ユーザーの役割, 245
  - ライブラリコンプレックスと, 221, 279
  - 利点, 216
  - 論理グループおよび, 185, 280
  - メディア検証結果, 242
    - DQI, 243
    - 推奨事項, 243
    - 有効性の保証, 229
  - メディア検証ポリシー, 238
    - 管理, 247
    - 検証テストのタイプ, 281
    - コピー, 286
    - 削除, 290
    - 作成, 239, 277
    - 選択条件, 240
    - 中断された検証を再開する, 281
    - 変更, 289
    - ポリシー条件, 280
    - 無効化, 282, 285
    - メディアフォーマット, 279
    - 有効化, 282, 285
    - ユーザーの役割, 246
    - ライブラリコンプレックス, 279
    - リスト, 283
    - 論理グループおよび, 240
  - メディア検証リクエスト
    - イニシエータ, 242
    - 管理, 240, 246
    - キューの表示, 260
    - 手動, 235, 261
    - 進行中のものを取り消す, 244
    - ステータス, 241, 241, 243
    - 中断された検証を再開する, 244
    - 保留, 241, 241, 270, 273
    - 保留中の再順序付け, 270
    - 保留中のものを取り消す, 244, 273
    - ユーザーの役割, 245
    - 優先度, 241, 270
  - メディアタイプ, 406
  - メディアのエラー
    - 傾向, 396
    - ドライブに関連付けられた, 377
    - 率, 374
  - メディアの不足および過剰, 411
  - モバイルの「Dashboard」, 62
    - アクセス, 64, 75
    - 要件, 64
- ## や
- ユーザー名, 36, 466
  - ユーザー役割
    - テンプレートの管理, 83
    - テンプレートの使用, 81
  - ユーザー、STA
    - 削除, 302
    - 追加, 300
    - 変更, 301
    - 役割, 294
- ## ら
- ライブラリ

- アクティビティーレベルの比較, 429
- ライブラリ構成
  - トラブルシューティング, 350
- ライブラリ構成モデル
  - 定義, 324
- ライブラリ接続、削除, 342
- ライブラリ接続の削除, 342
- ライブラリのリソース
  - 要件の計画, 417
  - 利用率, 423
  - レポート番号, 402, 411
- リストビューテーブル
  - フィルタ処理
    - 「Filter Data」ダイアログボックスの使用, 118
    - 集計数リンクの使用, 124
    - フィルタのクリア, 123
- ロギング,
  - Oracle Support へのログスナップショットの転送, 321
  - RDA 情報の収集
    - CLI を使用, 316
    - ユーザーインターフェースを使用, 315
  - 概要, 313
- ログ
  - 新規バンドルの作成, 494
- ログスナップショット
  - 削除, 321
  - 作成の理由, 313
  - 作成方法, 315
  - 実行情報の表示, 319
  - ダウンロード, 320
  - プロセス, 314
  - ログ画面へのアクセス, 318
- 論理グループ
  - 削除, 213
  - 作成プロセス, 186
  - 手動, 187
    - 作成, 196
    - ドライブおよびメディアの削除, 200
    - ドライブおよびメディアの追加, 198
  - 使用, 185
  - 所有権, 187
  - 定義, 185
  - テンプレートおよび, 186
  - 動的, 187
    - 更新の強制, 207

- 作成および定義, 202
- 選択条件, 188, 206
- メンバーシップの更新, 188
- 名前の変更, 211
- フィルタリング, 185, 189
  - 更新によるメンバーシップへの影響, 191
  - フィルタの作成, 190
- メディア検証および, 185, 280
- 例, 186
- 論理グループでフィルタされるダッシュボードポートレット, 195
- 割り当てられているドライブとメディアの一覧表示, 210

## A

- 「About」リンク, 41
- 「Accessibility Settings」ダイアログ, 40
- 「Alert Policies」ウィザード, 146, 152

## C

- 「Create New Log Bundle」ダイアログ, 494

## D

- Dashboard, 51
  - STA のデフォルト, 51, 53
  - UTC 時間および, 53
  - エグゼクティブレポートおよび, 68, 167, 167, 173
  - カスタマイズ, 52, 57, 65
  - カスタムテンプレート, 53
  - 詳細画面へのリンク, 54
  - フィルタ処理, 53, 73
  - 複雑な配置とロード時間, 53
  - モバイル表示, 62
    - アクセス, 64, 75
    - 要件, 64
  - 列と行のレイアウトの変更, 57, 65
- 「Dashboard」ツールバー, 58
- 「Dashboard」の UTC 時間, 53
- 「Dashboard」ポートレット
  - グラフ, 59, 445
  - 数, 52
  - スパークチャート, 61
  - 説明,
    - 注釈
  - およびエグゼクティブレポート, 69
  - 変更, 68

---

追加, 67  
表, 61, 448  
表示される最大, 52, 67  
フィルタ処理, 70  
レイアウト, 57  
レポート, 62, 450  
論理グループでフィルタ, 195  
「Dashboard」ポートレットツールバー, 58  
「Dashboard」ポートレットのスパークチャート, 61

## F

「Filter Data」ダイアログボックス, 111, 468

## H

「Help」ボタン, 43

## L

「Login」ダイアログ, 466

## M

「Media Validation Policies」ウィザード, 278, 287, 289

## Q

「Quick Links」画面, 85  
定義済みテンプレートと, 86  
テンプレートの適用に使用, 90

## S

SMTP サーバーのダイアログ, 506

### SNMP

管理,  
クライアント属性の変更, 333  
接続設定のエクスポート, 341  
トラップ受信者の削除または変更, 345  
トラップ受信者の追加, 346  
トラップ受信者の表示, 344  
ユーザーインターフェースを使用, 330  
ライブラリ, 343  
ライブラリ接続の削除, 342  
構成データ, 326  
接続テスト, 325  
接続の確認, 330  
接続のテスト, 324  
SNMP クライアント属性の変更, 333  
SNMP クライアントの設定ダイアログ, 497

### SNMP 接続

クライアント設定の定義, 497  
ライブラリ接続の定義, 500  
ライブラリのリブートおよび, 325  
SNMP ライブラリ接続のダイアログ, 500  
STA からの電子メール  
SMTP サーバーの定義, 506  
適格なアドレスの追加, 508  
STA からのログアウト, 40  
セッションメモリーおよび, 40  
STA 構成  
電子メール, , 303  
トラブルシューティング, 350  
ユーザー, , 300

## T

「Templates Management」画面, 86